

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

新居浜工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	22
	基準3 教員及び教育支援者	67
	基準4 学生の受入	115
	基準5 教育内容及び方法	144
	基準6 教育の成果	340
	基準7 学生支援等	381
	基準8 施設・設備	472
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	513
	基準10 財務	618
	基準11 管理運営	707

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

新居浜工業高等専門学校

(2) 所在地

愛媛県新居浜市八雲町7番1号

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，
生物応用化学科，環境材料工学科（材料工学科）

専攻科：生産工学専攻，生物応用化学専攻，電子工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数：

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	44	43	45	42	38	212
電気情報工学科	46	40	40	42	40	208
電子制御工学科	46	36	46	41	42	211
生物応用化学科	42	43	39	44	38	206
材料工学科		40	39	31	36	146
環境材料工学科	52					52
合計	230	202	209	200	194	1035

専攻科課程	1年	2年	合計
生産工学専攻	5	10	15
生物応用化学専攻	5	6	11
電子工学専攻	15	10	25
合計	25	26	51

教員数：

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
一般教養科	6	6	3	0	15
数理科	4	6	2	0	12
機械工学科	5	3	0	2	10
電気情報工学科	5	4	2	2	13
電子制御工学科	4	2	2	2	10
生物応用化学科	6	3	2	2	13
環境材料工学科	3	4	1	2	10
合計	33	28	12	10	83

2 特徴

本校は、高等専門学校の第1期校として、工都新居浜市に昭和37年に機械工学科，電気工学科，および工業化学科の3学科で発足した。昭和41年に金属工学科を増設し，4学科となり，金属工学科は昭和62年に材料工学科へ改組した。さらに，昭和63年に電子制御工学科を増設し，5学科となった。その後，平成9年に工業化学科を生物応用化学科へ改組し，平成15年に電気工学科を電気情報工学科へ改組，さらには，平成19年に材料工学科を環境材料工学科へ名称変更し，現在の学科構成となっている。

平成4年には，全国に先駆け，5年間の準学士課程の上に2年間の生産工学専攻と電子工学専攻の2専攻の専攻科を設け，7年間の一貫教育を可能にした。さらに，平成16年に生産工学専攻を生産工学専攻と生物応用化学専攻に改組し，これにより，現在本校は準学士課程5学科，専攻科3専攻を有する最大規模の高専として，高等教育の一翼を担っている。

平成16年には生物応用化学プログラムがJABEEから技術者教育プログラムとして認定を受け，さらに，平成18年に，システムデザイン工学プログラムと生産工学プログラムが認定を受け，準学士課程の4年生から専攻科2年までの工学教育の質を外部の認定機関から保証されている。

学生の高度技術教育を行うとともに，学内外との共同研究を進めるために，平成11年に高度技術教育研究センターを，平成17年には，インキュベーション・ラボラトリーを設置した。高度情報通信社会に対応した情報教育を推進するため，平成15年に情報教育センターを設置した。ものづくり教育と地域との技術交流を推進することを目的に，平成17年にもものづくり教育支援センターを設置し，活動の場としてアイデア通り工房を整備した。

平成18年度には，文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」において「地域連携プロジェクト型ものづくり活動－工都新居浜の活性化プラン－」が採択され，地域への出前講座の実施やものづくり教育研究フォーラムの開催などを行っている。

デザイン能力の育成を本校の教育目標の柱としてカリキュラムを設定し，問題解決型の授業を実施するだけでなく，準学士課程4年生と専攻科課程1年生の全員にインターンシップを履修させている。さらに，課外活動においても学生の自主的な活動をチャレンジプロジェクトとして支援したり，各種ものづくりコンテストへの参加を推進している。

II 目的

本校の目的は、学則の第1条に「教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と定め、「知恵・行動力・信頼」を基本理念とし、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる」ことを教育の基本方針としている。この基本理念と基本方針を具体化するために、学校の教育目標を次のとおり定めている。

準学士課程の教育目標として、

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科課程の教育目標として次の項目を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

これを受けて、学科・専攻別の教育目標を次のとおり定めている。

○各学科の教育目標

機械工学科

- A 工学基礎知識：機械工学分野の知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の基礎知識を理解できる。
- B 専門知識：機械工学分野の専門知識・技術を身に付ける。
- C デザイン能力：ものづくりを通してデザイン能力を身に付ける。
- D 教養・技術者倫理：豊かな教養をもち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に表現することができる。
- F 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける。

電気情報工学科

- A 工学基礎知識：数学、物理などの基礎知識を習得し、専門知識の理解に応用できる。
- B 専門知識：電気・情報・通信分野などの専門基礎知識・技術を習得し、工学的な問題解決に応用できる。
- C 問題解決能力：電気・情報・通信分野などにおけるシステム構成要素の特性と性能を把握し、システムの問題解決に取り組める。
- D 教養・技術者倫理：豊かな教養と、正しい倫理観を身に付ける。
- E コミュニケーション能力：論理的記述力、プレゼンテーション能力など自分の考えを正確に他人に伝達する能力を身に付ける。
- F 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける。

電子制御工学科

- A 工学基礎知識：数学、自然科学の知識を習得し、それを専門分野の知識理解に応用できる。
- B 専門知識：電子・制御・情報分野などの基礎知識・技術を習得し、それらを工学的な問題の解決に応用できる。
- C 問題解決能力：学んだ知識や技術を応用し、電子・制御・情報分野の課題を解決するためのアイデアを立案し、自主的に継続して問題解決に取り組める。
- D 教養・技術者倫理：豊かな教養と、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる倫理観を身に付ける。
- E コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、英語によるコミュニケーションの基礎を身に付ける。
- F 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける。

生物応用化学科

- A 環境・技術者倫理：地球環境についての基本的な知識を身に付ける。
- B 専門知識：応用化学・生物工学に関する基本的な知識を身に付ける。
- C 自己表現：基本的なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身に付ける。

- D 問題解決能力・自己向上力: 身に付けた基本的な知識と技術を継続的に向上させ、応用化学や生物工学の課題に対応できる。
- E 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける。

材料工学科・環境材料工学科

- A 工学基礎知識: 材料工学の知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の基礎知識を理解できる。
- B 専門知識: 材料工学分野の基礎知識・技術を身に付ける。(材料工学科)
環境との調和を考慮した材料に関する工学的基礎知識・技術を身に付ける。(環境材料工学科)
- C デザイン能力: 専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考える力を身につける。
- D 教養・技術者倫理: 豊かな教養をもち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E コミュニケーション能力: 日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、英語によるコミュニケーションの基礎を身に付ける。
- F 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける。

○各専攻の教育目標

生産工学専攻

- A 自然科学および複合的な工学の知識: 工学の基礎知識と融合・複合的な工学専門知識を身につけ、応用することができる。
- B 専門知識: 機械・材料専門分野の基礎知識・技術を理解し、それらを用いて応用問題を解決することができる。
- C デザイン能力: 工学専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行できる。
- D 教養・技術者倫理: 豊かな教養をもち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E コミュニケーション能力: 論理的表現ができ、相手の話を理解し自分の考えを示すことができる。

生物応用化学専攻

- A 環境・技術者倫理: 地球環境との共生を意識し、人間活動の環境への影響を考慮することができる基礎的知識を身に付けた技術者の育成
- B 専門知識: 応用化学・生物工学に関する専門的な基礎知識を身に付けた技術者の育成
- C 自己表現: 論理的表現能力とコミュニケーション能力を身に付けた技術者の育成
- D 問題解決能力・自己向上力: 身に付けた知識と技術を継続的に向上させ、現場における問題を解決できる技術者の育成

電子工学専攻

- A 自然科学および複合的な工学の知識: 工学の基礎知識と融合・複合的な工学専門知識を習得し、応用する能力
- B 専門知識: 電気・電子・情報分野の基礎知識・技術を習得し、応用する能力
- C システムデザイン能力: 複数の専門分野の知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行できる能力
- D 教養・技術者倫理: 豊かな教養と技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる倫理観
- E コミュニケーション能力: 論理的表現能力とコミュニケーション能力

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校は昭和37年の創立時から学則第1章第1条で、「本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と定め、また本校専攻科は学則第8章第38条で、「高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする」と定めている(資料1-1-①-1, 資料1-1-①-2)。

平成15年3月に、上記の学校の目的を、教育の基本理念、教育の基本方針、学校運営の基本方針と教育目標としてわかりやすく取り纏め、一般に公開した(資料1-1-①-3)。教育理念として「知恵・行動力・信頼」を掲げ、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる」ことを教育の基本方針としている。また、養成しようとする人材像や達成しようとしている基本的な成果については教育目標の中に明示している。

資料1-1-①-1

第1章 本校の目的

(目的)

第1条 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 新居浜工業高等専門学校学則)

資料1-1-①-2

第8章 専攻科

(目的)

第38条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典 新居浜工業高等専門学校学則)

資料1-1-①-3

新居浜高専の教育理念目標について

○学校の基本理念(教育理念):「知恵・行動力・信頼」

○教育の基本方針:「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

○学校運営の基本方針：

新居浜工業高等専門学校は、

- 1) 個性あふれる教育を創造し、実践する「知恵」と
- 2) 教育研究の向上にたゆまず努力する「行動力」を持ち、
- 3) 地域と共に歩む「信頼」される学校を
目指します。

○教育目標：

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。
- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力
を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 平成 14 年度第 12 回運営会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

学校全体の基本方針、目標がきちんと定められ、学科・専攻ごとの教育目標も明確に設定されている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点到に係る状況)

学則第1章第1条で、「本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と定め、「知恵・行動力・信頼」を基本理念とし、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる」ことを教育の基本方針としている。これらは、学校教育法第70条の2において、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と定められている高等専門学校の目的と合致している。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は学校教育法に基づくもので、規定された高等専門学校一般に求められる目的からははずれるものではない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点到に係る状況)

学校の目的は、教員全員に配布される新居浜工業高等専門学校教員便覧、学生全員に配布される本科履修要覧、専攻科履修要覧および学生便覧、さらに、新居浜工業高等専門学校ホームページに明記されている（資料1-2-①-1、資料1-2-①-2、資料1-2-①-3、資料1-2-

①-4, 資料1-2-①-5)。本校の教育理念を達成するために例年, 各部門ごとに運営目標・計画および教育改善推進計画を作成し, 業務改善に役立てている。これらの活動を通じて, 全教職員に周知が図られている。また, 毎年の新任教員研修において新任教員に対する周知も行っている(資料1-2-①-6)。

新入生に対しては, 入学式および新入生ガイダンスにおいて, 在学生に対しては前期始業式後のロングホームルームで履修要覧などを利用して周知している(資料1-2-①-7)。また, 常に目的の確認ができるように, ホームルームおよび学科(科)掲示板などに掲示している(資料1-2-①-8)。

平成18年度の勉学アンケートにおいて, 教育理念の認知度は34%, 学校の教育目標の認知度は11%であり, とともに認知度が低いことが確認された(資料1-2-①-9)。

資料1-2-①-1

第1章 教務関係

I 本科

教育課程について(1-4)

1. 本校の教育目標

本校は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる」を教育の基本方針とし、次のことを教育目標としている。

- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- (3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

II 専攻科

教育課程について(1-4)

1. 教育目標

専攻科では、学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てるため、次のことを教育目標としている。

- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- (3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
- (4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- (5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 平成17年度教員便覧)

資料1-2-①-2

I 教育課程について

1 本校の教育目標

本校は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる」を教育の基本方針とし、次のことを教育目標としている。

- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。

(3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

(出典 平成 18 年度本科履修要覧)

資料 1 - 2 - ① - 3

1 総 説

本校専攻科は、高等専門学校の 5 年間における実践的教育の基礎の上に精深で、かつ、学際的な学識を授け、専門分野における高度な技術能力を養成することを目的として設置され、その修業年限は 2 年間である。専攻科における 2 年間の教育は、地域産業等に従事する社会人技術者がさらに高度技術の習得を望む場合（生涯学習）にも利するものであるが、本校専攻科における教育プログラムは、高校 3 年間と大学 4 年間に相当する 7 年間の一貫教育を基盤とするものであり、専攻科の課程を一定の要件を満たして修了した者に大学・学部卒業と同じ学士の学位が与えられ、大学院への進学の道も開かれている。

2 教育目標

専攻科では、学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てるため、次のことを教育目標としている。

- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- (3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
- (4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。

創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 平成 18 年度専攻科履修要覧)

資料 1 - 2 - ① - 4

学校の目的

●教育理念

「知恵・行動力・信頼」

●基本方針

「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

●教育目標

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。
- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 平成 18 年度学生便覧)

● 学校の基本理念(教育理念)

「知恵・行動力・信頼」

● 基本方針

○ 教育の基本方針

「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

○ 学校運営の基本方針

新居浜工業高等専門学校は、

- 1) 個性あふれる教育を創造し、実践する「知恵」と
- 2) 教育研究の向上にたゆまず努力する「行動力」を持ち、
- 3) 地域と共に歩む「信頼」される学校を

目指します。

● 教育目標

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 本校ホームページ)

新任教職員校長研修レジュメ

○新居浜高専の目指す学校とは

個性豊かな教育を創造・実践するとともに、教育研究の向上. にたゆまず努力し、地域とともに歩む信頼される学校

そのためには、良き伝統は継承しつつ新しい新居浜高専の学校文化を創ることが必要
特に、従来の殻を打ち破る見識と勇気、価値の共有が大切

○学校にとってこれからの時代とは

学校も社会的存在としての自己証明が必要な時代
しかも、それを第3者に認めてもらうことが必要な時代、

- ①しっかりとした「現状認識」
- ②時代を先駆ける「理念」
- ③教育への「情熱」
- ④改革への「志」

○どんな評価が待っているのか

- ①学校教育法上の学校としての第3者評価
(正規の教育機関としての説明責任)
- ②独立行政法人化の学校としての評価
(国の税金を使うことに対する説明責任、中期目標・中期計画の達成努力)
- ③専攻科の学士学位授与コースとしての評価
(定期的な教員個別審査)
- ④JABEEプログラムとしての評価
(国際的通用性のある技術者教育の保証)
- ⑤地域、産業界からの評価
(入学志願状況、求人状況、進路実績)
- ⑥学生からの評価
(授業アンケート、学級担任アンケート)
- ⑦学校としての自己評価

※評価のポイント

- ・教育サービスの向上
- ・地域への哀歓

(出典 新任教職員研修資料)

資料 1 - 2 - ① - 7

平成18年度入学式校長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

桜の花や鳥のさえずりに生命の輝きを感じる今日、新たに本科新入生205名、専攻科生26名、本科編入生5名、留学生5名、あわせて241名の皆さんを新居浜工業高等専門学校に迎えることができますのは、教職員の等しく喜びとするところであり、皆さんを心から歓迎します。

また、ご列席の保護者、ご家族の皆さまにも心からお喜び申し上げます。佐々木新居浜市長をはじめご来賓の方々には、お忙しい中この入学式にご臨席賜り、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

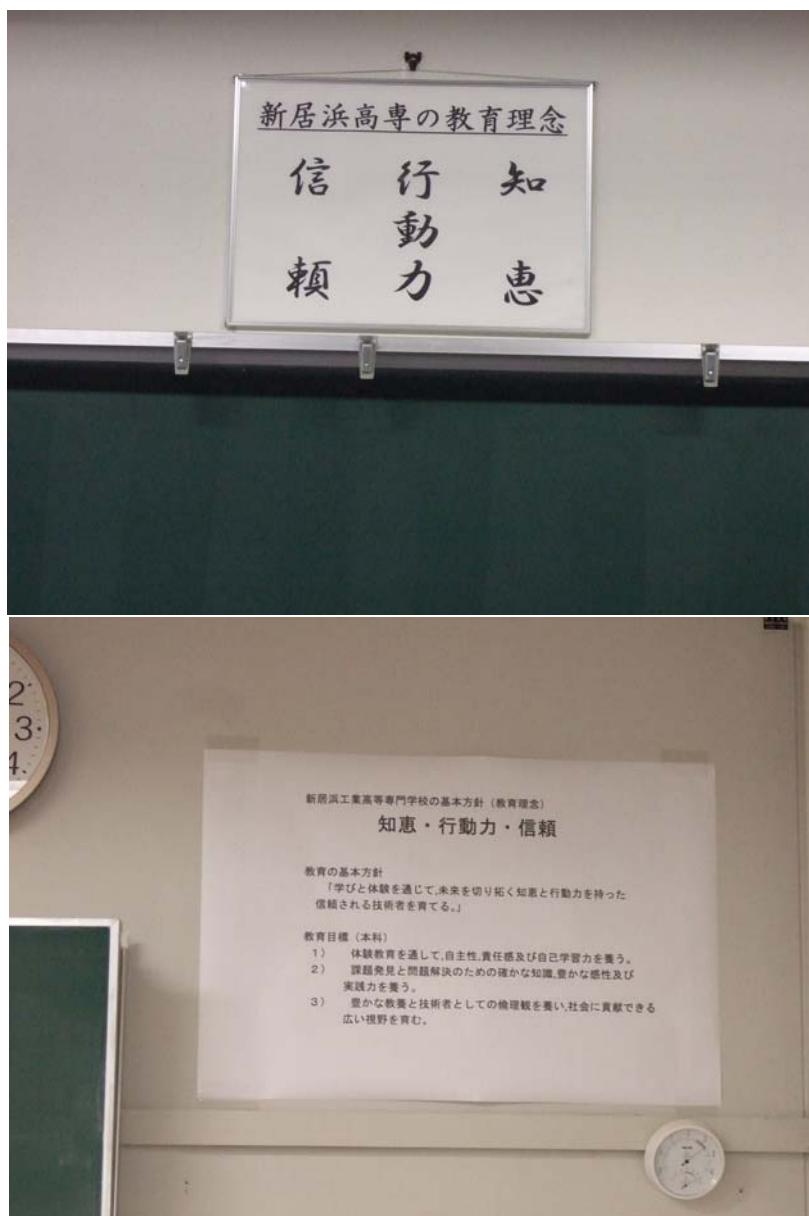
新入生の皆さんは、今日新居浜高専の門をくぐり、これから始まる学園生活に胸躍らせるとともに、将来社会の発展に貢献する技術者となる夢の実現を目指して決意も新たにしていることと思います。思うに、荒野の中の一筋の道は、最初から存在しているわけではありません。初めに誰かが勇気を持って歩き、多くの人が歩み続けることで道はできてきます。立派な技術者になるための歩みも同じことです。初心を忘れることなく、一日一日を大切にしていたゆまず努力し続けることで、若草萌ゆる春の野にできた微かな踏み跡を夏草にも負けない確かな道に切り拓いていくことができるのではないのでしょうか。自分の可能性を信ずる

ことの大切さ、同じ道を歩む友のありがたさをしっかりと心に刻み込んで、学園生活を始めてほしいと願っています。

さて、新居浜高専は、「知恵と行動力と信頼」を教育理念とし、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育む」ことを教育の基本方針にしています。そして、その実現のため、次のような学校であることを目標としています。第1にチャレンジ精神に富み、アイデアの満ち溢れた学校であること。第2に学校環境がもっとも美しい学校であること。第3に学生も教職員もお互いに励まし合い、支え合える学校です。以下略

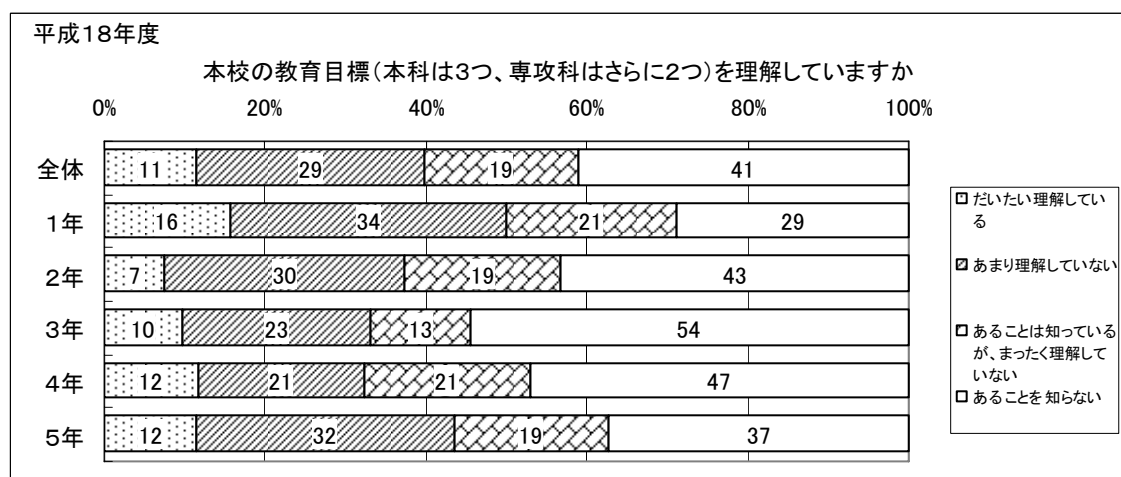
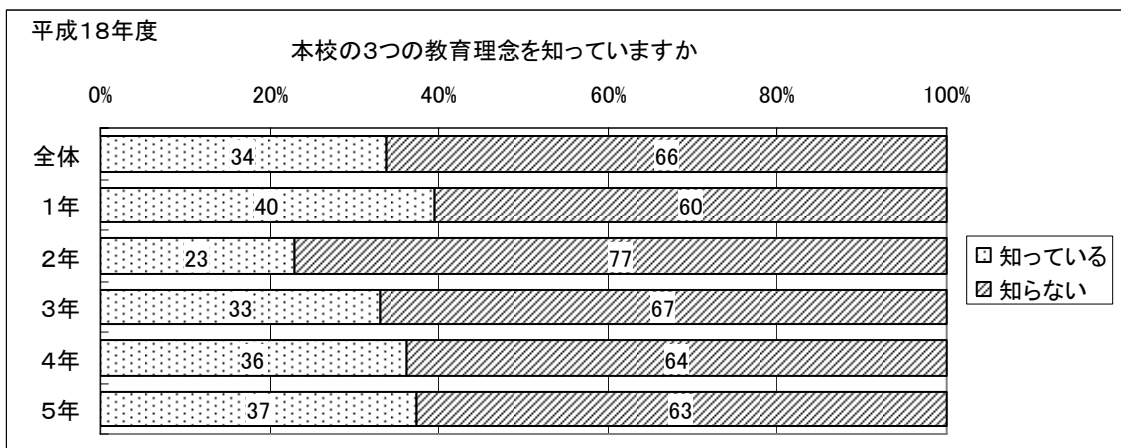
(出典 本校ホームページ)

資料 1 - 2 - ① - 8



(出典 ホームルーム)

資料 1-2-①-9



(出典 平成18年度勉学アンケート)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的が、主要資料のトップページに明記され、また、それを周知させる仕組みも教職員に対しては機能しているが、学生への浸透については十分ではなく、対策が必要である。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的は、新居浜工業高等専門学校学校案内(資料1-2-②-1)および中学生向けパンフレット「はばたけ!未来へ」(資料1-2-①-2)に明記している。学校案内は、大学や企業などの関係機関(資料1-2-②-3)に配布している。「はばたけ!未来へ」は、学校説明会(中学校に新居浜工業高等専門学校を紹介する会合)や中学校訪問で、県内外の中学生を中心にその保護者や教員に配布し、これを用いて学校の目的を説明している(資料1-2-②-4, 資料1-2-②-5)。さらに新居浜工業高等専門学校ホームページに記して公表している(資料1-2-②-6)。



学校の基本理念
(教育理念)
「知恵・行動力・信頼」

基本方針

教育の基本方針

「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

学校運営の基本方針

新居浜工業高等専門学校は

- 1) 個性あふれる教育を創造し、実践する「知恵」と
- 2) 教育研究の向上にたゆまず努力する「行動力」を持ち、
- 3) 地域と共に歩む「信頼」される学校を目指します。

教育目標

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



入学式



1年生合宿研修



総合文化祭 (留学生コーナー)

(出典 学校案内 2006)

を育てます
機関です
視します
学への道も開かれています



● 実験・実習教育を重視します

1年生から、ものづくりやインターネットの楽しさが味わえます。高学年になれば、自分でアイデアを出してグループでものづくりができるようになります。

1年生の実験・実習では、自動車のできるまでや、お酒の蒸留、コーヒーサイフォンの原理を調べたり、ラジオ、電子ピアノ、電子サイコロ、紙、青銅鏡、銅コップなどを作ったりします。情報リテラシーでは、インターネットや電子メールの使い方を学び、ITに強くなります。

● 就職率は100%、 大学への道も開かれています

高専は大学と同じ高等教育機関ですから、高校卒とはまったく企業の扱いが違います。しかも、就職するときには大学卒より2年若いので、企業が高専卒を欲しがらるのも不思議ではないわけです。

大学は、高専からの編入学のために特別の入学定員を設けており、進学の道は大きく開かれています。編入学試験は、高専の普段の勉強をしっかりしておけば、クラブ活動と両立しながら合格する人も珍しくありません。



新居浜高専の 教育理念



次のような人が
新居浜高専に
向いています。

- 数学や理科が好きな人
- ものづくりが好きな人
- 実験が好きな人
- まじめにこつこつ勉強できる人
- みんなと仲良く協力できる人

INDEX

■ 学生支援	2
■ 学科紹介	
● 機械工学科	4
● 電気情報工学科	5
● 電子制御工学科	6
● 生物応用化学科	7
● 材料工学科	8
■ 高専生の活躍	9
■ キャンパスライフ	10
■ 学寮	12
■ 高専卒業後の進路	14
■ 入試情報	16
■ 入学時の諸経費	17
■ キャンパスマップ	18
■ アクセスマップ	19

(出典 はばたけ！未来へ 2007)

資料 1 - 2 - ② - 3

学校案内 2006 配布先一覧

区分	配 布 先	部数
学 外	1 文部科学省	5
	2 独立行政法人国立高等専門学校機構	3
	3 国公立各高等専門学校	62
	4 国会図書館	5
	5 メディア教育開発センター	1
	6 国立大学財務・経営センター	1
	7 愛媛大学	10
	8 四国地区国立大学（愛媛大学を除く。）	4
	9 技術科学大学	2
	10 放送大学	1
	11 放送大学愛媛学習センター	1
	12 県立医療技術大学	1
	13 松山大学・短大	2
	14 聖カタリナ女子大学・短大	2
	15 松山東雲女子大学・短大	2
	16 今治明德短期大学	1
	17 愛媛女子短期大学	1
	18 国立波方海上技術短期大学校	1
	19 国立大洲青少年交流の家	1
	20 北条スポーツセンター・県内少年自然の家	7
	21 愛媛県教育委員会	10
	22 新居浜市教育委員会	5
	23 西条市教育委員会	2
	24 四国中央市教育委員会	2
	25 今治市教育委員会	2
	26 愛媛県立図書館	1
	27 新居浜市役所	5
学 内	28 名誉教授	34
	29 後援会関係（会長・副会長・監事②）	5
	30 同窓会関係（会長）	1
	31 高度技術教育研究センター	30
	32 学生課（本校を訪れた企業へ配布する）	100
	33 学生課就職活動用（各学科（一般・数理を除く）、専攻へ 50 部ずつ）	400
	34 学生課中学校配布用	200
	35 教職員配布	140
	36 新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」	71
	37 来客及び会議用，予備	679
合 計		1800

(出典 総務課所蔵文書より編集)

資料 1 - 2 - ② - 4

平成 18 年度 中学校進路説明会 出席状況

○愛媛県 46 校、徳島県 1 校、学習塾連盟 1 箇所

番号	説明会実施日	中学校名	出席者
1	平成 18 年 6 月 12 日	大洲・大洲北	早瀬
2	28 日	愛南・城辺	栗原
3	30 日	内子・大瀬	榊原
4	7 月 6 日	愛南・御荘	松田
5	6 日	八幡浜・青石	皆本
6	8 月 12 日	徳島・東みよし・三好	衣笠
7	10 月 6 日	八幡浜・愛宕	松田
8	12 日	今治・桜井	皆本
9	13 日	松山・椿	榊原
10	13 日	今治・大西	谷口
11	18 日	今治・立花	西谷
12	19 日	今治・朝倉	高橋
13	19 日	今治・西	中川
14	20 日	今治・北郷	志賀
15	20 日	西条・小松	皆本
16	23 日	四国中央・土居	野田
17	24 日	四国中央・川の江北	池内
18	25 日	松山・南第二	衣笠
19	25 日	新居浜・角野	田中
20	25 日	新居浜・西	池内
21	26 日	新居浜・船木	井門
22	26 日	新居浜・中萩	新田
23	27 日	四国中央・川の江南	豊田
24	30 日	今治・近見	佐藤
25	30 日	新居浜・川東	松田
26	30 日	新居浜・南	吉川
27	31 日	今治・美須賀	衣笠
28	31 日	松山・雄新	榊原
29	31 日	新居浜・東	相根
30	11 月 2 日	今治・日吉	竹田
31	7 日	今治・西伯方	早瀬
32	7 日	今治・伯方	早瀬
33	7 日	今治・玉川	高橋
34	7 日	新居浜・大生院	川崎
35	8 日	四国中央・三島西	鴻上
36	8 日	八幡浜・八代	谷口

37	9日	今治・南	志賀
38	9日	新居浜・泉川	豊田
39	10日	四国中央・三島東	中川
40	10日	大洲・大洲南	野田
41	13日	新居浜・北	新田
42	16日	西条・西条西	檀上
43	17日	四国中央・三島南	井門
44	19日	愛媛学習塾連盟合同説明会	志賀
45	24日	西条・西条東	志賀
46	24日	西条・西条南	榊原
47	28日	西条・東予東	吉川
48	12月 1日	西条・西条北	早瀬

各中学校主催の進路説明会に、本校の教員を講師として派遣し、中学3年生とその保護者に、本校の教育理念・教育方針、特色等について説明を行った。

(出典 学生課所蔵文書より編集)

資料1-2-②-5

平成18年度 中学校訪問 実施状況

訪問中学校163校

(愛媛県87校、香川県11校、徳島県15校、高知県9校、岡山県17校、広島県24校)

○愛媛県(87校のうち2回訪問25校、3回訪問1校) (県内の中学校数146校)

番号	訪問日	中学校名	訪問者	番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	6月12日	大洲・大洲南	早瀬	56	7月11日	松山・余土	下村
2	6月12日	大洲・長浜	〃	57	7月11日	松山・城西	〃
3	6月12日	西条・丹原東	相根	58	7月11日	松山・津田	〃
4	6月12日	西条・丹原西	〃	59	7月11日	松山・西	〃
5	6月12日	西条・東予東	〃	60	7月11日	松山・垣生	〃
6	6月12日	西条・東予西	〃	61	7月12日	松山・勝山	河村
7	6月12日	西条・河北	〃	62	7月12日	松山・東	〃
8	6月13日	四国中央・土居	松英	63	7月12日	松山・道後	〃
9	6月13日	四国中央・三島南	〃	64	7月12日	松山・湯山	〃
10	6月13日	四国中央・三島西	〃	65	7月12日	松山・旭	〃
11	6月13日	四国中央・三島東	〃	66	7月12日	松山・南第二	栗原
12	6月13日	四国中央・川の江南	〃	67	7月12日	松山・久谷	〃
13	6月13日	四国中央・川の江北	〃	68	7月12日	松山・久米	〃
14	6月13日	今治・北郷	新田	69	7月12日	松山・小野	〃

15	6月13日	今治・近見	〃		70	7月12日	東温・重信	〃	
16	6月13日	今治・西	〃		71	7月12日	東温・川内	〃	
17	6月13日	今治・日吉	〃		72	7月13日	松山・南	西谷	
18	6月13日	今治・美須賀	〃		73	7月13日	松山・椿	〃	
19	6月13日	今治・立花	〃		74	7月13日	松山・雄新	〃	
20	6月16日	今治・大西	曾我部		75	7月13日	松山・拓南	〃	
21	6月16日	今治・玉川	〃		76	7月13日	松山・桑原	〃	
22	6月16日	今治・菊間	〃		77	7月13日	松山・内宮	谷口	
23	6月16日	西条・小松	〃		78	7月13日	松山・鴨川	〃	
24	6月16日	今治・南	〃		79	7月13日	松山・北	〃	
25	6月16日	今治・桜井	〃		80	7月13日	松山・高浜	〃	
26	6月22日	新居浜・南	鎌田		81	7月13日	松山・三津浜	〃	
27	6月23日	新居浜・北	豊田 谷脇		82	7月13日	松山・北条南	〃	
28	6月23日	新居浜・西	〃		83	7月13日	松山・北条北	〃	
29	6月26日	新居浜・泉川	鎌田		84	7月18日	松前・北伊予	中川	
30	6月26日	新居浜・角野	〃		85	7月18日	松前・松前	〃	
31	6月27日	西条・西条東	松田		86	7月18日	松前・岡田	〃	
32	6月27日	西条・西条南	〃		87	7月18日	砥部・広田	〃	
33	6月27日	西条・西条北	〃		88	7月18日	砥部・砥部	〃	
34	6月27日	西条・西条西	〃		89	12月18日	新居浜・大生院	松英	3回目の訪問
35	6月27日	新居浜・大生院	谷脇		90	12月19日	新居浜・角野	松英	2回目の訪問
36	6月28日	新居浜・東	北住		91	12月19日	新居浜・中萩	〃	〃
37	6月28日	新居浜・川東	〃		92	12月19日	西条・西条東	〃	〃
38	6月28日	新居浜・船木	〃		93	12月19日	西条・西条北	〃	〃
39	6月28日	愛南・福浦	栗原		94	12月19日	西条・西条南	〃	〃
40	6月28日	愛南・一本松	〃		95	12月19日	西条・西条西	〃	〃
41	6月30日	内子・内子	榊原		96	12月19日	西条・小松	志賀	〃
42	6月30日	内子・五十崎	〃		97	12月19日	西条・丹原東	〃	〃
43	7月6日	新居浜・中萩	田中		98	12月19日	西条・東予東	〃	〃
44	7月6日	新居浜・大生院	出口	2回目の訪問	99	12月19日	西条・東予西	〃	〃
45	7月6日	八幡浜・愛宕	皆本		100	12月19日	西条・河北	〃	〃
46	7月6日	八幡浜・八代	〃		101	12月19日	松山・久米	榊原	〃
47	7月6日	八幡浜・松柏	〃		102	12月19日	松山・南	〃	〃
48	7月6日	宇和島・吉田	松田		103	12月19日	松山・南第二	〃	〃
49	7月6日	鬼北・広見	〃		104	12月19日	松山・三津浜	〃	〃
50	7月6日	津島・津島	〃		105	12月19日	松山・椿	〃	〃
51	7月10日	伊予・港南	中川		106	12月20日	四国中央・土居	谷口	〃
52	7月10日	伊予・伊予	〃		107	12月20日	四国中央・三島南	〃	〃

53	7月10日	伊予・上灘	〃	108	12月20日	四国中央・三島西	〃	〃
54	7月10日	伊予・下灘	〃	109	12月20日	四国中央・三島東	〃	〃
55	7月10日	伊予・中山	〃	110	12月20日	四国中央・川之江北	〃	〃
				111	12月20日	四国中央・川之江南	〃	〃
				112	12月25日	松山・拓南	榊原	〃
				113	12月25日	松山・内宮	〃	〃

○香川県（11校）

番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	6月15日	観音寺・観音寺	井上
2	6月15日	観音寺・中部	〃
3	6月15日	観音寺・大野原	〃
4	6月15日	三豊・高瀬	〃
5	6月15日	三豊・三野津	〃
6	6月15日	三豊・三豊	〃
7	6月22日	観音寺・豊浜	西谷
8	6月22日	三豊・豊中	〃
9	6月22日	三豊・詫間	〃
10	6月22日	三豊・仁尾	〃
11	6月22日	三豊・和光	〃

○徳島県（15校うち2回訪問14校）

番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	6月14日	美馬・江原	志賀
2	6月14日	美馬・脇町	〃
3	6月14日	美馬・岩倉	〃
4	6月14日	美馬・美馬	〃
5	6月14日	美馬・三島	刑部
6	6月14日	美馬・穴吹	〃
7	6月14日	三好・山城	〃
8	6月14日	三好・井川	〃
9	6月14日	つるぎ・半田	志賀
10	6月14日	つるぎ・貞光	〃
11	6月16日	三好・三野	池内
12	6月16日	三好・池田	〃
13	6月16日	三好・池田第一	〃
14	6月16日	東みよし・三好	〃
15	6月16日	東みよし・三加茂	〃

○高知県（9校）

番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	12月18日	宿毛・片島	早瀬
2	12月18日	宿毛・東	〃
3	12月18日	宿毛・小筑紫	〃
4	12月18日	大月・大月	〃
5	12月21日	四万十・窪川	宮田
6	12月21日	黒潮・佐賀	〃
7	12月21日	四万十・中筋	〃
8	12月21日	四万十・中村	〃
9	12月21日	四万十・中村西	〃

番号	訪問日	中学校名	訪問者	2回目 の訪問
16	12月19日	つるぎ・半田	河村	〃
17	12月19日	つるぎ・貞光	〃	〃
18	12月19日	三好・池田第一	衣笠	〃
19	12月19日	東みよし・三好	〃	〃
20	12月19日	三好・三野	〃	〃
21	12月20日	三好・池田	衣笠	〃
22	12月20日	三好・井川	〃	〃
23	12月20日	東みよし・三加茂	〃	〃
24	12月21日	三好・山城	衣笠	〃
25	12月21日	美馬・江原	河村	〃
26	12月21日	美馬・脇町	〃	〃
27	12月21日	美馬・岩倉	〃	〃
28	12月21日	美馬・美馬	〃	〃
29	12月21日	美馬・穴吹	〃	〃

○岡山県（17校）

番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	8月21日	笠岡・笠岡東	中山
2	8月21日	笠岡・笠岡西	〃
3	8月21日	笠岡・金浦	〃
4	8月21日	笠岡・新吉	〃
5	8月21日	笠岡・大島	〃
6	8月22日	里庄・里庄	〃
7	8月22日	浅口・金光	〃
8	8月22日	浅口・鴨方	〃
9	8月22日	浅口・寄島	〃
10	8月28日	倉敷・玉島西	森長
11	8月28日	倉敷・福田	〃
12	8月28日	倉敷・連島	〃
13	8月28日	倉敷・玉島東	〃
14	8月29日	倉敷・玉島北	〃
15	8月29日	倉敷・黒崎	〃
16	8月29日	倉敷・福田南	〃
17	8月29日	倉敷・連島南	〃

○広島県（24校）

番号	訪問日	中学校名	訪問者
1	6月26日	尾道・久保	志賀
2	6月26日	尾道・栗原	〃
3	6月26日	尾道・吉和	〃
4	6月26日	尾道・高西	〃
5	6月26日	尾道・向東	〃
6	6月26日	尾道・向島	〃
7	8月28日	福山・城南	桑田
8	8月28日	福山・鷹取	〃
9	8月28日	福山・城東	〃
10	8月28日	福山・幸千	〃
11	8月28日	福山・済美	〃
12	8月28日	福山・向丘	〃
13	8月29日	福山・鞆	〃
14	8月29日	福山・鳳	〃
15	8月29日	福山・培遠	〃
16	8月29日	福山・大成館	〃
17	8月29日	福山・松永	〃
18	8月29日	福山・中央	〃
19	8月30日	福山・芦田	〃
20	8月30日	福山・加茂	〃
21	8月30日	福山・駅家	〃
22	8月30日	福山・駅家南	〃
23	8月30日	府中・第一	〃
24	8月30日	府中・第二	〃

本校の概要、入試状況、施設・設備、学寮、経費、体験入学等の行事を進路指導主事等に説明し、3年生全員に「はばたけ！未来へ」を配布依頼するとともに「学生募集ポスター」を職員室・教室等に掲示依頼した。愛媛県内の中学校のうち訪問できなかった中学校52校には、「はばたけ！未来へ」と「学生募集ポスター」を郵送した。

(出典 学生課所蔵文書より編集)

● 学校の基本理念(教育理念)

「知恵・行動力・信頼」

● 基本方針

○ 教育の基本方針

「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

○ 学校運営の基本方針

新居浜工業高等専門学校は、

- 1) 個性あふれる教育を創造し、実践する「知恵」と
- 2) 教育研究の向上にたゆまず努力する「行動力」を持ち、
- 3) 地域と共に歩む「信頼」される学校を

目指します。

● 教育目標

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

教育目標を明記した学校案内や「はばたけ！未来へ」などの資料を中学校を中心に多数の機関に配布しており、教育目的は広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

学生の教育目標に対する認知度が低く、改善を要する。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、学校創立時から現在に至るまで、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成するという目的を堅持するとともに、平成 14 年度に教育理念、基本方針、教育目標を策定し、学校の目的を明確に定めている。また、これを受けて各学科および各専攻の教育目標を設定している。学校の目的は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて定めたものであり、高等専門学校

に求められる目的からはずれるものではない。この目的を周知させる仕組みは教職員に対しては機能しているが、学生への浸透は十分ではなく、対策が必要である。また、学校の目的は、ホームページで公開しているだけでなく、学校案内や中学生向けパンフレット「はばたけ！未来へ」などの資料を中学校や企業など多数の機関に配布し、広く社会に公表している。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は、進学士課程の教育目標を達成するために機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，生物応用化学科，材料工学科の5学科で構成されている（資料2-1-①-1）。各学科は，進学士課程の教育目標に基づいて学生が達成すべき目標を具体的に定めている（資料2-1-①-2）。

資料2-1-①-1

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	材料工学科
学級数	1	1	1	1	1
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人

（出典 新居浜工業高等専門学校学則）

資料2-1-①-2

The screenshot shows the website header for Niihama National College of Technology. The navigation menu includes: 学校案内, 学科・専攻科, シラバス, 学生生活, 教育研究施設, JABEEへの取り組み, 事務, リンク集, 学内限定情報. Below the menu are links for: 機械工学科 | 電気情報工学科(電気工学科) | 電子制御工学科 | 生物応用化学科 | 材料工学科 | 生産工学専攻 | 電子工学専攻 | 生物応用化学専攻.

機械工学科 教育目標

- A. 工学基礎知識: 機械工学分野の知識を学ぶために必要な数学, 自然科学, 情報技術の基礎知識を理解できる。
- B. 専門知識: 機械工学分野の専門知識・技術を身につける。
- C. デザイン能力: ものづくりを通してデザイン能力を身に付ける。
- D. 教養・技術者倫理: 豊かな教養をもち, 技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力: 自分の考えを論理的に表現することができる。
- F. 社会性: キャリア教育や課外活動を通して自主性, 責任感, 公共心を身に付ける。



新居浜工業高等専門学校

Niihama National College of Technology

[学校案内](#)
[学科・専攻科](#)
[シラバス](#)
[学生生活](#)
[教育研究施設](#)
[JABEE への取り組み](#)
[事務](#)
[リンク集](#)
[学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

電気情報工学科(電気工学科) 教育目標

- 工学基礎知識: 数学, 物理などの基礎知識を習得し, 専門知識の理解に応用できる。
- 専門知識: 電気・情報・通信分野などの専門基礎知識・技能を習得し, 工学的な問題解決に応用できる。
- 問題解決能力: 電気・情報・通信分野などにおけるシステム構成要素の特性と性能を把握し, システムの問題解決に取り組める。
- 教養・技術者倫理: 豊かな教養と, 正しい倫理観を身に付ける。
- コミュニケーション能力: 論理的記述力, プレゼンテーション能力など自分の考えを正確に他人に伝達する能力を身に付ける。
- 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性, 責任感, 公共心を身に付ける。



新居浜工業高等専門学校

Niihama National College of Technology

[学校案内](#)
[学科・専攻科](#)
[シラバス](#)
[学生生活](#)
[教育研究施設](#)
[JABEE への取り組み](#)
[事務](#)
[リンク集](#)
[学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

電子制御工学科 教育目標

- 工学基礎知識: 数学, 自然科学の知識を習得し, それを専門分野の知識理解に応用できる。
- 専門知識: 電子・情報分野などの基礎知識を習得し, それらを工学的な問題の解決に応用できる。
- 問題解決能力: 学んだ知識や技術を応用し, 電子・制御・情報分野の課題を解決するためのアイデアを立案し, 自主的に継続して問題解決に取り組める。
- 教養・技術者倫理: 豊かな教養と, 技術が自然環境に及ぼす影響に配慮できる倫理観を身に付ける。
- コミュニケーション能力: 日本語による論理的な文章表現及びプレゼンテーションができ, 英語によるコミュニケーションの基礎を身に付ける。
- 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性, 責任感, 公共心を身に付ける。



新居浜工業高等専門学校


Niihama National College of Technology

[学校案内](#)
[学科・専攻科](#)
[シラバス](#)
[学生生活](#)
[教育研究施設](#)
[JABEE への取り組み](#)
[事務](#)
[リンク集](#)
[学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

生物応用化学科 教育目標

- 環境, 技術者倫理: 地球環境についての基本的な知識を身に付ける。
- 専門知識: 応用化学・生物工学に関する基本的な知識を身につける。
- 自己表現: 基本的なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身に付ける。
- 問題解決能力, 自己向上力: 身に付けた基本的な知識と技術を継続的に向上させ, 応用化学や生物工学の課題に対応できる。
- 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性, 責任感, 公共心を身に付ける。



新居浜工業高等専門学校

Niihama National College of Technology

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [シラバス](#) | [学生生活](#) | [教育研究施設](#) | [JABEE への取り組み](#) | [事務](#) | [リンク集](#) | [学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)

[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

材料工学科 教育目標

- A. 工学基礎知識: 材料工学の知識を学ぶために必要な数学, 自然科学, 情報技術の基礎知識を理解できる。
- B. 専門知識: 環境との調和を考慮した材料に関する工学分野の基礎知識・技術を身に付ける。
- C. デザイン能力: 専門知識を活用し, 問題解決に向けて自主的に考える力を身に付ける。
- D. 教養・技術者倫理: 豊かな教養をもち, 技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力: 日本語による論理的な文章表現及びプレゼンテーションができ, 英語によるコミュニケーションの基礎を身に付ける。
- F. 社会性: キャリア教育や課外活動を通じて自主性, 責任感, 公共心を身に付ける。

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

各学科は、準学士課程の教育目標に基づいて、学生が達成すべき目標を具体的に定めている。したがって、その構成は教育の目的を達成するために適切といえる。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校専攻科は、専攻科課程の教育目標を達成するために準学士課程の学科に対応する専攻として、生産工学専攻、生物応用化学専攻および電子工学専攻で構成している（資料 2-1-②-1）。生産工学専攻は機械・材料系学科の卒業生を、生物応用化学専攻は化学・生物系学科の卒業生を、電子工学専攻は電気・電子・情報系学科の卒業生を受け入れている（資料 2-1-②-2）。

各専攻では、専攻科課程の教育目標に基づいて学生が達成すべき目標を具体的に定めている（資料 2-1-②-3）。

資料 2-1-②-1

(専攻及び学生定員)

第 39 条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

生産工学専攻 8 人

生物応用化学専攻 4 人

電子工学専攻 8 人

(出典 新居浜工業高等専門学校学則)

資料 2-1-②-2

4. 専攻別の特徴

(1) 生産工学専攻

機械・材料系学科の5年間の教育を基礎として、その上にIT技術にも精通した、幅広い専門知識を有した技術者を養成します。

機械系出身者は、基礎知識を有機的に組み合わせ、広範な工業分野のニーズに対応できるアイデアを生み出す能力を持ち、また、材料系出身者は、金属材料、無機材料、有機材料の持つ多様な機能を理解・応用し得る能力を持ち、国際的に活躍できる技術者に養成します。

(2) 生物応用化学専攻

化学・生物系学科の5年間の教育を基礎として、化学及び生物工学を中心とした深い知識と、社会環境を考えながら主体的に活動できる能力を持ち、国際的に活躍できる技術者を養成します。

(3) 電子工学専攻

電気・電子・情報系学科の5年間の教育を基礎として、その上に電子機器や制御機器の設計開発に不可欠な幅広い専門知識・技術とそれを応用する能力を有し、国際的に活躍できる技術者を養成します。

(出典 平成18年度専攻科履修要覧)

資料 2-1-②-3



トップページ **新居浜工業高等専門学校**
Niihama National College of Technology

学校案内 学科・専攻科 シラバス 学生生活 教育研究施設 JABEEへの取り組み 事務 リンク集 学内限定情報

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

生産工学専攻 教育目標

- A. 自然科学および複合的な工学の知識: 工学の基礎知識と融合・複合的な工学専門知識を身につけ、応用することができる。
- B. 専門知識: 機械・材料専門分野の基礎知識・技術を理解し、それらを用いて応用問題を解決することができる。
- C. デザイン能力: 工学専門知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行でできる。
- D. 教養・技術者倫理: 豊かな教養をもち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力: 論理的表現ができ、相手の話を理解し自分の考えを示すことができる。



新居浜工業高等専門学校

Niihama National College of Technology

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [シラバス](#) | [学生生活](#) | [教育研究施設](#) | [JABEE への取り組み](#) | [事務](#) | [リンク集](#) | [学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

生物応用化学専攻 教育目標

A. 環境、技術者倫理: 地球環境との共生を意識し、人間活動の環境への影響を考慮することができる基礎的知識を身に付けた技術者の育成

B. 専門知識: 応用化学・生物工学に関する専門的な基礎知識を身に付けた技術者の育成

C. 自己表現: 論理的表現能力とコミュニケーション能力を身に付けた技術者の育成

D. 問題解決能力、自己向上力: 身に付けた知識と技術を継続的に向上させ、現場における問題を解決できる技術者の育成



新居浜工業高等専門学校

Niihama National College of Technology

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [シラバス](#) | [学生生活](#) | [教育研究施設](#) | [JABEE への取り組み](#) | [事務](#) | [リンク集](#) | [学内限定情報](#)

[機械工学科](#) | [電気情報工学科\(電気工学科\)](#) | [電子制御工学科](#) | [生物応用化学科](#) | [材料工学科](#)
[生産工学専攻](#) | [電子工学専攻](#) | [生物応用化学専攻](#)

電子工学専攻 教育目標

A. 自然科学および複合的な工学の知識: 工学の基礎知識と融合・複合的な工学専門知識を習得し、応用する能力

B. 専門知識: 電気・電子・情報分野の基礎知識・技術を習得し、応用する能力

C. システムデザイン能力: 複数の専門分野の知識を活用し、問題解決に向けて自主的に考え、計画を立案・実行できる能力

D. 教養・技術者倫理: 豊かな教養と技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる倫理観

E. コミュニケーション能力: 論理的表現能力とコミュニケーション能力

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

各専攻は、準学士課程の学科に対応して設置されており、専攻科の教育目標に基づいて、学生が達成すべき目標を具体的に定めている。したがって、その構成は教育の目的を達成するために適切といえる。

観点 2-1-③: 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校には全学的なセンターとして、高度技術教育研究センター、情報教育センター、ものづくり教育支援センターが設置されている。

(1) 高度技術教育研究センター

高度技術教育研究センターは、広い視野での教育による創造性豊かな人材育成と従来の専門分野の

枠を越え、相互に融合した有機的研究体制による教育研究の推進を図り、併せて地域産業の発展に資することを目的として平成11年4月に設置された（資料2-1-③-1）。そのため、センター長の下に「研究担当」と「教育担当」の2名の副センター長を置き、業務に当たっている（資料2-1-③-2）。

高度技術教育研究センターは「本館」と「別館」で構成されており、「本館」は5つの実験室、ラウンジ室、管理室を有しており、「別館（インキュベーション・ラボラトリー）」はバイオサイエンス、ナノ制御マテリアル、エレクトロ計測制御の3エリアから成っている。それぞれの施設で利用可能な設備は、本校ホームページに掲載されている（資料2-1-③-3）。

平成18年度は運営目標として「学生高度教育の活性化方策を検討し、実施する」、「学内共同・学際研究の活発化を図る」、「都市エリア産学官連携促進事業の推進等、地域共研・技術相談の活発化を図る」などを挙げ、それに基づく実施計画に従って運営を行った（資料2-1-③-4）。平成18年度は、都市エリア事業の成果として4件、共同研究の成果として3件、計7件の特許を出願し、平成17年度の0件に比べて大幅に増加した。また、学生が市場性のある特許2件を出願した。センターの活動、各施設の利用状況は報告書としてとりまとめ、教職員に配布している（訪問調査資料 高度技術教育研究センター報第6号）。

（2）情報教育センター

情報教育センターは、情報教育の推進、IT技術を利用した新教育手法の導入、学内ネットワークの運用管理などを図るための組織として平成15年4月に設置された（資料2-1-③-5）。

当センターは、電子計算機室第一演習室及び第二演習室、情報処理室（第三演習室）、CAD実習室（第四演習室）、LL教室、視聴覚教室、専攻科AV室、衛星通信大学間ネットワーク（SCS）等の施設を管理している。それらを運営するために情報教育センター運営委員会を設置しており、その中には情報教育推進部門、事務処理システム推進部門、ネットワーク運用管理部門の3部門がある。各電算機室で利用可能な設備は本校ホームページに掲載されている（資料2-1-③-6）。

平成18年度は、運営目標として「IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラムの構築」、「ITを活用した新教育手法の導入推進」、「情報教育設備の有効利用と充実」、「学内ネットワーク設備の整備と安全で健全な運用管理の実現」、「事務処理の効率化と教職員間使用システムの運用管理体制の構築の推進」を挙げ、それに基づく実施計画に従って運営を行った（資料2-1-③-7、資料2-1-③-8）。平成18年度は、FDの機会として、学生の自学自習教材作成のためのWebClassの講習会を2回開催し、ほぼ全教員が参加した（資料2-1-③-9）。

（3）ものづくり教育支援センター

ものづくり教育支援センターは、各学科の実験実習・卒業研究など教育研究の支援、ロボコンなどものづくり課外活動の支援、地域連携による技術交流・支援を目的に、平成17年4月に設置された（資料2-1-③-10、資料2-1-③-11）。

ものづくり教育支援センターの施設には、機械実習工場、材料実習工場、アイデア通り工房があり、特に、アイデア通り工房は、ものづくり課外活動、チャレンジプロジェクト、アイデア通りプロジェクトなど学生のものづくり活動の共同利用施設として活用されている。平成19年3月には、ものづくり活動の充実を図るために、材料実習工場内の仕切りを撤去する改修工事が行い、広い活動スペースを確保した。それぞれの施設で利用可能な設備は本校ホームページに掲載されている（資料2-1-③-12）。

平成 18 年度は運営目標として、「ものづくり教育の全学的な取組を推進するとともに、ものづくりのための環境を整備する」、「ものづくり教育を積極的に支援するため、技術室の活動の活性化を図る」および「地域と連携したものづくり活動を推進する」を挙げ、それに基づく実施計画に従って運営を行った（資料 2-1-③-13, 資料 2-1-③-14）。平成 18 年度は、学内ものづくりコンテストの初めての試みとして、「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」を開催し、「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」の 2 つの競技を実施した（資料 2-1-③-15, 資料 2-1-③-16）。また、センターの活動、アイデア通り工房の利用状況、技術室の活動を報告書としてとりまとめ、教職員に配布している（訪問調査資料 平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書）。

資料 2-1-③-1

新居浜工業高等専門学校高度技術教育研究センター規程

平成 11 年 3 月 19 日規程第 2 号

（設置）

第 1 条 新居浜工業高等専門学校に、学内共同利用教育研究施設及び地域との連携協力を図る施設として、新居浜工業高等専門学校高度技術教育研究センター（以下「高度技術教育研究センター」という。）を置く。

（目的）

第 2 条 高度技術教育研究センターは、広い視野での教育による創造性豊かな人材育成と従来の専門分野の枠を越え、相互に融合した有機的研究体制による教育研究の推進を図り、併せて地域産業の発展に資することを目的とする。

（業務）

第 3 条 高度技術教育研究センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生に対する高度技術教育に関すること。
- (2) 学内共同及び学際的研究の推進に関すること。
- (3) 地域産業の技術高度化、情報化への貢献と共同研究の推進に関すること。
- (4) その他高度技術教育研究に関すること。

（組織）

第 4 条 高度技術教育研究センターに、次の部門を置く。

- (1) メカトロニクス研究開発部門
- (2) 機能性材料開発部門
- (3) 高福祉社会創造技術部門
- (4) 環境技術部門
- (5) 地域情報化技術部門

（職員等）

第 5 条 高度技術教育研究センターは、次の職員をもって組織する。

- (1) 高度技術教育研究センター長（以下「センター長」という。）
- (2) 高度技術教育研究センター副センター長（以下「副センター長」という。）
- (3) 研究員
- (4) 客員研究員

2 センター長は、教授をもって充て、校長が任命する。

3 副センター長は、教授又は助教授をもって充て、校長が任命する。

4 研究員は、本校教員の中から、必要に応じて、校長が任命する。

5 客員研究員は、企業等から研究の申し出があった者に対し、校長が選考のうえ、認めた者とする。

（センター長及び副センター長の職務）

第 6 条 センター長は、高度技術教育研究センターの業務を総括する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(委員会)

第7条 高度技術教育研究センターに、高度技術教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 高度技術教育研究センターの基本方針に関する事項
- (2) 高度技術教育研究センターの設備等の利用計画に関する事項
- (3) 各学科、数理科及び一般教養科並びに各部門との連絡調整に関する事項
- (4) 学生に対する高度技術教育に関する事項
- (5) 受託研究・共同研究の受入れ及びその実施に関する事項
- (6) 発明に係る権利の帰属等に関する事項
- (7) 公開講座に関する事項（小・中学生を対象とするものを除く。）
- (8) その他高度技術教育研究センターの運営に必要な事項

(委員会の組織)

第8条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 2人
- (3) 事務部長
- (4) センター長及び副センター長の属する学科・科以外から選ばれた教員 3人
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第9条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは副センター長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第10条 委員長は、必要に応じて委員でない者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第11条 高度技術教育研究センターの事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、高度技術教育研究センターに関し、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校公害教育研究センター規程（昭和54年規則第7号）は廃止する。

附 則

この規程は、平成11年9月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

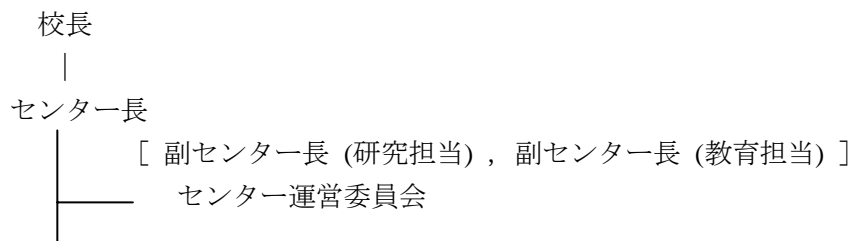
附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料2-1-③-2

【高度技術教育研究センターの運営組織】



<校内教員>

- 機械工学科
- 電気情報工学科
- 電子制御工学科
- 生物応用化学科
- 材料工学科
- 数理科
- 一般教養科

(出典 高度技術教育研究センター報第5号)

資料2-1-③-3

主な高度技術教育研究センター機器の紹介

主な高度技術教育研究センター機器の紹介をします。

- 移動体用情報通信シュミレーション装置
- 全有機炭素測定装置 (TOC)
- 超伝導磁石核磁気共鳴装置 (NMR)
- 電子線マイクロアナライザ (EPMA)
- 走査型電子顕微鏡 (SEM)
- エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置
- 熱分析器 (示差熱天秤, 示差走査熱量計)
- 紫外可視分光光度計
- フーリエ赤外分光装置
- ワイヤークット放電加工機 (W-EDM)
- 深絞り試験機
- 放射線測定器

(出典 本校ホームページ)

資料2-1-③-4

平成18年度高度技術教育研究センターの運営目標の実施状況

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 学生高度教育の活性化方策を検討し、実施する。
1. 2 学内共同・学際研究の活発化を図る。
1. 3 都市エリア産学官連携促進事業の推進等、地域共研・技術相談の活発化を図る。
1. 4 実験研究設備の提供機会の増大を図る。
1. 5 教育・文化面での地域連携で昨年を上回る活動を行う。
1. 6 地域への情報発信をさらに強化する。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学生高度教育の活性化方策を検討し、実施する。
 - [1] 専攻科生を中心とした活性化方策を、専攻科教育委員会、「愛テクフォーラム」と連携して検討し、実施する。主な検討項目を以下に示す。
 - (1) 科学技術シンポジウム等イベントへの参加の推進
 - (2) センター機器を利用した高度教育の推進
 - (3) 企業と連携した共同研究等への参加の推進

(1) 科学技術特別シンポジウムは「科学と教育研究の最先端」に専攻科生2年8名がパネル展示による研究成果の発表を行った。また23名と多数の専攻科生が出席した。

(2) 生物応用化学専攻の「先端機器測定実習」を始めとして、センター機器の専攻科生への教育・利用を継続している。本科生については測定補助または授業・見学に利用している。

(3) 共同研究、技術相談に関する研究に、専攻科生・本科生を参加させている。

2. 2 学内共同・学際研究の活発化を図る。

- [1] 「愛テクフォーラム」専門部会活動への複数教員の参加・協力、「都市エリア事業」の推進を足がかりに、学内共同・学際研究の活発化を図る。
- [2] 科研費等を含めた外部資金申請において複数教員が共同申請を行うようにサポートする。

[1] 「愛テクフォーラム」法人会員の専門部会参加は28社であるが、企画専門部会、知的財産専門部会を各2回、研究専門部会はロボット産業界育成フォーラムも含めて延べ8回開催した。各部会ともにはほぼ複数教員が参加し、教員の連携が進展したと言える。また、「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」を開催し教員は18名が参加した。「都市エリア事業」では共同研究は3テーマすべて、可能性試験は6件中2件が教員の共同連携テーマとなっており、多いとは言えない。

[2] 外部資金申請は、JSTシーズ発掘試験が平成18年度が8件で、平成19年度は10件を予定している。えひめ産業振興財団関連で、大学発起業化シーズ育成支援事業が2件、ジュニアドベンチャー選手権が2件、チャレンジプランが継続で3件、NEDO-FS申請1件であった。いずれも本校教員については単独申請であった。科研費等の外部資金申請25件において、複数教員の共同申請が可能な17件中の6件が共同申請であった。そのうち学科間の連名は2件であった。共同研究・受託研究では20件中複数教員の取組が8件と多いので、今後共同研究・受託研究からの発展を考えたい。

2. 3 共同研究・技術相談の活発化を図る。

- [1] 「愛テクフォーラム」会員の参加・協力、「都市エリア事業」の推進、東予産業創造センター、西条産業情報支援センター（SICS）との連携を主に、愛媛大学、四国6高専、県公設試と連携して活発化を図る。
- [2] インキュベーション・ラボの利用促進、リエゾンルームの研究打合せ、「愛テクフォーラム」会合等への活用を足がかりに、活発化を図る。
- [3] 市場性のある共同研究・受託研究の増加に取り組み、テーマで計20件を目標とする。
- [4] 市場性のある知財出願の増加に取り組み、2件以上を目標とする。

知財検討依頼は年10件以上行う

[5] 技術相談は100件以上を目標とする。各教員1件以上を目指す。

[1] 「愛テクフォーラム」の法人会員の共同研究・受託研究への参加は関連企業を含めて7社である。特別会員1社を含めて、計8社である。そのうち、都市エリア事業参加が6社である。専門部会参加は28社で、そのうち共同研究への参加は1社、「都市エリア事業」参加が2社である。

東予産業創造センターとの連携は「都市エリア事業」、外部資金申請及びイベントの共同主催で、SICSとの連携は外部資金申請、共同研究を継続している。愛媛大学と連携したチャレンジプラン2件に本校教員が参加している。四国6高専で連携した会議・交流会を継続・推進した。県公設試とは、紙産業研究センターと都市エリア事業で連携している。平成19年度は、文部科学省産学官連携コーディネーターの配置により、機関・組織の連携の進展が期待できる。

[2] インキュベーション・ラボの企業・機関の利用が2社行われているが、ベンチャー企業立ち上げによる利用拡大を計画している。リエゾンルームは都市エリア事業の科学技術コーディネーターの在室、愛テクフォーラム専門部会等の会合の他、現代GPにおいても、地域ものづくりコーディネーターの在室、取組の会合に活用している。

[3] 共同研究は10件で平成17年度の18件に比べて減少した。一人で4件の教員が2件に、SICSが3件から1件と減少したこと、継続していた共同研究5件が途切れたことが要因と思われる。受託研究は10件（契約では5件）で、平成17年度の9件（契約では5件）に比べて微増した。10件のうち7件は都市エリア事業で、2件はJST関連であり市場性は高い。共同研究・受託研究併せて20件（契約では15件）で目標は達成した。新規に外部資金として、JSTシーズ発掘試験・FS事業に各1件（受託研究に含む）、えひめ産業振興財団関連で、大学発起業化シーズ育成支援事業が1件、ジュニアドベンチャー選手権が1件、チャレンジプランが継続で3件、採択され、活性化している。共同研究の増加を図るため、高技センターテーマのヒヤリングを早期に年度内に行った。研究組織、共同研究・外部資金獲得の可能性等、高技センターテーマの許可条件を明確にした。

[4] 特許は機構の承継・出願が7件と多数となった（平成17年度0件）。うち、都市エリア事業の成果は4件で、3件は従来の共同研究の成果である。特許検討は都市エリア事業等を含めて、18件行った。他に学生が実用性の高い特許を2件出願した。

[5] 技術相談は172件（平成17年度133件）と増加したが、なかでも生物応用化学科が142件と活発である。技術相談を行った教員は20名（平成17年度26名）と減少した。

2. 4 実験研究設備の提供機会の増大を図る。

[1] 実験研究設備は地域協力の武器なので、「愛テクフォーラム」と活性化方策を検討し、実施する。主な検討項目を以下に示す。

- (1) 「愛テクフォーラム」会員へのパンフレット配布・説明、機器の見学
- (2) 技術相談におけるテスト測定
- (3) 分析機器、IT機器等の「愛テクフォーラム」会員、共同研究企業への随時の技術教育

(1) 「愛テクフォーラム」については専門部会、研究専門部会、愛テクフォーラム企業技術交流会の際に、実験研究設備の記載されたパンフレットを配布・説明した。

(2) 技術相談における無料のテスト測定を継続している。

(3) 分析機器、IT機器等の共同研究企業への随時の技術教育は数件実施した。「愛テクフォーラム」会員への実施は今後の課題となる。

○活性化方策としては、文部科学省産学官連携コーディネーターによる「愛テクフォーラム」会員企業を含めた、有力企業のニーズ抽出、教員の革新的技術シーズの抽出の取組を実施する予定である。

2. 5 教育・文化面での地域連携で昨年を上回る活動を行う。

[1] 高専アイデア通りをものづくり教育支援センターと連携して推進する。

- (1) 教職員、学生のアイデアと実践力を活かし、元気あふれる地域づくりやキャンパス作りを進める。
- (2) 新居浜市、新居浜市教委、「愛テクフォーラム」等地域の諸機関、市民団体と連携しながら、既に取り組んでいるプロジェクトや新規プロジェクトの組織化を検討する。
- [2] 出前講座について新居浜市教委、小中学校、公民館等と連携して進展を図る。
- [3] 教育フォーラムを教務委員会、新居浜市教委、小中学校、愛媛県教委と連携して進める。
- [4] 公開講座について「愛テクフォーラム」、公民館等と連携して進展を図る。
- [5] S P P事業を教務委員会、小中学校と連携し新規テーマで実施する。

[1] 高専アイデア通りの推進

(1) 現代G P「地域連携プロジェクト型ものづくり活動ー工都新居浜の活性化プランー」の採択を受けて、後期から、学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動に取り組むこととなった。本取組は「ものづくり人材育成」と「まちづくり・地域の求心力向上」から成る。「ものづくり人材育成」としては、地域への出前授業・出前イベント等、出前活動プロジェクトとしての「青少年科学教室プロジェクト」と、地域の小中学校の理科教材を開発する「ものづくり教材開発プロジェクト」を組み合わせ実施した。出前授業、出前イベントを学生参加で企画・実施した。実施件数は次項に記す。理科教材については作成計画を作成し、準備に取り組んだ。「まちづくり・地域の求心力向上」としては、「まちづくりシンボルロボプロジェクト」において「新居浜太鼓台ロボ」、「別子銅山ロボ」の2テーマについて、プロトタイプ的设计を完了した。「商店街活性化パフォーマンスロボプロジェクト」では、市内の2つの商店街組合等と連携して、アイデアを募り検討の結果、熱血あきんどロボット及び銅板装きつねロボットの2テーマに決定し、学生参加でプロトタイプ製作準備を進めている。現代G P以外では「川之江切山地区案内ロボット」のテーマにおいて音声・文字ガイドに引き続き、平家落ち武者型の案内ロボットを学生参加で製作した。

(2) 現代G Pとして、ものづくり教育支援センター、新居浜市、新居浜市教委、新居浜商工会議所、市民団体、「愛テクフォーラム」等地域の諸機関と連携し、組織化して推進している。

[2] 出前講座一覧を新居浜市を通じ、小中学校、公民館に配布するとともに、新居浜市のホームページへのリンクを継続させている。小中学生対象を59件、一般市民対象を25件を開講している。小中学生対象として、小学校4件、中学校2件、地域の小学生クラブ1件の計7件を実施した。イベントへの出前参加として12件を実施したが、社会人対象の1件を除き小中学生対象である。後期は現代G Pの活動として実施している。

[3] 教育フォーラムは現代G Pの活動として実施した。「現代G Pものづくり教育研究フォーラム・新居浜高専教育フォーラム2006」を「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」のテーマで、愛媛県教委、新居浜市教委の後援を得て開催した。小中高の教員をはじめ、新居浜市教育委員会関係者、一般市民、本校教職員等81名が参加し、「ものづくり教育」や「現代G P地域連携」についての講演、取組、事例発表について活発な討論が行われた。

[4] 公開講座はガラス工芸技術の世界（葡萄のネックレス作製、中級編）に4名の参加で実施した。後述の「新居浜高専市民講座」も公開講座に準ずる講座である。

[5] S P P事業は「理科光学教材の作成-簡易顕微鏡づくり-」をテーマとして、小中学校の理科教諭及び教頭・校長を含む15名の参加を得て開催した。また、小中学校教員と連携を行うメーリング・リスト「新居浜サイエンスクラブ」を開設し、学校登録11校、個人登録：学外8名+新居浜高専教職員全員の登録を得た。

2. 6 地域への情報発信をさらに強化する。

- [1] 「愛テクフォーラム」会員の参加・協力、東予産業創造センターの協力を得て、テーマ研究会・交流会イベントの活動を行っていく。マスコミへの取材要請を強化・継続する。
- [2] 技術面の地域活動では、介護工学研究会、新居浜高専知財研究会、S I C S

- コーディネート活動等の推進を図る。
- [3] 科学技術特別シンポジウムは、一般・学生対象として分りやすい講演内容で継続開催し、市民の参加を促す。
 - [4] 新居浜市生涯学習センターと共催し、「新居浜高専市民講座」を継続開催する。
 - [5] 技術シーズ集を発行して、「愛テクフォーラム」、企業へのPRに活用する。パンフレット、パネル展示も活用する。
 - [6] イベント時にはポスターにより広報するとともに、カレントな冊子を作成する。
 - [7] 活動報告書、高度技術教育研究センター報を作成する。

[1] 新しい企画として、「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」を、『産学官交流「愛テクフォーラムの技術を知り、活用しよう!」』テーマで、東予産業創造センター、「愛テクフォーラム」との共同での主催で開催した。学外者25名の他、多数の学生も参加して、約210名と多数聴講し、熱気にあふれた会合となり、海南eタイムズに掲載された。東予産業創造センター主催の都市エリア事業成果発表フォーラムにはグループ討議メンバーとして新居浜高専の地域連携活動のPRを行った。マスコミへの取材要請を継続したが、研究活動や地域連携の状況や成果についての新聞記事等への掲載は31件であった。

[2] 介護工学研究会は「定例会」を10回、展示・相談会を3回、見学会を1回行い、最新福祉機器の試乗会を1回開催した。新居浜高専知財研究会は愛テクフォーラム会員を講師として、愛テクフォーラムと連携して研究会を開催した。SICSとの連携は継続し、共同研究1件、JSTシーズ発掘試験採択1件の成果が得られた。

[3] 科学技術特別シンポジウムは「科学と教育研究の最先端」のテーマで開催し、企業等学外者24名を含めて、教職員、専攻科学生等67名が参加した。

[4] 新居浜市生涯学習センターと共催し、「新居浜高専市民講座」を8講座継続開催した。40名募集に対して46名が受講し、聴講者6名を含めて好評であった。

[5] 企業向けに技術シーズ集を発行した。海南eタイムズに高技センターの連続掲載を開始した。この掲載記事・特許、活動状況等で、愛テクフォーラムニュースを発行し、パンフレットとともに、イベント時に配布した。

[6] イベント時にはポスターの他、メールによる広報を継続している。また、カレントな冊子を必ず作成した。

[7] 活動報告書として「高度技術教育研究センター報」を作成した。

○ 総合的な評価と課題

平成16年度以降出願がなかった特許が、機構の承継・出願が7件と多数となったのは特筆される。うち、都市エリア事業は4件で、企業や外部機関との共同の研究の成果が3件である。共同研究は10件で平成17年度の18件に比べて減少した。一人で4件の教員が2名に、SICSが3件から1件と減少したこと、継続していた共同研究5件が途切れたことが要因と思われる。受託研究は10件で、平成17年度の9件に比べて微増した。共同研究・受託研究併せて20件で目標は達成したが、平成17年度の27件に比べて減少した。しかし、新規に外部資金として、JSTシーズ発掘試験・FS事業として各1件等を獲得している。技術相談も172件と高水準を維持している。工業技術懇談会は「第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会」として、愛テクフォーラムの活動振興策としても開催した。「愛テクフォーラム」については、専門部会、研究専門部会、共同研究、広報等、着実に活動に取り組んでいる。全体的にみて、JSTシーズ発掘試験、都市エリア事業の刺激、新規教員の活動により引き続き活動は上向いて来ていると言える。

平成19年度は、文部科学省産学官連携コーディネーターの配置、新規教員の研究活動への参加により、「愛テクフォーラム」を核とした、機関・組織の連携ネットワークの強化による研究活動の活性化が期待できる。また、新規教員の研究活動への参加、インキュベーション・ラボ、リエゾンルームの活用による取組の底上げを期待したい。

教育関連の小中学生対象及び市民対象の取り組みでは、現代G P「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 一工都新居浜の活性化プラン」の採択を受けて、後期から、学生参加から学生主体の活動を目指して取組むこととなった。「ものづくり人材育成」と「まちづくり・地域の求心力向上」の各プロジェクトとも着実に活動を開始している。地域ものづくりコーディネーターの活動により、地域の小中学校との連携が著しく進展した。教員の活性・求心力も高く、成果が期待される。現代G Pものづくり教育研究フォーラムを教育フォーラムとしても実施し、科学技術特別シンポジウムは継続している。リエゾンルームの活用も武器として、来年度は現代G Pの取組を中心として、教育関連の地域活動の活発化を図りたい。

(出典 平成18年度学校運営目標の実施状況)

資料2-1-③-5

新居浜工業高等専門学校情報教育センター規程

平成15年2月12日規程第4号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校に、高度情報通信社会に対応した情報教育を推進するため、新居浜工業高等専門学校情報教育センター（以下「センター」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 情報教育の推進及び基本方針の策定に関する事。
- (2) 情報処理教育及び情報リテラシー教育の企画及び実現化の技術的支援に関する事。
- (3) マルチメディア教育の企画及び実現化の技術的支援に関する事。
- (4) 遠隔教育のコンテンツの企画・開発に関する事。
- (5) 情報ネットワークの管理・運営に関する事。
- (6) 教育用電子計算機システムの管理・運営に関する事。
- (7) 職員の情報ネットワーク及び電子計算機等の活用能力向上に関する事。
- (8) 電子計算機室の管理・運営に関する事。
- (9) スペース・コラボレーション・システムの管理・運営に関する事。
- (10) AV教室、視聴覚教室、LL教室の管理・運営に関する事。
- (11) 事務処理、広報及び研究活動における情報ネットワーク及び電子計算機利用技術的支援に関する事。
- (12) 情報ネットワークを介した情報検索及び情報公開の技術的支援に関する事。

(部門)

第3条 センターに次に掲げる部門を置く。

- (1) 情報教育推進部門
- (2) 事務処理システム推進部門
- (3) ネットワーク運用管理部門
- 2 その他部門に関する必要事項は別に定める。

(センター長及び副センター長)

第4条 センターにセンター長及び副センター長を置く。

(センター長及び副センター長の職務等)

第5条 センター長は、校長が指名する。

- 2 センター長は、センターの所掌事項を掌理し、運営委員会と各部門の連絡調整を図ることとする。
- 3 副センター長は、センター長が指名する。
- 4 副センター長は、センター長の職務を補佐する。
- 5 センター長に事故があるときは、あらかじめセンター長が指名した副センター長がその職務を代行する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センターに情報教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する事項は別に定める。

(事務)

第7条 センターに関する事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第 8 条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校スペース・コラボレーション・システム等事業実施委員会規程（平成 9 年規程第 2 号）新居浜工業高等専門学校電子計算機室運営規程（昭和 48 年規程第 7 号）及び新居浜工業高等専門学校電子計算機室細則（昭和 48 年細則第 11 号）は廃止する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料 2 - 1 - ③ - 6

演習室の設備

●ハードウェア

●ソフトウェア

・電子計算機室第一演習室		Microsoft Office (2003)
サーバ(Windows 2003)	1 台	Microsoft Visual Studio
ファイルサーバ(Windows 2003)	1 台	Borland C++
パソコン(Windows XP)	49 台	Matlab
モノクロレーザプリンタ	3 台	LabVIEW
		Pro/Engineer
		Ansys
・電子計算機室第二演習室		Mathmatica
サーバ(Windows 2003)	1 台	Microwave Office
パソコン(Windows XP)	50 台	ALC NetAcademy
モノクロレーザプリンタ	2 台	Web Class
		etc
・電気情報工学科情報処理室（第三演習室）		
サーバ(Windows 2003)	1 台	
パソコン(Windows XP)	49 台	
カラーレーザプリンタ	1 台	
モノクロレーザプリンタ	2 台	
・電子制御工学科 CAD 実習室（第四演習室）		
サーバ(Windows 2003)	1 台	
パソコン(Windows XP)	48 台	
カラーレーザプリンタ	1 台	
モノクロレーザプリンタ	2 台	

（出典 本校ホームページより編集）

資料 2 - 1 - ③ - 7

平成 18 年度情報教育センター運営目標の実施状況

1. 平成 18 年度運営目標
 - 高度情報通信社会に対応するために次の五つを運営目標とする。
 1. 1 IT 社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
 1. 2 IT を活用した新教育手法の導入推進

1. 3 情報教育設備の有効利用と充実
 1. 4 学内ネットワーク設備の更なる整備と安全で健全な運用管理の実現
 1. 5 事務処理システム推進部門としての要求を明確化し、その要求に沿ったネットワーク（セキュリティ確保）構築のためにネットワーク運用管理部門に働きかけ、事務処理の効率化、教職員間使用システムの運用管理体制の構築を推進していく。
2. 平成 18 年度実施計画
2. 1 IT 社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
 - [1] 共通科目「情報リテラシー」実施状況の調査及び改善
 - ・各学科一斉に 1 年前期で「情報リテラシー」授業を実施した。前期 1 単位であるが、全学科連携をとって実施できた。授業の進み具合、試験の採点法等問題点は残っているが、今回の実施結果を踏まえて、次年度の改善に取り組んでいきたい。
 - ・情報リテラシー教材を共有化するために WebClass 内にコースを作成した。
 2. 2 IT を活用した新教育手法の導入推進
 - [1] IT を活用した新教育手法の導入推進
 - (1) 新教育手法導入のための各種講習会の実施
 - ・下記(2)に記したように、WebClass の講習会を回実施した。
 - (2) WebClass 活用のための講習会の実施
 - ・WebClass の講習会は予定通り 1 回は実施したが、まだ不十分との声があり、2 回実施した。
 - (3) 自学自習教材作成のためのノウハウ集の公開
 - ・一部の科目、授業アンケート、新入生アンケートなどサンプルを作って公開している。
 - [2] 自学自習教材作成、マルチメディア教育、遠隔教育の推進
 - (1) 自習教材の作成及び作成のサポート
 - ・一部の科目で教材を作っている。その際のサポートはまだ不十分である。
 - (2) 遠隔授業の作成
 - ・まだ進んでいない。
 - (3) 外部組織(高専 IT 教育コンソーシアム、e ラーニング高等教育連携など)との連携
 - ・検討中である。
 - (4) 現代的教育ニーズ取組支援プログラムの推進
 - ・進行していない。
 - (5) SCS 利用の促進
 - ・従来通りの配信状況を維持している。
2. 3 情報教育設備の有効利用と充実
 - [1] ものづくり教育を支援するデジタルエンジニアリング教育環境の向上
 - ・情報処理室(第 3 演習室)に PIC 書き込み装置が 16 セット組み込まれ、学生実験や夏季体験講座に利用されている。
 - [2] LL 教室のあり方の検討
 - ・まだ具体的な案が出ないまま検討中であり、今後の課題となっている。
2. 4 学内ネットワークの円滑な運用管理
 - [1] 4ヶ所の演習室の円滑な運用・連携
 - ・会議室等予約システムに演習室の使用予約ページを組み込み円滑に運用されている。
 - ・情報処理室のディスク領域の割り振りが不適切であったのを、パーティションの設定変更を行い、同時に共通ファイルのエリアを全学共通に整備した結果、これまで情報処理室利用者のファイルに起こっていた一部の不具合が改善された。
 - ・昨年度末に 4 つの演習室の更新が全て完了し、4 月から新システムで情報教育がスタートした。円滑な運用・管理ができていますが、一部演習室の利用が偏っている面もあるので、次年度からは時間割等の工夫が必要である。
 - ・本年度末にはさらに「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」が導入されて、通信速度が大幅に速くなるので、大幅な運用面の改善が期待できる。

[2] 学寮における無線 LAN の整備

- ・春に学寮ネットワーク利用者講習会実施している。
- ・「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」の導入に伴い、これまで懸案であった学寮の無線 LAN の整備が実現する運びとなった。

2. 5 情報教育センター報の発行

- ・本年度も持ち越しとなった。

(出典 平成 18 年度運営目標実施状況)

資料 2 - 1 - ③ - 8

平成18年度情報教育センター教育改善推進計画の実施状況

1. 平成 18 年度活動計画

情報教育センターとして教育改善のために次のような活動を行う。

- 1.1 共通科目「情報リテラシー」の実施状況を調査し、問題点について検討し改善を図る。
- ・各学科一斉に 1 年前期で「情報リテラシー」授業を実施した。今回の実施結果を踏まえて、以下の項目につき次年度の改善に取り組んでいきたい。
 - (1) 講義の進度：統一したシラバスに従って進めたが、クラスのレベル、授業の進め方、計算機システムの整備不足等によって課題が残った。学期はじめの綿密な打合せの徹底が必要。システムの整備はできるだけ進めている。
 - (2) 試験問題、採点：統一問題で実施したが、採点基準については大まかな統一であったので、今年度の結果から問題点があれば抽出して改善する。
 - (3) 今後の課題：WebClass の更なる有効利用を図る。頻繁なる横の連絡を持つ。横の連絡網の軸となる教員の設置を検討する。

1.2 IT を活用した新教育手法の導入推進のための各種講習会の実施

平成 17 年度に引き続き IT を活用した新教育手法の導入推進のための各種講習会の実施を行う。講習会としては次の 4 つを計画している。

[1] Matlab 利用講習会

- ・未実施である。

[2] LabVIEW 利用講習会

- ・未実施である。

[3] WebClass 活用講習会

- ・2 回実施した。

[4] Office ソフト活用講習会

- ・事務系で実施したので、一部バックアップした。

学生が自学自習できる環境の向上を目指して次のような活動を行う。

[1] 自学自習用教材の作成

- ・進行中である。一部の科目で作成している。

[2] 各学科、科、教員が教材を作成する際のサポート

- ・WebClass 活用講習会の実施。利用に当たっての質問事項の受付、回答を実施している。

[3] WebClass 活用を促進するための掲示板の作成

- ・作成していない。

[4] 自学自習教材作成のためのノウハウ集の公開

- ・まだ公開していない。

(出典 平成 18 年度教育改善推進計画実施状況)

資料2-1-③-9

教員 各位

勝浦@情報教育センターです。

すでに御連絡しておりました、WebClass の利用のための講習会を下記の日程で実施致します。

6月12日(月)	13:00～15:00	第一演習室
6月13日(火)	13:00～15:00	第一演習室
6月15日(木)	13:00～15:00	第二演習室

内容は同じものを考えておりますので、御都合のよろしい日に必ず御参加頂ければと思います。

よろしく願いいたします。

教職員 各位

勝浦@情報教育センターです。

前回の教員会で希望がありました WebClass の講習会についてですが、下記の日程で実施したいと思います。

日時：
12/13 PM1:00～

12/15 PM1:00～

場所：第一演習室

内容につきましては、教材作成、アップなど実際に促したことを計画しております。参加される方はアップしたい教材等をご持参ください。

また、こんな事が知りたいと言う事がありましたら事前にメールを頂ければ参考に致します。

(出典 校内メール)

資料2-1-③-10

新居浜工業高等専門学校ものづくり教育支援センター規程

平成17年2月8日規程第2号

(目的)

第1条 新居浜工業高等専門学校に、ものづくり教育及び地域等との技術交流を推進するため新居浜工業高等専門学校ものづくり教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 各学科の実験・実習及び卒業研究等の教育研究支援に関すること。
- (2) ものづくり課外活動の支援に関すること。
- (3) 地域連携による技術交流・支援に関すること。
- (4) 機械及び材料実習工場の管理・運営に関すること。
- (5) アイデア通り工房の管理・運営に関すること。
- (6) 技術室の業務目標・計画及び評価に関すること。
- (7) 技術職員の研修計画に関すること。
- (8) その他ものづくり教育及び地域等との技術交流の推進に関すること。

(構成員)

第3条 センターは、次に掲げる教員及び技術職員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター所員

2 センター長は、校長が指名する。

3 センター長は、センターの所掌事項を掌理する。

4 副センター長は、センター長が指名する。

5 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

6 センター長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

7 センター所員は、センターの活動に参画する者とする。

8 第1項の規定にかかわらず、必要に応じ、学外の者をセンター所員に委嘱することができるものとする。

(運営委員会)

第4条 前第2条に掲げるセンターが所掌する事項を審議するため、センターにもものづくり教育支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 総務課長
- (4) 技術室長

3 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

4 委員長は運営委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

6 委員長は必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

7 委員長は、運営委員会における審議の結果を、必要に応じ、運営会議に報告する。

(事務)

第5条 センターに関する事務は、総務課において処理する。

(その他)

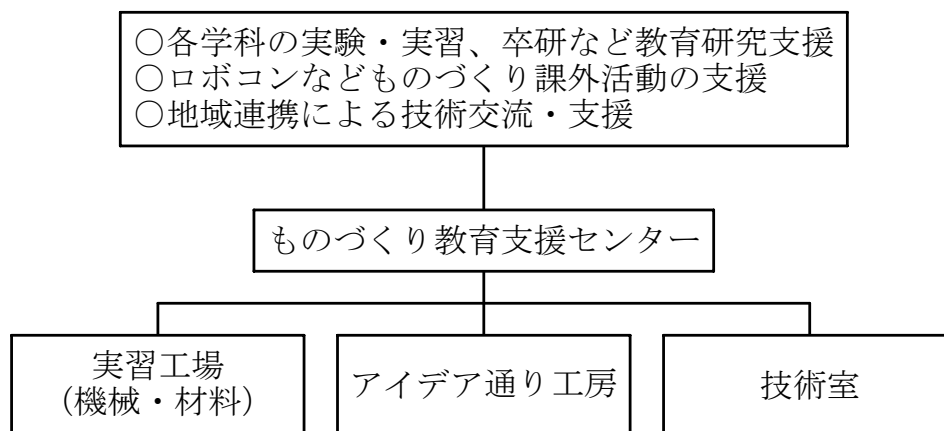
第6条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

組織図



運営委員会スタッフ

センター長	機械工学科	教授	谷口 佳文
副センター長	数理科	教授	平木 弘一
総務課長	大城 清隆		
技術室長	佐々木 邦康		

(出典 本校ホームページより編集)

共同利用施設

◎機械実習工場内機械一覧表

番号	機械名	台数	仕様	利用状況
1	汎用旋盤	8	大展-1、山崎-1、ダイワ-2 滝沢550D-1、800D-3、	13h/週
2	CNC旋盤	4	ベッド長100Cmm	9h/週
3	立フライス盤	2	ベッド長100Cmm、1100mm	5h/週
4	ベット型横フライス盤	1	ベッド長130Cmm	5h/週
5	小型ラジアルボール盤	1	腕長900mm/m	6h/月
6	直立ボール盤	1	テーブル510φ 能力鋼40φ	6h/月
7	形削盤	1	ストローク650mm	5h/週
8	精密平面研削盤	1	ベッド長700mm	5h/週
9	スロッター	1		年5回
10	ホブ盤	1		6h/週
11	コンタマシン	1		
12	XYテーブル付き卓上ボール盤	1		年5回
13	卓上ボール盤	2		5h/週
14	高速切断機	1		
15	のこ盤	2		
16	両頭グラインダ	6	305mm	
17	ベルトグラインダ	1		
18	交流アーク溶接機	4	出力電流範囲 55～300A	6h/週
19	Tig溶接機	2	出力電流範囲 4～200A直流式	
20	プラズマ切断機	1	出力電流範囲 20～80A	
21	CO2溶接機	2	DC 60～350A 1φ～3φV	年10回
22	MIG自動溶接機	1	アルミ用	
23	エアハンマ	1	1/20t 大谷式	年6回
24	鋳造用コークス炉	2		5h/週
25	移動式ガス溶接器	1		年5回
26	軽合金溶解炉	1	電気炉	5h/月
27	砂型造型機	1	ジョルトスクイーズ式	5h/月
28	シェルモールド造型機	1	ガスバーナー加熱式	年6回
29	可傾式坩堝炉	1	コークス炉	
30	サンドフレンザ	1		
31	高周波誘導溶解炉	1	3000Hz 50Kg	年5回
32	スポット溶接機	1		
33	Tig溶接機	2	出力電流範囲 10～300A直流式	

◎材料実習工場内機械一覧表

番号	機械名	仕様	利用状況
1	シリコニット電気炉	200V 15kw 常用1500℃	
2	縦フライス盤	600mm	1日/週
3	小型圧延機	ローラー幅 120mm	1日/週
4	スエーピングマシン	10mm-2mm	
5	縦フライス盤	900mm	1日/週
6	ボール盤	最高3000rpm	1日/週
7	旋盤	1200mm	
8	パイプレーションカッター	1000mm	2h/週
9	アーク溶接	150A	1日/週
10	旋盤	1200mm	1日/週
11	研削盤		
12	ファインカット		
13	圧縮試験機	最大荷重 100t	1日/週
14	シリコニット電気炉	200V 2.7kw 常用1400℃	年2ヶ月
15	コンプレッサー	2.2kw	1日/週
16	ガス溶解炉		1日/週
17	高周波誘導真空溶解炉	20kw 3kH 熔解料5kg	
18	高周波誘導真空ホットプレス炉	20kw 3kH プレス荷重10t	
19	手押し鉋		
20	自動鉋		
21	琢磨機		
22	変圧器		
23	角取り		
24	絞り器		
25	粗さ計		

(出典 本校ホームページ)

資料 2-1-③-13

平成18年度ものづくり教育支援センターの運営目標の実施状況

1. 平成18年度運営目標

1. 1 ものづくり教育の全学的な取組を推進するとともに、ものづくりのための環境を整備する。
1. 2 ものづくり教育を積極的に支援するため、技術室の活動の活性化を図る。
1. 3 地域と連携したものづくり活動を推進する。

2. 平成18年度実施計画

2. 1 PBL教育の推進

ものづくり教育の全学的な取組を活性化するために、PBL教育を推進する。

[1] PBL教育研究会を発足し、PBL教育の推進を図る。

- ・専門学科から1名を選出し、PBL教育研究会を発足した。学内ものづくりコンテストの競技内容、実施時期、実施方法について協議し、10月23日にコンテストを実施した。

[2] PBL教育先進校の教員を招き、講演会を開催する。

- ・現代GP 平成18年度ものづくり教育研究フォーラム「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」において、奈良高専 京兼純教授による「奈良高専における地域連携事業と現代GP」と題した講演が行われた。

[3] PBL教育研究集会に参加し、情報収集、交流を行う。

- ・PBL教育研究会のメンバーが、9月27日に開催された「中国・四国工学教育協会第16回研究集会」に参加し、10月の教員会でその内容を報告した。

[4] 外部人材の活用など、地域と連携したPBL教育を推進する。

- ・現代GPのものづくり活動において、ものづくり経験の豊富な外部の方にプロジェクトアソシエイトとして協力してもらうことになった。
- ・デザコンのアイデア発表会において、外部の方にアイデアの審査並びに助言をいただいた。

2. 2 技術室の運営

[1] 技術職員の研修を計画・実施し、能力の向上を図る。

- ・「平成18年度技術交流プログラム」として、核融合科学研究所技術部 山内健治氏を招いて、技術職員を対象とした講演会を6月15日に開催した。
- ・雇用・能力開発機構愛媛センターと連携して実施した経験者向けTIG溶接技術研修の講義を受講し、能力の向上を図った。

[2] 技術室ものづくりプロジェクトを継続して実施する。

- ・昨年度から継続して製作している「7セグメントデジタル式時計」を完成させ、第1体育館南側壁面に設置した。精度が悪いので、引き続き改良の予定である。

[3] 技術職員による学内講習会を実施する。

- ・12月に設置された3次元樹脂モデル造形機を学内で活用してもらうため、モデル作成のために必要な3次元CADの講習会および造形機の利用法の講習会を、3月22日、23日に実施した。

[4] 教育方法の改善、教材の開発を推進し、その成果を発表する。

- ・今年度からの初めての取り組みとして、「平成18年度 技術室活動報告会」を3月13日に実施し、4名が報告を行った。参加者は17名と少なかったが、活発な質疑が行われた。

[5] 年度末に活動報告書を作成し、センターの活動の広報を行う。

- ・昨年度に引き続き「ものづくり教育支援センター活動報告書 平成18年度版」を発行した。

[6] チャレンジプロジェクト、アイデア通りプロジェクト、各種コンテストなどのものづくり活動の技術支援を積極的に行う。

- ・ロボコン、プロコン、デザコン、トロッコ列車等の製作活動において、各種部品の製作支援、学生への技術指導を行った。

[7] 学科の実験実習・卒業研究等の教育研究支援の他に、高度技術教育研究センター、情報教育センターの活動支援を積極的に行う。

- ・高度技術教育研究センターのホームページの管理、EPMAおよびSEMの操作、保守管理を行った。
- ・情報教育センターへの支援活動として、新居浜高専トップページの管理、図書館インターネット閲覧端末の管理、電子計算機演習室・専攻科棟AV室の管理などの管理業務を行った。図書館インターネット閲覧端末については、セキュリティおよび利用者のための改善を行った。

2. 3 施設・設備の有効利用

[1] 機械および材料実習工場の機能を統合し、施設・設備の効率的な活用を図る。

- ・機械および材料実習工場の一部の改修工事が行われ、機械加工の実習に関する機能を機械実習工場に統合した。

[2] 実習工場内の設備を整理、廃棄し、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースを確保する。

- ・機械および材料実習工場の改修工事にあわせて実習工場内の設備を整理、廃棄し、材料実習工場内に、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースおよびものづくりのための材料保管スペースを確保した。

[3] 実習工場、アイデア通り工房の機器利用の際の安全教育を徹底する。

- ・実習工場においては、昨年度作成した「実習工場利用の注意事項」に従って、安全指導を行った。
- ・アイデア通り工房の旋盤の利用については、機械工学科の学生のみ使用を許可している。3月に、アイデア通り工房の旋盤を入れ替えたため、学生に対する利用の講習を行う予定である。

2. 4 地域との連携

[1] 地域との技術交流・技術支援を推進する。

- ・新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員14人に対して、公開講座として技術職員が講師となり、初心者向け溶接（アーク及びTIG）技術研修を12月1日～8日にかけて実施した。
- ・雇用・能力開発機構愛媛センターと連携して、新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員10人に対し、経験者向けTIG溶接技術研修を、1月13、20、27日の毎土曜日に実施した。

[2] 地域のものづくり人材育成事業に参画する。

- ・東予産業創造センターの「産学連携製造中核人材育成事業」提案書作成に協力した。
- [3] 「シンボルロボ・アイデアコンテスト」への応募作品の中からロボットを製作し、地域づくりに協力する。
- ・「シンボルロボ・アイデアコンテスト」で入選した太鼓台と別子銅山をモデルにした2台のロボットについて、現代G Pの「まちづくりシンボルロボプロジェクト」で製作に取りかかった。
- [4] ものづくり教育支援センターホームページを充実し、地域への情報発信を行う。
- ・ものづくり教育支援センターのホームページの更新を技術室でできるようにした。
- ・切山地区案内ロボット製作プロジェクト活動状況の追加、あかがねの里 銅物園プロジェクトの更新などを行なった。

○総合的な評価と課題

- ・年度当初に立てた目標は、いくつかの項目で不十分な点はあるものの、ほぼ達成できたと考える。
- ・技術室ものづくりプロジェクト、技術室活動報告会、3次元CADと樹脂モデル造形機の講習会などを通じて、技術室の活動を学内に知ってもらうよう努めた。今後も、さらなる技術室の広報を進めていきたい。
- ・外部人材の活用については、不十分であった。現代G Pのものづくりプロジェクトへの協力などを通して、活用を図っていく必要がある。
- ・機械および材料実習工場の改修工事によって機能が統合されたので、有効な活用方法を検討する必要がある。

(出典 平成18年度学校運営目標の実施状況)

資料2-1-③-14

平成18年度ものづくり教育支援センターの教育改善推進計画の実施状況

1. ものづくり活動の活性化

[1] 1年生学級担任と連携し、ものづくり活動を推進する。

- ・1年生課外特別活動予定表の中に、ものづくり活動のための時間を取り入れてもらった。「ロボコンアイデアの提案」、「お手玉作り」、「組立式飛行機の製作と記録会」などが行われた。

[2] 学生委員会、学生会と連携し、学内コンテストを実施する。

- ・学生課、技術室の協力を得て、「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」と題して、学内コンテストを10月23日に開催した。「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」を実施し、各コンテストに、それぞれ21チーム31名、11チーム25名の参加があった。

[3] ロボット研究会、先端技術研究会、マルチメディア愛好会、科学研究会などの活動を、より活性化すると共に、リーダーの育成に努める。

- ・ものづくり課外活動の活性化、リーダーの育成を図るために、3月26、27日に、ロボコン、プロコン、デザコン、トリコン、ソーラーカー、現代G Pものづくり科学教室・教材開発プロジェクトのリーダー6名を引率し福井高専を訪問した。

[4] 各種ものづくりコンテストへの参加を奨励し、製作活動を支援する。

- ・18年度に初めてデザコンに参加することになり、学生委員会と連携して、7月10日にアイデア発表会を実施した。7件の発表があり、その内の2件がコンテストに参加した。初出場ではあったが、最優秀賞を受賞することができた。
- ・1、2年生学級担任および学生委員会と連携して、1、2年生を対象にロボコンの競技ルール説明会を開催した。1年生から104件、2年生から41件、学校全体では342件のアイデアの提案があった。
- ・ロボコン、プロコン、デザコンのアイデア発表会に、センター長、副センター長、技術職員が参加し、アイデアの審査および助言を行った。

2. 学習成果の発表

[1] 学習成果の展示スペースを確保し、作品を展示する。

- ・ 図書館棟1階ロビーにデザコンで製作したブリッジを展示した。また、図書館入り口に学内ものづくりコンテストに参加した組立式飛行機とウインドカーを展示した。
- ・ 機械および材料実習工場の改修工事が行われ、材料実習工場内に作品展示スペースを確保した。
- ・ 図書館棟1階ロビーに展示しているロボットの移動を用意するため、技術室で台車を製作した。

[2] 学習成果を高専PRの場や地域イベントで活用する。

- ・ 学生が工夫し製作した段返りからくり人形を、8月4日、5日に開催された「ものづくりフェスタ in 松山」の講座「からくりチャレンジ 段返り人形を作ってみよう！」に活用した。小中学生への製作指導を、学生が担当した。
- ・ 2月3日に総合科学博物館開催された「ロボットを楽しもう！」において、ロボット研究会の学生がロボコンで製作したロボットを用いてデモンストレーションを行った。
- ・ ものづくり教育支援センターを通して、昭和通り商店街から、2月4日の「はまさい」への狸ロボットの出展依頼があり、出口教員と学生2名が参加した。

○総括的な評価と課題

- ・ 年度当初に立てた目標は、ほぼ達成し一定の成果を取めることができた。
- ・ 学内コンテストについては、担任、学科主任を通じて参加を呼びかけたが、参加者数は少なかった。さらに多くの学生が参加するような方策が必要である。
- ・ 初めての試みとして、1年生の課外特別活動でのものづくりの実施、学内コンテスト、デザコンなどを実施した、来年度以降も継続し、学内のものづくり活動を盛りあげていきたい。

(出典 平成18年度教育改善推進計画の実施状況)

ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006

「ものづくりコンテスト in 新居浜高専」は、新居浜高専で学ぶ皆さんの誰もが、ものづくり活動に参加し、アイデアとそれを実現する技術力を互いに磨いていくことを目的に開催するものです。

第1回目 今回は、「組立式飛行機コンテスト」と「ウインドカーコンテスト」を実施します。

コンテスト概要（詳細は別紙要項を参照してください。）

- ・「**組立式飛行機コンテスト**」は、自作の飛行機で、デザインと飛行距離を競います。簡単な構造ですが、翼の大きさや形状、機体のバランスなどでその性能は大きく左右されます。いろいろなものを調べ、工夫して製作してください。個人またはチームでの参加とします。
- ・「**ウインドカーコンテスト**」は、風をエネルギーとして、風上に向かって走る車のアイデアと速度を競います。風力を利用して走るための機構や構造、その材料など様々な要素をうまく組み合わせることが必要です。学年や学科の枠を超えたチームでの参加とします。

●コンテスト日時：平成18年10月23日(月)（会場：第一体育館）

●応募方法：

- ①参加登録用紙を、9月8日(金)までに提出してください。
 - ②エントリーシートを、10月16日(月)までに提出してください。
- （用紙配布・提出場所：学生就学支援係）

●表彰： 最優秀賞、優秀賞、アイデア賞、デザイン賞
（各賞の受賞者には、賞状と副賞を贈呈します）

このコンテストは、必ずしも勝つものだけを求めているのではありません。
決められた制約の中で、アイデアを出しユニークな作品を完成してください。
優れた作品は表彰し、学内に展示すると共に、様々なイベントにも参加してもらいます。

主催 新居浜工業高等専門学校
共催 新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」
後援 新居浜高専後援会

（出典 学内掲示ポスター）

○組立式飛行機コンテストの結果

組立式飛行機コンテスト 記録表

順位	エントリーNo.	作品名	チーム名	飛行距離		記録
				1回目	2回目	
1	14	オウム号	オウム	19.60 m	22.70 m	21.150 m
2	4	ひこまろ	先端技術研究会 2年の部	20.50 m	20.15 m	20.325 m
3	5	俺 飛ぶぜ!!	べちょんぬ	12.60 m	22.55 m	17.575 m
4	21	Gyron Woods II	Team Nishy	13.15 m	15.60 m	14.375 m
5	7	～ 狙うライフには宙返りのサービスを～	Don't worry, I can fly!	7.60 m	19.15 m	13.375 m
6	17	リサイクリスト	メガティブ	12.90 m	12.55 m	12.725 m
7	18	普通な飛行機	(田中君)	9.30 m	15.80 m	12.550 m
8	1	組立式飛行機	井手光	12.95 m	11.70 m	12.325 m
9	19	smart	マテルダ	5.75 m	13.70 m	9.725 m
10	2	ヒコウキ	鳥三中	13.30 m	4.90 m	9.100 m
11	13	飛行機 2	吉川研究室	7.75 m	6.45 m	7.100 m
12	16	B 2, 9	シュレック 3	5.80 m	8.00 m	6.900 m
13	20	Soar	流体実験室	8.00 m	5.75 m	6.875 m
14	15	ムクライド	シュレック 2	7.50 m	5.85 m	6.675 m
15	9	ツパメ	(水関君)	7.05 m	4.55 m	5.800 m
16	8	BORING 800	(水関君)	7.65 m	2.75 m	5.200 m
17	12	飛行機 1	吉川研究室	6.50 m	3.70 m	5.100 m
18	11	よだか	(大西君)	5.75 m	3.25 m	4.500 m
19	6	スーパー飛行機	(小沢君)	5.25 m	3.50 m	4.375 m
20	3	流星 夜を切り裂いて	(日野君)	3.30 m	2.10 m	2.700 m
21	10	フラップフライヤー	(大石君)	2.70 m	2.60 m	2.650 m

○ウインドカーコンテストの結果

ウインドカーコンテスト 記録表

順位	エントリーNo.	作品名	チーム名	走行タイム			
				1回目		2回目	
1	10	GRUMMAN F4F-4 WILD CAT	アベ	0分 40.22秒	0分 20.14秒	0分 20.14秒	0分 20.14秒
2	9	HERO	シュレックス	0分 34.51秒	0分 21.62秒	0分 21.62秒	0分 21.62秒
3	6	1号	5E1号	0分 41.07秒	0分 23.62秒	0分 23.62秒	0分 23.62秒
4	11	ゆっくり号	楽しく遊ぼう	0分 28.33秒	0分 25.66秒	0分 25.66秒	0分 25.66秒
5	1	風車	1-1	1分 52.06秒	0分 45.63秒	0分 45.63秒	0分 45.63秒
6	7	TOYOTA Witz	5E2号	1分 49.39秒	0分 55.27秒	0分 55.27秒	0分 55.27秒
7	3	DANDY号	ダンディーとゆかいな仲間達	2分 17.28秒	1分 33.44秒	1分 33.44秒	1分 33.44秒
8	8	風輪車	村上ファンズ	2分 7.22秒	1分 59.90秒	1分 59.90秒	1分 59.90秒
9	5	自動書記	編集後記	2分 35.24秒	×分 リタイア秒	2分 35.24秒	2分 35.24秒
	4	シックロー	(クワン君)	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒
	2	サンダーstorm X	(日野君)	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒

(出典 平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

(分析結果とその根拠理由)

高度技術教育研究センターは、教育研究活動の拠点として、地域産業の発展だけでなく、広い視野での教育による創造性豊かな人材育成と専門分野の枠を越えた研究体制による教育研究の推進に貢献している。したがって、高度技術教育研究センターは、本校の教育目標である「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」および「創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う」を達成するために適切なものである。

情報教育センターは、高度情報通信社会に対応した情報教育を推進するため、情報基礎教育プログラムの構築、IT技術を利用した新教育手法の導入、情報教育設備の有効利用と充実、学内ネットワークの運用管理に貢献している。したがって、情報教育センターは本校の5つの教育目標を達成するための教育環境を整える上で適切なものである。

ものづくり教育支援センターは、ものづくり教育推進の中核として、学生のものづくりのための環境整備と活動支援、ならびに技術職員の研鑽などを通じて学内ものづくり活動の活性化に貢献している。したがって、ものづくり教育支援センターは、本校の教育目標である「体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う」および「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために適切なものである。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

教育課程については、教務委員会が中心となり、その企画調整を行い、有効な実施方法を検討・運営している。教務委員会は教務主事、主事補3名、各学科(科)からの1名ずつの委員および学生課長で構成され、教育活動にかかわる事項の審議を行っている(資料2-2-①-1, 訪問調査資料 平成18年度教務委員会議事録)。専攻科の教育課程については、特に専攻科教育委員会が中心となり、検討・運営している。専攻科教育委員会は専攻科長、専攻主任、各学科(科)からの代表委員、学生課長で構成され、専攻科の教育活動にかかわる事項の審議を行っている(資料2-2-①-2, 訪問調査資料 平成18年度専攻科教育委員会議事録)。教務委員会および専攻科教育委員会で審議された案件は運営会議に諮られ、最終決定されている(資料2-2-①-3)。

資料 2-2-①-1

新居浜工業高等専門学校教務委員会規程

昭和 39 年 4 月 1 日

第 1 条 新居浜工業高等専門学校に教務に関する事項に対処するため、教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成、改廃及び授業時間割に関する事項
- (2) 学生の履修に関する事項
- (3) 学業成績等の処理に関する事項
- (4) 教育情報処理に関する事項
- (5) 学生の募集に関する事項
- (6) 入学試験の実施に関する事項
- (7) 小・中学生を対象とする公開講座及び体験入学等に関する事項
- (8) 教育懇談会、学校説明会及び学校訪問に関する事項
- (9) その他教務に関する事項

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 各学科、数理科及び一般教養科の講師以上の教員 各 1 人 ただし、教務主事補の所属する学科(科)の委員については、教務主事補が兼ねるものとする。

(4) 学生課長

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第2号の委員は、同項第3号の委員を兼ねることができる。

4 第1項第3号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

5 前項の委員に欠員が生じた場合の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

第5条 委員長は、必要により委員でない職員を委員会に出席させることができる。

第6条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和40年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正規則は、昭和62年6月15日から施行する。

2 この改正規則施行の際、第3条第1項第3号及び第4号に規定する委員である者の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、昭和63年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成11年9月8日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校専攻科教育委員会規程（平成10年規程第3号）、新居浜工業高等専門学校教育情報処理委員会規程（昭和57年規則第7号）、新居浜工業高等専門学校入学試験委員会規程（昭和61年規則第11号）、新居浜工業高等専門学校PR委員会規程（平成8年規程第2号）及び新居浜工業高等専門学校体験講座等委員会規程（平成8年規程第3号）は廃止する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料2-2-①-2

新居浜工業高等専門学校専攻科教育委員会規程

平成14年5月27日規程第3号

第1条 新居浜工業高等専門学校に専攻科の教育等に関する事項に対処するため、専攻科教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 専攻科の教育及び指導に関する事項
- (2) 専攻科学生の入学、進学及び就職に関する事項
- (3) その他専攻科学生に関する事項

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
 (2) 各専攻主任
 (3) 各学科，数理科及び一般教養科の教授又は助教授 各1人 ただし，専攻主任の所属する学科の委員については，専攻主任が兼ねるものとする。
 (4) 学生課長
 2 委員会の委員は，校長が委嘱する。
 3 第1項第3号の委員の任期は，1年とする。ただし，再任を妨げない。
 4 前項の委員に欠員が生じた場合の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
- 第4条 委員会に委員長を置き，専攻科長をもつて充てる。
 2 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
- 第5条 委員長は，必要により委員でない職員を委員会に出席させることができる。
- 第6条 委員会に関する事務は，学生課において処理する。
- 第7条 この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は委員会の議を経て専攻科長が定める。
- 附 則
 この規程は，平成14年6月1日から施行する。
- 附 則
 この規程は，平成15年4月1日から施行する。
- 附 則
 この規程は，平成16年4月1日から施行する。
- (出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料2-2-①-3

新居浜工業高等専門学校運営会議規則

昭和44年4月1日規則第1号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議を置く。

(目的)

第2条 運営会議は，校長の諮問に応じ，本校の運営に関する次の各号に掲げる重要事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算概算の方針に関する事項
- (3) 学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項
- (4) 人事の基準に関する事項
- (5) 組織の改廃，教育研究体制の改善等に関する事項
- (6) 教務・厚生補導・寮務に関する重要事項
- (7) その他本校の運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営会議は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- (1) 校長
 - (2) 事務部長
 - (3) 教務主事，学生主事及び寮務主事
 - (4) 専攻科長
 - (5) 各学科，数理科及び一般教養科の主任
 - (6) 高度技術教育研究センター長
 - (7) 総務課長及び学生課長
- 2 運営会議の委員は，校長が委嘱する。

(会議の開催)

第3条の2 運営会議は，月2回開催する。ただし，必要があると認められた場合は，随時開催することができる。

(会議の招集)

第4条 校長は、運営会議を招集し、その議長となる。

2 校長に事故あるときは、あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

(委員以外の職員の出席)

第5条 校長は、必要に応じて委員以外の職員を運営会議に出席させることができる。

(会議の事務)

第6条 運営会議に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、運営会議の議を経て校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和44年4月1日から施行する。

2 従来の新居浜工業高等専門学校主任会規程は、廃止する。

附 則

この規則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正規則は、昭和62年1月24日から施行する。

2 この改正規則施行の際、第3条第1項第4号及び第5号に規定する幹事である者の任期は、第3条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

附 則

この改正規則は、昭和63年4月22日から施行し、昭和63年4月1日から適用する。

附 則

この改正規則は、平成4年9月28日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成8年7月1日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成11年4月27日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成11年9月8日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校将来計画委員会規程(昭和63年規則第2号)及び新居浜工業高等専門学校専攻科運営委員会規程(平成4年規則第12号)は廃止する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程を検討し、運営する体制が整備されており、平成18年度においてはそれぞれ約20回の教務委員会と専攻科教育委員会が開かれ、そこで教育活動全般にわたる重要事項が審議されている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

平成15年に、一般教養科の英語担当教員と学科(科)教員による英語学力強化対策委員会が組織され、一般・専門の教員が連携して英語教育の向上を図っている(資料2-2-②-1)。平成18年度には、生物応用化学科教員と数理科の数学・化学担当の教員とで授業内容や達成度に関する話し合いをもった(資料2-2-②-2、資料2-2-②-3)。

シラバスは、科目担当教員ではなく学校全体として作成するものであるという認識のもとに、毎年、各学科の教育改善委員会が中心となって、一般科目および専門科目のシラバスを検討するシステムが機能している。その中で、互いの科目に対して要望や指摘を行うなど、一般・専門の教員間が連携している（資料2-2-②-4）。

資料2-2-②-1

平成18年度 第3回 英語学力強化対策委員会議事録

日時：平成18年6月27日(火) 16:20～17:05

場所：一般ゼミナール室

出席者：尾崎委員長，鴻上，野村，佐渡，Tabesh

S 千葉，M 鎌田，E 先山，D 栗原，C 中川

記録：先山

配布資料：平成18年度夏期英語実力養成講座実施要領 & TOEIC IP 結果

● 議題

1. 夏期英語実力養成講座 実施要領について

要領(案)を一部修正した上で各クラスへ配布

2. TOEIC IP 結果について

990点満点中，最高710点(留学生)，最低140点，日本人最高は600点台
1SMの成績が悪い

ALC学習ソフトを利用することで成績向上の効果あり

3. その他

- ・英語科と専門との科目連携について（鴻上）

専攻科には技術英語科目がある

M：振動工学(1SM)で英語教材を利用したが挫折，難しい

ALC学習ソフトのPowerWordに専門用語辞書を作成中

D：電子工学ゼミナール(1SE)で英語によるプレゼンテーション

一部教材に英語のものを使用

C：PowerWordに専門用語登録

WebClassでALC学習ソフトの学生の進捗状況を随時確認している

- ・NetAcademyでの学生の進捗状況のチェックについて（C 中川）

積極的に確認して学生へフィードバックするべきである

英語学力教科対策委員などが請求すれば閲覧用のPasswordは発行してもらえる

NetAcademyの導入3年になるが利用率が低い

次回は，平成18年7月25日(火)に開催予定。

(出典 平成18年度英語学力強化対策委員会議事録)

生物応用化学科と数理科数学担当教員と科目連携に関する打合せ

日時： 平成18年8月24日（木）17時～18時30分

場所： 生物応用化学科事務室

出席者： 中川、川崎、柳井、衣笠

議題

1) 中学校からの積み残し部分の対策

- ・特に1年生のはじめは、授業の中で復習をしながらやっている。
- ・数学B-1は、三角関数ではなく、一次関数のグラフから始めており、中学校との接続はよくなったと思う。
- ・以前は、入学時にほとんどの三平方の定理が理解でき、計算もできていたが、一昨年くらいから理解できていないものが増えてきた。そのほかにもごく単純な四則計算ができない者が無視できなくなってきた。対策はこれから考えないといけない。

2) 補助教材

- ・数式処理電卓の使用は、以前の専攻科での経験から、ある程度のレベルがないと役に立たないように思う。
- ・Web Classの活用については、意欲のある学生をそちらに誘導して教員の負担を減らして、できない学生に個別指導などの時間を充てるのが有効ではないか。

3) 習熟度別クラスについて

- ・今年度は機械と化学の学生を、基礎1クラスと発展1クラスに分けている。化学の方が発展クラスが多い。
- ・試験は同じ。
- ・昨年度は入れ替えをしなかったが、今年度は入れ替える予定。
- ・発展の方が進度が速いので、応用問題を取り入れるようにしている。
- ・習熟度別クラスの中で順位の悪い者を前の方に集めてやったのはよかった。
- ・発展クラスに思い切った応用問題が出せる。

4) 授業内容・教科書

- ・内容は現在の程度は最低やっておきたい。大学編入学試験に必要な程度。ただ、現在の1年生の様子を見ていると考え直す必要が
- ・教科書「高専の数学」はとっつきにくいのではないか。1、2年の間だけでも高校の数学の教科書のような読みやすいものを導入してはどうか。阿南高専が高校検定教科書を使っているようなので、その様子も見てみたい。

5) その他

- ・授業を聞いている学生が板書の指摘などはしてくれる。わからないからもう一度説明してほしいというのは少ない。
- ・保護者にも話をして、塾に行くことを勧めることもある。
- ・生物応用化学演習1などで、何をポイントにして出題するか、レベルをどうするかなどについて、科目担当で話し合う。

以上

(出典 生物応用化学科 数理科との話し合い議事録)

資料 2-2-②-3

生物応用化学科と数理科化学担当教員と科目連携に関する打合せ

実施日時： 平成 18 年 8 月 23 日
 場所： 生物応用化学科事務室
 参加者： 矢野、中川、河村(中途退出)
 文責： 中川

打合せ(意見交換)の内容について

1. 生物応用化学科と数理科との科目連携を推進するため、今後も継続・実施することに対して賛同が得られた。今回は、年度末頃を予定することで一致した。
2. 平成 18 年度、生物応用化学科の 1, 2 年生は、「化学の理解度」について問題がないと思われる。
3. 一般科目の化学と専門科目の化学のシラバス記載内容の重複は重要である。しかし、現状、高学年になるとともに身につけていないことが課題であるとの認識は一致している。
高学年のある科目について、矢野先生へ質問に来る学生がいるとのことであった。
学生の理解できるレベルなどについて低学年から高学年まで連携が不可欠であることで一致した。
4. 「一般科目の化学」では、モル計算、濃度計算を最低限、身に付けさせようと努力している。専門学科として、是非とも、継続・実施を依頼した。
5. 「一般科目の化学」、「専門科目の化学」のシラバス記載内容の見直しを連携して行うことに賛同が得られた。(実施時期を決める方向で進めたい)
6. 「一般科目の化学」において実施されている「実験」は、春、夏、秋、冬の 4 回/年である。学生の感想も評価が高いとのことであった。むしろ、学生は実験をやりたがっているが、混合クラスのため、回数を増やすことは困難である。
7. 矢野先生個人として、「一般科目の化学」は、生物応用化学科以外の専門学科は、2 年次より「化学」の講義を受講始めることを希望する。理由は、高学年に実施される各専門学科の科目に関連する「化学」の理解度が向上すると考えているからである。同様に、「一般科目の物理」についても、受講する時期の再検討が必要ではないかと考えている。
8. その他：
 - 1) 学生のやる気を出させる方法について
 - ・中学校より勉強嫌いの学生が入学しており、やる気を植え付けるため、専門のカウンセラーを学校に設置してはどうか。(教育のプロが必要である)
 - ・学校の PR 方法を見直しも必要か?
 - ・基礎学力を身に付けさせる → 難しい! (教育のプロ、核となる人材がない?)
 - ・「なぜ、勉強しなければならないのか」に対する“学校の方針”が学生へ伝わっていないのではないか?

以上

(出典 生物応用化学科 数理科との話し合い議事録)

資料 2-2-②-4

平成 18 年 3 月 30 日

教育改善委員長 河村先生

カリキュラム・シラバス検討委員会
衣笠 巧

平成 18 年度シラバスチェック結果の報告

以下は、平成 18 年度開講科目シラバスについてチェックした結果、問題と思われる点を科目担当者の学

科・科別に抽出したものである。チェック項目は、1～3年生で新しく設定した到達目標と成績評価（特に出席点、受講態度）を中心に検討し、他の部分は十分には見ていない。

一般教養科担当科目

<国語>

国語 1

- ・成績評価方法の割合が明確でない。「総合的に評価する」ではなく、定期試験 70%、提出物 30%などのように定量的に示す。
- ・評価に「出席状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる内容に変える。

国語 2

- ・到達目標にある「自分の考えを持ち、表現できる」は、口頭か文章か、両方が明確にしてはどうか。
- ・成績評価方法の割合が明確でない。「総合的に評価する」ではなく、定期試験 70%、提出物 30%などのように定量的に示す。
- ・評価に「出席状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる内容に変える。

国語 3

- ・問題なし

国語 4

- ・到達目標の「論理的な文章表現ができる」は、国語 2 の達成目標「論理的で客観的な文章表現ができる」との違いを明確にする。

国語特講

- ・問題なし

国文学

- ・シラバスなし

<中国語>

初級中国語

- ・生物応用化学プログラムの学習・教育目標を D-3 として、記載してください。

中国語会話

- ・シラバスなし

<芸術>

音楽

- ・問題なし

美術

- ・シラバスなし

<社会>

倫理

- ・問題なし

政治・経済

- ・問題なし

歴史 1

- ・評価に「受講態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

歴史 2

- ・評価に「受講態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

地理

- ・評価に「受講態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。
- ・到達目標の言葉の意味がよくわかりません。もう少しすっきりと書ければよいと思いますが。

応用倫理学

- ・問題なし

法学

- ・到達目標のレベルが高いように読み取れるので、もう少し表現を変えたほうがよいのでは。

歴史特論

- ・評価に「受講態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。または、「受講態度」をはずして「提出物」だけにする。

人間と倫理

- ・到達目標が 17 年度より 1 つ減っているのは間違いではないか。
- ・到達目標の「理解すること」を「説明できること」に変えるなど、達成度を評価できる表現に変更できないか。

日本文化史

- ・評価に「受講状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

日本国憲法

- ・問題なし

現代社会と法

- ・17 年度と授業内容が変わっている。科目名から経済的な内容を法的な内容に変えられたのだと思うが、これでよいかどうか、専攻科として考える必要がある。18 年度は仕方ないとして、19 年度以降科目名変

更も含めて検討する余地がある。

<独語>

初級独語

- ・「ゲルマン語族への歴史的理解を深めること」は、到達目標としては不適でないか。すなわち、到達しているかどうかを評価する項目ではないと思われる。学生へのメッセージなどで伝達する方がよい。

独語会話

- ・到達目標の「ドイツの文化と歴史への理解を深めること」は、不適でないか。理由は同上。

<体育>

体育1

- ・教科書の出版社名はかっこでくる。書式は他のシラバス参照。

武道

- ・教科書は、書名、出版社名だけでなく、著者も書く。書式は他のシラバス参照。

体育2

- ・教科書の名前が途中までしか表示されていない。

保健

- ・教科書は、書名だけでなく、著者と出版社も書く。書式は他のシラバス参照。
- ・評価に「授業出席度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる内容に変える。また、「学習意欲」の評価の方法を発表などのように具体的に記載する。「忘れ物」は実技科目の評価になるのはわからないではないが、講義科目としてはおかしい。

体育3

- ・教科書は、書名、出版社名だけでなく、著者も書く。書式は他のシラバス参照。

体育4

- ・問題なし

体育5

- ・問題なし

<英語>

英会話1

- ・評価に「積極性」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目に変える。「積極性」は「発表回数」とほぼ同じではないのか。

英会話2

- ・評価に「積極性」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目に変える。「積極性」は「発表回数」とほぼ同じではないのか。

英語1

- ・到達目標の「英検3級程度の英語運用能力を身につける」の意味が不明確である。また「定期試験で出題する英検準2級問題集の問題に60%以上正解できること」との関連がわからない。

英語2A

- ・教科書の名前が正しく表示されていない。
- ・評価に「授業参加度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

英語2B

- ・問題なし

英語3

- ・教科書の名前が正しく表示されていない。授業内容の表示も文字化けしているところがある。

技術英語1

- ・シラバスなし

技術英語2

- ・授業内容に文字化けしているところがある
- ・評価に「受講状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

時事英語

- ・担当教員名が途中までしか表示されていない。
- ・到達目標が17年度から大幅に減り、レベル等が全く不明である。もう少し具体的に記載してほしい。
- ・授業内容に文字化けしているところがある
- ・評価に「授業参加度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

実用英語

- ・担当教員名が途中までしか表示されていない。
- ・到達目標が17年度から大幅に減り、レベル等が全く不明である。もう少し具体的に記載してほしい。
- ・評価に「授業参加度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。また、「提出物」とは分けて評価する。

総合英語

- ・到達目標が17年度から大幅に減り、レベル等が全く不明である。もう少し具体的に記載してほしい。
- ・評価に「平常点」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

中級英会話

- ・17年度の到達目標の方がより具体的でよかったのではないか。
- ・生物応用化学プログラムの学習・教育目標（C-2、D-3）が入っていない。

英語演習書購読

- ・到達目標が 17 年度から大幅に減り、レベル等が全く不明である。もう少し具体的に記載してほしい。
- ・到達目標と授業内容が不一致でないか。例えば、授業内容にはリスニングがあるが、到達目標にはない。

科学英語表現

- ・到達目標が 17 年度から大幅に減っている。もう少し具体的に記載してほしい。(レベル等が全く不明)
- ・評価に「授業参加度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数理科担当科目

<数学>

数学 A-1

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数学 B-1

- ・到達目標を、「～ができること」等の表現にする方がよい。

数学 A-2

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数学 B-2

- ・到達目標が、非常に具体的な項目と抽象的な項目が混在している。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数学 A-3-1

- ・到達目標の「テイラーの定理の理解」、「オイラーの公式の理解」は難しいのでは。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数学 A-3-2

- ・3 年生の数学の到達目標は、専攻科の「工業数学及び演習」と比較してレベルが高いのではないか。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

数学 B-3

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

応用数学 C

- ・教科書の応用数学の出版社等が抜けている。
- ・授業の進め方に、「常にモラル教育……」は必要ないのでは。

確率統計

- ・問題なし

数学特別演習

- ・到達目標の内容が 17 年度より理解し難くなっている。17 年度の方がよいのでは。
- ・学習・教育目標が間違っている(生物応用化学プログラムは B-1)。

工業数学及び演習

- ・到達目標が 17 年度よりも具体性がなくなっているため、17 年度の方がよいのでは。
- ・参考書に出版社名がないものがある。
- ・成績評価の方法の平均は、前期 5 割後期 5 割なのか、前期 4 時間後期 2 時間に対応した平均なのか。

プログラミング演習

- ・到達目標から配列が抜けているがそれでよいのか。

数値計算法及び演習 1

- ・到達目標から行列と非線形方程式が抜けているがそれでよいのか。

数値計算法及び演習 2

- ・問題なし

<物理>

物理 1

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。

物理 2

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目(発表点など)に変える。
- ・到達目標の「～理解できる」よりも応用物理 1 のような「～説明できる」「～計算できる」のような表現の方が、学生が理解し易いのではないか。

応用物理 1

- ・問題なし

応用物理 2

- ・シラバスなし

応用物理 3

- ・学習・教育目標が間違っている(生物応用化学プログラムは B-1、B-2)。

自然科学史

- ・シラバスなし

<化学>

化学 1

- ・どちらかよい方をとるという 2 通りの成績評価方法があるのは適切でないのでは。普段の勉強をしなくてもよいと学生が感じる場合もあり、問題でないか。

- ・成績評価に「四国高専共通試験の点数が・・・」を入れることが適切なのか。教務委員会で認められているのか。学習内容と試験範囲が同じであるのか。

化学 2

- ・到達目標として、「～理解する」よりも化学 1 のような「～説明できる」「～計算できる」などの表現のほうが、学生の到達度を評価するのに適切でないか。
- ・どちらかよい方をとるという 2 通りの成績評価方法があるのは適切でないのでは。普段の勉強をしなくてもよいと学生が感じる場合もあり、問題でないか。
- ・成績評価に「四国高専共通試験の点数が・・・」を入れることが適切なのか。教務委員会で認められているのか。学習内容と試験範囲が同じであるのか。

機能性材料学 1

- ・シラバスなし

(出典 生物応用化学科カリキュラム・シラバス検討委員会記録を編集)

(分析結果とその根拠理由)

英語に関しては、英語学力強化対策委員会を通じて、一般科目と専門科目の教員間の連携が徐々にできつつある。また、特定の学科において専門科目と一般科目の連携を図るための話し合いがもたれているが、多くの学科であまり行われていない。シラバスの作成の点では、専門科目と一般科目の担当教員の連携を図るシステムが機能しているが、学科共通の問題点を抽出したり、科目間の大きな流れを検討する定期的な会合はもたれていない。したがって、教員間の連携は十分に行われているとは言えない。

観点 2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

教育活動を円滑に実施するために、教務、学生生活・指導、寮務に関する基本事項を記した教員便覧を隔年で作成し、全教員に配布している(資料 2-2-③-1)。

準学士課程では学級担任がクラス運営にあたり、これを補助する目的で平成 17 年度から 3 年生以下の各クラスに副担任を配置している(資料 2-2-③-2)。また、平成 18 年度から各学年に学級担任の中から学年主任を置き、各委員会との諸連絡の学級担任側の窓口になるとともに、学級担任間の連絡や様々な問題の検討など教育活動の円滑化に当たっている(資料 2-2-③-3)。専攻科課程では専攻主任がクラスの指導を担当している(資料 2-2-③-4)。

学科(科)、教務委員会、学生委員会、寮務委員会、学生相談室は、状況に応じて学級担任を支援する体制となっている。例えば、教務委員会は、1 年生合宿研修の運営や 1、2 年生特別活動における「卒業生講話」の実施に協力するなどの支援を行っている(資料 2-2-③-5, 資料 2-2-③-6)。また、7 月に校長と各学年の担任教員との面談(3 主事同席)を実施し、現状での問題点やその解決方法などについて話し合い、クラス運営が円滑に行えるよう支援している(資料 2-2-③-7)。

クラブ活動の顧問に対しては、教員全員による顧問指導体制と複数教員の充当により支援している(資料 2-2-③-8)。顧問の支援には学生委員会が当たるとともに、平成 16 年度から、教員全員で輪番でクラブ活動安全指導者となり、放課後の活動時間帯の安全指導をおこなっている(資料 2-2-③-9)。

目 次

第一章 教務関係

I 本科

教育課程について (1~4)

1. 本校の教育目標	1
2. 教育課程の編成方針	1
3. 進級の条件	2
4. 卒業の条件	4

授業について (5~7)

5. シラバスの作成	5
6. 休講等の連絡、処置	5
7. 気象警報の発令による授業措置	5

受講について (8~9)

8. 学生の出欠席	6
9. 進級できなかった場合の単位および受講方法	6

学業成績評価について (10~15)

10. 試験	7
11. 学業成績・成績評価	8
12. 成績評価に用いた資料の保管	8
13. 成績原票、欠課原票および出席簿提出上の留意事項	8
14. キャンパスアシストによる成績入力方法	9
15. 進級できずかつ修了を認定されなかった者の単位認定について (3月31日付で進路変更する者についての適用)	10

学籍について (16から19)

16. 休学・復学	10
17. 退学・転学・再入学	10
18. 退学者の修了認定	11
19. 転科	11

学級担任の主な業務

20. 学級担任の主な業務	12
---------------------	----

その他 (21~22)

21. アドバイザーとしての業務	16
22. 専攻科への推薦	16

II 専攻科

教育課程について (1~4)

1. 教育目標	18
2. 教育課程の編成方針	18
3. 1単位当たりの授業時間	18
4. 修了の要件	19

授業について (5~7)

5. シラバスの作成	19
6. 休講等の連絡、処置	19
7. 気象警報の発令による授業措置	19

受講について (8~9)

8. 履修方法	19
9. 学生の出欠席	19

学業成績評価について (10~14)

10. 試験	20
--------------	----

11. 成績・成績評価	21
12. 成績評価に用いた資料の保管	21
13. 成績原票、欠課原票および出席簿提出上の留意事項	21
14. キャンパスアシストによる成績入力方法	21
<u>学籍について (15～16)</u>	
15. 休学・復学	22
16. 退学・再入学	22
<u>学位取得について</u>	
17. 学位取得について	22
<u>インターンシップ</u>	
18. シニア・インターンシップ	23

第二章 学生生活・指導

1. 奨学金制度	25
2. 授業料免除及び徴収猶予	25
3. 入学料の免除及び徴収猶予	26
4. 学生会	26
5. クラブ活動等	27
6. 疾病・事故の処置等	28
7. 交通・車両関係	29
8. 自転車について	29
9. アルバイト	30
10. 旅行・登山・キャンプ等	30
11. 生活指導	30
12. 学生表彰	31
13. コンテスト・プロジェクト等	32
14. 慶弔	32

第三章 寮務関係

1. 学寮の目的	34
2. 学寮の管理運営	34
3. 寮生心得	34
4. 寮生会	34
5. 当直	34
6. 入・退寮	35
7. 特別残寮	35
学寮宿日直の手引	36

(出典 平成17年度教員便覧)

資料 2 - 2 - ③ - 2

新居浜工業高等専門学校教員等組織規程

(略)

第10章 学級担任等

(設置)

第35条 本校に、学則第11条の規定に基づき、学級担任及び副担任を置く。

2 本校に、学則第11条の規定に基づき、学年主任を置く。

(資格)

第36条 学級担任は、教授、助教授又は講師をもって充てる。

副担任は、本校の専任教員をもって充てる。

学年主任は、学級担任をもって充てる。

(職務)

第 37 条 学級担任は、教務主事、学生主事、寮務主事及び主任と連絡を密にして次の事項を行なう。
 (1) 教務の円滑な実施に関する事。
 (2) 学生生活に関する事。
 (3) その他学級運営に関する事。
 副担任は、学級担任の職務を補佐する。
 学年主任は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事及び学科・科主任と連絡を密にして次の事項を行う。
 (1) 当該学年の教育活動の円滑な実施に関する事。
 (2) 学年主任等連絡会への参画及び学年学級担任・副担任連絡会の主宰。
 (任期)

第 38 条 学年主任、学級担任及び副担任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 (略)

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 2 - 2 - ③ - 3

平成 18 年度 1 年生担任連絡会議事録

平成 18 年度 1 年生担任連絡会 (13 回) 議事録
 日時 : 平成 19 年 1 月 23 日 (火) 16:10~18:30
 場所 : 第 3 会議室
 出席者 : 鹿毛, 谷口, 安藤, 横山, 矢野・栗原, 野田・西井, 大村, 松原
 記録 : 大村

1. 今後の特活について (以下略)
2. 今後の課外特活について (以下略)
3. 学年だよりの発行について (以下略)
4. 各クラスの現状について (以下略)

(出典 1 年生学年主任資料より抜粋)

資料 2 - 2 - ③ - 4

新居浜工業高等専門学校教員等組織規程

(略)

第 8 章 副専攻科長及び専攻主任
 (設置)

第 27 条 本校専攻科に、学則第 11 条の規定に基づき、副専攻科長、生産工学専攻主任、生物応用化学専攻主任及び電子工学専攻主任 (以下「副専攻科長及び専攻主任」という。) を置く。
 (資格)

第 28 条 副専攻科長及び専攻主任は、教授又は助教授をもって充てる。
 (職務)

第 29 条 副専攻科長は、専攻科長を補佐し、専攻科の教育及び管理運営に関し、各専攻主任との連絡調整に当たる。
 2 専攻主任は、専攻科長を補佐し、当該専攻の教育及び管理運営に関する業務を処理するとともに、学科等との連絡調整に当たる。
 (任期)

第 30 条 副専攻科長及び専攻主任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 (略)

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料2-2-③-5

第18-1回教務委員会議事録

日時：平成18年4月5日（水） 10:30～13:00

記録：柳井

場所：第3会議室

参加者：桑田教務主事、吉川（M）、平野（E）、出口（D）、勝浦（C）、松英（Z）、野村（G）、柳井（S）、岡山学生課長、清水教務係長

議題：

4：その他

（4）大洲研修の引率体制について

柳井教員より説明があり、検討が行われた。

・引率体制は、次の通りとする：

校長、教務主事、1年担任（5名）、1年副担任（5名）、教務主事補（1名）、学生主事補（1名）、女性教員（2名）、事務職員（1名）。

・担任、副担任が主導的に指導する方が本来なので副担任は参加する。

・将来的には教務から学生委員会へ持っていくほうがよいのでは。

第18-4教務委員会 議事録

日時：平成18年5月25日（木） 16:10～19:30

記録：勝浦

参加者：桑田教務主事、吉川（M）、平野（E）、出口（D）、勝浦（C）、松英（Z）、野村（G）、柳井（S）、岡山学生課長、清水教務係長

議題

7. 1年生合宿研修の報告

柳井教務主事補より大きな問題はなく研修旅行を終えることができたとの報告があった。

・反省会終了後、打ち合わせ会や反省会等の議事録や資料などをまとめ、柳井先生からメールで送られてくる。

・来年度実施するかどうかなどのコメントを教務委員会から学生委員会へ伝えることになった。

（出典 平成18年度教務委員会議事録）

資料2-2-③-6

第18-11回教務委員会議事録

日時：平成18年10月26日（木） 16:10～

場所：第2会議室

出席者：桑田教務主事、吉川（M）、平野（E）、出口（D）、勝浦（C）、松英（Z）、野村（G）、柳井（S）、岡山学生課長、清水教務係長

議題：

7. その他

○本校1、2年生に対する卒業生講話について：11月24日（金）14:25～15:55 実施予定

卒業生の案内・紹介は教務委員（もしくは代理）が行う

各科、依頼する卒業生の人選をお願いします。

（出典 平成18年度教務委員会議事録）

資料2-2-③-7

平成18年6月23日

学級担任・3主事 各位

校長

平成18年度学年別学級担任との懇談会の開催について

このことについて、各学年の学級担任懇談会を下記のとおり開催したいので、よろしくお願ひします。
 なお、懇談日の前々日までに各クラスの状況をA4判2枚程度にまとめ、提出してください。
 日程については、確定しだい連絡いたします。

○実施時期 7月3日から11日（3、4、5、6、10日を予定）の16時～
 （案）

第1学年	7月	3日
第2学年	7月	4日
第3学年	7月	5日
第4学年	7月	6日
第5学年	7月	10日

注) 学年、学級担任間で調整がつけば日程、時間の変更は可能ですが、前半は低学年とします。

○懇談項目 各学年の年間活動目標の実施状況
 各学年で懇談を希望する事項

なお、以下の項目について、各クラスごとに状況をまとめて懇談日の前々日までに総務企画係まで提出してください。

- ・学級経営上の現時点における課題
- ・夏期休業中の指導事項
- ・挨拶運動
- ・830登校運動・出席状況
- ・個人面談の実施状況及び課題
- ・SHRの実施状況（高学年については、実施している場合に記述する。）
- ・環境美化活動（教室、美化区域）
- ・アルバイト指導
- ・身だしなみ指導（主として低学年）
- ・進路指導及びキャリア教育の実施状況
- ・読書推進指導
- ・副担任との連携（低学年）

○懇談時間 1時間30分

○懇談場所 校長室

なお、3主事はご出席いただきたい。

懇談を希望する項目は、事前にご連絡ください。

(出典 総務課資料)

資料2-2-③-8

クラブ顧問一覧

H18. 4. 1現在

クラブ名	H17年度顧問	H18年度顧問
写真部	○刑部、下村	刑部・牧
美術部	○豊田、千葉	豊田・千葉・今井
ESS	○尾崎、タベシ	尾崎・タベシ
ブラスバンド部	○白井、出口、深山、今井、平野	白井・出口・深山・平野
茶道部	○中川、野口	中川・野口
ローターアクト部	○皆本、吉川	皆本・吉川
コンピューター部	○田中、占部	田中・平野
軽音楽部	○檀上、松原	檀上・松原
陸上競技部	○吉川、衣笠、王	吉川・衣笠
硬式野球部(高学年)	○日野、高橋	日野・高橋
硬式野球部(低学年)	○間淵、尾西、栗原、井上	間淵・尾西・栗原
サッカー部	○安藤、小山、古城	安藤・谷脇・王
バレーボール部(男)	○西井、香川、鹿毛	西井・香川・鹿毛・谷本
バレーボール部(女)	○松田、新田、堤	松田・新田・堤
バスケットボール部(男)	○今城、伊月	今城・伊月
バスケットボール部(女)	○朝日、大村	今城・大村
ソフトテニス部	○佐渡、鴻上、河村	佐渡・鴻上・河村・宮田
卓球部	○竹田、白井、鎌田	竹田・白井・鎌田
柔道部	○谷口、北住、野田	野田・北住・谷口
剣道部	○多田、柳井	多田・柳井・先山
ワンダーフォーゲル	○山田、木本	谷・松友・木本
水泳部	○塚野、横山、タベシ	塚野・横山・タベシ
バドミントン部	○矢野、西谷、平木、三井	矢野・西谷・平木・三井
空手部	○木本	木本・井上
弓道部	○松英、早瀬、堤、榊原	松英・早瀬・榊原
テニス部	○志賀、皆本、曾我部、下村	下村・志賀・皆本・曾我部
ラグビー部	○牧、牛尾、矢野	牛尾・矢野
漫画同好会	○稲見	稲見・朝日
文学研究会	○森長	森長・古城
ロボット研究会	○宮田、出口、松友	宮田・出口・松友
先端技術研究会	○刑部、松田、鎌田	刑部・松田・平木
応援団同好会	○谷	谷・千葉
科学研究会	○桑田、中山、馬淵	桑田・中山・馬淵
フットサル愛好会	○谷脇、佐藤、石井	谷脇・佐藤・石井
マルチメディア愛好会	○占部、宮田、川崎	占部・先山・川崎
天文愛好会	○勝浦	勝浦・松村
軟式野球愛好会	○池内、相根	池内・相根
DANCE愛好会	○野村、松村	野村・松村

奇術愛好会	○谷本、香川、井門	谷本・香川・井門
自転車愛好会	○柴田	柴田
トレーニング愛好会	○柴田	柴田
演劇愛好会	○野田	野田・横山
自動車愛好会	○池内	小山・池内・日野

○は主顧問

(出典 学生委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 9

クラブ活動安全管理指導者業務要領

1 クラブ（愛好会を含む。）活動時間等

区 分	該当曜日・期間等	活動時間等	備 考
授業日	下記休業日以外の月～金曜日	授業終了時刻～19時まで	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、勤務時間内に練習計画等の確認と適切な指導を行う。 17時15分以降は、クラブ安全管理指導者が安全管理指導を行う。
休業日 (1)	土・日曜日 国民の祝日に関する法律に定める休日 学校が特に定める日	原則として対外試合	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員が引率する。 変形労働時間内 特定の大会の直前の期間の練習は、年間計画を立てて実施する。
休業日 (2)	春季休業日 4月1日～4月7日 夏季休業日 7月28日～8月31日 冬季休業日 12月25日～翌年1月7日 学年末休業日 3月20日～3月31日	最長17時まで (但し、当該クラブの指導教員の変形労働時間内)	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の変形労働時間枠内

2 クラブ活動安全管理指導者は、全教員の輪番制で行う。

- (1) 指導者は、練習時間（17時15分から19時）及び練習終了時（19時）の巡回を2回実施し、必要に応じ安全管理指導を行うとともに、事故などの緊急事態に対応する。
- (2) 労働時間は、17時15分から19時30分までとする。（休憩時間15分を含む。）
- (3) 各クラブより活動終了報告を受ける。
- (4) 緊急時の対応で、19時30分を超えた場合は、時間外労働として取り扱う。
- (5) 出張・休暇・病気等急な公務又はやむを得ない理由で当番ができない場合は、当面の間交替要員は出さず、相互に連絡をとり1名による勤務とする。この場合、練習終了時の巡回のみ実施することとする。
- (6) 勤務場所（待機場所）は、第1体育館正面玄関右の部屋とする。

3 緊急連絡先

医療機関		学校関係	
十全総合病院	0897-33-1818	学生主事	内線751
吉松外科	0897-32-5787	学生課長	内線722
急患センター	0897-32-5658	学生課長補佐	内線723
		学生就学支援係長	内線726
		施設係長	内線719
		守衛室	内線710

* 緊急時、タクシーを利用する場合、タクシーチケットは守衛室にあります。

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

副担任制が機能し、担任の教育活動の支援が行われるようになった。各種委員会も活動し、さらに校長との面談も行われており、学級担任への支援体制は機能している。また、学年主任を設けたことで、担任間や各種委員会との連携がより円滑に行われるようになっている。各種委員会の役割や関わり方については、今後も継続的な検討と確認が必要と思われる。

クラブ顧問に対しては、教員全員による複数顧問指導体制とクラブ活動安全指導体制による支援がおこなわれている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

全学的なセンターとして高度技術教育研究センター、情報教育センター、ものづくり教育支援センターが設置され、それぞれが補完しあって本校の5つの教育目標を達成するために適切なものとなっている。

(改善を要する点)

一般科目と専門科目を担当する教員間の連携は十分に行われているとは言えず、改善を要する。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校の準学士課程は、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、生物応用化学科、環境材料工学科の5学科から構成され、専攻科課程はその学科に対応するように、生産工学専攻、生物応用化学専攻、電子工学専攻の3専攻から構成されている。各学科および各専攻は、それぞれ教育目標を定めており、準学士課程および専攻科課程の教育目標を達成するために適切な構成となっている。

本校には、3つのセンターがあり、高度技術教育研究センターは本校の教育目標である「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」および「創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う」を達成するために適正に設置されている。情報教育センターは、本校の5つの教育目標を達成するための教育環境を整える上で適切なものである。さらに、ものづくり教育支援センターは、本校の教育目標である「体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う」および「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために適正に設置されている。

教育課程を検討し、運営する体制としては教務委員会および専攻科教育委員会があり、教育活動等に係る重要事項がそこで審議され、運営会議にて最終決定されている。

一般科目および専門科目を担当する教員間の連携については、シラバスの作成において専門科目と一般科目の担当教員の連携を図るシステムが機能している。英語に関しては英語学力強化対策委員会を通じて、教員間の連携が徐々にできつつある。しかし、学科共通の問題点を抽出したり、科目間の大きな流れを検討する定期的な会合はもたれていない。

また、教育活動を円滑に実施するための学級担任への支援体制については、副担任制や学年主任制、各種委員会による支援および校長との面談などがある。

クラブ顧問に対しては、教員全員による複数顧問指導体制とクラブ活動安全指導体制による支援がおこなわれている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

一般科目担当教員は27名の専任教員と19名の非常勤講師で構成されており、高等専門学校設置基準を満たしている(資料3-1-①-1)。また、各学科の教育目標を達成するために、数学7名、物理・化学5名、社会3名、保健・体育3名、国語3名、外国語6名の専任教員を適切に配置している(資料3-1-①-2、資料3-1-①-3)。特に、各学科の教育目標である「工学基礎知識」の修得のために、数学4名、物理1名の非常勤講師を含め、数学、物理・化学の教員を多く配置している。

資料3-1-①-1

高等専門学校設置基準

(教員組織)

第六条 高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員(助手を除く。次項及び第三項において同じ。)を置かなければならない。

2 教員のうち、第十六条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、次の各号に掲げる数を下つてはならない。

- 一 入学定員に係る学生を一の学級に編制する場合は、十人
- 二 入学定員に係る学生を二の学級に編制する場合は、十二人
- 三 入学定員に係る学生を三の学級に編制する場合は、十四人
- 四 入学定員に係る学生を四の学級から六の学級までに編制する場合は、十四人に三学級を超えて一学級を増すごとに四人を加えた数
- 五 入学定員に係る学生を七以上の学級に編制する場合は、二十六人に六学級を超えて一学級を増すごとに三人を加えた数

(略)

5 高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

(略)

第九条 教員は、一の高等専門学校に限り、専任教員となるものとする。この場合において、専任教員は、当該高等専門学校以外における教育研究活動その他の活動の状況を考慮し、当該高等専門学校において教育研究を担当するに支障がないと認められる者でなければならない。

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3-1-①-2

一般教育担当教員一覧

数理科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	博士(学術)	川崎 宏一	応用数学	SPring-8を利用した分析・解析手法
教授	理学修士	竹田 正	物理, 応用物理	科学史
教授	工学博士	小山 一夫	数学	材料科学
教授	工学博士	矢野 潤	化学	物理化学, 分析化学, 高分子科学, 電気化学, 環境化学, 教材研究

准教授	博士（理学）	千葉 克夫	数学	環論
准教授	博士（理学）	西谷 郁夫	数学	可換環論
准教授	博士（理学）	柳井 忠	数学	数学（代数学環論）
准教授	工学修士	大村 泰	物理，応用物理	パワーエレクトロニクス
准教授	博士（理学）	古城 克也	数学，応用数学	確率論
准教授	博士（工学）	安里 光裕	物理	物性理論
講師	博士（理学）	柴田 亮	化学	無機化学
講師	修士（工学）	三井 正	数学，確率統計	非線形力学

一般教養科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授		尾崎 司郎	英語，時事英語	英語学
教授		鴻上 政明	英語，技術英語	英語，英米文学
教授	博士（文学）	野口 裕子	国語	日本近現代文学
教授		安藤 進一	体育	体育学
教授	文学修士	谷本 修治	倫理，応用倫理学，技術者倫理	倫理学
教授	文学修士	塚野 修	英語	英米文学
准教授	修士（教育学）	野村 真理子	英語，技術英語	英語教育，応用言語学
准教授		今城 英二	体育	体育学
准教授	博士（文学）	鹿毛 敏夫	歴史，歴史特論	日本中・近世史
准教授	博士（文学）	森長 新	国語，国文学	上代日本文学
准教授	博士（文学）	木本 伸	初級独語，中級独語	ドイツ文学，ドイツ思想
准教授	修士（文学）	野田 善弘	国語，初級中国語	中国哲学
講師		冨田 博範	保健，武道	体育学
講師	修士（文学）	佐渡 一邦	英語，技術英語	英語学
講師	修士（法学）	井上 嘉仁	政治・経済，法学	憲法学

一般科目非常勤講師

氏名	担当科目
加地 齊	数学
近藤 貞敏	数学
篠原 賢剛	数学，基礎情報数学
上出 拓郎	応用数学
平木 弘一	物理
長原 しのぶ	国語
白石 由和	地理
板野 哲	歴史
坂田 美奈子	英語，技術英語
森実 満	英語，技術英語
後藤 勝正	技術英語
ウルフ・クリストファー	英会話，中級英会話
欧 凌	初級中国語，中級中国語
内田 泉	日本語
近藤 邦宏	体育

近藤 伸三	体育
松木 弥生	体育
稲見 嘉代子	音楽
齊藤 栄嗣	美術

(出典 平成 19 年度本科履修要覧および新居浜高専研究者総覧等より編集)

資料 3 - 1 - ① - 3

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (一般科目 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
工学基礎知識	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学・確率統計など
	数学B-1	数学B-2	数学B-3		
	物理1	物理2	応用物理1	応用物理2など	
	化学1	化学2			
教養	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
					ヨーロッパ思想特論
					自然科学史
					応用倫理学
	武道	保健			環境と人間
	体育1	体育2	体育3	体育4	体育5
	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講
	音楽			初級独語	中級独語
	美術			初級中国語	独語会話
				中級中国語	
コミュニケーション能力	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
		英語2B	英語3		総合英語
			英会話2		実用英語
	英会話1				英会話3

※1 一般科目の教育目標は、学科の教育目標と主に次のように対応している。

工学基礎知識	機械工学科、電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、材料工学科の教育目標A 生物応用化学科の教育目標B
教養	機械工学科、電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、材料工学科の教育目標D 生物応用化学科の教育目標A、D
コミュニケーション能力	機械工学科、電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、材料工学科の教育目標E 生物応用化学科の教育目標C

※2 4年次の応用数学、応用物理は、学科によって科目名が異なるので、破線で示している。

(出典 各学科(科)作成)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準を満たす 27 名の一般科目担当専任教員を配置し、19 名の非常勤講師を含め、教育目標を達成するために適切に教員を配置している。

観点 3 - 1 - ②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専門科目担当教員は 56 名の専任教員と 15 名の非常勤講師で構成されており、高等専門学校設置

基準を満たしている（資料 3-1-②-1）。各学科ごとの教員数は、コース制を有するため開講科目数の多い電気情報工学科と生物応用化学科に各 13 名、他の 3 学科には各 10 名を配置しており、偏りはない（資料 3-1-②-2）。専門科目担当教員は、各学科の教育目標である「専門知識」の修得のために、教員の専門分野に対応した授業科目を担当できるよう適切に配置している（資料 3-1-③-3）。また、「デザイン能力」や「問題解決能力」の修得のために、民間企業で実務経験のある教員を専門科目担当教員の半数近く配置している（資料 3-1-③-4）。

資料 3-1-②-1

高等専門学校設置基準

（教員組織）

第六条 高等専門学校には、学科の種類及び学級数に応じ、各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。次項及び第三項において同じ。）を置かなければならない。

（略）

3 教員のうち、工学に関する学科において第十六条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に一の学科を置くときは八人、二以上の学科を置くときは八人に一学科を超えて一学科を増すごとに七人を加えた数を下つてはならない。この場合において、一学科の入学定員に係る学生を二以上の学級に編制するときは、これらに一学級を超えて一学級を増すごとに五人を加えるものとする。

（略）

5 高等専門学校は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

第七条 高等専門学校には、演習、実験・実習又は実技について補助させるために必要な相当数の専任の助手を置かなければならない。

第八条 専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならない。

第九条 教員は、一の高等専門学校に限り、専任教員となるものとする。この場合において、専任教員は、当該高等専門学校以外における教育研究活動その他の活動の状況を考慮し、当該高等専門学校において教育研究を担当するに支障がないと認められる者でなければならない。

（出典 高等専門学校設置基準）

資料 3-1-②-2

専門科目担当教員一覧

機械工学科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	博士（工学）	刑部 富夫	計測工学，非金属材料	金属材料，マルテンサイト変態
教授	博士（工学）	豊田 幸裕	機械制御，メカトロニクス応用	システム同定，制御，信号処理
教授	博士（工学）	鎌田 慶宣	機械製図，材料力学	設計工学（振動騒音）
教授	博士（工学）	谷口 佳文	機構学，機械力学	材料力学
教授	博士（工学）	下村 信雄	熱力学，熱機関	熱工学，数値伝熱学，デジタルエンジニアリング
准教授		石井 重典	機械工作法，工作実習	機械工作
准教授	博士（工学）	吉川 貴士	デザイン工学演習，金属材料	福祉工学

助教	博士（工学）	宮田 剛	数値計算，メカトロニクス基礎	光応用計測，生体計測，メカトロニクス，ロボティクス
助教	博士（工学）	谷脇 充浩	機械製図，デザイン工学演習	流体工学

電気情報工学科（電気工学科）教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	博士（工学）	伊月 宣之	電気電子計測，コンピュータハードウェア	医用電子生体工学
教授	工学博士	馬淵 真人	電子工学，電気電子材料	電子材料関連の理論解析
教授	工学博士	佐藤 眞一	電波工学，通信工学	電波工学
教授	博士（工学）	山田 正史	電気機器，ロボット工学	計測，制御
教授	博士（工学）	皆本 佳計	電気情報基礎，電力工学	パワーエレクトロニクス
准教授		井門 英司	回路理論，電磁気学	グラフ理論
准教授	工学博士	尾西 康次	半導体工学，電子回路	電気工学
准教授	博士（工学）	王 欣	自動制御，情報数学	電気電子制御
准教授	博士（工学）	香川 福有	電磁気学，回路理論	通信工学，マイクロ波工学
講師	博士（医学）	平野 雅嗣	画像処理，電気数学	放射工の医学利用，医用画像処理
講師	博士（情報学）	先山 卓朗	情報リテラシー，プログラミング	画像認識
助教	博士（工学）	横山 隆志	プログラミング	情報工学
助教	博士（理学）	若林 誠	電気情報実習	宇宙空間プラズマ物理学

電子制御工学科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	医学博士	榊原 久司	計算機制御，電気数学	医用生体工学、メカトロニクス
教授	工学博士	今井 伸明	電気回路，電気基礎	マイクロ波回路および通信関連
教授	博士（工学）	深山 幸穂	制御工学	計測・制御工学，信号処理
教授	博士（工学）	出口 幹雄	電子回路，電気磁気学	プラズマ工学，半導体デバイス
准教授	博士（工学）	福田 京也	電気回路，計測工学	レーザー物理，原子標準
准教授	博士（工学）	栗原 義武	数値計算，計測工学	記録工学
講師	工学修士	松村 弘志	デジタル回路，電子計算機	ITS（高度交通システム）情報通信
講師	博士（理学）	白井 みゆき	電子回路，情報工学	素粒子実験物理学，高エネルギー物理学
助教	修士（工学）	占部 弘治	情報処理，情報リテラシー	回路解析，非線形問題
助教	博士（工学）	松友 真哉	情報処理，情報リテラシー	電磁場解析，電気機器，最適化設計

生物応用化学科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	工学博士	牛尾 一利	生物化学，分子生物学	生物工学
教授	博士（工学）	桑田 茂樹	分析化学，機器分析	電気化学，化学センサ
教授	博士（理学）	中川 克彦	有機工業化学，合成化学	有機合成化学，高分子，環境化学
教授	理学博士	河村 秀男	物理化学，生物物理化学	生物物理化学，コロイド化学
教授	博士（工学）	中山 享	無機化学，無機機能化学	無機化学，セラミックス工学
教授	博士（農学）	早瀬 伸樹	微生物学，醗酵工学	応用微生物学

准教授	博士（理学）	勝浦 創		コロイド化学
准教授	博士（工学）	間淵 通昭	有機化学	有機化学，高分子化学，高分子物理
講師	博士（工学）	牧 慎也	細胞遺伝子工学，環境化学	環境微生物，植物分子生物学
講師	博士（工学）	西井 靖博	化学工学，情報リテラシー	化学工学，分離工学
助教	博士（工学）	堤 主計	有機機能化学	有機化学，高分子化学，食品化学
助教	博士（工学）	橋本 千尋	分析化学実験，応用化学実験	高分子物理化学

環境材料工学科教員

職名	学位	氏名	主な担当科目	専門分野
教授	工学博士	谷 耕治	材料加工学，金属材料学	鑄造工学
教授	工学博士	相根 博道	材料科学，固体物理学	金属物性
教授	工学博士	高橋 知司	物理化学，材料接合工学	材料組織学
准教授	工学博士	新田 敦己	無機材料学，材料表面工学	無機材料科学、非晶質材料科学
准教授	博士（理学）	松原 靖廣	高分子材料学，無機化学	工業物理化学（電気化学），高分子材料，材料化学
准教授	博士（工学）	志賀 信哉	材料力学，機械工作法実習	高性能熱電素子の開発
准教授	博士（工学）	松英 達也	機械工作法，設計製図	材料物性，材料力学，表面改質技術
講師	博士（工学）	日野 孝紀	金属材料学，基礎製図	薄膜工学，レーザ加工
助教	修士（工学）	朝日 太郎	粉体工学，複合材料	無機材料化学
助教	博士（工学）	高見 静香	有機化学，情報リテラシー	光化学，有機化学

専門科目非常勤講師

氏名	担当科目
稲見 和生	電気機器
今村 淑啓	情報処理
上出 拓郎	機械工学概論
大井 紀夫	機械設計法
河合 英清	電気工学概論
曾根 康人	電波法規
高橋 慎哉	情報処理
谷崎 正明	現代工業化学
日野 和行	計測制御工学
兵田 俊治	有機機能化学
松岡 俊夫	機械工学概論
松本 義彦	塑性加工学
真鍋 昌裕	物理化学，生物物理化学
森本 峯世	メカトロニクス，電気機器
山地 健太	電気法規

(出典 平成19年度本科履修要覧および新居浜高専研究者総覧等より編集)

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1 数学B-1 物理1 化学1 情報リテラシー	数学A-2 数学B-2 工学基礎実験 物理2 化学2	数学A-3-1 数学A-3-2 数学B-3 応用物理1 情報処理	応用数学A 数学特別演習 数値計算 確率統計 応用物理2 応用物理3	経営工学
	機械工学入門		材料力学1 機構学 メカトロニクス基礎	熱力学 水力学 材料力学2 電気工学概論1 メカトロニクス応用 計測工学 工学実験1	熱機関 化学工学概論 流体機械 材料力学3 電気工学概論2 機械制御 機械力学 工学実験2
B (専門知識)	機械製図1 工作実習1	機械製図2 工作実習2 機械工作法	CAD製図 総合実習	材料力学1 金属材料 機械設計法	塑性加工学 機械設計製図
		デザイン工学演習		工学実験1 創造設計製作	工学実験2 卒業研究
C (デザイン能力)					
D (教養・技術者倫理)	地理 倫理 情報リテラシー 武道 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健 体育2 国語2	歴史2 体育3 国語3	政治・経済 国語4 初級独語 初級中国語 インターンシップ	法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学 環境と人間 技術者倫理 体育5 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
	国語1 英語1 英会話1	国語2 英語2A 英語2B	国語3 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 創造設計製作 インターンシップ 技術英語2	国語特講 卒業研究 時事英語 総合英語 実用英語 英会話3
E (コミュニケーション能力)					
F (性・社会)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電気情報工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1 数学B-1 物理1 化学1 情報リテラ	数学A-2 数学B-2 物理2 化学2	数学A-3-1 数学A-3-2 数学B-3 応用物理1	応用数学B 数学特別演習 確率統計 応用物理2 機械工学概論A → 機械工学概論B → 機械工学概論C	経営工学
	電気情報基礎 電気情報基礎演習 情報処理基礎 電気情報実習A	電気電子計測 回路理論1 回路理論演習 電気数学A プログラミング1 電気情報実習B	電気電子材料 基礎電子回路 回路理論2 電磁気学1 電気数学B プログラミング2 デジタル回路 電気情報工学実験1	電子工学 電気電子製図 電気電子設計 電子回路 回路理論3 電磁気学2 情報理論 数値計算A コンピュータハードウェア アルゴリズムとデータ構造 画像処理 情報数学 電気情報工学実験2	電気機器A → 電気機器B 電力工学A → 電力工学B 自動制御1 → 自動制御2 半導体工学A → 半導体工学 電波工学 通信工学 通信機器 電波法規 情報通信システム 数値計算B コンピュータ応用システム 情報通信ネットワーク OSとアーキテクチャ ファイルとDB 人工知能 ソフトウェアの設計と開発 電気工学実験 情報工学実験
B (専門知識)					卒業研究
C (能力開発)					
D (教養・技術者倫理)	地理 倫理 情報リテラ 武道 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健 体育2 国語2	歴史2 体育3 国語3	政治・経済 国語4 初級独語 初級中国語 インターンシップ	法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学 環境と人間 → 技術者倫理 体育5 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
	国語1 電気情報実習A 英語1 英会話1	国語2 電気情報実習B 英語2A 英語2B	国語3 電気情報工学実験1 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 電気情報工学実験2 インターンシップ 技術英語2	電気工学実験 情報工学実験 卒業研究 時事英語 総合英語 実用英語 英会話3
E (コミュニケーション能力)					
F (性・社会)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学B
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	応用数学D	
	物理1	物理2	基礎情報数学	数学特別演習	
	化学1	化学2	応用物理1	応用物理2	
	情報リテラシー				経営工学
B (専門知識)	電気基礎1	電気基礎2	電気磁気学1	電気磁気学2	電気磁気学3
	電気基礎演習	電気回路1	電気回路2	電気回路3	電気回路4
			電子回路1	電子回路2	
		デジタル回路1	デジタル回路	電子計算機1	電子計算機2
		計測工学			
		メカトロニクス基礎	メカトロニク		
	情報処理1	情報処理2	情報処理3	電気機器	電子工学
			情報基礎実習	数値計算	半導体工学
		電気電子実験1	電気電子実験2	電子制御実験1	電子材料
	電子基礎実習			電子創作実習	電子計測
				工学基礎研究	制御工学1
	C (能力)				
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラシー				ヨーロッパ思想特論
	武道	保健			自然科学史
	体育1	体育2	体育3	体育4	応用倫理学
	国語1	国語2	国語3	国語4	環境と人間
	音楽				技術者倫理
	美術				体育5
				初級独語	国語特講
				初級中国語	中級独語
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	電子制御実験2
				電子制御実験1	卒業研究
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
	英会話1	英語2B	英語3		総合英語
			英会話2		実用英語
F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動		英会話3

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学科 平成18年度入学生)

教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A (環境・倫理・技術者)				合成化学 インターンシップ	環境と人間 → 環境化学 有機工業化学 技術者倫理 応用倫理学
	数学A-1 数学B-1 物理1 化学1 生物応用化学演習1A 生物応用化学演習1B 情報リテラシー	数学A-2 数学B-2 物理2 化学2 生物応用化学演習2A 生物応用化学演習2B コンピュータサイエンス	数学A-3-1 → 数学A-3-2 数学B-3 応用物理1 生物応用化学演習3 物理化学1	応用数学C 確率統計 数学特別演習 応用物理2 → 応用物理3 応用化学演習1 → 応用化学演習2 物理化学2 生物物理化学1 化学工学1	生物物理化学2 化学工学2 化学工学3 無機機能化学 → 材料物性化学 有機工業化学 有機機能化学 機器分析 生物化学2 → 生物化学3 分子生物学1 → 分子生物学2 生体触媒工学 → 細胞遺伝子工学 微生物工学 → 醸酵工学 食品化学 卒業研究
B (専門知識)	基礎生物学1 基礎化学実験	基礎生物学2 微生物学 分析化学実験	生物化学1 生物応用化学実験1 生物応用化学実験2	生物化学2 → 生物化学3 生物応用化学実験3 生物応用化学実験4 応用化学実験1 応用化学実験2 生物工学実験1 → 生物工学実験2 インターンシップ	卒業研究
	無機化学1 有機化学1 分析化学	無機化学2 有機化学2 分析化学	無機化学1 有機化学1 分析化学	無機化学2 有機化学2 合成化学 機器分析	無機機能化学 → 材料物性化学 有機工業化学 有機機能化学
C (自己表現)	国語1 英語1 英会話1	国語2 英語2A 英語2B	国語3 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 プレゼンテーション技法 インターンシップ 合成化学 技術英語2	国語特講 卒業研究 有機工業化学 時事英語 工業英語 総合英語 実用英語 英会話3
	地理 倫理 情報リテラシー 武道 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健 体育2 国語2	歴史2 体育3 国語3	インターンシップ プレゼンテーション技法 政治・経済 国語4 初級独語 初級中国語	卒業研究 経営工学 法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学 環境と人間 体育4 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
D (問題解決能力・自己向上力)					
	特別活動	特別活動	特別活動		
E (性・社会)					

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (材料工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1 ↑ 材料基礎演習 ↓ 数学B-1	数学A-2	数学A-3-1 → 数学A-3-2	応用数学B 数学特別演習	
	物理1 化学1 情報リテラシー	物理2 化学2 情報処理1	数学B-3 応用物理1 情報処理2	確率統計 応用物理2	経営工学
B (専門知識)	材料工学入門 基礎製図	材料科学1 材料工学演習 機械工作法 機械工作法実習	材料科学2 物理化学 無機化学 材料力学 設計製図 電気工学概論 材料工学実験1	金属材料学1 金属材料学2 材料物理化学 無機材料学 有機化学 材料表面工学 材料加工学 総合実習 材料工学実験2	複合材料 粉体工学 機械工学概論 環境材料学 高分子材料学 電子材料学 材料強度学 材料物性学 材料接合工学 計測制御工学 材料工学実験3 材料工学実験4
				材料工学実験2 総合実習 工学基礎研究	材料工学実験3 材料工学実験4 卒業研究
C (デザイン能力)					
D (教養・技術者倫理)	地理 倫理 情報リテラシー 武道 ↓ 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健	歴史2	政治・経済	法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学 環境と人間 → 技術者倫理 体育5 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
				国語4 初級独語 初級中国語 インターンシップ	
E (コミュニケーション能力)	国語1 英語1 英会話1	国語2 英語2A 英語2B	国語3 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 インターンシップ 技術英語2 工業英語	国語特講 卒業研究 時事英語 総合英語 実用英語 英会話3
F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動		

(出典 各学科(科)作成)

資料3-1-②-4

教員の異動状況
(平成19年5月現在の現員データ) 単位:人

区 分	教 授			准教授			講 師			助 教			計			
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	
採用・転入等	新規学卒者(大学院修了者,退学者を含む。)	9		9	11		11	5	1	6	5		5	30	1	31
	国立大学教員から			0	1		1	1		1			0	2	0	2
	国立高等専門学校教員から			0			0			0			0	0	0	0
	私立大学教員から	1		1			0			0			0	1	0	1
	短期大学教員から			0			0			0			0	0	0	0
	外国の大学から			0			0			0			0	0	0	0
	地方公務員から	2	1	3	5	1	6	1		1	1		1	9	2	11
	他省庁から			0			0			0			0	0	0	0
	民間から	16		16	7		7	3		3	2		2	28	0	28
	医員, 医員(研修医)から			0			0			0			0	0	0	0
	大学等非常勤講師から			0			0	1		1			0	1	0	1
	研究員から	4		4	3		3			0		2	2	7	2	9
計	32	1	33	27	1	28	11	1	12	8	2	10	78	5	83	

(出典 総務課資料より編集)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準を満たす56名の専門科目担当専任教員を配置し、15名の非常勤講師と併せて、5学科の専門科目を担当しており、教育目標を達成するために適切に教員の配置がなされている。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科では、各専攻の教育目標を達成するために、教員の専門分野と担当授業科目を対応させて適切に配置している(資料3-1-③-1, 資料3-1-③-2)。授業担当教員(非常勤講師を含む)の77%が博士、15%が修士の学位を取得しており、専攻科課程での高度な知識および技術を教授するのにも適切である。非常勤講師においては、愛媛大学の教授、本校の名誉教授、企業経験の豊富な講師を配置している。さらに、特別研究指導教員の94%が博士、3%が修士の学位を取得しており、学位を取得していない教員1名を含めて十分な研究実績をもつ教員を配置している(資料3-1-③-3)。

なお、大学評価・学位授与機構により平成14年度に生産工学専攻および電子工学専攻が設置10年目の審査、平成15年度には生物応用化学専攻が設置申請時における審査を受けている。

資料 3 - 1 - ③ - 1

専攻科授業担当教員一覧

氏名	職位	学位	担当科目	専門分野
尾崎 司郎	一般教養科 教授		科学英語表現	英語学
鴻上 政明	一般教養科 教授		英語演習書講読	英語, 英米文学
野口 裕子	一般教養科 教授	博士(文学)	化学技術表現演習	日本近現代文学
谷本 修治	一般教養科 教授	文学修士	人間と倫理	倫理学
野村 真理子	一般教養科 准教授	修士(教育学)	科学英語表現	英語教育, 応用言語学
鹿毛 敏夫	一般教養科 准教授	博士(文学)	日本文化史	日本中・近世史
木本 伸	一般教養科 准教授	博士(文学)	独語演習書講読	ドイツ文学, ドイツ思想
野田 善弘	一般教養科 准教授	修士(文学)	国文学	中国哲学
佐渡 一邦	一般教養科 講師	修士(文学)	英語演習書講読	英語学
井上 嘉仁	一般教養科 講師	修士(法学)	日本国憲法 現代社会と法	憲法学
川崎 宏一	数理科 教授	博士(学術)	工業数学及び演習 数値解析学及び演習	SPring-8を利用した分析・解析手法
矢野 潤	数理科 教授	工学博士	電子物性論 機能性材料学 1	物理化学, 分析化学, 高分子化学, 電気化学, 環境化学
古城 克也	数理科 准教授	博士(理学)	工業数学及び演習	確率論
三井 正	数理科 講師	修士(工学)	数値計算法及び演習 1 数値計算法及び演習 2 プログラミング演習	非線形力学
刑部 富夫	機械工学科 教授	博士(工学)	精密加工学	金属材料
豊田 幸裕	機械工学科 教授	工学博士	シミュレーション工学 計測制御実習	システム同定, 制御, 信号処理
鎌田 慶宣	機械工学科 教授	博士(工学)	振動工学	設計工学 (振動騒音)
谷口 佳文	機械工学科 教授	博士(工学)	材料強度評価法 計測制御実習	材料力学
下村 信雄	機械工学科 教授	博士(工学)	伝熱工学特論 熱工学	熱工学, 数値伝熱学
石井 重典	機械工学科 准教授		機械システム設計	機械工作
吉川 貴士	機械工学科 准教授	博士(工学)	デザインテクノロジー 生産技術表現演習	福祉工学
松田 雄二	機械工学科 准教授	博士(工学)	流体力学特論	流体工学
宮田 剛	機械工学科 助教	博士(工学)	計測制御実習	光応用計測, 生体計測, メカトロニクス, ロボ ティクス
伊月 宣之	電気情報工学科 教授	博士(工学)	生体情報工学 システムデザイン工学演習	医用電子生体工学
馬淵 真人	電気情報工学科 教授	工学博士	電磁気学 量子力学 人工知能	電子材料関連の理論解 析
佐藤 眞一	電気情報工学科 教授	工学博士	マイクロ波工学 電子工学ゼミナール	電波工学
山田 正史	電気情報工学科 教授	博士(工学)	計算機制御特論	計測, 制御
皆本 佳計	電気情報工学科 教授	博士(工学)	パワーエレクトロニクス 制御工学 問題解決グループ演習	パワーエレクトロニク ス

井門 英司	電気情報工学科 准教授		グラフ理論 電子工学ゼミナール	グラフ理論
尾西 康次	電気情報工学科 准教授	工学博士	システムデザイン工学演習	電気工学
王 欣	電気情報工学科 准教授	工学博士	計測工学特論 電子工学ゼミナール	電気電子制御, マシン 視覚
香川 福有	電気情報工学科 助教	博士(工学)	電磁気学特論	通信工学, マイクロ波 工学
横山 隆志	電気情報工学科 助教	博士(工学)	システムデザイン工学演習 問題解決グループ演習	情報工学
榎原 久司	電子制御工学科 教授	医学博士	マイクロエレクトロニクス デジタル信号処理 信号処理 システムデザイン工学演習 電子工学ゼミナール	医用生体工学, メカト ロニクス
今井 伸明	電子制御工学科 教授	工学博士	電気回路特論	マイクロ波回路および 通信関連
深山 幸穂	電子制御工学科 教授	博士(工学)	コンピュータ・アナリシス システム工学 線形システム理論 電子工学ゼミナール	計測・制御工学, 信号 処理
福田 京也	電子制御工学科 准教授	博士(工学)	システムデザイン工学演習	レーザー物理, 原子標 準
栗原 義武	電子制御工学科 准教授	博士(工学)	通信工学特論 電子技術英語演習 電子工学ゼミナール	記録工学
松村 弘志	電子制御工学科 講師	工学修士	システムデザイン工学演習	情報通信
牛尾 一利	生物応用化学科 教授	博士(工学)	生物化学特論 生物化学概論 細胞工学特論	生物工学
桑田 茂樹	生物応用化学科 教授	博士(工学)	電気化学 センサー工学	電気化学, 化学センサ ー工学
中川 克彦	生物応用化学科 教授	博士(理学)	有機合成化学 理論有機化学 環境化学特論 先端機器測定実習	有機合成化学, 高分子, 環境化学
河村 秀男	生物応用化学科 教授	理学博士	化学数学1 化学数学2 物理化学特論 量子化学	生物物理化学, コロイ ド化学
中山 享	生物応用化学科 教授	博士(工学)	無機化学特論, 先端機器測 定実習	無機化学, セラミック ス工学
早瀬 伸樹	生物応用化学科 教授	博士(農学)	微生物工学概論 環境化学特論	応用微生物学
衣笠 巧	生物応用化学科 准教授	博士(工学)	化学工学特論 化学工学概論 反応工学	化学工学, 生物分離工 学
間淵 通昭	生物応用化学科 准教授	博士(工学)	高分子化学概論 化学技術表現演習	有機化学, 高分子化学, 高分子物理
谷 耕治	材料工学科 教授	工学博士	無機材料特論	鑄造工学
相根 博道	材料工学科 教授	工学博士	機能性材料学 機能性材料学2	金属物性
高橋 知司	材料工学科 教授	工学博士	材料強度物性	材料組織学

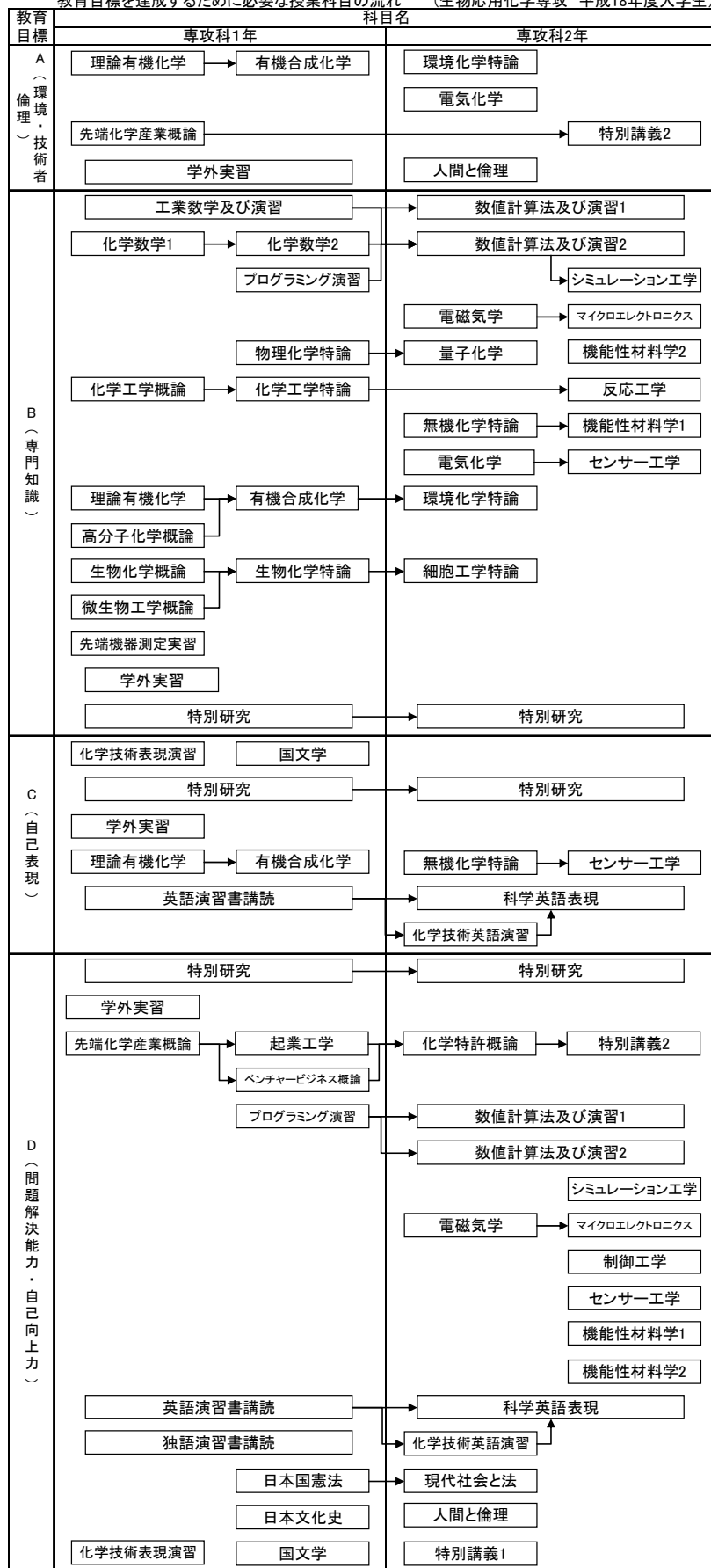
			材料組織学 生産工学ゼミナール1	
新田 敦己	材料工学科 准教授	工学博士	生産工学ゼミナール2 生産技術表現演習	無機材料科学, 非晶質 材料科学
松原 靖廣	材料工学科 准教授	博士(理学)	材料熱力学	工業物理化学, 高分子 材料
志賀 信哉	材料工学科 准教授	博士(工学)	機能性材料学 機能性材料学2 計測制御実習	粉末冶金, 熱電材料
松英 達也	材料工学科 准教授	博士(工学)	先端複合材料 計測制御実習	材料物性, 材料力学
真鍋 昌裕	非常勤講師(本校名誉教 授)	理学博士	生産技術英語演習 化学技術英語演習	
兵田 俊治	非常勤講師(企業技術者)	工学博士	環境化学概論 化学特許概論	
田中 寿郎	非常勤講師(大学教授)	工学博士	電子材料特論	
水口 和壽	非常勤講師(大学教授)	経営学修士	ベンチャービジネス概論 起業工学	
河合 洋一	非常勤講師(企業技術者)	理学修士	特別講義2	
田中 則章	非常勤講師(企業技術者)		特別講義2	

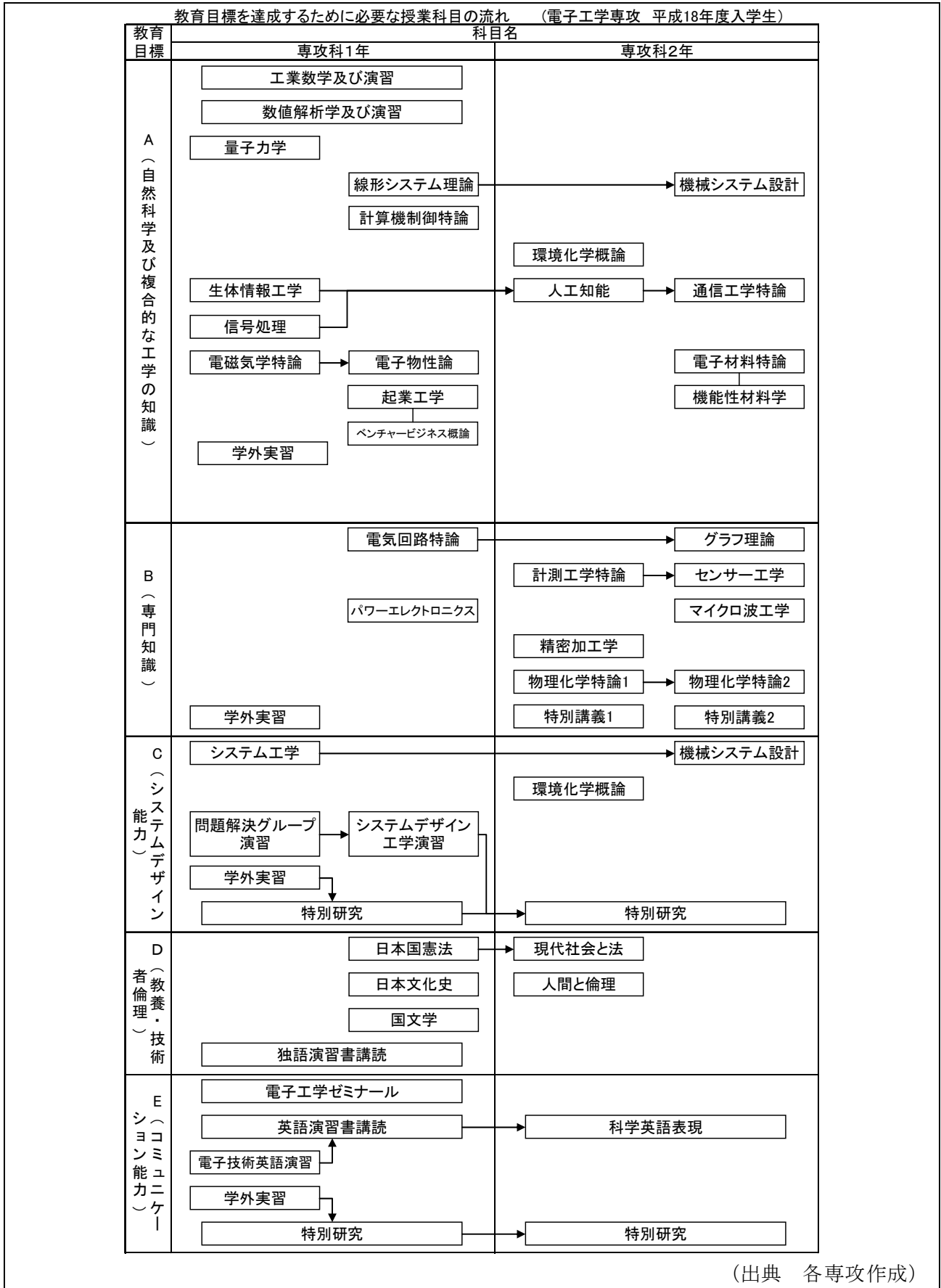
(出典 平成19年度専攻科履修要覧および新居浜高専研究者総覧等より編集)

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生産工学専攻 平成18年度入学生)

教育目標	科目名	
	専攻科1年	専攻科2年
A (自然科学および複合的な工学の知識)	工業数学及び演習 ↓ プログラミング演習 量子力学 材料強度物性 熱工学 流体力学特論 起業工学 ベンチャービジネス概論	数値計算法及び演習1 数値計算法及び演習2 電磁気学 制御工学 センサー工学 マイクロエレクトロニクス デジタル信号処理 機能性材料学1 機能性材料学2 特別講義1 → 特別講義2
B (専門知識)	伝熱工学特論 → 熱工学 流体力学特論 振動工学 材料強度評価法 精密加工学 無機材料特論 → 材料熱力学 材料組織学 先端複合材料 学外実習	制御工学 デザインテクノ 生産工学ゼミナール2
C (デザイン能力)	特別研究 ↑ 生産工学ゼミナール1 計測制御実習	デザインテクノ → 特別研究 ↑ 生産工学ゼミナール2 シミュレーション工学 コンピュータ・アナリシス
D (教養・技術者倫理)	日本国憲法 日本文化史 国文学 独語演習書講読 学外実習	現代社会と法 人間と倫理
E (コミュニケーション能力)	生産技術表現演習 生産工学ゼミナール1 ↓ 特別研究 ↑ 学外実習 英語演習書講読 生産技術英語演習	デザインテクノ 生産工学ゼミナール2 ↓ 特別研究 科学英語表現

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学専攻 平成18年度入学生)





特別研究指導教員の学位取得状況及び研究テーマ

氏名	所属専攻名	学位取得状況	研究テーマ
刑部 富夫	生産工学専攻	博士(工学)	金属の形状記憶に関する研究 形状記憶合金薄膜を用いたマイクロアクチュエータの研究
豊田 幸裕	生産工学専攻	工学博士	FT-NIRを用いたオンラインプロセスモニタリング及びモデル予測制御に関する研究
下村 信雄	生産工学専攻	博士(工学)	熱物質移動(着霜・除霜)に関する研究 熱的設計に関する研究・開発 熱流体シミュレーションの開発と活用
松田 雄二	生産工学専攻	博士(工学)	流体エネルギーに関する研究 風洞, 回流水槽を用いた流体実験 強風, 気象に関する研究
谷 耕治	生産工学専攻	工学博士	高強度・高靱性アルミニウム青銅鋳物の開発
相根 博道	生産工学専攻	工学博士	合金における規則化と相分離
高橋 知司	生産工学専攻	工学博士	チタン基およびアルミニウム基合金における多元系拡散
新田 敦己	生産工学専攻	工学博士	酸化鉛を含まない新しい機能性低融点ガラスの開発
志賀 信哉	生産工学専攻	博士(工学)	高性能熱電素子の開発 強加工による金属材料のナノ結晶化に関する基礎研究
松英 達也	生産工学専攻	博士(工学)	X線回折による薄膜およびバルク材料の内部応力評価 古代製鉄法”たたら”に関する研究
牛尾 一利	生物応用化学専攻	工学博士	新規抗ガン剤および抗ガン剤をガン細胞に特異的に運搬する化合物の研究 微生物・酵素の有効利用
桑田 茂樹	生物応用化学専攻	博士(工学)	固体電極による溶液中のイオンのモニタに関する研究 固体電解質ガスセンサに関する研究
中川 克彦	生物応用化学専攻	博士(理学)	環境モニター用光学式インテリジェント・マルチセンサ素子の開発環境にやさしい生分解性高分子の実用化 機能性色素の合成及びそれらの電子材料、医薬品、環境保全などへの応用 機能性食品の生理活性物質に関する研究
中山 享	生物応用化学専攻	博士(工学)	新規機能性セラミックスの開発とその製造技術
早瀬 伸樹	生物応用化学専攻	博士(農学)	染料等の環境汚染物質の微生物脱色 有機性廃棄物の再資源化技術 無公害な海洋生物付着防止技術の開発 微生物により分解されるプラスチックの開発
牧 伸也	生物応用化学専攻	博士(工学)	微生物を用いた高度排水処理装置の開発に関する研究 農産物の品質向上, 保存方法に関する研究
西井 靖博	生物応用化学専攻	博士(工学)	逆ミセルを用いたタンパク質の抽出及び分離装置の開発 抽出分離装置内での液滴の分散・合一挙動の研究
佐藤 眞一	電子工学専攻	工学博士	ITS(高度道路交通システム)における電波応用技術に関する研究
山田 正史	電子工学専攻	博士(工学)	付加音源を用いた空間音場の能動制御に関する研究
皆本 佳計	電子工学専攻	博士(工学)	電流形電力変換器に関する研究 電気自動車に関する研究
井門 英司	電子工学専攻		連続的な枝付加による木の個数を最大とするグラフ構成法
尾西 康次	電子工学専攻	工学博士	電動アシスト自転車の回生制動に関する研究
王 欣	電子工学専攻	工学博士	Computer Vision: Active Contours;

			実用化ロボット
香川 福有	電子工学専攻	博士(工学)	アクティブ円偏波パッチアンテナを用いたフェーズドアレー動作の研究 鎖状結合発振器系のフェーズド・アレー動作について
平野 雅嗣	電子工学専攻	博士(医学)	放射光の医学利用、医用画像処理
先山 卓朗	電子工学専攻	博士(情報学)	アクティブカメラを利用した人物追跡
榊原 久司	電子工学専攻	医学博士	筋電制御前腕義手の開発研究
今井 伸明	電子工学専攻	工学博士	マイクロ波スイッチ 発振回路
深山 幸穂	電子工学専攻	博士(工学)	音波を用いた流速、ガス性状、温度分布の計測 ウェーブレット変換を用いた音楽信号の情報処理 火力発電プラントの最適制御
出口 幹雄	電子工学専攻	博士(工学)	反応性プラズマの計測技術 プラズマの環境応用 水/セラミック電極の応用技術
栗原 義武	電子工学専攻	博士(工学)	高密度ストレージ技術の信号処理に関する研究
白井 みゆき	電子工学専攻	博士(理学)	オブジェクト指向技術を用いたデータ収集システムの開発
占部 弘治	電子工学専攻	修士(工学)	セルラニューラルネットワークの解析および設計手法の開発
松友 真哉	電子工学専攻	博士(工学)	電磁場解析を利用した電気製品の設計支援技術に関する研究

(出典 新居浜高専研究者総覧より編集)

(分析結果とその根拠理由)

授業担当教員の 77%が博士，15%が修士の学位を取得しているなど，専攻科課程の教育目標を達成し，高度な知識および技術を教授するのに適切な教員の配置がなされている。

観点 3-1-④： 学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況)

教員の年代構成については，特定の年代に偏ることなく，幅広い世代がバランス良く配置されるよう措置している（資料 3-1-④-1，資料 3-1-④-2）。女性教員は 5 名であり，教員全体の 6%程度である。また，高専以外の教育経歴や実務経験を有する教員が全教員の半数以上を占めていることから，別の教育機関や企業における取り組みを共有できるなど，本校の教育活動を活発化させている（資料 3-1-④-3）。

教員の学位取得については，各学科（科）において公務の面で配慮するなどの支援を行っている。その結果，教員の約 80%が学位を取得しており，毎年数名の教員が新たに学位を取得している（資料 3-1-④-4）。また，学位取得後は取得記念講演会を開催するなど教育研究活動の活性化に役立っている（資料 3-1-④-5）。

優秀教員については，高専機構が行っている教員顕彰制度を活用し，最優秀教員 1 名，優秀教員 3~4 名を選考し，最優秀教員，優秀教員に研究費の優遇措置を行っている（資料 3-1-④-6）。また，学級経営の成果や学生アンケートなどを基に，年度ごとに最優秀学級担任も選考し，研究費

の優遇措置を行っている（資料3-1-④-7）。

資料3-1-④-1

年齢別在職状況 （平成19年5月1日現在）

	教授	准教授	講師	助教	計
20代	0	0	0	1	1
30代	0	4	7	9	20
40代	5	18	4	0	27
50代	19	4	1	0	24
60代	9	2	0	0	11
計	33	28	12	10	83

（出典 総務課資料より編集）

資料3-1-④-2

新高専総第78号
平成18年6月2日

関係機関の長

殿

関係各位

新居浜工業高等専門学校長
水野 豊
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

謹啓 時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本校では、下記の要領で教員を公募することになりました。

つきましては、貴職関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

記

1. 募集人員 准教授又は講師 1名
（注）准教授とは、学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、「専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授する」ものをいう。
2. 所 属 新居浜工業高等専門学校 数理科
3. 専門分野 物理
4. 担当予定科目 物理1、物理2、応用物理1、応用物理2、その他専攻科の教育も担当していただきます。
5. 応募資格 以下の条件をすべて満たす方
（1）採用時の年齢40歳以下の方
（2）博士の学位を有する方

	(3) 高等専門学校の教育、研究、学生指導、寮生指導に強い熱意があり、指導力を持って対処できる方 (4) 共同研究、公開講座、生涯学習など地域貢献に意欲のある方
6. 採用予定日	平成 19 年 4 月 1 日
7. 提出書類	(1) 履歴書（市販用紙に本人自筆、写真貼付） (2) 研究業績一覧（著書、論文、口頭発表等） (3) 主たる著書・論文の別刷り 5 件（コピー可） (4) 教育経験（大学・高専・社内教育）の具体的な内容（該当者のみ 1,000 字程度） (5) 高専の教育・学生指導に関する抱負（1,000 字程度） (6) これまでの主な研究歴及び今後の研究に関する抱負（1,000 字程度） (7) 推薦書、自薦の場合は照会可能者 2 名の氏名と連絡先
8. 応募期限	平成 18 年 7 月 28 日（金） 必着
9. 選考方法	書類審査により第 1 次審査を行い、第 2 次審査は面接を実施
10. 応募書類提出先	〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町 7-1 新居浜工業高等専門学校 総務課人事係 郵送は、「簡易書留」とし、封筒に「数理科教員応募書類」と朱書きすること。 応募書類は原則としてお返ししません。 (応募については秘密厳守いたします。)
11. 問い合わせ先	新居浜工業高等専門学校 数理科 主任 竹田 正 TEL [0897] 37-7813 E-mail takeda@sci.niihama-nct.ac.jp
12. その他	本件については次のホームページでもご覧になれます。 http://www.niihama-nct.ac.jp 第 2 次審査(面接)に要する旅費等の経費は応募者本人の負担となります。

(出典 総務課人事係資料)

資料 3-1-④-3

教員の異動状況
(平成 19 年 5 月現在の現員データ) 単位:人

区 分	教授			准教授			講師			助教			計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
新規学卒者(大学院修了者, 退学者を含む。)	9		9	11		11	5	1	6	5		5	30	1	31
国立大学教員から			0	1		1	1		1			0	2	0	2
国立高等専門学校教員から			0			0			0			0	0	0	0
私立大学教員から	1		1			0			0			0	1	0	1
短期大学教員から			0			0			0			0	0	0	0
外国の大学から			0			0			0			0	0	0	0
地方公務員から	2	1	3	5	1	6	1		1	1		1	9	2	11
他省庁から			0			0			0			0	0	0	0
民間から	16		16	7		7	3		3	2		2	28	0	28
医員, 医員(研修医)から			0			0			0			0	0	0	0
大学等非常勤講師から			0			0	1		1			0	1	0	1
研究者から	4		4	3		3			0		2	2	7	2	9
計	32	1	33	27	1	28	11	1	12	8	2	10	78	5	83

(出典 総務課資料より編集)

資料3-1-④-4

学位取得状況

	平成19年5月1日現在	
機械工学科	9 /10	90%
電気情報工学科	13 /13	100%
電子制御工学科	8 /10	80%
生物応用化学科	13 /13	100%
材料工学科	10 /10	100%
数理科	9 /12	75%
一般教養科	4 /15	27%
計	66 /83	80%

(出典 総務課資料より編集)

資料3-1-④-5

平成19年3月2日

教職員各位

校長

平成18年度学位取得記念講演会及び在外研究成果講演会の開催について(通知)

標記の件について、下記のとおり講演会を開催いたしますので、多数ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

目的 本校の教員が博士の学位を取得したことを記念して学術講演会を開催するとともに、在外研究員としての研究成果に関する講演会を開催する。

日時 平成19年3月16日(金) 13時30分から15時10分

場所 第一会議室

次第 13:30 校長挨拶
 13:35 学位取得記念学術講演会
 1) 材料工学科 助手 朝日太郎
 講演題目「酸化物ガラス中の硫黄の存在状態と着色に関する研究」
 14:05 2) 機械工学科 助手 宮田剛
 講演題目「アバランシェフォトダイオードを利用した高精度光検出法の開発とパルスオキシメータへの応用に関する研究」
 14:35 休憩
 14:40 在外研究成果講演会
 一般教養科 助教授 木本伸
 講演題目「在外研究報告」
 15:10 終了

(出典 本校内Eメールより編集)

平成18年11月14日運営会議資料No. 2

H18.10.26 選考委員会決定

平成18年度教員顕彰の決定について

○最優秀教員（高専機構に推薦する者）		
衣笠 巧 助教授	教育指導、学生生活指導に熱心で、教員、学生の信頼も厚い 教育改善、点検評価活動への貢献 専攻科教育向上への貢献	
○優秀教員		
野田 善弘 助教授	教育指導、学生生活指導に熱心で、教員、学生の信頼も厚い 地域文化の振興について地域に貢献	
柳井 忠 助教授	教育指導、学生生活指導に熱心で、教員、学生の信頼も厚い 教育計画の円滑な実施に貢献	
西井 靖博 講師	教育指導、学生生活指導に熱心で、教員、学生の信頼も厚い 理科教育について地域に貢献	

○顕彰

- ・最優秀教員については、高専機構等の賞又は校長表彰
研究費30万円の特別配分
- ・優秀教員については、研究費10万円の特別配分

人 101	人 002	人 8
人 101	人 102	人 1
人 101	人 001	人 2
人 101	人 002	人 3

教員顕彰候補者選考に伴う教員の教育業績等評価の実施について

① 候補者選考委員会の設置

メンバー 校長，教務主事，学生主事，寮務主事

② 日程について

10. 4 (水) 教員顕彰候補者選考についての周知 (メール)

10. 6 (金) アンケート実施準備
教員顕彰実施要項等 (文書) 配付
評価集計表 (計算式入) メール

10. 10 (火) ① 教員の教育業績等評価実施 (自己評価)

② 教員による相互評価実施

10. 16 (月) ③ 学生による教員評価実施 (3年～5年生)

10. 26 (木) 教員，学生によるアンケートの集計
集計結果表の作成

11. 2 (木) まで 候補者選考 (選考委員会)

11. 14 (火) 候補者決定報告 (運営会議)

関係書類作成

11. 17 (金) 候補者関係書類提出締め切り

③ 実施方法

1. 自己評価及び教員相互評価

評価集計表はメール配付，回収は文書により総務課人事係へ提出

2. 学生による教員の評価 (3年生～5年生)

実施について・評価用紙は，学級担任に事前に送付する。

回収について・回収袋を用意，学生が順次，回収袋に評価用紙を入れ，
回収後は，学生の目の前で，セロテープ等により密封し，
直ちに人事係へ提出する。

3. 実施期間： 10月10日 (火)～10月16日 (月) 期限厳守

(出典 平成18年度運営会議資料)

平成18年5月9日運営会議資料No. 6

H18.5.9

平成17年度最優秀学級担任の選考結果について

【最優秀学級担任】

3年D組学級担任 白井 みゆき

【選考理由及び根拠】

- 学級担任アンケート 評価結果が全校で最も高い。
 全ての項目で優れた評価を得ているが、とりわけ、ホームルームなどにおける創意工夫に富んだ熱心な取組姿勢や学生の意見をとり入れたクラス運営、学生の悩みや相談に対するきめ細かい対応、社会的な話題などを楽しく提供するなどの親しみやすさの評価が極めて高く、学生一人ひとりを大切にしたい指導の結果、学生との信頼関係に基づいた学級運営を実現している。
- 学級経営における取組
 - ・自主・自律・自尊のスローガンに基づく指導
 - ・毎週月曜日の学級通信の発行とそれに基づく指導
 - ・授業への集中を促すなど学習しやすい授業の雰囲気構築に努力
 - ・キャリアデザイン教育の視点に立った学習指導、進路指導の実施
 - ・年2回（前後期）に学生個別相談の実施
 - ・副担任との連携による学習面の状況の把握
- 遅刻者の数 3年で年間を通して最も少ないクラス
 （同一学年の他のクラスに比べ、2分の1から5分の1）
- 欠課時間数 全校中最も少ないクラス
 （全校クラス平均値の15%）
- 留年数・退学者数 退学者2名
 留年者1名

【選考経緯】

平成18年4月26日選考会議（校長、3主事）で選出

【顕彰】

平成18年度個人研究費の特別配分（10万円）の実施

（出典 運営会議資料）

(分析結果とその根拠理由)

教員の年齢構成は年代に偏りがなく、高専以外の職歴を有する教員も半数以上おり、バランスがとれている。したがって、多様な年代から構成され、かつ様々な経験を持つ教員により個性豊かな教育研究活動が行われている。

学位については、教員の約80%が取得しており、高度な教育・研究を行う人材が確保されている。

優秀教員表彰と最優秀担任表彰の2種類の顕彰制度があり、いずれも予算の優遇措置を設けて、教員の意識の高揚を図っている。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の採用や昇格等は「人事選考の基準に関する内規」および「人事選考の手続きに関する内規」によって明確に定められている(訪問調査資料 人事選考の基準に関する内規, 人事選考の手続きに関する内規)。人事選考は、人事選考委員会での書類審査および面接審査による選考を経て、人事委員会で審議して、決定している(資料3-2-①-1, 資料3-2-①-2)。面接審査においては、人柄、教育研究に対する熱意、高専に対する理解度、着任後の具体的な取組など書類で確認できなかった事項を確認するとともに、模擬授業などの実技観察等により、高専教員としての資質・能力を評価している。

資料3-2-①-1

新居浜工業高等専門学校人事委員会規程

平成11年9月8日規程第11号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校に人事委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員人事の基本方針及び方策に関すること。
- (2) 採用、昇任等教員人事の具体的事項に関すること。
- (3) 技術室技術職員の人事に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
 - (2) 事務部長
 - (3) 教務主事
 - (4) 学生主事
 - (5) 寮務主事
- 2 前項の委員は、校長が委嘱する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の教職員の出席)

第5条 委員長は、必要により委員以外の教職員を委員会に出席させることができる。

(審査部会)

第6条 委員会に、第2条第2号に規定する事項を審議するため、審査部会(以下「部会」という。)を

置く。

第7条 部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 第3条第1項各号に掲げる委員
 - (2) 専攻科長
 - (3) 各学科、数理科及び一般教養科の主任
- 2 前項の委員は、校長が委嘱する。
- 3 委員長は、必要により委員以外の教職員を部会に出席させることができる。

第8条 委員長は、部会を招集し、その議長となる。

(選考委員会)

第9条 委員会に人事選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。

- 2 選考委員会の委員は、その都度校長が委嘱する。
- 3 選考委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(義務)

第10条 委員は、委員会における審議事項を漏らしてはならない。

(事務)

第11条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(その他)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成11年9月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年5月10日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年8月29日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年6月15日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料3-2-①-2

新居浜工業高等専門学校人事選考委員会に関する要項

平成11年9月8日要項第4号

新居浜工業高等専門学校人事委員会規程第6条第3項に基づき、人事選考委員会(以下「選考委員会」という。)に関し、次のとおり定める。

第1 選考委員会は、人事委員会委員長の諮問に応じて、教員人事の選考を行うものとする。

第2 選考委員会は、次の各号の委員3人をもって組織する。ただし、校長が特に認めた場合は、第1号の委員1人と第2号の委員2人の3人をもって組織することができる。

- (1) 候補者が所属する予定の学科等の教授 1人
- (2) 当該選考分野に精通する教授 1人
- (3) 当該選考分野に精通する学外の専門家 1人

第3 選考委員会の委員の任期は、人事委員会の当該選考が終了するまでの期間とする。

第4 選考委員会に委員長を置き、委員のうちから互選する。

第5 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。

第6 選考委員会は、候補者を複数選考し、順位を付すものとする。

第7 委員長は、当該選考の結果及び選考経過を、文書により人事委員会委員長に報告しなければならない。

第8 選考委員会は、非公開とする。

附 則

この要項は、平成 11 年 9 月 8 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 13 年 8 月 29 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

採用や昇格等の基準および手続きに関する内規が明確かつ適切に定められており、採用や昇格等は人事選考委員会の選考を経て、人事委員会で最終決定している。このように、教員の採用や昇格等に関する規程は明確であり、運用は適切である。

観点 3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

各教員は年度当初に「業務努力目標」を作成し、年度末にはその達成度を自己評価している(資料 3-2-②-1)。また、「教育業績自己申告書」も年度末に作成し、1年間の教育活動の自己点検を行っている(資料 3-2-②-2)。これらの結果については、学科(科)主任や各委員会委員長などによる各教員の業務評価の参考資料として活用されている。また、校長と各教員との面談の際にも活用されている。

授業に関しては、教務委員会と専攻科教育委員会が「学生の授業アンケート」を実施している(資料 3-2-②-3, 資料 3-2-②-4)。教員は各自で授業アンケートの結果を分析し、問題点や改善策を報告している。各学科(科)においても、FD活動に役立てるため、観点別に授業アンケート結果を集計し、分析を行っている。学級担任は、「学級経営計画書」を年度当初に作成し、年度末にこれを自己評価し、報告している(資料 3-2-②-5)。この報告書は、次年度の学級担任の学級経営計画に役立っている。また、学級担任の業務については、担当クラスの学生を対象に、教務委員会が「学級担任アンケート」を実施し、その結果は学級担任にフィードバックされ、評価の低い教員に対しては指導が行われている(資料 3-2-②-6, 資料 3-2-②-7)。

資料3-2-②-1

様式2 業務努力目標及び自己評価記入表 (平成 年度)

所属・職名 _____
氏 名 _____

	重点業務努力目標	具体的な活動	評価
教育活動 (FDを含む。)	(1)学習指導		
	(2)課外活動指導		
	(3)学生生活指導		
	(4)FD活動		
研究活動	(1)教育へのフィードバック		
	(2)地域ニーズへの対応		
学校運営 参画			
社会 貢献	(1)産学連携活動		
	(2)生涯学習・教育支援活動		

- 備考 1 業務努力目標は、事項ごとに整理し、簡潔に記入すること。
- 2 具体的な活動の欄には、年度当初にあっては活動プランを、年度末の報告にあっては活動実績のうち特記すべき内容を記載すること。
- 3 評価欄には、当該年度末において業務努力目標事項ごとに、次の3段階で評価すること。
- A・・・達成できた。
 - B・・・ほぼ達成できた。
 - C・・・達成できなかった。

(出典 総務課人事係資料)

教育業績自己申告書

平成 年度

所属・職名

業績評価項目	自己申告事項	備考
<p>1 教育活動（FDを含む。）</p> <p>① 受け持ち科目及び授業時間数（講義・演習，実験実習，卒業研究・特別研究別）</p> <p>② 特別な学習支援（補習，受験指導等）</p> <p>② 学生への研究指導（卒業研究及び特別研究の担当学生数並びにその学生の学会発表などの顕著な成果等）</p> <p>④ 学級担任</p> <p>⑤ アドバイザー</p> <p>⑥ 学生相談</p> <p>⑦ 留学生指導</p> <p>⑧ 課外活動指導(クラブ名，チャレンジプロジェクト名，校外引率回数，顕著な活動実績など)</p> <p>⑨ 学生会活動指導</p> <p>⑩ 寮生会活動指導</p> <p>⑪ 各種コンテスト参加指導(コンテスト名，成績など)</p> <p>⑫ 教科書作成・教材開発</p> <p>⑬ 教育への新たな取組み(教育機器の活用等)</p> <p>⑭ 若手教員・技術職員への教育指導</p> <p>⑮ 公開授業・研究授業の実施，授業評価活動への参加</p> <p>⑯※教育改善・教育実践に関する論文(査読の有無・第一著者，共著者，翻訳の別)</p> <p>⑰ 教育改善に関する研究集会・研修会での発表，参加</p> <p>⑱ 教育活動，教育改善論文に関する受賞</p> <p>⑲ 学校内FD活動の担当</p> <p>⑳ その他業績とすべき事項</p> <p>()</p> <p>(※の項目は，「年間業績報告」に掲載された業績)</p>		

平成18年度

所属・職名

業績評価項目	自己申告事項	備考
<p>2 研究活動</p> <p>① 学位取得</p> <p>② 職務内容に関する資格取得・能力証明(技術士, TOEIC など)</p> <p>③ 科学研究費補助金・競争的研究資金の申請状況(代表者, 分担者別)</p> <p>④ 科学研究費補助金・競争的研究資金の採択状況, 金額(代表者, 分担者別)</p> <p>⑤※研究論文数(査読あり)(第一著者, 共著者別)</p> <p>⑥※著書数(単著, 第一著者, 共著者, 翻訳別)</p> <p>⑦※研究論文数(査読なし)(第一著書, 共著書別)</p> <p>⑧※報告書等数(科研費等の研究成果)</p> <p>⑨※研究発表数(国外・国内別)</p> <p>⑩※特許(出願・登録)</p> <p>⑪ 共同研究, 受託研究, 奨学寄付金・委任経理金(件数, 金額)</p> <p>⑫ 学会の委員等</p> <p>⑬ 学会等における受賞</p> <p>⑭ 在外研究活動</p> <p>⑮ 国内留学</p> <p>⑯ センターテーマ等プロジェクト研究への参加</p> <p>⑰ 学外研究チームへの参画</p> <p>⑱ その他業績とすべき事項 ()</p> <p>(※の項目は, 「年間業績報告」に掲載された業績)</p> <p>3 学校運営参画</p> <p>① 主事, 専攻科長, 校長補佐</p> <p>② 主事補</p> <p>③ 学科・科・専攻科の主任・副主任</p> <p>④ 学内共同利用施設等の長・副センター長</p> <p>⑤ 各種委員会(委員長・副委員長・委員)</p> <p>⑥ 推進室(室長・室員)</p> <p>⑦ 専門部会・WG等(チーフ・メンバー)</p>		

- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
5. 安全や事故に対する配慮がなされていると思いますか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
6. 教員の指導は適切ですか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
7. 授業中の運動量は適切ですか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
8. 授業で取り扱った種目や個々の技能のレベルは適切ですか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
9. 授業の内容に興味を感じられますか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
10. 授業の内容、ルールなどが身についたと思いますか。
- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> そう思わない |
|-------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
11. あなたの授業に対する姿勢はどうですか。
- | | | |
|------------------------------------|--|--|
| <input type="checkbox"/> 真面目に受けている | <input type="checkbox"/> だいたい真面目に受けている | <input type="checkbox"/> あまり真面目に受けていない |
|------------------------------------|--|--|

(出典 平成18年度授業アンケート)

資料3-2-②-4

平成18年度 専攻科 授業(講義)に関するアンケート

授業改善のための資料にします。以下の設問に対して該当する番号を○で囲んでください。

()年 _____専攻 科目名【 】
 担当教員【 】

1. この授業のシラバス(授業要目)の内容を知っていますか。
 (1) 知っている (2) 知らない
2. シラバスどおりの授業が行われていますか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない
3. 教員の話し方や説明は丁寧で分かり易いですか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない
4. 板書は見やすく、ノートは取りやすいですか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない
5. テキストやプリントは授業を理解するのに適切なものですか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない
6. 授業内容の理解を深めるために、テキスト以外の資料の活用など手段や方法を工夫していると感じられますか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない
7. 教員は授業に対して真剣で熱意が感じられますか。
 (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

8. 授業内容に興味がありましたか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

9. 授業内容は理解できましたか。

- (1) よく理解できた (2) どちらともいえない (3) 理解できなかった

10. あなたの授業に対する姿勢はどうですか。

- (1) 真面目に受けている (2) だいたい真面目に受けている (3) あまり真面目に受けていない

11. 授業時間以外にこの授業の予習・復習をしていますか。

- (1) 毎回する (2) 時々する (3) ほとんどしない

12. この授業に対する意見を自由に書いてください。

平成18年度 専攻科 授業（実験・実習）に関するアンケート

授業改善のための資料にします。以下の設問に対して該当する番号を○で囲んでください。

() 年 _____ 専攻 科目名【 】

担当教員【 】

1. この授業のシラバス（授業要目）の内容を知っていますか。

- (1) 知っている (2) 知らない

2. シラバスどおりの授業が行われていますか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

3. テーマごとにかかる時間数など、進め方が適切ですか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

4. 設備の点検・整備はよくできていると思いますか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

5. 安全や事故に対する配慮がなされていると思いますか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

6. 担当者の指導は適切ですか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

7. テキストやプリントは理解しやすいですか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

8. 授業内容に内容に興味がありましたか。

- (1) そう思う (2) どちらともいえない (3) そう思わない

9. 授業内容は理解できましたか。

- (1) よく理解できた (2) どちらともいえない (3) 理解できなかった

10. あなたの実験・実習に対する姿勢はどうか。

(1)真面目に受けている (2)だいたい真面目に受けている (3)あまり真面目に受けていない

11. この授業に対する意見を自由に書いてください。

(出典 平成18年度専攻科授業アンケート)

資料3-2-②-5

平成18年度学級経営計画

年 学科 学級担任名
副担任氏名

	項 目	内 容
1	学級経営の目標 (学年ごとの課題を踏まえ、達成目標を設定)	
2	HR 活動(ショートホームルームを含む)の取組方針 (3年生以下について記入すること。)	
3	学級指導面での取組方針 (学習目標などの設定指導など学習意欲の喚起, 欠課が多い者や成績不振者への指導など)	
4	生活指導面での取組方針 (挨拶、環境美化、読書、社会人マナー教育などの指導)	
5	進路指導への取組方針 (1~3年生にあっては、進路意識の向上への取組、進路変更者への対応など)	
6	学生との懇談機会の確保等 相談活動への取組方針 (個別懇談、他教官との連携など)	

7	保護者との連絡についての 取組方針 (保護者会での個別懇談、保護者 との連絡方法の工夫など)	
---	---	--

(出典 学生課教務係資料)

資料3-2-②-6

学生による担任アンケートの実施について

(趣旨)

このアンケートは、本校の教育改善の一環として、担任業務に関する改善を目的として実施するものである。アンケート結果に基づき、より良い担任のあり方を検討するとともに、自己研鑽の資料として活用する。

(実施方法)

1. アンケートの実施対象と実施時期
 実施対象：1～5学年の全クラス担任（専攻科を除く）を対象とする。
 実施時期：各年度末に実施する。
2. アンケートの内容
 アンケート実施年度の担任業務に限る。
3. アンケートの実施者
 クラスの授業を担当している教員（担任を除く。）が学生へ配布し回収する。
 回収したアンケート用紙は教務主事へ提出する。
 教務主事は集計後、点検・評価委員会に分析を依頼する。
 点検・評価委員会は分析結果を校長並びに教務主事へ報告する。
4. アンケート実施についての学生・教員への事前周知方法
 学生への周知：周知文書を作成し、各担任に教室への掲示と学生への周知を依頼する。
 教員への周知：運営会議において各科・学科の主任へ周知する。また、各教員への周知は、各科・学科の主任が行う。
5. アンケート結果の公表方法と活用方法
 - 1) 本年度は、各担任に担当クラス分のアンケート結果を通知する。また、全学的には、項目別分布・分析を公表する。
 - 2) アンケート結果の数値が高かったとき、当該担任の行動計画や実践方法・結果などについて、適当な場で報告してもらい場合がある。
 - 3) アンケート結果の数値が低かったとき、5段階で平均が3未満の場合は、当該アンケートの対象となったクラス担任は、行動計画（アンケート結果を参考として、今後の担任業務の改善のためにどのような取り組みを行うか）をレポートにまとめ教務主事に提出する。更に、極端にアンケートの数値が低かった（5段階で平均が2未満）場合は、担任業務の改善などのために必要な方策や原因の探求について、当該担任と校長及び教務主事が個別に話し合う。

(出典 学生による担任アンケートの実施について)

資料3-2-②-7

学生による担任アンケート

このアンケート調査は、本校の教育改善の一環として、授業アンケートや勉強アンケートだけでなく、クラス担任の仕事に関しても学生のみなさんの意見を聞くためのものです。この1年間を振り返り、みなさんのクラス担任について回答してください。

以下の設問に対して該当する項目の□をぬりつぶしてください。(例 ■)

あなたの学年は (全員)

1年 2年 3年 4年 5年

あなたのクラスは (1, 2年生のみ)

1組 2組 3組 4組 5組

あなたの学科は (全員)

M E D C Z

1. あなたは、学校の諸規則を守り、健全な学生生活を送っていると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
2. あなたは、学校行事やクラス全体の行事、与えられた役割などに進んで参画していますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
3. あなたの担任は、学習面 (学習方法や学習姿勢など) の指導に熱心で、その指導は適切であると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
4. あなたの担任は、生活・行動面の指導に熱心で、その指導は適切であると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
5. あなたの担任は、ホームルームやクラス全体の行事などについて熱心に取り組んでいますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
6. あなたの担任は、学生の意見を参考にしながらクラス運営をしていますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
7. あなたの担任は、学生の悩みや相談を親身になって聞いてくれますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
8. あなたの担任は、学校の話だけでなく社会、進路、人生のことなど、ためになる話をしてくれますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない
9. 指導面に関して、あなたの担任のもっとも良い点を1つ挙げてください。(記述)
[]
10. あなたの担任を総合的に判断すると、良い担任ですか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(出典 学生による担任アンケート)

(分析結果とその根拠理由)

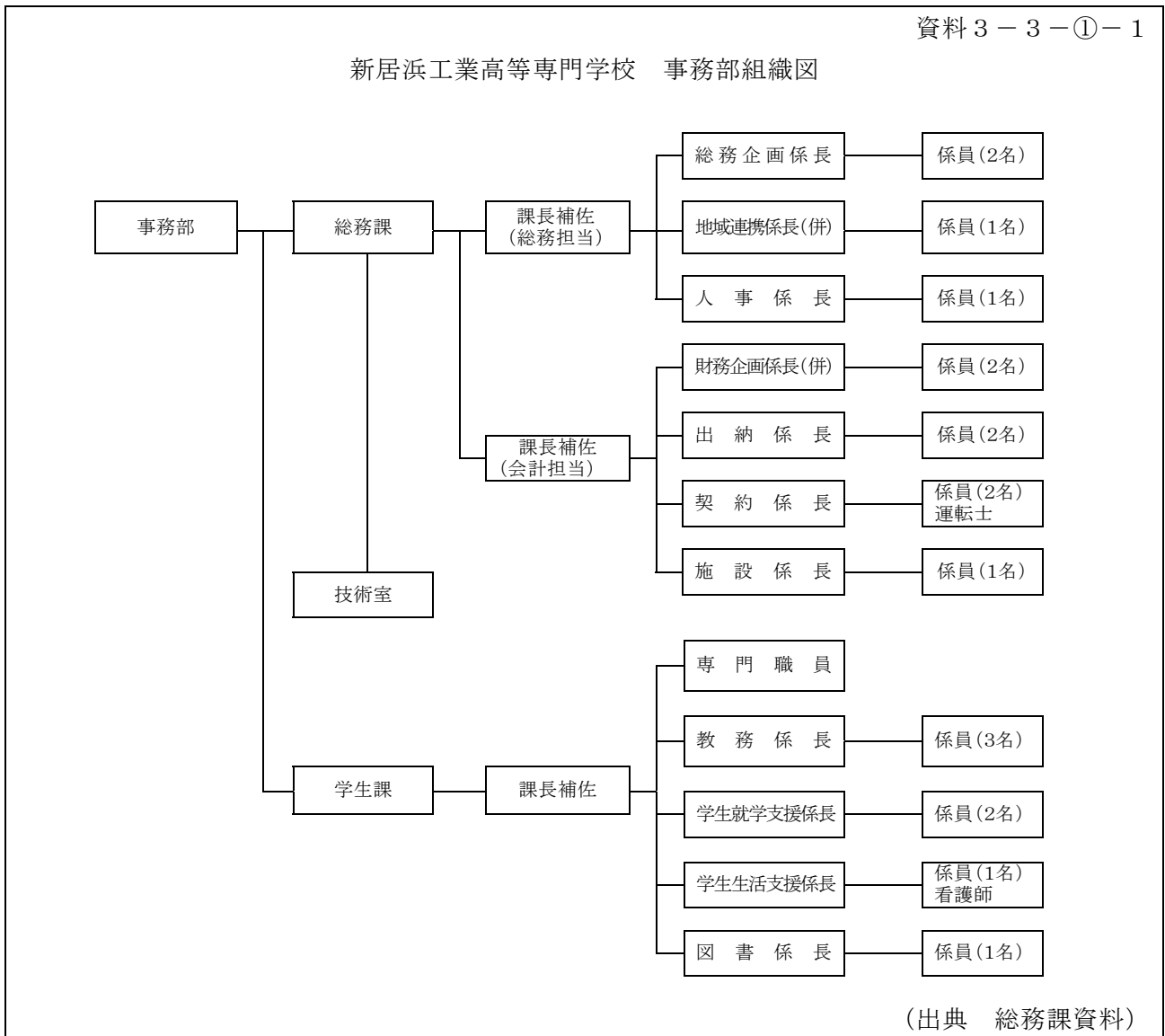
各教員および学級担任は教育活動計画を年度当初に作成し、年度末にはこれを評価している。

「学生の授業アンケート」や「学級担任アンケート」の結果は分析され、教員にフィードバックされている。このように、各教員および学校全体の点検・評価体制が整備されて、点検・評価が適切に実施されている。

観点 3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

事務職員は，総務課と学生課の 2 課に 35 名配置している（資料 3-3-①-1，資料 3-3-①-2，資料 3-3-①-3）。このうち学生課は，学生課長，学生課長補佐のほか，専門職員（電算処理担当）1 名，教務係 4 名，学生就学支援係 3 名，学生生活支援係 3 名，図書係 2 名（司書有資格者 1 名を含む。）の合わせて 15 名からなる教育支援体制を整えている。学生課長補佐は，留学生や学生に関する広報なども担当している。他には，総務課に技術室を置き技術職員 14 名を配置し，学生の実験実習・教育研究等の技術支援を行っている（資料 3-3-①-4，訪問調査資料 平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書）。



新居浜工業高等専門学校事務組織規程

平成18年3月28日規程第3号

(趣旨)

第1条 この規程は、独立行政法人高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第9条の規定及び新居浜工業高等専門学校学則第11条の規定により、新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めるものとする。

(事務組織)

第2条 事務部に事務部長、総務課及び学生課を置く。

2 課に係を置く。

(職制)

第3条 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。

2 総務課及び学生課に課長を置く。

3 課長は、上司の命を受け、当該課の事務を総括する。

4 課に課長補佐を置くことができる。

5 課長補佐は、上司の命を受け、課長を補佐し、課の事務を総括する。

6 課に専門職員を置くことができる。

7 専門職員は、上司の命を受け、専門的事項を企画・立案及び処理する。

第4条 係に係長及び係員を置く。

2 係長及び係員は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

3 必要に応じ主任を置くことができる。

4 主任は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第5条 総務課に技術室を置くことができる。

2 技術室に技術専門職員及び室員を置く。

3 技術室に関し、必要な事項は別に定める。

(所掌事務)

第6条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 中期計画、改革等に関する企画・立案に関すること。
- (2) 第三者による学校評価に関すること。
- (3) 自己点検・評価に関すること。
- (4) 地域社会、産業界等との連携に関すること。
- (5) 高度技術教育研究センターに関すること。
- (6) 科学研究費補助金及びその他研究助成に関すること。
- (7) 発明及び知的財産に関すること。
- (8) 法人文書の管理及び情報公開業務に関すること。
- (9) 個人情報に関すること。
- (10) 機密に関すること。
- (11) 儀式その他諸行事に関すること。
- (12) 運営会議その他会議に関すること。
- (13) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
- (14) 内地研究員及び在外研究員等に関すること。
- (15) 学術団体等との連絡に関すること。
- (16) 広報、渉外に関すること。
- (17) 公文書類の接受、発送及び保管に関すること。
- (18) 公印の制定、改廃及び保管に関すること。
- (19) 職員の採用、退職、給与、懲戒及び就業規則等に関すること。
- (20) 職員の定員に関すること。
- (21) 職員の研修及び勤務評定に関すること。
- (22) 職員の健康管理、福利厚生及び災害保障に関すること。
- (23) 共済組合及び退職手当に関すること。
- (24) 栄典及び表彰に関すること。
- (25) 人事記録、その他人事に関すること。
- (26) 教育研究補助に関すること。
- (27) 校内の警備に関すること。
- (28) 予算及び決算に関すること。
- (29) 会計の監査に関すること。

- (30) 会計機関の公印の管守に関する事。
- (31) 債権の管理に関する事。
- (32) 資産の管理及び処分に関する事。
- (33) 契約に関する事。
- (34) 収入、支出及び計算証明に関する事。
- (35) 現金、預金、貯金及びその他有価証券の管理に関する事。
- (36) 寄附金の受入に関する事。
- (37) 科学研究費補助金等の外部資金の経理に関する事。
- (38) 教職員宿舎に関する事。
- (39) 施設・設備の計画、整備及び維持保全に関する事。
- (40) 学校環境の整備保全に関する事。
- (41) 教職員の安全管理に関する事。
- (42) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること
- (43) その他、学生課の所掌に属しないこと。

第7条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生の課外教育に関する事。
- (7) 学生の賞罰に関する事。
- (8) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (9) 学生に対する奨学金に関する事。
- (10) 留学生及び学生の海外派遣に関する事。
- (11) 入学料、授業料の免除、徴収猶予及び寄宿料の免除に関する事。
- (12) 学生の課外活動に関する事。
- (13) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (14) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (15) 学生の進路に関する事。
- (16) 学生相談に関する事。
- (17) 学生旅客運賃割引証その他諸証明に関する事。
- (18) 学寮の管理運営に関する事。
- (19) 学生の入退寮に関する事。
- (20) 寮生の生活相談等に関する事。
- (21) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保管等に関する事。
- (22) 図書館資料の閲覧、貸出し等利用に関する事。
- (23) 図書館資料に関する予算及び経理に関する事。
- (24) 図書館における教育研究活動及び情報サービスに関する事。
- (25) 電子計算機による事務処理システムの運用及び維持管理の指針に関する事。
- (26) 情報処理システム及び情報化の推進等に関する事。
- (27) 本校のLANシステムの構築及び運用方針に関する事。
- (28) 情報教育センターに関する事。
- (29) その他、学生課の所掌に関する事。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、課の組織及び事務分掌については、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 3-3-①-3

新居浜工業高等専門学校事務分掌細則

平成18年3月28日細則第1号

(目的)

第1条 この細則は、新居浜工業高等専門学校事務組織規程第8条に基づき、新居浜工業高等専門学校事務部の課の組織及び事務分掌について定めることを目的とする。

(総務課)

第2条 総務課にその事務を分掌させるため、次の2課長補佐及び7係を置く。

- 一 課長補佐（総務担当）
- 二 課長補佐（財務担当）
- 三 総務企画係
- 四 人事係
- 五 地域連携係
- 六 財務企画係
- 七 出納係
- 八 契約係
- 九 施設係

2 課長補佐（総務担当）においては、前項第三号から第五号までの係の事務を掌理し、課長を補佐する。

3 課長補佐（財務担当）においては、前項第六号から第九号までの係の事務を掌理し、課長を補佐する。

4 総務企画係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式その他諸行事に関すること。
- (4) 運営会議、教員会その他の所掌に属さない各種会議に関すること。
- (5) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
- (6) 内地研究員及び在外研究員等に関すること。
- (7) 職員の出張に関すること。
- (8) 学術団体等との連絡に関すること。
- (9) 外部との研究交流並びに共同研究等の推進及び実施に関すること。
- (10) 広報、渉外に関すること。
- (11) 公文書類の接受、発送及び保管に関すること。
- (12) 公印の制定、改廃及び保管に関すること。
- (13) 職員の福利厚生に関すること。
- (14) 校報及び学校要覧等の発行に関すること。
- (15) 法人文書の管理及び情報公開業務に関すること。
- (16) 個人情報に関すること。
- (17) 指定統計調査及び他の係に属さない調査報告に関すること。
- (18) 校内の警備に関すること。
- (19) 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- (20) その他学生課及び総務課の事務で他の係の所掌に属しないこと。

5 人事係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 職員の採用、退職、懲戒及び就業規則に関すること。
- (2) 職員の給与に関すること。
- (3) 職員の定員の管理に関すること。
- (4) 職員の研修に関すること。
- (5) 職員の勤務評定に関すること。
- (6) 職員の労働災害及び通勤災害に関すること。
- (7) 職員の健康管理に関すること。
- (8) 退職手当及び共済組合の長期給付に関すること。
- (9) 栄典及び表彰に関すること。
- (10) 職員の人事記録に関すること。
- (11) 職員の労働時間及び休暇に関すること。
- (12) 職員の身分証明、その他諸証明に関すること。
- (13) 職員録の発行に関すること。
- (14) 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- (15) その他人事に関すること。

6 地域連携係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 中期計画、改革等に関する企画・立案に関すること。
- (2) 第三者による学校評価に関すること。
- (3) 自己点検・評価に関すること。
- (4) 地域社会との連携に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 高度技術教育研究センターに関すること。

- (7) 研究助成に関すること。
 - (8) 発明及び知的財産に関すること。
 - (9) 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - (10) その他研究協力地域連携に関すること。
- 7 財務企画係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 会計事務に関し、総括及び連絡調整すること。
 - (2) 予算、決算及び計算証明に関すること。
 - (3) 会計の諸規則に関すること。
 - (4) 会計の監査に関すること。
 - (5) 支払（収入）契約決議書・支払決議書・支出（収入・振替）伝票の監査に関すること。
 - (6) 総務課に属する会計機関の公印の管守に関すること。
 - (7) 共済組合（長期給付及び出納事務に関するものを除く。）に関すること。
 - (8) 科学研究費補助金の申請及び報告に関すること。
 - (9) 受託研究及び共同研究の契約に関すること。
 - (10) 不動産の維持管理に関すること。
 - (11) 教職員宿舎に関すること。
 - (12) 不動産の一時使用に関すること。
 - (13) 校内の防火管理に関すること。
 - (14) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関すること。
 - (15) その他会計課の事務で他の係の所掌に属しないこと。

- 8 出納係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 収入及び支出に関すること。
 - (2) 債権の管理に関すること。
 - (3) 現金、預金、貯金及びその他有価証券に関すること。
 - (4) 給与の支給等に関すること。
 - (5) 謝金、退職手当及び旅費等の支払決議に関すること。
 - (6) 寄附金の受入に関すること。
 - (7) 共済組合（長期給付を除く。）の出納事務に関すること。
 - (8) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関すること。
 - (9) その他出納係に関すること。

- 9 契約係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 物品の管理、計画に関すること。
 - (2) 仕様策定の事務に関すること。
 - (3) 物件費及び役務費等の契約（施設係及び図書係の所掌に係るものを除く。）に関すること。
 - (4) 物品の出納保管及び処分に関すること。
 - (5) 物品の貸借、管理換及び寄附受入れに関すること。
 - (6) 公用車の管理及び運行に関すること。
 - (7) 校内の清掃及びその他労務作業に関すること。
 - (8) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関すること。
 - (9) その他契約係に関すること。

- 10 施設係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 施設設備及び営繕工事の計画に関すること。
 - (2) 諸工事の入札、契約及び監理等に関すること。
 - (3) 国立学校施設台帳及び施設の実態調査に関すること。
 - (4) 教職員の安全管理に関すること。
 - (5) 建物、工作物及び樹木等の維持管理に関すること。
 - (6) 電気、ガス、水道、電話及び冷暖房設備の維持管理に関すること。
 - (7) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関すること。
 - (8) その他施設係に関すること。

（学生課）

第3条 学生課にその事務を分掌させるため、次の課長補佐、専門職員及び4係を置く。

- 一 課長補佐
- 二 専門職員
- 三 教務係
- 四 学生就学支援係
- 五 学生生活支援係
- 六 図書係

2 課長補佐においては、次の事務掌理し、課長を補佐する。

- (1) 学生課の事務に関し、連絡調整すること。
 - (2) 学生課所掌の広報に関すること。
 - (3) 留学生及び学生の海外派遣に関すること。
- 3 専門職員においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 電子計算機による事務処理システムの運用及び維持管理の指針に関すること。
 - (2) 情報処理システム及び情報化の推進等に関すること。
 - (3) 本校のLANシステムの構築及び運用方針に関すること。
 - (4) SCSに関すること。
 - (5) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
 - (6) その他情報処理に関すること。
- 4 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生課の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
 - (2) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
 - (3) 学生の修学指導に関すること。
 - (4) 教育課程の編成及び授業の実施計画に関すること。
 - (5) 学生の学業成績に関すること。
 - (6) 学生の指導要録の整理、記録及び保管等に関すること。
 - (7) 学生の入学、転学、休学、退学、復学及び卒業等に関すること。
 - (8) 学生の課外教育に関すること。
 - (9) 学生の諸届及び諸証明に関すること。
 - (10) 視聴覚教室の管理運営に関すること。
 - (11) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
 - (12) 学位の取得に関すること。
 - (13) その他学生課の事務で他の係の所掌に属しないこと。
- 5 学生就学支援係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の厚生補導に関すること。
 - (2) 学生に対する奨学金に関すること。
 - (3) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
 - (4) 学生の賞罰に関すること。
 - (5) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
 - (6) 入学料及び授業料の徴収猶予及び免除等に関すること。
 - (7) 学生の課外活動に関すること。
 - (8) 学生の進路に関すること。
 - (9) 学生相談に関すること。
 - (10) 学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
 - (11) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
 - (12) その他学生就学支援係に関すること。
- 6 学生生活支援係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の入退寮に関すること。
 - (2) 寮生の生活相談等に関すること。
 - (3) 寮生の福利厚生に関すること。
 - (4) 学寮の管理運営に関すること。
 - (5) 学寮の防火等に関すること。
 - (6) 寄宿料の免除等に関すること。
 - (7) 学寮食堂及び寮生の給食に関すること。
 - (8) 学寮における教員の宿日直勤務に関すること。
 - (9) 学生の保健管理及び独立行政法人日本スポーツ振興センターに関すること。
 - (10) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
 - (11) その他学寮の管理運営に関すること。
- 7 図書係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書館資料の受入れ、整理、保管及び除籍等に関すること。
 - (2) 図書館資料の選定に関すること。
 - (3) 図書館資料の閲覧、貸出し等利用に関すること。
 - (4) 図書館資料の分類及び目録の作成に関すること。
 - (5) 図書購入費の経理に関すること。
 - (6) 図書購入の契約に関すること。
 - (7) 図書館資料の検索指導及び利用相談等参考業務に関すること。
 - (8) 文献複写に関すること。

- (9) 研究紀要の編集及び学術文献の交換に関すること。
- (10) 学術情報システムの構成に係る関係機関との連絡調整に関すること。
- (11) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
- (12) その他図書館の管理運営に関すること。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 3 - 3 - ① - 4

新居浜工業高等専門学校技術室要項

平成 10 年 3 月 31 日要項第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この要項は、新居浜工業高等専門学校事務組織規程第 7 条第 3 項の規定に基づき、新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における技術室の組織、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 本校の教育研究等に関する技術的専門業務を組織的かつ効率的に処理するため、総務課に技術室を置く。

- 2 技術室に技術室長、技術室長補佐、技術専門職員及び技術職員を置く。
- 3 技術室長及び技術室長補佐は、技術専門職員のうちから校長が任命する。
- 4 技術室長は、上司の命を受け、技術専門職員及び技術職員を統括管理し、技術室の円滑な運営を図る。
- 5 技術室長補佐は、技術室長の職務を助ける。
- 6 技術専門職員及び技術職員は、技術業務に従事する。

(業務)

第 3 条 技術室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の実験・実習及び卒業研究等の技術支援に関すること。
- (2) 教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
- (3) 技術の継承及び保存に関すること。
- (4) 技術研修に関する調査研究に関すること。
- (5) 実験室及び実習室等の安全管理に関すること。
- (6) 実験室及び実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
- (7) その他技術業務に関すること。

(その他)

第 4 条 この要項に定めるもののほか、技術室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成 12 年 12 月 18 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

事務組織については、教育課程を担当する学生課をはじめとして、教育活動を円滑に行うための体制を整備している。技術職員は、実習、実験について支援しており、技術者養成に直接関わる教育の大きな力となっている。図書館には司書資格を持った職員を置き、学生の図書館利用のための活動を行っている。

このように、学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員と技術職員が適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員の業務意欲を高める目的で、予算優遇措置を備えた顕彰制度として優秀教員表彰と最優秀担任表彰の2種類がある。

教員の採用に当たっては、高専教員としての資質・能力を評価するために、面接審査において模擬授業などの実技観察も取り入れている。

教員の教育活動の定期的な評価のために、各教員は年度当初に「業務努力目標」を作成し、年度末にはその達成度の自己評価と年間の教育活動の自己点検としての「教育業績自己申告書」を提出している。また、学級担任は、年度当初に「学級経営計画書」を作成し、年度末にこれを自己評価し、報告している。また、学級担任の業務については教務委員会が「学級担任アンケート」を実施している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準3の自己評価の概要

教育課程を実施するための必要な教員配置は、一般科目・専門科目ともに適切に行われている。また、専攻科の科目担当教員も、高度の知識及び技術を教授するのに適切な配置となっている。

教員の年代構成のバランス、高専以外の教育経歴や実務経験を有する教員の割合は適切である。

教員の学位取得については、各学科(科)において公務の面で配慮することで支援している。教員の約80%が学位を取得しており、毎年数名の教員が新たに学位を取得している。また、学位取得後は取得記念講演会を開催するなど教育研究活動の活性化に役立っている。

優秀教員については、高専機構の教員顕彰制度を活用し、最優秀教員と優秀教員を選考し、研究費の優遇措置を行っている。また、年度ごとに最優秀学級担任も選考し、これについても研究費の優遇措置を行っている。

教員の採用・昇格等に関する規程は明確に定められており、適切に運用されている。特に面接審査においては、模擬授業などの実技観察を取り入れて、高専教員としての資質・能力を適切に評価している。

各教員および学級担任は、それぞれ「業務努力目標」および「学級経営計画書」を年度当初に作成し、年度末にはこれを評価している。また、各教員は年度末に「教育業績自己申告書」を作成し、1年間の教育活動の自己点検を行っている。さらに、「学生の授業アンケート」や「学級担任アンケート」を実施し、その結果も分析して教員にフィードバックしている。

学校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員および技術職員が適切に配置されている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到係る状況）

(1) 準学士課程

平成16年度末に、本校の教育理念「知恵・行動力・信頼」を踏まえ、入学を希望する中学生に求める資質能力という観点で、全学科共通および各学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定した。

入学者受入方針は「平成19年度学生募集要項」、「学校案内2006」、「平成19年度編入学生募集要項」に記載しており、ホームページにも掲載して、中学生をはじめ社会に広く公表している（資料4-1-①-1、資料4-1-①-2、資料4-1-①-3、資料4-1-①-4）。また、学校訪問、学校説明会などにおいて、中学校教員や中学生に対して直接説明している。本校教員に対しては、「平成19年度学生募集要項」やホームページなどで周知するとともに、学科会議で推薦選抜の面接項目を事前検討する際に周知している（資料4-1-①-5）。

(2) 専攻科課程

平成17年度に、学校の教育目標および専攻科の設置目的「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度の知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする」に基づき、専攻科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、「平成20年度専攻科学生募集要項」、「学校案内2006」、「専攻科パンフレット2006」に記載するとともに、ホームページで公開している（資料4-1-①-6、資料4-1-①-7、資料4-1-①-8、資料4-1-①-9）。本校教員に対しては、「平成19年度専攻科学生募集要項」やホームページなどで周知している。

平成 19 年度 学生募集要項

I 新居浜工業高等専門学校の入学者受入方針(アドミッションポリシー)

新居浜高専は、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しており、次のような中学生を求めています。

● 全学科共通

- ・ 数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・ 自分の夢を持ち、可能性を信じてチャレンジできる人
- ・ 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- ・ 目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- ・ ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

● 各学科が求める生徒像

機械工学科

- ・ 物のしくみに興味を持ち、楽しく「ものづくり」ができる人
- ・ 学んだことを活かして、積極的に「ものづくり」ができる人
- ・ アイデアを出し合って、協力して「ものづくり」ができる人

電気情報工学科

- ・ 電気エネルギーを作ることや利用することに興味のある人
- ・ 携帯電話などの情報通信システムに興味のある人
- ・ コンピュータの仕組みやプログラミングに興味のある人

電子制御工学科

- ・ エレクトロニクス・情報処理・制御に関する分野を幅広く学習したい人
- ・ ものづくりやロボットづくりの技術に興味を持つ人
- ・ コンピュータやインターネットの分野に興味のある人

生物応用化学科

- ・ 化学やバイオテクノロジーの分野に関心があり、自然現象の不思議を理解するための勉学に意欲がある人
- ・ 実験が好きで、自ら進んで取り組むことのできる人
- ・ 学んだ知識・技術を将来、地域社会のために生かせる職業につきたいと考えている人

環境材料工学科

(平成 19 年 4 月 1 日材料工学科から名称変更※詳しくは、P 21 をご覧ください。)

- ・ 材料と地球環境との関係に関心がある人
- ・ 優れた性能を持った新しい材料をつくりたい人
- ・ 新しいことにチャレンジするバイタリティーがある人

(出典 平成 19 年度入学者募集要項)



学校の基本理念
(教育理念)
「知恵・行動力・信頼」

基本方針

教育の基本方針

「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」

学校運営の基本方針

新居浜工業高等専門学校は

- 1) 個性あふれる教育を創造し、実践する「知恵」と
- 2) 教育研究の向上にたゆまず努力する「行動力」を持ち、
- 3) 地域と共に歩む「信頼」される学校を目指します。

教育目標

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

アドミッションポリシー

- ・ 数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・ 自分の夢を持ち、可能性を信じてチャレンジできる人
- ・ 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- ・ 目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- ・ ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人



入学式



1年生合宿研修



総合文化祭(留学生コーナー)



卒業式・修了式

(出典 学校案内2006)

新居浜高専が求める生徒像

(アドミッションポリシー)

新居浜高専は、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しており、次のような生徒を求めています。

● 全学科共通

- ・ 数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・ 自分の夢を持ち、可能性を信じてチャレンジできる人
- ・ 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- ・ 目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- ・ ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

● 各学科が求める生徒像

機械工学科

- ・ 物のしくみに興味を持ち、楽しく「ものづくり」ができる人
- ・ 学んだことを活かして、積極的に「ものづくり」ができる人
- ・ アイデアを出し合って、協力して「ものづくり」ができる人

電気情報工学科

- ・ 電気エネルギーを作ることや利用することに興味のある人
- ・ 携帯電話などの情報通信システムに興味のある人
- ・ コンピュータの仕組みやプログラミングに興味のある人

電子制御工学科

- ・ エレクトロニクス・情報処理・制御に関する分野を幅広く学習したい人
- ・ ものづくりやロボットづくりの技術に興味を持つ人
- ・ コンピュータやインターネットの分野に興味のある人

生物応用化学科

- ・ 化学やバイオテクノロジーの分野に関心があり、自然現象の不思議を理解するための勉学に意欲がある人
- ・ 実験が好きで、自ら進んで取り組むことのできる人
- ・ 学んだ知識・技術を将来、地域社会のために生かせる職業につきたいと考えている人

材料工学科

- ・ 材料と地球環境との関係に関心がある人
- ・ 優れた性能を持った新しい材料をつくりたい人
- ・ 新しいことにチャレンジするバイタリティーがある人

(出典 平成19年度編入学生募集要項)

資料 4-1-①-4

中学生の皆さんへ

新居浜高専では、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しています。

●アドミッションポリシー

本校では次のような生徒を求めています。

- 数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- 自分の夢を持ち、可能性を信じてチャレンジできる人
- 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- 目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

(出典 本校ホームページ)

資料 4-1-①-5

生物応用化学科 学科会議メモ

日時 平成 18 年 12 月 4 日(月)16 時 10 分～18 時

場所 生物応用化学科事務室

出席者 河村、牛尾、早瀬、中山、衣笠、勝浦、間淵、西井

記録 西井

<教務委員会>

(略)

・推薦入試の面接試験：

時間は 20 分。共通の質問項目を 3 つ、学科の質問項目を 1 つとする。学科の項目の候補を出して学科内で選んで出す。アドミッションポリシーを考慮。

(略)

(出典 生物応用化学科学科会議議事録)

平成20年度 新居浜工業高等専門学校専攻科学生募集要項

I 新居浜工業高等専門学校専攻科の入学者受入方針（アドミッションポリシー）

1. 求める学生像

新居浜高専専攻科は、高等専門学校の5年間における実践的教育の基礎の上に精深で、かつ、学際的な学識を授け、専門分野における高度な技術能力を養成することを目指しており、次のような学生を求めています。

- 専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- 専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- 特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- 自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人
- 広く社会に貢献する熱意を持っている人

2. 入学者選抜の基本方針

新居浜高専専攻科は、「求める学生像」に一致した学生であることを確認するような入学者選抜を実施しています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接試験における簡単な筆頭試験、学力選抜では英語と専門の学力試験を課しています。また、専攻科への適性と意欲を見るために、いずれの選抜においても面接試験を課しています。

（出典 平成20年度専攻科学生募集要項）

5 専攻科

専攻科は、実践的技術者を養成する本科5年間の課程と整合性を保ち、さらに2年間、より深い専門知識と幅広い高度な技術能力を養うことを目標とし、設計・製造等の生産に直結する中枢部門を支える技術者の養成をねらいとしている。

本校専攻科では、学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てるため、次のことを教育目標としている。

- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- (3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
- (4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- (5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

教育の特徴としては次のとおりである。

- 専門的技術力を高め、かつ技術的視野を広げるための専門科目と、人間性を養い、国際的職業人としてより広い視野を持たせるための共通教養科目を配している。
- 少人数教育の利点を生かし、徹底したマンツーマン教育を行っている。
- 2年間または本科から引き継いで3年間にわたる特別研究は、本校専攻科の特徴といえるもので、その成果を学会等で発表している。
- 日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に適合する技術者教育プログラムとして、本科4年次から専攻科2年次までの教育課程の学習・教育に関して、専攻科の各専攻に対応した教育プログラムを設定し、社会の要求水準を満たすべく教育を行っている。

アドミッションポリシー

- 専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- 専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- 特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- 自ら進んで勉学に取り組み向上し続けようとする意欲を持っている人
- 広く社会に貢献する熱意を持っている人



コンピュータを利用した英語学習



専攻科生研究交流会

(出典 学校案内2006)

高専の専攻科制度

高等専門学校は、1962年に産業界からの強い要請に応じて設立されました。大学の教育システムとは異なり、産業界が必要とする実践的技術者を養成するため、中学校卒業生を受け入れて5年間の一貫教育を行ってきました。しかし、近年に至り、科学技術の高度化、多様化、複合化が進展し、また、企業を取り巻く環境も大きく変貌し、より深い専門知識を持ち、さらに幅広い視野を有する技術者が求められるようになってきました。これらを背景として、1992年に高専に専攻科が設置されました。2006年において、国立高専55校中54校、公立高専5校中3校、私立高専3校中2校に専攻科が設置されるに至っております。

専攻科の教育目標

本校の専攻科では、学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てるため、次のことを教育目標としています。

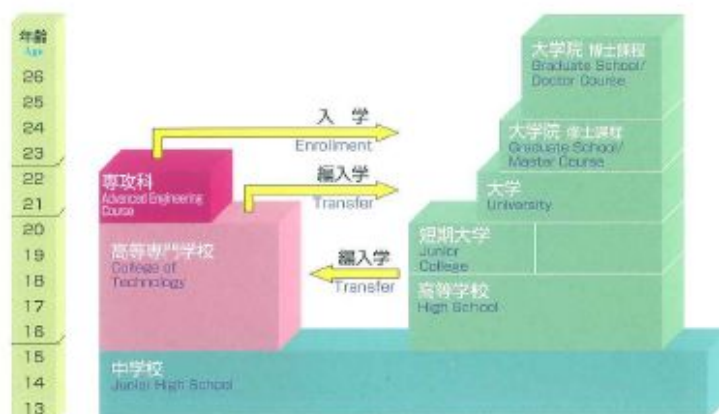
- (1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- (2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- (3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。
- (4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- (5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。

専攻科の入学受入方針 (アドミッションポリシー)

本校の専攻科では、次のような学生を求めています。

- ・ 専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- ・ 専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- ・ 特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- ・ 自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人
- ・ 広く社会に貢献する熱意を持っている人

学校制度における位置づけ



(出典 専攻科パンフレット2006)

専攻科入学を志す皆さんへ

■アドミッションポリシー

1. 求める学生像

新居浜高専専攻科は、高等専門学校の5年間における実践的教育の基礎の上に精深で、かつ、学際的な学識を授け、専門分野における高度な技術能力を養成することを目指しており、次のような学生を求めています。

- 専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
- 専門とする技術分野の基礎学力を持っている人
- 特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人
- 自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人
- 広く社会に貢献する熱意を持っている人

2. 入学者選抜の基本方針

新居浜高専専攻科は、「求める学生像」に一致した学生であることを確認するような入学者選抜を実施しています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接試験における簡単な筆頭試験、学力選抜では英語と専門の学力試験を課しています。また、専攻科への適性と意欲を見るために、いずれの選抜においても面接試験を課しています。

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

準学士課程の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定め、「平成19年度学生募集要項」、「学校案内2006」、ホームページなどで公開して、中学生をはじめ社会に公表している。また、学校訪問、学校説明会などにおいて、中学校教員や生徒に対して直接説明している。

受入方針には求める学生像を明記しており、観点4-2-①で述べるとおり学生像に合致した入学者を選抜するための方法も定めているが、入学者選抜の基本方針は明文化していない。

(2) 専攻科課程

専攻科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は、求める学生像、入学者選抜の基本方針とも明確に定め、「平成20年度専攻科学生募集要項」、「学校案内2007」、ホームページなどで公開して、高専学生をはじめ社会に公表している。

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

準学士課程への入学者選抜は、推薦選抜と学力選抜の2種類があり、ともに「学生募集要項」にしたがって行っている（訪問調査資料 平成19年度学生募集要項）。推薦選抜では在籍中学校長からの推薦書、調査書、自己申告書および面接（口頭試問を含む）の結果を総合して行う（資料4-2-①-1）。学力選抜では学力検査の成績および調査書等に基づき、合格者を決定する（資料

4-2-①-2)。推薦基準は、中学校第3学年1,2学期の主要5科目の評定が5段階評価で3.8以上の者としているが、入学者受入方針にしたがって理科と数学の評定が平均4.5以上の者も推薦の対象としている。推薦選抜は、入学者受入方針にしたがった面接項目を定め、評価基準を設定して実施している。学力選抜は、入学者受入方針にしたがって数学と理科について重みをつけた傾斜配点を採用し、実施している。

高等学校などからの準学士課程4年への編入学生の選抜は、「編入学生募集要項」にしたがって実施している（訪問調査資料 平成19年度編入学生募集要項）。入学者の選抜は、学力試験および面接試験の結果および調査書を総合して行っている（資料4-2-①-3）。学力試験は、入学者受入方針にしたがって数学を必須、理科または専門科目を選択として課している。また面接試験は、入学者受入方針にしたがった面接項目を定めて実施している。

(2) 専攻科課程

専攻科入学者の選抜は、学校長推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜の3通りがあり、「専攻科学生募集要項」にしたがって実施している（訪問調査資料 平成20年度専攻科学生募集要項）。推薦選抜および社会人特別選抜は面接試験、学力選抜は筆記試験および面接試験の結果により合格者を決定する（資料4-2-①-4）。各選抜の面接試験は、入学者受入方針にしたがった面接項目を定めて実施している。また、学力選抜の筆記試験は、入学者受入方針にしたがって英語および専門科目を実施している。

資料4-2-①-1

推薦による入学者の選抜

1. 推薦入学受入れ数

各学科とも募集人員の40%程度とします。

2. 出願資格

推薦による入学を志願できる人は、次の要件を全て満たしている人で、在籍中学校長が責任を持って推薦できる人としてします。

- (1) 平成19年3月に中学校卒業見込みの人
- (2) 将来技術者になろうという意志が強く、本校の入学者受入方針にかなうと認められる人
- (3) 学業成績優秀で、第3学年の1学期と2学期をとおして5科目（国語・社会・数学・理科・英語）の評定が、5段階評価で平均が3.8以上の人又は、理科系に秀でており、第3学年の1学期と2学期をとおして理科及び数学の評定が平均4.5以上である人
- (4) 推薦による入学者の選抜に合格した場合は、必ず入学する人

(略)

6. 選抜方法

合格者の選抜は、在籍中学校長からの推薦書，調査書，自己申告書及び面接（口頭試問を含む。）の結果を総合して行います。

面接の日時・場所

日	時	場	所
1月21日(日)	午前9時～	面接	①新居浜検査場 本校 ②松山検査場 ホテルサンルート松山 松山市宮田町391-8 (089) 933-2811 ※学力選抜会場とは異なります。

(出典 平成19年度学生募集要項)

資料 4 - 2 - ① - 2

学力検査による入学者の選抜**1. 出願資格**

学力検査による入学を志願できる人は、次の各号の一に該当する人となります。

- (1) 中学校を卒業した人及び平成19年3月卒業見込みの人
- (2) 中学校卒業と同等以上の学力があると認められた人
(学校教育法施行規則第63条に該当する人)

(略)

5. 選抜方法

選抜は、学力検査の成績及び調査書等に基づいて、合格者を決定します。

- (1) 学力検査は、理科，英語，数学，国語及び社会の5教科とし，筆記試験とします。
- (2) 各科目の配点は，理科200点，英語100点，数学200点，国語100点，社会100点とします。

(3) 学力検査日時・場所

月 日	教科名	時 間	場 所
2月18日 (日)	理 科	9:30~10:20	① 新居浜検査場 本 校 ② 松山検査場 松山大学 松山市文京町4-2 (089)925-7111(代表) ※推薦選抜会場とは異なります。 ③ 宇和島検査場 国民年金健康保養センターうわじま 宇和島市丸穂字天満甲207-2 (0895)25-3000 ④ 徳島県三好検査場 三好市保健センター 徳島県三好市池田町字シンマチ1476-1 (0883)72-6767 ⑤ 広島県福山検査場 ふくやま市民交流館 広島県福山市丸之内一丁目9番5号 (084)922-2300
	英 語	10:40~11:30	
	数 学	11:50~12:40	
	国 語	13:30~14:20	
	社 会	14:40~15:30	

(注) 受験票に記入した上記検査場のいずれかで受験してください。

(出典 平成19年度学生募集要項)

資料4-2-①-3

I 募集人員

事 項	募 集 人 員	編入学年
機 械 工 学 科	各学科若干名	第4学年
電 気 情 報 工 学 科		
電 子 制 御 工 学 科		
生 物 応 用 化 学 科		
材 料 工 学 科		

II 出願資格・志望学科

編入学を志望できる者は、次のとおりとします。

学 科	出 願 資 格
機 械 工 学 科	工業高等学校又は工業に関する学科を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者
電気情報工学科 電子制御工学科 生物応用化学科 材 料 工 学 科	高等学校を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者

(略)

VI 選抜方法

編入学者の選抜は、学力試験、面接試験の結果及び調査書を総合し、合格者を決定します。

1 学力試験

学力試験は、共通科目（2科目）及び選択科目（1科目）とし、筆答試験とします。

なお、出題の範囲は、次のとおりとします。

共通科目

学 科	科目名	出 題 範 囲
全 学 科	英 語	「英語Ⅰ」 「英語Ⅱ」
	数 学	「数学Ⅰ」 「数学A」 「数学Ⅱ」 「数学B」（ベクトルと数列）

選択科目

学 科	科目名	出 題 範 囲
機 械 工 学 科	専門科目	「機械工作」 「機械設計」
電 気 情 報 工 学 科	専門科目	「電気基礎」(直流回路、電流と磁気、静電気、 交流回路) 「情報技術基礎」
	物理・情報	「物理Ⅰ」 「物理Ⅱ」 「情報A」
電 子 制 御 工 学 科	専門科目	「電気基礎」(直流回路、電流と磁気、静電気、 交流回路)
	物 理	「物理Ⅰ」 「物理Ⅱ」
生 物 応 用 化 学 科	専門科目	「工業化学」 「化学工学」
	化 学	「化学Ⅰ」 「化学Ⅱ」
材 料 工 学 科	専門科目	「機械工作」(材料の性質) 「機械設計」
	物 理	「物理Ⅰ」 「物理Ⅱ」
	化 学	「化学Ⅰ」 「化学Ⅱ」

【注】上記の選択科目のうち1科目を選択してください。

(出典 平成19年度編入学生募集要項)

資料4-2-①-4

Ⅱ 募集人員

生産工学専攻	8名	
生物応用化学専攻	4名	
電子工学専攻	8名	計20名

(略)

VI 学校長推薦選抜

1. 出願資格

- (1) 平成19年3月高等専門学校卒業の見込みの者で、在籍学校長が人物・学業・健康ともに優れていると認め推薦する者
- (2) 平成18年3月高等専門学校を卒業した者で、出身学校長が人物・学業・健康ともに優れていると認め推薦する者

(略)

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、出身学校長からの推薦書、自己申告書、調査書の内容並びに面接試験（口頭試問及び簡単な筆答試験）を総合して行います。

4. 選抜試験の日時及び場所

期 日	区 分	時 間	場 所
5月27日(土)	面接試験	9時00分から	新居浜工業高等専門学校

(略)

VII 学力選抜

1. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成19年3月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成19年3月専修学校の専門課程を修了見込みの者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学へ編入学することができる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者

(略)

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験、面接試験及び在籍（出身）学校長からの調査書の内容を総合して行います。

(1) 筆記試験

専攻名	出題範囲
生産工学専攻	英語 専門科目（機械工作法，材料力学，熱力学，水力学，物理化学，材料科学，金属材料学，無機材料学，有機化学，材料加工学の10科目のうち4科目選択）
生物応用化学専攻	英語 専門科目（無機化学，有機化学，物理化学，分析化学，化学工学，生物化学・微生物学の6科目のうち3科目選択）
電子工学専攻	英語 専門科目（電磁気学，電気回路）

(2) 面接試験

専攻名	備考
各専攻共通	数学などの教養科目についての口頭試問及び簡単な筆答試験を含む。

(3) 選抜試験の日時及び場所

期日	区分	時間	場所
一次募集 6月24日(土)	筆記試験 英語 専門科目	9:00～9:50	新居浜工業高等 専門学校
二次募集 9月15日(金)		10:10～12:10	
	面接試験	13:00～	

(略)

Ⅷ 社会人特別選抜**1. 出願資格**

出願時において、①延べ1年以上の企業実務経験を有する者、または、②所属する企業の長が勤務成績、人物及び健康ともに優れていると認め推薦する者で、次のいずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学へ編入学することができる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者

(略)

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、所属する企業の長からの推薦書、自己申告書、出身学校長からの調査書の内容及び面接試験（口頭試問及び簡単な筆答試験）の結果を総合して行います。

4. 選抜試験の日時及び場所

期 日	区 分	時 間	場 所
9月15日(金)	面接試験	9時00分から	新居浜工業高等専門学校

(略)

(出典 平成19年度専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

準学士課程の推薦選抜では、入学者受入方針にしたがった面接項目を定め、評価基準を設定して実施している。学力選抜では、入学者受入方針にしたがって数学と理科について重みをつけた傾斜配点を採用し、実施している。

高等学校からの編入学生選抜では、入学者の選抜は学力試験および面接試験の結果および調査書を総合して行っている。学力試験は、入学者受入方針にしたがって数学を必須として、理科または専門科目を選択として課している。面接試験は入学者受入方針にしたがった面接項目を定め、実施している。

(2) 専攻科課程

専攻科入学者の推薦選抜および社会人特別選抜では面接試験の結果に基づき、また、学力選抜で

は学力試験および面接試験の結果に基づき、入学者受入方針にしたがって合格者を決定している。

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

（観点に係る状況）

（1）準学士課程

入学直後に数学の一斉テストを行い、推薦選抜と学力選抜の入学者について比較検討している。その結果、平成18年度は推薦選抜による入学者の平均点が78.2点、学力選抜の入学者の平均点は71.0点であった。平成16年度および平成17年度も同様に推薦選抜による入学者の平均点の方が学力選抜よりも高かった。これをもとに教務委員会で入学者選抜方法を検討し、推薦選抜による学生の受入を増やすために推薦基準および受入れ人数を変更した（資料4-2-②-1）。

（2）専攻科課程

面接員へのアンケートを通じて、入学者受入方針と面接内容との関連性や面接評価方法の改善について検討している（資料4-2-②-2，資料4-2-②-3）。専攻科生への勉学アンケートによる調査などを行い、その結果について解析している（資料4-2-②-4，資料4-2-②-5）。これより専攻科入学生の英語力が十分ではなく、入学者受入方針に沿った学生を受け入れているとは言いがたいことから、平成18年度入学者学力選抜から筆記試験に英語を加えることとした（資料4-2-②-6）。さらに、平成20年度入学者選抜からのTOEICスコアによる英語筆記試験免除制度についても検討している（資料4-2-②-7）。

はばだけ！
未来へ
2007

- ダイジェスト -

入試制度が変わる！ 新居浜高専

○次のような生徒を求めています

新居浜高専は未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しています。そのために、次のような生徒を求めています。

- 数学や理科が好きな人
- ものづくりが好きな人
- 実験が好きな人
- まじめにこつこつ勉強できる人

このような生徒であれば、どの学科に入っても、入学時の成績よりも、入学後の努力で優れた技術者として卒業することができます。この点を配慮して、入試制度を次のように変更しました。



○推薦選抜の募集人員増 および 試験会場増

- 1) 推薦選抜の募集人員が35%程度から40%程度になりました。
1学科あたり入学定員40名中、16名程度になりました。
- 2) 推薦選抜を志願できる条件のうち、

▲変更前

「第3学年の1学期と2学期を通した5科目（国語・社会・数学・理科・英語）の5科目の5段階評価の平均が4.0以上または第3学年の1学期と2学期を通した理科および数学の評定が5である人」が、

▼変更後

「第3学年の1学期と2学期を通した5科目（国語・社会・数学・理科・英語）の5科目の5段階評価の平均が3.8以上または第3学年の1学期と2学期を通した理科および数学の評定が4.5以上である人」のように変更しました。

- 3) 推薦面接会場を増設します。新居浜高専と松山地区の2会場になりました。
- 4) 推薦選抜日程

事 項	推 薦 選 抜
願書受付	平成19年1月 9日（火）～1月12日（金）
面接日	平成19年1月21日（日）
面接会場	新居浜高専、松山地区
合格者発表	平成19年1月24日（水）9時

○学力選抜の受け入れ学科枠増 および 試験会場増

- 1) 入学志望学科は第3志望まで選ぶことができます。
今までは第2志望まででしたが、第3志望まで選ぶことができるようになりました。
- 2) 学力選抜の試験会場が3ヶ所から5ヶ所に増えました。
- 3) 日程

事 項	学 力 選 抜
願書受付	平成19年2月 1日（木）～2月 8日（木）
学力検査日	平成19年2月18日（日）
試験会場	新居浜高専、松山地区、宇和島地区、徳島県三好地区、広島県福山地区
合格者発表	平成19年2月22日（木）9時



メールマガジン配信中！ 高専生活や入試など、“新居浜高専の今”をお知らせします。
ぜひ、高専のホームページにアクセスして登録してください。

新居浜高専のホームページは

<http://www.niihama-nct.ac.jp/>

わからないことがあったら…

0897-37-7724・7725

学生課教務係

君はどちらを選ぶか？

就職率

100%の就職

それとも

工学・農学系

国立大学進学

（出典 中学校説明会用資料）

資料 4-2-②-2

面接試験に関するアンケートについて

面接試験内容を改善するための資料として使用しますので、以下のアンケートにお答えください。
専攻名 ()

1. 面接試験において評価の困難な項目はありましたか。
2. 面接試験の各項目の重みづけは適切だと思いますか？
3. 面接試験の基礎学力を問う問題のレベル及び内容は適切でしょうか？
4. 質問項目に追加すべき項目や削除すべき項目があればご記入ください。
5. その他、御意見があれば御記入ください。

以上、御協力ありがとうございます。

(御参考)

専攻科では、面接試験において、以下のアドミッションポリシーの 1, 3, 4, 5 を主に評価することとしています。

1. 専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人
2. 専門とする技術分野の基礎学力をもっている人
3. 特定の専門だけではなく、幅広く工学全般に興味をもっている人
4. 自ら進んで勉学に取組み、向上し続けようとする意欲をもっている人
5. 広く社会に貢献する熱意をもっている人

(出典 平成 19 年度専攻科入学者選抜における面接員へのアンケート)

資料 4-2-②-3

第 5 回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成 18 年 6 月 1 日 (木) 16:10~18:30
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者： 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)
田中(電子)、池内(材料)、古城(数理代理)、尾崎(一般)
井上(教務係主任)

(略)

(2) 入試面接担当者へのアンケート結果について

平成 19 年度の専攻科推薦選抜試験の面接員に対するアンケート集計結果について専攻科長より報告があった。約 70%の面接員は、現在の審査内容で適当であるとの回答であったが、面接審査項目の重み係数、口頭試問の難易度等についての改善に関する意見もだされている。このアンケートの内容を参考にし、来年度の面接審査内容について、検討を進めることになった。

(略)

(出典 平成 18 年度第 5 回専攻科教育委員会議事録より抜粋)

勉学に関するアンケート（専攻科）

教育改善のための参考にしますので、以下の設問に回答してください。

(略)

【4】教育内容について

1. 自分の所属する専攻（プログラム）の「学習・教育目標」を知っていますか。

よく知っている	だいたい知っている
あまり知らない	全く知らない

2. 講義科目について（複数回答可）

このままでよい
基礎学力の充実を図るようにしてほしい
分野は狭くても良いので、もっと深く専門的にしてほしい
幅広く、色々な分野の勉学ができるカリキュラムにほしい
その他（具体的に書いてください）

3. 在学中にどんな能力を伸ばしたいと考えていますか。（複数回答可）

専門知識	専門以外の工学知識
一般教養	論理的思考力
問題解決力・課題発見力	コンピュータ活用力
英語力	日本語コミュニケーション能力
プレゼンテーション能力	その他（具体的に書いてください）

4. 授業内容をもっと充実してほしいと思う科目は何ですか。（複数回答可）

特にない	英語
数学	教養科目
専門に関する講義科目	専門の実験・実習
コンピュータ活用科目	インターンシップ（企業実習）
ものづくり科目	特許関連科目
経営・ベンチャー関連科目	技術者倫理関連科目
環境・廃棄物関連科目	その他（具体的に書いてください）

5. 4で「教養科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。

6. 4で「専門の講義科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。

7. 苦手とする分野は何ですか。（複数回答可）

特にない	英語
数学	教養科目
専門に関する講義科目	専門の実験・実習
コンピュータ活用科目	その他（具体的に書いてください）

8. 7で「教養科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目が苦手ですか。

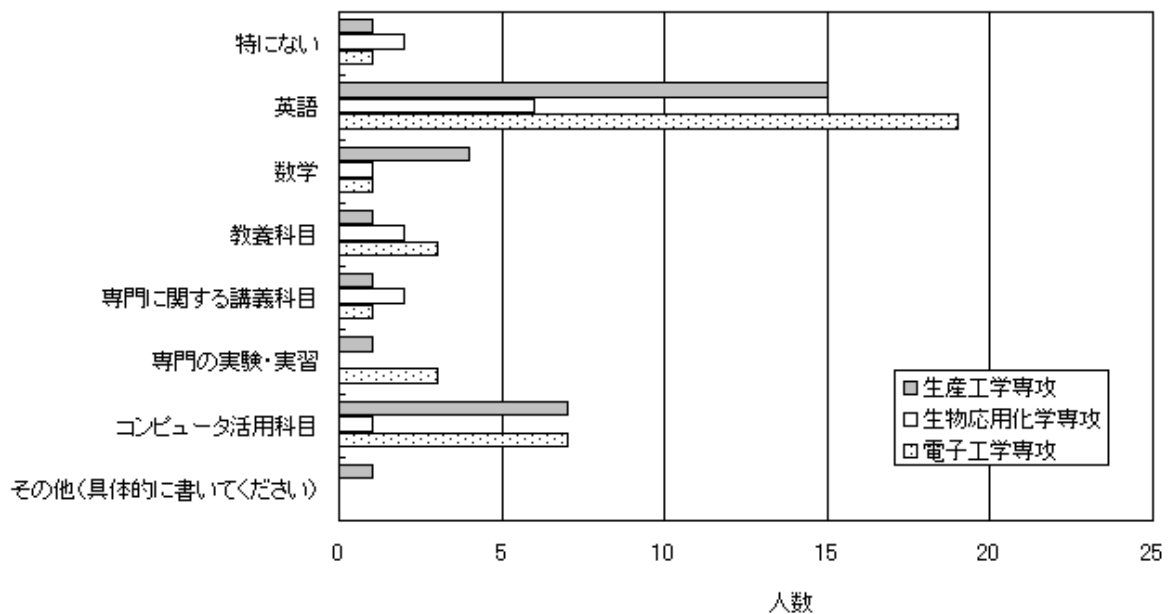
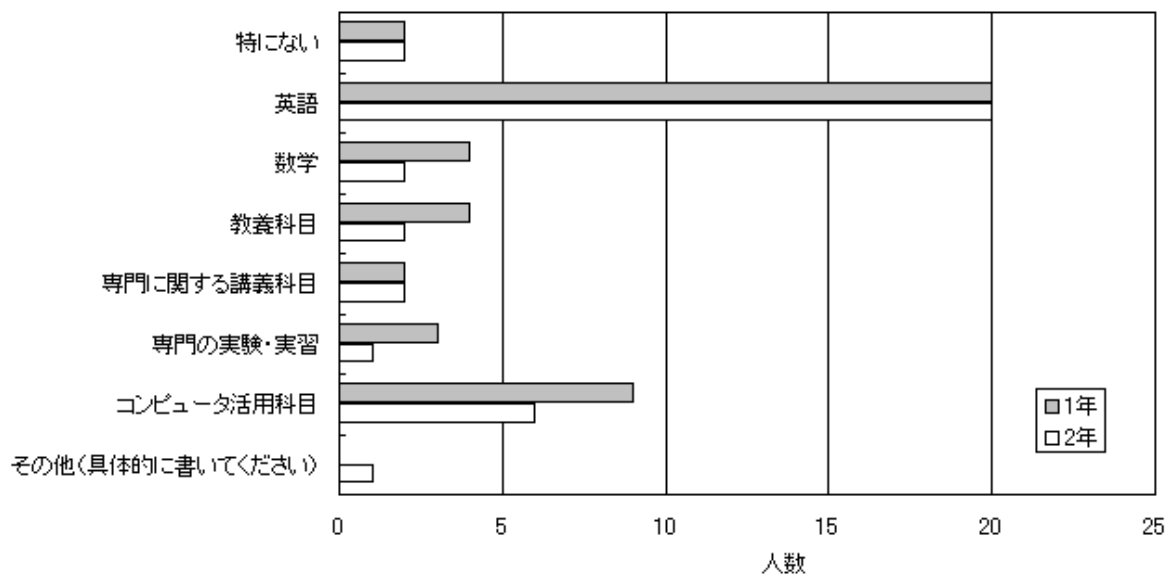
9. 7で「専門の講義科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目が苦手ですか。

(略)

(出典 専攻科勉学アンケート)

資料 4 - 2 - ② - 5

7. 苦手とする分野は何ですか。(複数回答可)



(出典 専攻科勉学アンケート)

資料 4 - 2 - ② - 6

平成 16 年度第 12 回専攻科教育委員会議事概要

日 時：2月 24 日 (木) 午後 5 時から 6 時 30 分まで

場 所：教職員連絡コーナー南

出席者：専攻科長、池内専攻主任、馬淵専攻主任、衣笠専攻主任、豊田先生、榊原先生、川崎先生、脇係長、西原主任、岡山課長

記録：中川、 文責：専攻科長 中川克彦

(略)

3) 平成 18 年度専攻科入試の改訂に関する各学科及び科の意見について (専攻科長)

・これまでの 3 回の継続審議の結果について確認を行い、英語の導入について各専攻毎の意見が述べられた。

a) 生産工学専攻：英語の導入については賛成である。

JABEE プログラムにおけるプログラム修了要件に TOEIC 400 点を入れない。英語の到達レベルは、会社の研修・講習についてゆける程度を想定する。

b) 生物応用化学専攻：英語の導入については賛成である。

JABEE プログラムにおけるプログラム修了要件に TOEIC 400 点を入れない。

英語の到達レベルは、400 点を目標とすることを明記する。

c) 電子工学専攻：英語の導入については賛成である。

JABEE プログラムにおけるプログラム修了要件に TOEIC 400 点を入れない。

英語の到達レベルは、400 点相当し、できれば平成 18 年度入学生より、専攻科の修了要件へ入れたい。

以上より、平成 18 年度専攻科入試の学力試験へ英語の導入が決定された。

・ 専攻科入試の学力試験における英語試験の免除レベルについて議論が行われ、大学編入学における英語免除のレベル等を考慮し、英検準 1 級相当に決まる。

・ 数学の導入については、今後、継続審議することとなった。

(略)

(出典 平成 16 年度第 12 回専攻科教育委員会議事録)

資料 4 - 2 - ② - 7

第 16 回専攻科教育委員会議事録

1. 日時 平成 19 年 1 月 18 日 (木) 16:10~18:40

2. 場所 第 3 会議室

3. 出席者： 早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)、衣笠(専攻主任)

田中(電子)、池内(材料)、川崎(数理)、尾崎(一般)

平松(教務係)

(略)

(1) 専攻科入試への TOEIC 導入について

各学科・科で TOEIC の点数による英語試験免除について検討を行った結果を基に、審議を行った。「TOEIC400 点以上(IP テスト可、2 年以内)で英語試験 80 点に換算」、を専攻科教育委員会案とすることになった。

(略)

(出典 平成 18 年度第 16 回専攻科教育委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

入学時の数学テストの成績を推薦選抜による入学者と学力選抜の入学者で比較することにより、入学者受入方針に沿った選抜が行われているかどうか、検討している。その結果から、推薦選抜の基準の見直しなどの改善を行っている。しかし、総合的な検証としては十分といえず、入学後の成績の追跡調査の実施などを検討すべきである。

(2) 専攻科課程

面接員へのアンケートを通じて、入学者受入方針と面接内容との関連性や面接評価方法の改善について検討している。また、専攻科生への勉学アンケートによる調査を行い、その結果から学力選抜への英語の筆記試験導入などの改善を行っている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

準学士課程の実入学者数は、入学定員を大幅に超えたり、又は大幅に下回るような状況にはなっていない(資料4-3-①-1)。

平成18年度入学者選抜試験における全体の志願者数は1.3倍であり、平成17年度(1.5倍)と比べ減少している。学科別では電気情報工学科(1.4倍)が前年度(1.0倍)よりも回復した以外は、すべて減少した。そのため、中学校へのPR訪問を強化するなど志願者増員対策を行った結果、平成19年度入学者選抜試験における全体の志願者数は1.67倍(学力選抜では2.0倍)となり、全学科において志願者数が前年度より大幅に増加した。

(2) 専攻科課程

各専攻の実入学者数が定員の約2倍までであれば、講義、演習、実験・実習の各科目において支障がないことより、専攻科課程の実入学者数は、入学定員の約200%までとしている。各専攻においてこれまで、実入学者数が定員を大幅に上回ったり、下回ったことはないが、平成19年度入学生については、専攻科としての入学定員は確保しているが、生産工学専攻においては定員確保のために学外に働きかけるなどの活動を行ったにもかかわらず、3名の欠員となった(資料4-3-①-2、資料4-3-①-3)。これに対して生産工学専攻では、準学士課程4年次の学生に課外特別活動の進路指導において専攻科をPRするなど活動を強化した。その結果、平成18年度末の調査においては、専攻科課程進学希望者数は定員を十分満たしている。

資料4-3-①-1

本科年度別志願者数

年度	H19	18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8
志願者数	334	252	302	262	350	325	368	350	353	361	285	298
受験者数	330	249	302	260	344	321	368	350	353	360	285	298
合格者数	213	209	212	209	208	203	205	207	209	210	209	204
入学者数	213	205	211	208	204	200	204	206	208	208	208	203

本科年度別志願倍率

年度	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8
志願倍率	1.7	1.3	1.5	1.3	1.8	1.6	1.8	1.8	1.8	1.8	1.4	1.5

平成 19 年度入学志願者概況

区分	入学定員	志願者数											
		合計				学力試験				推薦入試			
学科名		男	女	計	倍率	男	女	計	うち推薦不合格者		男	女	計
									男	女			
機械工学科	40	88	1	89	2.2	71	0	71	12	0	29	1	30
電気情報工学科	40	48	7	55	1.4	35	2	37	9	0	22	5	27
電子制御工学科	40	62	0	62	1.6	43	0	43	10	0	29	0	29
生物応用化学科	40	31	39	70	1.8	24	28	52	11	10	18	21	39
材料工学科	40	48	10	58	1.5	39	8	47	0	0	9	2	11
計	200	277	57	334	1.7	212	38	250	42	10	107	29	136

平成 18 年度入学志願者概況

区分	入学定員	志願者数											
		合計				学力試験				推薦入試			
学科名		男	女	計	倍率	男	女	計	うち推薦不合格者		男	女	計
									男	女			
機械工学科	40	52	0	52	1.3	50	0	50	0	0	2	0	2
電気情報工学科	40	52	4	56	1.4	43	1	44	0	0	9	3	12
電子制御工学科	40	39	1	40	1.0	28	1	29	0	0	11	0	11
生物応用化学科	40	29	33	62	1.6	21	25	46	1	6	9	14	23
材料工学科	40	33	9	42	1.1	32	8	40	0	0	1	1	2
計	200	205	47	252	1.3	174	35	209	1	6	32	18	50

(出典 新居浜高専データベース)

資料 4-3-①-2

専攻科年度別志願者数

年度	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11
志願者数	42	39	52	43	50	48	38	43	39
受験者数	41	38	52	39	42	43	37	43	38
合格者数	30	29	34	28	28	30	33	37	35
入学者数	25	26	32	28	26	26	30	33	26

専攻科年度別志願倍率

年度	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11
志願倍率	2.1	1.95	2.6	2.2	2.5	2.4	1.9	2.2	2.0

平成19年度専攻科入学試験状況

区分 専攻名	入学 定員 (A)	志願者数 (B)			志願 倍率 (B/A)	受験者数			合格者数			入学者数		
		男	女	計		男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産工学専攻	8	10	0	10	1.3 倍	10	0	10	6	0	6	5	0	5
生物応用化学専攻	4	6	3	9	2.3 倍	6	3	9	4	3	7	3	2	5
電子工学専攻	8	21	2	23	2.9 倍	20	2	22	16	1	17	14	1	15
計	20	37	5	42	2.1 倍	36	5	41	26	4	30	22	3	25

注 ()は社会人で内数。該当のある場合のみ計上

平成18年度専攻科入学試験状況

区分 専攻名	入学 定員 (A)	志願者数 (B)			志願 倍率 (B/A)	受験者数			合格者数			入学者数		
		男	女	計		男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産工学専攻	8	12	0	12	1.5 倍	12	0	12	11	0	11	10	0	10
生物応用化学専攻	4	7	0	7	1.8 倍	7	0	7	7	0	7	6	0	6
電子工学専攻	8	19	1	20	2.5 倍	18	1	19	11	0	11	10	0	10
計	20	38	1	39	2.0 倍	37	1	38	29	0	29	26	0	26

注 ()は社会人で内数。該当のある場合のみ計上

(出典 新居浜高専データベース)

資料4-3-①-3

From: Yukihiro Toyoda <toyoda@mec.niihama-nct.ac.jp>

Date: Wed, 19 Jul 2006 15:57:26 +0900

To: Motoshi Hara <hara@it.matsue-ct.ac.jp>

Cc: hayase@chem.niihama-nct.ac.jp

Subject: お願いのこと

松江工業高等専門学校

情報工学科

原先生

7月末までに提出される自己点検書（本文編、引用裏付け資料編）の作成に、お忙しい最中と存じ上げます。

本日は、お願いがあり連絡させて頂いております。

貴校では、既に専攻科の入学試験（推薦選抜学力試験）が終了していることと思いますが、もし、どうしても専攻科進学を希望している学生さん（機械系出身および材料系出身）で、新居浜高専専攻科生産工学専攻を受験して頂けそうな方がおられましたら、学力二次試験のご案内に伺いたいのですが、如何でしょうか？

誠に厚かましいお願いですが、該当される方をご存じでありましたらご一報を頂きたく御協力をお願い申し上げます。

 国立高等専門学校機構
 新居浜工業高等専門学校
 生産工学専攻主任
 機械工学科教授
 豊田幸裕

From: Nobuki HAYASE <hayase@chem.niihama-nct.ac.jp>

Date: Mon, 24 Jul 2006 11:06:49 +0900

To: nishioka@anan-nct.ac.jp

Cc: toyoda@mec.niihama-nct.ac.jp

Subject: 専攻科入学希望者について

阿南工業高等専門学校
 西岡 先生

専攻科生交流会ではお世話になりました。
 新居浜高専の早瀬です。

本日は、お願いがあり連絡させていただいています。

本校では、専攻科の入学試験（推薦入学、学力一次）を終了していますが、生産工学専攻（機械、材料系）の定員確保が新居浜高専本科からの受験生だけでは難しい状況にあります。

貴校では、既に専攻科の入学試験（推薦選抜、学力試験）が終了していることと思いますが、専攻科進学を希望している学生さん（機械系出身および材料系出身）で、新居浜高専専攻科生産工学専攻を受験して頂けそうな方がおられましたら、学力二次試験のご案内に伺いたいのですが、如何でしょうか？

誠に厚かましいお願いですが、該当される方をご存じでしたらご一報を頂きたく御協力をお願い申し上げます。

新居浜工業高等専門学校
 専攻科長 早瀬伸樹
 TEL : 0897-37-7837
 FAX : 0897-37-7777

E-mail : hayase@chem.niihama-nct.ac.jp

（出典 専攻科長、専攻主任によるメール）

（分析結果とその根拠理由）

（１）準学士課程

準学士課程の入学定員と実入学者数との関係は適切である。しかし、今後一層 15 歳人口が減少することが見込まれるので、本校の教育に適した入学者の確保のための入試広報活動など、継続的な努力を行っている。

(2) 専攻科課程

専攻科の実入学者数は入学定員の約200%までとしており、教室の確保や各科目における教員の対応に関して特に問題はない。したがって、専攻科課程の入学定員と実入学者数との関係は適切である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

現在の準学士課程の入学者受入方針には求める学生像しか明記されておらず、選考方法は記載されているが、入学者選抜の基本方針は明文化されていない。

また、入学者受入方針に沿った選抜が行われていることの検証方法は、入学後の追跡調査の実施などにより改善していく必要がある。

(3) 基準 4 の自己評価の概要

(1) 準学士課程

教育理念に沿った全学科共通および各学科ごとの入学者受入方針は平成 16 年度末に策定され、「学生募集要項」，「学校案内」，「編入学生募集要項」に記載されているだけでなく、ホームページにより社会に明確に公表している。本校教員に対しては、「学生募集要項」などの配布によって周知するだけでなく、学科会議で推薦選抜の面接項目を事前検討する際に周知している。

準学士課程入学者の選抜は、推薦選抜においては入学者受入方針に基づいた面接項目を定めて実施し、学力選抜においては数学と理科に重みをつけた傾斜配点で実施しており、いずれも入学者受入方針に沿った方法でおこなっている。編入学生の選抜は、学力試験の科目や面接試験の項目を適切に定めて、入学者受入方針に基づいた方法で実施している。

受入れ状況については入学時の数学テストによって検証し、選抜方法の改善に活用している。

準学士課程の実入学者数は、入学定員を大幅に超えたり、大幅に下回るような状況にはなっておらず、適正を保っている。

(2) 専攻科課程

専攻科の教育目的に沿った入学者受入方針は平成 17 年度に策定され、ホームページなどを通じて社会に公表されている。本校教員に対しては、「学生募集要項」などを配布することによって周知している。

専攻科課程の入学者選抜は、学校長推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜の面接試験において入学者受入方針にしたがった面接項目で実施している。また、学力選抜の筆記試験では入学者受入方針にしたがって英語および専門科目を実施している。

入学者受入方針に沿った学生が入学しているかどうかは、勉強アンケートなどによって検証し、その結果を踏まえて筆記試験の科目に英語を加えるなどの改善をおこなっている。

専攻科への入学者は、定員の2倍まで受け入れることにしているが、施設、設備、教育、研究において支障のない程度であり、実入学者数は適正を保っている。

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点 5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

授業科目は「本科履修要覧」に示されており、その内容はシラバスに記載されている（資料 5-1-①-1，訪問調査資料 平成 18 年度シラバス）。授業科目は、各学科の教育目標を達成できるように系統的に配置されている（資料 5-1-①-2）。

数学，物理，化学，英語は，専門を学習するために特に必要な基礎科目として必修にしている。学校の教育目標「課題発見と問題解決のための確かな知識，豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために重要な講義科目と実験実習科目，卒業研究を必修または選択必修としている。また，「豊かな教養と技術者としての倫理観を養い，社会に貢献できる広い視野を育む」を達成するために，すべての学科で「技術者倫理」を導入するとともに，選択科目を含む豊富な一般教養科目を用意している。

各学科では，「課題発見と問題解決のための確かな知識，豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために，「専門知識」および「デザイン能力」や「問題解決能力」を身に付けさせることを目的として授業科目を配置している。機械工学科では，「デザイン工学演習」「総合実習」「創造設計製作」などを適切に配置し，ものづくりを通じたデザイン能力を育成している。電気情報工学科では，「電気情報実習」「電気情報工学実験」などを適切に配置し，電気・情報・通信分野におけるシステムの問題解決に取り組める能力を育成している。電子制御工学科では，「電気電子実験」「電子制御実験」「電子創作実習」などを適切に配置し，課題を解決するためのアイデアを立案し，自主的に継続して問題解決に取り組める能力を育成している。生物応用化学科では，「生物応用化学実験」などを適切に配置し，身に付けた基本的な知識と技術を継続的に向上させ，応用化学や生物工学の課題に対応できる能力を育成している。材料工学科では，「材料工学入門」「材料工学実験」「総合実習」などを適切に配置し，専門知識を活用し，問題解決に向けて自主的に考える能力を育成している。

なお，電気情報工学科と生物応用化学科では，学生が各自の興味に応じて専門分野の知識を深めることができるように，4年生においてそれぞれ電気工学と情報工学，および応用化学と生物工学のコースが設定されている（資料 5-1-①-3，資料 5-1-①-4）。

平成18年度開講科目

一 般 科 目

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
18110	国語	国語 1	3	1組・2組・4組 野田 3組・5組 野口	前2 後4					
18120		国語 2	3	M・E・D 森長 C・Z 野口		前4 後2				
18130		国語 3	2	M・E 森長 D・C・Z (長原)			2			
18140		国語 4	1	M・E・Z 野田 D・C (長原)				2	M・E・C Z 前期 D 後期	
18151	社会	倫理	2	谷本	2					
18160		政治・経済	2	井上				2		
18170		歴史 1	2	(板野)		2				
18180		歴史 2	2	鹿毛			2			
18190		地理	2	(白石)	2					
18200	数学	* 数学 A-1	4	1組 (加地) 2組 (近藤貞) 3組・5組 西谷 4組 古城	4					
18210		* 数学 A-2	4	1組 (M・C 基礎) 古城 2組 (M・C 発展) 柳井 3組 (E・D・Z 基礎) 柳井 4組 (E・D・Z 基礎) 古城 5組 (E・D・Z 発展) (篠原)		4				
18222		* 数学 A-3-1	2	M・E 千葉 D (篠原) C・Z 小山			前4			
18223		* 数学 A-3-2	2	M・E 千葉 D (篠原) C・Z 小山				後4		
18230		* 数学 B-1	2	1組・2組 小山 3組・4組・5組 柳井	2					
18240		* 数学 B-2	2	1組 (M・C 基礎) (近藤貞) 2組 (M・C 発展) 三井 3組 (E・D・Z 基礎) 三井 4組 (E・D・Z 基礎) 西谷 5組 (E・D・Z 発展) (加地)		2				
18250		* 数学 B-3	2	M・E 西谷 D・Z 千葉 C 川崎			2			
18270	理科	* 物理 1	2	1組 平木 2組・4組 (前)平木 (後)矢野 3組・5組 大村	2					
18281		* 物理 2	3	M・C・Z 平木 D 竹田 E (前)平木 (後)竹田		前2 後4				
18299		* 化学 1	3	1組・3組・5組 矢野 2組・4組 柴田	前4 後2					
18300		* 化学 2	2	M・E・D・Z 柴田 C 矢野		2				
18310	保健体育	体育 1	2	安藤	2					
18320		武道	1	茅田	前2					
18330		体育 2	2	今城		2				
18340		保健	1	M・E・D・C 茅田 Z 今城			後2			
18350		体育 3	2	M・D 安藤 E (高橋清) C (松木) Z 今城			2			
18360		体育 4	1	M・Z (高橋清) E・D (近藤邦) C (松木)				後2		
18370		体育 5	1	M 今城 E・D (近藤邦) C (松木) Z (高橋清)					前2	
18380	芸術	音楽	1	(稻見嘉)	2	前期1クラス 後期1クラス				1科目を選択
18390		美術	1	(齊藤)	2	前期2クラス 後期1クラス				

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
18403	英会話 1	1	(ウルフ)	後2					} 1科目を選択
18401	* 英語 1	4	1組・3組・5組 塚野 2組・4組 鴻上	4					
18411	* 英語 2 A	2	M・E・C (森実) D (坂田) Z 尾崎		2				
18431	* 英語 2 B	3	M・E・C 野村 D・Z 佐渡		前4 後2				
18432	* 英語 3	1	M・E・D 佐渡 C・Z 野村			後2			
18440	技術英語 1	2	M・D 佐渡 E 鴻上 C・Z 野村 M・E・D・C・Z タベッシュ			2			
18404	英会話 2	1	(ウルフ)			前2			
18450	技術英語 2	2	M・C・Z (後藤) E・D (坂田)				2		
18460	時事英語	2	尾崎・タベッシュ					2	
18470	初級独語	2	(ウイランド) (田淵)				2		
18475	初級中国語	2	野田 (欧)				2		
18462	中級英会話	1	(ウルフ)					前2	
18481	独語会話	1	(ウイランド)					前2	
18497	応用倫理学	2	谷本					2	
18501	法 学	2	井上					2	
18510	歴史特論	2	鹿毛					2	
18520	自然科学史	2	竹田					2	
18533	国語特講	2	野口					2	} 1科目を選択
18534	実用英語	2	佐渡・タベッシュ					2	
18535	総合英語	2	鴻上					2	
18485	中国語会話	2	(欧)					2	
18537	環境と人間	1	松田・馬淵・深山・早瀬・谷					前2	
開設単位計		100		28	24	16	10	22	
履修単位計		83 (84)		27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合

(注) *の付いた授業科目は4年次修了までに修得していなければならない。

特別活動

18590	特別活動(1学年)	30	鹿毛(谷口)・安藤(横山)・矢野(栗原)・野田(西井)・大村(松原)	30					
18640	特別活動(2学年)	30	森長(刑部)・井門(香川)・佐渡(占部)・三井(牧)・柴田(日野)		30				
18690	特別活動(3学年)	30	下村(尾崎)・鴻上(稲見)・白井(千葉)・間淵(川崎)・谷(古城)			30			
履修単位時間数		90		30	30	30			

平成18年度開講科目

機械工学科

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
11111	応用数学 A	2	(上出)				2		自由選択
11113	確率統計	1	三井				前2		
10111	数学特別演習	2	千葉				2		
11120	応用物理 1	2	大村			2			
11132	応用物理 2	1	竹田				前2		
11133	応用物理 3	1	竹田				後2		
11150	情報処理	3	(今村)			前2 後4			
11160	数値計算	1	下村・宮田				後2		
11161	機械工学入門	1	全教員	後2					
11171	金属材料	2	(林)			2			
11173	非金属材料	1	刑部					後2	
11190	材料力学 1	2	(前)北住 (後)鎌田			2			
11200	材料力学 2	2	北住				2		
11210	材料力学 3	2	北住					2	
11220	熱力学	2	下村				2		
11230	熱機関	1	下村					後2	
11250	水力学	2	松田				2		
11270	流体機械	1	松田					前2	
11281	機械工作法	2	石井		2				
11291	メカトロニクス基礎	1	豊田・宮田			後2			
11301	メカトロニクス応用	2	豊田				2		
11311	塑性加工学	2	(松本)					2	
11320	計測工学	2	刑部				2		
11331	機械制御	2	豊田					2	
11340	機構学	2	谷口			2			
11350	機械力学	1	谷口					後2	
11360	機械設計法	1	(永田)				前2		
11380	電気工学概論 1	2	(奥坂)				2		
11390	電気工学概論 2	2	(奥坂)					2	

授業 番号	授業科目	単 位数	担 当 教 員	学年別毎週授業時間数					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
11400	化学工学概論	1	(松岡)					前2	
11440	インターンシップ	2					2		
11139	情報リテラシー	1	下村	前2					
11805	デザイン工学演習	1	鎌田・吉川・谷脇		前2				
11812	○機 械 製 図 1	2	鎌田・谷脇	2					
11821	○機 械 製 図 2	4	刑部		4				
11831	○C A D 製 図	3	吉川			前4 後2			
11841	○創造設計製作	4	谷口・吉川・鎌田				4		
11855	○機械設計製図	2	松田・谷脇					前4	
11860	○工 作 実 習 1	3	石井	3					
11870	○工 作 実 習 2	3	石井		3				
11871	○総 合 実 習	3	石井			3			
11881	○工学基礎実験	1	刑部・松田・鎌田・北住・ 宮田		後2				
11891	○工 学 実 験 1	3	全教員				3		
11901	○工 学 実 験 2	1.5	全教員					前3	
11920	○卒 業 研 究	12	全教員					前 7 後10	
10700	技 術 者 倫 理	1	吉川・佐藤・榊原・衣笠・ 高橋・谷本					後2	
10800	経 営 工 学	1						後2	
専 門 科 目 履 修 単 位 計		94.5 (96.5)		7	11	18	28 (30)	30.5	()は数学特別 演習を履修した 場合
一 般 科 目 履 修 単 位 計		83 (84)		27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話 または独語会話 を履修した場合
合 計		177.5 (180.5)		34	35	34	36 (38)	38.5 (39.5)	()は数学特別演 習と中級英会話 または独語会話 を履修した場合

- (注) 1. 授業科目欄の○印は、必修科目を示す。
 2. 「卒業研究」は、単位数12とする。
 3. 「インターンシップ」は、原則として夏季休業中に実施する。

授業 番号	授業科目	単 位数	備 考
11550～ 11552	課 題 演 習	別 に 定める	

平成18年度開講科目

電気情報工学科

授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
17111	応用数学 B	2	川崎				2		自由選択
17112	確率統計	1	三井				前2		
10111	数学特別演習	2	小山				2		
12120	応用物理 1	2	大村			2			
12130	応用物理 2	1	竹田				前2		
17140	* 情報リテラシー	1	伊月	前2					
17150	* 情報処理基礎	1	先山	後2					
17170	* 電気情報基礎	3	皆本	前2 後4					
17180	* 電気情報基礎演習	1	伊月・皆本・稲見・尾西・平野・香川・横山	1					
17331	* 回路理論 1	2	井門		2				
17353	* 回路理論演習	1	佐藤・馬淵・井門・尾西・王・先山・香川・横山		1				
12332	* 回路理論 2	2	佐藤			2			
17156	* 電気数学 A	2	井門		2				
17157	* プログラミング 1	2	平野		2				
17200	* 電磁気学 1	2	井門			2			
17221	電気電子計測	2	伊月		2				
17814	電気電子製図	1	尾西			後2			
17160	電気数学 B	1	檀上			前2		1科目選択	
17371	電気電子材料	1	馬淵			前2			
12158	プログラミング 2	2	平野			2			
17201	電磁気学 2	1	檀上			前2			
12242	電子工学	1	(小松)			後2			
17260	半導体工学 A	2	(小松)			2			
12365	デジタル回路	2	(前)松村 (後)栗原			2			
12271	基礎電子回路	2	尾西			2			
17270	電子回路	2	王			2			
17320	コンピュータハードウェア	2	(前)王 (後)伊月			2			
17321	画像処理	2	平野			2		1科目選択	
17333	回路理論 3	2	(前)皆本 (後)稲見			2			
17161	数値計算 A	1	檀上			後2			
17390	電気機器 A	2	稲見			2			
12497	電気電子設計	1	伊月				前2		
12411	自動制御 1	1	王			後2			
12421	自動制御 2	2	王				2		
12433	電力工学 B	2	皆本				2		
12450	電気法規	1	(奥坂)				前2		
12470	電波法規	1	(曾根)				後2		
12471	電波工学	1	佐藤				前2		
12472	通信工学	1	佐藤				前2		

授 業 目 番 号	授 業 科 目	単 位 数	担 当 教 員	学 年 別 毎 週 授 業 時 間 数					備 考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
12473	通 信 機 器	1	佐藤					後2	1科目選択	
12264	半 導 体 工 学 B	1	尾西					後2		
13450	ロ ボ ッ ト 工 学	1	(上出)					後2		
13402	情 報 通 信 シ ス テ ム	1	白井					後2		
12382	電 気 機 器 B	2	稲見					2		
12496	機 械 工 学 概 論 C	1	(上出)					後2		
10700	技 術 者 倫 理	1	吉川・佐藤・榊原・衣笠・ 高橋・谷本					後2		
10800	経 営 工 学	1						後2		
12532	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2					2			
電 気 工 学 コ ー ス	12431	電 力 工 学 A	2	檀上				2		
	17490	機 械 工 学 概 論 A	1	(上出)				前2		
	17491	機 械 工 学 概 論 B	1	(松岡)				後2		
	17503	電 気 法 規	1	(奥坂)				後2		
	17504	電 気 電 子 設 計	1	尾西				前2		
環 境 工 学 コ ー ス	17600	情 報 理 論	2	(小松)				2		
	17601	情 報 数 学	2	先山				2		
	17602	ア ル ゴ リ ズ ム と デ ー タ 構 造	2	先山				2		
○	17190	電 気 情 報 実 習 A	1	伊月・皆本・稲見・尾西・ 平野・香川・横山	1					
	17821	電 気 情 報 実 習 B	1	佐藤・馬淵・井門・尾西・ 王・先山・香川・横山		1				
	17830	電 気 情 報 工 学 実 験 1	3	井門・香川・横山			3			
	17831	電 気 情 報 工 学 実 験 2	5	(前)伊月・先山・香川 (後)佐藤・馬淵・檀上・ 平野・王・先山				5		
	12851	電 気 工 学 実 験 3	4	(前)皆本・稲見・横山 (後)尾西・香川・横山					4	
	12870	卒 業 研 究	12	全教員					12	
専 門 科 目 履 修 単 位 計		96 (98)			7	10	18	30 (32)	31	()は数学特別演習を履修した場合
一 般 科 目 履 修 単 位 計		83 (84)			27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合
合 計		179 (182)			34	34	34	38 (40)	39 (40)	()は数学特別演習と中級英会話または独語会話を履修した場合

- (注) 1. 授業科目欄の○印は、必修科目を示す。
 2. 「卒業研究」は、単位数12とする。
 3. 「インターンシップ」は、原則として夏季休業中に実施する。
 4. *の付いた授業科目は4年次修了までに修得していなければならない。

授 業 目 番 号	授 業 科 目	単 位 数	備 考
12550~ 12552	課 題 演 習	別 に 定 める	

平成18年度開講科目

電子制御工学科

授業 番号	授業科目	単 位 数	担 当 教 員	学年別毎週授業時間数					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
13113	応用数学B	2	川崎				2		自由選択
13114	応用数学D	1	古城				前2		
10111	数学特別演習	2	千葉				2		
13120	応用物理1	2	大村			2			
13130	応用物理2	1	竹田				前2		
13140	情報処理1	1	松村	後2					
13150	情報処理2	2	田中		2				
13160	情報処理3	2	田中			2			
13170	電気基礎1	2	今井	2					
13182	電気基礎2	1	白井		前2				
13190	電気磁気学1	1	(青野)			後2			
13200	電気数学	1	榊原				前2		
13203	電気磁気学2	2	出口				2		
13210	電気回路1	2	白井		2				
13220	電気回路2	2	今井			2			
13230	電気回路3	1	稲見				前2		
13231	電気回路4	1	出口				後2		
13240	電子回路1	2	白井			2			
13250	電子回路2	2	出口				2		
13260	デジタル回路1	2	松村		2				
13270	デジタル回路2	1	栗原			前2			
13280	計測工学	1	栗原		前2				
13290	電子計測	2	(前)出口(後)深山					2	
13300	制御工学1	2	深山				2		
13310	制御工学2	1	深山					前2	
13320	計算機制御	2	榊原					2	
13331	電子計算機1	1	栗原			後2			
13341	電子計算機2	2	松村				2		
13350	数値計算	2	(前)田中(後)栗原				2		
13361	情報工学1	1	三井					前2	
13362	情報工学2	1	白井					後2	
13372	電気機器	2	(前)奥坂(後)稲見				2		
13390	電子工学	2	馬淵					2	
13401	電子材料	1	馬淵					後2	

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
13139	情報リテラシー	1	白井・占部	前2					1科目を選択
13421	メカトロニクス基礎	1	(永田)		後2				
13422	メカトロニクス	1	(永田)			前2			
13432	基礎情報数学	1	(篠原)			前2			
13192	電気磁気学3	1	(青野)					前2	
13472	インターンシップ	2					2		
13829	○電気基礎演習	1.5	今井・白井・占部	1.5					
13814	○情報基礎実習2	1	白井・占部			後2			
13824	○電子基礎実習	1.5	(前)出口・松友 (後)榊原・松友	1.5					
13822	○電気電子実験1	1	田中・松友		後2				
13823	○電気電子実験2	3	深山・栗原・白井			3			
13831	○電子制御実験1	3	(前)榊原・占部 (後)今井・占部				3		
13832	○電子創作実習	3	出口・松友				3		
13851	○電子制御実験2	6	(前)田中・今井・松村・占部・松友 (後)深山・栗原・占部・松友					6	
13860	○工学基礎研究	1	全教員				後2		
13870	○卒業研究	12	全教員					前10 後10	
12260	半導体工学	1	尾西					後2	
13402	情報通信システム	1	白井					後2	
13450	ロボット工学	1	(上出)					後2	
12473	通信機器	1	佐藤					後2	
10700	技術者倫理	1	吉川・佐藤・榊原・衣笠・高橋・谷本					後2	
10800	経営工学	1						後2	
専門科目履修単位数計		94 (96)		7	10	17	28 (30)	32	
一般科目履修単位数計		83 (84)		27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合
合計		177 (180)		34	34	33	36 (38)	40 (41)	()は数学特別演習、中級英会話または独語会話を履修した場合

- (注) 1. 授業科目欄の○印は、必修科目を示す。
 2. 「卒業研究」は、単位数12とする。
 3. 「インターンシップ」は、原則として夏季休業中に実施する。

授業番号	授業科目	単位数	備考
13550~ 13552	課題演習	別に定める	

平成18年度開講科目

生物応用化学科

	授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
共通科目	16122	応用数学C	2	川崎				2		自由選択
	16123	確率統計	1	三井				後2		
	10111	数学特別演習	2	小山				2		
	16140	応用物理1	2	大村			2			
	16152	応用物理2	1	竹田				前2		
	16153	応用物理3	1	竹田				後2		
	16159	情報リテラシー	1	勝浦・西井	前2					
	16171	コンピュータサイエンス2	2	勝浦・西井		2				
	16192	微生物学	1	早瀬		前2				
	16200	無機化学1	2	中山			2			
	16210	無機化学2	2	中山				2		
	16220	有機化学1	1	間淵			後2			
	16230	有機化学2	2	間淵			2			
	16240	物理化学1	2	河村			2			
	16250	○物理化学2	2	勝浦				2		
	16270	○化学工学1	2	衣笠				2		
	16280	化学工学2	1	(川崎)					前2	
	16291	基礎生物学1	2	(前)(谷崎)(後)牧	2					
	16292	基礎生物学2	1	牧		前2				
	16191	分析化学	2	桑田			2			
	16310	生物化学1	1	牛尾			後2			
	16320	機器分析	2	桑田				2		
	16330	合成化学	2	中川				2		
	16340	有機工業化学	2	(前)中川(後)(兵田)					2	
	16351	生物物理化学1	1	河村				後2		
	16352	生物物理化学2	1	河村					前2	
	16360	○環境化学	1	牧					後2	
	16371	現代工業化学	1	(谷崎)					後2	
	16380	食品化学	1	中川					後2	
	16390	○工業英語	2	全教員					2	
	16400	生物応用化学演習1A	1	河村・衣笠・勝浦・堤・西井・牧	前2					
	16401	生物応用化学演習1B	1	早瀬・衣笠・勝浦・堤・西井・牧	後2					
	16411	生物応用化学演習2A	1	牛尾・牧		前2				
16412	生物応用化学演習2B	1	早瀬・堤		後2					
16420	生物応用化学演習3A	1	牛尾			前2				
16421	生物応用化学演習3B	1	間淵			後2				
16431	○基礎化学実験	2	衣笠・間淵	前1 後3						
16440	○分析化学実験	3	(前)桑田・西井 (後)桑田・西井・牧		3					
16450	○生物応用化学実験1	4	中山・勝浦			4				

	授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
共通科目	16460	○生物応用化学実験2	4	間淵・堤			4			
	16470	○生物応用化学実験3	1.5	桑田・河村				1.5		
	16480	○生物応用化学実験4	1.5	早瀬・衣笠・西井・牧				1.5		
	16501	○プレゼンテーション技法	1	衣笠・西井				前2		
	16492	○インターンシップ	2					2		
	16510	○卒業研究	12	全教員					前11 後13	
	10700	○技術者倫理	1	吉川・佐藤・榊原・衣笠・高橋・谷本					後2	
	10800	経営工学	1					後2		
応用化学コース	16611	応用化学演習1	1	衣笠				前2		
	16621	応用化学演習2	1	中川				後2		
	16630	有機機能化学	2	(兵田)					2	
	16640	無機機能化学	1	中山					前2	
	16650	材料物性化学	1	曾我部					後2	
	16671	化学工学3	2	(前)衣笠(後)西井					2	
	16680	○応用化学実験1	2	河村・勝浦				2		
	16690	○応用化学実験2	2	衣笠・西井				2		
生物工学コース	16810	生物化学2	1	牛尾				前2		
	16820	生物化学3	1	牛尾				後2		
	16830	微生物工学	1	早瀬					前2	
	16840	生体触媒工学	1	牛尾					前2	
	16850	分子生物学1	1	(谷崎)					前2	
	16860	分子生物学2	1	牛尾					後2	
	16870	細胞遺伝子工学	1	牧					後2	
	16880	醗酵工学	1	早瀬					後2	
	16890	○生物工学実験1	2	堤・牧				前4		
	16900	○生物工学実験2	2	早瀬・堤				後4		
専門科目履修単位数計			95 (97)		7	10	21	28 (30)	29	()は数学特別演習を履修した場合
一般科目履修単位数計			83 (84)		27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合
合計			178 (181)		34	34	37	36 (38)	37 (38)	()は数学特別演習、中級英会話または独語会話を履修した場合

- (注) 1. 授業科目欄の○印は、必修科目を示す。
 2. 「卒業研究」は、単位数12とする。
 3. 「インターンシップ」は、原則として夏季休業中に実施する。

授業科目番号	授業科目	単位数	備考
16550~ 16552	課題演習	別に定める	

平成18年度開講科目

材料工学科

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
15122	応用数学 B	2	川崎				2		自由選択
15123	確率統計	1	三井				後2		
10111	数学特別演習	2	千葉				2		
15130	応用物理 1	2	大村			2			
15140	応用物理 2	1	竹田				前2		
15149	情報リテラシー	1	松原	前2					
15151	情報処理 1	2	(高橋(横))		2				
15163	電算機応用	1	松原			後2			
15474	材料工学演習	2	(前)日野(後)新田		2				
15170	無機化学	1	松原			前2			
15190	物理化学	2	高橋			2			
15201	材料工学入門	2	全教員	2					
15210	材料科学 1	1	相根		後2				
15220	材料科学 2	2	相根			2			
15230	金属材料学 1	2	曾我部				2		
15240	金属材料学 2	2	谷				2		
15250	無機材料学	2	新田				2		
15260	高分子材料学	1	松原					前2	
15270	複合材料	1	松英					前2	
15290	固体物理学	2	相根					2	
15300	材料表面工学	2	新田				2		
15310	材料接合工学	1	高橋					前2	
15320	粉体工学	1	志賀					後2	
15330	金属製造工学	2	(前)高橋(後)谷				2		
15350	材料力学	2	(前)志賀(後)池内			2			
15360	材料強度学	2	池内				2		
15370	材料加工学	2	(前)谷(後)池内				2		
15380	機械工作法	2	(稲見)		2				
15390	機械工作法実習	3	志賀		3				
15400	機械工学概論	1	(松岡)					後2	
15410	電気工学概論	2	(奥坂)			2			

授業番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
15420	計測制御工学	1	(奥坂)					後2	
15430	工業英語	1	松原					前2	
15440	外国語講読	2	全教員					2	
15450	科学演習	2	全教員					2	
16501	インターンシップ	2					2		
15473	材料基礎演習	2	新田・朝日	2					
15810	基礎製図	3	松英・日野	3					
15820	○設計製図	3	松英・日野				前4 後2		
15830	○材料工学実験1	3	相根・新田・朝日				前6		
15840	○材料工学実験2	3	谷・松原・朝日					後6	
15850	○材料工学実験3	3	曾我部・高橋・日野					前6	
15860	○材料工学実験4	3	池内・志賀・松英					前6	
15870	○総合実習	3	池内・松英・日野					前6	
15880	○工学基礎研究	1	全教員					後2	
15890	○卒業研究	12	全教員					前4 後13	
10700	技術者倫理	1	吉川・佐藤・榊原・衣笠・高橋・谷本					後2	
10800	経営工学	1						後2	
専門科目履修単位計		96 (98)		8	10	18	28 (30)	32	()は数学特別演習を履修した場合
一般科目履修単位計		83 (84)		27	24	16	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合
合計		179 (182)		35	34	34	36 (38)	40 (41)	()は数学特別演習、中級英会話または独語会話を履修した場合

- (注) 1. 授業科目欄の○印は、必修科目を示す。
 2. 「卒業研究」は、単位数12とする。
 3. 「インターンシップ」は、原則として夏季休業中に実施する。

授業番号	授業科目	単位数	備考
15550～ 15552	課題演習	別に定める	

(出典 平成18年度本科履修要覧)

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学A
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	数学特別演習	数値計算
		工学基礎実験		確率統計	
	物理1	物理2	応用物理1	応用物理2	応用物理3
	化学1	化学2			
	情報リテラシー		情報処理		経営工学
B (専門知識)	機械工学入門		材料力学1	熱力学	熱機関
			機構学	水力学	化学工学概論
			メカトロニクス基礎	材料力学2	流体機械
				電気工学概論1	材料力学3
				メカトロニクス応用	電気工学概論2
				計測工学	機械制御
				工学実験1	機械力学
			金属材料		工学実験2
					非金属材料
					塑性加工学
	機械製図1	機械製図2	CAD製図	機械設計法	機械設計製図
	工作実習1	工作実習2	総合実習		
		機械工作法			
C (デザイン能力)		デザイン工学演習		工学実験1	工学実験2
				創造設計製作	卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラシー				ヨーロッパ思想特論
	武道				自然科学史
	体育1	保健			応用倫理学
	体育2				環境と人間
	体育3			体育4	技術者倫理
	体育4				体育5
	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講
	音楽			初級独語	中級独語
美術			初級中国語	独語会話	
			インターンシップ	中級中国語	
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講
				創造設計製作	卒業研究
				インターンシップ	
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
		英語2B	英語3		総合英語
				実用英語	
	英会話1	英会話2		英会話3	
F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電気情報工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1 → 数学A-3-2	応用数学B	
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	数学特別演習 確率統計	
	物理1	物理2	応用物理1	応用物理2	
	化学1	化学2		機械工学概論A → 機械工学概論B → 機械工学概論C	
	情報リテラ				経営工学
B (専門知識)				電気機器A → 電気機器B 電力工学A → 電力工学B 自動制御1 → 自動制御2	ロボット工学
		電気電子計測	電気電子材料	電気電子設計	半導体工学
	電気情報基礎	回路理論1	基礎電子回路	電子回路	電波工学
	電気情報基礎演習	回路理論演習	回路理論2	回路理論3	通信工学
		電気数学A	電気数学B	電磁気学2	通信機器
				電気法規	電波法規
	情報処理基礎	プログラミング1	プログラミング2	情報理論	情報通信システム
			デジタル回路	数値計算A	数値計算B
	電気情報実習A	電気情報実習B	電気情報工学実験1	コンピュータハードウェア	コンピュータ応用システム
				アルゴリズムとデータ構造	情報通信ネットワーク
C (能力)				画像処理	OSとアーキテクチャ
				情報数学	ファイルとDB
				電気情報工学実験2	人工知能
					ソフトウェアの設計と開発
					電気工学実験
					情報工学実験
					卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラ				ヨーロッパ思想特論
					自然科学史
	武道	保健			応用倫理学
	体育1	体育2	体育3	体育4	環境と人間 → 技術者倫理
	国語1	国語2	国語3	国語4	体育5
	音楽				国語特講
	美術				初級独語 → 中級独語
				初級中国語 → 中級中国語	独語会話
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	電気工学実験
	電気情報実習A	電気情報実習B	電気情報工学実験1	電気情報工学実験2	情報工学実験
					卒業研究
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
		英語2B	英語3		総合英語
					実用英語
	英会話1		英会話2		英会話3
F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学B
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	応用数学D	
	物理1	物理2	基礎情報数学	数学特別演習	
	化学1	化学2	応用物理1	応用物理2	
	情報リテラシー				経営工学
B (専門知識)	電気基礎1	電気基礎2	電気磁気学1	電気磁気学2	電気磁気学3
	電気基礎演習	電気回路1	電気回路2	電気回路3	電気回路4
			電子回路1	電子回路2	
		デジタル回路1	デジタル回路	電子計算機1	電子計算機2
		計測工学			
		メカトロニクス基礎	メカトロニクス	電気機器	
	情報処理1	情報処理2	情報処理3	数値計算	情報工学1
			情報基礎実習		情報工学2
		電気電子実験1	電気電子実験2	電子制御実験1	電子制御実験2
	電子基礎実習			電子創作実習	
C (能力)					卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラシー				ヨーロッパ思想特論
	武道	保健			自然科学史
	体育1	体育2	体育3	体育4	応用倫理学
	国語1	国語2	国語3	国語4	環境と人間
	音楽				技術者倫理
	美術				国語特講
				初級独語	中級独語
				初級中国語	独語会話
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	電子制御実験2
				電子制御実験1	卒業研究
				工学基礎研究	
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
	英会話1	英語2B	英語3		総合英語
		英会話2		実用英語	
F (性) (社会)	特別活動	特別活動	特別活動		英会話3

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (倫理・技術者)				合成化学 インターンシップ	環境と人間 → 環境化学 有機工業化学 技術者倫理 応用倫理学
	数学A-1 数学B-1 物理1 化学1 生物応用化学演習1A 生物応用化学演習1B 情報リテラシー	数学A-2 数学B-2 物理2 化学2 生物応用化学演習2A 生物応用化学演習2B コンピュータサイエンス	数学A-3-1 → 数学A-3-2 数学B-3 応用物理1 生物応用化学演習3 物理化学1	応用数学C 確率統計 数学特別演習 応用物理2 → 応用物理3 応用化学演習1 → 応用化学演習2 物理化学2 生物物理化学1 化学工学1	
B (専門知識)				無機化学1 有機化学1 分析化学	無機化学2 有機工業化学 有機機能化学 機器分析
	基礎生物学1 基礎化学実験	基礎生物学2 微生物学 分析化学実験	生物化学1 生物応用化学実験1 生物応用化学実験2	生物化学2 → 生物化学3 生物応用化学実験3 生物応用化学実験4 応用化学実験1 応用化学実験2 生物工学実験1 → 生物工学実験2 インターンシップ	分子生物学1 → 分子生物学2 生体触媒工学 → 細胞遺伝子工学 微生物工学 → 醗酵工学 食品化学 卒業研究
C (自己表現)	国語1 英語1 英会話1	国語2 英語2A 英語2B	国語3 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 プレゼンテーション技法 インターンシップ 合成化学 技術英語2	国語特講 卒業研究 有機工業化学 時事英語 工業英語 総合英語 実用英語 英会話3
	地理 倫理 情報リテラシー 武道 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健 体育2 国語2	歴史2 体育3 国語3	インターンシップ プレゼンテーション技法 政治・経済 国語4 初級独語 初級中国語	卒業研究 経営工学 法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学 環境と人間 体育4 → 体育5 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
E (性・社会)	特別活動	特別活動	特別活動		

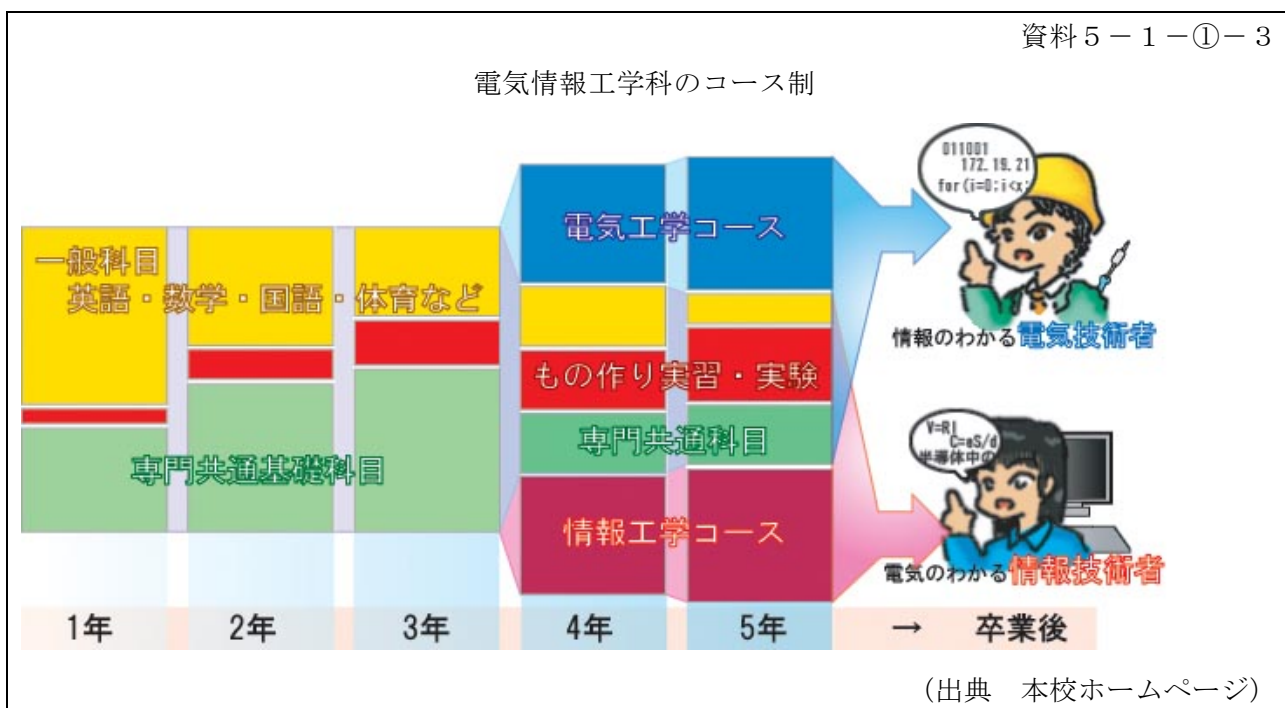
教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (材料工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1 ↑ 材料基礎演習 ↓ 数学B-1	数学A-2	数学A-3-1 → 数学A-3-2	応用数学B ↓ 数学特別演習	
	物理1 ↓ 化学1	物理2 ↓ 化学2	数学B-3 ↓ 応用物理1	確率統計 ↓ 応用物理2	
B (専門知識)	情報リテラシー	情報処理1	情報処理2		経営工学
	材料工学入門 ↓ 基礎製図	材料科学1 ↓ 材料工学演習 ↓ 機械工作法 ↓ 機械工作法実習	材料科学2 ↓ 物理化学 ↓ 無機化学 ↓ 材料力学 ↓ 設計製図 ↓ 電気工学概論 ↓ 材料工学実験1	金属材料学1 ↓ 金属材料学2 ↓ 材料物理化学 ↓ 無機材料学 ↓ 有機化学 ↓ 材料表面工学 ↓ 材料加工学 ↓ 総合実習	複合材料 ↓ 粉体工学 ↓ 機械工学概論 ↓ 環境材料学 ↓ 高分子材料学 ↓ 電子材料学 ↓ 材料強度学 ↓ 材料物性学 ↓ 材料接合工学 ↓ 計測制御工学
C (デザイン能力)				材料工学実験2 ↓ 総合実習 ↓ 工学基礎研究	材料工学実験3 ↓ 材料工学実験4 ↓ 卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理 ↓ 倫理 ↓ 情報リテラシー	歴史1	歴史2	政治・経済	法学 ↓ 歴史特論 ↓ ヨーロッパ思想特論 ↓ 自然科学史 ↓ 応用倫理学 ↓ 環境と人間 → 技術者倫理
	武道 ↓ 体育1 ↓ 国語1 ↓ 音楽 ↓ 美術	保健 ↓ 体育2 ↓ 国語2	体育3 ↓ 国語3	体育4 ↓ 国語4 ↓ 初級独語 ↓ 初級中国語 ↓ インターンシップ	体育5 ↓ 国語特講 ↓ 中級独語 ↓ 独語会話 ↓ 中級中国語
E (コミュニケーション能力)	国語1 ↓ 英語1 ↓ 英会話1	国語2 ↓ 英語2A ↓ 英語2B	国語3 ↓ 技術英語1 ↓ 英語3 ↓ 英会話2	国語4 ↓ インターンシップ ↓ 技術英語2 ↓ 工業英語	国語特講 ↓ 卒業研究 ↓ 時事英語 ↓ 総合英語 ↓ 実用英語 ↓ 英会話3
	F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動	

(出典 各学科(科)作成)

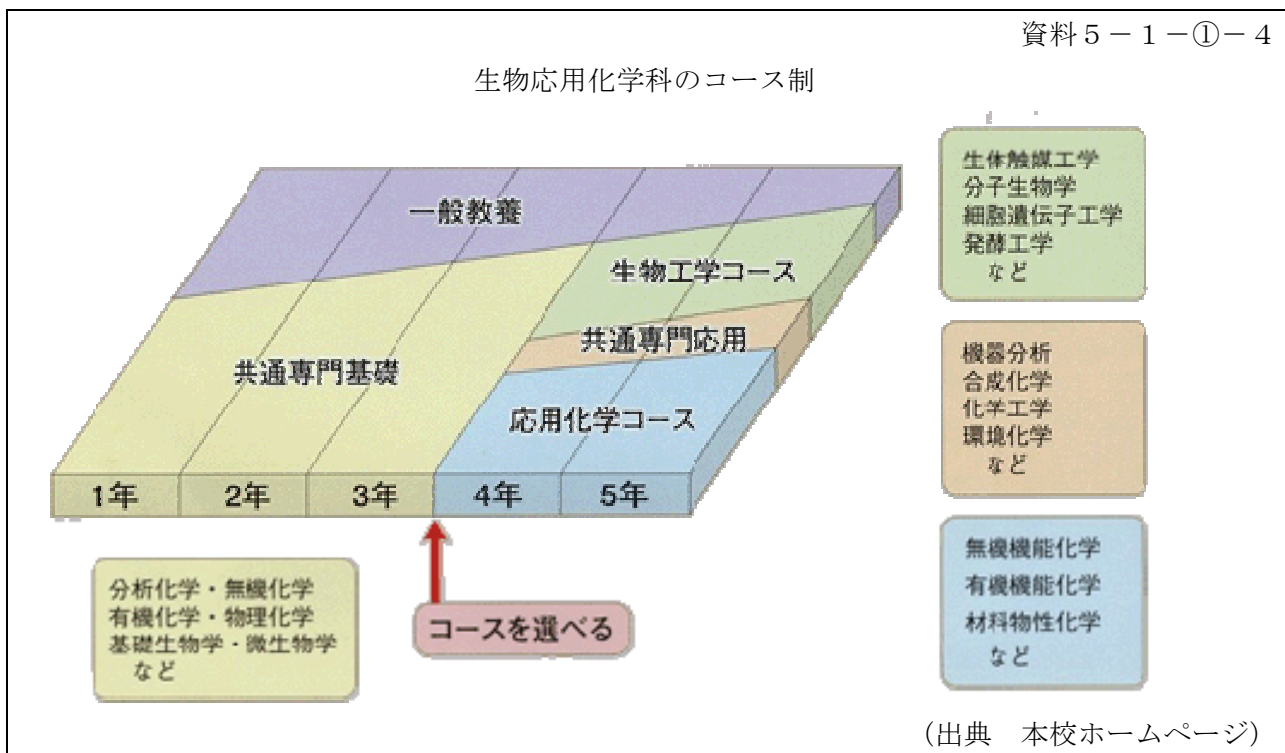
資料 5-1-①-3

電気情報工学科のコース制



資料 5-1-①-4

生物応用化学科のコース制



(分析結果とその根拠理由)

科目系統図から明らかなように、準学士課程の授業科目は体系的に編成されている。また、学校の教育目標を達成するために、専門基礎科目である数学、物理、化学、英語、および重要な専門の講義科目と実験実習科目を必修とするなど、授業科目が適切に配置されている。

観点 5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生からのニーズに応えるために、勉強アンケートを毎年実施している（資料 5-1-②-1）。

学生の希望によって、学級担任および授業担当者と十分相談の上で、他学科の授業科目の履修が可能である（資料 5-1-②-2）。準学士課程 4 年では学生の興味に応じて数学特別演習の講義が自由選択できるのに加えて、準学士課程 5 年では中級英会話と独語会話をいずれか 1 科目自由選択できるようにしている（資料 5-1-②-3、資料 5-1-②-4）。

また、幅広い学生のニーズに対応した制度として、関連科目担当教員の指導のもとで「技能検定及び資格試験」に合格した者に「課題演習 1」を、適切と認められる演習課題に対して一定の学修成果をあげた者に「課題演習 2」の単位を認定している（資料 5-1-②-5、資料 5-1-②-6、資料 5-1-②-7）。「技能審査」に合格した場合は「英検」や「数検」などの科目として単位を認定している（資料 5-1-②-8）。

他機関との連携事業として、夏季休業中に弓削商船高等専門学校主催で実施される四国 6 高専参加の「四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義」も受講できる仕組みになっている（資料 5-1-②-9）

社会の要請に応じて、平成 12 年度入学生から「技術者倫理」、「経営工学」、「環境と人間」を準学士課程 5 年に新たに開設した。また、社会の動向を見て、平成 14 年度入学生から「初級中国語」を準学士課程 4 年に開設した。平成 15 年度には、社会のニーズを調査するために企業アンケートを実施した（資料 5-1-②-10）。この中で品質管理や知的財産権に関する講義を求める声が多く、16 年度から開講している「経営工学」の中でこれらを取り入れた（資料 5-1-②-11、資料 5-1-②-12）。

資料 5-1-②-1

勉強に関するアンケート

教育改善のための参考にしますので、以下の設問に該当する項目にチェックを入れてください。

【3】教育内容について

2：授業でもっと充実してほしいと思う科目は何ですか（複数回答可）。

- | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 特にない | <input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> 数学 | <input type="checkbox"/> 物理 |
| <input type="checkbox"/> 化学 | <input type="checkbox"/> 一般教養科目 | <input type="checkbox"/> 専門に関する講義科目 | |
| <input type="checkbox"/> 実験・実習 | <input type="checkbox"/> コンピューター関係 | | |

2-1：「一般教養科目」と答えた人に聞きます。具体的な科目名を教えてください。

()

2-2：「専門に関する講義科目」と答えた人に聞きます。具体的な科目名を教えてください。

ください

()

3. 苦手とする分野は何ですか。(複数回答可)。

- 特にない 英語 数学 物理
 化学 一般教養科目 専門に関する講義科目
 実験・実習 コンピューター関係

3-1: 「一般教養科目」と答えた人に聞きます。具体的な科目名を教えてください。

()

3-2: 「専門に関する講義科目」と答えた人に聞きます。具体的な科目名を教えてください。

ください

()

(出典 勉学アンケート)

資料 5-1-②-2

Ⅲ 受講方法

1. 原則としては所属の学科・学年に開講されている授業科目(同一時間に授業を行う科目はいずれかを選択)は、すべて受講しなければならない。また、希望によっては、学級担任及び授業担当教員と充分相談の上で、他学科・学年に開設されている授業科目を受講することができる。

(出典 平成 18 年度本科履修要覧)

資料 5-1-②-3

機械工学科開講科目

授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴
10111	数学特別演習	2	千葉				2		自由選択
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴
専門科目履修単位計		94.5 (96.5)		7	11	18	28 (30)	30.5	()は数学特別演習を履修した場合
一般科目履修単位計		82 (83)		27	24	15	8	8 (9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合
合計		176.5 (179.5)		34	35	33	36 (38)	38.5 (39.5)	()は数学特別演習と中級英会話または独語会話を履修した場合

(出典 平成18年度本科履修要覧より編集)

資料 5 - 1 - ② - 4

平成 1 8 年度開講科目

一 般 科 目

授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴
18462	外国語 中級英会話	1	(ウルフ)					前2	1科目を自由選択
18481	独語会話	1	(ウイランド)					前2	
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴
開設単位計		100		28	24	16	10	22	
履修単位計		83(84)		27	24	16	8	8(9)	()は中級英会話または独語会話を履修した場合

(出典 平成 18 年度本科履修要覧より編集)

資料 5 - 1 - ② - 5

VI 課題演習等による単位の認定

1 課題演習

- (1) 課題演習は選択科目とし、課題演習 1 及び課題演習 2 の 2 種類である。
- (2) 課題演習 1 は、関連科目担当教員の指導のもとで本校が適切と認める表 1 の技能検定及び資格試験に合格した者に対して単位が認定されるものである。単位認定条件は、次のとおりである。なお、表 2 については、単位の認定はされないが在学中に受験できる資格等試験である。
- ア 表 1 の技能検定及び資格試験に合格した場合、次の表に基づき、合格した学年の単位として第 1 学年から第 5 学年を通して 3 単位まで認められる。

学 科	名 称	単位数	学年別単位数
			1 年～5 年
機械工学科	機械工学演習 1	1	1
	機械工学演習 2	1	1
	機械工学演習 3	1	1
電気情報工学科 電気工学科	電気技術演習 1	1	1
	電気技術演習 2	1	1
	電気技術演習 3	1	1
電子制御工学科	電子工学演習 1	1	1
	電子工学演習 2	1	1
	電子工学演習 3	1	1
生物応用化学科	化学技術演習 1	1	1
	化学技術演習 2	1	1
	化学技術演習 3	1	1
材料工学科	材料工学演習 1	1	1

	材料工学演習 2	1	1
	材料工学演習 3	1	1

イ 認定単位は専門科目の単位とし、認定される授業科目名は課題演習（ ）とし、（ ）内には名称が記入される。

ウ 単位の認定を受けようとする者は、単位認定申請書に資格証明書（写）等を添付し、学級担任を経て教務係に提出しなければならない。認定された評価は、「A」となる。

エ 認定された単位は、申請を行った年度に在籍する学年における修得単位となる。

(3) 課題演習 2 は、関連科目担当教員の指導のもとで適切と認められる演習課題を学 修し、一定の学修成果をあげた者に対して、次の表に基づき、単位が認定される。

学 科	名 称	単位数	学年別単位数				
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機械工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
電気情報工学科 電気工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
電子制御工学科	電子総合演習	5	1	1	1	1	1
生物応用化学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
材料工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1

注 認定される単位は、第 1 学年から第 5 学年を通じて 3 単位を限度とする。単位認定条件は、次のとおりである。

ア 認定単位は専門科目の単位とし、認定される授業科目名は課題演習（ ）とし、（ ）内には名称が記入される。

イ 評価は、演習課題の内容、学修時間、学修成果、熱意等により判定される。認定された評価は、「A」となる。

(4) I の 4 の (2) の条件にかかわらず、単位が認定される。

(5) 既に認定されている課題演習の単位は、第 1 学年から第 3 学年で進級できなかった場合でも取り消されない。

(出典 平成18年度本科履修要覧)

資料 5 - 1 - ② - 6

課題演習 2 の単位取得者

年度	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計
14年度	-	8	39	36	-	83
15年度	-	13	0	29	-	42
16年度	2	11	0	29	8	50
17年度	2	21	5	32	1	61
18年度	4	26	48	32	22	132

(14, 15 年度には機械工学科、材料工学科にこの制度がなかったため「-」とした。)

(出典 学生課教務係資料)

資料5-1-②-7

単位認定申請書

平成 18 年 月 日

工業化学科(生物応用化学科) 主任 殿

学年・組 / 学年 2 組

氏名

下記の通り演習(実習)を行ったので、課題演習2の単位認定について関係書類を添えて申請します。

記

演習(実習)テーマ

油滴

成果発表場所, 日時

生物応用化学実験室(2)

演習(実習)を行った期間 平成 18 年 7 月 20 日 ~ 18 年 8 月 9 日

演習(実習)を行った延べ日数 10 日

演習(実習)を行った総時間数 31 時間

担当(指導)教官, 職員がいる場合

担当者印



(注) 関係書類を添付し, 学科主任へ提出すること。

提出期限は, 成果発表(最終演習日)後1ヶ月以内とする。

ただし, 年度の切は1月末日とし, それ以後は次年度の申請とする。

【決裁】

上記申請単位の認定

	認 定	不認定
主任印		



(注) 主任は学科会議に提出し, 単位が認定された場合は本人及び教務係に報告(別紙)する。

平成 18 年 月 日

課題演習 2 報告書

生物応用化学科 / 年

氏名

テーマ		
<h3 style="margin: 0;">油 滴 ~ ニトロベンゼンをつくる ~</h3>		
日 時	場 所	指 導 者
7月 20日 (木) 13時 30分 ~ 15時	生物応用化学実験室(1)	勝浦 創 先生
内容 (実験, 検討, 調査, 打合せ 等 具体的に記入のこと)		
<p>・水相 1mol/L ステアリルトリethylアミン</p> <p style="margin-left: 40px;">分子量 378.05g</p> <p style="margin-left: 40px;">↓</p> <p style="margin-left: 40px;">水 1000ml に 0.378g とかる</p> <p>・油相 元素 (ベンゼン)</p> <p style="margin-left: 40px;">分子量 126.9g 5mol/L</p> <p style="margin-left: 40px;">ベンゼン 50L に 0.032g</p> <p style="margin-left: 40px;">ヨウ化カリウム 飽和</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> NO_2  ニトロベンゼン </div> <div style="text-align: center;">  ベンゼン </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> $\frac{1}{4} \times \frac{5 \times 50}{1000} \times (126.9 \div 1000)$ $= \frac{31.7}{1000}$ </div>		
<p>1. 水相の中に油相をたらし → (はじけて、とけこんだ) → ベンゼンは使用不可 (小さく分解された)</p> <p>2. ニトロベンゼンを作る → 濃硫酸、濃硝酸、水、ベンゼンを丸底フラスコに入れ → 振り回しながら反応させる... 熱をむのて"水で"冷やして反応させる 温度は 60°C 以下、55°C 以上にする</p>		
備考 (複数で行った場合は共同者名 等)		

(出典 学生課教務係資料 単位認定申請書より抜粋)

3 技能審査の合格による単位の認定

(1) 単位が認定される技能審査と単位数は、次のとおりである。

技能審査の 名 称	合格した級又はスコアに対する認定単位数				一般又は専 門科目の別	認定科 目 名
	6	4	2	1		
実用英語 技能検定	1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	一般科目	英 検
工業英語能力 検定試験	1 級	2 級	3 級		一般科目	英 検
T O E I C	850～	700～849	500～699	400～499	一般科目	英 検
T O E F L	550～	500～549	450～499	400～449	一般科目	英 検
実用数学 技能検定		1 級	準 1 級	2 級	一般科目	数 検
ドイツ語検定	1 級	2 級	3 級	4 級	一般科目	独 検
日本漢字能力検定		1 級	準 1 級	2 級	一般科目	漢 検

注) 認定科目「英検」について英語圏の留学生は該当しない。また、「独検」についてはドイツ語圏の留学生は、該当しない。

また、留学生が日本語能力検定試験 1 級に合格した場合は、2 単位を認める。その場合の認定科目名は日本語とする。ただし、同一年度に異なる技能審査に合格（スコアに到達）した場合又は同一技能審査の異なる級に合格（スコアに到達）した場合は、認定可能な最も大きい単位数のみが修得単位として認定される。次年度以降に、異なる技能審査に合格した場合、あるいは同一の技能審査の上位の級に合格し、さらに単位の認定が可能な場合は、既に認定されている単位数との差のみが修得単位として認定される。

- (2) 単位の認定を受けようとする者は、単位認定申請書に合格証明書（写）等を添付し、学級担任を経て教務係に提出する必要がある。認定された評価は、「A」となる。
- (3) 認定された単位は、申請を行った年度に在籍する学年における修得単位となる。
- (4) 既に認定されている単位は、第 1 学年から第 3 学年で進級できなかった場合でも取り消されない。
- (5) 現に在籍し、既に単位の認定が可能な技能審査に合格している者については、認定可能な単位数と既に認定されている単位数との差のみが修得単位として認定される。

(出典 平成 1 8 年度本科履修要覧)

四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要項

- 1. 目 的 四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及び海洋環境について特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。
- 2. 実施期間 平成 1 8 年 8 月 2 1 日（月）～ 8 月 2 4 日（木）
- 3. 場 所 弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」ほか
- 4. テーマ 地球環境保全について — 海の環境と地球温暖化 —
- 5. 単 位 1 単位（3 0 時間）
- 6. 単位認定 単位認定は提出されたレポートで成績評価を行い、他の科目との単位互換等は各高専で行う。
- 7. 対象学生 各学科（4 年次又は 5 年次が望ましい。）

8. 募集人員 各高専5名
9. 授業内容 講義名及び担当者
- (1) バイオマス利用による地球温暖化防止 (担当者: 高知高専 藤田 正憲)
 - (2) 風エネルギーの有効利用について (担当者: 阿南高専 當宮 辰美)
 - (3) 豊島問題が示したこと (担当者: 詫間高専 細谷 守)
 - (4) 地球には定員があるのか? - エネルギーと食糧を考える -
(担当者: 新居浜高専 深山 幸徳)
 - (5) 水環境保全とエネルギー安定需給の両立への挑戦
～ 暗黒の世界からの救世主 ～ (担当者: 高松高専 多川 正)
 - (6) 微生物を利用した廃棄物からのエネルギー生産
(担当者: 弓削高専 伊藤 武志)
- 実習名及び担当者
- (1) 実習1 (担当者: 弓削高専 豊田 利彦)
 - (2) 実習2 (担当者: 弓削高専 松永 直也)
10. 集合場所及び集合時間 弓削商船高等専門学校 第一会議室 15時
11. 受講料 無料 (但し、食事代5,950円(9食分)、宿泊料無料、シーツ代550円が必要です。)
12. 宿泊場所 弓削商船高等専門学校青雲館及び白雲館
13. 講師等旅費 本校の負担とする。
14. 謝金 支給しない。
15. 申込方法 申込書に必要事項を記入の上、7月14日(金)までにお申し込みください。
16. 申込先・問い合わせ先
〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000
弓削商船高等専門学校 学生課教務係
TEL 0897-77-4620
FAX 0897-77-4693
E-mail kyoumu@office.yuge.ac.jp
- (出典 四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要項)

資料5-1-②-10

企業へのアンケート

6. 本科卒業生あるいは専攻科修了生に「知的財産権」、「技術者倫理」、「経営工学」、「環境工学」、「品質管理」に関する講義を受講させる必要があると思いますか?

(1) 本科卒業生

ある ない

あるを選んだ場合は科目名と、その理由をご記入ください。

()

(2) 専攻科修了生

ある ない

あるを選んだ場合は科目名と、その理由をご記入ください。

()

9. 本科卒業生あるいは専攻科修了生に対して、貴社が求める重要なものをお選びください。(複数回答可)

(1) 本科卒業生

- | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門基礎知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 | <input type="checkbox"/> 英語力 |
| <input type="checkbox"/> 国語力 | <input type="checkbox"/> ITに関する能力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> 自己学習能力 | <input type="checkbox"/> 開発力 | <input type="checkbox"/> 創造力 | <input type="checkbox"/> 行動力 |
| <input type="checkbox"/> リターンシップ | <input type="checkbox"/> 企画力 | <input type="checkbox"/> 問題発見能力 | <input type="checkbox"/> 問題解決能力 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ精神 | <input type="checkbox"/> ハンディー精神 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 社交性 |

やや不満である 非常に不満である
 また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？
 ()

1 3 - 3. 専門分野に関する専門知識についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である
 やや不満である 非常に不満である
 また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？
 ()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である
 やや不満である 非常に不満である
 また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？
 ()

1 3 - 4. IT に関する知識についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である
 やや不満である 非常に不満である
 また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？
 ()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である
 やや不満である 非常に不満である
 また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？
 ()

(出典 企業アンケート)

資料 5 - 1 - ② - 1 1

企業へのアンケート集計結果

設問 6 「知的財産」などに関する講義を受講させる必要があるか

科目名と理由

- ・「品質管理」 (理由：メーカーとして品質管理とコストダウンは大切なテーマだから)
- ・「品質管理」：当事業所は化粧品生産工場であり、品質管理は生命線である。
- ・「品質管理」 I S O の取得が必要となってきた。
- ・「品質管理」 本業と直結するため。
- ・知財や環境の観点は研究開発者にも必要だから。
- ・「品質管理」
- ・「品質管理」 製造業のエンジニアには必須の知識です。
- ・「知的財産権」～近年重要度が増えている。
- ・一般常識の内と考える。
- ・「技術者倫理」、「品質管理」 サービス技術者として必要な知識
- ・「環境工学」、「品質管理」
- ・「知的財産権」：独自のソフト等がある。 「品質管理」：I S O の為
- ・「環境工学」・「品質管理」 隣接職種への職種変更が容易

- ・「知的財産権」、「技術者倫理」
- ・当社でも力を入れている分野であり、基礎知識があれば業務に役立つ。
- ・「知的財産権」：特許とはどういうものか教えた方がよいと思う。
- ・「環境工学」及び「品質管理」：この2点は製造業に携わるものは最低限知っておくべきであり、かつISO9001、14001認証取得が一般化しているため。（当社も取得済）
- ・「技術者倫理」、「品質管理」 最低限知っておいてほしい内容。
- ・「品質管理」：自社業務（製造及び保守・点検）にとって品質管理知識は不可欠です。
- 「知的財産権」：自社オリジナルの商品を製造販売している為。
- ・将来的に有用である。
- ・「技術者倫理」、技術者として必要。
- ・「知的財産権」：技術者としての採用の場合、特許は必須となる。
- ・「経営工学」、「品質管理」 ISO必須の状況の為。
- ・全科目、21世紀の企業に於ける基本常識である。
- ・ISOの認証取得が進むなか、「品質、環境管理」は必須。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」：業務運営において必要。
- ・業務との関連。
- ・「知的財産権」：当社の関わるIT業界では特に重要です。
- 「技術者倫理」：コンプライアンスの要請の高まりの中で、重要となっています。
- 「経営工学」：起業スピリットを育むうえで有益です。
- 「環境・品質」：当社もISO認証を取得しています。社会的責任を認識するうえでも重要です。
- ・社会にでて、実際に生かす事ができると思われる為。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」・・・企業における技術者として必要なものであり、社内教育 etc を行うが、その基礎的なことを修得して入社して欲しい。
- ・「知的財産権」・・・基礎的な知識 「品質管理」・・・統計処理のセンス
- ・「品質管理」：製造業にとって品質は命取りになりかねないくらい重要なものであるから。
- ・「品質管理」・・・ものづくりの基本だから。
- ・「品質管理」・・・製造業にとっては必須。
- ・幅広い基礎知識は業務上有用のため。
- ・「品質管理」：企業活動の全てに共通する考え方ゆえ。
- ・「知的財産権」、「環境工学」、「品質管理」 関係スタッフ部門への配属の可能性あり。
- ・「品質管理」 基礎を学んでおくと入社後理解しやすい。
- ・採用後の研修で考慮するので、必要であるも在学中に必須とは言わない。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」：製造業（造船）の技術者としての基本。
- ・「品質管理」 これからは品質の時代
- ・「品質管理」：製造業において必ず必要。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」 基礎知識として。
- ・「知的財産権」、「環境工学」、「品質管理」 会社として業務に関係してくる。
- ・「環境工学」、「品質管理」「品質管理」 環境と品質はISO取得に必要。現在準備中。
- ・「経営工学」、「品質管理」 採用は将来のリーダーとして考えており、
- 経営・品質に関するセンスは必要と考える。
- ・業務を遂行する為の知識として。

(出典 平成15年度自己点検評価書)

資料5-1-②-12

授業科目	担当教員		開講期
経営工学	吉川 貴士・平野 雅嗣・深山 幸穂・勝浦 創・松英 達也および企業からの講師		通年
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
10800	5年 全学科		1単位
<p>授業概要 企業から講師を招き、多くの企業における仕事内容や考え方について理解し、将来自分が関わりたい仕事を考えることができることを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業とは何かについて基礎的な知識が理解できる ・企業における知財戦略、商業法務についての基礎知識が理解できる ・品質管理、安全衛生管理について基礎的な知識が理解できる 			
<p>教科書 プリント（各講師のレジュメ）</p> <p>参考書 それぞれの講師が推薦する図書</p>			
<p>授業の進め方 講義および小テスト・小論文</p>			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 求められる人材像・技術者像・行動規範/ガイダンス 2 日本経済を巡る話題と君たちに期待するもの 3 知財の基礎 4 知財の活用事例 5 経営者から見た技術者 6 工業デザインの現状と未来 7 品質管理の基礎 8 品質マネジメントシステム 9 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(A企業) 10 経済から見た技術への期待 11 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(B企業) 12 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(C企業) 13 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(D企業) 14 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(E企業) 15 学年末試験 			
<p>成績評価の方法 定期試験100%で評価する。</p>			
<p>学生へのメッセージ:自分の強みを生かす(=したい仕事をする)ことが成長・活躍に大きく寄与します。自分を知り活躍の場に対する理解を深めて、一回きりの人生の目標作りをしませんか。</p>			
学習・教育目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	A-2
		学習・教育目標 (生物応用化学)	D-2、D-3

(出典 平成18年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の開講科目が過密なので、他学科の授業科目の履修は現実には難しい状況にある。そのため、選択科目を設定して学生のニーズになるべく対応できるようにしている。

「課題演習1」、「課題演習2」、「英検」、「数検」などの単位認定制度および四国6高専参加の特別講義の受講に対する単位認定制度が整備されている。

社会の要請や動向を把握するために企業アンケートを実施し、またそれらに応じて新たな科目を開設している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点到に係る状況)

学校の教育目標「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために、授業形態を工夫している。すなわち、低学年ではまず確かな知識を身につけさせるために講義科目を中心に配置している。豊かな感性と実践力を養うための実験実習科目は、専門に興味をもたせるために1年生から導入科目として配置しており、身につけた知識を生かせるように高学年になるにつれて講義科目に対する割合を多くしている(資料5-2-①-1)。

数学では、1年次における数学の成績に基づき、2年生においては習熟度別のクラス編成で行っている(資料5-2-①-2)。

物理および化学では、講義の中に演示実験や学生実験を取り入れている(資料5-2-①-3、資料5-2-①-4)。

電気情報工学科の「電気情報基礎演習」、「回路理論演習」および生物応用化学科の「生物応用化学演習1A」と「同1B」では、クラスを習熟度別に数グループに分け、学生の理解度に応じた学習指導を行っている(資料5-2-①-5、資料5-2-①-6)。

専門の実験実習科目は、いずれも複数教員を配置して、きめ細かな指導が行き届くようにしており、少人数・対話型の授業としている。

機械工学科の「創造設計製作」では、ブレインストーミングやメカニカル発想法によってアイデアを生み出し、3D-CADを用いてそれを具体化している(資料5-2-①-7)。

最新の科学技術ソフトウェアとして、LabVIEW、MATLAB、3D-CADなどを講義科目(機械制御、制御工学1、2)や実験実習科目(CAD製図、電気情報工学実験2、電子制御実験1、総合実習)で活用している(資料5-2-①-8、資料5-2-①-9)。

学校の教育目標「豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む」を達成するために、主に講義科目を当てているが、その中で学習指導法の工夫を行っている。

「歴史2」や「歴史特論」では、自ら主題をたて、個人およびグループで主体的に歴史を研究す

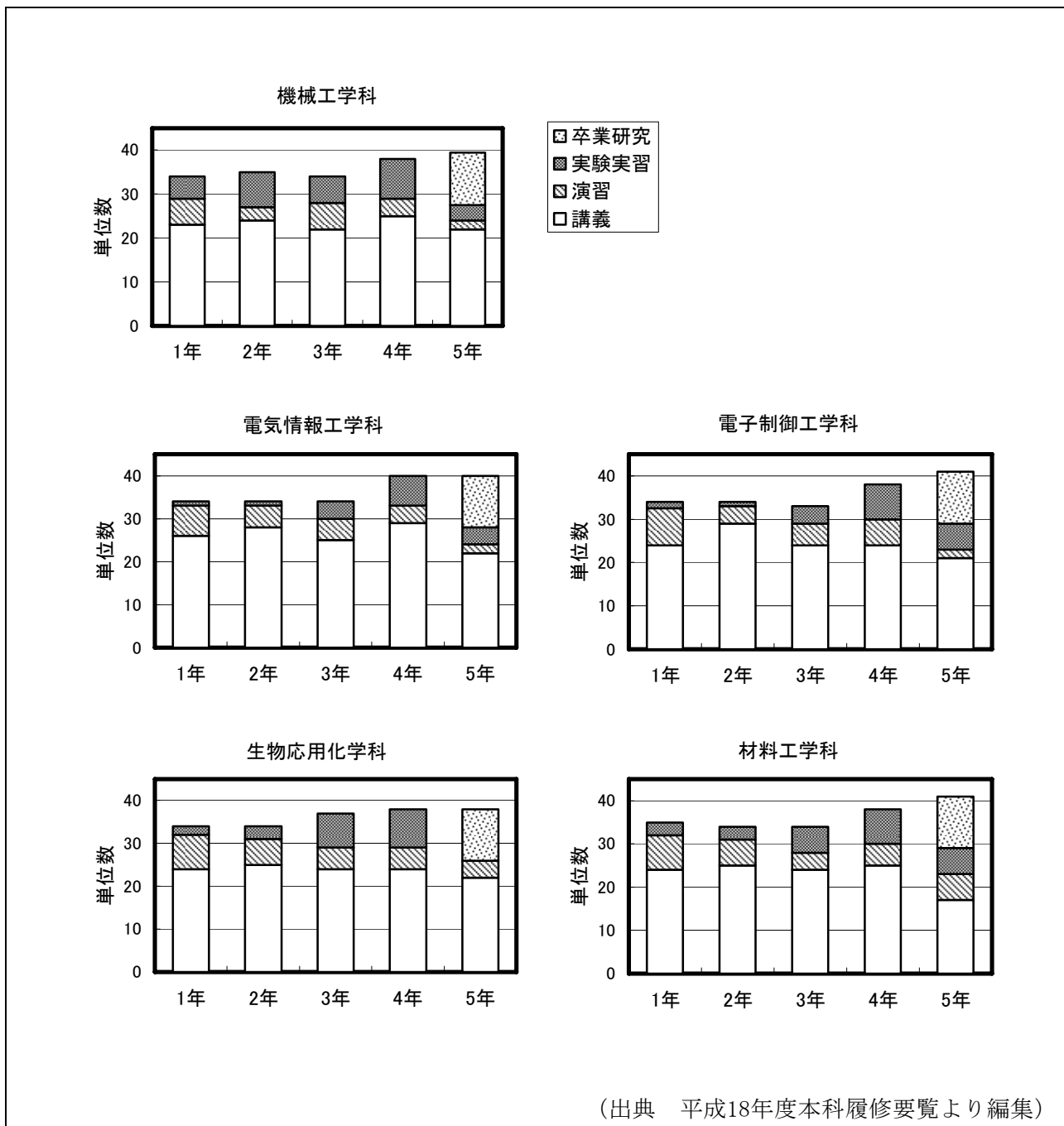
る主題学習を取り入れている（資料5-2-①-10）。

英語教育に関しては、英語運用能力を高めるために、「技術英語1」、「時事英語」および「実用英語」においてクラスを半分に分ける少人数教育を導入している（資料5-2-①-11）。

「経営工学」では、幅広い視野を身につけ、将来自分に関わりたい仕事について考えさせるために、経営や知財、品質管理などに関する講義を企業在職者を講師として行っている（資料5-2-①-12）。

「環境と人間」と「技術者倫理」では、多面的な視野を身につけるために複数の教員によって講義を行っている（資料5-2-①-13，資料5-2-①-14）。「環境と人間」では、それぞれの専門分野を生かした内容を講義している。「技術者倫理」では、学生のモラル想像力を刺激するために事例を題材にした討論などを取り入れている。

資料5-2-①-1



資料5-2-①-2

授業科目	担当教員	開講期	
数学A-2	柳井 忠・古城 克也・篠原 賢剛	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
18210	2年 全学科	必修	4単位

授業概要

不等式と領域を習得し、ついで数列から始めて、無限・極限の概念を学び、微分・積分の概念を学ぶ。そしていろいろな関数の微分・積分計算に習熟する。

到達目標

- ・不等式の表す領域を図示できるようにすること。
- ・いろいろな数列の一般項や和を計算できるようにすること。
- ・無限数列や無限級数の極限および簡単な関数の極限を求められるようにすること。
- ・微分の意味を理解し、いろいろな関数の導関数を求められるようにすること。
- ・微分を応用して、関数の増減やグラフの接線を求められるようにすること。
- ・積分の意味を理解し、簡単な関数の不定積分および定積分を求められるようにすること。

教科書 新編高専の数学1 (第2版) 田代嘉宏、難波完爾 (森北出版)
 新編高専の数学2 (第2版) 田代嘉宏、難波完爾 (森北出版)
 新編高専の数学1 問題集 (第2版) 田代嘉宏、難波完爾 (森北出版)
 新編高専の数学2 問題集 (第2版) 田代嘉宏、難波完爾 (森北出版)
 配布プリント

参考書 図解初等数学選書2、4、9、10 (岩崎書店)

授業の進め方

習熟度に応じ、基礎コースと発展コースに分け授業を行う。基礎コースは専ら基礎的事項の習熟に努め、発展コースは発展応用の習熟まで行う。なお、両コースとも内容項目、定期試験は共通である。

教科書、プリント、板書を中心に講義と問題演習を行う。理解を助け、学習効果を高めるため宿題を頻繁に課す。授業中の小試験も実施する。

授業内容

前期		後期	
1	授業の進め方オリエンテーション、不等式の表す領域	1	関数の極限と連続性
2	領域における最大・最小	2	積と商の関数の導関数
3	数列、等差数列、等比数列	3	合成関数とその導関数
4	いろいろな数列	4	対数関数・指数関数・三角関数の導関数
5	数学的帰納法	5	関数の増減と極大・極小
6	無限数列の極限	6	方程式・不等式への応用
7	無限級数とその和	7	接線・法線と近似値、速度・加速度
8	中間試験	8	中間試験
9	関数の極限值	9	不定積分
10	微分係数、導関数	10	置換積分法
11	導関数の計算、接線と速度	11	部分積分法
12	関数の増加・減少、関数の極大・極小	12	いろいろな関数の不定積分
13	関数の最大値・最小値	13	定積分
14	いろいろな変化率	14	置換積分法、部分積分法
15	期末試験	15	期末試験

成績評価の方法

定期試験と平常点を 70%:30%の割合で評価する。平常点は小試験、課題提出、授業中の課題等をそれぞれ 1/3 ずつ評価する。

学生へのメッセージ

極限から微分・積分を習うこの科目は、工学基礎としての数学の中でももっとも重要な部分である。工学を修得するものにとって必須の素養である。授業に集中するとともに家庭・寮での勉強を怠らないようにする。毎日、数学の勉強をすること！わからないところはきっちり復習して、わからないままにしないこと。それでもわからない場合は、オフィスアワーを利用すること。また、予習は興味の赴くままに教科書の先へ進むとよい。

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 2 - ① - 3

授業科目	担当教員	開講期	
物理 1	平木 弘一・大村 泰・矢野 潤	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
18270	1年 全学科	必修	2単位

授業概要

高専において物理は他の専門科目の基礎となるものである。物理 1 では、まず生活に欠かすことの出来ない電気について、その基本的な性質を理解し、安全に利用できるようにする。続いて、力学の基本である物体の運動、運動の法則、力について理解することを目的とする。

到達目標

- ・生活の中での電気とのかかわりについて考え、電気の基本的な性質を理解する。
- ・日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。
- ・運動の 3 法則を理解し、運動方程式を使いこなせるようになる。

教科書 高等学校物理 I 中村 英二他 19 名著 第 1 学習社
参考書 セミナー物理 I + II 第 1 学習社

授業の進め方

授業は、基本的に教科書を中心にした講義形式で行う。物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れる。また理解の定着をはかるために、授業の進行に合わせ、プリントを用意するとともに、適宜小テストや演習、宿題を課す。

授業内容

前期		後期	
1	ガイダンス、電気と生活	1	試験の解答・解説
2	モーターと発電機	2	落下運動
3	モーターと発電機	3	力のつり合い
4	直流と交流	4	いろいろな力
5	電波	5	いろいろな力、大きさのある物体に働く力
6	情報通信	6	大きさのある物体に働く力
7	問題演習	7	問題演習
8	中間試験	8	中間試験
9	試験の解答・解説、	9	試験の解答・解説
10	日常に起こる物体の運動	10	運動の 3 法則
11	日常に起こる物体の運動、運動の表し方	11	運動の 3 法則
12	運動の表し方	12	運動方程式の立て方
13	運動の表し方、落下運動	13	運動方程式の立て方
14	問題演習	14	問題演習
15	期末試験	15	期末試験

成績評価の方法

定期試験を 75%、平常点（レポート、宿題、小テスト等）25%で評価する。

学生へのメッセージ

身近な現象の性質を知るとともに、物理では考え方を理解してほしい。式や解き方を暗記するのではなく、式の意味を理解し、問題解決の手順を理解してほしい。

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 2 - ① - 4

授業科目	担当教員	開講期	
化学 1	矢野 潤・柴田 亮	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
18299	1年 全学科	必修	3単位

授業概要

すべての物質を構成する基本粒子の構造、元素の周期律、化学結合、および、物質の状態変化、気体・液体の性質について学習する。また、原子量・物質質量と化学変化の量的関係に対する計算力をつける。さらに、化学変化に伴う熱の出入りや反応速度と化学平衡の概念を理解し、基本的な化学変化として、酸・塩基反応について学習する。

到達目標

- ・第 4 周期までの元素および主要元素の元素記号を覚える。
- ・物質の成り立ちを原子、分子、イオンで説明できること。
- ・原子量、分子量の計算ができること。
- ・質量と物質質量 (モル) の相互換算ができること。
- ・溶液のモル濃度の計算ができること。
- ・平衡定数の計算ができること。
- ・ブレンステッドの酸・塩基反応を説明できること。
- ・水溶液中の水素イオン濃度と pH の計算ができること。

教科書 新編高専の化学 (第 2 版) 春山志郎監修 (森北出版)
 新編セミナー化学 IB+II (2005) (第一学習社)
 参考書 総合図説化学 佐野博敏・花房昭静 監修 (第一学習社)

授業の進め方

授業は、教科書を中心にできるだけ身近な現象にふれながら講義する。適宜、演示実験や分子模型を取り入れ、各期 1~2 回の学生実験を行なう。授業中の小テスト、演習、宿題などにより、理解の定着をはかる。

授業内容

前期		後期	
1	化学と生活、元素記号、物質の種類	1	希薄溶液の性質
2	原子の構造と電子配置	2	コロイドの性質
3	元素の周期表、イオン	3	化学変化と反応熱
4	化学結合と化学式	4	熱化学方程式とヘスの法則
5	化学結合と化学式	5	学生実験 (反応熱)
6	原子量と分子量	6	反応速度と活性化エネルギー、触媒
7	物質質量 (モル) と化学反応式	7	化学平衡
8	中間試験	8	平衡定数とルシャトリエの法則
9	物質の三態	9	中間試験
10	気体の性質	10	アレニウスおよびブレンステッドの酸と塩基
11	気体の状態方程式	11	電離平衡
12	学生実験 (気体と物質質量)	12	水溶液の酸性度と水素イオン濃度
13	溶液の性質	13	中和と塩
14	溶液の濃度と溶解度	14	学生実験 (中和滴定)
15	期末試験	15	期末試験

成績評価の方法

定期試験を 75%、平常点 (小テスト、実験レポート、課題レポート、宿題) を 25% として算出し成績点として評価する。

学生へのメッセージ

化学は暗記科目ではない。原子の構造を理解すれば、さまざまな化学的現象が系統的に理解しやすくなる。しかし、元素記号をはじめ基本的な項目はその都度覚えていく必要がある。毎回の授業をよく聴き必ず復習をすること。四則計算や分数の計算が正確にでき、数学の指数計算は理解できることを前提とする。

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-①-5

授業科目	担当教員	開講期	
電気情報基礎演習	皆本、伊月、稲見、平野、香川	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
17180	1年 電気情報工学科	必修	1単位

授業概要

電気回路に対する基本概念である直流回路で扱う種々の電気系量（電圧、電流、抵抗、コンダクタンス、静電容量、電力、電力量など）の定義、単位記号及びこれらに成り立つ関係について学習する。その過程において、直流回路において生じる合成抵抗や合成コンダクタンスおよび電圧、電流を導出する方法や問題解答の基本的な記述法についても学ぶ。

到達目標

- ・種々の電気系量（電圧、電流、抵抗、コンダクタンス、静電容量、電力、電力量など）の単位を知っていること。
- ・種々の電気系量の間になり立つ関係を式で書けること。
- ・種々の電気系量の間になり立つ関係を説明できること。
- ・電気回路の各要素に流れる電流、かかる電圧が導出でき、電位分布が描けること。

教科書 電気基礎1 新訂版 片岡昭雄 監修 実教出版

参考書 基本式の理解と活用 実教出版

授業の進め方

40名を2グループに分け、電気基礎実習Aと交互に実施する。20名を6班に分け、6名の教員が班単位に、あらかじめ宿題として与えた問題の解答指導をする。問題は電気情報基礎で講義した内容である。

授業内容

前期		後期	
1	履修ガイダンス、専門科目の授業の進め方、基礎知識確認試験	1	キルヒホッフの法則(1)
2	電気回路とは、電荷と電流の定義	2	キルヒホッフの法則を用いた電流の導出
3	電圧・起電力・電位（小テスト）	3	キルヒホッフの法則を用いた電流の導出
4	単位や量とその記号、単位の接頭語	4	複雑な回路の電圧・電流の導出、電位分布、合成抵抗(1)
5	オームの法則、コンダクタンス	5	複雑な回路の電圧・電流の導出、電位分布、合成抵抗(2)
6	諸量の間になり立つ関係の記述法、単位との関連	6	電流の発熱作用
7	記述問題の解答の仕方	7	電力と電力量
8	中間試験	8	中間試験
9	抵抗の直列接続における合成抵抗	9	コンデンサの蓄積電荷と電圧の関係
10	抵抗の直列接続における合成コンダクタンス	10	平行板コンデンサの静電容量
11	抵抗の並列接続における合成抵抗	11	比誘電率
12	抵抗の並列接続における合成コンダクタンス	12	コンデンサの直列接続
13	電位分布	13	コンデンサの並列接続
14	複雑な回路の電位分布、合成抵抗、合成コンダクタンス	14	コンデンサの直並列接続
15	期末試験	15	期末試験

<p>成績評価の方法 評点は宿題評点を 70%、平常点を 30% で評価する。 平常点 = $100 \times (\text{受講態度点} + \text{宿題提出点} + \text{連絡帳評点}) / (100 + \text{宿題提出点} + \text{連絡帳評点})$</p>
<p>学生へのメッセージ この科目の授業内容に関する演習を「電気情報基礎演習」で行う。小グループに分かれて指導を受ける。 この科目では、直流回路について勉強するが、交流回路については 2 年次の回路理論 1 で行う。</p>

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 2 - ① - 6

授業科目	担当教員	開講期	
生物応用化学演習 1A	河村秀男・衣笠 巧・勝浦 創・ 牧 慎也・堤 主計・西井靖博	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
16400	1 年 生物応用化学科		1 単位

授業概要 数学 A-1、B-1 の授業で学習した内容について、演習問題を解くことを通して、理解を深め、応用する力を身につける。

到達目標

- ・整式の加減乗除および因数分解について基本的な問題を解くことができる。
- ・実数、有理式、無理式などの意味を理解し、平方根を含む式の計算ができる。
- ・2 次関数のグラフが描け、その最大・最小問題および判別式を用いた基本的な問題が解ける。
- ・2 次方程式の解の公式や解と係数の関係を使って、基礎的な問題を解くことができる。
- ・平面上の直線、円、だ円、双曲線、2 次曲線を方程式から描くことができる。
- ・鋭角の三角関数について基本的な問題を解くことができる。

教科書 新編 高専の数学 1 田代嘉宏、難波完爾 編 (森北出版)

参考書 新編 高専数学 1 問題集 田代嘉宏 編 (森北出版)
 チャート式 解法と演習 数学 1 チャート研究所編 (数研出版)

授業の進め方 授業の前半 30 分は毎回あらかじめ決められた範囲の小テストを行う。授業の後半には、クラスを数グループに分け、少人数・習熟度別で重要項目の解説を行う。

授業内容

- 1 ガイダンス、学力確認試験
- 2 中学数学の復習 1 (式の乗法と除法、因数分解)
- 3 中学数学の復習 2 (関数、円の性質)
- 4 式の加法・減法・乗法、因数分解
- 5 整式の除法、整式の約数・倍数、有理式
- 6 直線上および平面上の点の座標、直線の方程式
- 7 実数、平方根を含む式の計算、繁分数式
- 8 中間試験
- 9 2 直線の関係、円、だ円
- 10 2 次関数のグラフと最大・最少
- 11 2 次方程式の解、判別式、解と係数の関係
- 12 双曲線、放物線、2 次曲線
- 13 グラフと方程式の解
- 14 鋭角の三角関数

15 期末試験
成績評価の方法 2回の定期試験の成績を50%、授業時間の小テストの成績を40%、課題提出物を10%で評価する。
学生へのメッセージ 数学は専門科目を学ぶ上で基礎となる重要な科目です。前に学んだことを土台にして、新しいことを次々と学ぶことになるので、分からないことをそのままにせず、できるだけ早いうちに解決しておくことが大切です。理解が不十分な項目については、グループ指導の際に積極的に質問し、基礎学力の充実を図るとともに、自学自習する習慣をつけてください。

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-①-7

授業科目	担当教員	開講期	
創造設計製作	鎌田慶宣、谷口佳文、吉川貴士	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11841	4年 機械工学科	必修	4単位
授業概要 新しい機械(装置)をつくりだすためには、要求される性能や機械の目的(機能)を明確にし、それらを実現するために、学んだことを応用したり、機能や構造を考案する創造性が要求される。さらに、設計製図に関する知識や学んだ基礎知識を生かして、アイデアを具現化することが必要である。本授業では、与えられた課題を基に、グループごとにアイデアの創出から設計図面の作成までを行う。			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じてグループでプロジェクト学習を行い、チーム内でコミュニケーションを計ることができる ・機能を発揮するためのアイデアを盛り込むことができる ・計画を立て、計画通りに実行できる ・これまでに学んだ基礎知識や技術を用いて設計、製図を行うことができる ・自分の考え(設計・機能・機構など)を聞き手にわかりやすくプレゼンテーションができる ・実施した内容を報告書にまとめることができる 			
教科書 プリント 参考書 Pro/ENGINEER による実践3次元CADテキスト 上智大学設計製図教育研究会 (日刊工業新聞社)			
授業の進め方 グループでアイデアを創出し、基本設計を行い、3次元CADで作成し、組み立てる。その後、付加機能(能力、性能アップ、新たな動きなど)を加え、設計する。付加機能追加における計画、分担、コンセプトのプレゼン、設計、問題(トラブル)解決などをチームで行なう。			
授業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・授業のガイダンス ・アイデアの発想(ブレスト、メカニカル発想法) ・特許検索・特許マップの使用方法 ・アイデアコンセプトのプレゼンテーション ・実施計画 ・設計手法 ・CADのCAE機能の使い方 ・製図(CAD) ・2次元図面の仕上げ ・コンテスト(プレゼン) ・成果報告書作成(特許明細書風) 			
成績評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・報告書とプレゼンテーション(論理性、問題発見とその対策) 30% ・計画と実行(フェーズごとの設定した期限の厳守) 30% 			

・アイデアの具現化（独創性、設計、製作）		40%	
学生へのメッセージ ・グループ内でコミュニケーションを図り、お互いを理解し合うよう努めること。 ・各自の分担を責任を持って遂行すること。 ・普段からいろいろな物のしくみに関心を持ち、よく観察する習慣を身につけること。			
学習・教育目標 (生産工学)	C-1、 C-2, E-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-①-8

授業科目	担当教員	開講期																													
制御工学1	深山 幸穂	通年																													
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数																												
13300	電気制御工学科	選択	2単位																												
授業概要 伝達関数とブロック線図によるシステムの記述法、および、これを用いたシステムの入力や外乱に対する時間応答特性、波数応答特性の解析法を理解し、応用できること。 到達目標 ・フィードバック制御とフィードフォワード制御の構成上の相違、長所、短所を知っていること。 ・ラプラス変換の定義と制御工学で利用する諸性質を知り、応用できること。 ・部分分数展開によるラプラス逆変換の求め方を知り、応用できること。 ・インパルス応答と重畳積分を用いた系の応答の計算法を知り、応用できること。 ・制御系の定常特性の評価法を知り、応用できること。 ・制御系の過渡特性の評価法を知り、応用できること。 ・ブロック線図、伝達関数、インパルス応答、周波数応答の関係を知り、応用できること。 ・基本的な伝達関数のベクトル軌跡とBode線図を描くことができ、応用できること。																															
教科書 美多、中野「制御基礎理論」(昭晃堂) 参考書 なし																															
授業の進め方 講義の後、理解を定着させるため、Matlab等を用いた演習を実施する。																															
授業内容 <table style="width: 100%; border: none;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">前期</th> <th style="text-align: center;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 自動制御の考え方、その歴史と分類</td> <td>1 伝達関数の基本形</td> </tr> <tr> <td>2 信号の伝達とブロック線図</td> <td>2 フィードバック制御系のブロック線図</td> </tr> <tr> <td>3 ブロック線図の等価変換、シグナルフロー線図</td> <td>3 フィードバック制御系の定常特性</td> </tr> <tr> <td>4 演習</td> <td>4 演習</td> </tr> <tr> <td>5 ラプラス変換の定義と基本的な関数のラプラス変換</td> <td>5 フィードバック制御系の過渡特性(1)</td> </tr> <tr> <td>6 ラプラス変換の計算</td> <td>6 フィードバック制御系の過渡特性(2)</td> </tr> <tr> <td>7 演習</td> <td>7 演習</td> </tr> <tr> <td>8 <前期中間試験></td> <td>8 <後期中間試験></td> </tr> <tr> <td>9 ラプラス逆変換と展開定理</td> <td>9 周波数応答の定義</td> </tr> <tr> <td>10 ラプラス逆変換の計算と応用</td> <td>10 ベクトル軌跡</td> </tr> <tr> <td>11 演習</td> <td>11 演習</td> </tr> <tr> <td>12 ラプラス変換の応用－微分方程式の解法</td> <td>12 ボード線図(1)</td> </tr> <tr> <td>13 たたみこみ積分と伝達関数</td> <td>13 ボード線図(2)</td> </tr> </tbody> </table>				前期	後期	1 自動制御の考え方、その歴史と分類	1 伝達関数の基本形	2 信号の伝達とブロック線図	2 フィードバック制御系のブロック線図	3 ブロック線図の等価変換、シグナルフロー線図	3 フィードバック制御系の定常特性	4 演習	4 演習	5 ラプラス変換の定義と基本的な関数のラプラス変換	5 フィードバック制御系の過渡特性(1)	6 ラプラス変換の計算	6 フィードバック制御系の過渡特性(2)	7 演習	7 演習	8 <前期中間試験>	8 <後期中間試験>	9 ラプラス逆変換と展開定理	9 周波数応答の定義	10 ラプラス逆変換の計算と応用	10 ベクトル軌跡	11 演習	11 演習	12 ラプラス変換の応用－微分方程式の解法	12 ボード線図(1)	13 たたみこみ積分と伝達関数	13 ボード線図(2)
前期	後期																														
1 自動制御の考え方、その歴史と分類	1 伝達関数の基本形																														
2 信号の伝達とブロック線図	2 フィードバック制御系のブロック線図																														
3 ブロック線図の等価変換、シグナルフロー線図	3 フィードバック制御系の定常特性																														
4 演習	4 演習																														
5 ラプラス変換の定義と基本的な関数のラプラス変換	5 フィードバック制御系の過渡特性(1)																														
6 ラプラス変換の計算	6 フィードバック制御系の過渡特性(2)																														
7 演習	7 演習																														
8 <前期中間試験>	8 <後期中間試験>																														
9 ラプラス逆変換と展開定理	9 周波数応答の定義																														
10 ラプラス逆変換の計算と応用	10 ベクトル軌跡																														
11 演習	11 演習																														
12 ラプラス変換の応用－微分方程式の解法	12 ボード線図(1)																														
13 たたみこみ積分と伝達関数	13 ボード線図(2)																														

14 演習	14 演習
15 <前期末試験>	15 <学年末試験>
成績評価の方法 前後期の中間、期末試験の平均で評価する。	
学生へのメッセージ 制御工学は電気、機械、化学系など、すべての工学システムを数学モデルで表現し、これをもとにしてシステムを安定かつ効率的に運用することを目的とする基礎理論である。このため、フィードバック制御系など制御の基本概念を説明し、数学モデルの構成に必要なラプラス変換を説明する。さらにこれを用いて伝達関数の概念とブロック線図によるシステムの構成法を説明し、システムの入力や、外乱に対する応答特性の解析について解説する。	
学習・教育目標 (生産工学)	学習・教育目標 (システムデザイン工学)
	B-1
学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)	

資料5-2-①-9			
授業科目	担当教員	開講期	
電気情報工学実験2	(前)伊月、先山、香川 (後)佐藤、馬淵、平野、王、先山	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
17831	4年 電気情報工学科	必修	5単位
<p>授業概要 実際の装置、機器に触れることにより、電気機器、電子回路、専門科目の授業内容への理解を深め、それらの基本技術を習得するように指導する。また、各種機器、測定器、回路や素子、マイクロコンピュータなどの取扱いが身に付き、さらに、各テーマに対して教員との討議を通して、動作原理の理解、問題解決に向けての訓練を行うと共に、論理的な文章表現、プレゼンテーション能力が身に付くように指導する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気情報工学に関する実験について、その目的が理解できること。 ・実験内容(関連する専門知識)の理解ができること。 ・班員と協力し、自主的に実験が行えること。 ・与えられた課題・考察に対して解答できること。 ・実験内容を図表などを利用して分かりやすくレポートに纏められること。 			
<p>教科書 電気情報工学実験2指導書 新居浜高専・電気情報工学科編集 参考書 電気機器 藤田 宏著(森北出版) 電子回路第2版 桜庭一郎、熊耳 忠共著(森北出版) 電波工学 安達三郎、佐藤太一共著(森北出版) マイクロコンピュータの基礎 森下 巖著(昭晃堂)</p>			
<p>授業の進め方 前期は学科人数の半分ずつに分かれ、それぞれ共通実験、共通実習を行い、後半で交代する。後期は学科人数の半分が共通実験、残りが各人のコース別に分かれ、電気系、情報系の実験、実習を行い、後半で共通実験と交代する。実験終了後、1週間以内に報告書を提出させる。最後に口頭試問あるいは試験を行う。</p>			
<p>授業内容 【前期】 [共通実験] 1. トランジスタ増幅回路の動作原理 2. オペアンプ演算回路の実験 3. 回路や素子の構成回路と動作の説明(オペアンプを用いた発振回路例) 4. CPUの動作と機械語によるプログラミング [共通実習] 1. 電圧出力のデジタル測定(オペアンプ、AD・DA変換、PICマイコン) 2. デジタルオシロとGPIB、LabViewによるデータ収録 【後期】 [共通実験] 1. マイクロ波実験(定在波、周波数等の測定) 2. アンテナ放射特性の実験 3. 光の波長と強度の実験 4. 回路や素子の構成回路と動作の説明(デジタル回路の基本動作)</p>			

[電気系実験] 1. 直流機の実験 2. 変圧器の実験 3. 同期機の実験 4. 誘導機の実験 [情報系実習] 1. 画像処理手法入門 2. データベース処理入門			
成績評価の方法 報告書の内容及び実験中の態度を70%、口頭試問あるいは試験を30%で評価する。なお、報告書が一つでも提出されない場合には単位は認定されない。また、欠席の場合には原則として追実験を行う。			
学生へのメッセージ 実験中の注意点を良く守ること。特に、強電に実験では、高電圧や機械の高速回転により感電やモータに巻き込まれる等の危険を伴うので、慎重に取り組むと共に、危険を避ける方法を身に付けること。また、実験は班員がお互いに協力して行う共同作業であるが、常に自らが実験の中心となる気持ちで取り組むこと。無線従事者、電気工事士、電気主任技術者、情報処理技術者の関連項目である。			
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)	B-2, E-1
		学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)			

資料5-2-①-10																					
授業科目	担当教員	開講期																			
歴史2	鹿毛 敏夫	通年																			
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数																		
18180	3年 全学科		2単位																		
授業概要 日本の歴史の発展過程を、原始から近・現代までの時間的経過に沿って概観するとともに、個別の主題をたてて特定の歴史事象を主体的に調査・研究していくことにより、総合的な歴史的思考力を培う。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史の全体的発展過程を時代の流れの中で理解する。 ・日本の歴史が世界との関わりの中で発達してきたことを理解する。 ・歴史学を文献史学のみでなく、考古学や民俗学など多角的視野から考察する。 ・愛媛・瀬戸内地域の歴史を調査・研究し、その意義を日本の全体史の中に位置づける。 ・講義を聞くのみでなく、自ら主題をたて、個人およびグループで主体的に歴史を研究する 																					
教科書 詳説日本史 石井進他著 (山川出版社) 参考書 なし																					
授業の進め方 講義および個人・グループでの主題学習の形で授業を進めていく。また、教科書のみでなく、各種資料やビデオ、図書館の図書等も活用する。																					
授業内容 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">前期</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">後期</td> </tr> <tr> <td>1 文化のはじまり</td> <td>1 鎌倉文化</td> </tr> <tr> <td>2 旧石器時代</td> <td>2 室町文化</td> </tr> <tr> <td>3 縄文時代と弥生時代</td> <td>3 戦国時代の文化と地域文化</td> </tr> <tr> <td>4 小国分立から邪馬台国へ</td> <td>4 ヨーロッパ人との交渉</td> </tr> <tr> <td>5 ヤマト政権と推古朝の政治</td> <td>5 戦国大名の登場</td> </tr> <tr> <td>6 律令国家の成立</td> <td>6 織田信長の統一事業</td> </tr> <tr> <td>7 律令国家の変容</td> <td>7 豊臣秀吉の統一事業</td> </tr> <tr> <td>8 中間試験</td> <td>8 幕藩体制の成立</td> </tr> </table>				前期	後期	1 文化のはじまり	1 鎌倉文化	2 旧石器時代	2 室町文化	3 縄文時代と弥生時代	3 戦国時代の文化と地域文化	4 小国分立から邪馬台国へ	4 ヨーロッパ人との交渉	5 ヤマト政権と推古朝の政治	5 戦国大名の登場	6 律令国家の成立	6 織田信長の統一事業	7 律令国家の変容	7 豊臣秀吉の統一事業	8 中間試験	8 幕藩体制の成立
前期	後期																				
1 文化のはじまり	1 鎌倉文化																				
2 旧石器時代	2 室町文化																				
3 縄文時代と弥生時代	3 戦国時代の文化と地域文化																				
4 小国分立から邪馬台国へ	4 ヨーロッパ人との交渉																				
5 ヤマト政権と推古朝の政治	5 戦国大名の登場																				
6 律令国家の成立	6 織田信長の統一事業																				
7 律令国家の変容	7 豊臣秀吉の統一事業																				
8 中間試験	8 幕藩体制の成立																				

9 (主題学習) 貴族政治と国風文化	9 (主題学習) 近世の社会
10 (主題学習) 院政と平氏政権	10 (主題学習) 愛媛・新居浜地域の歴史
11 (主題学習) 鎌倉幕府の成立	11 (主題学習) 近代国家の成立
12 室町幕府の成立	12 (主題学習) 近代日本とアジア
13 幕府の衰退と庶民の台頭	13 (主題学習) 近・現代日本と世界
14 応仁の乱	14 主題学習口頭発表
15 期末試験	15 主題学習口頭発表
成績評価の方法 中間試験・期末試験・主題学習口頭発表 80%、 課題提出物・受講態度(発表点) 20%	
学生へのメッセージ 講義内容をノートを取りながら理解するとともに、主題学習においては自らテーマをみつけて主体的に取り組むことが大切です。	
(出典 平成18年度シラバス)	

資料5-2-①-11			
授業科目	担当教員	開講期	
時事英語	尾崎 司郎・Ray Tabesh	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
18460	全学科		2単位
授業概要 社会・文化・政治・経済・教育・言語・環境・等多方面の英文を読み、英文読解力を深める。さらに、電算室でALCソフト等を用いてTOEIC対策を図る。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. テキストを読解するための語彙・熟語を習得する。 ・ 2. テキストの精読及び速読ができること。 ・ 3. 聴解力を身につけること。 			
教科書 English through the News Media (Asahi Press) Critical Insight on Contemporary Issues (Seibido) Environmental Science 201 (青葉図書)			
参考書 なし			
授業の進め方 日本人教師がEnglish through the News Mediaを13コマ担当し、別の13コマは、クラスを半分にして日本人教師と外国人教師が担当する少人数教育を実施する。外国人教師はPCソフト等を用いてTOEIC対応の授業を行う。			

授業内容		前期	後期		
1	Unit 1 A Samurai And Japan Get Samba Night Fever	1	Unit 5 If you can't master English, try Globish		
2	Unit 1 A Samurai And Japan Get Samba Night Fever	2	Unit 5 If you can't master English, try Globish		
3	Unit 1 A Samurai And Japan Get Samba Night Fever	3	Unit 6 Is s Salaryman Without a Suit Like Sushi Withut the Rice?		
4	Unit 2 Divorce has gained wide acceptance in U.K. ---even for royals	4	Unit 6 Is s Salaryman Without a Suit Like Sushi Withut the Rice?		
5	Unit 2 Divorce has gained wide acceptance in U.K. ---even for royals	5	Unit 6 Is s Salaryman Without a Suit Like Sushi Withut the Rice?		
6	Unit 2 Divorce has gained wide acceptance in U.K. ---even for royals	6	Unit 7 For rich and poor in Russia, gap widens		
7	Unit 3 Now, China puts more value on girls	7	Unit 7 For rich and poor in Russia, gap widens		
8	中間試験	8	中間試験		
9	Unit 3 Now, China puts more value on girls	9	Unit 7 For rich and poor in Russia, gap widens		
10	Unit 3 Now, China puts more value on girls	10	Unit 8 Children of Hispanic Immigrants Continue to favor English, Study of Census Finds		
11	Unit 4 How Do Japanese Dump Trash?	11	Unit 8 Children of Hispanic Immigrants Continue to favor English, Study of Census Finds		
12	Unit 4 How Do Japanese Dump Trash?	12	Unit 8 Children of Hispanic Immigrants Continue to favor English, Study of Census Finds		
13	Unit 4 How Do Japanese Dump Trash?	13	Unit 9 The world is Englishing		
14	Unit 5 If you can't master English, try Globish	14	Unit 9 The world is Englishing		
15	期末試験	15	期末試験		
成績評価の方法 定期試験を 70%、提出物・小テストを 15%、授業参加度を 15%で評価する。					
学生へのメッセージ 授業の準備をして授業に臨むこと。英和辞書を必ず持参すること。語彙力をつけるための努力をしてほしい。また、TOEIC の対策として native speaker の英語に慣れてほしいし、ALC ソフト等を積極的に活用してほしい。					
学習・教育目標 (生産工学)	E-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	D-1 E-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	C-2 D-3
(出典 平成 1 8 年度シラバス)					

資料 5 - 2 - ① - 1 2			
授業科目	担当教員		開講期
経営工学	吉川 貴士・平野 雅嗣・深山 幸穂・勝浦 創・松英 達也および企業からの講師		通年
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
10800	5年 全学科		1単位
授業概要 企業から講師を招き、多くの企業における仕事内容や考え方について理解し、将来自分に関わりたい仕事を考えることができることを目指す。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・企業とは何かについて基礎的な知識が理解できる ・企業における知財戦略、商業法務についての基礎知識が理解できる ・品質管理、安全衛生管理について基礎的な知識が理解できる 			

教科書	プリント(各講師のレジュメ)				
参考書	それぞれの講師が推薦する図書				
授業の進め方	講義および小テスト・小論文				
授業内容	<p>1 求められる人材像・技術者像・行動規範/ガイダンス</p> <p>2 日本経済を巡る話題と君たちに期待するもの</p> <p>3 知財の基礎</p> <p>4 知財の活用事例</p> <p>5 経営者から見た技術者</p> <p>6 工業デザインの現状と未来</p> <p>7 品質管理の基礎</p> <p>8 品質マネジメントシステム</p> <p>9 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(A企業)</p> <p>10 経済から見た技術への期待</p> <p>11 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(B企業)</p> <p>12 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(C企業)</p> <p>13 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(D企業)</p> <p>14 近隣企業の技術動向と技術者の活躍の場(E企業)</p> <p>15 学年末試験</p>				
成績評価の方法	定期試験100%で評価する。				
学生へのメッセージ	自分の強みを生かす(=したい仕事をする)ことが成長・活躍に大きく寄与します。自分を知り活躍の場に対する理解を深めて、一回きりの人生の目標作りをしませんか。				
学習・教育目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	A-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	D-2、D-3

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-①-13				
授業科目	担当教員		開講期	
環境と人間	松田 雄二・馬淵 真人・深山 幸穂・ 早瀬 伸樹・谷 耕治		前期	
科目番号	対象学年		必修・選択の別	単位数
18537	全学科		選択	1単位
<p>授業概要</p> <p>宇宙から見た地球環境とは何か、人類と生態系との関係、利便性の追求と公害の発生、エネルギー問題、環境政策を具体例を参考にしながら学ぶ。さらに未来に向けて人類はどう対処すべきか考察する能力を涵養する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然の共生に関する諸問題を、環境法や環境行政からの視点から認識できること。 ・企業の環境対策経営や、先進国と途上国における対立の解決、持続可能な開発、経済システムの必要性を認識できること。 ・持続可能な社会環境や地域活性化の観点から、現代社会のあり方やライフスタイルを見直す必要を認識できること。 ・新たな自然科学の動向とともに、地球の自然環境や生命に関する基礎知識を鑑み、環境保護、エネルギー問題、心身の健康などを改善する必要を認識できること。 ・物質とエネルギーの機構やダイナミクスについて広い視野を持って、現代社会のあり方やラ 				

<p>イフスタイルを見直す必要を認識できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思想・芸術・歴史などの視点から、持続可能性の土台となる人間のあり方を探究し、環境問題を幅広く見ることができること。 					
<p>教科書 環境科学入門 学術図書出版社 参考書 地球汚染 1.2 NHK 取材班著 (日本放送協会) 日本放送協会地球は救えるか 1.2 NHK 取材班著 (日本放送協会) 環境とエネルギー 安藤淳平著 (東京化学同人) 地球温暖化の時代 スティーブン・H・シュナイダー著 (ダイヤモンド社) 地球と人類は持続するか 高辻正基著 (裳華房) エントロピーの法則 J.リフキン著 (詳伝社) 沈黙の春 レイチェル・カーソン著 (新潮社) 他多数</p>					
<p>授業の進め方 ビデオとプリントをもとに講義する。</p>					
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 地球の歴史・地球環境問題とは何か(松田) 地球の仕組み(エントロピーの法則)(松田) 地球温暖化とは何か(松田) 公害の発生(馬淵) 新居浜の公害と対策(馬淵) プルトニウムと私たち(馬淵) 人類と生態系(深山) 原子力の光と影(深山) ゴミ問題(深山) 利便性の追求・自動車社会の功罪(早瀬) 砂漠化、オゾンホール(早瀬) 生物多様性の保全(早瀬) マイクロコスモス(谷) 日本の環境政策(谷) 不確実な未来へ向けて(谷) 					
<p>成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト・提出物等 50%で評価する。</p>					
<p>学生へのメッセージ エネルギーを大量消費することにより現在の我々の生活が成り立っています。熱力学的に考えると、このままでは近い将来現在のエネルギー大量消費生活が破綻することは明らかです。自分たちの置かれている立場を理解し、持続可能な社会とは何かを考え、自ら積極的に行動する社会人となってほしい。</p>					
学習・教育目標 (生産工学)	D-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	D-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	A-1, A-2 D-3
(出典 平成18年度シラバス)					

資料5-2-①-14			
授業科目	担当教員	開講期	
技術者倫理	谷本 修司・吉川貴士・佐藤 眞一・ 榊原 久司・衣笠 巧・高橋 知司	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
10700	5年 電気工学科	選択	1単位

<p>授業概要 科学技術の進歩に伴い、技術者の判断が社会や環境に与える影響について知り、技術者としての解決策の提案および実行を行わなければならないことを理解する。 また、その解決策を選択するための価値(判断)について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術的解決の結果が、社会や自然に与える影響の範囲と大きさを理解できる ・技術者として意思決定の際に、セブンスステップガイド法などを用いて判断できる ・リスクマネジメントの基本を理解できる ・技術者として倫理規定に基づいた判断ができる ・製造物に対する技術者の責任の基本的概念を理解できる ・組織の中のエンジニアとしてすべきことを考えることができる ・技術者として知的財産権(特に特許権と著作権)の必要性を説明できる 					
<p>教科書 はじめての工学倫理第2版 齊藤了文、坂下浩司 編 (昭和堂)</p> <p>参考書 第二版大学講義技術者の倫理入門 杉本泰治、高城重厚 著 (丸善) 実践的工学倫理 中村収三 著 (化学同人) 技術者倫理の世界 藤本温 編 (森北出版) 技術者倫理入門 谷垣昌敬 監修、吉村忠与志、戸島貴代志 著 (オーム社) はじめての工学倫理初版 齊藤了文、坂下浩司 編 (昭和堂)</p>					
<p>授業の進め方 教科書を中心に、様々な事例を紹介しながら、説明や討論を交えて授業を進める。ほぼ毎回課題を与える。</p>					
<p>授業内容</p> <p>第1回:序論(なぜ技術者倫理か?) 第2回:工学の倫理概念について(倫理問題の解決法) 第3回:応用倫理(環境倫理と工学倫理) 第4回:リスク・マネジメント 第5回:セクシャル・ハラスメント 第6回:安全性と設計 第7回:企業秘密 第8回:倫理規定 第9回:工程管理 第10回:知的財産権 第11回:Profession(技術者)としての責任 第12回:製造物責任法 第13回:企業の社会的責任 第14回:技術者と組織の対立 第15回:内部告発の是非</p>					
<p>成績評価の方法 レポート(提出物)の内容を100%として評価する。</p>					
<p>学生へのメッセージ 科学技術に関わる事故が起こるたびに企業倫理が問題にされるが、その本質は技術者個人のモラルにある。倫理の問題に絶対的な正解はなく、ある解答には必ず反対意見があり、議論を尽くしてより優れた解答を求めることが我々のできる最善です。技術者の意思決定にはこのような倫理的側面がつきまとうことを理解し、広い視野を持つことと自分で考えることの重要性を認識してほしいと思います。</p>					
学習・教育目標 (生産工学)	D-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	D-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	A-2

(出典 平成18年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

学校の教育目標「課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために、高学年になるにつれて講義に対する実験実習の割合が増えるように科目を配置している。各授業では少人数授業、習熟度別クラス編成、科学技術ソフトウェアの活用などの工夫をしている。また、「豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む」を

達成するために主題学習，企業在職者の講義，複数教員担当などの工夫をしている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスの様式は全科目で統一されており，授業概要と到達目標，授業の進め方，授業内容，評価方法，学生へのメッセージ等が記載されている(資料5-2-②-1)。

各科目において，第1回の授業の際に，授業担当教員がその科目のシラバスを学生に配布し，その内容を説明している。また，本校ホームページにも公開している。

シラバスは学生に授業目標を把握させるために活用しており，学生の「授業アンケート」においてその周知の度合いを調査している(資料5-2-②-2)。その結果に基づいて，各教員はシラバスの活用方法の改善を図っている(訪問調査資料 平成18年度授業アンケートのまとめ)。また毎年，各学科の教育改善委員会が中心となってシラバスを検討し，その内容に関する指摘や提案を当該学科に対して行っている(資料5-2-②-3)。これによって，授業の内容や方法の改善を促したり，科目間連携を図っている。

資料5-2-②-1

シラバス書式

授業科目	担当教員	開講期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
	年 学科		単位
授業概要			
到達目標 ・ ・ ・			
教科書			
参考書			
授業の進め方			

授業内容					
前期			後期		
1		1		2	
2		2		3	
3		3		4	
4		4		5	
5		5		6	
6		6		7	
7		7		8	
8		8		9	
9		9		10	
10		10		11	
11		11		12	
12		12		13	
13		13		14	
14		14		15	
15		15			
成績評価の方法					
学生へのメッセージ					
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)					

資料5-2-②-2
<p>授業に関するアンケート</p> <p>1. シラバス（授業要目）どおりの授業および評価ですか。</p> <p><input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> そう思わない <input type="checkbox"/> シラバスを知らない</p> <p style="text-align: right;">(出典 授業に関するアンケートより抜粋)</p>

資料5-2-②-3
平成18年3月30日
教育改善委員長 河村先生
カリキュラム・シラバス検討委員会 衣笠 巧
平成18年度シラバスチェック結果の報告
以下は、平成18年度開講科目シラバスについてチェックした結果、問題と思われる点を科目担当者の

学科・科別に抽出したものである。チェック項目は、1～3年生で新しく設定した到達目標と成績評価（特に出席点、受講態度）を中心に検討し、他の部分は十分には見ていない。

一般教養科担当科目

<国語>

国語1

- ・成績評価方法の割合が明確でない。「総合的に評価する」ではなく、定期試験70%、提出物30%などのように定量的に示す。
- ・評価に「出席状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる内容に変える。

国語2

- ・到達目標にある「自分の考えを持ち、表現できる」は、口頭か文章か、両方か明確にしてはどうか。
- ・成績評価方法の割合が明確でない。「総合的に評価する」ではなく、定期試験70%、提出物30%などのように定量的に示す。
- ・評価に「出席状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる内容に変える。

国語3

- ・問題なし

国語4

- ・到達目標の「論理的な文章表現ができる」は、国語2の達成目標「論理的で客観的な文章表現ができる」との違いを明確にする。

国語特講

- ・問題なし

(略)

数理科担当科目

<数学>

数学A-1

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

数学B-1

- ・到達目標を、「～ができること」等の表現にする方がよい。

数学A-2

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

数学B-2

- ・到達目標が、非常に具体的な項目と抽象的な項目が混在している。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

数学A-3-1

- ・到達目標の「テイラーの定理の理解」、「オイラーの公式の理解」は難しいのでは。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

数学A-3-2

- ・3年生の数学の到達目標は、専攻科の「工業数学及び演習」と比較してレベルが高いのではない。
- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

数学B-3

- ・評価に「授業態度」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

(略)

生物応用化学科担当科目

<物理化学担当>

情報リテラシー

- ・到達目標の、「自らを守ることができる」は、「自らを守る方法を知る」等の表現が適切でないか。
- ・到達目標の、「犯罪に巻き込まれないようにすること」は必要か。
- ・成績評価の課題提出と課題等授業に取り組む姿勢の評価は、別に評価するものなので、分けるべきでないか。

コンピューターサイエンス2

- ・到達目標の「情報化社会を・・・」の意味がわかりにくい。
- ・授業内容の「情報通信ネットワーク1」の「1」は必要か。
- ・授業内容の1、(1)の違いに意味はあるのか。演習が()付きというわけでもなさそう。

物理化学1

- ・「ファンデルワースル」は「ファンデルワールス」でないか。
- ・到達目標の「自由エネルギー」、「化学ポテンシャル」は、学習内容にない。
- ・「表すことができること」は、「表せること」等の表現でよいのでは。
- ・「現象例をいくつか上げ」は「挙げ」にする。
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

物理化学2

- ・参考書の著者名等が途中で切れている。
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

生物物理化学 1

- ・問題なし
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

生物物理化学 2

- ・問題なし
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

(略)

(出典 生物応用化学科カリキュラム・シラバス検討委員会記録を編集)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには、各学科の教育目標に対応した到達目標、およびそのために適切な授業の進め方、授業内容、評価方法などを記載している。

シラバスは、最初の授業で授業担当教員が学生に配布し、授業目標を把握させるために活用している。シラバスの周知度は「学生の授業アンケート」で調査し、各教員がその改善を図っている。また、シラバスは毎年見直しされ、それを通して授業内容の改善や科目間連携のために活用されている。

観点 5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点にかかる状況)

機械工学科では、2年次から、「デザイン工学演習」の中でリモコンによる操作が可能な玉入れロボットの設計・製作を実施している。斬新なアイデアを生み出して具体的な機構を考えるために、ブレインストーミングやメカニカル発想法を取り入れており、グループで考えながら創造するという教育方法を採用している（資料 5-2-③-1）。4年次では「創造設計製作」を開講し、三次元 CAD を使用した創造性教育を実施している（資料 5-2-③-2）。

電気情報工学科では、1年次に「電気情報実習 A」、2年次に「電気情報実習 B」および3年次に「電気情報工学実験 1」の科目を設定し、創造性を育む教育を行っている（資料 5-2-③-3、資料 5-2-③-4、資料 5-2-③-5）。各科目において、基礎的な工作実習を行った後、夏休みの期間も活用して各学生が創意工夫した作品を製作し、その成果発表会を行っている（資料 5-2-③-6）。

電子制御工学科では、4年次の「電子創作実習」において、学生が3、4名のチームに分かれ、決められたルールで競技をするロボットを設計・製作する過程を通し、創造性を育む授業が実施されている（資料 5-2-③-7）。具体的には、問題点を予測し対策を立てる能力、一面的なものの見方にとらわれずに様々な工夫を凝らす能力、チームのメンバーと協調して取り組む能力等を育成するように努めている。

生物応用化学科では、4年次の「生物応用化学実験 3、4」において、担当教員と話し合いながら、学生自らが実験装置や実験方法などを考えて実施するセルフプランニング実験を導入し、創造力・問題解決能力を育成している（別添資料「平成18年度「セルフプランニング実験」学習の手引き」）。

材料工学科では、創造性を育むための導入教育として1年次の「材料工学入門」において、レゴ・マインドストームを用いたロボット製作などを行っている（資料 5-2-③-8）。また、4年次の「総合実習」において、与えられた制約条件内で製品を設計し、製造および検査までの工程を実習

することにより、創造性を育成している（資料 5-2-③-9）。

インターンシップは、正規の教育課程に位置づけ、4年次に全学科の学生全員が主に夏季休業を利用して行っている（資料 5-2-③-10, 資料 5-2-③-11）。これにより、学習の動機付けと職業に対する意識付けを行うとともに、将来の社会人としての自覚を促している。また、事前学習として学外講師による講演会を実施し、実習に当たっての心構えを持たせるようにしている（資料 5-2-③-12）。実習終了後には、「インターンシップ報告会」を公開授業として実施し、教員による評価を行っている（資料 5-2-③-13）。さらに、実習内容をまとめた報告書を作成し、実習先に配布している（訪問調査資料 平成 18 年度インターンシップ報告書）。

資料 5-2-③-1			
授業科目	担当教員	開講期	
デザイン工学演習	鎌田慶宣、吉川貴士、谷脇充浩	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11805	2年 機械工学科	選択	1
授業概要 実際に自分の考えたアイデアを具現化する。実物のものづくり体験を通じ、ものを作るために必要な事柄（意思疎通、正確な図面、専門知識の必要性、加工技術、工程管理、工具・部品管理、作業報告書など）を実感する。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に存在する道具あるいは装置などに取り入れられている相対的な運動のメカニズムを理解し、イメージできる ・課題（機構）を有する物づくりを通じて、目標・計画・製作・コンテスト・評価の一連の流れを理解する ・作業報告書を書くことができる 			
教科書 はじめてのロボコンマニュアル 鈴木泰博編 著 オーム社 参考書 ロボット製作のキーワード 清弘智昭、鈴木昇 著 オーム社 たのしくできるやさしいメカトロ工作 小峯龍男 著 東京電機大学出版局			
授業の進め方 各チームで与えられた課題（条件）を満足する装置を作製する。			
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. デザイン工学演習の進め方、評価方法およびテーマの説明 2. アイデアの創出 3. チームミーティング 4. 計画書の作成 5. 製作図面の作成 6. 加工・組立 7. コンテスト 8. 自己評価・テスト 			
成績評価の方法 設計書（作業報告書 10%、製作図面 10%、アイデア 10%、その他提出物 10%）、自己評価 30%、テスト 30%			
学生へのメッセージ 本教科では、1年生のデザイン工学基礎で学んだ、学生が自ら学習目標（計画）をたて、努力し、自己評価を行なうというスタイルで行なう。また、班員において分担内容が異なるため、自己評価における該当する評価細目など異なるので、各自意欲を持って取り組んでください。			

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-③-2

授業科目	担当教員	開講期	
創造設計製作	鎌田慶宣、谷口佳文、吉川貴士	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11841	4年 機械工学科	必修	4単位

授業概要

新しい機械(装置)をつくり出すためには、要求される性能や機械の目的(機能)を明確にし、それらを実現するために、学んだことを応用したり、機能や構造を考案する創造性が要求される。さらに、設計製図に関する知識や学んだ基礎知識を生かして、アイデアを具現化することが必要である。本授業では、与えられた課題を基に、グループごとにアイデアの創出から設計図面の作成までを行う。

到達目標

- ・課題を通じてグループでプロジェクト学習を行い、チーム内でコミュニケーションを計ることができる
- ・機能を発揮するためのアイデアを盛り込むことができる
- ・計画を立て、計画通りに実行できる
- ・これまでに学んだ基礎知識や技術を用いて設計、製図を行うことができる
- ・自分の考え(設計・機能・機構など)を聞き手にわかりやすくプレゼンテーションができる
- ・実施した内容を報告書にまとめることができる

教科書

プリント

参考書

Pro/ENGINEER Wildfire2.0による実践3次元CADテキスト 上智大学設計製図教育研究会

授業の進め方

グループでアイデアを創出し、基本設計を行い、3次元CADで作成し、組み立てる。その後、付加機能(能力、性能アップ、新たな動きなど)を加え、設計する。付加機能追加における計画、分担、コンセプトのプレゼン、設計、問題(トラブル)解決などをチームで行なう。

授業内容

- ・授業のガイダンス
- ・アイデアの発想(ブレスト、メカニカル発想法)
- ・特許検索・特許マップの使用方法
- ・アイデアコンセプトのプレゼンテーション
- ・実施計画
- ・設計手法
- ・CADのCAE機能の使い方
- ・製図(CAD)
- ・2次元図面の仕上げ
- ・コンテスト(プレゼン)
- ・成果報告書作成(特許明細書風)

成績評価の方法

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ・報告書とプレゼンテーション(論理性、問題発見とその対策) | 30% |
| ・計画と実行(フェーズごとの設定した期限の厳守) | 30% |
| ・アイデアの具現化(独創性、設計) | 40% |

学生へのメッセージ

- ・グループ内でコミュニケーションを図り、お互いを理解し合うよう努めること。
- ・各自の分担を責任を持って遂行すること。
- ・普段からいろいろな物のしくみに関心を持ち、よく観察する習慣を身につけること。

学習・教育目標 (生産工学)	C-1、 C-2, E-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
-------------------	------------------	-------------------------	--	---------------------	--

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-③-3																																			
授業科目	担当教員	開講期																																	
電気情報実習 A	尾西康次・横山隆志	通年																																	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数																																
17190	1年 電気情報工学科	必修	1 単位																																
<p>授業概要 種々の電子装置の製作を通して、装置や回路の加工・組立技術を修得する。センサーなどの電子素子・部品の機能に関する知識を修得する。プログラミングに必要な基礎知識を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子工作に必要な道具の名前と使用法を習得する。 ・簡単な電気回路の接続ができるようになる。 ・IC,トランジスタ、抵抗、コンデンサなどの名前とピン接続が理解できる。 ・NQC を使ってロボットを動かす簡単なプログラムができるようになる。 																																			
<p>教科書 電気情報実習 A 指導書 改訂やさしい電子工作教室 高田継男・中山昇 CQ 出版</p> <p>参考書 なし</p>																																			
<p>授業の進め方 学生を A,B の 2 グループに分け、「電気情報基礎演習」とタイアップして、グループ A がこの科目を 2 時間受講している間、B グループは「電気情報実習 A」を受講し、翌週、交代し、2 週間で 1 サイクルとする授業形態を基本とする。</p>																																			
<p>授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">前期</th> <th style="text-align: center;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 道具の使い方 (A グループ)</td><td>1 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (A グループ)</td></tr> <tr><td>2 道具の使い方 (B グループ)</td><td>2 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (B グループ)</td></tr> <tr><td>3 テスターの製作 1 (A グループ)</td><td>3 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (A グループ)</td></tr> <tr><td>4 テスターの製作 1 (B グループ)</td><td>4 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (B グループ)</td></tr> <tr><td>5 テスターの製作 2 (A グループ)</td><td>5 課題の製作 3 (特性測定) (A グループ)</td></tr> <tr><td>6 テスターの製作 2 (B グループ)</td><td>6 課題の製作 3 (特性測定) (B グループ)</td></tr> <tr><td>7 導通チェッカーの製作 (A グループ)</td><td>7 マインドストーム実習 1 (A グループ)</td></tr> <tr><td>8 導通チェッカーの製作 (B グループ)</td><td>8 マインドストーム実習 1 (B グループ)</td></tr> <tr><td>9 ラジオの製作 1 (A グループ)</td><td>9 マインドストーム実習 2 (A グループ)</td></tr> <tr><td>10 ラジオの製作 1 (B グループ)</td><td>10 マインドストーム実習 2 (B グループ)</td></tr> <tr><td>11 ラジオの製作 2 (A グループ)</td><td>11 マインドストーム実習 3 (A グループ)</td></tr> <tr><td>12 ラジオの製作 2 (B グループ)</td><td>12 マインドストーム実習 3 (B グループ)</td></tr> <tr><td>13 夏休み工作発表会 (A,B グループ)</td><td>13 マインドストーム実習 4 (A グループ)</td></tr> <tr><td>14 モーターの製作 (A グループ)</td><td>14 マインドストーム実習 4 (B グループ)</td></tr> <tr><td>15 モーターの製作 (B グループ)</td><td>15 競技と発表会 (A,B グループ)</td></tr> </tbody> </table>				前期	後期	1 道具の使い方 (A グループ)	1 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (A グループ)	2 道具の使い方 (B グループ)	2 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (B グループ)	3 テスターの製作 1 (A グループ)	3 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (A グループ)	4 テスターの製作 1 (B グループ)	4 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (B グループ)	5 テスターの製作 2 (A グループ)	5 課題の製作 3 (特性測定) (A グループ)	6 テスターの製作 2 (B グループ)	6 課題の製作 3 (特性測定) (B グループ)	7 導通チェッカーの製作 (A グループ)	7 マインドストーム実習 1 (A グループ)	8 導通チェッカーの製作 (B グループ)	8 マインドストーム実習 1 (B グループ)	9 ラジオの製作 1 (A グループ)	9 マインドストーム実習 2 (A グループ)	10 ラジオの製作 1 (B グループ)	10 マインドストーム実習 2 (B グループ)	11 ラジオの製作 2 (A グループ)	11 マインドストーム実習 3 (A グループ)	12 ラジオの製作 2 (B グループ)	12 マインドストーム実習 3 (B グループ)	13 夏休み工作発表会 (A,B グループ)	13 マインドストーム実習 4 (A グループ)	14 モーターの製作 (A グループ)	14 マインドストーム実習 4 (B グループ)	15 モーターの製作 (B グループ)	15 競技と発表会 (A,B グループ)
前期	後期																																		
1 道具の使い方 (A グループ)	1 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (A グループ)																																		
2 道具の使い方 (B グループ)	2 課題の製作 1 (部品配置図と製作) (B グループ)																																		
3 テスターの製作 1 (A グループ)	3 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (A グループ)																																		
4 テスターの製作 1 (B グループ)	4 課題の製作 2 (部品配置図と製作) (B グループ)																																		
5 テスターの製作 2 (A グループ)	5 課題の製作 3 (特性測定) (A グループ)																																		
6 テスターの製作 2 (B グループ)	6 課題の製作 3 (特性測定) (B グループ)																																		
7 導通チェッカーの製作 (A グループ)	7 マインドストーム実習 1 (A グループ)																																		
8 導通チェッカーの製作 (B グループ)	8 マインドストーム実習 1 (B グループ)																																		
9 ラジオの製作 1 (A グループ)	9 マインドストーム実習 2 (A グループ)																																		
10 ラジオの製作 1 (B グループ)	10 マインドストーム実習 2 (B グループ)																																		
11 ラジオの製作 2 (A グループ)	11 マインドストーム実習 3 (A グループ)																																		
12 ラジオの製作 2 (B グループ)	12 マインドストーム実習 3 (B グループ)																																		
13 夏休み工作発表会 (A,B グループ)	13 マインドストーム実習 4 (A グループ)																																		
14 モーターの製作 (A グループ)	14 マインドストーム実習 4 (B グループ)																																		
15 モーターの製作 (B グループ)	15 競技と発表会 (A,B グループ)																																		

<p>成績評価の方法 課題提出物(40%)、報告書(30%)、受講態度(30%)で評価する。</p>
<p>学生へのメッセージ この授業では多くの道具を使うので事故防止に心がけること。</p>

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-③-4			
授業科目	担当教員	開講期	
電気情報実習 B	尾西・香川	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
17821	電気情報工学科	必修	1 単位
<p>授業概要 種々の電子装置の製作を通して、装置や回路の加工・組立技術を修得する。 センサーなどの電子素子・部品の機能に関する知識を修得する。 PIC について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回路図が読むことができる ・トランジスタを使った簡単な回路が理解できる。 ・OP アンプを使った簡単な回路が理解できる。 ・デジタル IC の簡単な回路が理解できる。 ・PIC を使った回路の簡単なプログラムを作れる。 			
<p>教科書 電気情報実習 B 指導書 参考書 1 年次「電気情報基礎」で使用した教科書</p>			
<p>授業の進め方 学生を A,B の 2 グループに分け、「回路理論演習」とタイアップして、グループ A がこの科目を 2 時間受講している間、B グループは「電気情報実習 B」を受講し、翌週、交代し、2 週間で 1 サイクルとする授業形態を基本とする。</p>			
<p>授業内容</p> <p>前期;</p> <p>第 1 週 ガイダンス</p> <p>第 2 週 トランジスタを使った課題製作 1</p> <p>第 3 週 トランジスタを使った課題製作 1</p> <p>第 4 週 トランジスタを使った課題製作 2</p> <p>第 5 週 トランジスタを使った課題製作 2</p> <p>第 6 週 OP アンプを使った課題製作</p> <p>第 7 週 OP アンプを使った課題製作</p> <p>第 8 週 演習</p> <p>第 9 週 PIC の評価ボードの製作 1(A グループ)</p> <p>第 10 週 PIC の評価ボードの製作 1(B グループ)</p> <p>第 11 週 PIC の評価ボードの製作 2(A グループ)</p> <p>第 12 週 PIC の評価ボードの製作 2(B グループ)</p> <p>第 13 週 PIC の評価ボードの製作 3(A グループ)</p> <p>第 14 週 PIC の評価ボードの製作 3(B グループ)</p> <p>第 15 週 期末試験</p> <p>後期:</p> <p>第 1 週 デジタル IC を使った回路の製作 1 (A グループ)</p> <p>第 2 週 デジタル IC を使った回路の製作 1 (B グループ)</p> <p>第 3 週 デジタル IC を使った回路の製作 2 (A グループ)</p> <p>第 4 週 デジタル IC を使った回路の製作 2 (B グループ)</p> <p>第 5 週 デジタル IC を使った回路の製作 3 (A グループ)</p> <p>第 6 週 デジタル IC を使った回路の製作 3 (B グループ)</p> <p>第 7 週 演習</p> <p>第 8 週 PIC を使った工作 1(A グループ)</p> <p>第 9 週 PIC を使った工作 1(B グループ)</p> <p>第 10 週 PIC を使った工作 1(A グループ)</p> <p>第 11 週 PIC を使った工作 2(B グループ)</p> <p>第 12 週 PIC を使った工作 2(A グループ)</p> <p>第 13 週 PIC を使った工作 3(B グループ)</p> <p>第 14 週 作品発表会 (A,B グループ)</p> <p>第 15 週 期末試験</p>			

<p>成績評価の方法 課題提出物(50%)、定期試験(30%)、報告書(20%)で評価する。</p>
<p>学生へのメッセージ きちんとした服装で靴を履いてくること。 この授業では多くの道具を使うので事故防止に心がけること。</p>

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-③-5			
授業科目	担当教員	開講期	
電気情報工学実験 1	井門英司、香川福有、横山隆志	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
17830	電気情報工学科	必修	3単位
<p>授業概要 全体を測定実験、電子実習、情報実習に大別して行う。 測定実験では、原理の理解、器具・装置の取扱いと、説明の仕方の訓練を行う。電子実習では、基本的な素子・ICによる電子回路の製作と、説明の訓練を行う。また、情報実習では、UNIXおよびネットワークに関する基礎的なコマンドの使用法と、説明の訓練を行う。これらの実験・実習を通して、報告書の作成および説明能力を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習に参加し、班員と協力して進めることができること。 ・実験・実習の原理を理解し、結果を図表に整理して、それに対する検討・考察ができること。 ・回路図に沿って、適切な配線による回路製作ができること。 			
<p>教科書 電気情報工学実験 1(指導書) 新居浜高専・電気情報工学科(編集)</p> <p>参考書 基礎電気電子計測 図書館:PIC マイコン、UNIX 入門、インターネットの仕組みに関するもの</p>			
<p>授業の進め方 (1)測定実験、電子実習および情報実習に大別して、前期・後期ともに4週間ごとに交代しながら順次実施する。 (2)それぞれ3回の実験・実習のあと、報告書を提出し口頭試問を受ける。 (3)Word,Exel による報告書の作成練習、配線テスト、口頭発表等を適宜交える。</p>			
<p>授業内容 前期: 1 ガイダンス(実験の進行、テキスト整理、一般的な注意事項など) 2~13 4週間ごとに交代し、下記3分野の実験・実習と口頭試問を実施 14 電気工作発表、15 まとめ 測定実験 (1)測定器の使用法(オシロスコープほか) (2)交流電力・力率改善(RL 負荷、位相、電力、力率改善) (3)整流回路の特性測定 (全波整流、L/C 平滑回路、波形観測) 電子実習 (4)PIC ボードによるプログラミング演習 情報実習 (5)UNIX 入門(基本的なコマンド、エディターvi、プログラムの実行手順ほか) 後期: 1 ガイダンス(実験の進行、テキスト整理、一般的な注意事項など) 2~13 4週間で交代し、下記3分野の実験・実習と口頭試問を実施 14 配線テスト、15 まとめ 測定実験 (6)直列共振特性の測定(RLC 直列共振曲線、共振周波数、共振の鋭さ、コイルの抵抗測定) (7)論理回路の基礎(基本論理素子、組み合わせ回路) (8)磁気特性の測定(減磁、BH 曲線、ヒステリシスループ) 電子実習 (9)発光素子、フリップフロップの使い方と PIC マイコンの応用回路 情報実習 (10)ネットワーク入門(ネットワーク概要、基本的なコマンドほか)</p>			

<p>成績評価の方法 (1) 実験・実習への参加・協力 30%、 (2) 報告書 40%、 (3) 口頭発表または口頭試問、配線テスト 30% ただし、原則として、全テーマについて、実験・実習の実施、報告書の提出(再提出)し、口頭発表または口頭試問の完了し、配線テストに合格していること。</p>
<p>学生へのメッセージ (1) 実習は回路等の製作(もの作り)の基本です。 (2) 口頭試問・口頭発表は、内容を相手に理解してもらおう練習であって、益々重要になります。 (3) 無線従事者・電気工事士・電気主任技術者・情報処理技術者関連科目である。</p>

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5-2-③-6

『夏休み宿題 電気工作』 回路理論演習・電気情報実習 B H18.7.19

1. 工作物の製作：電気で動作する工作物を作る。

(1) 優れた工作物とは、製作物の構造を制作者自身が良く考えて工夫していること
 工作技術が優れているか。ちゃんと動作するか、工夫の余地が少ないキットの評価は低い。役に立つ、面白いなどの点から製作物が優れているか。

(2) 材料の調達

- 1) ディックやプラモデル店などに工作物のキットや工具を販売している。
- 2) 100円ショップなどに電気部品(スピーカ, モータ, スイッチ等)の付いている品物や工具(ニッパー, ペンチ, ドライバー)を販売している。
- 3) 電気工作に関する雑誌(トランジスタ技術など)の広告には、電気部品やキットなどの価格が掲載されており、通信販売されている。

(3) 参考図書、資料

楽しい電子工作、やさしい電子工作教室、簡単な工作.....など書店、図書館などに参考になる本がたくさんあるので参考にすればよい。インターネットなどで、工作、電子回路、リレー、自由工作、色々なキーワードで検索すると参考になるのがあるかも、いろいろな物に普段から注意して関心をもつこと!

2. 提出物(工作物、報告書、説明用概要)について

提出期限

工作物		9月1日～5日までの放課後に
説明用概要	(A3)または(A4)用紙に書く。	各教員室に持参すること。
報告書	(A4)用紙に書く。	9月6日(水)電気磁気実験室に持参すること。

(1) 工作物

見えにくいところに、出席番号と名前をマジックで書いておくこと。

(2) 報告書の書き方

- 1) 表紙：電気基礎演習 A レポート用を使用し、工作物の題目を書く。
- 2) 構造とその動作原理
 - a) 工作物の構造、操作の仕方を説明する。
 - b) どのような動作をするか、その理由
 - c) 構造図や電気回路図を書いて、これをもとに説明をする。
- 3) 材料の調達法：購入先名、費用、選んだ理由
- 4) 感想
 - a) 製作時間
 - b) 工夫したこと、困ったこととその解決策
 - c) その他

(3) 説明用概要(パネルに貼付用)の書き方

- 1) A4用紙に書き、90cm×90cmのパネルにセロテープなどで貼り付ける。

- 2) パネルに貼れるA4用紙は、横方向に4枚、縦方向に3枚、合計12枚までである。
- 3) 筆記用具は細書きマジックインキなどを用い文字は濃く、はっきりと書く。
(机の上に展示し、1m程度離れて見ても明瞭であるよう)
- 4) 左上の隅には、出席番号と氏名、題目 電気工作物名を書くこと。
- 5) 内容
- a) 工作物の調達の仕方
購入先、およその費用、キットか部品を自分で集めて作ったか。
- b) 製作過程
製作にかかった時間、工夫した点、困った点とその解決方法など。
- c) 製作物の構造、動作原理や操作法などの説明、(図を用いて説明する。)
- (4) パネル展示用説明文のチェック 9月1日～5日までの放課後、各アドバイザー教員室にて行う。

作品名一覧

	氏 名	工 作 名
1	安 藤 賢 人	白色LED点滅回路
2	石 川 大 貴	電子ホタル
3	大 石 哲 史	就寝用ランプ
4	岡 村 和 晃	リモート温度計
5	岡 村 直 樹	デジタル温度計
6	越 智 亮 介	11曲メロディー&アラーム
7	加 藤 一 由	AQコマ
8	鎌 田 啓 太	電子ふうりん
9	桑 原 信 也	トランジスタ式警報タイマー
10	小 武 裕 紀	暗くなると点くランプ
11	坂 部 一 平	ミニな扇風機
12	清 水 謙 太	懐中電灯
13	鈴 木 駿 也	乾電池チェッカー
14	鈴 木 優 斗	遠心スイッチ光るオルゴールごま
15	皆 我 達	電子ブザー
16	十 河 大 地	電子オルガン
17	高 橋 千 愛	常夜灯
18	槌 屋 大 二 郎	電子ホタル
19	椿 本 慧 太	デジタル温度計
20	戸 川 康 平	ミニ蛍光灯
21	永 易 弘 之	無安定マルチバイブレーター
22	西 谷 祐 樹	電子風鈴
23	西 原 祥 太	電子ホタル
24	濱 田 哲 平	扇風機
25	福 岡 克 真	ループアンテナラジオ
26	藤 田 衛	LEDウインカー
27	星 川 守	RC発振回路の工作と解析
28	堀 大 志	お休み前ランプ
29	松 岡 裕 樹	電子早起き鳥
30	松 木 奈 緒	水量検査機
31	松 本 圭 仙	四色サイレン
32	宮 西 孝 明	調光器
33	村 上 慶 介	電子メトロノームの製作

34	村上 智彦	無安定マルチバイブレータ回路
35	守田 宗右	PCクーラーの製作
36	矢野 智裕	リレーの使い方
37	山田 武士	電子オルガンの製作
38	結田 泰文	電子オルガン
39	横井 勇駿	HTML 言語を使用した文字の背光処理
40	渡部 貴紀	フライングカップヌードル
41	渡邊 大地	お休み前ランプ

(出典 電気情報工学科授業担当教員保存資料より抜粋)

資料 5 - 2 - ③ - 7			
授業科目	担当教員	開講期	
電子創作実習	出口 幹雄・松友 真哉	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
13832	4年 電子制御工学科	必修	3 単位
<p>授業概要 マイクロコンピュータを用いた競技用マシンの設計・製作を通じて、電子回路・デジタル回路・コンピュータ・プログラミング・インターフェース・センサ、などに関する実用的な基礎技術を習得するとともに、チームワークによる仕事の進め方について学ぶことを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OPアンプ・デジタルICの使い方について実践により体得すること。 ・マイクロコンピュータのプログラミングについて実践により体得すること。 ・モータの回転制御について実践により体得すること。 ・超音波センサについて実践により体得すること。 ・赤外線センサについて実践により体得すること。 ・コンピュータの割り込み技術について実践により体得すること。 ・ものづくりの具体的進め方について実践により体得すること。 			
<p>教科書 新居浜高専・電子制御工学科編集 新版図解 Z-80 の使い方 横田英一著 オーム社 参考書</p>			
<p>授業の進め方 クラスを半分ずつ 2 班に分け、電子制御実験 1 と同時開設で、2 週毎に交代しながら実施する。</p>			
<p>授業内容</p> <p>第1週 OPアンプの基本回路 第2週 マルチバイブレータ 第3週 アナログスイッチ・フリップフロップ・カウンタ 第4週 CPUの制御信号・8255の使い方 第5週 マシン語プログラミング 第6週 超音波の利用 第7週 モータの駆動 第8週 赤外線センサ</p> <p>第1週 割り込みを用いた制御 第2週 マシン製作 第3週 マシン製作 第4週 マシン製作 第5週 マシン製作 第6週 マシン製作 第7週 競技会</p>			
<p>成績評価の方法 作成したドキュメント類および製作物によって評価する。</p>			

学生へのメッセージ さまざまな科目で電気・電子工学にまつわる事柄を学んでいるが、一つのまとまったモノを自ら設計し作り上げて行こうとすると、これまで別々に学んで来たことが、バラバラのものではなく、実は密接に関わったものであることに気付くはずである。その時にそれらが一本の線につながって自分のものになる。そういう視点の変革を、意識して体験して欲しい。また、他人と協力して一つのものを作り上げて行く際に、何が最も重要か、ということをよく考えながら受講して欲しい。					
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)	B-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)					

資料5-2-③-8

授業科目	担当教員	開講期	
材料工学入門	材料工学科全教員	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
15201	1年 材料工学科		2単位
授業概要 全教員が担当し、ものづくりや実験、観察を通して直接に物質や材料に触れる機会をもつばかりでなく、学生と一緒に課題に取り組む過程で、学生との交流を図りつつ材料工学に対する興味、関心を持たせる。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・材料工学についての基礎的な知識を身に付けること。 ・実験・実習における安全（機器の取り扱いなど）に注意できること ・問題解決におけるアイデアの創出方法が理解できること 			
教科書 なし 参考書 なし			
授業の進め方 10名程度のグループを作り、1/4期づつ順次交代し、全教員のもとで課題に取り組む。			
授業内容 1. ものづくりとコンテスト（池内、志賀、松英） 数名のグループでレゴ・マインドストームを用いた実習を行う。学生達には課題を通して材料工学に基づいた設計の基礎を修得するとともに、発想力やコミュニケーションの大切さを学んでもらう。 2. 金属、合金の組織観察と性質（高橋、日野） 身の回りに使われている「合金」にはどのようなものがあり、我々の生活にいかに役立っているかを紹介する。 実際に青銅鏡合金を作製する実習では、材料の強さや硬さを体感したり顔（組織）を光学顕微鏡で観察することで様々な特徴があることを実感する。実習を行った成果は、目的、実験方法、測定データ、観察結果、現状の使用例や今後の応用についてのアイデア等をまとめる。 実習：古代のロマン？青銅鏡をつくらう！ 3. 銅コップの作製（曾我部、谷、松原） 直径180mm 厚さ0.8mmの銅板を切り出す。焼き鈍しと鍛造を繰り返し、銅板を徐々に絞り、コップを作成する。 4. セラミックスと金属の性質の違い（相根、新田、朝日） 前半は、無機材料であるセラミックスと金属の特徴や性質の違いについて紹介する。実際に、セラミックス（ガラスを含む）を作製することで、材料と触れ合い身近な材料としての親密感を深			

めてもらう。後半は、セラミックスと金属で違う性質を1つ取り上げ、どうしてその違いが出るのかを考える。

成績評価の方法

グループ毎に、課題提出（60%）、取組姿勢（30%）、受講状況（10%）を総合的に評価する。学年成績は、各グループでの成績を合計し、その平均点とする。

学生へのメッセージ

積極的に授業に参加し、モノづくりやいろいろな材料にふれることにより、材料のいろいろな性質に興味を持って欲しい。また、身の回りの材料で分からないことをどしどし質問し、材料のものしり博士になろう。

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-2-③-9

授業科目	担当教員	開講期	
総合実習	池内 保一・松英 達也・ 日野 孝紀	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
15870	4年 材料工学科	必修	3単位

授業目標

授業概要

総合実習では所定の設計条件を満足するようなマシンバイスを設計し、その製作図に基づいて鋳造および鋳造品の機械加工を行う。その後、組立ておよび強度検査を行う。このように、ものを作成する行程（設計→鋳造→加工→組立→検査）をすべて経験することにより、工作機械の操作法を修得するとともに、ものを作ることの難しさを理解し、さらには完成したときの喜びを実体験する。また、鋳造品を加工する側の立場からも見やすい製作図の書き方を修得する。

到達目標

- ・設計書を作成できること
- ・工作機械の使用法を習得できること
- ・製品検査の考え方などを理解できること

教科書

なし

参考書

機械設計1 林洋次 他著 (実教出版)

<p>授業の進め方 班編成を行い、各班毎にマシンバイスの設計製作を行う。1～4 週では各班毎に設計および鑄造を行い、5～14 週では各部品の機械加工および CAD 演習を実施する。第 15 週目に組立ておよび製品検査、総括を行う。</p>					
<p>授業内容 ガイダンス、マシンバイスの設計 (1) マシンバイスの設計 (2)・鑄造作業 マシンバイスの設計 (3)・鑄造作業 マシンバイスの設計 (4) 各部品の作製 ((5) ～ (14)) 1. 本体 2. 可動体、固定あご 3. 締付めねじ、締付おねじ 4. 口金、押え板、ハンドル、取付ピン 5. CAD 演習 マシンバイスの組立て、製品検査、総括 (15)</p>					
<p>成績評価の方法 総合実習に対する取組み姿勢 ((図面 70%+提出物 30%) を 70%に換算) (70%) と実習ノート (30%) により評価する。実習ノートが提出されなかった場合は単位を認めない。</p>					
<p>学生へのメッセージ 今までに学んできた各専門教科の知識を総合的に活用して、マシンバイスの製作に取組み、もの作りの難しさと完成の喜びを感じて欲しい。</p>					
学習・教育目標 (生産工学)	B、 C-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成 18 年度シラバス)					

資料 5-2-③-10

授業科目	担当教員	開講期	
インターンシップ	鎌田慶宣	原則として夏季休業中	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
12532	4年 機械工学科		2単位
授業概要 学外での就業体験を通して、授業の内容が現場ではどのように活かされているかを認識し、学習の動機付けとする。また、社会の一員としてのマナーや責任感や厳しさを体験することにより、自己啓発の機会を得ることを目的とする。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・事前ガイダンスにより、マナーや責任感やインターンシップの意義を理解できる ・授業の内容(知識)が実社会で活かされていることを理解できる ・体験を簡潔にまとめ、第三者にわかるようにプレゼンテーションできる 			
教科書 プリント(インターンシップの手引き) 参考書 なし			
授業の進め方 学外の工場、事務所、研究所、大学の研究室などで実習をする。			
授業内容 1 実習前に、事前講演会を聴講し、事前学習書を提出する。 2 夏季休業中の時期において、各学生が学外で2週間ほど実習する。 3 実習内容は、生産現場での業務、研究室での業務などであり、それを体験する。 4 実習終了後は報告書を提出する。 5 実習報告会で実習内容を発表する。			
成績評価の方法 実習報告書、実習発表会での発表を評価して、単位を認定する。			
学生へのメッセージ 授業の内容が現場ではどのように役立つか、また自分にとって必要な知識は何かを認識し、それを動機として今後の勉学に励んで欲しい。			
学習・教育目標 (生産工学)	D-1,E-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5-2-③-11

インターンシップ実施要領

現在、高等教育においては、国際化・情報化の進展、産業構造の変化など、日本の社会情勢の変化に伴って、これまで以上に自主性創造性を持った人材を育成するよう具体的な取り組みが求められています。

その有力な方法として、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連する就業体験を行うインターンシップがあり、本校においても鋭意取り組むものとし、正規の教育課程に位置付け、単位を認定している。

1. 目的

学生が、学外において、就業体験をすることにより、本校で学習していることが、企業等の現場では実際にどのように活かされているのかを認識し、実習後の学習上の動機付けとすること、自分は、何が出来るのか、何をしたいのか、そのために何を勉強すればいいのか等をじっくり考え、職業に関する自分の興味や関心・適性がどこにあるのかを見つめること、また、実社会の厳しさを多少なりとも体験することにより、社会人になるにあたっての自覚を持ち、さらに自己啓発をする機会を持つこと等を目的とする。

2. 実施時期

原則として、夏季休暇中（7月21日から8月31日）の連続する2週間とする。（やむを得ずこの期間に参加できなかった者は、3月に実施する。）

3. 受入先

就業体験の受入先を製造・生産分野等の企業に限定せず、セールスエンジニアとして活躍する販売分野、専門技術・知識を必要とする経営分野等受入可能な企業拡大に努めるとともに、公設研究機関、大学研究室等幅広く受入先を確保する。

4. 研修テーマ

研修テーマ等は、受入先の研修プログラムに一任する。

5. 学内研修

参加学生は、受入先の実習・研修中における学生の心得・服務等について、事前に本校での研修を行う。

6. 実施証明・単位認定

研修終了後、学生の実施内容、出席状況等に基づいて、受入機関が行う総合評価を基に本校で単位を認定する。

7. 学生に対する報酬・諸経費

教育・研修として実施するため、無報酬とする。

研修中における諸経費については、原則として学生の負担とする。

但し、遠隔地などの理由で往復旅費又は宿泊費について、受入先から支弁の提案があれば、受領する。

8. 賠償保険について

学生は、「インターンシップ活動賠償保険」に加入のうえ、研修に参加する。

保険料の掛金は、学校側で一括納入する。

（出典 学生課文書より編集）

新高専学第73号
平成18年7月3日

ユニバーサル開発設計事務所
代表 三谷千城 殿

新居浜工業高等専門学校長
水野



講演の依頼について

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

本校の教育活動につきましては、日頃から種々ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本校では、インターンシップに関しまして、従来から積極的に取り組み、今年度も7月21日からの夏休み期間中にインターンシップを実施すべく現在、準備を進めているところであります。

このインターンシップの実施にあたり、学生にとって有意義なものにするため、学生への意識付け、心構えの植え付け、また、本校の意図を明確に伝えるための事前教育を十分に行いたいと考えております。このため、事前教育の一環として、企業側による講演を下記のとおり計画いたしております。

つきましては、講師のご派遣をお願いし、学生がインターンシップに参加するに当たっての基本心得、技術者の心構え等について講演していただき、学生の参考になればと考えております。お手数ではございますが別紙によりご回答いただければ幸いです。

業務ご多忙の折、まことに恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日時 ①平成18年 7月11日(火) 14:30~15:30
②平成18年 7月11日(火) 16:00~17:00
※ 事前打ち合わせ30分程度
2. 対象 ①専攻科(生産工学専攻・生物応用化学専攻・電子工学専攻)1年生 26名
②本科(電気情報工学科・生物応用化学科) 4年生 80名
3. 場所 新居浜工業高等専門学校 視聴覚室

(出典 総務課資料)

資料5-2-③-13

平成18年10月18日

教員 各位

下記のとおりご案内いたします。

授業公開申告書

平成 18年 10月 18日

所 属 材料工学科

職・氏名 4Z 担任・相根博道

学科・科主任氏名 高橋知司

下記の授業について、公開します。

記

1. 科目名： (インターンシップ報告会)
2. 対象学年： 4年材料工学科
3. 担当者： 4Z担任、相根博道
4. 日時： 10月26日(木) 12:45～
5. 場所： 4Z教室
6. 授業形態： 4Z学生による発表(1人:発表3分、質疑1分)
7. 内容 インターンシップに関する報告
8. その他

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7-1

新居浜工業高等専門学校 学生課

教務係長 清水 智 宏

TEL:0897-37-7724, FAX:0897-37-7844

tomohiro@off.niihama-nct.ac.jp

(出典 教務係からのメール)

(分析結果とその根拠理由)

学生自らが実験装置や実験方法などを考えて実施するような実験やブレインストーミングやメカニカル発想法を取り入れた実習を行うなど創造性を育むための工夫をしている。今後、さらに低学年からの導入を検討するなど活性化を図っていくことが重要である。

4年次において全員がインターンシップを行うことにより、就業体験を通して学習の動機付けと

職業に対する意識付けを行うとともに、将来の社会人としての自覚を促している。

観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

単位認定、進級判定および卒業認定については、「新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程」に定め、本科履修要覧を用いて前期始業日のロングホームルームで学生に周知している(資料 5-3-①-1、訪問調査資料 平成18年度本科履修要覧)。

各科目の成績評価の方法はシラバスに記載し、これに基づいて適切に単位を認定している。なお、前期末試験および学年末試験後に1週間授業期間を設け、答案を返却して採点ミスがないかどうかのチェックをしたり、評価について問い合わせをしたりできるようにしている。

単位を認定されなかった科目については、条件を満たした場合に限って追認試験を受験することができ、合格した場合は「可」の評価をもって単位を追認する(資料 5-3-①-2)。

単位認定の結果に基づき、進級判定会議、卒業修了認定会議で進級判定や卒業認定を行っている。

資料 5-3-①-1

新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程

第1章 総則

第1条 この規程は、新居浜工業高等専門学校学則第13条第4項及び第14条第2項の規定に基づき、履修方法及び成績の評価並びに課程修了の認定に関し、必要な事項を定める。

第2章 定期試験及び追試験

第2条 定期試験は、各学期の期末に行う期末試験及びその中間に行う中間試験とし、いずれも一定の試験期間を定めて実施する。

2 授業科目の種類によつては、定期試験を行わないことができる。

3 試験の時間割りは、その都度公示する。

第3条 定期試験を受験できなかつた者で、やむを得ない理由がある場合には追試験を行うことがある。

2 追試験を受験しようとする者は、別紙様式1の追試験受験願を提出しなければならない。

第3章 評価

第4条 成績は、授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法で評価する。

第5条 学年成績は、学期成績を総合して評価する。

第6条 学年成績は、優・良・可・不可とし、次の区分による。

優	80点以上
良	65点以上80点未満
可	60点以上65点未満
不可	60点未満

第7条 追試験の成績は、原則として80点満点をもって評価する。

第8条 定期試験中に不正行為をした者については、当該定期試験に係る全授業科目の成績を0点とする。ただし、実験、実習、製図、工学基礎研究及び実技を伴う授業科目については、この限りでない。

第4章 課程修了の要件等

第9条 単位の計算方法は、1個学年30単位時間(1単位時間は50分とする)の授業を1単位とする。

第10条 次の各号のいずれかに該当し、第6条に定める評価が「可」以上の授業科目については、単位を修得したものと認める。ただし、第2号に掲げる場合において強い就学の意欲があるにもかかわらず、継続的な治療が必要な者については、欠席時間数の制限を緩和することができる。

(1) やむを得ない事情により欠席した場合については、欠席時間数が授業科目の単位数に30時間を乗じて得た時間数(以下「単位授業時間数」という。)の4分の1を超えないこと。

(2) 病気等やむを得ない事情により連続して2週間以上欠席した場合については、欠席時間数が単位授業時間数の3分の1を超えないこと。

第11条 各学年の課程の修了及び進級は、次の各号に掲げる条件を充足した者について、校長が認定する。

- (1) 当該学年までの修得単位数の合計が、別表1に定める累積単位数以上であること。
- (2) 当該学年に開設された○印が付いた必修科目をすべて修得していること。
- (3) 学科毎に定められた当該学年において修得を必要とする#印が付いた授業科目をすべて修得するか、又は修得上の条件を充足していること。
- (4) 第1学年から第3学年までは、当該学年に開設されている特別活動を修得していること。
- (5) 第4学年修了時まで*印が付いた授業科目をすべて修得していること。
- (6) 第4学年修了時まで一般科目67単位以上を修得していること。

第12条 卒業は、次の各号に掲げる条件（以下「卒業条件」という。）をすべて充足した者について、校長が認定する。

- (1) 修得単位数は、167単位以上とし、そのうち一般科目は75単位以上、専門科目は82単位以上であること。
- (2) 第1学年から第3学年に開設された*印が付いた授業科目、当該学年に開設された○印が付いた必修科目及び学科毎に定められた当該学年において修得を必要とする#印が付いた授業科目をすべて修得するか、又は修得上の条件を充足していること。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料5-3-①-2

新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程

第5章 単位の追認等

第15条 第10条各号のいずれかに該当し、かつ、評点が40点以上である未修得科目については、次の各号に定める方法により、追認試験を受験することができる。追認試験に合格した場合は、「可」の評価をもって単位の修得を追認する。

- (1) 第1学年から第4学年において、進級に必要な単位数を修得し、未修得科目がある場合には、進級した年度の前年度に受講した未修得科目（進級した学年以上の学年で開設されている科目を除く。）に限り、進級した学年で追認試験を受験することができる。
- (2) 第1学年から第4学年において、進級に必要な単位数を修得し、*印が付いた授業科目に未修得科目がある場合は、その未修得科目に限り、受講した年度の翌年度から2年間は進級した学年で追認試験を受験することができる。
- (3) 第5学年において、卒業に必要な単位数を修得し、一般科目の単位数又は専門科目の単位数が不足している場合には、当該年度に受講した未修得科目に限り、受験することができる。

2 追認試験を受けようとする者は、所定の期日までに別紙様式2の追認試験受験願を提出しなければならない。

3 追認試験に合格しなかつた科目を修得しようとする場合には、再受講しなければならない。

4 第5学年における単位の追認によつて卒業条件を充足した者については、3月31日付けで卒業を認める。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価、単位認定、進級判定および卒業認定に関する規定が明確に策定され、その周知も十分である。これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよ

う配慮されているか。

(観点に係る状況)

各学年には学年主任をおき、学級担任と副担任が協力しながら、学年ごとの運営目標・方針のもとに教育課程の編成の中で人間の素養を涵養するための活動を行っている。(資料5-4-①-1)。

1～3学年の各学年では、特別活動をそれぞれ30時間実施している(資料5-4-①-2)。学級担任は学年の運営目標および、それに基づく学級経営計画書にしたがって特別活動計画書を作成して実施している(資料5-4-①-3, 資料5-4-①-4)。

朝のショートホームルームでは、学級担任および副担任による新聞などからの話題提供や読書を行っている(資料5-4-①-5)。

5月には新入生を対象として国立大洲青少年交流の家で、責任感・自立心・友愛心及び奉仕の精神を育てることを目的に1年生合宿研修を行っている(資料5-4-①-6)。

また、1年生は工場見学旅行, 2, 3年生は工場や史跡などへの学外研修を通じて、見聞を広め、社会性を身につけさせている(資料5-4-①-7)。

資料5-4-①-1

平成18年度1学年の学校運営目標

	学級担任	副担任
1年1組	鹿毛敏夫,	谷口佳文
1年2組	安藤進一,	横山隆志
1年3組	矢野 潤,	栗原義武
1年4組	野田善弘,	西井靖博
1年5組	大村 泰,	松原靖廣

1. 平成18年度年間教育目標

義務教育から任意教育に変わった大きな節目において、学生が自律した行動を取ることが出来るよう基本的な生活習慣を体得させる。そのために、個々の学生を十分に観察し円滑な学生生活が送れているかどうか常に気を配る。また、学生どうしが互いにコミュニケーションを取ることの出来るクラスの雰囲気作り、指導を行う。

2. 平成18年度年間教育方針

2. 1 服装, 身だしなみなど細かくチェックし, ルールを守る学生が損をしたと思わないような指導を行う。
2. 2 保護者との連絡を密にとり, 学校での生活状況, 指導状況を保護者に知ってもらおうと共に, 家庭の状況も把握する。また, 学年便りを年4回程度発行し, 保護者に対して学年の情報を積極的に提供する。
2. 3 新入生研修旅行, 工場見学をはじめとする特別活動において, 低学年より技術者としてのキャリアアップ教育を促進する。
2. 4 教室および周辺の美化に努めると共に, 私物・公共物を大切に扱うよう注意を払う。
2. 5 図書館の利用指導およびホームルームなどを通して読書習慣の確立に努める。
2. 6 遅刻・欠課に対しては, 本人あるいは保護者に連絡を義務付け, 連絡や届けの無いものについては, 保護者に照会し必ず理由を把握する。
2. 7 学生の精神的, 身体的病気等についていち早く察知し, 学生相談室, 家庭と連携を図りながら学生生活での配慮を行う。

- 2. 8 盗難に対する予防を常に呼びかけ、占有離脱物横領など安易な気持ちで犯罪に走らないよう啓蒙に努める。
- 2. 9 指導が難しい学生に対して、担任一人で抱え込んで対処することなく、担任団として取り上げ、学生相談室、学生委員会などと連携を取りながら共同で対応を取る。
- 2. 10 担任連絡会は副担任も含め原則月 1 回実施し、各クラスの情報交換をはじめ学年全体の取り組みなどについて協議する。

平成18年度 2 学年の学校運営目標

	学級担任		副担任	
機械工学科	森長	新	刑部	富夫
電気情報工学科	井門	英司	香川	福有
電子制御工学科	佐渡	一邦	占部	弘治
生物応用化学科	三井	正	牧	慎也
材料工学科	柴田	亮	日野	孝紀

- 1. 平成 18 年度運営目標・方針
 - 1. 1 学習、学級活動に対する、学生の主体的な取り組みの実現
 - 1. 2 組織的な学習支援、生活指導態勢の確立、活用
- 2. 平成 18 年度実施計画
 - 2. 1 8 : 30 運動の推進
 - [1] 8 : 30 にホームルームへ赴くとともに、学生の登校を促し、十分なショートホームルームが実施できるようにする。
 - 2. 2 学生による主体的なクラス活動の実現
 - [1] 特別活動における、学生による主体的な活動を促す。
 - 2. 3 良好な教室環境の保持
 - [1] 掃除当番による教室環境の評価報告といった学生の主体的な取り組みによって、環境美化意識の向上をはかる。
 - 2. 4 家庭（寮を含む）学習の促進、定着
 - [1] 定期試験前に実態調査を実施するなど、各学級で方策を考え、学生の家庭学習の促進、定着をはかる。
 - 2. 5 図書館利用の促進
 - [1] ショートホームルームで読書週間を実施する。
 - [2] 図書館を利用した特別活動を行なって、学生が図書館を積極的に利用するように促す。
 - 2. 6 組織的な学習支援
 - [1] 無断欠席、遅刻の学生に対する指導を早期に行うとともに、欠課時数の多い学生に対する指導を、教務委員会作成のガイドラインにそって実施する。
 - [2] 課外特別活動を活用した、組織的な学習支援（補習授業、キャリア・アップ教育）を実施する。
 - 2. 7 組織的な学生指導
 - [1] 学級担任会を活用し、また専門学科、各委員会、学生相談室、保護者等も含めて連携して、情報交換を行ない早期に問題に対処する。
 - [2] 保護者への情報発信、連絡などのために、学年だよりを発送する。

平成 18 年度 3 学年の学校運営目標

	学級担任	副担任
機械工学科	下村 信雄	尾崎 司郎
電気情報工学科	鴻上 政明	稲見 和生
電子制御工学科	白井みゆき	千葉 克夫
生物応用化学科	間淵 通昭	川崎 宏一
材料工学科	谷 耕治	古城 克也

1. 平成 18 年度運営目標・方針

1. 1 基本方針：高専 5 年間の中間の学年に当たり、中だるみを防ぎ「学ぶこと」の意義を再確認する。学習環境を改善すると学生の精神面の発達にも好影響が現れる。それ故「学校の美化」「学生らしい身だしなみ」に配慮することを学生を育てる第一歩とする。学外研修は視野を広げるために必要である。自ら課題に取り組み、将来のことを考える習慣を養う。

1. 2 美化

1. 3 自学自習

1. 4 学外研修

1. 5 学年便りの発行

1. 6 キャリア教育の推進

2. 平成 18 年度実施計画

2. 1 基本方針

[1] 学年便りで学校の方針を保護者に伝え、ご家庭からのバックアップを依頼する。

[2] 毎朝 8 時 30 分の登校を呼びかける。SHR の遅刻に対してそのつどきめ細かく注意を行い、遅刻・

欠課の 3 割縮減をめざす。

[3] 学生らしい身だしなみをきめ細かく指導する。

[4] 成績不振者に対しては保護者との連携を密にする。

2. 2 美化

[1] 週 2 回以上 HR の清掃を学生と正副担任が一緒になって実施する。

[2] 特活等で教室や身の回りの整理・整頓、美化が重要なことを頻繁に学生に訴える。

2. 3 自学自習

[1] 毎日 2 時間以上の学習を促す。

[2] 読書習慣をつけるため、年間 10 冊／人の図書借出を目標とする。

[3] アルバイトはなるべくしないよう指導する。

[4] 資格の取得を奨励する。

2. 4 日帰り工場見学の実施

[1] 学科ごと独立に計画するのではなく、全体で協議し、学科間の調和を図る。

2. 5 海外短期研修の実施

[1] 希望者 30 名程度、上海 3 泊 4 日程度の工場見学並びに史跡見学を計画する。

2. 6 学年便り

[1] 学年便りを年 4 回発行する。

2. 7 キャリア教育

[1] 特活等に就職・進学等の参考になるキャリア・アップ教育を取り入れる。

平成18年度 4 学年の学校運営目標

学級担任

機械工学科	鎌田慶宣
電気情報工学科	王 欣
電子制御工学科	松村弘志
生物応用化学科	牛尾一利
材料工学科	相根博道

1. 平成18年度運営目標・方針

第4学年は、各学科の専門分野の学習面においても、また進路決定の面においても、最も重要な学年であることを認識させ、学級を運営する。

- [1] 専門知識の習得、資格取得等に向けた主体的な学習への取り組み支援
- [2] 進路の明確化とその具体化
- [3] インターンシップと関連させたキャリア学習の支援
- [4] 学年便りを発行し保護者とも連携し、勉学意欲のあるクラスを育成するための学生生活指導

2. 平成18年度実施計画

2. 1 学習支援

- [1] 1学年から3学年までの学業の自己点検を通して、その反省と今年度の目標を明確にする。
- [2] 進路とも結びつけて、実質的に最終学年にも相当する学年であることを自覚させ、自主的な勉学への取り組み意欲を高める。
- [3] 定期試験や実力試験の結果を通して、学習状況の自己点検を行う。
- [4] インターンシップを通してキャリア学習に対する意識を高め、社会性や職業観について認識を深める。
- [5] JABEE プログラム対象学年として「学習・教育目標」の徹底を図る。

2. 2 進路指導

- [1] 早期からの進路調査や面談を通して、進路に対する方向性の具体化を促す。
- [2] 就職や進路状況を学生や保護者に提供し、適切な進路選択を支援する。
- [3] 工場見学やインターンシップを有意義なものとし、進路について意識を高める。
 - (1) 事前学習を通して、社会体験の目的を明確にする。
 - (2) 教員による体験先訪問を通して企業等の受け入れ先と連携を密にする。

2. 3 学生生活指導

- [1] 委員や日直が教室の環境保持に自主的に取り組む姿勢の育成。
- [2] 遅刻・欠課には家庭との連携を密にして早期に個別指導を行う。
- [3] アルバイト届けを徹底し、学業との関連において必要な指導を行う。

3. 平成18年度推進体制

- [1] 担任相互の会合やメールにより担任間の密接な連携、協力を行う。
- [2] 教務委員会、学生委員会、寮務委員会、各学科と連携を図る。
- [3] 学年便り等を通して学生生活に関する情報を提供し、家庭との連携を密にする。

平成18年度5学年の学校運営目標

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気情報工学科	伊月 宣之
	電子制御工学科	深山 幸穂
	生物応用化学科	中山 享
	材料工学科	新田 敦己

1. 平成18年度運営目標

学生全員の卒業と卒業後の進路決定を第一とし、さらに5年間の勉学の集大成である卒業研究に対してエンジニアリングデザイン能力を養うため、自主的・積極的に取り組むよう指導するとともに、下級生から尊敬を受けるに値する5年生であるように学生に自己啓発意識を持たせる。そのために以下のような年間教育目標・方針を設定する。

 1. 1 5年生全員の卒業後の進路を決定すること
 1. 2 卒業研究に精力的に取り組む十分な成果を上げること
 1. 3 クラス全体の遅刻、欠課の半減を目ざし、5年生全員が卒業を果たすこと
 1. 4 高専の最終学年生として相応しい生活態度と言動を心がけ、後輩の模範となることのできるよう育成すること
 1. 5 自らの進路を自分で選択できる能力の育成、就労に関する意欲、理解などを促すキャリア教育を計画的に行い、職業観や社会性、豊かな人間性を育成すること
 1. 6 学年便りを発行すること
2. 平成18年度実施計画
 2. 1 学年主任を軸に担任間の緊密な連絡・協力体制を作り、できるだけ学生の個性にあった進路が決定できるよう指導する。
 2. 2 日常の卒業研究の成果とエンジニアリングデザイン能力を評価し、さらにプレゼンテーション能力を高揚させるために、中間発表及び最終発表を行う。
 2. 3 欠課をできるだけ少なくするよう学級担任と卒業研究担当者との連携を密にし、各学科内においても教員間の情報交換をできるだけ多くして、成績不振学生への励ましや学生の欠課数増大への早期対応を心掛ける。また、保護者との緊密な連携をも心掛ける。
 2. 4 教室の環境美化に努め、学校全体の環境美化活動・清掃活動においても本科最高学年生としての模範を示す。また、各種学校行事の活動においても後輩をリードして、その模範となるよう心掛けさせる。
 2. 5 学年便りを年間4回発行する。
 2. 6 キャリア教育推進のための実施計画を検討し、実施する。

(出典 平成18年度学校運営目標・計画)

資料5-4-①-2

授業科目番号	授業科目	単位数	担当教員	学年別毎週授業時間数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴

特別活動

18590	特別活動(1学年)	30	鹿毛(谷口)・安藤(横山)・矢野(栗原)・野田(西井)・大村(松原)	30					
18640	特別活動(2学年)	30	森長(刑部)・井門(香川)・佐渡(占部)・三井(牧)・柴田(日野)		30				
18690	特別活動(3学年)	30	下村(尾崎)・鴻上(稲見)・白井(千葉)・間淵(川崎)・谷(古城)			30			
履修単位時間数		90		30	30	30			

(出典 平成18年度本科履修要覧より抜粋)

資料5-4-①-3

平成18年度学級経営計画

(1年 4組 学級担任名 野田善弘)

(副担任氏名 西井靖博)

	項 目	内 容
1	学級経営の目標(学年ごとの課題を踏まえ、達成目標を設定)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の生活態度に気を配り、基本的な生活習慣を体得させる。 ・教員と学生、学生間の信頼関係を構築し、学生にとって快適な環境をつくる。
2	HR 活動(ショートホームルームを含むの取組方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項の周知をきちんと行う。 ・ショートホームルームでは、当日の連絡等を中心に行う。 ・担任・副担任それぞれの個性を生かした講話なども実施する。
3	学級指導面での取組方針(学習目標などの設定指導など学習意欲の喚起、欠課が多い者や成績不振者への指導など)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の結果にもとづき、学生個人との面談を行う。 ・保護者との連絡を密にとり、協力を仰ぐ。 ・欠席の連絡は必ず行うよう、学生本人・保護者に義務づける。
4	生活指導面での取組方針(挨拶、環境美化、読書、社会人マナー教育などの指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に挨拶を行うことを励行する。 ・クラスマッチなどの行事に積極的に参加するように促す。 ・清掃当番を決めて教室の美化につとめるとともに、日常の環境維持に積極的にとりくませる。 ・卒業生の講話・工場見学などを通して社会への眼を開く。 ・服装および身だしなみの指導をしっかりと行う。
5	進路指導への取組方針(1～3年生にあっては、進路意識の向上への取組、進路変更者への対応など)(4～5年生にあっては、具体的な進学指導、就職指導への取組など)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の講話、専門学科の講話、工場見学などを通して進路への眼を開く。 ・進路変更について、学生との面談を行うとともに、保護者との連絡を密に取って慎重に対処する。
6	学生との懇談機会の確保等相談活動への取組方針(個別懇談、他教員との連携など)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月中に個人面談を行う。 ・1年学年会・学生委員会・学生相談室・学寮などと連携して対応する。
7	保護者との連絡についての取組方針(保護者会での個別懇談や学級通信などによる保護者との連絡方法の工夫など)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに担任・副担任の連絡先を示す。 ・欠席の連絡は必ず行うよう、保護者に依頼する。 ・連絡のない学生の欠席に対して家庭連絡を行う。 ・学年だよりを発行する。
8	図書館活用教育の取組方針 (SHRや特別活動等での朝の読書、読書週間など図書利用教育の充実など)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動等で活字に親しむように促す。 ・図書館の利用方法を詳しく説明する。 ・課外特別活動において読書の時間を設ける。
9	キャリア教育への取組み方針(学外研修や講演会などによる年齢に応じた人格形成教育や生活支援など)	<ul style="list-style-type: none"> ・工場見学や特別活動時の卒業生講話・主事講話・性教育講座・健康に関する講座・環境講座などを通じて実施する。 ・課外特別活動の時間にもものづくり体験をさせる。 ・課外特別活動の時間を使って、ロボットコンテストのアイデアを出し、協力する。(ロボット研究会に協力を依頼する。) ・課外特別活動にビデオ鑑賞の時間を設ける。
10	副担任との連携協力体制(1～3年のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・副担任は、ショートホームルームの時間を担任と分担する。 ・副担任は、専門学科との連携において中心的役割を果たす。

(出典 平成18年度学級経営計画書)

資料 5 - 4 - ① - 4

平成18年度 1年生 特別活動予定表

	回	日時	曜日	内 容
前期	1	4月10日	(月)	始業式, 各種伝達事項, 各種資料配布, クラスの運営方針と目標, その他
	2	4月14日	(金)	クラスの親睦を図る活動/新入生研修
	3	4月21日	(金)	クラスの親睦を図る活動/新入生研修
	4	4月28日	(金)	クラスの親睦を図る活動/新入生研修
	5	5月12日	(金)	合宿研修説明・注意、事前研修
	6	5月19日	(金)	大洲合宿研修旅行
	7	5月26日	(金)	合宿研修反省/作文/ロボコンビデオ鑑賞
	8	6月2日	(金)	前期中間試験前の注意/席替え
	9	6月16日	(金)	タバコ・薬物・アルコールに関する学習
	10	6月23日	(金)	応急処置・防火避難訓練
	11	6月30日	(金)	性教育講話
	12	7月7日	(金)	学習等達成度の点検(前期中間の反省)
	13	7月14日	(金)	夏休み前諸注意
	14	9月1日	(金)	学校周辺清掃活動
	15	9月8日	(金)	クラス別活動
	16	9月15日	(金)	前期末試験前の注意/席替え
	17	9月29日	(金)	クラス別活動
後期	18	10月13日	(金)	学習等達成度の点検(前期の反省)
	19	10月20日	(金)	施設利用活動(図書館, 体育館, グラウンド)
	20	10月27日	(金)	施設利用活動(図書館, 体育館, グラウンド)
	21	11月17日	(金)	施設利用活動(図書館, 体育館, グラウンド)
	22	11月24日	(金)	卒業生の講話
	23	12月1日	(金)	主事講話(1・2組:階段教室, 3・4・5組:視聴覚教室)
	24	12月8日	(金)	後期中間試験前の注意/席替え
	25	12月22日	(金)	冬休み前諸注意
	26	1月12日	(金)	学習等達成度の点検(後期中間の反省)
	27	1月19日	(金)	学校周辺清掃活動
	28	1月26日	(金)	専門学科別活動
	29	2月2日	(金)	環境講座
	30	2月9日	(金)	クラス別活動
	31	2月16日	(金)	学年末試験前の注意
	32	3月9日	(金)	一年間の反省/来年度の目標

平成18年度 2年生 特別活動予定表	
月日	特別活動
4月14日	年間目標の作文、各種委員の選定等
4月21日	本科履修要覧の解説
4月28日	図書館利用活動(M)／担任講話(EDCZ)
5月12日	学外研修の事前研修
5月19日	学外研修
5月26日	学外研修の事後研修
6月2日	ロボコン説明会
6月16日	図書館利用活動(ED)／校内清掃(MCZ)
6月23日	図書館利用活動(CZ)／校内清掃(D)／担任講話(ME)
6月30日	性教育講話
7月7日	性教育講話後活動
7月14日	夏休み前の諸注意
9月1日	夏休み明け指導
9月8日	禁煙教育(M,E,D)／禁煙教育事前活動(C,Z)
9月15日	禁煙教育(C,Z)／禁煙教育事後活動(M,E,D)
9月29日	担任講話(席替え等)
10月13日	校内清掃(MECZ)／担任講話(D)
10月20日	校内清掃(D)／担任講話(MECZ)
10月27日	各学科によるキャリア・アップ教育
11月17日	各学科によるキャリア・アップ教育
11月24日	卒業生講話
12月1日	主事講話
12月8日	学生による計画実施活動
12月22日	担任講話(冬休み前の指導、席替え等)
1月12日	学生による計画実施活動
1月19日	学生による計画実施活動
1月26日	学生による計画実施活動
2月2日	環境講話(CZ)／環境講話事前活動(MED)
2月9日	環境講話(MED)／環境講話事後活動(CZ)
2月16日	学生による計画実施活動
3月2日	担任講話

H18年度 機械工学科3年 特別活動				
木曜日 特別活動 14:25～15:10				
回	月	日	実施内容	担当
1	4	10	LHR クラス委員／各係決定	下村
2		13	身体測定	
3		20	年間目標の作文/個人面談(1)	下村
4		27	担任講話	下村
5	5	11	副担任講話	尾崎
6		18	工場見学ガイダンス	下村
7		25	工場見学アンケート	下村
8	6	1	SPI性格適正検査	下村
9		8	試験前の諸注意	下村
10		22	進路状況(1)	松田
11		29	3年合同清掃	
12	7	6	保護者懇談調整連絡	下村
13		13	夏休み前諸注意	下村
14	9	7	夏休み発表会	下村
15		14	就職状況	松田
16	10	5	SPI性格適正検査	下村
17		12	ALC学習ソフトの説明	鎌田
18		19	ALC学習ソフトの活用	下村
19		26	成績指導	下村
20	11	2	SPI言語能力検査	下村
21		9	SPI非言語能力検査	下村
22		16	進路状況(1)	松田
23		30	インターンシップ状況	鎌田
24	12	7	試験前の諸注意	下村
25		21	3年合同清掃	
26	1	11	環境問題	吉川
27		18	成績指導	下村
28		25	保護者懇談調整連絡	下村
29	2	1	学科教務・学生委員講話	吉川
30		8	学科主任講話	刑部
31		15	担任講話	下村
32				

(出典 新居浜高専だより第90号より編集)

資料5-4-①-5

20. 学級担任の主な業務

(6) ショートホームルームの実施

出欠や学生の状況、クラスの雰囲気などを把握するとともに、学年や時期に応じた内容のショートホームルームを実施することにより、クラス運営に役立てる。出欠をとり、遅刻・欠席の多い学生に対しては、保護者や1時限目の科目担当教員などと連携して、指導していく。

実施例(学生参加型が望ましい。)

- ① 連絡事項の伝達(学校行事、諸注意など)
- ② 学生によるスピーチ
- ③ 話題提供(新聞、ニュースから)
- ④ 朝の読書
- ⑤ 朝の清掃
- ⑥ 日直によるミニ討論

(出典 平成17年度教員便覧)

資料5-4-①-6

1年生合宿研修実施要領

- 1. 期 間 平成18年5月19日(金)～5月20日(土) 1泊2日
- 2. 場 所 国立大洲青少年交流の家(大洲市北只1086) Tel 0893-24-5175
- 3. 目 的 (1) 規律ある集団生活をしながら、責任感・自立心・友愛心及び奉仕の精神を育てる。
(2) 学生間の相互連帯意識を高め、教職員と学生が肌を触れ合いながら、温かい人間関係を育成する。
- 4. 参加学生数

クラス	学 生 数			往復バス	備 考
	男子	女子	計		
1組	34人	9人	43人	1号車	
2組	33人	10人	43人	2号車	
3組	33人	10人	43人	3号車	
4組	33人	10人	43人	4号車	
5組	35人	8人	43人	5号車	
計	168人	47人	215人		

5. 引率教職員

	氏 名	往復バス	宿 泊 部 屋	備 考
校 長	水野 豊	1号車	101号室	
団 長	桑田 茂樹	2号車	101号室	
学級担任 副担任	鹿毛 敏夫	1号車	160号室	
	谷口 佳文		160号室	
	安藤 進一	2号車	160号室	
	横山 隆志		160号室	
	矢野 潤	3号車	151号室	
	栗原 義武		151号室	

	野田 善弘	4号車	110号室
	西井 靖博		110号室
	大村 泰	5号車	110号室
	松原 靖廣		110号室
教務主事補	柳井 忠	公用車	101号室
学生主事補	谷本 修治	3号車	151号室
女性教員	野口 裕子	公用車	257号室
	野村 真理子	4号車	257号室
教務係	瀧口 真稔	公用車	160号室

1年生合宿研修プログラム

日	時 間	行 事	場 所	備 考
5月19日 金	8:35 ~ 8:50	ショート・ホーム	ホームルーム	
	9:00 ~ 9:15	結団式	第1体育館	
	9:30 ~	本校出発		
	~11:15	大洲青少年交流の家 到着		
	11:30 ~12:10	入 所 式	ホール	本館2階
	12:10 ~13:00	昼 食	森のレストラン	本館1階
	13:10 ~16:10	カヌー実習	肱川他	カヌー中止の時 クラス別研修、VTR上映・バレーボール・卓球、クイズ選手権大会
	16:20 ~16:40	生活委員会	オリエンテーションルーム	説明：教務主事補
	17:00 ~17:15	夕べのつどい	ふれあい広場	雨天時：ホール（本館2階）
	17:20 ~18:30	夕 食	森のレストラン	本館1階
	18:30 ~20:30	綱引き大会	体 育 館	クラス対抗綱引き大会
	20:30 ~22:00	入浴・自由交歓		クラスミーティング含む
	22:00 ~22:30	就寝準備		
	22:30 ~	点呼・点検		点検終了時、消灯・就寝
5月20日 土	6:30	起 床		
	7:00 ~ 7:30	朝のつどい 清 掃	ふれあい広場	雨天時：ホール（本館2階）
	7:30 ~ 8:20	朝 食	森のレストラン	本館1階
	8:20 ~ 8:40	退所準備		荷物は指示された部屋に置くこと
	9:00 ~12:00	ウォークラリー	大洲市内	ウォークラリー中止の時 VTR上映等またはうちわづくり
	12:00 ~13:00	昼 食	森のレストラン	本館1階
	13:15 ~	退所式	ホール	本館2階
	13:30 ~ ~15:00	大洲青少年交流の家出発 本校着		解団式（第1体育館）後、解散

(出典 教務係資料)

電気情報工学科 2 学年 担 任 井門 英司 副担任 香川 福有

学外研修旅行の概要：西条市のアサヒビール四国工場の見学を行う。高専と工場の間は、徒歩 25 分、列車 10 分、徒歩 45 分を往復する。事前研修（打合せ等）により、見学先の概要を学習し、出発から帰校まで交通安全を徹底し、環境美化に努める。

1. 目的

- (1) 校外活動を通して、一般社会のルールを見つめる。
- (2) 共に歩き、クラスの学生相互および専門学科の教員との親睦と相互理解を図る。
- (3) 見学先工場の環境保全への取り組み（地球温暖化防止、水資源の有効利用、再資源化 100%）を学習し、身近な環境美化、省エネの精神を高揚することを図る。

2. 実施日・見学先・参加者

- (1) 実施日 平成 18 年 5 月 19 日（金）8：35 － 16：00（小雨決行）
- (2) 見学先 アサヒビール四国工場（西条市ひうち 2 番地 6：Tel.53-7770 見学案内）
- (3) 参加者 電気情報工学科 2 学年の学生全員 41 名（男 39，女 2）、引率教員 3 名（井門、香川、平野）

3. 行程等（5 月 19 日（金））

- 8:35 ホームルーム集合（点呼）、～9:05 教室掃除
 9:10 出発（徒歩）－新居浜駅 9:52-（列車）-10:02 西条駅－（徒歩）－
 11:00 アサヒビール四国工場着
 11:00～12:00 工場見学
 12:00～14:00 昼食・休憩（点呼）
 14:20 出発（徒歩）－西条駅 15:19-（列車）-15:29 新居浜駅－（徒歩）－
 16:00 高専着・解散

4. 費用・服装・学寮食堂の欠食・授業変更など

- (1) 列車運賃：片道@260×2=520-（通学定期券の利用）
- (2) 徒歩の時間が長いので、軽装・運動靴、荷物はリュックサック 1 個にまとめる。
- (3) 昼食：弁当など。学寮在住者の昼食の欠食をクラス単位で依頼する。
- (4) 英語 2 B（野村）、数学 A-2（柳井、古城、篠原）、英語 2 A（森実）を研修へ変更する。
- (5) 学生を通じて、研修計画の概要を保護者へ連絡する。
- (6) その他 救急薬（保健室から借用）、ゴミ袋×1 パック（教務係から）

5. 事後研修（発表会）

- (1) 全員が別紙の研修報告書に記録した内容を、各文章の最後に（名前）をつけてファイル（フロッピディスク USB メモリも可）に保存しておく。
- (2) 5/23（火）の 2 時限目にそれを持参し、情報処理室において班ごとに相談しながらパワーポイントによる発表用のファイルにまとめる（フロッピディスクまたは USB メモリ）。
- (3) 5/26（金）の特活において、各班ごとにパワーポイントを用いて研修報告を発表し、全員が参加して意見交換を行い相互に学習する。
- (4) 発表会で学んだ内容を含めて、各自で研修報告書を作成し 5/30（火）までに提出する。これは学科の先生方にも見てもらう。

6. 注意事項

- (1) 徒歩での交通安全（歩道を通行）、弁当がらの持ち帰り
- (2) 見学先での質問・記録
- (3) 当日、病気等で参加できない場合の連絡先 高専・学生課生活支援係 0897-37-7727
井門 0897-37-7753（携帯 090-2822-5376）
- (4) 遅刻した場合：午後 3:30 まで、学校で勉強（電気情報工学科の教員に報告）

(5)班単位で点呼・報告および研修のまとめ発表を行う。

(出典 担任保存資料)

(分析結果とその根拠理由)

特別活動やショートホームルームなどの実施を通じて人間の素養の涵養がなされるように配慮している。研修旅行は、2，3年生に限られているので、5年間のキャリア教育における位置づけを明確にして、他学年での実施を含めて検討する必要がある。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

各学科の教育目標「キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を身に付ける」を達成するために、「社会ルールの遵守とモラルの向上」と「課外活動の活性化」を学生委員会の平成18年度運営目標に掲げ、計画的に教職員が連携して指導を行っている（資料5-4-②-1）。

学校全体としては、学生委員会を中心に学級担任・副担任、学生相談室等各部署が連携しつつ、全教員により、人間の素養としての自主性、責任感、豊かな感性、規範意識等を涵養すべく生活指導や課外活動の指導を行っている。学級担任・副担任は学年主任を中心に、学年ごとの運営目標・計画に沿って生活指導を行っている（資料5-4-②-2）。

挨拶運動については、全教職員に対して、学生と顔を合わせるとき、声かけを行うよう依頼し、学生に対しても挨拶をするよう指導している。また、学期始めや長期休暇明けなどに、教員が当番を決めて登校時に校門に立ち、登校してくる学生に挨拶を行っている（資料5-4-②-3）。その結果、多くの学生が挨拶をするようになってきている。

身だしなみについては、1，2年生の間は標準服を着用させ、茶髪・ピアスを禁止している（資料5-4-②-4，資料5-4-②-5）。その間に、特別活動など様々な機会を利用して学生としての自覚を促すような指導を行い、3年生になったときにはこれらの規制によらず自己判断できるようにしている。その結果、茶髪・ピアスをしている学生は禁止し始めた平成16年度以降大幅に減少している。

また、自転車・二輪車・自家用車（専攻科生のみ）の届出を徹底させ、登校指導や二輪車の交通安全講習会などの実施を通じて、交通マナーの遵守を図った（資料5-4-②-6）。

美化運動については、学生環境委員が自主的に、花壇の手入れや地域と協力して学校周辺の清掃活動を行っている（資料5-4-②-7）。また学寮では、毎年5月に全寮生が地元自治会と協力して学校周辺の清掃を行っている（資料5-4-②-8）。

クラブ活動については、体育局、文化局に所属する多くのクラブがあり、全教員による顧問体制をとっている（資料5-4-②-9，資料5-4-②-10）。平成16年度から、活動時間帯を原則として平日の午後7時までと定め、自宅学習との両立をはかりながら、計画的、効率的なクラブ活動となるよう指導している（資料5-4-②-11）。クラブ活動学生リーダーに対しては、年2回（7月と2月）のリーダー研修を実施し、クラブリーダーとしての自覚と安全意識の向上をはかっている（資料5-4-②-12）。

文化系クラブについては、毎年、四国地区の6高専が集まって総合文化祭を開催し、日頃の活動

の成果を発表している。平成18年度には詫間電波高専の主管で実施された。また、同年度には、後述のチャレンジプロジェクトの一環として、本校文化系クラブの活性化をはかることを目的に、初の文化系クラブ発表会を学生主体で実施した（資料5-4-②-13）。

チャレンジプロジェクトは、社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的・主体的な活動に対して、後援会から資金援助を行うもので、平成15年度より導入しており、18年度も学内掲示板ならびに各教室へ応募要項を掲示し、また学内各所にポスターを貼るなどして公募を行った（資料5-4-②-14、資料5-4-②-15）。応募件数は平成17年度までは2～4件と少なかったが、平成18年度は6件の応募があった（資料5-4-②-16）。

学内外のコンテストについては、物事に進んで取り組む力、疑問をもち考え抜く力、仲間とともに目標に向け協力する力などを養うことを目的に推進している。平成18年度は、学校として取り組むべきコンテストとして、ロボットコンテスト（ロボコン）、プログラミングコンテスト（プロコン）、デザインコンペティション（デザコン）を3本柱とし、これらへの積極的な参加を学内へ促すことを目的として、年間計画などの全体の流れをホームページで掲示した（資料5-4-②-17）。

ロボコンについては、教室や学内各所に要項を掲示してアイデアを募集している（資料5-4-②-18）。その結果、応募は12件で、学内の最終審査で3件が通過した（資料5-4-②-19）。また平成18年度は、低学年からものづくりへの関心を持たせることを目的に、機構や構造までを問わないイメージレベルのアイデアも募集した。特に、1、2年生には特別活動の時間を利用して呼びかけを行い、その結果、1年生から104件、2年生から41件、学校全体では342件の応募があった。四国地区大会では、特別賞を受賞した（資料5-4-②-20）。

プロコンについては、学内に要項やポスターを掲示してアイデアを募集した（資料5-4-②-21）。その結果、応募数は5件、アイデアのみでは19件であった（資料5-4-②-22）。平成18年度は、課題部門、自由部門共に予選を通過し、本戦でも健闘し、課題部門では佳作、自由部門では審査員特別賞を受賞した（資料5-4-②-23）。

デザコンは平成18年度より参加することを目標に、学内で広くアイデアを募った（資料5-4-②-24）。その結果、ブリッジコンテスト部門で、6件の応募があり、2件を学校代表として選出した（資料5-4-②-25）。本戦では初参加で最優秀賞を受賞した（資料5-4-②-26）。

平成18年度は学内で初めてのものづくりコンテストとして組立式飛行機コンテストとウインドカーコンテストを実施した（資料5-4-②-27）。その結果、学生・教職員合わせて33チーム、約50名が参加した（資料5-4-②-28）。

このほか、英語スピーチコンテスト、読書感想文コンクールなどによって、人間の素養の涵養を図っている（資料5-4-②-29、資料5-4-②-30）。

学生の自主性と責任感を涵養することを目的に学生会が組織され、学生中心に積極的に活動している（資料5-4-②-31）。その活動を支援するために、学生委員会から2名の担当教員が、学生会執行部や学園祭執行委員会の会議に出席して助言している。

学寮では、寮生活を円滑、有意義に営むことを目的として寮生会が組織され、寮生の自治協力を得て活動している（資料5-4-②-32）。その活動を支援するために、寮務委員会の教員が寮生会各種委員会の担当者として配置され、指導や助言を行っている。

資料5-4-②-1

平成18年度学生委員会運営目標・計画

1. 平成18年度運営目標・方針

1. 1 基本的な考え方

- [1] 全教職員が協力して学生指導に当たる。
- [2] 学生、教職員も含めて、自分たちの学校は自分たちで良くして行くよう努力する。

1. 2 学生指導に関する目標

- [1] 社会ルールの遵守とモラルの向上
- [2] 課外活動の活性化

(出典 平成18年度学校運営目標・計画)

資料5-4-②-2

平成18年度1学年の学校運営目標

	学級担任	副担任
1年1組	鹿毛敏夫	谷口佳文
1年2組	安藤進一	横山隆志
1年3組	矢野 潤	栗原義武
1年4組	野田善弘	西井靖博
1年5組	大村 泰	松原靖廣

1. 平成18年度年間教育目標

義務教育から任意教育に変わった大きな節目において、学生が自律した行動を取ることが出来るよう基本的な生活習慣を体得させる。そのために、個々の学生を十分に観察し円滑な学生生活が送れているかどうか常に気を配る。また、学生どうしが互いにコミュニケーションを取ることの出来るクラスの雰囲気作り、指導を行う。

2. 平成18年度年間教育方針

- 2. 1 服装、身だしなみなど細かくチェックし、ルールを守る学生が損をしたと思わないような指導を行う。
- 2. 2 保護者との連絡を密にとり、学校での生活状況、指導状況を保護者に知ってもらおうと共に、家庭の状況も把握する。また、学年便りを年4回程度発行し、保護者に対して学年の情報を積極的に提供する。
- 2. 3 新入生研修旅行、工場見学をはじめとする特別活動において、低学年より技術者としてのキャリアアップ教育を促進する。
- 2. 4 教室および周辺の美化に努めると共に、私物・公共物を大切に扱うよう注意を払う。
- 2. 5 図書館の利用指導およびホームルームなどを通して読書習慣の確立に努める。
- 2. 6 遅刻・欠課に対しては、本人あるいは保護者に連絡を義務付け、連絡や届けの無いものについては、保護者に照会し必ず理由を把握する。
- 2. 7 学生の精神的、身体的病気等についていち早く察知し、学生相談室、家庭と連携を図りながら学生生活での配慮を行う。
- 2. 8 盗難に対する予防を常に呼びかけ、占有離脱物横領など安易な気持ちで犯罪に走らないよう啓蒙に努める。
- 2. 9 指導が難しい学生に対して、担任一人で抱え込んで対処することなく、担任団として取り上げ、学生相談室、学生委員会などと連携を取りながら共同で対応を取る。

2. 10 担任連絡会は副担任も含め原則月 1 回実施し、各クラスの情報交換をはじめ学年全体の取り組みなどについて協議する。

平成18年度2学年の学校運営目標

	学級担任		副担任	
機械工学科	森長 新	刑部 富夫		
電気情報工学科	井門 英司	香川 福有		
電子制御工学科	佐渡 一邦	占部 弘治		
生物応用化学科	三井 正	牧 慎也		
材料工学科	柴田 亮	日野 孝紀		

1. 平成18年度運営目標・方針
 1. 1 学習、学級活動に対する、学生の主体的な取り組みの実現
 1. 2 組織的な学習支援、生活指導態勢の確立、活用
2. 平成18年度実施計画
 2. 1 8：30運動の推進
 - [1] 8：30にホームルームへ赴くとともに、学生の登校を促し、十分なショートホームルームが実施できるようにする。
 2. 2 学生による主体的なクラス活動の実現
 - [1] 特別活動における、学生による主体的な活動を促す。
 2. 3 良好な教室環境の保持
 - [1] 掃除当番による教室環境の評価報告といった学生の主体的な取り組みによって、環境美化意識の向上をはかる。
 2. 4 家庭（寮を含む）学習の促進、定着
 - [1] 定期試験前に実態調査を実施するなど、各学級で方策を考え、学生の家庭学習の促進、定着をはかる。
 2. 5 図書館利用の促進
 - [1] ショートホームルームで読書週間を実施する。
 - [2] 図書館を利用した特別活動を行なって、学生が図書館を積極的に利用するように促す。
 2. 6 組織的な学習支援
 - [1] 無断欠席、遅刻の学生に対する指導を早期に行うとともに、欠課時数の多い学生に対する指導を、教務委員会作成のガイドラインにそって実施する。
 - [2] 課外特別活動を活用した、組織的な学習支援（補習授業、キャリア・アップ教育）を実施する。
 2. 7 組織的な学生指導
 - [1] 学級担任会を活用し、また専門学科、各委員会、学生相談室、保護者等も含めて連携して、情報交換を行ない早期に問題に対処する。
 - [2] 保護者への情報発信、連絡などのために、学年だよりを発送する。

平成18年度3学年の学校運営目標

	学級担任		副担任	
機械工学科	下村 信雄	尾崎 司郎		
電気情報工学科	鴻上 政明	稲見 和生		
電子制御工学科	白井みゆき	千葉 克夫		
生物応用化学科	間淵 通昭	川崎 宏一		

1. 平成 18 年度運営目標・方針

1. 1 基本方針：高専 5 年間の中間の学年に当たり、中だるみを防ぎ「学ぶこと」の意義を再確認する。学習環境を改善すると学生の精神面の発達にも好影響が現れる。それ故「学校の美化」「学生らしい身だしなみ」に配慮することを学生を育てる第一歩とする。学外研修は視野を広げるために必要である。自ら課題に取り組み、将来のことを考える習慣を養う。

- 1. 2 美化
- 1. 3 自学自習
- 1. 4 学外研修
- 1. 5 学年便りの発行
- 1. 6 キャリア教育の推進

2. 平成 18 年度実施計画

2. 1 基本方針

- [1] 学年便りで学校の方針を保護者に伝え、ご家庭からのバックアップを依頼する。
- [2] 毎朝 8 時 30 分の登校を呼びかける。SHR の遅刻に対してそのつどきめ細かく注意を行い、遅刻・欠課の 3 割縮減をめざす。
- [3] 学生らしい身だしなみをきめ細かく指導する。
- [4] 成績不振者に対しては保護者との連携を密にする。

2. 2 美化

- [1] 週 2 回以上 HR の清掃を学生と正副担任が一緒になって実施する。
- [2] 特活等で教室や身の回りの整理・整頓、美化が重要なことを頻繁に学生に訴える。

2. 3 自学自習

- [1] 毎日 2 時間以上の学習を促す。
- [2] 読書習慣をつけるため、年間 10 冊／人の図書借出を目標とする。
- [3] アルバイトはなるべくしないよう指導する。
- [4] 資格の取得を奨励する。

2. 4 日帰り工場見学の実施

- [1] 学科ごと独立に計画するのではなく、全体で協議し、学科間の調和を図る。

2. 5 海外短期研修の実施

- [1] 希望者 30 名程度、上海 3 泊 4 日程度の工場見学並びに史跡見学を計画する。

2. 6 学年便り

- [1] 学年便りを年 4 回発行する。

2. 7 キャリア教育

- [1] 特活等に就職・進学等の参考になるキャリア・アップ教育を取り入れる。

平成18年度 4 学年の学校運営目標

	学級担任
機械工学科	鎌田慶宣
電気情報工学科	王 欣
電子制御工学科	松村弘志
生物応用化学科	牛尾一利
材料工学科	相根博道

1. 平成18年度運営目標・方針

第4学年は、各学科の専門分野の学習面においても、また進路決定の面においても、最も重要な学年であることを認識させ、学級を運営する。

 - [1] 専門知識の習得、資格取得等に向けた主体的な学習への取り組み支援
 - [2] 進路の明確化とその具体化
 - [3] インターンシップと関連させたキャリア学習の支援
 - [4] 学年便りを発行し保護者とも連携し、勉学意欲のあるクラスを育成するための学生生活指導

2. 平成18年度実施計画
 2. 1 学習支援
 - [1] 1学年から3学年までの学業の自己点検を通して、その反省と今年度の目標を明確にする。
 - [2] 進路とも結びつけて、実質的に最終学年にも相当する学年であることを自覚させ、自主的な勉学への取り組み意欲を高める。
 - [3] 定期試験や実力試験の結果を通して、学習状況の自己点検を行う。
 - [4] インターンシップを通してキャリア学習に対する意識を高め、社会性や職業観について認識を深める。
 - [5] JABEE プログラム対象学年として「学習・教育目標」の徹底を図る。
 2. 2 進路指導
 - [1] 早期からの進路調査や面談を通して、進路に対する方向性の具体化を促す。
 - [2] 就職や進路状況を学生や保護者に提供し、適切な進路選択を支援する。
 - [3] 工場見学やインターンシップを有意義なものとし、進路について意識を高める。
 - (1) 事前学習を通して、社会体験の目的を明確にする。
 - (2) 教員による体験先訪問を通して企業等の受け入れ先と連携を密にする。
 2. 3 学生生活指導
 - [1] 委員や日直が教室の環境保持に自主的に取り組む姿勢の育成。
 - [2] 遅刻・欠課には家庭との連携を密にして早期に個別指導を行う。
 - [3] アルバイト届けを徹底し、学業との関連において必要な指導を行う。

3. 平成18年度推進体制
 - [1] 担任相互の会合やメールにより担任間の密接な連携、協力を行う。
 - [2] 教務委員会、学生委員会、寮務委員会、各学科と連携を図る。
 - [3] 学年便り等を通して学生生活に関する情報を提供し、家庭との連携を密にする。

 平成18年度5学年の学校運営目標

学級担任	機械工学科	松田 雄二
	電気情報工学科	伊月 宣之
	電子制御工学科	深山 幸穂
	生物応用化学科	中山 享
	材料工学科	新田 敦己

3. 平成18年度運営目標

学生全員の卒業と卒業後の進路決定を第一とし、さらに5年間の勉学の集大成である卒業研究に対してエンジニアリングデザイン能力を養うため、自主的・積極的に取り組むよう指導するとともに、下級生から尊敬を受けるに値する5年生であるように学生に自己啓発意識を持たせる。そのために以下のような年間教育目標・方針を設定する。

- 1. 7 5年生全員の卒業後の進路を決定すること
- 1. 8 卒業研究に精力的に取り組み十分な成果を上げること
- 1. 9 クラス全体の遅刻、欠課の半減を目ざし、5年生全員が卒業を果たすこと
- 1. 10 高専の最終学年生として相応しい生活態度と言動を心がけ、後輩の模範となることのできるよう育成すること
- 1. 11 自らの進路を自分で選択できる能力の育成、就労に関する意欲、理解などを促すキャリア教育を計画的に行い、職業観や社会性、豊かな人間性を育成すること
- 1. 12 学年便りを発行すること
- 4. 平成18年度実施計画
 - 2. 7 学年主任を軸に担任間の緊密な連絡・協力体制を作り、できるだけ学生の個性にあった進路が決定できるよう指導する。
 - 2. 8 日常の卒業研究の成果とエンジニアリングデザイン能力を評価し、さらにプレゼンテーション能力を高揚させるために、中間発表及び最終発表を行う。
 - 2. 9 欠課をできるだけ少なくするよう学級担任と卒業研究担当者との連携を密にし、各学科内においても教員間の情報交換をできるだけ多くして、成績不振学生への励ましや学生の欠課数増大への早期対応を心掛ける。また、保護者との緊密な連携をも心掛ける。
 - 2. 10 教室の環境美化に努め、学校全体の環境美化活動・清掃活動においても本科最高学年生としての模範を示す。また、各種学校行事の活動においても後輩をリードして、その模範となるよう心掛けさせる。
 - 2. 11 学年便りを年間4回発行する。
 - 2. 12 キャリア教育推進のための実施計画を検討し、実施する。

(出典 平成18年度学校運営目標・計画)

資料5-4-②-3

各位

学生主事

朝の校門指導（4月10日～14日分）担当者について

4月10日から14日までの朝の登校指導担当者を担任、副担任、寮務委員を除いた全員で下記のように割り振りました。なお、1時間目の授業がおありになる方は、早めに切り上げて頂いてかまいません。よろしくお願い申し上げます。

記

- 4月10日（月） 西門：宮田、尾西、今井
北門：勝浦、朝日、平木
正門：谷本
- 4月11日（火） 西門：豊田、平野、出口
北門：衣笠、松英、小山
正門：野口
- 4月12日（水） 西門：早瀬、曾我部、野村
北門：北住、馬淵、榊原
正門：竹田
- 4月13日（木） 西門：池内、柳井、今城
北門：石井、皆本、田中

4月14日（金） 正門：河村
西門：タベシ、中川、檀上
北門：吉川、佐藤、桑田
正門：高橋

業務内容

「挨拶運動」 毎月2回程度朝8時15分から50分の間、正門、西門、北門に各1名のずつの教員が立って、登校学生全てに「おはようございます」の挨拶を必ず行う。学生1人1人の顔を覚えるようにする。挨拶が中心であり、車両の細かな指導は別途行う。ただし、交通マナーで危険な状況を見かけた場合には、適切に注意する。また、正門からは徒歩及び専攻科生の許可車両のみで、自転車の乗り入れは西門から、バイクの乗り入れは北門から行うように注意する。

（出典 学生主事からのメール）

資料5-4-②-4

学 生 心 得

新居浜工業高等専門学校の学生であるという自覚と誇りを持って、自主、自立の精神により行動し、心身共に健全な社会人として的人格形成に努めること。

学生としての心構え

- 自主性、責任感のある学生生活を送るよう心がける。
- 常に問題意識を持ち、解決のための豊かな感性と知識を養うよう心がける。
- 豊かな教養と倫理観を養い、技術者として社会に貢献できる広い視野を育むよう心がける。

学生生活を送る上での注意事項

- 1 出会う人には、みんな気持ちよく笑顔で挨拶しよう。
- 2 友人間でも節度を持って行動する。周囲の人に丁寧な言葉使い、優しい態度で接する。
- 3 通学時には、交通道德を守り、老人、子供、体の不自由な人等に対しては、席を譲るなど思いやりの気持ちを忘れない。
特に、自転車では2人乗り、並行運転及び手傘さし運転を絶対にしない。
- 4 本校内への四輪自動車乗り入れについて、専攻科生（許可制）以外は禁止している。また、バイク乗り入れについて、本科生3年生以上は、125cc以下に限り北門から入退場する指定場所のみ駐車でき、許可（校内自動二輪車安全運転講習会受講が条件）手続きが必要である。
- 5 服装は、通学時1・2年生では標準服とし、3年生以上も学生らしい服装とする。茶髪・ピアスは1・2年生では禁止とし、3年生以上も自主的に慎み控える。
- 6 授業中に、居眠りや私語はやめよう。携帯電話の電源を切りしまっておこう。
- 7 昼休み時間以外の外出は禁止する。休憩時間は、教室移動、手洗い、授業準備及び校内での休息のためにある。
- 8 アルバイトは、勉学に支障がないという条件のもとに届出制となっている。ただし、1・2年生は、特に勉学に集中することが必要であるので、原則禁止とする。また、寮生については、3年生まで原則禁止とする。
- 9 喫煙・飲酒は、成人に達しても慎む。特にキャンパス内及び近辺では禁煙・禁酒とする。
- 10 売店で購入した空き瓶やペットボトルなどは、売店の回収箱に戻す。校内には不用なゴミを持ち込まず持ち帰るようにする。教室はもちろん校内にゴミを放置したり、ポイ捨てをしない。

また、ゴミの分別処理を励行して、環境美化に注意しよう。

11 授業或いは図書館での学習が終了したら、速やかに帰宅する。

クラブ活動は、原則として毎日午後7時に終了する。

12 教室に私物を放置せず、毎日自宅等に持ち帰る。

(出典 学生便覧)

資料5-4-②-5

○日常の生活指導

1. 登校指導

教員が当番で校門に立ち、登校してくる学生に挨拶をしている。

2. 巡回指導

教員が当番で、休憩時間および昼休み時間に周辺を巡回して指導している。

3. 車両指導

校内への四輪自動車乗り入れについて、専攻科生(許可制)以外は禁止している。

また、バイク乗り入れについて、本科生3年生以上は125cc未満に限り北門から入退場する指定場所のみ駐車でき、許可(校内講習会受講が条件)手続きが必要である。

教職員が巡回して、違反車両のチェックを行っています。

4. 服装身だしなみ指導

服装は、通学时1・2年生では標準服とし、3年生以上も学生らしい服装とする。

茶髪・ピアスは1・2年生までは原則禁止とし、3年生以上も自主的に慎み控える。

今年度も学生会も協力してくれています。また、担任会と学生委員会が協力して指導にあたっています。

(出典 高専だより第90号)

資料5-4-②-6

平成18年5月19日

3・4・5年生・専攻科生 各位

学生主事

二輪車安全運転講習会の実施について(依頼)

本年度も下記のとおり二輪車安全運転講習会を実施します。二輪車安全運転講習会の実施は、年1回のみですので、必ず出席してください。

記

1 日 時 平成18年6月17日(土) 13時00分から

2 場 所 視聴覚教室

【受講希望者は、当日 12 時 40 分（時間厳守）までに視聴覚教室へ集合】

3 その他

(1) 新規登録の学生は、必ず出席してください。欠席する場合は、直接学生就学支援係まで申し出て
ください。

なお、無断欠席の場合は、単車使用仮許可を取り消します。

(2) 3年生については、原動機付自転車等の通学使用に関係なく、免許所有者は、受講することが望
ましいです。

4・5年生及び専攻科生については、講習会を受講していない者で通学に原動機付自転車等を使
用している学生又は使用予定の学生が受講してください。

(3) 現在通学に原動機付自転車等を使用している学生は、実技指導がありますので、当日、必ず原動
機付自転車等を持ってきてください。

(4) 講習会終了後、「講習会受講済証明書」を交付するので、必ず受領してください。

なお、「講習会受講済証明書」は、現在、3年生等で原動機付自転車等の使用許可を受けている
学生及び今後原動機付自転車等の使用許可申請を予定している学生に必要となるので注意してくだ
さい。

(出典 学生課資料)

資料5-4-②-7

合 意 書

平成16年4月1日

(里親)住 所(所在地) 新居浜市八雲町7番1号

事業所・団体名 新居浜高専環境専門委員会

氏 名(代表者) 帆 谷 雄 輝



新居浜市一宮町一丁目5番1号

新居浜市

新居浜市長 佐々木



新居浜高専環境専門委員会と新居浜市とは、新居浜市公共施設アダプトプログラム(里親制度)実施要綱第3条の規定に基づき、次の事項について合意したことを証するため、合意書を取り交わし、各自その1通を保有する。

1 活動する施設の名称及び区域

新居浜駅菊本線(新居浜高専西側)

2 里親の役割

- (1) 空き缶・吸い殻・紙くず等の収集
- (2) その他

3 市の役割

- (1) 必要な用具等の提供及び貸与
- (2) 保険の加入
- (3) 啓発、広報活動
- (4) その他必要な事項

4 その他

- (1) 里親は、毎年4月末日までに、前年度の活動報告書を市長に提出するものとする。
- (2) 里親は、活動参加者名簿を備えておくものとする。

(出典 環境保全委員会資料)

資料5-4-②-8

平成18年度 第2回寮務委員会議事録

日 時：平成18年5月11日(木) 16:10～18:30

場 所：学寮管理棟

出席者：塚野(寮務主事)，堤(主事補)，志賀(主事補)，谷脇，先山，松友，
西谷，井上，小野(学生生活支援係長)

記 録：先山

議題

(略)

2. 今週末行事について

- ・寮マッチ：5/13(土) 9:00～
グラウンドでソフトボール（雨天時は第2体育館でドッジボール）
TOEIC IP テストの時間と重なっている件は要確認
- ・バーベキュー：5/13(土) 16:00～ 準備開始
雨天時は第2浴室～食堂 or 第2体育館東側の屋根下を利用
(「雨天時は第2浴室から食堂軒下を利用（第2体育館東側の利用も検討）」と
してください。)
食材手配済み（昨年度より量を減らした）
- ・大掃除：5/14(日) 8:30～
キャンパス南北の溝掃除，国領川沿いのゴミ拾い，池掃除，寮周辺の除草 など
寮倉庫＋総務の道具を利用（刈り払い機，草刈り機を利用可能）
(「寮倉庫＋総務課の道具を利用（刈り払い機，手押し草刈り機を借用）」と修正して
ください。)
大雨時は外回り清掃は（「は」を削除してください。）中止 → 屋内清掃
池まわりは指導寮生補佐，
(「池清掃は指導寮生補佐が担当」の変更してください。)
女子は女子寮周りの草取り，エアコンフィルタ清掃，窓拭きなど
掃除場所の割り当ては環境委員長へ依頼
当日の風呂：男子は午前のみ(10:30～) 女子は午前はシャワー，夜は風呂湯張り

(略)

(出典 平成18年度第2回寮務委員会議事録)

資料5-4-②-9

ク ラ ブ 顧 問 一 覧

H18. 4. 1現在

クラブ名	H17年度顧問	H18年度顧問
写真部	○刑部、下村	刑部・牧
美術部	○豊田、千葉	豊田・千葉・今井
ESS	○尾崎、タベシ	尾崎・タベシ
ブラスバンド部	○白井、出口、深山、今井、平野	白井・出口・深山・平野
茶道部	○中川、野口	中川・野口
ローターアクト部	○皆本、吉川	皆本・吉川
コンピューター部	○田中、占部	田中・平野
軽音楽部	○檀上、松原	檀上・松原
陸上競技部	○吉川、衣笠、王	吉川・衣笠
硬式野球部(高学年)	○日野、高橋	日野・高橋
硬式野球部(低学年)	○間淵、尾西、栗原、井上	間淵・尾西・栗原
サッカー部	○安藤、小山、古城	安藤・谷脇・王
バレーボール部(男)	○西井、香川、鹿毛	西井・香川・鹿毛・谷本

バレーボール部(女)	○松田、新田、堤	松田・新田・堤
バスケットボール部(男)	○今城、伊月	今城・伊月
バスケットボール部(女)	○朝日、大村	今城・大村
ソフトテニス部	○佐渡、鴻上、河村	佐渡・鴻上・河村・宮田
卓球部	○竹田、白井、鎌田	竹田・白井・鎌田
柔道部	○谷口、北住、野田	野田・北住・谷口
剣道部	○多田、柳井	多田・柳井・先山
ワンダーフォーゲル	○山田、木本	谷・松友・木本
水泳部	○塚野、横山、タベシ	塚野・横山・タベシ
バドミントン部	○矢野、西谷、平木、三井	矢野・西谷・平木・三井
空手部	○木本	木本・井上
弓道部	○松英、早瀬、堤、榊原	松英・早瀬・榊原
テニス部	○志賀、皆本、曾我部、下村	下村・志賀・皆本・曾我部
ラグビー部	○牧、牛尾、矢野	牛尾・矢野
漫画同好会	○稲見	稲見・朝日
文学研究会	○森長	森長・古城
ロボット研究会	○宮田、出口、松友	宮田・出口・松友
先端技術研究会	○刑部、松田、鎌田	刑部・松田・平木
応援団同好会	○谷	谷・千葉
科学研究会	○桑田、中山、馬淵	桑田・中山・馬淵
フットサル愛好会	○谷脇、佐藤、石井	谷脇・佐藤・石井
マルチメディア愛好会	○占部、宮田、川崎	占部・先山・川崎
天文愛好会	○勝浦	勝浦・松村
軟式野球愛好会	○池内、相根	池内・相根
DANCE愛好会	○野村、松村	野村・松村
奇術愛好会	○谷本、香川、井門	谷本・香川・井門
自転車愛好会	○柴田	柴田
トレーニング愛好会	○柴田	柴田
演劇愛好会	○野田	野田・横山
自動車愛好会	○池内	小山・池内・日野

○は主顧問

(出典 学生委員会資料)

資料5-4-②-10

部員数一覧

	クラブ名	H18	H17
文化局	写真部	15	9
	美術部	14	10
	ESS	7	8
	プラスバンド部	20	23
	茶道部	3	12
	ローターアクト部	17	15

	コンピューター部	20	4
	軽音楽部	54	40
	小計	150	121
体育局	陸上競技部	20	23
	硬式野球部（高学年）	9	16
	硬式野球部（低学年）	53	34
	サッカー部	50	46
	バレーボール部（男）	18	21
	バレーボール部（女）	6	16
	バスケットボール部（男）	31	32
	バスケットボール部（女）	8	10
	ソフトテニス部	34	41
	卓球部	21	25
	柔道部	9	11
	剣道部	20	14
	ワンダーフォーゲル	7	7
	水泳部	16	19
	バドミントン部	31	30
	空手部	9	6
	弓道部	42	42
	テニス部	28	24
ラグビー部	18	19	
	小計	430	436
愛好会	漫画同好会	10	12
	文学研究会	10	6
	ロボット研究会	31	24
	先端技術研究会	9	13
	応援団同好会	2	6
	科学研究会	17	12
	フットサル愛好会	22	21
	マルチメディア愛好会	14	13
	天文愛好会	6	4
	軟式野球愛好会	12	19
	DANCE愛好会	8	
	奇術愛好会	13	17
	自転車愛好会	7	5
	トレーニング愛好会	17	18
	演劇愛好会	14	
自動車愛好会	5		
哲学愛好会	10		
	小計	207	170
	合計	787	727

(出典 学生課資料)

資料 5-4-②-11

クラブ活動安全管理指導者業務要領

1 クラブ（愛好会を含む。）活動時間等

区分	該当曜日・期間等	活動時間等	備考
授業日	下記休業日以外の月～金曜日	授業終了時刻～19時まで	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、勤務時間内に練習計画等の確認と適切な指導を行う。 17時15分以降は、クラブ安全管理指導者が安全管理指導を行う。

休業日 (1)	土・日曜日 国民の祝日に関する法律に定める休日 学校が特に定める日	原則として対 外試合	・指導教員が引率する。 ・変形労働時間内 ・特定の大会の直前の期間の練習は、年間計画を立てて実施する。
休業日 (2)	春季休業日 4月1日 ～4月7日 夏季休業日 7月28 日～8月31日 冬季休業日 12月2 5日～翌年1月7日 学年末休業日 3月2 0日～3月31日	最長17時まで (但し、当該ク ラブの指導教 員の変形労働 時間内)	・指導教員の変形労働時間枠内

2 クラブ活動安全管理指導者は、全教員の輪番制で行う。

- (1) 指導者は、練習時間（17時15分から19時）及び練習終了時（19時）の巡回を2回実施し、必要に応じ安全管理指導を行うとともに、事故などの緊急事態に対応する。
- (2) 労働時間は、17時15分から19時30分までとする。（休憩時間15分を含む。）
- (3) 各クラブより活動終了報告を受ける。
- (4) 緊急時の対応で、19時30分を超えた場合は、時間外労働として取り扱う。
- (5) 出張・休暇・病気等急な公務又はやむを得ない理由で当番ができない場合は、当面の間交替要員は出さず、相互に連絡をとり1名による勤務とする。この場合、練習終了時の巡回のみ実施することとする。
- (6) 勤務場所（待機場所）は、第1体育館正面玄関右の部屋とする。

3 緊急連絡先

医療機関		学校関係	
十全総合病院	0897-33-1818	学生主事	内線751
吉松外科	0897-32-5787	学生課長	内線722
急患センター	0897-32-5658	学生課長補佐	内線723
		学生就学支援 係長	内線726
		施設係長	内線719
		守衛室	内線710

* 緊急時、タクシーを利用する場合、タクシーチケットは守衛室にあります。

(出典 学生課資料)

資料5-4-②-12

○日常の生活指導

10. 規律ある生活と自宅学習の確保

授業あるいは図書館での学習が終了したら、すみやかに帰宅する。クラブ活動は、原則として毎日午後7時を目途に終了する。

(出典 高専だより第90号)

資料 5-4-②-13

2006.7.11(火) 16:10～

第一回 リーダー研修会
～クラブリーダーとしてのクラブ運営～

学生委員会

目的

- ・クラブ活動における安全管理体制の部員への周知
- ・クラブリーダーとしての役割の再確認

内容

(1)クラブリーダーとして

<活動面>

- ・誰よりも率先して行動しよう。有言実行のリーダーとなろう
- ・部員全体の状況を把握し、全体をまとめることを意識しよう
- ・用具の整理、整頓、後かたづけの指導
- ・使用施設の清掃、後かたづけの指導
- ・顧問の先生とよく連絡を取り合い、お互いギブアンドテイクで協力体制をつくること

<事務处理的な面>

- ・提出書類の取りまとめ、必要経費の収集
- ・各種連絡事項の周知
- ・月間練習計画の遵守
- ・年間目標、計画及び月間練習計画の立て方
- ・クラブ安全管理室への活動終了報告の厳守

(2)活動中の安全管理について

- ・緊急連絡先
- ・AEDの使用
- ・熱中症の対処
- ・アイシングの方法
- ・テーピングの巻き方
- ・雷時の対応

など

雷対策について

- (1) 導体で囲まれた空間（これを安全空間と言います）にできるだけ早く避難する。
安全空間の具体的な例としては、屋根のある自動車、建物の中などがあります。
- (2) 屋外で雷に遭ったときには、送電線の下を通過して、できるだけ早く安全空間に避難する。（送電線には電線を保護するために上部に避雷針に相当する導線が張ってあります）
- (3) 何も無いときにはできるだけ低い姿勢をとって、安全空間に避難する。
- (4) 背の高い樹木や屋内の電気設備や配線からはできるだけ離れる。
- (5) 雷の兆候に注意する。
 - (a) 雷鳴が聞こえる。
 - (b) 入道雲がもくもくと成長する。
 - (c) 上空が黒雲でおおわれる。
 - (d) 突風が吹く。
 - (e) 大粒の雨あるいはあられが降り出す。
- (6) 先端がとがっていて、自分より高い位置で使うもの（傘、野球のバット、ゴルフクラブ、釣り竿など）は身につけない。

※以前は金属製の装身具を身につけると危険であると言われていましたが、現在ではこれは落雷の危険性を高めるものではないことが確かめられています。

落雷被害にあったとき

- (1) 呼吸・脈拍を調べ、停止しているときにはただちに心肺蘇生法を施し、回復するまで続ける。
- (2) 呼吸・脈拍はあるが、意識がないときには、気道確保（頭を下げて、気道を広げる）して、救急車を待つ。

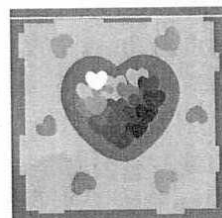
(出典 学生委員会資料)

高専ソチカラ プログラム

- 10:00~** ロビー展示
美術部・写真部・ロボット研究会
- 12:00** ホール開場
- 12:30** 奇術愛好会 コンサート
- **13:40** ダンス同好会 コンサート
- 14:20** 演劇愛好会 公演
「ハコの中身」
幕間劇
- 15:20** フラスバンド部 コンサート
「テーマは愛」
- **15:50** フィナーレ
- 16:00** 展示終了

アンケートへのご協力
お願いします！

軽音楽部の発表は都合により
中止します。



新居浜高専チャレンジプロジェクト

(出典 学生委員会資料)

資料 5-4-②-14

第1回
応募締切日：五月三十一日
学生委員会

目的

一、プロジェクトを計画し実行することで、何事にも挑戦する気持ちを育てる

一、自主的・主体的に取り組み「こと」で、社会性や協調性を養う

一、プロジェクトを通して、地域社会に貢献する

そこで

様々なプロジェクトを公募し、活動費の全部または一部を本校後援会より助成する
(助成は1件につき十万円程度)



平成十八年度 新居浜高専
チャレンジプロジェクト募集

《募集分野》 いろいろなプロジェクトを企画してください。

- ・高専の特徴を生かした活動
- ・地域社会への貢献
- ・ボランティア活動 …など

《応募資格》

- ・本校の学生が複数名おり、主体的に活動していること。
- ・外部または本校教職員のアドバイザー的参加があること。
- ・原則として3ヶ月以上の長期の活動であること。

《審査》 (以下の事をふまえ、学生委員会で審議します)

- ⇒安全性が確認できること。
- ⇒対外的に責任が取れる体制であること。
- ⇒高専生にふさわしい活動であること。



《活動・会計報告》

⇒学生会主催(定期学生大会など)で活動報告(会計報告を含む)を行うものとします。

～平成17年度採用プロジェクト～

- ・トリ・コン！【鳥人間コンテスト参加】
(助成金額：¥200,000-)
- ・子供向け手品寄術福祉公演
(助成金額： ¥75,619-)

《応募要領》

所定の「活動計画書」に必要事項を記入し、活動内容を添えて、**学生就学支援係**まで提出してください。

活動計画書
(所定の用紙)
※必要事項を記入


+

活動内容
(A4用紙2枚程度)

- ・プロジェクトの目的
- ・全体の活動計画・方法
- ・全体の予算見積もり

➡

学生就学支援係



問い合わせは
学生就学支援係
まで

※応募いただいたプロジェクトには、応募締切り後、プレゼンを行っていただきます。
※「活動計画書」は学生就学支援係にあります。

(出典 学生委員会資料)

平成18年度 チャレンジプロジェクト応募要項

1. 目的

学生が、学校で学んだことを生かしたさまざまなプロジェクトを計画し、自主的・主体的に取り組むことを通じて、何事にも挑戦する気持ちを育てるとともに、社会性や協調性を養うことを目的とする。また、地域社会に貢献できるようなプロジェクトに対しても応援していきたい。そこでそれらに関わるプロジェクトを公募し、その活動費の全部または一部を本校後援会より助成するものである。(助成は1件につき10万円程度とする)

2. 対象分野

学生チャレンジプロジェクトは次のいずれかの分野に該当するプロジェクトを募集する。

⇒高専の特徴を生かした活動

⇒地域社会への貢献

⇒ボランティア活動

その他、チャレンジプロジェクトとして校外の公募へ応募する場合は、随時募集する。

3. 応募資格

応募するプロジェクトは、次の項目すべてに該当すること

⇒本校の学生が複数名おり、主体的に活動していること

⇒外部または本校教職員のアドバイザー的参加があること

⇒原則として3ヶ月以上の長期活動であること

4. 応募要領

●募集期間

募集期間について、1次募集は4月～5月(応募締切日は5月31日)とし、2次募集は7月～9月(応募締切日は9月末日)とする。ただし、1次募集で多数の応募があった場合は2次募集を行わない。

●応募方法

所定の活動計画書(別紙1)に必要事項を記入し、活動内容(A4用紙2枚程度にまとめたもの)を添えて、締切日までに学生係に提出する。活動内容には、(1)プロジェクトの目的、(2)プロジェクト全体の活動計画・方法、(3)プロジェクト全体の予算見積もり(2年以上のプロジェクトの場合は年度毎に記載すること)を具体的に記入すること。また、応募のあったプロジェクトについては応募締切り後プレゼンを行ってもらうこととする。

5. 選考基準

原則として応募プロジェクトは、新たに実行しようとする、あるいは長期プロジェクト(活動期間2年以上)の実行途中で部分的に完了し、さらなる付加を必要とするものであること。ただし、同一プロジェクト(同一大会への参加など)での応募は、新たなチャレンジ要素があると判断した場合のみ最大3回まで助成を認めることがある。なお、2年以上の長期プロジェクトの場合、助成はその年の4月～翌年3月までの活動に対して行うものとする。

6. 活動報告および会計報告

採択されたプロジェクトは、活動報告(会計報告を含む)を年度末に開催される定期学生大会および学内掲示板などにおいて行わなければならない。また、予算の執行については、要求費目一覧(別紙2)と、領収書あるいは請求書を添えて学生係に提出することで行う。(出典 学生委員会資料)

チャレンジプロジェクトの実績

平成15年度 4件

内訳

(1) 禁煙推進プロジェクト：

世界禁煙デーに関連した松山市大街道での禁煙PRデモに自作のぬいぐるみなどを作って参加。校内での禁煙活動（学生、教職員へのアンケート調査など）（学生6名、教員2名）

(2) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加（学生10名、教員3名）

(3) ITボランティア活動

ITを利用した国際会議I E A R N（淡路島で開催）の運営の手伝いボランティア（学生6名、教員2名）

(4) ガラス細工教室

障害者を対象としたガラス細工教室の開催（学生6名、教員2名）

平成16年度 2件

内訳

(1) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加（学生10名、教員3名）

(2) 幼児対象手品、奇術ボランティア（学生10名、教員2名）

平成17年度 2件

内訳

(1) トリコン

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加（学生15名、教員3名）

(2) 子供向け手品、奇術福祉公演（学生10名、教員2名）

平成18年度 6件

内訳

(1) 高専打ち水大作戦2006

学内外に対して環境への関心を高めるための企画（学生20名、教員1名）

(2) 高専ソコヂカラ

文化系部活動・愛好会による地域参加型イベントの企画（学生5名、教員1名）

(3) 「環境日本一エコエネルギーコンテスト」ソーラーカー部門への参加

山梨県で11月19日に開催されるエコエネルギーを活用した技術・アイデアを競うコンテストへの参加（学生6名、教員1名）

(4) トリコン2007

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加（学生10名、教員2名）

(5) マスコットロボット「ロボ太」の製作

新居浜高専PR用の縄跳びをするロボットの製作（学生19名、教員1名）

(6) 手品奇術ボランティア公演

手品を通じた地域へのボランティア活動を企画（学生6名、教員3名）

（出典 学生委員会資料より編集）

平成18年度
新居浜高専が参加する全国公式大会
— ものづくり課外活動 —

めざせ全国大会!

更新日 2006.6.14

全国高等専門学校プログラミングコンテスト プロコン 2006 公式 HP

公式スケジュール

オンライン登録 (応募) 期間 5月24日 (水) ~30日 (水)

予選 (書類審査) 7月1日 (土) 東京高専

予選結果 7月3日 (月) 公式HPにて

システム調整 9月上旬

本選 10月7日 (土) ~8日 (日) 茨城高専

学内選考会申込み期限	5月15日 (月) 17時	学生就学支援係
学内選考会	5月18日 (木) 16時30分	視聴覚教室
選考結果発表	5月24日 (水)	学内掲示
ビデオ上映	7月上旬	昼食時に学食にて
経過報告	7月上旬	学内掲示
選考結果表彰	9月1日 (金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告会・お披露目会	9月1日 (金)	プレゼン：視聴覚教室、展示図書館下ロビー

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 高専ロボコン 2006 公式 HP

公式スケジュール

アイデア申込み 6月21日 (水) NHK エンタープライズ必着

アイデア審査結果 7月上旬

参加者エントリー 9月8日 (金) NHK エンタープライズ必着

四国地区大会 11月4日 (土) ~5日 (日) 高松高専

全国大会 11月25日(土)～26日(日) 国技館(東京)		
1年生向け課題説明およびアイデア募集説明会	5月8日(月) 15時	視聴覚教室
課題説明およびアイデア募集説明会	5月8日(月) 16時	視聴覚教室
2年生向け課題説明およびアイデア募集説明会	6月2日(金) 15時10分	視聴覚教室
1年生アイデア提出期限	5月26日(金) 17時	クラス担任
2年生アイデア提出期限	6月8日(木) 17時	クラス担任
学内選考会申込み期限	5月29日(月) 17時	学生就学支援係
1次選考(書類選考)	5月30日(火)	
1次選考結果発表	6月2日(金) 12時	学内掲示
2次選考会	6月9日(金) 17時	視聴覚教室
2次選考結果発表	6月16日(金)	学内掲示
ビデオ上映	9月上旬	昼食時に学食にて
経過報告	9月上旬	学内掲示
選考結果表彰	9月1日(金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告会・お披露目会	10月上旬	アイデア通り工房

全国高等専門学校デザインコンペティション デザコン2006公式HP

公式スケジュール

構造デザインコンペティション

「ブリッジコンテスト」

エントリーシート・立面図提出 9月23日(金)～10月6日(金) 都城高専

パンフレット提出 10月6日(金) 都城高専

本選参加要項 9月上旬公開

本選 11月17日(土)～18日(日) 都城高専

環境デザインコンペティション

「山あいの生きられる空間」

プレゼンポスター提出期限 9月1日(金)～9月6日(水) 消印有効 都城高専

予選 9月中旬

予選結果発表 9月22日(金)

本選 同上

プロポーザルコンペティション

「商店街のマスカレード」

図面提出期限 8月31日(木) 消印有効 都城高専

予選 9月中旬

予選結果発表 9月22日(金)

本選 同上		
学内選考会申込み期限	6月30日(金) 17時	学生就学支援係
学内選考会	7月7日(金) 16時30分	視聴覚教室
選考結果発表	7月13日(水)	学内掲示
選考結果表彰	9月1日(金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告	10月上旬	学内掲示
経過報告会・お披露目会	11月上旬	アイデア通り工房

管理：学生委員会コンテスト担当

(出典 本校ホームページ)

資料 5-4-②-18

全国高専ロボコン 2006 アイデア募集について

高専ロボコンの季節がやってきました。高専ロボコンの課題は年々その難度を増してきており、特に、昨年度から「人間に近い動き」に着目しています。ロボット製作にも高いスキルが要求され、一般学生の中には無縁と思う人も多いのではないのでしょうか。活動への関わり方は人によって様々です。この機会にアイデアを出してみませんか。あなたのアイデアで全国大会へ行きましょう！

高専ロボコンは本校における「ものづくり課外活動」として主要な活動の一つですので、大会終了時まで学生委員会を中心として学校全体で支援していきます。このたび高専ロボコン 2006 のアイデア募集のご案内をします。ので奮って応募してください。若いみなさんの柔軟な発想を期待しております。

○競技課題説明会および学内アイデア募集説明会

5月8日(月) 16時～ 視聴覚室

○アイデア応募方法

アイデアは所定の様式に記入し、期限までに提出してください。アイデアは個人または3人以内のチームで応募してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。

- (i) 応募用紙について

学生就学支援係(旧学生係)または**下記 URL**から事前に入手してください。

<http://www.mec.niihama-nct.ac.jp/~miyata/robocon06/oubo.pdf>

- (ii) 提出先および提出期限

学生就学支援係(旧学生係)に5月29日(月)17時までに提出のこと

○1 次選考会

5月30日(火)に学内選考委員会で書類選考を行います。選考においては、アイデアがどれだけ優れているかを評価するのはもちろんですが、わかり易さなども選考の対象となります。所定の様式には丁寧に記載し、わかりやすく説明してください。2次選考会でのプレゼンでは応募用紙をそのまま映すので、そういった意味でも丁寧に仕上げてください。乱暴な記載は選考対象外とします。審査結果は6月2日(金)12時頃に学内掲示します。

○2 次選考会

1次選考を通過したチームは、所定の日時までに自分たちのアイデアをプレゼンできるようにしておいてください。

(i) 開催日時・場所

6月9日(金) 17時～ 視聴覚室

(ii) プレゼンについて

選考会は試験発表期間中であるので、時間を要するパソコンなどの事前準備は必要ありません。今回は応募用紙を書画カメラでそのまま映して発表していただきます。

発表時間は10分以内、質疑応答は5分とします。

○問合せ先

その他、わからないことがあれば下記までお問い合わせください。

学生就学支援係(旧学生係) 内線 727

宮田(機械工学科)内線 745、尾西(電気情報工学科)内線 755

(出典 学生委員会資料)

ロボコンアイデア二次審査結果

学生委員会ロボコン担当
平成18年 6月16日

6月2日(金)に発表された1次選考通過メンバーに対する2次選考会が6月9日(金)に行われました。試験初日であるにもかかわらず、多数の学生の皆さんならびに教職員の方々にお集まりいただき有難うございました。2次選考会においては、各学科教員で構成する審査員により選考を行いました。その結果、以下の3チームが選ばれました。該当チームは本校代表としてアイデアを提出する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

- 最優秀賞 クローラーⅡ
 ○4D森本 雄大、石川 誠也、4E森川 裕一
- 優秀賞 クローラー
 ○5D首藤 将貴、4D石川 誠也、4E森川 裕一
- 優秀賞 レール
 ○4D村上 廣太、3M福山 育也、3Z楠橋 陽教

○印は代表者

-参考1-
今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	1次選考通過	応募数	アイデア数	
全学年	3	12	197	
1年	0	0	104	別途評価
2年	0	0	41	別途評価
合計	3	12	342	

-参考2-
すべてのアイデア342件におけるオブジェランキングは以下のとおりです。

1位	みかん
2位	タオル
3位	銅
4位	鯛
5位	太鼓、船
その他	紙、トイレットペーパー、瓦、真珠、団子、木、菓子、パン、魚、ホタテ、橋、野球ボール、ちりめん、カツ丼、砥部焼、たこ、キウイ、伊予牛、ひめライス、坊ちゃん、しまなみ海道、マンダリンパイレーツ、伯方の塩、ポンジュース、ペンギン

-参考3-
以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ 独創性	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	4名
D	3名
C	1名
Z	1名
合計	11名

資料 5-4-②-19

(出典 学生委員会資料)

資料 5-4-②-20




大会結果(四国)

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2006

ふるさと自慢特急便

賞

学校名 (ロボット名)

優勝	詫間電波工業高等専門学校 A ARK (アーク)
準優勝	高松工業高等専門学校 B JIN (ジン)
アイデア賞	高松工業高等専門学校 A まんでがん
技術賞	詫間電波工業高等専門学校 B 蒼天 (ソウテン)
デザイン賞	阿南工業高等専門学校 B Rhombus (ランバス)
特別賞 本田技研工業(株)	阿南工業高等専門学校 B Rhombus (ランバス)
特別賞 四国電力(株)	弓削商船高等専門学校 A 弓削クロスシフト (ユゲクロスシフト)
特別賞 マブチモーター(株)	詫間電波工業高等専門学校 B 蒼天 (ソウテン)
特別賞 リットワークス・ジャパン (株)	新居浜工業高等専門学校 A 燧の運び屋 (ヒウチノハコビヤ)
特別賞 (株)安川電機	高松工業高等専門学校 B JIN (ジン)
 全国大会出場校	
出場校	学校名 (ロボット名)
優勝チーム	詫間電波高等専門学校 A ARK (アーク)
推薦チーム	高松工業高等専門学校 B JIN (ジン)
(出典 全国高専ロボットコンテストホームページ)	

2006 年度プログラムコンテスト 学内アイデア募集

○ 趣 旨

「プログラムコンテスト」への取組みを益々活発に行なうため学生委員会を中心にサポート体制の強化策を検討しております。特に教職員・学生の皆様には、アイデア等を募ると共に、経過報告を開示し

積極的な参加・サポートを呼びかけることで、学校全体に注目して頂きながら取組んで参りたくご協力をお願いいたします。

○ 選考会への申込み

コンテスト予選へ応募するに先立って、学内からアイデアを募集し選考会を行います。選考会では、聴講のみでも結構ですので本校の教職員・学生の皆様の参加をお待ちいたします。

アイデアは、プロコンホームページ(<http://www.procon.gr.jp/>)内の規定に沿って申込み用紙にまとめること。申込み用紙は、学生係で配布します。

申込締切；5月15日(月) 17：00 学生就学支援係（旧学生係）まで

○ 選考会

既に提出のあった応募書類はコピーし配布いたしますので、他に配布資料等が必要な場合は、前日までに連絡してください。選考会は、コンテストへの応募要領に沿った PDF ファイルにて行って頂きますので、担当者は、事前準備等を周到に行なってください。

日 時；5月18日(木) 16：30～ 視聴覚教室

使用可能機器；プロジェクター

時 間；10分／1人(1グループ)＋質疑応答5分

○ 今後のサポート計画(予定)

選考会申込み期限	5月15日(月)～17：00
選考会	5月18日(木)16：30～
選考結果発表	5月24日(水)
ビデオ上映	7月上旬 学食内
経過報告	7月上旬 学内掲示板
選考結果主事表彰	9月1日(金)お披露目会時
経過報告会	9月1日(金)始業日の放課後 プレゼン；視聴覚室 展 示；図書館下ロビー

○ 問合せ先

学生就学支援係(旧学生係) 内線 727

宮田(機械工学科)内線 745、尾西(電気情報工学科)内線 755

(出典 学生委員会資料)

プロコンアイデア学内審査結果

学生委員会プロコン担当
平成18年 5月23日

5月15日（月）の学内締切り日までに応募があったアイデアに対する学内選考会が5月18日（木）に行われました。各学科教員で構成する審査員により選考を行いましたので、その結果を発表します。なお、すでに出場が決定している競技部門は内容紹介という形で発表していただき、審査対象外としました。

本選考会の結果、課題部門、自由部門において以下のそれぞれ2チームが選ばれました。該当チームは本校代表として出場する資格を得ましたのでお知らせします。

選考された以下のチームは後日表彰します。

記

【課題部門】

最優秀賞 「宇宙へ」

○5D佐伯 貴大、縄田 怜也、4D堀本 武志、渡部 宣幸、3D村上 卓

優秀賞 「My Picture Book Card」

○1-2E篠原 慧伍、1-3D佐々木 崇人、1-4E近藤 文彦、2D松木 一晃

【自由部門】

最優秀賞 「ブログの星」

○5D弓山 彬、稲井 弘次郎、4D高橋 克弥、鈴木 達哉、徳永 匠

優秀賞 「X線CT像による中皮腫解析プログラム」

○5E森本 恭平、4Eチャン クワン (TRAN QUANG)

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	応募数	アイデア数
課題部門	3	5
自由部門	2	14
合計	5	19

-参考2-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ 独創性	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	2名
D	1名
C	1名
Z	1名
合計	7名

(出展 学生委員会資料)

資料 5-4-②-23

プロコン本戦結果

【課題部門】

佳作 宇宙へ —SORAHE— 新居浜高専

【自由部門】

審査委員特別賞 B l o g ☆ S t a r s 新居浜高専

【競技部門】

一回戦（フル対戦）

試合番号	順位	チーム	勝点合計	総マス差	総物体差	総消費時間
6	1	広島商船高専	4	6	9	5:54:00
	2	徳山高専	1	-6	-9	5:56:06
7	1	茨城高専	4	4	16	6:44:04
	2	富山高専	1	-4	-16	6:06:09
8	1	久留米高専	3	3	-10	6:07:02
	2	新居浜高専	3	-3	10	5:55:07
9	1	都立産業技術高専 品川	6	6	-5	5:45:07
	2	阿南高専	0	-6	5	6:07:01
10	1	沖縄高専	4	3	11	5:54:08
	2	大分高専	1	-3	-11	6:10:01

敗者復活戦（ハーフ対戦）

対戦	順位	チーム	勝点合計	総マス差	総物体差	総消費時間
R-2	1	阿南高専	6	9	16	5:56:03
	2	神戸市立高専	6	6	16	5:48:09
	3	富山高専	6	6	4	5:41:04
	4	新居浜高専	0	-4	3	5:58:06
	5	北九州高専	0	-5	-25	5:51:08
	6	大分高専	0	-12	-14	6:05:05

(出典 全国高専プログラミングコンテストホームページより編集)

資料 5-4-②-24

全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城
学内アイデア募集

全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城とは

「全国高等専門学校デザインコンペティション」は昭和52年(1977)に明石高専と米子高専の建築学科で行われた建築教育における建築理論の実践プロセスについての研究交流シンポジウムがその始まりです。その後、第23回にあたる平成11年(1999)からの5年間は「全国高等専門学校建築シンポジウム」と改名し、全国の建築学科を持つ高専に呼びかけ建築教育の技能研鑽及び学生の設計技術の向上を研究するシンポジウムとして開催されました。そして、平成16年(2004)には、デザインの領域を「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」と捉え直し、建築学科の枠を廃し土木建築系学科を中心に高専全体が取り組む「全国高等専門学校デザインコンペティション」に生まれ変わりました。前回の明石大会においてこの取り組みは一層の拡がりを見せましたが、第3回となる今大会は南九州の中核都市である都城を舞台にこれを発展的に継承するものです。

各コンペティションのテーマ

詳細は下記 URL を参照してください。

<http://www.miyakonojo-nct.ac.jp/~dezakon/index.html>

●構造デザインコンペティション

テーマ:ブリッジコンテスト

このコンペでは、定められた条件の中で行われるブリッジの設計・製作を通して、構造デザインの可能性を追求する。

●環境デザインコンペティション

テーマ:山あいの生きられる空間

このコンペでは、身近な山間部をとらえ、自ら問題を発見し、問題を解決し、「山あいの生きられる空間」の形成のためのアイデアとデザインの提案を求める。

●プロポーザルコンペティション

テーマ:商店街のマスカレード

街並のイメージを変える「店舗の仮面」となる街具の提案を求める。「店舗の仮面」とは仮設の街具であり、必要に応じて人力で移動・収納・撤去が可能で、イベントに応じて移動させたり、イベント空間の創出に協力することができるものとする。

アイデア応募方法

アイデアは所定の様式に記入し、期限までに提出してください。アイデアは個人または 5 人以内のチームで応募してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。

- (i) 要項および応募用紙について
学生就学支援係(旧学生係)で事前に入手してください。
- (ii) 提出先および提出期限
学生就学支援係(旧学生係)に 6 月 30 日(金)17 時までに提出してください。

審査について

アイデア発表会および審査会を 7 月 7 日(金)に行ないます。各コンペティションにおいてそれぞれ 2 件を選考します。審査結果は 7 月中旬に発表します。

問合せ先

その他、わからないことがあれば下記までお問い合わせください。

学生就学支援係(旧学生係) 内線 727、谷口(機械工学科)内線 741

詳細は、<http://www.miyakonojo-nct.ac.jp/~dezakon/index.html> を参照してください。

(出典 学生委員会資料)

資料 5 - 4 - ② - 2 5

デザコンアイデア審査結果

学生委員会デザコン担当
平成18年 7月14日

平成18年度デザインコンペティション(デザコン)出場のための学内アイデア発表会および選考会が 7 月 10 日(月)に行われました。多数の学生の皆さんならびに教職員の方々にお集まりいただき有難うございました。選考会においては、各学科教員で構成する審査員により選考を行いました。その結果、以下の 2 チームが選ばれました。該当チームは本校代表としてアイデアを提出する資格を得ましたのでお知らせします。選考された以下のチームは後日表彰します。

記

最優秀賞 メガネ橋

機械工学科5年 日越 栄雄、八十島 啓介

優秀賞 The marvel of art (人工の驚異)

機械工学科5年 村上 友洋、高橋 良太

-参考1-

今回の応募数・アイデア数は以下のとおりでした。

	応募数	アイデア数
本科生	2	2
専攻科生	4	4
合計	6	6

-参考2-

以下の5つの項目について3段階で評価し、その合計で評価しました。

	A	B	C
○ デザイン	3点	2点	1点
○ 技術的レベル	3点	2点	1点
○ 実現性	3点	2点	1点
○ 発展性	3点	2点	1点
○ 発表に対する印象	3点	2点	1点

審査員構成	
M	2名
E	2名
Z	1名
非常勤	1名
合計	6名

(出典 学生委員会資料)

資料 5 - 4 - ② - 2 6

第3回全国高等専門学校デザインコンペティション大会結果一覧

構造デザインコンペティション

受賞名	高専名	学科名	学生名()内は学年	作品名
最優秀賞・文部科学大臣賞	新居浜工業高等専門学校	機械工学科	村上友洋(5) 高橋良太(5) 三野誠也(5)	Marvel of Art
優秀賞・日刊建設工業新聞社賞	松江工業高等専門学校	土木工学科	宮野雅也(5) 近藤広和(5)	大蛇～OROCHI～
優秀賞	米子工業高等専門学校	建築学科	坂根每顕(5) 坂本亮(5) 藤田尚志(5) 松本菜都美(5) 竹田純平(4)	砂丘と大山と汗とペダルと
佳作	福井工業高等専門学校	環境都市工学科	大坂拓也(5) 鎌谷道人(5) 木村祐子(5) 高野安恵(5) 山口公平(5)	Trapezoid
	秋田工業高等専門学校	環境都市工学科	工藤静香(3) 渡辺舞子(3) 荒木田桂那(3)	檜木内橋
	明石工業高等専門学校	建築学科	滝内雄二(4) 杉本正太(4) 福池章平(4) 山崎幸宏(4) 河西孝平(4)	〇〇ツ丸見え

(出典 全国高専デザインコンペティションホームページ)

「ものづくりコンテスト in 新居浜高専 2006」

組立式飛行機 コンテスト

自作の飛行機でデザインと飛行距離を競います

1. レギュレーション

- ①：自作による組立式の飛行機（滑空機）で飛行距離を競います。
 材料は、紙、木材、プラスチック、スチレンペーパーなど何を用いても構いませんが、安全上、鋭利な部分が無いようにしてください。
 組立に使用する接着剤、テープなどには制限はありません。
 また、ゴムやバネ、プロペラなどの動力源、エネルギー源は使用できません。
- ②：飛行機の寸法は、長さ500mm以内、翼幅700mm以内、高さ300mm以内とします。
 また、重量は100グラム以下とします。
- ③：飛行会場は体育館を利用し、手投げによる飛行距離を競います。
 ○バスケットボールコートのエンドラインをスタートラインとし、他方の壁面までの距離を最長飛行距離とします。
 ○飛行距離は、スタートラインから静止した機体までの最短距離を測定します。
 ○飛行回数は2回で、2回の平均を記録とします。
 ○横壁や障害物に当たった場合も、落下地点で測定します。
 ○体育館は閉切って、無風状態とします。

2. 応募方法

- ①：個人または5名以内のチームで参加してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。
- ②：参加登録用紙を、9月8日（金）までに学生就学支援係に提出してください。
- ③：エントリーシートを、10月16日（月）までに学生就学支援係に提出してください。
 （参加登録用紙、エントリーシートは、学生就学支援係にあります。）

3. 表彰

飛行記録、デザインや技術、完成度を評価して以下を表彰します。

最優秀賞：	1点	賞状および副賞（図書券3000円）
優秀賞：	若干点	賞状および副賞（図書券2000円）
デザイン賞：	若干点	賞状および副賞（図書券2000円）

ウィンドカー コンテスト

“うちわ”で扇いで、 風上に走る模型のアイデアと速度を競います

1. レギュレーション

- ①：エネルギー源は、1人で扇ぐ“うちわ”による風力だけとします。
模型の進行方向（方面）から扇ぎ、向かい風を受けた状態で、風上に進むようにしてください。部品として、バネやゴムの使用は認めますが、スタート前にエネルギーを蓄えておいてはいけません。
- ②：走路は体育館の床面を利用し、10mの直線距離の走行タイム（記録員による測定）で速度を競います。コース幅は3mとし、ラインテープ等で区画されたコース設定で、立体的な突起物はコース上には無いものとします。
床面の状態は、走行前にモップをかける程度です。
- ③：スタートラインの手前に設置（全ての部品が静止していること）した状態から、スタートの合図とともに、うちわで風を供給して走行させます。
走行時間は、スタートから模型全体がゴールラインを通過するまでの時間とします。走行は2回で、記録の良い方を採用します。
- ④：模型寸法は、前後の長さ500mm以内、横幅700mm以内、高さ800mm以内とします。模型に使用する材料および重量の制限はありません。
- ⑤：“うちわ”は各自で準備してください。既製品または自作品で、一人で扇げる構造のもの、大きさの制限はありません。
- ⑥：次の場合は、ペナルティの対象とします。
○うちわなどが機体に接触した場合、1回につき走行時間に10秒加算します。
○転倒した場合、その場で起こし、1回につき走行時間に10秒加算します。
○コースから外れた場合、コース内に戻し、1回につき走行時間に10秒加算します。
○明らかに追い風状態で進行した場合、1回につき走行時間に30秒加算します。
○破損等により走行不能になった場合、リタイヤ（自己申告）とします。

2. 応募方法

- ①：学年または学科を超えた5名以内のチームで参加してください。個人やチームが複数応募してもかまいません。
- ②：参加登録用紙を、9月8日（金）までに学生就学支援係に提出してください。
- ③：エントリーシートを、10月16日（月）までに学生就学支援係に提出してください。
（参加登録用紙、エントリーシートは、学生就学支援係にあります。）

3. 表彰

走行時間、アイデアや技術、完成度を評価して以下を表彰します。

最優秀賞：	1点	賞状および副賞（図書券5000円）
優秀賞：	若干点	賞状および副賞（図書券3000円）
アイデア賞：	若干点	賞状および副賞（図書券3000円）

（出典 平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書）

資料 5 - 4 - ② - 2 8

組立式飛行機コンテスト 参加者

エントリー No.	作品名	チーム名	予想記録	氏名	学年	学科
1	組立式飛行機	井手光	3 m	○ 井手 貴 大	1	M
				○ 秋 光 治 国	1	M
2	ヒコウキ	鳥三中		○ 鳥 生 純 平	1	Z
				村上 寿 昭	1	E
				塩 見 健 太	1	C
3	流星 夜を切り裂いて		10 m	○ 日 野 陽 介	1	E
4	ひこまる	先端技術研究会 2年の部	40 m	○ 渡 邊 大 地	2	E
				武 田 顕 一	2	M
5	俺 飛ぶぜ！！	ぺちよんぬ	10 m	○ 篠 原 隆 治	3	Z
				田 中 優 之	3	M
				白 石 泰 三	3	M
				宮 道 裕 幸	3	E
6	スーパー飛行機		10 m	小 湊 竜 矢	3	M
7	～ 狙うライフルには 宙返りのサービスを～	Don't worry, I can fly !		高 橋 克 朋	3	Z
				板 東 誠 実	3	Z
8	BORING 800		20 m	水 関 康 晴	4	M
9	ツバメ		15 m	水 関 康 晴	4	M
10	フラップフライヤー			大 石 章 裕	4	M
11	よだか			大 西 正 利	4	M
12	飛行機1	吉川研究室	3 m	小 野 潤 一	5	M
13	飛行機2	吉川研究室	3 m	小 野 潤 一	5	M
14	オウム号	オウム	15 m	○ 峯 良 人	5	M
				ホ	5	M
15	ムクライド	シュレック2	30 m	○ 村 上 友 洋	5	M
				日 越 栄 雄	5	M
16	B2. 9	シュレック3	15 m	八 十 島 啓 介	5	M
17	リサイクリスト	メガタイプ	20 m	日 越 栄 雄	5	M
18	普通の飛行機		20 m	田 中 大 貴	1	SM
19	smart	マチルダ	10 m	松 本 和 広	1	SM
20	Soar	流体実験室	15 m	阿 部 伸 也	2	SM
21		Team Nishy	25 m	西 井 靖 博	教員	

ウインドカーコンテスト 参加者

エントリー No.	作品名	チーム名	予想記録	氏名	学年	学科
1	風車	1-1	300 秒	○ 曾 我 部 駿	1	M
				羽 紫 健 彦	1	C
				渡 部 祐 司	1	M
2	サンダーstormX		120 秒	○ 日 野 陽 介	1	E
3	DANDY号	ダンディーと ゆかいな仲間達		○ 和 田 慎 也	3	C
				安 本 周 平	2	C
				伊 藤 真 衣	2	C
				川 上 幸 恵	2	C
				西 川 絵 里 子	2	C
4	シックロー		120 秒	クワン	4	E
5	自動書記	編集後記		○ 高 橋 志 企	4	E
				杉 岡 由 基	4	E
				渡 部 義 人	4	E
6	1号	5E1号		石 川 祐 輝	5	E
7	TOYOTA Witz	5E2号		豊 田 祐 太 郎	5	E
8	風輪車	村上ファンズ	50 秒	○ 村 上 友 洋	5	M
				峯 良 人	5	M
				大 石 章 裕	4	M
9	HERO	シュレックス	15 秒	○ 日 越 栄 雄	5	M
				八 十 島 啓 介	5	M
				水 関 康 晴	4	M
10	GRUMMAN F4F-4 WILD CAT	アベ	26 秒	○ 田 中 大 貴	1	SM
				阿 部 伸 也	2	SM
				松 本 和 広	1	SM
11	ゆっくり号	楽しく遊ぼう	50 秒	平 木 弘 一	教員	

組立式飛行機コンテスト 記録表

順位	エントリーNo.	作品名	チーム名	飛行距離		記録	
				1回目	2回目		
1	14	オウム号	オウム	19.60 m	22.70 m	21.150 m	
2	4	ひこまる	先端技術研究会 2年の部	20.50 m	20.15 m	20.325 m	
3	5	俺 飛ばぜ!!	べちょんぬ	12.60 m	22.55 m	17.575 m	
4	21	Gyron Woods II	Team Nishy	13.15 m	15.60 m	14.375 m	
5	7	～狙うライフルには宙返りのサービスを～	Don't worry, I can fly!	7.60 m	19.15 m	13.375 m	
6	17	リサイクリスト	メガティブ	12.90 m	12.55 m	12.725 m	
7	18	普通の飛行機	(田中君)	9.30 m	15.80 m	12.550 m	
8	1	組立式飛行機	井手光	12.95 m	11.70 m	12.325 m	
9	19	smart	マチルダ	5.75 m	13.70 m	9.725 m	
10	2	ヒコウキ	鳥三中	13.30 m	4.90 m	9.100 m	
11	13	飛行機2	吉川研究室	7.75 m	6.45 m	7.100 m	
12	16	B2. 9	シュレック3	5.80 m	8.00 m	6.900 m	
13	20	Soar	流体実験室	8.00 m	5.75 m	6.875 m	
14	15	ムクライド	シュレック2	7.50 m	5.85 m	6.675 m	
15	9	ツバメ	(水関君)	7.05 m	4.55 m	5.800 m	
16	8	BORING 800	(水関君)	7.65 m	2.75 m	5.200 m	
17	12	飛行機1	吉川研究室	6.50 m	3.70 m	5.100 m	
18	11	よだか	(大西君)	5.75 m	3.25 m	4.500 m	
19	6	スーパー飛行機	(小溪君)	5.25 m	3.50 m	4.375 m	
20	3	流星 夜を切り裂いて	(日野君)	3.30 m	2.10 m	2.700 m	
21	10	フラップフライヤー	(大石君)	2.70 m	2.60 m	2.650 m	

ウインドカーコンテスト 記録表

順位	エントリーNo.	作品名	チーム名	走行タイム			
				1回目		2回目	
1	10	GRUMMAN F4F-4 WILD CAT	アベ	0分 40.22秒	0分 20.14秒	0分 20.14秒	
2	9	HERO	シュレックス	0分 34.51秒	0分 21.62秒	0分 21.62秒	
3	6	1号	5E1号	0分 41.07秒	0分 23.62秒	0分 23.62秒	
4	11	ゆっくり号	楽しく遊ぼう	0分 28.33秒	0分 25.66秒	0分 25.66秒	
5	1	風車	1-1	1分 52.06秒	0分 45.63秒	0分 45.63秒	
6	7	TOYOTA Witz	5E2号	1分 49.39秒	0分 55.27秒	0分 55.27秒	
7	3	DANDY号	ダンディーとゆかいな仲間達	2分 17.28秒	1分 33.44秒	1分 33.44秒	
8	8	風輪車	村上ファンズ	2分 7.22秒	1分 59.90秒	1分 59.90秒	
9	5	自動書記	編集後記	2分 35.24秒	×分 リタイア秒	2分 35.24秒	
	4	シッコロー	(クワン君)	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	
	2	サンダーストームX	(日野君)	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	×分 リタイア秒	

(出典 平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書)

資料5-4-②-29

◎校内英語スピーチ(暗唱)コンテスト

10月13日(金)、初めての試みである標記コンテストを視聴覚教室で実施しました。1年生及び2年生の学級代表者が競い合い、次回に向けて実りあるスタートをきりました。最優秀賞受賞者は次のとおりで、四国総合文化祭スピーチコンテストに本校代表者として参加します。

(最優秀賞) 1年 鈴木綾華 2年 上浦 章

(出典 新居浜高専だより第91号)

資料 5 - 4 - ② - 3 0



読書感想文コンクール



ただ今応募受付中

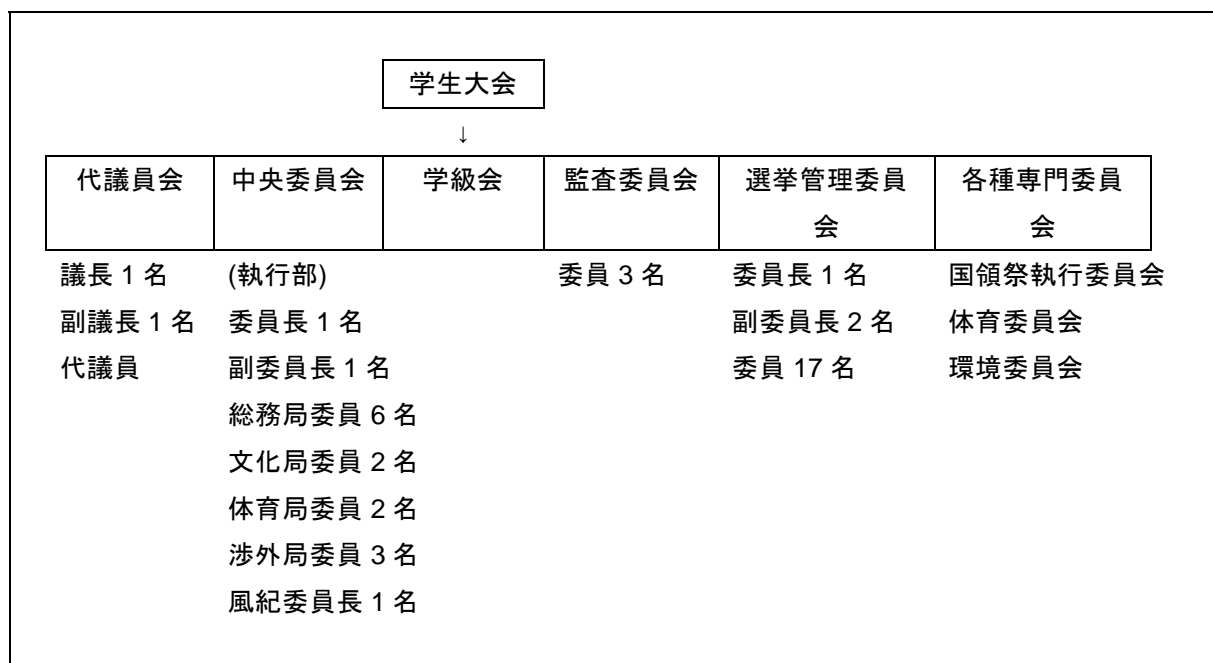
1. 対象学生 全本科生・専攻科生
2. 対象書籍
 - 【自由図書部門】 小説、物語、戯曲、詩歌、評論、随筆などの文芸や歴史、伝記、紀行文などのノンフィクション散文に限らず、広く、理工学書、理工学解説書、入門書なども対象とする。良質のコミック(図書館所蔵のもの)も含む。
 - 【課題図書部門】 広報図書委員会が指定する図書。(下表参照)
3. 原稿の文字数 400字以上 1000字以内
4. 応募期間 6月～9月上旬
5. 提出方法 応募者はパソコンで Word 等のテキストファイルを作成し、それをフロッピーディスクに保存したものを、図書館事務室に提出する。
6. 表彰 各部門それぞれ1名 (賞状と副賞を贈呈する。) ○優秀賞 ○佳作 ○学生賞
7. その他 表彰作品の著作権に関する一切の権利は、広報・図書委員会に帰属する。応募作品の氏名、学年・学科名、題名、対象図書名は、本校の広報紙等により公表されることがある。応募作品は、返却しない。

1～3学年	小川洋子著 「博士の愛した数式」	記憶が80分しかもたない数学博士と家政婦の親子。阪神江夏投手の背番号の謎、数学って美しい? 寺尾聡主演で映画化
	中西貴之著 「最新科学おもしろ雑学帖」	2005年現在までで最先端科学で明らかになりつつある“事がら”をおもしろく解説
	岡野雅行著 「ヒトのやれないことをやれ！」	金属深絞り加工の世界的職人で、出来るまで諦めないねばり強さを持ち、自分にしか出来ない最先端の製品をつくりあげている著者の意気込みを知って欲しい
4・5学年	広瀬武著 「公害の原点を後世に」	明治時代に足尾銅山鉱毒を訴えるために身を挺して活動した義人「田中正造」の思想を学ぶ入門書
	三谷千城著 「大学生のためのエンジニア入門」	エンジニアに必要なのは「非常識な発想」がつくりだすスタンダード。現役エンジニアの著者が教える、未来のエンジニア達への指南本。
	畑村洋太郎著 「失敗に学ぶものづくり」	失敗を成功につなげるためには、失敗を客観的に淡々と見ず、感情的に語って頭に焼き付けることが大切という著者の主張は心を打つ

専攻科生	三田村樂三著 「車はなぜまがるか？」	兎を追うチータのボデーコントロールにどこまで車を近づけるか？ラリー車を開発した著者が、車の走行性能を科学します。
	高野悦子著 「二十歳の原点」	「人としての純粹さ」、「人生の孤独」、を正面から見据えた学生の日記です。30年以上前のお話ですが、時代を越えて何かを感じてください。
	フランコ・セリリ著、櫻山義夫訳 「量子力学論争」	微視的世界では日常生活で自明だと思われる物理的实在性の考えと矛盾することに直面して、起こった量子論賛成派と反対派との論争

(出典 本校ホームページ)

資料 5 - 4 - ② - 3 1



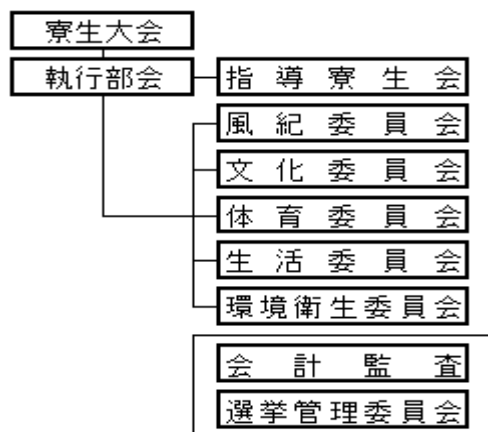
体育局	陸上部	硬式野球部	サッカー部	バレーボール部	バスケットボール部
	ソフトテニス部	卓球部	柔道部	剣道部	ワンダーフォーゲル部
	水泳部	バドミントン部	空手部	弓道部	テニス部
	ラグビー部				
文化局	写真部	美術部	ESS	プラスバンド部	茶道部
	ローターアクト部	コンピュータ一部	軽音部		

(出典 学生便覧2006より編集)

資料5-4-②-32

寮生会

寮務委員会の指導のもとに寮生の自治協力によって、寮生活が円滑、有意義に営まれることを目的として、寮生会が組織されています。



寮生会組織図

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任や学生委員会を中心とした生活指導，全教員によるクラブ活動の指導，学生の自主性を引き出すチャレンジプロジェクトや各種コンテストの指導，学生の自主性に基づく学生会活動に対する指導等，多角的に生活指導や課外活動の指導を実施する体制をとることによって，人間の素養としての自主性，責任感，豊かな感性，規範意識等の涵養を図るように配慮している。

<専攻科課程>

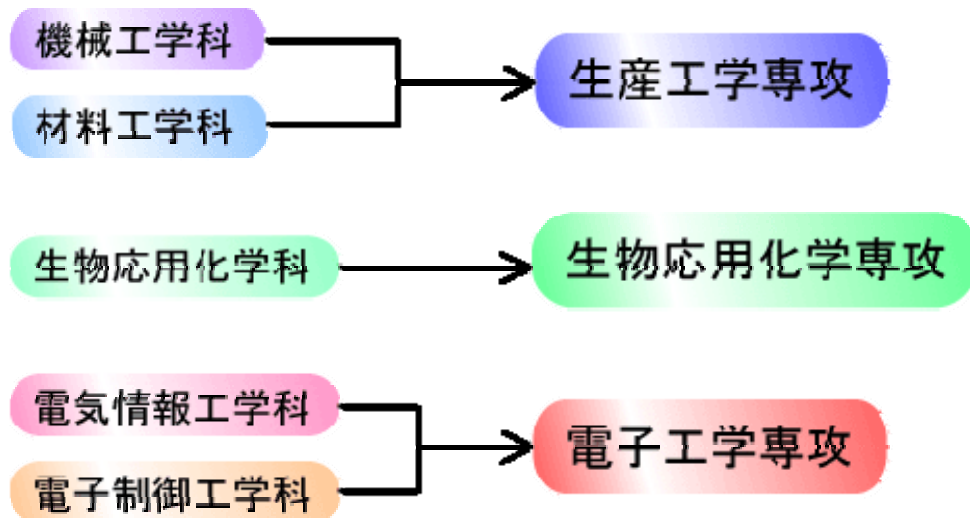
観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程は準学士課程の学科との連携を十分配慮した教育課程となっている（資料5-5-①-1，資料5-5-①-2）。準学士課程と専攻科課程の科目連携を十分に考慮している（資料5-5-①-3，資料5-5-①-4，資料5-5-①-5）。

なお，本校には日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定された，準学士課程の4，5年と専攻科課程からなる生産工学プログラム（機械工学科，材料工学科，生産工学専攻），生物応用化学プログラム（生物応用化学科，生物応用化学専攻），システムデザイン工学プログラム（電気情報工学科，電子制御工学科，電子工学専攻）という3つの教育プログラムがあり，準学士課程と専攻科課程の連携が十分なされている（資料5-5-①-6）。

資料 5 - 5 - ① - 1



(出典 本校ホームページ)

資料 5 - 5 - ① - 2

生産工学専攻の技術者像と学習教育目標

生産工学専攻においては、高等専門学校の課程における機械・材料系学科の5年間の教育を基礎として、その上にIT技術にも精通した、幅広い専門的知識を有し、国際的に活躍できる技術者を養成することを目的としている。機械系出身者は、基礎知識を有機的に組み合わせ、広範な工業分野のニーズに対応できるアイデアを生み出す能力を持つ技術者に、材料系出身者は、金属材料、無機材料、有機材料の持つ多様な機能を理解・応用し得る能力を持つ技術者に養成する。

(略)

生物応用化学専攻の技術者像と学習教育目標

生物応用化学専攻においては、高等専門学校の課程における化学・生物系学科の5年間の教育を基礎として、その上に化学および生物工学を中心とした深い知識と、社会環境を考えながら主体的に活動できる能力を持ち、国際的に活躍できる技術者を養成することを目的としている。

(略)

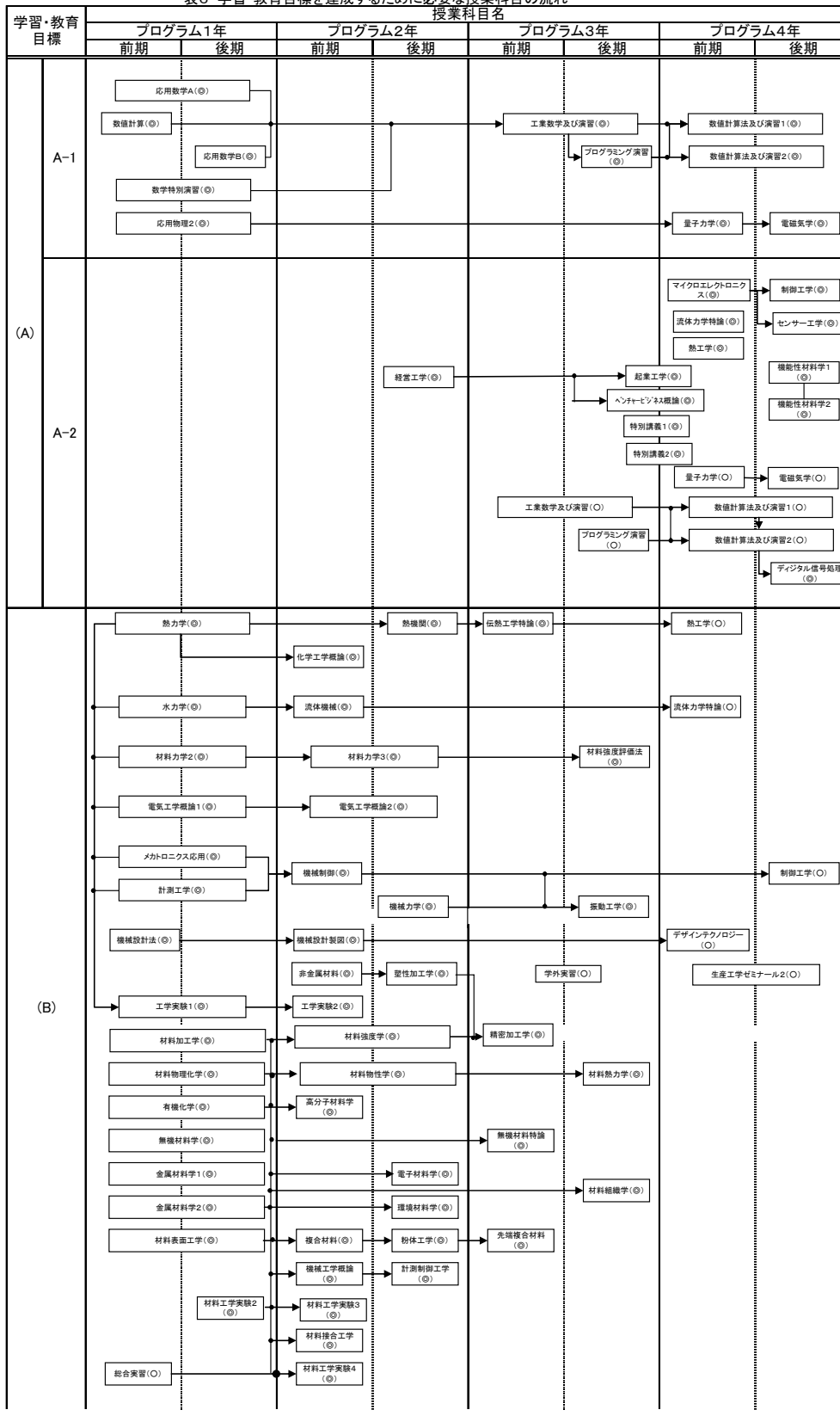
電子工学専攻の技術者像と学習教育目標

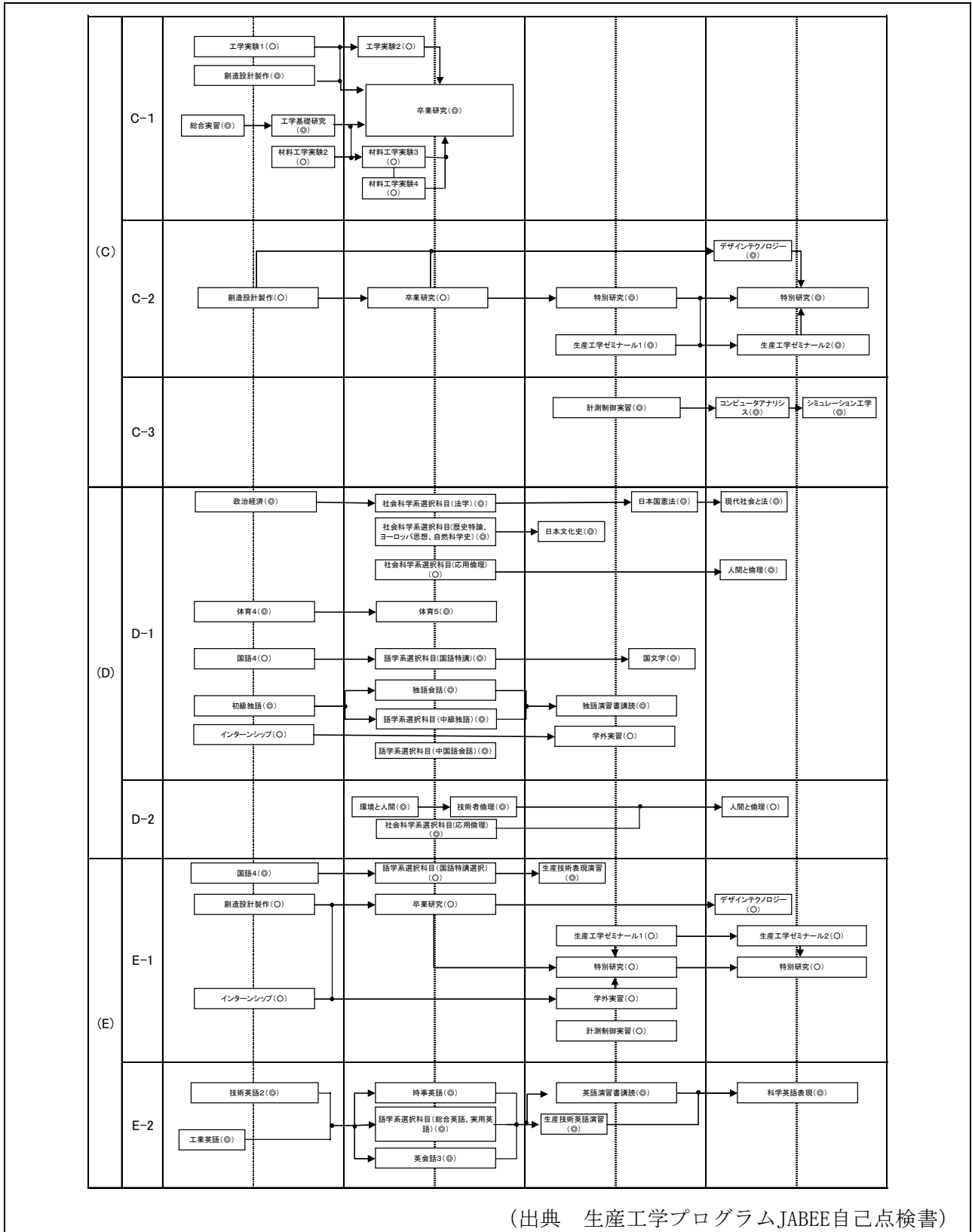
電子工学専攻においては、高等専門学校の課程における電気・電子・情報系学科の5年間の教育を基礎として、その上に電子機器や制御機器の設計開発に不可欠な幅広い専門知識・技術とそれを応用する能力を有し、国際的に活躍できる技術者を養成することを目的としている。

(出典 平成18年度専攻科履修要覧)

生産工学プログラムの科目の流れ

表6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ





(出典 生産工学プログラムJABEE自己点検書)

生物応用化学プログラムの科目の流れ

表5 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

1/2

学習・教育目標	授業科目名								
	本科4年前期	本科4年後期	本科5年前期	本科5年後期	専攻科1年前期	専攻科1年後期	専攻科2年前期	専攻科2年後期	
A-1			環境と人間(◎)	環境化学(◎) 現代工業化学(◎)		先導化学産業概論(○) 理論有機化学(○) 電気化学(○) セラミックスと化学(○)	環境アセスメント(◎)		
	合成化学(○)		有機工業化学(○)			有機合成化学(○)			
A-2			技術者倫理(◎) 応用倫理学(◎)					人間と倫理(◎)	
	インターンシップ(○)				学外実習(○) 先導化学産業概論(○)				
(B)	本科4年前期	本科4年後期	本科5年前期	本科5年後期	専攻科1年前期	専攻科1年後期	専攻科2年前期	専攻科2年後期	
B-1	応用数学A(◎)				工業数学及び演習(◎)		マイクロエレクトロニクス(○)	数値計算法及び演習2(○)	
		応用数学B(◎)				シミュレーション工学(◎)	数値計算法及び演習1(◎)	ディジタル信号処理(○)	
	応用数学S(◎)						コンピュータ・アナリシス(○)		
	応用物理2(○)				物理化学特論(○)				
	応用化学演習1(○)				量子化学(○)				
	物理化学2(○)		生物物理化学1(○)						
		化学工学1(○)							
B-2	応用物理2(◎)						マイクロエレクトロニクス(◎)	電磁気学(◎)	
							近代物理学(◎)	機能性材料学2(○)	
	応用化学演習1(○)	応用化学演習2(○)			物理化学特論(○)				
	物理化学2(○)				量子化学(○)				
	化学工学1(○)								
	機器分析(○)								
		生物化学2(○)							
B-3						シミュレーション工学(○)	数値計算法及び演習1(◎)	数値計算法及び演習2(○)	
							コンピュータ・アナリシス(○)	ディジタル信号処理(○)	
B-4		応用化学演習2(○)							
	物理化学2(◎)		生物物理化学2(◎)		物理化学特論(◎)		生物物理化学特論(◎)		
		生物物理化学1(◎)			量子化学(○)				
	化学工学1(◎)		化学工学2(◎)						
			化学工学3(◎)			化学工学特論(◎)	反応工学(◎)		
	無機化学2(◎)		無機機能化学(◎)	材料物性化学(◎)	無機化学特論(◎)			機能性材料学1(◎)	
					セラミックスと化学(◎)				
	合成化学(◎)		有機工業化学(◎)		理論有機化学(◎)	有機合成化学(◎)			
			有機機能化学(◎)		高分子化学特論(◎)				
	機器分析(◎)				電気化学(◎)				
	生物化学2(◎)	生物化学3(◎)	分子生物学1(◎)	分子生物学2(◎)	生物化学特論(◎)	分子生物学特論(◎)		センサー工学(○)	
			生体触媒工学(◎)	細胞遺伝子工学(◎)		細胞工学特論(◎)			
			微生物工学(◎)	醸酵工学(◎)					
				食品化学(◎)					
インターンシップ(○)				学外実習(○)					
		卒業研究(○)		特別研究B(○)					
				生産工学ゼミナール(○)					
B-5	生物応用化学実験3(◎)								
	生物応用化学実験4(◎)								
	応用化学実験1(◎)								
	応用化学実験2(◎)								
	生物工学実験1(◎)	生物工学実験2(◎)							
	インターンシップ(○)				学外実習(○)				

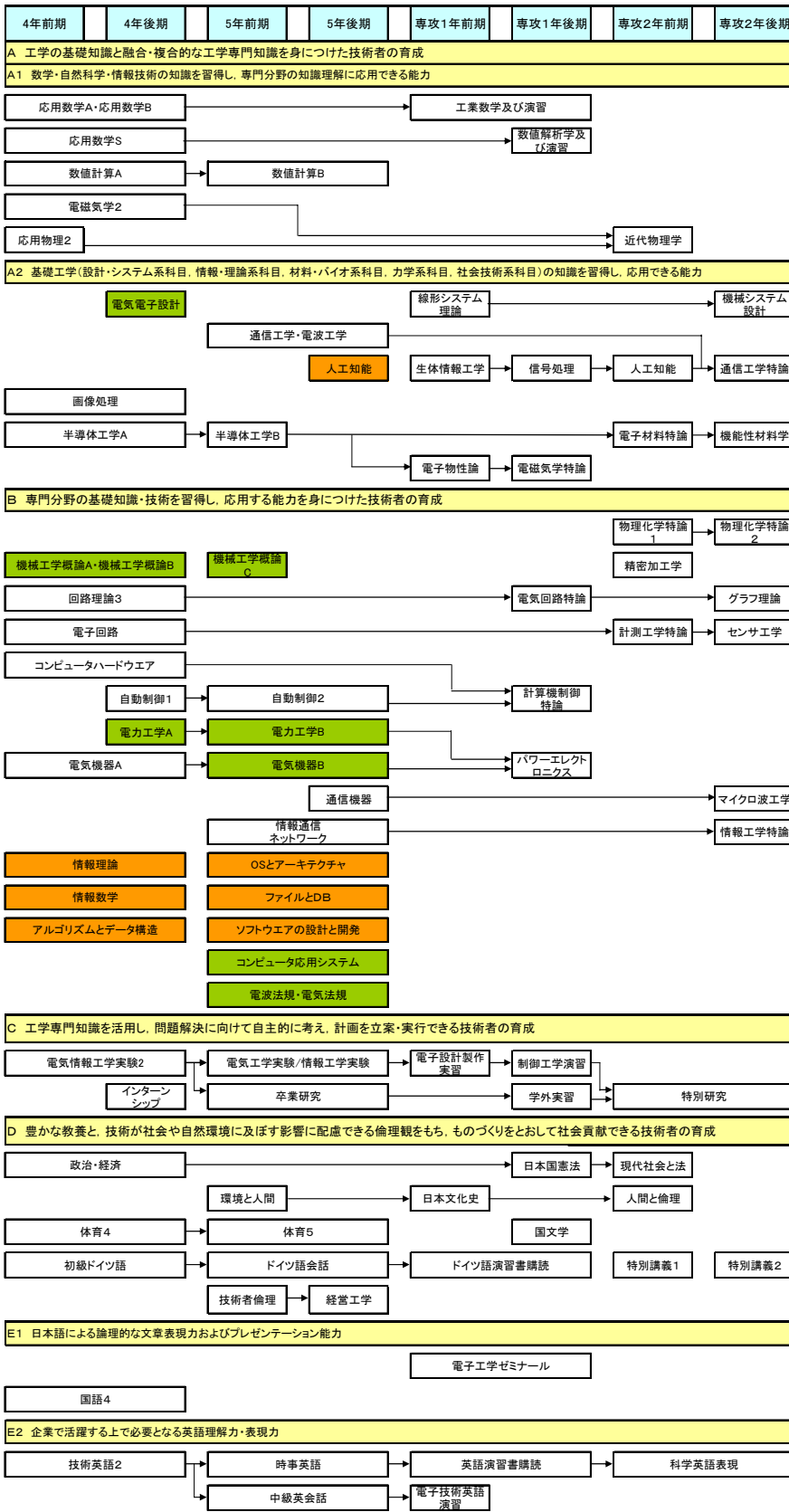
学習・教育 目標	授業科目名							
	本科4年前期	本科4年後期	本科5年前期	本科5年後期	専攻科1年前期	専攻科1年後期	専攻科2年前期	専攻科2年後期
C-1	プレゼンテーション技法(◎)		卒業研究(○)		特別研究B(○)			
	インターンシップ(○)				計測制御実習B(○)			
	国語4(◎)		国語特講(◎)		国文学(◎)			
	政治・経済(◎)		法学(◎)		日本国憲法(◎)			
			応用倫理学(○)		英語演習書講読(○)		科学英語表現(○)	
	技術英語2(○)		経営工学(○)		生産技術英語演習(○)			
			時事英語(○)		生産工学ゼミナール(○)			
			実用英語(○)		理論有機化学(○)	有機合成化学(○)		
			総合英語(○)		無機化学特論(○)			センサー工学(○)
	合成化学(○)		工業英語(○)					
		有機工業化学(○)						
C-2	技術英語2(◎)		時事英語(◎)		英語演習書講読(◎)		科学英語表現(◎)	
			実用英語(◎)		生産技術英語演習(◎)			
			総合英語(◎)					
			中級英会話(◎)		生産工学ゼミナール(◎)			
			工業英語(◎)					
D-1			卒業研究(◎)		特別研究B(◎)			
					計測制御実習B(◎)			
D-2	インターンシップ(○)				学外実習(○)			
			経営工学(○)		化学特許概論(◎)			制御工学(○)
D-3	プレゼンテーション技法(○)		卒業研究(○)		特別研究B(○)			
			経営工学(○)		化学特許概論(○)			
					先端化学産業概論(○)			
					シミュレーション工学(○)	数値計算法及び演習1(○)	数値計算法及び演習2(○)	
					環境アセスメント(○)	マイクロエレクトロニクス(○)	電磁気学(○)	
						コンピュータ・アナリシス(○)	制御工学(○)	
							センサー工学(○)	
							機能性材料学1(○)	
							機能性材料学2(○)	
							デジタル信号処理(○)	
	技術英語2(○)		時事英語(○)		英語演習書講読(○)		科学英語表現(○)	
			実用英語(○)		生産技術英語演習(○)			
			総合英語(○)					
			中級英会話(○)					
			工業英語(○)					
	初級独語(○)		中級独語(○)		独語演習書講読(○)			
			独語会話(○)					
	国語4(○)		応用倫理学(○)		日本文化史(○)	日本国憲法(○)	人間と倫理(○)	
	政治・経済(○)		法学(○)		国文学(○)		現代社会と法(○)	
	体育4(○)		歴史特論(○)				近代物理学(○)	
		自然科学史(○)						
		ヨーロッパ思想特論(○)						
		国語特講(○)						
		中国語会話(○)						
		体育5(○)						
		環境と人間(○)						

各学習・教育目標に対して、主体的に関与する科目には◎印を、付随的に関与する科目には○印を付けた。

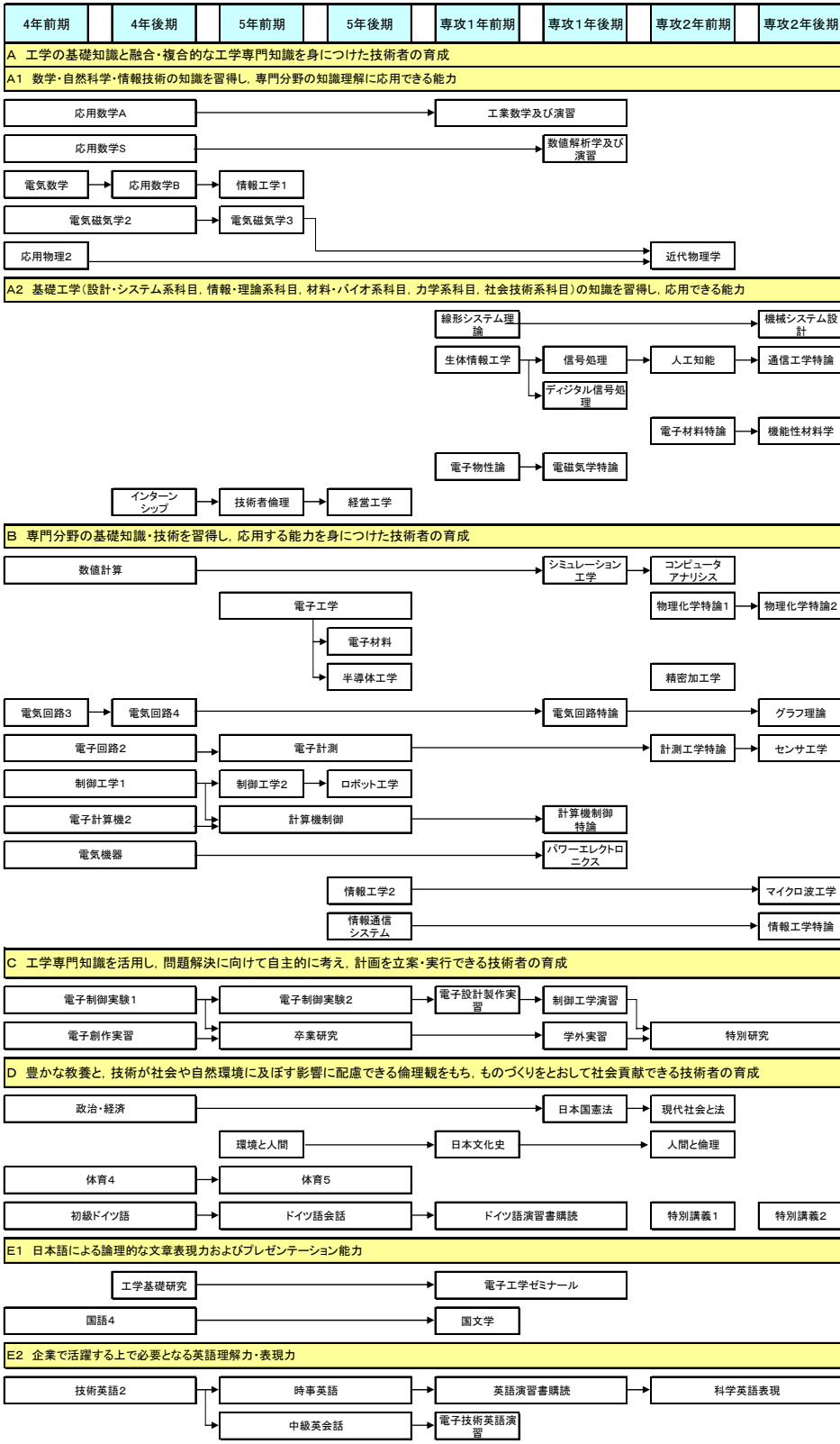
(出典 生物応用化学プログラムJABEE自己点検書)

システムデザイン工学プログラムの科目の流れ

電気情報工学科および専攻科電子専攻JABEE科目体系



電子制御工学科および専攻科電子専攻JABEE科目体系



(出典 システムデザイン工学プログラムJABEE自己点検書)

The screenshot shows the website for Niihama National College of Technology. At the top, there is a navigation bar with buttons for '学校案内', '学科・専攻科', 'シラバス', '学生生活', '教育研究施設', 'Jabee への取り組み' (highlighted in yellow), '事務', 'リンク集', and '学内限定情報'. Below the navigation bar, the main heading is '◎JABEEへの取り組み'. The text below reads: '新居浜工業高等専門学校のJABEEに準拠した教育プログラム'. Three programs are listed with their accreditation dates: '◇生物応用化学プログラム (生物応用化学科、生物応用化学専攻) 平成16年5月にJABEE認定されました。', '◇生産工学プログラム (機械工学科、材料工学科、生産工学専攻) 平成18年4月にJABEE認定されました。', and '◇システムデザイン工学プログラム (電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、電子工学専攻) 平成18年4月にJABEE認定されました。'. A note states: '三種類の教育プログラムは、本科4年次から専攻科2年次までの4年間のカリキュラムにより構成されています。'. At the bottom, it defines JABEE as 'JABEE(日本技術者教育認定機構)とは' and provides details: '技術系学協会と連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。平成11年11月19日に設立されました。平成13年から認定審査が開始されています。'. The source is cited as '(出典 本校ホームページ)'.

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程と専攻科課程の科目連携は十分とれており、7年間一貫教育を実現するのに適切なカリキュラムになっている。

観点 5 - 5 - ②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

授業科目は「専攻科履修要覧」に示しており、その内容はシラバスに記載している（資料 5 - 5 - ② - 1，訪問調査資料 平成 1 8 年度シラバス）。授業科目は、各専攻の教育目標を達成できるように系統的に配置している（資料 5 - 5 - ② - 2）。

専攻科課程の教育目標「リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する」を達成するために、「計測制御実習」や「問題解決グループ演習」などグループでの実習科目を必修科目として用意するとともに、全専攻共通の一般教養科目を選択必修科目として配置している。また、「創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う」を達成するために重要な講義科目と実験実習科目、特別研究を必修または選択必修としている。さらに、学外実習（シニアインターンシップ）を全員履修するように指導している。

また、学位の取得に関しては、これを可能とするような授業科目の編成にしている（資料5-5-②-3）。

資料5-5-②-1

教 育 課 程 表 （平成18年度入学生に適用）

1. 共通教養必修科目

区分	授業科目番号	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業単位時間数				備考
					1 学 年		2 学 年		
					前期	後期	前期	後期	
科一般教育	68110	人間と倫理	谷 本	2			2		
	68810	工業数学及び演習	前:川崎 後:古城	4	2 (2)	(2)			
科目外国語	68820	英語演習書講読	鴻 上 タベシ	2	(2)	(2)			
	68860	科学英語表現	尾 崎 タベシ	2			(2)	(2)	
小 計				10					

(注) 毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。

2. 共通教養選択科目

区分	授業科目番号	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業単位時間数				備考
					1 学 年		2 学 年		
					前期	後期	前期	後期	
一般教育科目	68840	日本文化史	鹿 毛	2		2			10 単位中 6 単位 以上修得しなければ ならない
	68130	国文学	森 長	2		2			
	68140	日本国憲法	井 上	2		2			
	68850	現代社会と法	井 上	2			2		
科目外国語	68830	独語演習書講読	木 本	2			(2)	(2)	
小 計				10					
教 養 科 目 計				20					

(注) 毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。

◇生産工学専攻開設専門科目

1. 専門必修科目

授業科目 番号	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
61811	数値計算法及び演習1	三 井	3			1 (1)	1 (1)	
61812	数値計算法及び演習2	三 井	3			1 (1)	1 (1)	
61400	プログラミング演習	三 井	1		(2)			
61820	電磁気学	馬 淵	2			2		
61830	制御工学	王	2				2	
61860	マイクロエレクトロニクス	榊 原	2				2	
61880	コンピュータ・アナリシ ス	深 山	2				2	
61110	シミュレーション工学	豊 田	2				2	
61120	デザインテクノロジー	吉 川	2			2		
61890	量子力学	馬 淵	2	2				
61951	生産技術英語演習	(真 鍋)	1	(2)				
61410	生産技術表現演習	吉川・新田	1	(2)				
61912	計測制御実習	豊田・谷口・宮田 松英・志賀	2	(3)	(3)			
61921	生産工学ゼミナール1	鎌田・高橋	2	(2)	(2)			
61931	生産工学ゼミナール2	前:新田 後:特別研究 指導教員	2			(2)	(2)	
61963	特別研究	特別研究 指導教員	7					
小 計			36					

(注)毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。

2. 専門選択科目

授業科目 番号	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
61171	機能性材料学1	矢 野	2				2	4単位中2単位以上 修得しなければならない
61172	機能性材料学2	相根・志賀	2				2	
61501	起業工学	(非常勤)	1		1			2単位中1単位以上 修得しなければならない

61502	ベンチャービジネス概論	(非常勤)	1		1			ならない
61250	流体力学特論	松田	2		2			6単位中2単位以上修得しなければならない
61150	材料強度物性	高橋	2	2				
61221	熱工学	下村	2		2			
61241	振動工学	鎌田	2		2			
61261	伝熱工学特論	下村	2	2				
61210	材料強度評価法	谷口	2	2				
61181	無機材料特論	谷	2	2				16単位中4単位以上修得しなければならない
61200	先端複合材料	池内・松英	2	2				
61290	材料組織学	曾我部	2		2			
61300	材料熱力学	松原	2		2			
61130	精密加工学	刑部	2	2				
61161	センサー工学	桑田	2				2	
61870	デジタル信号処理	榊原	2				2	
61971	特別講義1		1					
61973	特別講義2		1					
61975	学外実習		2					
小計			36					
専 門 科 目 計			72					
教 養 科 目 計			20					
合 計			92					

(注) 1. 毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。
2. 学外実習は、夏季休業中に実施する。

◇生物応用化学専攻開設専門科目

1. 専門必修科目

授業科目 番号	授 業 科 目	担当教員	単 位 数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
63110	化学数学1	河村	2	2				
63120	化学数学2	河村	2		2			
63130	プログラミング演習	三井	1		(2)			
63140	数値計算法及び演習1	三井	3			1 (1)	1 (1)	
63150	電磁気学	馬淵	2			2		
63160	マイクロエレクトロニクス	榊原	2				2	
63170	環境化学特論		1			2		集中・隔年(平成19年度開講予定)

63180	先端機器測定実習	桑田・中川 中山	1	(3)				
63190	有機合成化学	中川	2		2			
63200	無機化学特論	中山	2			2		
63210	生物化学特論	牛尾	2		2			
63220	化学工学特論	衣笠	2		2			
63230	物理化学特論	勝浦	2		2			
63240	化学特許概論		1					前期・隔年(平成19年度開講予定)
63250	先端化学産業概論	(非常勤)	1					集中・隔年(平成18年度開講)
63260	化学技術表現演習	森長・間淵	1	(2)				
63270	特別研究	特別研究 指導教員	5					
小計			32					

(注)毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。

2. 専門選択科目

授業科目 番号	授業科目	担当教員	単 位 数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前 期	後 期	前 期	後 期	
63280	高分子化学概論	間淵	2	2				19単位中8単位以上修得しなければならない
63290	化学工学概論	衣笠	2	2				
63300	生物化学概論	牛尾	2	2				
63310	微生物工学概論	早瀬	2	2				
63320	化学技術英語演習	(真鍋)	1			(2)		
63330	理論有機化学	中川	2	2				
63340	細胞工学特論	牛尾	2			2		
63350	反応工学	衣笠	2				2	
63360	電気化学	桑田	2			2		
63370	量子化学	勝浦	2			2		
63380	センサー工学	桑田	2				2	19単位中4単位以上修得しなければならない
63390	機能性材料学1	矢野	2				2	
63400	機能性材料学2	相根・志賀	2				2	
63410	数値計算法及び演習2	三井	3			1 (1)	1 (1)	
63420	シミュレーション工学	豊田	2				2	
63430	制御工学	王	2				2	

63501	起業工学	(非常勤)	1		1			
63502	ベンチャービジネス概論	(非常勤)	1		1			
63460	特別講義1		1					
63470	特別講義2		1					
63480	学外実習		2					
小 計			38					
専 門 科 目 計			70					
教 養 科 目 計			20					
合 計			90					

- (注) 1. 毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。
 2. 学外実習は、夏季休業中に実施する。

◇電子工学専攻開設専門科目

1. 専門必修科目

授業科目番号	授 業 科 目	担当教員	単位数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前期	後期	前期	後期	
62810	数値解析学及び演習	川 崎	3	2	(2)			
62890	量子力学	馬 淵	2	2				
62821	システムデザイン工学演習	伊月・佐藤・香川 榑原・田中・松村	3		(6)			
62822	問題解決グループ演習	榑原・横山	2	(4)				
62971	電子技術英語演習	栗 原	1	(2)				
62823	システム工学	深 山	2	2				
62820	機械システム設計	石 井	2				2	
62824	環境化学概論	(兵 田)	2			2		
62961	特別研究	特別研究 指導教員	7					
小 計			26					

(注) 毎週授業単位時間数欄の()内の数字は、演習・実習の時間数を示す。

2. 専門選択科目

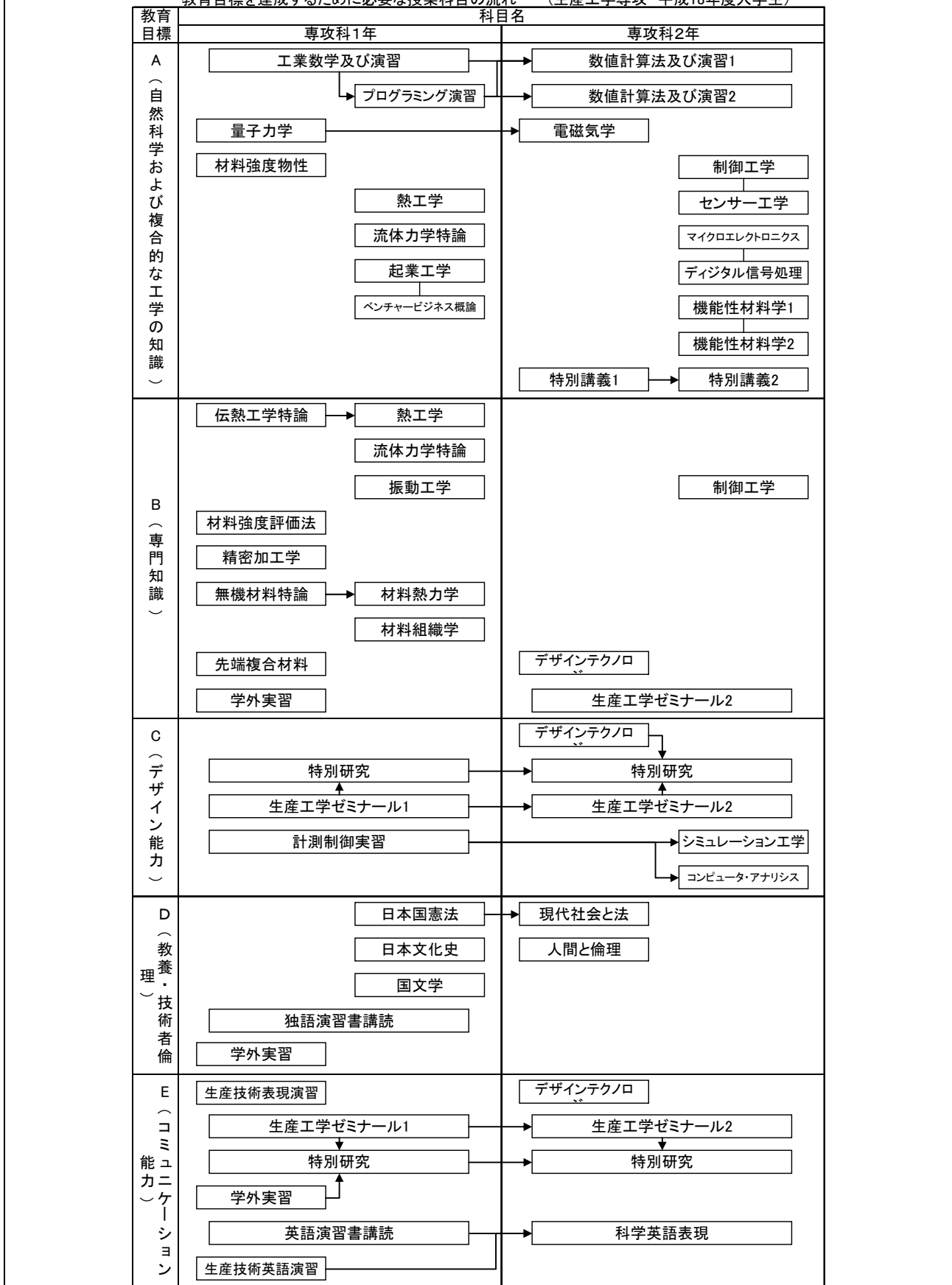
授業科目番号	授 業 科 目	担当教員	単位数	毎週授業単位時間数				備 考
				1 学 年		2 学 年		
				前期	後期	前期	後期	

62181	線形システム理論	深山	2		2			4単位中2単位以上修得しなければならない
62130	計算機制御特論	檀上	2		2			
62121	生体情報工学	伊月	2	2				8単位中4単位以上修得しなければならない
62150	信号処理	稲見	2	2				
62230	人工知能	馬淵	2			2		
62210	通信工学特論	栗原	2				2	
62941	電子材料特論	(非常勤)	2				2	4単位中2単位以上修得しなければならない
62260	機能性材料学	相根・志賀	2				2	
62200	電子物性論	川崎	2		2			4単位中2単位以上修得しなければならない
62850	電磁気学特論	(青野)	2	2				
62501	起業工学	(非常勤)	1		1			2単位中1単位以上修得しなければならない
62502	ベンチャービジネス概論	(非常勤)	1		1			
62840	精密加工学	刑部	2			2		
62240	物理化学特論1	勝浦	2			2		
62250	物理化学特論2	河村	2			2		
62951	センサー工学	桑田	2				2	
62860	電気回路特論	田中	2		2			
62160	パワーエレクトロニクス	皆本	2		2			
62140	グラフ理論	井門	2				2	
62180	マイクロ波工学	佐藤	2				2	
62170	計測工学特論	尾西	2			2		
62972	特別講義1		1					
62974	特別講義2		1					
62975	学外実習		2					
小計			44					
専門科目計			70					
教養科目計			20					
合計			90					

(注) 学外実習は、夏季休業中に実施する。

(出典 平成18年度専攻科履修要覧)

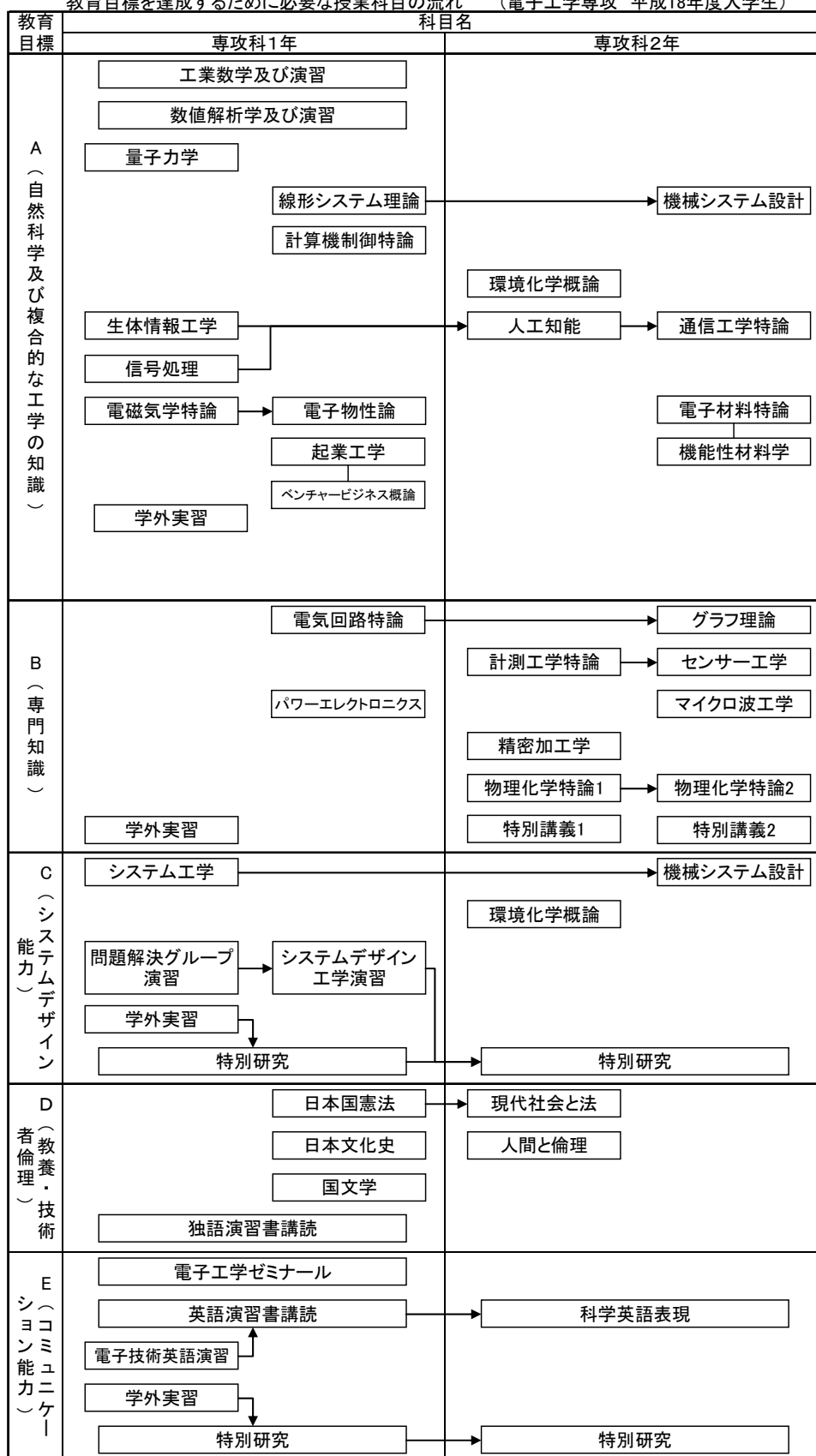
教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生産工学専攻 平成18年度入学生)



教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学専攻 平成18年度入学生)

教育目標	科目名	
	専攻科1年	専攻科2年
A (環境・倫理・技術者)	理論有機化学 → 有機合成化学	環境化学特論 電気化学
	先端化学産業概論	特別講義2
B (専門知識)	工業数学及び演習	数値計算法及び演習1
	化学数学1 → 化学数学2	数値計算法及び演習2
	プログラミング演習	シミュレーション工学
	物理化学特論	電磁気学 → マイクロエレクトロニクス
	化学工学概論 → 化学工学特論	量子化学 → 機能性材料学2
	理論有機化学 → 有機合成化学	無機化学特論 → 機能性材料学1
	高分子化学概論	電気化学 → センサー工学
	生物化学概論 → 生物化学特論	環境化学特論
	微生物工学概論	細胞工学特論
	先端機器測定実習	
	学外実習	
	特別研究	特別研究
C (自己表現)	化学技術表現演習 国文学	特別研究
	特別研究	特別研究
	学外実習	
	理論有機化学 → 有機合成化学	無機化学特論 → センサー工学
D (問題解決能力・自己向上力)	英語演習書講読	科学英語表現
	特別研究	化学技術英語演習
	学外実習	
	先端化学産業概論 → 起業工学	化学特許概論 → 特別講義2
	ベンチャービジネス概論	
	プログラミング演習	数値計算法及び演習1
		数値計算法及び演習2
		シミュレーション工学
		電磁気学 → マイクロエレクトロニクス
		制御工学
	センサー工学	
	機能性材料学1	
	機能性材料学2	
	科学英語表現	
英語演習書講読	化学技術英語演習	
独語演習書講読		
日本国憲法	現代社会と法	
日本文化史	人間と倫理	
化学技術表現演習 国文学	特別講義1	

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子工学専攻 平成18年度入学生)



(出典 各専攻作成)

資料5-5-②-3

生産工学専攻(機械工学系)

【内訳表 1】 「専門科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
A 群			
機械材料・材料力学	5	6	11
機械工作・生産工学	4	2	6
機械工学・機械要	6	2	8
流体工学	4	2	6
熱工学	4	4	8
機械力学・制御	4	8	12
知能機械学・機械シ	0	2	2
A 群 計	27	26	53
B 群			
機械工学実験・実習	4.5	2	6.5
B 群 計	4.5	2	6.5
合 計	31.5	28	59.5

【内訳表 2】 「関連科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
工学基礎	13	17	30
工学周辺	14	19	33
合 計	27	36	63

修得可能な単位数と学位授与に必要な

	修得可	必 要
専門科目	59.5	40
A 群	53	30
B 群	6.5	6
関連科目	63	4

生産工学専攻(材料工学系)

【内訳表 1】 「専門科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
A 群			
材料工学の基礎	4	4	8
材料の構造と組織	2	4	6
材料の機能と評価	1	6	7

【内訳表 2】 「関連科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
工学基礎	13	23	36
工学周辺	14	19	33
合 計	27	42	69

材料のプロセッシング	7	2	9
材料の各論と応用	8	4	12
A 群 計	24	20	44
B 群			
材料工学実験・実習	12	2	14
B 群 計	12	2	14
合 計	36	22	58

	修得可	必 要
専門科目	58	40
A 群	44	30
B 群	14	6
関連科目	69	4

生物応用化学専攻(応用化学系)

【内訳表 1】 「専門科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
A-1 群			
物理化学	4	6	10
無機化学	2	2	4
有機化学	2	4	6
分析化学	2	0	2
生物化学	0	4	4
化学工学	5	4	9
A-1 群計	15	20	35
A-2 群			
工業化学・化学プロ	9	4	13
生命・生物工学	0	4	4
材料化学	1	4	5
A-2 群計	10	8	22
A 群 計	25	28	57
B 群			
応用化学実験・実習	7	1	8
B 群 計	7	1	8

【内訳表 2】 「関連科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
工学基礎	9	21	30
工学周辺	15	16	31
合 計	24	37	61

修得可能な単位数と学位授与に必要な

	修得可	必 要
専門科目	65	40
A-1 群	35	20
A-2 群	22	10
B 群	8	6
関連科目	61	4

生物応用化学専攻(生物工学系)

【内訳表 1】 「専門科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
A-1 群			
物理化学	4	6	10
無機化学	2	2	4
有機化学	2	4	6
分析化学	2	0	2
生物化学	4	2	6
化学工学	3	6	9
A-1 群計	17	20	37
A-2 群			
工業化学・化学プロ	4	6	10
生命・生物工学	4	2	6
材料化学	0	4	4
A-2 群計	8	12	20
A 群 計	25	32	57
B 群			
応用化学実験・実習	7	1	8
B 群 計	7	1	8
合 計	32	33	65

【内訳表 2】 「関連科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
工学基礎	9	21	30
工学周辺	15	16	31
合 計	24	37	61

修得可能な単位数と学位授与に必要

	修得可	必 要
専門科目	65	40
A-1 群	37	20
A-2 群	20	10
B 群	8	6
関連科目	61	4

電子工学専攻(電気工学系)

【内訳表 1】 「専門科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
電気電子工学基礎	6	10	16

【内訳表 2】 「関連科目」 の単位

科目区分	修得した機関別の単位数		
	基礎 資格校	認定 専攻科	計
工学基礎	8	10	18

電子工学	5	6	11	合 計	22	34	56																		
情報通信工学	7	11	18	修得可能な単位数と学位授与に必要な <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">修得可</th> <th style="text-align: center;">必 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門科目</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td>A 群</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>B 群</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td>関連科目</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table>					修得可	必 要	専門科目	75	40	A 群	63	30	電気電子工学	16	4	B 群	12	6	関連科目	56	4
	修得可	必 要																							
専門科目	75	40																							
A 群	63	30																							
電気電子工学	16	4																							
B 群	12	6																							
関連科目	56	4																							
A 群 計	29	34	63																						
電気電子工学実験・	10	2	12																						
B 群 計	10	2	12																						
合 計	39	36	75																						
電子工学専攻(電子制御工学系) 【内訳表 1】 「専門科目」 の単位				【内訳表 2】 「関連科目」 の単位																					
科目区分	修得した機関別の単位数			科目区分	修得した機関別の単位数																				
	基礎 資格校	認 定 専攻科	計		基礎 資格校	認 定 専攻科	計																		
電気電子工学基礎	9	10	19	工学基礎	7	10	17																		
電気工学	6	7	13	工学周辺	16	24	40																		
電子工学	3	6	9	合 計	23	34	57																		
情報通信工学	9	11	20	修得可能な単位数と学位授与に必要な <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">修得可</th> <th style="text-align: center;">必 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門科目</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td>A 群</td> <td style="text-align: center;">61</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>B 群</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td>関連科目</td> <td style="text-align: center;">57</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table>					修得可	必 要	専門科目	75	40	A 群	61	30	電気電子工学	19	4	B 群	14	6	関連科目	57	4
	修得可	必 要																							
専門科目	75	40																							
A 群	61	30																							
電気電子工学	19	4																							
B 群	14	6																							
関連科目	57	4																							
A 群 計	27	34	61																						
電気電子工学実験・	12	2	14																						
B 群 計	12	2	14																						
合 計	39	36	75																						

(出典 教務係資料より編集)

(分析結果とその根拠理由)

科目系統図から明らかなように、専攻科課程の授業科目を体系的に編成している。また、専攻科課程の教育目標を達成するために、一般教養科目、および重要な専門の講義科目やグループでの実習科目を必修または選択必修とするなど、授業科目を適切に配置している。また、学位の取得に関しては、これを可能とするような授業科目の編成にしている。

観点 5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生からのニーズに応えるために、勉強アンケート（資料 5-5-③-1）を毎年実施し、また平成 15 年度には、社会の要請に応えるために企業アンケートを実施している（資料 5-5-③-2）。この中で品質管理に関する講義を求める声が多く、平成 18 年度から「特別講義 2」の内容を品質管理と安全管理として開講した（資料 5-5-③-3、資料 5-5-③-4）。

学生の幅広い学習に対応するために、他の高等専門学校の専攻科（本校他専攻を含む）及び大学で開設されている授業科目を履修し単位を修得した場合、専攻科における授業科目の履修とみなして最大で 16 単位まで単位の修得を認定している（資料 5-5-③-5）。本制度では、大学等から配信される科目（遠隔授業）、大学等で開設されている科目（放送大学、その他の大学）の単位を認めている（資料 5-5-③-6、資料 5-5-③-7）。

また、平成 17 年度には、愛媛大学との単位互換に関する覚書を交わし、特別聴講学生として無料で愛媛大学の科目を受講し、単位認定できる制度を設けている（資料 5-5-③-8）。

また、平成 15 年に東予産業創造センターの呼びかけにより「ベンチャーマインド養成講座」を「特別講義 1」として開講し、ベンチャー精神やチャレンジ精神の涵養を図った（資料 5-5-③-9）。講師として招聘した地元企業や高専 OB の起業家らの評判も高く、平成 17 年度に「ベンチャービジネス概論」と名称変更して科目を定着させた（資料 5-5-③-10）。

「先端化学産業概論」は、次世代化学プロセスの研究開発動向などを概説し、最近の学術的シーズや社会のニーズについての知識を修得させるために、企業の技術者を講師として開設している（資料 5-5-③-11）。

資料 5-5-③-1

勉強に関するアンケート（専攻科）

教育改善のための参考にしますので、以下の設問に該当する項目の□を塗りつぶしてください。

【3】教育内容について

2. 在学中にどんな能力を伸ばしたいと考えていますか。（複数回答可）

- | | | |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門以外の工学知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 |
| <input type="checkbox"/> 論理的思考力 | <input type="checkbox"/> 問題解決力・課題発見力 | <input type="checkbox"/> コンピュータ活用力 |
| <input type="checkbox"/> 英語力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください） | | |

3. 授業内容をもっと充実してほしいと思う科目は何ですか。（複数回答可）

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 特にない | <input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> 数学 |
| <input type="checkbox"/> 教養科目（科目名 | | <input type="checkbox"/> 専門の講義科目（科目名 |
| | | |
| <input type="checkbox"/> 専門の実験・実習 | <input type="checkbox"/> コンピュータ活用科目 | <input type="checkbox"/> インターンシップ（企業実習） |

企業へのアンケート集計結果

設問 6 「知的財産」などに関する講義を受講させる必要があるか

科目名と理由

- ・「品質管理」 (理由：メーカーとして品質管理とコストダウンは大切なテーマだから)
- ・「品質管理」：当事業所は化粧品生産工場であり、品質管理は生命線である。
- ・「品質管理」 I S Oの取得が必要となってきた。
- ・「品質管理」 本業と直結するため。
- ・知財や環境の観点は研究開発者にも必要だから。
- ・「品質管理」
- ・「品質管理」 製造業のエンジニアには必須の知識です。
- ・「知的財産権」～近年重要度が増えている。
- ・一般常識の内と考える。
- ・「技術者倫理」、「品質管理」 サービス技術者として必要な知識
- ・「環境工学」、「品質管理」
- ・「知的財産権」：独自のソフト等がある。 「品質管理」：I S Oの為
- ・「環境工学」・「品質管理」 隣接職種への職種変更が容易
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」
- ・当社でも力を入れている分野であり、基礎知識があれば業務に役立つ。
- ・「知的財産権」：特許とはどういうものか教えた方がよいと思う。
- ・「環境工学」及び「品質管理」：この2点は製造業に携わるものは最低限知っておくべきであり、かつI S O 9 0 0 1、1 4 0 0 1 認証取得が一般化しているため。(当社も取得済)
- ・「技術者倫理」、「品質管理」 最低限知っておいてほしい内容。
- ・「品質管理」：自社業務(製造及び保守・点検)にとって品質管理知識は不可欠です。
- 「知的財産権」：自社オリジナルの商品を製造販売している為。
- ・将来的に有用である。
- ・「技術者倫理」、技術者として必要。
- ・「知的財産権」：技術者としての採用の場合、特許は必須となる。
- ・「経営工学」、「品質管理」 I S O 必須の状況の為。
- ・全科目、21世紀の企業に於ける基本常識である。
- ・I S Oの認証取得が進むなか、「品質、環境管理」は必須。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」：業務運営において必要。
- ・業務との関連。
- ・「知的財産権」：当社の関わるI T業界では特に重要です。
- 「技術者倫理」：コンプライアンスの要請の高まりの中で、重要となっています。
- 「経営工学」：起業スピリットを育むうえで有益です。
- 「環境・品質」：当社もI S O 認証を取得しています。社会的責任を認識するうえでも重要です。
- ・社会にでて、実際に生かす事ができると思われる為。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」・・・企業における技術者として必要なものであり、社内教育 etc を行うが、その基礎的なことを修得して入社して欲しい。
- ・「知的財産権」・・・基礎的な知識 「品質管理」・・・統計処理のセンス
- ・「品質管理」：製造業にとって品質は命取りになりかねないくらい重要なものであるから。
- ・「品質管理」・・・ものづくりの基本だから。
- ・「品質管理」・・・製造業にとっては必須。
- ・幅広い基礎知識は業務上有用のため。
- ・「品質管理」：企業活動の全てに共通する考え方ゆえ。
- ・「知的財産権」、「環境工学」、「品質管理」 関係スタッフ部門への配属の可能性あり。

- ・「品質管理」 基礎を学んでおくと入社後理解しやすい。
- ・採用後の研修で考慮するので、必要であるも在学中に必須とは言わない。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」：製造業（造船）の技術者としての基本。
- ・「品質管理」 これからは品質の時代
- ・「品質管理」：製造業において必ず必要。
- ・「知的財産権」、「技術者倫理」、「品質管理」 基礎知識として。
- ・「知的財産権」、「環境工学」、「品質管理」 会社として業務に関係してくる。
- ・「環境工学」、「品質管理」「品質管理」 環境と品質はISO取得に必要。現在準備中。
- ・「経営工学」、「品質管理」 採用は将来のリーダーとして考えており、
経営・品質に関するセンスは必要と考える。
- ・業務を遂行する為の知識として。

(出典 平成 15 年度自己点検評価書)

資料 5 - 5 - ③ - 4

授業科目	担当教員	開講期		
特別講義 2	河合 洋一・田中 則章	集中講義		
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数	
61973	2年 生産工学専攻	選択	1 単位	
授業概要 技術者にとって、信頼される製品を消費者に供給することは最も重要な課題である。この授業では、生産現場で必要とされる品質管理と安全管理の基本的な考え方を、企業の技術者による講義を通して学び、その重要性を認識することを目的とする。				
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理と安全管理の視点から技術者の倫理の重要性を説明できること。 ・品質管理の目的と意義を説明できること。 ・品質計画から品質改善までの PDCA サイクルの重要性を説明できること。 ・品質管理の実践としての QC7 つ道具の使い方を説明できること。 ・安全の概念およびリスク管理の考え方を簡単に説明できること。 ・未然防止技術の目的や必要性を説明できること。 ・安全性評価の方法について簡単に説明できること。 				
教科書 配布プリント 参考書 未定				
授業の進め方 集中講義とする。				
授業内容 第 1 回 品質管理とは（品質管理の目的、TQC と TQM、QC ストーリー、PDCA サイクル） 第 2 回 品質計画、品質管理の実践 1（サンプリング法、QC7 つ道具 1） 第 3 回 品質管理の実践 2（QC7 つ道具 2） 第 4 回 品質保証、品質改善、製造物責任と消費者保護 第 5 回 安全とは（安全・リスクの概念、リスク管理の考え方、産業災害の実態） 第 6 回 安全と技術者の倫理 1 第 7 回 安全と技術者の倫理 2、未然防止技術（フェールセーフ、フールプルーフなど） 第 8 回 安全性評価（システム解析など）				
成績評価の方法 報告書の内容を 100%として評価する。				
学生へのメッセージ				
学習・教育目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 5 - ③ - 5

新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

平成 4 年 4 月 1 日規程第 1 号

(略)

7 条

2 本校の他専攻、他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、大学等の許可を得た上、受講申告書を、事前に校長に提出しなければならない。なお、その授業科目を履修の上修得した単位は、16 単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(略)

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 5 - 5 - ③ - 6

e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換に関する協定書

長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、
仙台電波工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高
等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校は、相互の交流と協力を促
進し、教育内容の充実を図ることを目的として、ここに、e ラーニング高等教育連携に係る
遠隔教育による単位互換協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（受入れ）

第 1 条 本協定に参加する大学・高等専門学校（以下「大学・高専」という。）に在学する
学生が、本協定に参加する他の大学・高専の授業科目の履修及び単位の修得を希望する
ときは、本協定に参加する他の大学・高等専門学校長は、当該学生を受入れることがで
きる。

（学生の身分）

第 2 条 前条により学生を受入れる大学・高専（以下「受入大学・高専」という。）は、当
該学生を「特別聴講学生」として取り扱うものとする。

（受入時期及び履修期間）

第 3 条 特別聴講学生の受入時期及び履修期間は、別に定める。

（履修科目の範囲及び単位数）

第 4 条 特別聴講学生として履修できる授業科目の範囲及び単位数は、別に定める。

（受入学生数）

第 5 条 受入大学・高専が受入れる特別聴講学生数は、別に定める。

（受入手続）

第 6 条 特別聴講学生の受入手続は、別に定める。

（履修方法等）

第 7 条 特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法については、受入大学・高専の定め
るところによる。

（単位の授与等）

第 8 条 特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、受入
大学・高専の定めるところによる。

2 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については、派遣大学・高専の定め
るところによる。

(授業料等)
 第9条 特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は徴収しない。
 (実施要項)
 第10条 本協定による単位互換を円滑に実施するため、本協定に参加する大学・高専間で実施に関する要項を別に定める。
 (実施期日)
 第11条 本協定は、平成17年4月1日から実施する。
 (その他)
 第12条 本協定の改廃については、本協定に参加する大学・高専間の協議によるものとする。

平成17年3月/日

長岡技術科学大学長
 小島 剛



豊橋技術科学大学長
 西 永 昭



九州工業大学長
 下村 輝 人



北陸先端科学技術大学院大学長
 潮田 賢 勝



仙台電波工業高等専門学校長
 渡辺 英 人



群馬工業高等専門学校長
 本 間 浩 一



(出典 eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定書)

資料5-5-③-7

他大学等での単位取得状況 (平成17年度)

科目名	単位取得者	備考
環境社会学	20名	放送大学
脳機能分子論	1名	豊橋技術科学大学 e-learning

他大学等での単位取得状況 (平成18年度)

科目名	単位取得者	備考
技術者倫理	1名	放送大学
環境社会学	1名	放送大学

(出典 学生課資料より編集)

国立大学法人愛媛大学と独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校との間における単位互換に関する覚書

国立大学法人愛媛大学（以下「愛媛大学」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校（以下「新居浜高専」という。）は、国立大学法人愛媛大学と独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校との教育研究連携協力に関する協定書第 1 項第 3 号に基づき、愛媛大学と新居浜高専に在学する学生が、相互に授業科目を履修し、単位を修得することを認めることとし、ここに覚書を取り交わす。

- 1 受入れ
 - (1) 愛媛大学に在学する学生が、新居浜高専の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、新居浜高専校長は当該学生を受け入れることができる。
 - (2) 新居浜高専に在学する学生が、愛媛大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、愛媛大学長は当該学生を受け入れることができる。
- 2 学生の身分

前項により受け入れる学生の身分は、「特別聴講学生」とする。
- 3 受入時期及び履修期間

特別聴講学生の受入時期及び履修期間は、別に定める。
- 4 履修科目の範囲及び単位数

特別聴講学生として履修できる授業科目の範囲及び単位数は、別に定める。
- 5 受入学生数

特別聴講学生の受入数は、別に定める。
- 6 受入手続

特別聴講学生の受入手続は、別に定める。
- 7 履修方法等

特別聴講学生の履修方法については、学生を受け入れる側の大学等（以下「受入大学等」という。）が定める。
- 8 成績評価及び単位認定等
 - (1) 特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価は、受入大学等が行う。
 - (2) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定は、学生を派遣する側の大学等が定める。
- 9 検定料、入学金及び授業料

特別聴講学生の検定料、入学金及び授業料は徴収しない。
- 10 実施要項

この覚書による単位互換を円滑に実施するため、愛媛大学と新居浜高専の間で、実施に関する要項を別に定める。
- 11 実施期日

この覚書は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。
- 12 有効期間

この覚書の有効期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までとする。ただし、本覚書の有効期間満了の 3 ヶ月前までに愛媛大学と新居浜高専のいずれかから別設の申出がないときは、更に 5 年間有効期間を延長し、以後においても同様とする。

- 13 その他

この覚書に定めるもののほか、単位互換の実施に関し必要な事項については、その都度協議により定める。

平成 18 年 2 月 14 日

国立大学法人愛媛大学長

小 杉 正 寿

独立行政法人国立高等専門学校機構
新居浜工業高等専門学校長

水 野 豊

(出典 愛媛大学と新居浜工業高等専門学校との間における単位互換に関する覚書)

資料5-5-③-9

平成15年度 第9回専攻科教育委員会 議事録

日 時：平成15年9月2日（火）16：10～18：00

場 所：旧第2会議室

出席者：中川専攻科長，池内専攻科主任，馬淵専攻科主任，吉川教官，井門教官，深山教官，衣笠教官，高橋教官，谷本教官，柳井教官，脇教務係長，井上教務主任

議事内容

(略)

8. その他

1) ベンチャーマインド養成セミナー（案）について

吉川教官より、東予産業創造センターの企画としてベンチャーマインド養成セミナーが企画されており、本校で開催し、専攻科生にも出席してもらいたい依頼があったことが報告された。（別紙参照）内容は非常に興味深いですが、実施日程に無理があるので東予産業創造センターに調整してもらうこととなった。

(略)

平成15年度 第11回専攻科教育委員会 議事録

日 時：平成15年10月7日（火）13：10～15：00

場 所：第2会議室

出席者：中川専攻科長，池内専攻主任，馬淵専攻主任，吉川教官，井門教官，衣笠教官，高橋教官，谷本教官，柳井教官，脇教務係長，井上教務主任

記録：柳井教官

議事内容

1. 「新居浜工業高等専門学校 ベンチャーマインド養成セミナー」

吉川教官から概要の説明があった。

- ・10月から1月にかけて8回実施する。主に水，金曜日。
- ・15：10から90分間の講義で1単位には十分足りる。
- ・講師は新居浜高専OBなど
- ・専攻科生，卒業生，教職員が対象

次のことが審議され確認された。

- ・「特別講義1」として開催して単位を認定する（1単位）。
- ・シラバスを吉川教官が作成する。
- ・専攻科教育委員が出席をとる。

（第1回 中川，第2回 池内，第3回 吉川，第4回 井門，第5回 衣笠，第6回 高橋，第7回 柳井，第8回 馬淵）。

- ・講師に問題と模範解答の作成を依頼する。試験は25点満点で4回行う。採点は本校が担当する。
- ・場所は専攻科AV室を予定する。
- ・始業日に学生に説明，希望を募る。

(略)

(出典 平成15年度第9回及び第11回専攻科教育委員会議事録)

資料5-5-③-10

授業科目	担当教員	開講期	
ベンチャービジネス概論	非常勤	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61502	1年 生産工学専攻	選択	1単位
授業概要 常に技術革新を目指し、経営戦略を立てている企業家、学生や教官が産学官連携の下、新技術の開発および製品化への実例や高専 OB の起業家の身近で、チャレンジ精神の旺盛な方達のレクチャーを聞いて、ベンチャーマインドを養成する。また、修了後、起業を考えたとき、役に立つよう、特許や創業支援などの制度について理解する。			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・創業の社会的意義を知ること。 ・ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を知ること。 ・創業に対する金融支援の重要性を知ること。 ・開発型企業における特許の重要性を知ること。 			
教科書 配布プリント 参考書 なし			
授業の進め方 シラバス記載のさまざまな分野から外部講師を招き、講演を聞き、質疑応答の後、講演内容についての小テストを行う。			
授業内容 第1回 オリエンテーション ―ベンチャーとは何か―： 「今なぜベンチャーか」「創業の社会的意義」 第2回 先輩创业者の体験発表1： 「私の創業体験」「先輩创业者から後輩へのメッセージ」 第3回 創業に成功する条件とビジネスプラン作成の要点 「創業に成功する3つの条件」「ビジネスプラン作成の基本要素」 第4回 先輩创业者の体験発表2： 第5回 産学連携事例と地元支援機関や金融機関のサポート体制： 「産学連携事例」「創業支援の融資体制」「創業支援施策の概要」 第6回 先輩创业者の体験発表3： 第7回 開発型企業における特許： 「特許の必要性」「特許と起業・創業」 第8回 エチケット・ビジネスマナー			
成績評価の方法 記述式小テスト(レポート)の平均点			
学生へのメッセージ ベンチャーの意義を知り、先輩创业者の体験を参考にして、ベンチャーマインドを養ってほしい。			

学習・教育目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
-------------------	-----	-------------------------	--	---------------------	--

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 5 - ③ - 1 1

授業科目	担当教員	開講期	
先端化学産業概論	伊藤 孝徳、藤田 和夫、田中 則章	集中講義	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
63250	1、2年 生物応用化学専攻	必修	1単位
授業概要 最近の化学産業における研究開発動向や生産技術の現状と将来について、具体的事例に基づいて概説し、工業生産現場における広い視野に立った問題解決能力を育成する。			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・化学産業における研究開発・生産技術の現状と将来を知り、その中における技術者の倫理や責任について理解する。 ・腐食防食の基礎を理解し、適正な材料選択や環境処理の重要性を認識する。 ・化学物質や化学プラントの安全性評価の手法を知り、技術と安全のかかわり重要性を認識する。 			
教科書 配布プリント 参考書 未定			
授業の進め方 具体的事例を多く紹介しつつ、質疑応答を頻繁に行いながら講義する。5時間ずつ3日間の集中講義とする。			
授業内容 第1回 プロセス開発 <ul style="list-style-type: none"> ・化学産業と取り巻く状況と技術者の役割 ・企業における研究開発の進め方 ・プロセス開発実施例 ・特許戦略 ・次世代化学プロセス技術開発 第2回 腐食防食工学概論 <ul style="list-style-type: none"> ・腐食とは ・腐食形態の分類と特徴 ・各種環境の腐食特性 ・各種材料の腐食耐性 ・腐食抑制方法 第3回 安全工学概論 <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の危険性評価 ・危険度評価の手法 ・化学プラントの安全思想と安全設計 ・反応暴走を考慮したプロセス設計 			
成績評価の方法 レポート(100%)で評価する。			
学生へのメッセージ 化学産業の生産現場で何が行われているか、具体的な実務例を参考に学び、自分のあべき化学技術者像を描いてもらいたい。			

学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	A-1,A-2,D-2,D-3
(出典 平成18年度シラバス)					

(分析結果とその根拠理由)

学生からのニーズや社会の要請に応えるために、勉強アンケート、企業アンケートを実施し、その結果を教育課程に反映している。また、本校の他専攻、他の高等専門学校の専攻科及び大学等の授業科目の履修を認める規程を策定している。さらに、単位互換協定を結ぶことにより、遠隔授業の履修ができるように整備している。愛媛大学とは、単位互換に関する覚書を交わし、単位認定できる制度の運用を開始する予定である。したがって、学生の多様なニーズや社会からの要請等に十分配慮した教育課程の編成になっている。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

専攻科課程の教育目標「リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する」を達成するために、主に講義科目を当てているが、その中で学習指導法の工夫を行っている。

全専攻共通の必修科目「英語演習書講読」と「科学英語表現」ではクラスを2つに分けて10数名单位とし、日本人教員と外国人教員による少人数授業を交代で実施、英語学習ソフトを利用するなどコンピュータ援用の工夫も行っている(資料5-6-①-1、資料5-6-①-2)。

必修選択科目「日本文化史」では、自ら主題をたて、個人およびグループで主体的に歴史を研究する主題学習を取り入れている(資料5-6-①-3、資料5-6-①-4)。

「ベンチャービジネス概論」では、学生のチャレンジ精神を刺激し、ベンチャーマインドを養成するために、創業の社会的意義やその支援体制、および特許などに関する講義を地元企業や高専OBの起業家らを講師として行っている(資料5-6-①-5)。

専攻科課程の教育目標「創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う」を達成するために、授業形態を工夫している。すなわち、確かな知識を身につけさせるために講義科目と演習科目が授業単位時間数にして全体の約8割、豊かな感性と実践力を養うための実験・実習科目は約1割、特別研究が約1割を占めている(資料5-6-①-6)。実際には、授業時間割における空き時間をすべて特別研究に当てており、学生も授業単位時間数以上の特別研究を行っている。

「センサー工学」、「環境化学概論」、「高分子化学概論」などの科目では、学生によるプレゼンテーションを取り入れることによって、講義内容を整理して理解を深める工夫をしている。特に「センサー工学」では後半の授業のすべてをプレゼンテーションとしている(資料5-6-①-7)。また、「生体情報工学」、「精密加工学」、「計測工学特論」、「無機化学特論」などの科目では、学生が文献やインターネットで調べた内容を活用しながら授業を進めている(資料5-6-①-8)。

「マイクロエレクトロニクス」や「機能性材料学1,2」などでは、講義科目の中に簡単な実験・

実習を取り入れ、学生の興味を促している（資料 5-6-①-9）。

「伝熱工学特論」、「流体力学特論」、「振動工学」、「材料強度評価法」、「コンピュータ・アナリシス」、「シミュレーション工学」、「デジタル信号処理」、「機械システム設計」などの科目では、ソフトウェアを活用し、理解を深める工夫をしている（資料 5-6-①-10）。

資料 5-6-①-1

授業科目	担当教員	開講期	
英語演習書講読	鴻上 政明・Ray Tabesh	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
68820	1年 全専攻	必修	2単位
授業概要			
外国人教師が PC を用いて、直聴直解（聴くと同時に理解する事）の力をつけること。英語速読トレーニングで直読直解（読むと同時に理解する事）の技能を現状より向上すること。プリントを用いて、文法問題を解くこと。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで語彙力の向上を目指す。 ・英語速読トレーニングで直読直解の技能を高める。 ・文法問題を通して文法事項の定着を図る。 ・TOEIC で 400 点以上を取得するための語彙・読解・リスニング力を付ける。 			
教科書 英語速読トレーニング Level 1 石井正仁・萩原一郎 編著（桐原書店）			
Frontiers in Science Yvonne Stapp（成美堂）			
参考書 ジーニアス英和辞典 小西友七 他編（大修館） または同等以上の英和辞典			
英語の発音が正しくなる本 鷲見由理 著（ナツメ社） または同系統の発音教本			
授業の進め方			
1.直読直解の技能を高めるために、英語速読トレーニングを用いて、毎回演習問題をこなし、その後説明をする。適宜小テストを実施する。プリントで文法問題を解く。			
2.ALC NetAcademy を活用し、学生が各自の能力及びペースに基づいて個別学習を行う。			
3. クラスを半分に割り、日本人教師と外国人教師が交互に授業をする形態を取る。			
前期		後期	
1 Introduction, Why do we dream?/CNN Science Desk	2 Introduction, Why do we dream?/Cnn Science Desk	1 Lesson 13 & 14, Creating new body organs/CNN	2 Lesson 13 & 14, Pheromones & sexual attraction/CALL
3 Lesson 1 & 2, Body-Copies/CALL/ALC	4 Lesson 1 & 2, Body-Copies/CALL/ALC	3 Lesson 15 & 16, Pheromones & sexual attraction/CALL	4 Lesson 15 & 16, A Unique Intelligence/CNN
5 Lesson 3 & 4, The Iceman/CNN Science Desk	6 Lesson 3 & 4, The Iceman/CNN Science Desk	5 Lesson 17 & 18, A Unique Intelligence/CNN	6 Lesson 17 & 18, A Unique Intelligence/CNN
7 Lesson 5 & 6, Killer Viruses/CALL	8 Lesson 5 & 6, Killer Viruses/CALL	7 Lesson 19 ,20 & 21, Ecological Aliens/ CALL/ALC	8 Lesson 19 ,20 & 21, Ecological Aliens/ CALL/ALC
9 Lesson 7 & 8, The robots are coming/ CNN Science	10 Lesson 7 & 8, The robots are coming/ CNN Science	9 Lesson 22,23 & 24, New hope for pollution control/CNN	10 Lesson 22,23 & 24, New hope for pollution control/CNN
11 Lesson 9 & 10, Doping athletes/CALL/ ALC	12 Lesson 9 & 10, Doping athletes/CALL/ ALC	11 Lesson 25, 26 & 27, A remarkable living fossil/CALL	12 Lesson 25, 26 & 27, A remarkable living fossil/CALL
13 Lesson 11 & 12, Creating new body organs/CNN	14 Lesson 11 & 12, Creating new body organs/CNN	13 Lesson 28, 29 & 30, Earth's vulnerable ozon	14 Lesson 28, 29 & 30, Earth's vulnerable ozon
15 期末試験		15 期末試験	
成績評価の方法			
定期試験 50%、小テスト 30%、提出物 10%、受講状況 10%（講義における挙手発表や質問による積極的関与）			

学生へのメッセージ 授業外での学習が大前提です。授業中は徹底的に質問や発表をしよう。また、英検・TOEIC・ボキャブラリー検定等を自発的に受験し、客観的な英語力評価の尺度として活用しよう。加えて、ALC NetAcademy や Language Lab の放課後利用を図ろう。					
学習・教育目標 (生産工学)	E-2	学習・教育目標 (電子工学)	E-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	C-2, D-3

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 2

授業科目	担当教員		開講期	
科学英語表現	鴻上 政明・Ray Tabesh		通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数	
68860	全専攻	必修	2 単位	
授業概要 科学的な内容のテキストを読み、語彙力・文法の定着を図り、さらに英文読解力を深める。電算室で ALC・CNN 等の学習支援教材を使い、TOEIC への対応を図る。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 科学的内容の英文を読解できる語彙・文法を習得すること。 ・ 2. 精読および速読ができること。 ・ 3. リスニング (聴解力) およびスピーキング能力を身につけること。 ・ 4. ライティング (作文) 能力を身につけること。 				
教科書 Science Makes Life Exciting (SEIBIDO). Intermediate Faster Reading (SEIBIDO), Environmental Science 101 (青葉図書) 参考書 なし				
授業の進め方 習熟度に応じ、基礎コースと発展コース、各15名程度の少人数コースに分けて行う。両コースとも内容項目、定期試験は共通である。基礎コースは、基礎的事項(文法等)の習得に努め、発展コースは、発展応用のレベルまで進む。外国人教師は、PCを用いた TOEIC 対応の授業を行い、また、「英会話」の時間も設ける。				
前期		後期		
1	Ch.1 Health Benefits of Eating Fish / U.1 Billionaires	1	Ch.4 Losing our Privacy / U.7 Getting Married	
2	Ch.1 Health Benefits of Eating Fish / U.1 Billionaires	2	Ch.4 Losing our Privacy / U.8 Say It with Flowers	
3	Ch.1 Health Benefits of Eating Fish / U.2 Andre Agassi	3	Ch.4 Losing our Privacy / U.8 Say It with Flowers	
4	Ch.1 Health Benefits of Eating Fish / U.2 Andre Agassi	4	Ch.5 Cell Phone Radiation / U.9 Bollywood	
5	Ch.2 Red Wine,the Magic Liquid / U.3 Video Jockeys	5	Ch.5 Cell Phone Radiation / U.9 Bollywood	
6	Ch.2 Red Wine,the Magic Liquid / U.3 Video Jockeys	6	Ch.5 Cell Phone Radiation / U.10 The Nobel Prize	
7	Ch.2 Red Wine,the Magic Liquid / U.4 Coffee Culture	7	Ch.5 Cell Phone Radiation / U.10 The Nobel Prize	
8	中間試験	8	中間試験	
9	Ch.2 Red Wine,the Magic Liquid / U.4 Coffee Culture	9	Ch.6 Safer Driving through Technology / U.11 A Funny Cure	
10	Ch.3 Mad Cow Disease in Japan / U.5 Around the World	10	Ch.6 Safer Driving through Technology / U.11 A Funny Cure	
11	Ch.3 Mad Cow Disease in Japan / U.5 Around the World	11	Ch.6 Safer Driving through Technology / U.12 Palm Reading	
12	Ch.3 Mad Cow Disease in Japan / U.6 The Puffer Fish	12	Ch.6 Safer Driving through Technology / U.12 Palm Reading	
13	Ch.3 Mad Cow Disease in Japan / U.6 The Puffer Fish	13	Ch.7 Stress-free Driving / U.13 Amazing Memory	
14	Ch.4 Losing our Privacy / U.7 Getting Married	14	Ch.7 Stress-free Driving / U.13 Amazing Memory	

15 期末試験		15 期末試験			
成績評価の方法 定期試験 50%,TOEIC (IP)20%, 小テスト・課題等 20%,授業参加度 10%で評価する。					
学生へのメッセージ (1) 学力向上のため、自宅学習課題を定期的に出します。(2) 単語・熟語テストを定期的を実施します。(3) 授業時間外でも、ALC ソフト等を自主的に利用してほしい。(4) 本校で年 2 回実施する TOEIC IP のどちらか 1 回は必ず受験すること。(5) 補習を実施し、文法の基礎的事項の復習から高度な内容まで扱うので、是非参加して欲しい。					
学習・教育目標 (生産工学)	E-2	学習・教育目標(システムデザイン工学)	E-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	C-2, D-3

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 3

授業科目	担当教員	開講期	
日本文化史	鹿毛 敏夫	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
68840	1 年 全専攻	選択	2 単位
<p>授業概要 日本文化を文字、遺跡、放送、コンピュータ・グラフィックス等の多様な観点から考察し、その地域性に根ざした特質を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文書などに書き残された日本の歴史文化の内容を理解する。 日本の遺跡発掘の現状を把握し、コンピュータを活用した遺跡復元の可能性を探る。 歴史学と放送文化のつながりを理解し、そこに潜む問題点を認識する。 自ら主題をたて、個人およびグループで主体的に歴史文化を研究する。 			
<p>教科書 レジュメ・プリント、資料プリント</p> <p>参考書 日本史リブレット(山川出版社)</p>			
<p>授業の進め方 講義および個人・グループでの演習形式で授業を進めていく。</p>			

授業内容 1 文字が語る歴史文化(1) 2 文字が語る歴史文化(2) 3 文字が語る歴史文化(3) 4 遺跡のコンピュータ・グラフィックス復元(1) 5 遺跡のコンピュータ・グラフィックス復元(2) 6 遺跡のコンピュータ・グラフィックス復元(3) 7 歴史学と放送文化(1) 8 歴史学と放送文化(2) 9 歴史学と放送文化(3) 10 日本文化の特質と地域性(1) 11 日本文化の特質と地域性(2) 12 日本文化の特質と地域性(3) 13 日本文化の特質と地域性(4) 14 日本文化の特質と地域性(5) 15 期末試験					
成績評価の方法 期末試験 80%、課題提出物・受講状況(発表点)20%により評価する。					
学生へのメッセージ 日本文化を多様な角度から考察するとともに、演習においては自らテーマをみつけて主体的に取り組むことが大切です。					
学習・教育目標 (生産工学)	D-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	D-1	学習・教育目標 (生物応用化学)	D-3
(出典 平成 18 年度シラバス)					

資料 5-6-①-4

教員 各位

下記のとおり、授業公開の案内をいたします。よろしくお願ひします。

記

1. 科目名 : 日本文化史
2. 対象学年 : 専攻科 1 年 (選択)
3. 担当者 : 鹿毛敏夫
4. 日時 : 平成 19 年 3 月 5 日 (月) 3 時限目
5. 場所 : 多目的室
6. 授業形態 : フィールドワークに基づく共同調査報告会形式の授業
授業単元テーマ「別子銅山産業遺跡の研究」

7. 内容

授業目標 地域社会の歴史文化について、自ら主題を立て、文献を調べるとともに現地調査を行い、その成果をグループで発表することにより、地域に生きた先人たちの営みを認識するとともに、歴史文化の地域性の

特質を理解する。

授業展開 「別子銅山産業遺跡の研究」調査報告会 第2部

報告者および報告テーマ

- ⑧ 広瀬歴史記念館 1 SM 伊藤大祐・小澤卓矢
- ⑨ 旧広瀬邸 1 SC 渡辺孝允・山口智之
- ⑩ 新居浜選鉱場・星越駅舎 1 SC 藤原和司・宮脇和宏
- ⑪ 惣開の碑 1 SM 薦田健太郎・飯尾友貴
- ⑫ 自彊舎・昭和通り 1 SM 藤田涼太・水関崇普
- ⑬ 新居浜口屋跡 1 SM 浮橋力太・日野雅也

なお、報告会第1部は、既に下記のテーマで実施済み

- ① マイントピア別子 1 SE 十亀拓也・根引智也
- ② 第四通洞 1 SM 田中大貴・松本和広
- ③ 打除鉄橋・中尾トンネル 1 SC 坂本洗太郎・白石竜二
- ④ 泉寿亭 1 SE 白石隆二・星川和輝
- ⑤ 端出場水力発電所 1 SE 大濱瑛輔・中常真徳
- ⑥ 大山積神社 1 SE 岩間功祐・上岡大介
- ⑦ 山根グラウンド 1 SE 高石龍一・武田勇輝

8. その他：参観者用資料（学生報告レジュメ集）を当日の教室後方に準備する。

(出典 学生課よりのメール)

資料 5 - 6 - ① - 5

授業科目	担当教員	開講期	
ベンチャービジネス概論	非常勤	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61502	1年 生産工学専攻	選択	1単位

授業概要

常に技術革新を目指し、経営戦略を立てている企業家、学生や教官が産学官連携の下、新技術の開発および製品化への事例や高専 OB の起業家の身近で、チャレンジ精神の旺盛な方達のレクチャーを聞いて、ベンチャーマインドを養成する。また、修了後、起業を考えたとき、役に立つよう、特許や創業支援などの制度について理解する。

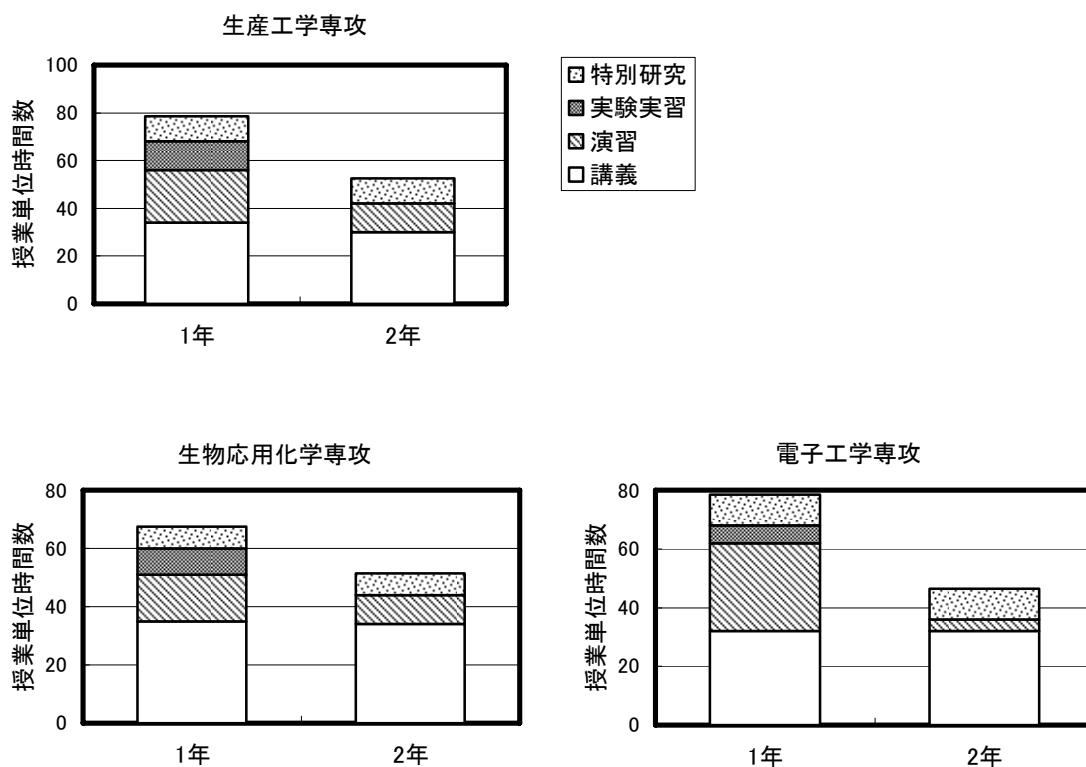
到達目標

- ・創業の社会的意義を知ること。
- ・ビジネスプランの必要性を理解し、その基本的要素を知ること。
- ・創業に対する金融支援の重要性を知ること。
- ・開発型企業における特許の重要性を知ること。

<p>教科書 配布プリント 参考書 なし</p>			
<p>授業の進め方 シラバス記載のさまざまな分野から外部講師を招き、講演を聞き、質疑応答の後、講演内容について的小テストを行う。</p>			
<p>授業内容 第1回 オリエンテーション ―ベンチャーとは何か―： 「今なぜベンチャーか」「創業の社会的意義」 第2回 先輩创业者の体験発表 1： 「私の創業体験」「先輩创业者から後輩へのメッセージ」 第3回 創業に成功する条件とビジネスプラン作成の要点 「創業に成功する3つの条件」「ビジネスプラン作成の基本要素」 第4回 先輩创业者の体験発表 2： 第5回 産学連携事例と地元支援機関や金融機関のサポート体制： 「産学連携事例」「創業支援の融資体制」「創業支援施策の概要」 第6回 先輩创业者の体験発表 3： 第7回 開発型企業における特許： 「特許の必要性」「特許と起業・創業」 第8回 エチケット・ビジネスマナー</p>			
<p>成績評価の方法 記述式小テスト(レポート)の平均点</p>			
<p>学生へのメッセージ ベンチャーの意義を知り、先輩创业者の体験を参考にして、ベンチャーマインドを養ってほしい。</p>			
<p>学習・教育目標 (生産工学)</p>	<p>A-2</p>	<p>学習・教育目標 (システムデザイン工学)</p>	<p>学習・教育目標 (生物応用化学)</p>

(出典 平成18年度シラバス)

資料5-6-①-6



(出典 平成18年度専攻科履修要覧より編集)

資料5-6-①-7

授業科目	担当教員	開講期	
センサー工学	桑田茂樹	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61161	2年 生産工学専攻	選択	2単位
<p>授業概要 各種センサーの応答原理を物理・化学の法則と結びつけて理解することにより、各自の知識の応用訓練を行う。また、後半においては、身近なセンサーについてまとめ、発表(プロジェクター使用)することによりプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサーの定義と分類(種類)を理解し、説明できること。 ・代表的な圧力センサー、温度センサー、光センサー、ガスセンサーの原理を理解し、説明できること。 ・半導体の基本的な特性を理解し、説明できること。 ・代表的な半導体センサーの原理を理解し、説明できること。 ・地球環境のためのセンサーの果たす役割を理解し、説明できること。 ・身近なセンサーについて、その作動原理と応用方法を自学し、発表できること。 			
<p>教科書 プリント、レジュメ</p> <p>参考書 センサとその応用 一ノ瀬 昇、小林哲二 編(総合電子出版社) 基礎センサ工学 高橋 清、伊藤謙太郎 著(電気学会)</p>			
<p>授業の進め方 前半は、プリント、プロジェクター、板書による講義を進め、後半ではプロジェクターを使用した発表・質疑形式の講義を行う。</p>			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 センサーの定義と分類 2 圧力センサーの原理と種類 3 温度センサーの原理と種類 4 光センサーの原理と種類 5 湿度センサーの原理と種類 6 ガスセンサーの原理と種類 7 半導体の特性 8 半導体センサーの原理と種類 9 身近な圧力センサーについての発表(原稿 A4 3枚、プロジェクター) 10 身近な温度センサーについての発表(原稿 A4 3枚、プロジェクター) 11 身近な光センサーについての発表(原稿 A4 3枚、プロジェクター) 12 身近なガス・湿度センサーについての発表(原稿 A4 3枚、プロジェクター) 13 身近な半導体センサーについての発表(原稿 A4 3枚、プロジェクター) 14 地球環境のためのセンサーの役割 15 期末試験 			
<p>成績評価の方法 試験 50%と発表(原稿のまとめ方、表現法、質疑応答 など)50%として評価する。</p>			
<p>学生へのメッセージ センサーの応答原理を理解するためには、物理・化学の基本的な法則の理解が必要である(復習しておくこと)。</p>			
学習・教育目標 (生産工学)	A-2	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 8

授業科目	担当教員	開講期	
生体情報工学	伊月 宣之	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
62121	電子工学専攻	選択必修	2 単位

授業概要 生体は多くの優れた機能を有しており、これらの優れた機能を測定解析して工学に応用すれば、工学的により価値の高いものを創り出すことが可能である。そのためには生体機能の情報をより多く引き出す必要がある。近年、生体情報工学分野がより注目され、この分野の研究も盛んに行われるようになってきた。本講義では、技術者を目指す学生には比較的関心の薄いこのような分野を紹介し、独創的な技術を生み出すための一助となることを期待する。

到達目標

- ・1. 神経細胞の機能について理解していること
- ・2. 筋肉の機能と運動制御について理解していること
- ・3. 視覚系や触圧覚受容器の構造や機能について理解していること
- ・4. 授業を通じてプレゼンテーション能力を身につけること
- ・5. 生体機能の工学的応用が検討できること

教科書 生体情報工学 赤澤堅造 著 (東京電気大学出版局)
参考書 生体情報工学 星宮望 他著 (森北出版)

授業の進め方 教科書に沿って講義・ゼミ形式で進める。各章ごとに関連深いキーワードを複数個選び、受講生がキーワードごとに分担してインターネットや文献で調査し、まとめてパワーポイントで発表してもらう。発表の都度、補足事項を講義で補いながら授業を進める。生体情報工学の概要、神経細胞の機能と働き、神経回路等、筋肉・運動の制御機構、視覚や聴覚の情報処理機構等について、キーワードを設定する。発表資料は学生全員で共有し、最後にその資料に基づいた期末試験を行う。

授業内容

- 1 ガイダンス(授業の進め方)、キーワードの設定、第1章 序論(講義):生体情報工学の紹介、生体システムの特徴、生体情報工学の役割
- 2 第2章 センシングとシミュレーション(講義)
- 3 第3章 細胞膜と活動電位:課題発表(細胞膜の構造と静止電位、活動電位)、補足説明
- 4 第4章 受容器と感覚情報:課題発表(感覚の種類と感覚情報の符号化、感覚の計測法)、補足説明
- 5 第5章 ニューロン:課題発表(ニューロンの構造、ニューロンのモデル)、補足説明
- 6 第6章 神経回路と脳:課題発表(神経の結合様式、側抑制、脳の構造と機能)、補足説明
- 7 進度調整予備日
- 8 第7章 記憶と学習、ニューロンコンピューティング:課題発表(神経系の学習、シナプスの可塑性)、補足説明
- 9 第7章 記憶と学習、ニューロンコンピューティング:課題発表(ニューロコンピュータ、バックプロパゲーション)、補足説明
- 10 第8章 筋肉の収縮、張力制御の神経機構:課題発表(筋の収縮、張力の随意制御)、補足説明
- 11 第9章 運動の機構と神経制御:課題発表(脳による緊張力とスティフネスの調整、運動サーボ)、補足説明
- 12 第9章 運動の機構と神経制御:課題発表(運動の中枢プログラム、人工の手)
 第10章 触圧覚:課題発表(触圧覚受容器の構造)、補足説明

13 第11章 視覚系の情報処理:課題発表(眼、外側膝状体と視覚野の情報処理、視覚の心理現象)、補足説明				
14 第12章 聴覚系の情報処理と音声:課題発表(聴覚器官の構造と神経機構、聴覚の心理物理特性、音声の解析)、補足説明				
15 期末試験				
成績評価の方法 期末試験と毎回の報告(パワーポイントファイルまたはレポート)は各々100点満点で評価する。総合成績は、期末試験を40%、報告を60%で評価する。				
学生へのメッセージ 授業は専攻科AV室で行う。本講義に関連する科目としては人工知能があるが、それ以外に、特別研究でも関連する領域の研究を行っている研究室(筋電図、眼球電図、医用画像処理、ニューラルネットワーク等)もあり、特別研究の関連科目として知識を身につけておくとよい。				
<table border="1"> <tr> <td>学習・教育目標(生産工学)</td> <td>学習・教育目標(システムデザイン工学)</td> <td>A-2</td> <td>学習・教育目標(生物応用化学)</td> </tr> </table>	学習・教育目標(生産工学)	学習・教育目標(システムデザイン工学)	A-2	学習・教育目標(生物応用化学)
学習・教育目標(生産工学)	学習・教育目標(システムデザイン工学)	A-2	学習・教育目標(生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)				

資料 5 - 6 - ① - 9

授業科目	担当教員	開講期	
マイクロエレクトロニクス	榊原 久司	後期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61860	2年 生産工学専攻	必修	2単位
授業概要 生産工学技術者にとって重要な電気回路、電子回路に関する基礎知識および応用知識を活用する能力を身につけることを目標とする。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・電源と抵抗を含む回路において、各部の電流、電圧が求められること。 ・インダクタンス、コンデンサの動作が理解できること。 ・交流回路の基本的計算ができること。 ・トランジスタの動作原理が理解できること。 ・トランジスタ回路の増幅度を特性図を用いて求めることができること。 			
教科書 なし 参考書 基礎電気電子回路 高木亀一 著 (オーム社)			
授業の進め方 講義による理論の説明、演習を主体にするが、「オペアンプとその応用」の単元では簡単な製作実習を併用して理解を深める。			
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 電圧・電流・電力・電力量について 2 キルヒホッフの法則 3 回路方程式の立て方とその解法 4 抵抗、コイル、コンデンサとその特性 5 フェーザ表示を用いた交流回路の計算法1 6 フェーザ表示を用いた交流回路の計算法2 			

7 半導体とPN 接合			
8 中間試験			
9 ダイオード回路			
10 トランジスタ回路の基礎			
11 トランジスタ増幅回路1			
12 トランジスタ増幅回路2			
13 オペアンプとその応用1(製作実習を含む)			
14 オペアンプとその応用2(製作実習を含む)			
15 期末試験			
成績評価の方法 期末試験 60%、問題演習・課題提出物 30%、製作実習 10%で評価する。			
学生へのメッセージ 授業の途中にレポート課題を出す。この課題の提出状況および解答内容も評価点となる。			
学習・教育目標(生産工学)	A-2	学習・教育目標(システムデザイン工学)	学習・教育目標(生物応用化学)

(出典 平成 18 年度シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 1 0

授業科目	担当教員	開講期	
伝熱工学特論	下村 信雄	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61261	生産工学専攻	選択	2 単位
<p>授業概要 全ての物体は熱エネルギーを持っており、物体の間で温度差が存在すると、熱エネルギーの移動がおこる。伝熱工学特論では、熱移動の基本的な三つの形態すなわち、伝導、対流、放射について基礎的な知識を習得して、実際の伝熱の基本的な計算問題を解く能力を身に付ける。更に、数値伝熱の基礎式の誘導を行い、簡単な熱流体連成の伝熱問題が解けるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱移動の基本形態を理解し、各形態の概要が説明できること。 ・各移動形態単体で、さらに複合での伝熱量が計算できること。 ・熱物質移動を理解し、エネルギー移動量が計算できること。 ・数値伝熱に関する基本的な概念が理解でき、簡易モデルの計算ができること。 			
<p>教科書 配布プリント</p> <p>参考書 伝熱工学の基礎 吉田駿 著 (理工学社) 伝熱学 西川兼康、藤田恭伸 共著 (理工学社) 熱移動と流れの数値解析 S.V Patankar 著 (森北出版)その他多数</p>			
<p>授業の進め方 授業は、プリントを中心に講義と演習を進め、問題の解き方を理解するための演習問題を宿題として出す。また、汎用 CAE ツール ANSYS による簡単なモデル計算を行い、理論との比較を行う。</p>			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 伝熱序論、熱伝導の基礎理論 2 1次元定常熱伝導 3 熱伝達と熱通過 4 強制対流熱伝達 			

5 数値伝熱基礎 6 CAD データの活用方法 7 計算モデル作成方法 8 境界層モデル作成 9 境界層モデル計算結果の評価 10 離散化の方法 11 対流と拡散 12 熱流体連成解析方法 13 事例解析(1) 14 事例解析(2) 15 事例解析(3)				
成績評価の方法 課題演習レポートの結果 100%で評価する。				
学生へのメッセージ 伝熱学に関する基礎用語を正しく理解し、使用する物性値については概略の大きさが認識できること、そして問題を解く場合、その内容を簡単な CAD 操作でモデル化を実施し、解析条件を理解することが大切です。また、常に身の回りにおける熱移動現象に関心を持つこと。				
学習・教育目標 (生産工学)	B	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)
(出典 平成18年度シラバス)				

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の教育目標「リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する」を達成するために複数教員担当、主題学習、企業在職者の講義などの工夫をしている。また、「創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う」を達成するために、特別研究に多くの時間を割いている。各授業では、学生によるプレゼンテーション、講義科目での実験の実施、ソフトウェアの活用などにより理解を深める工夫をしている。

観点 5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程では全専攻で「学外実習」（通称シニア・インターンシップ）を実施している（資料5-6-②-1）。準学士課程では主として学習の動機付けと職業に対する意識付けを行うとともに、将来の社会人としての自覚を促すことを目的としているが、専攻科課程ではこれに加えて、これまでに学んできた専門の知識・技術を用いて課題発見・問題解決に当たり、実習後の特別研究に活用できるようになることを目的としている（資料5-6-②-2、資料5-6-②-3）。そのために事前学習により学生個別の目標を明確にし、実習先にもその観点で評価をしていただいている（資料5-6-②-4、資料5-6-②-5、資料5-6-②-6）。また、実習報告会においてプレゼンテーションさせるとともに、複数教員が実習で得られたことなどを聞き取り、評価することになっている（資料5-6-②-7）。必修科目ではないが、平成18年度は全員が履修している。期間は1ヶ月程度としているが、実際には2週間程度が多い。

創造性を育む教育方法の工夫については、生産工学専攻では「デザインテクノロジー」において、

商品やシステム開発における開発テーマの発想法やアイデア・設計段階における評価方法を学んでいる。また、自分のアイデアを具現化し、それを第三者に論理的に伝えることができる能力の育成を図っている（資料5-6-②-8）。さらに、「計測制御実習」では、ペットボトルロケットの飛行シミュレーションなどの課題を、MATLAB や LabView などの I T ツールを活用して解決するグループ実習を行っている（資料5-6-②-9）。

電子工学専攻では、「問題解決グループ演習」において、1 クラスを幾つかのグループに分け、与えられた課題に対する解決策をグループメンバーが議論しながら立案するという授業形態、すなわち PBL を取り入れている（資料5-6-②-10）。また、「システムデザイン工学演習」では、与えられた課題について、到達目標の設定、具体的作業内容へのブレークダウン、計画立案、実作業、報告書の作成など一連の設計業務を体験する演習を行っている（資料5-6-②-11）。

資料5-6-②-1

授業科目	担当教員	開講期	
学外実習	豊田 幸裕	夏季休業中	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61975	1年 生産工学専攻	選択	2単位
<p>授業目標 企業、研究所、官公庁等の実社会で実習する体験を通じて、組織の一員としてのマナー、個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得させ、実習体験で得た成果を今後の学習(特に特別研究)に生かすことを目標としている。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> •これまでに学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験すること。 •安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識すること。 •実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができること。 			
教科書 なし 参考書 なし			
授業の進め方 学外の工場、研究所、大学の研究室などで実習を経験する。			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として連続する2週間以上の期間、学外で実習する。 2. 実習内容は、製造・生産現場での業務に限定せず、研究機関、大学研究室などでの業務を体験する。 3. 各自が記録した業務日誌と一連の実習を総括した報告書を提出する。 4. 学外実習報告会において実習内容を発表する 			
<p>成績評価の方法 実習先からの評価書、学生が提出した業務日誌と実習報告書、実習報告会の発表結果の評価がいずれも合格(60点以上)の場合、単位を認める。</p>			

<p>学生へのメッセージ 実施に当たっては専攻主任または特別研究担当教官と緊密に連絡を取り合って実施すること。実習期間中は技術、センス等の吸収につとめ、学校で習う知識と、広い意味での現場での実際との違いをいろいろな角度から感じて欲しい。それをばねにして、今後の勉学に励んで欲しい。</p>					
<p>学習・教育目標 (生産工学)</p>	<p>B, D-1, E-1</p>	<p>学習・教育目標(システムデザイン工学)</p>		<p>学習・教育目標 (生物応用化学)</p>	
<p>(出典 平成 18 年度シラバス)</p>					

<p>資料 5 - 6 - ② - 2</p>	<p>シニア・インターンシップ実施要領</p>
<p>新居浜工業高等専門学校専攻科</p>	
<p>新居浜工業高等専門学校専攻科は、国際化・情報化の進展、急速な産業構造の変化など日本の社会情勢の変化に伴って、これまで以上に社会的に自立した「実践的技術者」の育成を目指して設立されました。そして、大学の“理論”を基に実験を通した「ものづくり」工学教育とは異なり、本校専攻科は“体験”を通じて“理論”を“知恵と行動力”へ変え「ものづくり」の出来る実践力と創造力を併せた技術開発能力を有し、しかも国際的に通用するコミュニケーション能力、倫理観を備え社会と連携できる広い視野を持った人材を育成することを目指しております。</p> <p>学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連する就業体験を行うシニア・インターンシップは、その有力な方法として、本校においても鋭意取り組んでおります。</p>	
<p>1. 目的</p> <p>企業、官公庁及び教育関係機関等の実社会で実習する体験を通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) これまで本科5年間の講義や卒業研究などで身につけた専門基礎知識と実験技術などを用いて、問題を見出し、計画的にその問題を解決することの出来る能力を確かめ、さらに伸張する。 2) 組織の一員としてのマナー、社会が要求する個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得する。 3) 実習体験で得た成果を今後の勉学の目的や特別研究に活用するとともに、自分の目指す技術者像を明確にする。 <p>以上の三つを、シニア・インターンシップの目的としています。</p>	
<p>2. 実施学年</p> <p>専攻科第1学年（26名）の学生を対象といたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生産工学専攻(機械工学系) (4名) ② 生産工学専攻(材料工学系) (6名) ③ 生物応用化学専攻(6名) ④ 電子工学専攻(10名) 	
<p>3. 受入依頼学生数</p> <p>受入機関のご都合により何名でも可です。</p>	
<p>4. 実施時期</p> <p>夏季休暇中（7月11日から8月31日）の連続する1ヶ月程度といたします。</p>	
<p>5. 研修テーマ</p> <p>シニア・インターンシップのテーマを事前に提示して頂き、学生は、実習・研修の内容等について、専攻科主任及び特別研究担当教員と相談し、その計画について検討します。</p>	
<p>6. 学内研修</p> <p>参加学生は、研修中における学生の心得・服務等について、事前に本校での研修を行い、責任を持って派遣いたします。受入先で、学生に必要とされる基礎知識や事前準備が必要な場合は、前もってご連絡頂ければ学生に周知徹底いたします。</p>	

7. 実施証明・単位認定

研修終了後、学生の実施内容、出席状況等に基づいて受入機関において総合評価をしていただき、それを基に本校で単位を認定させていただきます。

8. 学生に対する報酬・諸経費

- ・教育・研修として実施するため、無報酬といたします。
- ・研修中における諸経費については、原則として学生の負担といたしますが、遠隔地などの理由で往復旅費又は宿泊費について、受入先から支弁のご提案があれば、受けさせていただきます。

9. 傷害保険

学生は、「インターンシップ傷害保険」に加入のうえ、研修に参加いたします。
対人賠償：1億円限度、対物賠償：250万円限度です。

10. 連絡先

シニア・インターンシップに関する連絡事項その他不明事項がございましたら、下記の者が対応させていただきます。

問い合わせ先

新居浜工業高等専門学校 学生課教務係 荒木
Tel 0897-37-7725 Fax 0897-37-7844
E-mail kyoumu-c@off.niihama-nct.ac.jp

専攻科長 早瀬伸樹 (Tel 0897-37-7837, Fax 0897-37-7777)
生産工学専攻主任 豊田幸裕 (Tel 0897-37-7736)
生物応用化学専攻主任 衣笠 巧 (Tel 0897-37-7787)
電子工学専攻主任 皆本佳計 (Tel 0897-37-7756)

(出典 平成18年度シニア・インターンシップ実施要領)

資料5-6-②-3

シニア・インターンシップ

4 学外実習（シニア・インターンシップ）

(1) 目的

企業、官公庁及び教育関係機関等の実社会で実習する体験を通じて、

- 1) 組織の一員としてのマナー、社会が要求する個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得する。
- 2) これまで本科5年間の講義や卒業研究などで身につけた専門基礎知識と実験技術などを用いて、問題を見出し、計画的にその問題を解決することの出来る能力を確かめ、さらに伸張する。
- 3) 実習体験で得た成果を今後の勉学の目的や特別研究に活用するとともに、自分の目指す技術者像を明確にする。

(2) 学年及び期間

- 1) 教育課程による授業の一環として、原則として第1学年で行います。
- 2) シニア・インターンシップを行う期間は、7月12日から8月31日の連続する1ヶ月程度とします。

(3) 受講の手続き

シニア・インターンシップ先は、専攻主任および特別研究指導教員の下承のもとに決定されます。実習先が決定したら、シニア・インターンシップ受講届を専攻主任の認印を得て、教務係へ提出してください。

(4) シニア・インターンシップの心得

- 1) シニア・インターンシップの内容や実習先に関する事項および実習・研修の細目等について、専攻主任及び特別研究指導教員と相談して指導を受け、事前学習書を専攻主任に提出してください。実習は原則として無報酬とします。
- 2) 次に掲げる事項等に留意し、学生としての良識ある行動をとり、シニア・インターンシップの目的を達成するように心がけてください。
 - (a) 実習先の指導者の指示に従い、独断での行動や作業をしない。
 - (b) 実習先の規則や規律を守り、社内の秩序を乱さない。
 - (c) 作業上の注意事項を遵守し、安全の確保に細心の注意を払う。
 - (d) 期間中は、礼儀や節度をわきまえ、謙虚な態度で指導を受ける。
 - (e) 配属先の機密保持事項に対して留意する。
- 3) 期間中は常に専攻主任または特別研究指導教員と連絡が取れるように配慮してください。
- 4) 期間中に、万一事故等の異常事態が生じた場合は、シニア・インターンシップ中の災害や休日の事故等にかかわらず、速やかに専攻主任または特別研究指導教員へ連絡してください。

(5) 報告と単位の認定

シニア・インターンシップ終了後、実習先の指導責任者の証明書および各自が記録した業務日誌を教務係へ提出してください。また、実習報告書を、実習先ならびに教務係へ提出してください。その後、実習報告会において実習内容を発表してもらいます。

実習先からの評価書、学生が提出した業務日誌と実習報告書、実習報告会の発表結果を総合して評価します。その結果により、学外実習の単位（2単位）が認定されます。

（出典 平成 18 年度専攻科履修要覧）

資料5-6-②-4

専攻主任

専攻科シニア・インターンシップ事前学習

生産工学専攻 _____

氏 名 _____

インターンシップ先	
-----------	--

内容調査（会社の内容や大学の研究室で行っている内容など）

--

目 的

--

（出典 教務係資料）

資料5-6-②-5

実 習 証 明 書

実 習 生	新居浜工業高等専門学校 専攻			
	第 学年 氏 名			
実習期間	平成 年 月 日から (日間)			
	平成 年 月 日まで			
実習部門				
実習内容				
出欠状況	出 勤	欠 勤	遅 刻	早 退
	日	日	日	日
概 評				
実習生への アドバイス				

上記のとおり実習したことを証明します。

平成 年 月 日

証 明 者 実習機関名

氏 名

印

(出典 専教務係資料)

資料 5 - 6 - ② - 6

新居浜高専専攻科生 シニア・インターンシップにおける実習評価表

実習生：新居浜工業高等専門学校 () 専攻 氏名：

ご面倒ですが、下記の項目について、5段階評価（5：優れている、3：普通、1：劣る）をお願い申し上げます。

尚、評価不可能な項目に付きましては空欄のままで、評価できる項目のみをご記入下さい。

1. 実習に対する姿勢

- 1) 勤務態度 ()
- 2) 積極性 ()
- 3) 協調性 ()

2. 技術者という職業を目指す上での自覚について

- 1) 安全に対する意識 ()
- 2) 環境（環境保全、資源・エネルギーの節減や再利用等）に対する意識 ()
- 3) モラルに対する意識 ()
- 4) 責任感 ()

3. 専門分野の基礎知識 ()

* 不足している項目についてコメントをお願い致します。

4. 技術者という職業を目指す上での基本的能力

- 1) 目的の理解度 ()
- 2) 計画を立てる能力 ()
- 3) 計画を実行する能力 ()
- 4) 問題を発見する能力 ()
- 5) 問題に対処する能力 ()
- 6) データや情報を編集する能力 ()
- 7) 意思伝達能力 ()

このアンケートの設問に対するご意見をお願い致します。

(出典 専攻科教育委員会資料)

授業目標

ものづくりにおけるアイデアの創出から具現化およびその意思伝達の一連を理論的に学び、実践を行う。

到達目標

- ・商品やシステム開発における開発テーマの発見法を活用できる
- ・アイデア・設計における評価方法を理解し、活用できる
- ・アイデアを具現化し、論理的に伝えることができる

教科書

開発設計工学 中沢弘 著 (工業調査会)

参考書

アイデア量産ノート 馬場了・河合正嗣 著 (明日香出版)
 創造力育成の方法 塚本真也 著 (森北出版)
 実践3次元CADテキスト 上智大学設計製図教育研究会
 問題解決力を鍛えるトレーニングブック 奈良井安 著 (かんき出版)
 ヒューマンデザインテクノロジー 山岡俊樹 著 (森北出版)

授業の進め方

授業は講義中心で行う。実際の演習は各自個人が家庭学習で行う。

授業内容

- 1 授業の進め方および採点方法の説明、発想法の説明
- 2 メタコンセプト法、ブレインストーミング法、ブレインライティング法、
- 3 メカニカル発想法
- 4 設計開発工学(設計原理)
- 5 概念設計
- 6 設計手法(手順)
- 7 評価方法(コスト・ベネフィット法、点数評価法、情報積算法)
- 8 情報積算法(感性評価)
- 9 問題解決の基本手順とツール
- 10 独創的な商品開発
- 11 アイデアの具現化
- 12 論理的プレゼンテーション方法
- 13 エンジニアの責任
- 14 プレゼンテーションおよび他者評価
- 15 期末試験

成績評価の方法

期末試験 70%, プレゼンテーション能力 30%

学習・教育目標 (生産工学)	B, E-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)	
-------------------	--------	-------------------------	---------------------	--

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 6 - ② - 9

授業科目	担当教員	開講期	
計測制御実習	豊田 幸裕・谷口 佳文・宮田 剛・志賀信哉・松英達也	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61912	生産工学専攻	必修	2 単位

授業概要

電子工学、計測工学及び自動制御の基礎学力を基に、制御用シミュレーションソフト (MATLAB/Simulink) や計測用ソフト (LabVIEW) などの IT ツールを利用して計測制御に関する実習を行い、工学的問題を解析する手法を身につけさせることを目的とする。

到達目標

- ・PC を活用した計測・制御の手法について理解できること。
- ・MATLAB/Simulink のサンプルプログラムが理解できること。
- ・LabVIEW で簡単な測定機器を制御し、計測データを収集するプログラムを作成できること。
- ・収集した計測データを解析するための MATLAB/Simulink プログラムを作成できること

教科書 計測制御実習テキスト (新居浜高専専攻科 生産工学専攻)

参考書 MATLAB/Simulink によるわかりやすい制御工学 川田昌克、西岡勝博 著 (森北出版)

LabVIEW テキスト (ソニー・テクトロニクス株式会社)

科学計測のための波形データ処理入門 南 茂男、河田 聡 著 (CQ 出版)

授業の進め方 毎回配布する資料に基づいて実習を行なう。電子計算機室で1人1台のパソコンを用い実習を進めてゆく。前期は MATLAB/Simulink についての実習を行い、後期は LabVIEW についての実習を行なう。定期的に課題を与えるので、やったことをレポートとして提出する。また、前期と後期の終わりにプレゼンテーションと口頭試問を行なう。

授業内容

前期

- 1.~10. MATLAB/Simulink の基礎実習
- 11.~14. MATLAB/Simulink を用いた信号処理シミュレーション
15. プレゼンテーション

後期

- 1.~9. LabVIEW プログラミングの基礎実習
- 10.~14. LabVIEW を用いた計測制御実習
15. プレゼンテーション

成績評価の方法 プレゼンテーション 30%、提出物(レポート、プログラム演習等) 70%とする。

学生へのメッセージ エアコンには温度センサーと制御用コンピュータが内蔵されており、室温を一定に保ってくれます。このように目的の状態にするための操作が制御、室温を測る(ある状態の量をはかる)ことを計測といいます。この「計測・制御」にさらに情報通信が組み合わさったのが、例えば、「道路交通シ

システム」です。計測制御とは一つのシステムとして捉えてください。			
学習・教育目標 (生産工学)	C-3	学習・教育目標(システム デザイン工学)	学習・教育目標 (生物応用化学)

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 6 - ② - 1 0

授業科目	担当教員	開講期	
問題解決グループ演習	榊原久司, 横山隆志	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
62822	1年 電子工学専攻	必修	2単位
授業概要 与えられた課題を実現するためのアイデアを立案する際、課題をどのようにとらえることが重要であるか、そしてどのようにして発想を広げ、必要な情報を収集・整理統合し、解決策を見出していくのか、これら問題解決の方法を実問題への取組みを通して養うことを目的とする。また、アイデアを立案する際の有力な情報源である特許情報の検索方法についても学ぶ。			
到達目標 ・問題解決のためには、本質的な問題を発見することが第一の課題であることを理解できること。 ・問題解決の流れを理解できること。 ・与えられた課題の社会的背景や課題解決のための手がかりをインターネット等による情報収集により調べることができること。 ・ブレインストーミングの実施方法を身につけること。 ・KJ法の実施方法を身につけること。 ・実際の問題解決の経験を通して、問題解決手法の使い方を身につけること。			
教科書 問題解決の発想と表現 東千秋・柴山盛生他 著 放送大学教育振興会 参考書 実戦！問題解決法 大前研一・斎藤頭一 著 小学館			
授業の進め方 教科書及び「実戦！問題解決法」CD-ROM 教材を用いて様々な事例を紹介しながら、討論を交えて授業を進める。また、問題解決演習や情報収集・分析演習などは 4～5 名のグループで行い、チームで仕事をする場合の役割分担のありかた、リーダーシップのとり方なども経験を通して学ばせる。毎回課題を与える。後半においては、立案したアイデアの有効性をものづくりを通して確認するテーマにも取り組ませる。			
授業内容 1 序論(問題解決とは) 2 問題解決演習(第1回) 3 情報の収集と整理統合 4 情報収集・分析演習(第1回) 5 日常的な数量表現, 図解表現, 文章表現 6 問題解決演習(第2回) 7 プレゼンテーションと交渉 8 情報収集・分析演習(第2回) 9 総合事例演習1(第1回) 課題:IC タグを利用した製品, ビジネスの提案 10 総合事例演習1(第2回) 11 総合事例演習2 課題: 卵を軟着陸させる方法の立案と検証実験 12 総合事例演習3(第1回) 課題: LEGO ロボット課題解決法の立案と検証実験 13 総合事例演習3(第2回) 14 総合事例演習3(第3回) 15 LEGO ロボット競技会(事例発表会)			

成績評価の方法 講義時にはレポート課題を課し、5点満点で評価する。グループ演習においては、グループごとの発表内容で評価する。また、各人の課題への取り組み方も評価対象になる。レポート 60%、グループ演習成果(各個人の課題への取り組み姿勢を含む)40%で評価する。なお、情報収集・分析に関するレポートの評価が 5 段階評価で 3 未満の場合には、再レポートを課す。					
学生へのメッセージ 問題解決能力は講義を聴くだけでは身に付かない。最初は慣れない演習であるため、誰もが失敗を重ねると思われるが、積極的に演習に取り組めば、失敗経験が実のあるものになり、次回にはより良いアイデアを思いつくようになる。問題解決能力を身につけておけば、システムデザイン工学演習や特別研究の過程で問題が生じて、自らの力で解決できるようになる。					
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)	C-1, C-2	学習・教育目標 (生物応用化学)	

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 6 - ② - 1 1

授業科目	担当教員	開講期		
システムデザイン工学演習	伊月・佐藤・香川・ 榊原・田中・松村	後期		
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数	
62821	1 年 電子工学専攻	必修	3 単位	
<p>授業概要 各担当教官が選んだ課題(制御工学、電子工学などの専門知識の実問題への応用を主眼にする)への取組みを通してシステムデザイン能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題を、その周辺技術を含めたシステムとして捉え、課題解決の手段を広い視野で検討できること 与えられた課題に対する解決策を立案できること 解決策を具体的作業内容にブレークダウンし、作業計画を立案できること 作業計画に基づいて、実際に作業を遂行できること 演習課題をどのように解決したかを、わかりやすく報告書にまとめることができること 作業内容・得られた結果などについて他の人にわかりやすく説明できること 				
<p>教科書 各担当教官が選んだ課題に関連する資料</p> <p>参考書 各担当教官に委ねる</p>				
<p>授業の進め方 各担当教官が選んだ課題について、1～2 名で到達目標の設定、具体的作業内容へのブレークダウン、計画立案、実作業、報告書の作成など一連の設計業務を体験する。また、適宜、担当教官、グループ内学生で進捗状況報告会を行い、担当教官から適切なアドバイスを受け、発生した問題の早期解決を図る。</p>				
<p>授業内容 各課題 1～2 名で、担当教官の指導の下に設計演習を行う。具体的なテーマの例を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 軸加速度センサを用いた傾斜測定 OpenGL を用いた学習支援を目的とするプログラムの開発 R8C/Tiny マイコンを用いた電子ルーレットの設計・製作 Visual C++を用いた物理シミュレーションプログラムの作成 校内案内板の製作 本科 5 年用実習教材開発(画像処理手法入門) 物理量の測定表示システムの開発 <p>12 月と 2 月に中間発表会と最終発表会を実施する。 研究というよりは、新規性はなくても体験して価値があり、達成感のあるテーマを行う。</p>				

成績評価の方法 評価配分:各担当教官評価 50%、発表評価 50%(中間発表会 25%、最終発表会 25%) 各担当教官評価の内訳:取り組み状況、最終報告書を元に評価する。 発表評価の内訳:発表資料のわかりやすさ、説明のわかりやすさ、作業内容の充実度、理解度。 発表会でコミュニケーション能力(論理的な文章表現能力、プレゼンテーション能力)を評価して、最低限必要なレベルに達しない場合には再発表もしくは発表資料の再提出を求める。					
学生へのメッセージ この演習を行うための時間として、週 6 時間、全体で 90 時間が用意されている。これだけの時間をかけて 1 つのテーマを実行するわけだから、真剣に取り組めば内容の理解のみならずシステムデザイン能力も十分身につくはずである。このことを十分認識して、自主的に行って欲しい。					
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標(システムデザイン工学)	C-2 C-3	学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)					

(分析結果とその根拠理由)

学外実習(シニア・インターンシップ)が設定されており、全員が履修し、単位を取得した。

創造性を育む授業としては、生産工学専攻で「デザインテクノロジー」、「計測制御実習」、電子工学専攻において「問題解決グループ演習」、「システムデザイン工学演習」などで実践している。生物応用化学専攻では適切な科目の設定が遅れている。

観点 5-6-③: 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点到に係る状況)

準学士課程と専攻科課程の接続を考慮して、準学士課程のシラバスと同じ様式のシラバスを専攻科でも作成し、利用している(資料 5-6-③-1)。シラバスには、授業概要と到達目標、授業の進め方、授業内容、評価方法、学生へのメッセージ等が記載されている。他の科目との関係や受講する上で必要な知識については、学生へのメッセージの欄にできるだけ記載するようにしている。JABEE の各プログラムの学習・教育目標の記号を記載して、科目の位置づけがわかるようにしている。

各科目において、第 1 回の授業の際に、授業担当教員がその科目のシラバスを学生に配布し、その内容を説明している。また、本校ホームページにも公開している。

シラバスに関しては、学生に対する授業アンケートの中で調査しており、いずれも肯定的回答が多く、学生がある程度シラバスを活用していると言える(資料 5-6-③-2, 資料 5-6-③-3)。また毎年、各学科の教育改善委員会が中心となってシラバスを検討し、その内容に関する指摘や提案を当該学科に対して行っている(資料 5-6-③-4)。これによって、授業の内容や方法の改善を促したり、科目間連携を図っている。

資料 5-6-③-1
シラバス書式

科目番号		対象学年		必修・選択の別	
		年 学科		単位数	
				単位	
授業概要 到達目標 ・ ・ ・					
教科書 参考書					
授業の進め方					
授業内容					
前期			後期		
1		1			
2		2			
3		3			
4		4			
5		5			
6		6			
7		7			
8		8			
9		9			
10		10			
11		11			
12		12			
13		13			
14		14			
15		15			
成績評価の方法					
学生へのメッセージ					
学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	

(出典 平成18年度シラバス)

資料 5 - 6 - ③ - 2

専攻科の授業に関するアンケート

1. シラバス（授業要目）を知っていますか。

- 知っている 知らない

2. シラバス（授業要目）どおりの授業ですか。

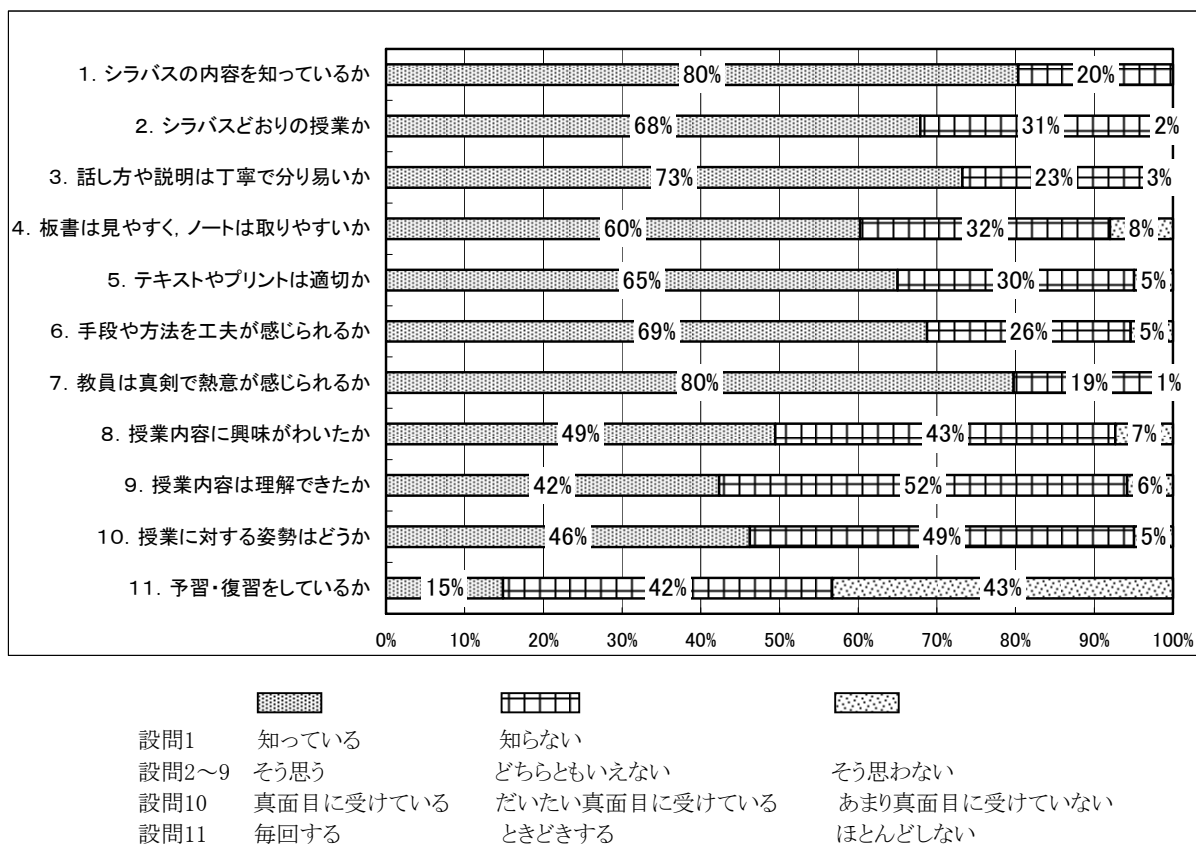
- そう思う どちらともいえない そう思わない

(出典 平成18年度専攻科授業アンケート)

資料 5 - 6 - ③ - 3

図1 授業アンケート総計（講義科目）

回答者延べ人数 471名



(出典 平成 18 年度専攻科授業アンケートより編集)

資料 5 - 6 - ③ - 4

平成 18 年 3 月 30 日

教育改善委員長 河村先生

カリキュラム・シラバス検討委員会
衣笠 巧

平成 18 年度シラバスチェック結果の報告

以下は、平成 18 年度開講科目シラバスについてチェックした結果、問題と思われる点を科目担当者の学科・科別に抽出したものである。チェック項目は、1～3 年生で新しく設定した到達目標と成績評価（特に出席点、受講態度）を中心に検討し、他の部分は十分には見ていない。

一般教養科担当科目

<国語>

国文学

- ・シラバスなし

<社会>

人間と倫理

- ・到達目標が 17 年度より 1 つ減っているのは間違いではないか。
- ・到達目標の「理解すること」を「説明できること」に変えるなど、達成度を評価できる表現に変更できないか。

日本文化史

- ・評価に「受講状況」が入っているが、具体的に到達度を評価できる項目（発表点など）に変える。

日本国憲法

- ・問題なし

現代社会と法

- ・17 年度と授業内容が変わっている。科目名から経済的な内容を法的な内容に変えられたのだと思うが、これでよいかどうか、専攻科として考える必要がある。18 年度は仕方ないとして、19 年度以降科目名変更も含めて検討する余地がある。

(略)

数理科担当科目

<数学>

工業数学及び演習

- ・到達目標が 17 年度よりも具体性がなくなっているため、17 年度の方がよいのでは。
- ・参考書に出版社名がないものがある。
- ・成績評価の方法の平均は、前期 5 割後期 5 割なのか、前期 4 時間後期 2 時間に対応した平均なのか。

プログラミング演習

- ・到達目標から配列が抜けているがそれでよいのか。

数値計算法及び演習 1

- ・到達目標から行列と非線形方程式が抜けているがそれでよいのか。

数値計算法及び演習 2

- ・問題なし

(略)

生物応用化学科担当科目

<物理化学担当>

化学数学 1

- ・問題なし
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

化学数学 2

- ・問題なし
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

物理化学特論

- ・到達目標の「理解すること」の表現を「説明できること」など、達成度を評価できる表現に変更できないか。
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

量子化学

- ・到達目標の「知ること」の表現を「説明できること」等に変更できないか。
- ・教科書欄の配布プリントは書籍とは別の行に記載。

先端機器測定実習

- ・問題なし

(略)
他学科担当科目 (機械)
 シミュレーション工学
 ・シラバスなし
 (略)

(出典 生物応用化学科カリキュラム・シラバス検討委員会記録より編集)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには、各専攻の教育目標に対応した到達目標、およびそのために適切な授業の進め方、授業内容、評価方法などを記載している。

シラバスは、最初の授業で授業担当教員が学生に配布し、授業目標を把握させるために活用している。学生のシラバス周知度も「学生の授業アンケート (専攻科)」で調査され、十分であると判断できる。また、シラバスを毎年見直し、それを通して授業内容の改善や科目間連携のために活用している。

観点 5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導 (例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。) が行われているか。

(観点に係る状況)

特別研究の成果は、2年生の2月に実施される専攻科特別研究発表会で報告され、特別研究論文としてまとめられており、各専攻で定められた評価方法により評価している(資料5-7-①-1, 資料5-7-①-2, 資料5-7-①-3, 訪問調査資料 平成18年度専攻科特別研究報告書)。2年生の4月には中国四国地区専攻科生研究交流会においてほとんどの学生が発表しており、中間報告の機会となっている(資料5-7-①-4, 訪問調査資料 平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集)。さらに、学会発表を強く促すことで、研究のレベルを維持するようにしている(資料5-7-①-5, 資料5-7-①-6, 資料5-7-①-7)。

専攻科での研究テーマについては、学生の希望をもとに教員との話しあいにより決定している。準学士課程の卒業研究のテーマを継続して実施するが多いが、学生が研究テーマの変更を希望する場合には、卒業研究の指導教員と特別研究指導教員を変更することも可能であり、これまでに多くの例がある。

特別研究等の技術支援は、技術室職員の業務として、「新居浜工業高等専門学校技術室要項」に規定されている(資料5-7-①-8)。これまでも、技術職員の支援を受け、専攻科生、技術職員、教員が連名で学会発表を行っている(資料5-7-①-9)。

資料 5-7-①-1

授業科目	担当教員	開講期	
特別研究	特別研究指導教員	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
61963	1、2年 生産工学専攻	必修	7単位

<p>授業概要 研究の遂行を通して、生産工学に関する高度な専門知識と実験技術、自主的・計画的に研究を推進できる能力の育成を目的とする。また、論文作成や研究発表をとおして、文章表現能力とプレゼンテーション能力を会得させる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できること。 ・情報を収集・分析・編集し、本質的問題が発見できること。 ・第三者を納得させる解の導出ができること。 ・報告書の中で、論理的な日本語の表現・記述ができること。 ・プレゼンテーションによる口頭発表ができること。 			
<p>教科書 各指導教員に委ねる。 参考書 各指導教員に委ねる。</p>			
<p>授業の進め方 各指導教員に委ねる。</p>			
<p>授業内容 学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の下に研究を行う。テーマの分野は、機械工学、材料工学の応用分野である。 2年生の学年当初に中間報告書を、2年生の学年末に特別研究報告書を提出し、特別研究発表会で報告する。また学会等において、在学中に1回以上発表を行うことを目標とする。</p>			
<p>成績評価の方法 計画立案・遂行能力(30%)、特別研究発表会(30%)、特別研究報告書(40%)で評価する。</p>			
<p>学生へのメッセージ 2年間という長期間に渡って、各自が1つのテーマに取り組むことになるので、しっかりとした計画の下に自主的に研究を遂行してもらいたい。また、特別研究論文作成や特別研究発表会、学会発表等を通して文章表現能力およびプレゼンテーション能力の向上も心がけてほしい。</p>			
<p>学習・教育目標 (生産工学)</p>	<p>C-2、E-1</p>	<p>学習・教育目標 (システムデザイン工学)</p>	<p>学習・教育目標 (生物応用化学)</p>
<p>(出典 平成 18 年度シラバス)</p>			

資料 5 - 7 - ① - 2

授業科目	担当教員	開講期	
特別研究	電気工学科および電子制御工学科 専攻科特別研究指導教員	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
62961	電子工学専攻	必修	7 単位
<p>授業概要 研究の遂行を通して、これまでに修得してきた電気・電子・情報分野の専門知識と多面的な思考力を活用して、与えられた課題について、問題点の発掘から解決まで自主的に取り組む能力を身に付けさせる。さらに、与えられた課題と密接に関連する研究や考慮すべきシステムなどの調べ方も学ばせる。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現能力とプレゼンテーション能力を身に付けさせる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関する文献調査(英文論文を含む)ができること。 ・研究課題の社会的背景や文献調査結果を踏まえて、研究の展開を考えることができること。 ・与えられた課題に対する解決策を立案できること。 ・解決策を基に、具体的作業を検討し、研究遂行計画を立案できること。 			

<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいて、実際に研究を進め、進捗管理ができること。 ・研究成果を取りまとめ、論理的な文書に記述できること。 ・研究成果を学会等で発表し、討論において的確な受け答えができること。 			
教科書 各指導教員に委ねる。 参考書 各指導教員に委ねる。			
授業の進め方 学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の下に研究を行う。また、特別研究ノートを用意させ、毎週、進捗状況を報告させる。併せて、定期的に1、2年生合同の進捗状況報告会を実施し、複数の教員による研究指導も行う。2年生の学年末に研究成果を特別研究発表会で発表させる。また、学会、専攻科交流会等、学外での口頭発表を義務づける。			
授業内容 学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の指導の下に研究を行う。 (具体的内容は各指導教員に委ねる。)			
成績評価の方法 研究取組状況(特別研究ノート評価を含む)20%、研究進捗状況報告会評価30%、特別研究発表会30%、特別研究報告書20%で評価する。なお、研究進捗状況報告会の評価項目の一つである、与えられた課題と密接に関連する研究や考慮すべきシステムについての考察が不十分な場合には、レポート課題を課す。			
学生へのメッセージ 2年間という長期間に渡って、各自が1つのテーマに取り組むことになるので、しっかりと計画の下に自主的に研究を遂行してもらいたい。また、特別研究論文作成や特別研究発表会、学会発表等を通して文章表現能力およびプレゼンテーション能力の向上も心がけてほしい。			
学習・教育目標 (生産工学)	学習・教育目標 (システムデザイン工学)	C-1 C-3 E-1	学習・教育目標 (生物応用化学)
(出典 平成18年度シラバス)			

資料 5-7-①-3

授業科目	担当教員	開講期	
特別研究	特別研究指導教員	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
63270	1、2年 生物応用化学専攻	必修	5単位
授業概要 応用化学と生物工学に関する高度な専門知識と実験技術、自主的・計画的に研究を推進できる能力、さらには社会の要求に対応して新しい技術を提起できる能力を身につけることを目的として、個別のテーマを持って研究を実施する。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現能力とプレゼンテーション能力を会得する。			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連づけて理解できること。 ・研究目的に沿って実験計画を立案し、それにしたがって実験を遂行できること。また、実験結果に応じて計画の変更を提案できること。 ・得られた実験データを整理し、論理的な解釈ができること。 ・実験成果を取りまとめ、論理的に文書で記述できること。 ・実験成果を学会等で発表し、討論において的確に受け答えができること。 			
教科書 各指導教員に委ねる。 参考書 各指導教員に委ねる。			

<p>授業の進め方 各指導教員に委ねる。</p>			
<p>授業内容 学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の下に研究を行う。テーマの分野は次の通りである。 油脂分解菌に関する研究、抗腫瘍物質の研究、全固体型イオン電極に関する研究、ガスセンサの開発、機能性色素の合成、機能性食品の開発、リポソーム膜の可溶化、新規機能性セラミックスの開発、環境汚染物質の微生物分解、タンパク質の抽出分離法、高分子と界面活性剤の相互作用、光機能性分子の合成と応用、生分解性高分子の合成と実用化等。 1年生の前期末と学年末および2年生の前期末に中間報告書を提出し、2年生の学年末に特別研究論文を提出、特別研究発表会で報告する。また、学会等において、在学中に2回(毎年1回)以上発表を行うことを目標とする。</p>			
<p>成績評価の方法 年1回以上の学会発表(20%)、特別研究発表(20%)、論文(60%)で評価する。ただし、各項目毎に60点以上の評価がなされなければならない。なお、論文の評価60%の内訳は、2回の研究計画書を10%×2、1回の中間レポートを10%、特別研究論文を30%とする。</p>			
<p>学生へのメッセージ 2年間という長期間に渡って、各自が1つのテーマに取り組むことになるので、しっかりとした計画の下に自主的に研究を遂行してもらいたい。また、特別研究論文作成や特別研究発表会、学会発表等を通して文章表現能力およびプレゼンテーション能力の向上も心がけてほしい。</p>			
<p>学習・教育目標 (生産工学)</p>	<p>学習・教育目標 (システムデザイン工学)</p>	<p>学習・教育目標 (生物応用化学)</p>	<p>B-4、C-1、D-1、D-2、D-3</p>
<p>(出典 平成18年度シラバス)</p>			

平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会開催要項

- 1 日 時
平成18年4月24日(月)13時～4月25日(火)12時
- 2 会 場
阿南市文化会館(夢ホール)他
- 3 運 営
専攻科生研究交流会実行委員会
(阿南高専専攻科生+各高専専攻科生1名)
- 4 主 管 校
阿南工業高等専門学校
- 5 日 程
1日目 開会式 (13時)
研究発表 (13時30分～17時35分)
懇談会 (18時30分～20時30分)
2日目 研究発表 (9時～11時30分)
閉会式 (11時45分～12時)
- 6 研究発表
発表者:専攻科学生

発表件数:一人一件
 発表形態:口頭発表(発表時間は未定)及びポスターによる発表形式
 発表部門:「機械部門」「電気・電子部門」「情報・制御部門」
 「土木・建築部門」「物質・化学部門」の5部門とする
 予稿及び発表言語:日本語又は英語とする
 予稿枚数:A4判2ページ
 予稿書式:原則として PDF ファイルによる電子投稿方式とする
 (前年度の書式に準ずる)
 予稿集:送付された予稿をもとに編集、製本する
 運営:学生が主体となり全てを運営する
 参加申し込み:平成18年2月6日(月)～2月24日(金)
 予稿提出締め切り:平成18年3月17日(金)17時

7 懇談会

期 日 平成18年4月24日(月)18時30分から
 場 所 阿南市内ホテル(予定)
 会 費 5,000円(予定)

8 宿泊

阿南市内ホテル(予定)

(出典 平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会ホームページ)

資料5-7-①-5

2 特別研究と学会発表

(1) 特別研究の重視

専攻科では、独創力、解析力、技術的統合能力、プレゼンテーション能力などの涵養のため、特別研究を課しています。特別研究は、専攻科に在学する2年間にわたり、各専門の指導教員のもとで実施する研究であり、特別研究の課題に関する専門的知識の修得のみならず、研究の進め方や発表の仕方についてのノウハウ修得など、専攻科教育課程の中で最も特徴的な科目です。特別研究は本科5年次に実施する卒業研究に引き続いて行うことを基本にしており、指導教員の研究から自分の研究へと深化し、関連する学会で発表できるレベルまで研究内容を深く掘り下げることが可能となっています。特別研究の成果は、在学中に専門分野の学会等で1回以上発表する義務があります。全員積極的に挑戦しましょう。

(2) 学会発表の意義

図1は専攻科生の学会等における口頭発表、論文発表の実績を示しています。学会発表は訓練の場ではありません。真剣勝負の場であり、その経験は重要です。発表は、研究の背景、目的、データ収集やこれらの整理に始まり、概要の作成、発表の構成、OHPなど発表用資料の作成に追われ、発表練習、本番、懇親会へと続きます。これらを経験した学生のほとんどは、今までにない不安や緊張感、そして開放感、達成感を味わっています。さらに、「自分の研究に自身が持てた」「この経験は自分の財産となる」「頑張る姿勢を忘れなければ必ず報われる」「これは確かなことだと分かった」などと感じています。

研究成果は世に発表しなければ埋もれてしまって無意味となります。また、発表することで研究内容が練られ、論文を書くことによってさらに研究すべき新しいテーマが生じてきます。ところで、

平成 15 年度の学会等発表状況は、口頭発表は 29 件、論文発表が、本校紀要 6 件、学協会誌 1 件の計 7 件です。論文発表の件数が全体に少なく、最近は減少傾向にあります。口頭発表および論文発表活動の活性化を図ることを望みます。

(出典 平成 18 年度専攻科履修要覧)

資料 5 - 7 - ① - 6

平成 18 年度本校専攻科生の学外発表状況

[論文等]

伊藤里美

Acoustical Gas Temperature Estimator Applying to Gymnasium and Outdoor Environment for Evaluation of Watering Effect

International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol.2, · No.5 · pp971-984, October 2006

大濱瑛輔

Graph construction with the maximum number of trees by continuous edge addition

Artificial Life and Robotics, Vol.10, No.2, pp.185-188, 2006

新居広光

水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察

第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文 pp.28-31, 2006

阿部伸也, 田中大貴

手作り飛行機の安定飛行に関する研究

新居浜工業高等専門学校紀要, 第 43 号, pp.5-8, 2007

[学会等口頭発表]

阿部伸也

手作り飛行機の安定飛行に関する研究

日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

渡部弘綱

脳性麻痺児用座位保持補助具の開発

日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

莖田賢一

バッテリー式介護・入浴移動車の開発

日本リハビリ工学協会第 20 回リハ工学カンファレンス 2007 年 3 月 (佐賀)

近江将

硬質積層薄膜によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会、2006 年 6 月 (松山)

毛利廣義

Ni 濃度の異なる Cu-Ni-Si 系合金における相変態

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

渡部祐也

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と拡散に関する研究

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

小澤卓矢

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と相互拡散

第 111 回軽金属学会秋期大会 2006 年 11 月 (東京)

日野雅也

メカニカルアロイングを用いた LaFe₄Sb₁₂ 熱電材料の作製

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

石川圭太

界面活性剤-タンパク質複合体の沈殿生成を利用したタンパク質の分離

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

猪谷和成

タリウム-希土類-シリケートガラスの電気特性

第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知)

猪谷和成

8mol%Y₂O₃ 安定化 ZrO₂ 電解質中の SiO₂ 量が電気特性に及ぼす影響

電気化学会第 74 回大会 2007 年 3 月 (野田)

伊藤智理

アガリクス菌床による多環芳香族炭化水素類汚染土壌の浄化(2)

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

柿山拓司

低電荷密度ポリアクリル酸へのドデシルトリエチルアンモニウムイオンの結合挙動

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

鎌田将行

脈動多孔板塔を用いた逆ミセルからのリゾチームの逆抽出

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

野本直弘

高水温で機能する水質浄化微生物の探索

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

藤中祐樹

Alternaria KH-1 株による生分解性ポリマー分解への高級アルコール添加効果

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

坂本洗太郎

海洋生物の付着を防止する微生物生産多糖に関する研究

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

白石竜二

逆ミセル抽出に及ぼす多孔板塔構造の影響

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

藤原和司

ブドウ'デラウェア'の裂果に及ぼす果粉の着生と GA 処理時の硫酸 Mn 加用の影響

園芸学会平成 19 年度春季大会 2007 年 3 月 (京都)

宮脇和宏

多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出における溶液条件の検討

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

山口智之

UASB/DHS 排水処理システムに於ける UASB 槽内の微生物群の解明

日本農芸化学会 2007 年度大会 2007 年 3 月 (東京)

渡邊孝允

各種ペロブスカイト酸化物の炭素酸化特性

第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知)

石本寛幸

回生付電動アシスト自転車の製作

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)

伊藤里美

ウェーブレット変換を用いた採譜システム

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)

片上健太

片眼無眼球者の眼球電図(EOG)特性 ―クロストーク処理法の提案―

電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会 2006 年 7 月 (岡山)

片上健太

眼球電池モデルによる眼電位図の特性解析

第 110 回日本眼科学会総会 2006 年 4 月 (大阪)

河瀬丈志

太陽電池を利用した多機能噴水の開発

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)

白石哲也

前方障害物回避の自動車安全走行支援の提案

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)

高石悠太

垂直磁気記録における CITI 符号化 PR1ML 方式の一検討

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)

新居広光

水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察

第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム	2006 年 11 月	(広島)
<u>伴野慎吾</u>		
進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>星加一太</u>		
屈折コントラストを利用した X 線画像シミュレーション		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>森本康雅</u>		
水/セラミック電極の応用		
第 24 回プラズマプロセッシング研究会	2007 年 1 月	(豊中)
<u>山内健司</u>		
車載レーダ用高効率反射器の設計法		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>山本雄大</u>		
電動アシスト車椅子の開発		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>渡邊潤</u>		
強化信号を用いた学習オートマトン環境変化認識機構に関する一考察		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>大濱瑛輔</u>		
枝付加による最大木数グラフの構成と同形グラフについて		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>大濱瑛輔</u>		
Isomorphic Structure of Graphs with the Maximum Number of Trees		
The 12th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2007, 2007.1, Beppu, JAPAN		
[平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会]		
<u>阿部伸也</u>		
低速飛行機の安定飛行条件に関する研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>宇野弘記</u>		
歩行安定化のための歩行動作の解析		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>近江将</u>		
硬質の薄膜形成によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>越智剛</u>		
酸化鉛を含まない Bi ₂ O ₃ 系低融点ガラスの耐水性評価		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>莚田賢一</u>		
バッテリー式介掛入浴移動車の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>宮崎翔士</u>		
二珪化モリブデン皮膜の作製		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>毛利廣義</u>		
Cu-Ni-Si 合金の時効に伴う相変態過程		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡辺康平</u>		
アルミニウム青銅铸件に対する Mn, Cr, Ti の添加効果		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部弘綱</u>		
座位保持困難者に対する座位保持補助具の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部祐也</u>		
Ti-Al-Co 系における相互拡散に関する基礎研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>石川圭太</u>		

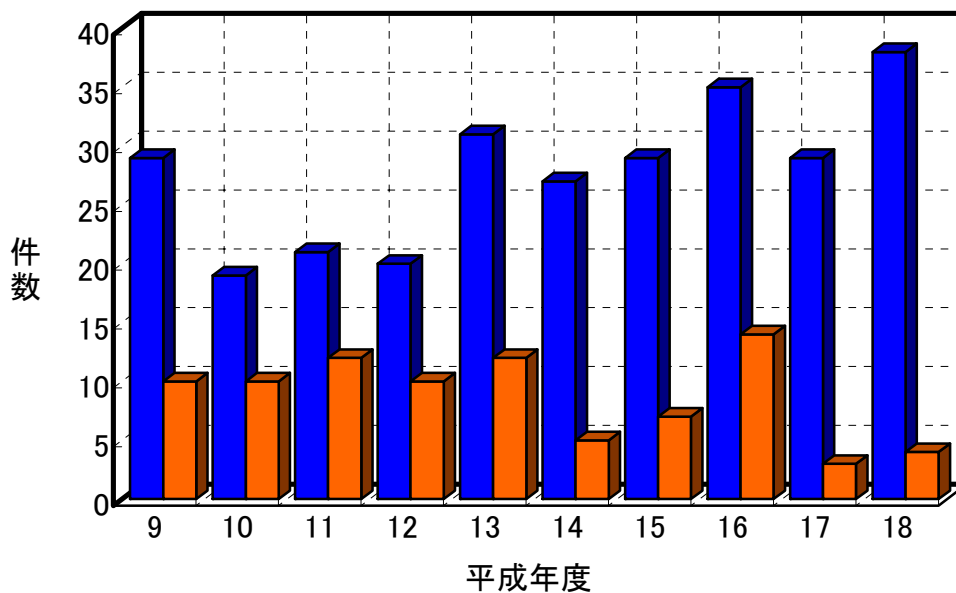
界面活性剤 AOT を用いたタンパク質の沈殿分離	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
猪谷和成			
Na ₂ O-RE ₂ O ₃ -GeO ₂ (RE=希土類元素) 系ガラスの作製と電気特性評価	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
柿山拓司			
ドデシルエチルジメチルアンモニウムのポリアクリル酸への吸着挙動	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
鎌田将行			
脈動多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
野本直弘			
高水温で機能する水質浄化微生物の探索	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
藤中祐樹			
KH-1 株による生分解性ポリマー分解へのリパーゼ誘導物質の添加効果	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
石本寛幸			
回生付電動アシスト自転車の改良	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
伊藤里美			
ウェーブレット変換を用いた採譜システム	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
片上健太			
眼電位圏の解析	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
河渕丈志			
多機能噴水の開発	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
白石哲也			
Java 言語による前方障害物回避の自動車安全走行シミュレーション	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
高石悠太			
垂直磁気記録におけるトラック間干渉軽減符号に関する研究	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
新居広光			
レーザーアブレーションにおける放出電子の高密度プラズマ状態	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
伴野慎吾			
進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
星加一太			
屈折コントラストの医学応用	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
森本康雅			
水セラミック陰極を用いた応用技術の研究	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
山内健司			
車載用高効率反射器の特性解析	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
山本雄大			
電動アシスト車椅子の開発	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
渡邊潤			
多重強化学習法を用いた環境変化認証機構に関する一考案	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)

(出典 平成 18 年度年間業績報告などより抜粋)

資料 5 - 7 - ① - 7

専攻科生の学会等における発表実績 (中四国専攻科生研究交流会での発表を除く)

■ 口頭発表(件数) ■ 論文発表(紀要を含む件数)



(出典 本校ホームページ)

資料 5 - 7 - ① - 8

新居浜工業高等専門学校技術室要項

(業務)

第 3 条 技術室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の実験・実習及び卒業研究等の技術支援に関すること。
- (2) 教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
- (3) 技術の継承及び保存に関すること。
- (4) 技術研修に関する調査研究に関すること。
- (5) 実験室及び実習室等の安全管理に関すること。
- (6) 実験室及び実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
- (7) その他技術業務に関すること。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 5 - 7 - ① - 9

平成 16~18 年度の技術職員の関係する研究発表

①Ti_{50-x}Ni_{35+x}Cu₁₅ のマルテンサイト変態とバイモルフ型アクチュエータの特性形部富夫*¹, 塩崎良太*², 本田智弘*³, 渡邊定和*³*¹ 新居浜工業高等専門学校機械工学科, *² 新居浜工業高等専門学校専攻科生産工学専攻, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

日本材料学会 四国支部 第13回講演大会講演概要 (2004年6月)

②Ti_{50+x}Ni_{35-x}Cu₁₅ 合金薄膜および Ti_{50-x}Ni_{35+x}Cu₁₅ 合金薄膜の二方向形状記憶効果形部富夫*¹, 村上拓也*², 本田智弘*³, 渡邊定和*³*¹ 新居浜工業高等専門学校機械工学科, *² 新居浜工業高等専門学校専攻科生産工学専攻, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

日本材料学会 四国支部 第13回講演大会講演概要 (2004年6月)

③DDAB ベシクル膜の対イオン解離度に及ぼす両親媒性物質の添加効果

明星雅子*¹, 河村秀男*², 真鍋昌裕*², 勝浦創*², 塩見正樹*³*¹ 新居浜工業高等専門学校専攻科生物応用化学専攻, *² 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

第57回コロイドおよび界面化学討論会 (山口東京理科大学) 2004年9月11日

④池の浄化装置の製作

松田雄二*¹, 阿部伸也*², 岩崎正美*³*¹ 新居浜工業高等専門学校機械工学科, *² 新居浜工業高等専門学校専攻科生産工学専攻, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

新居浜工業高等専門学校紀要第42巻、pp11-16

⑤Solubilization of 1-Alkanols in DDAB Vesicle Membrane

明星雅子*¹, 河村秀男*², 真鍋昌裕*², 勝浦創*², 塩見正樹*³*¹ 新居浜工業高等専門学校専攻科生物応用化学専攻, *² 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

Asian Conference on Recent Trends in Colloid and Surface Science (Nagoya University), 2005年12月8日

⑥低電荷密度ポリアクリル酸へのドデシルエチルジメチルアンモニウムイオンの結合挙動

柿山拓司*¹, 勝浦創*², 河村秀男*², 塩見正樹*³*¹ 新居浜工業高等専門学校専攻科生物応用化学専攻, *² 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科, *³ 新居浜工業高等専門学校技術室

第11回高専シンポジウム (長岡), 平成18年1月21日

⑦大気開放型MOCVD法によるPZT膜の作製

中山 享*¹, 辻 久巳*², 塩見正樹*², 朝日太郎*³, 勇 浩二*⁴, 池末明生*⁵*¹ 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科, *² 新居浜工業高等専門学校技術室, *³ 新居浜工業高等専門学校材料工学科, *⁴ ヒートシステム (株), *⁵ (財)ファインセラミックセンター

新居浜工業高等専門学校紀要、第43巻、2007

⑧NH₄Zr₂(PO₄)₃ の熱処理温度とSr固定化特性の関係中山 享*¹, 戸田裕美*², 辻 久巳*³, 塩見正樹*³, 朝日太郎*⁴*¹ 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科, *² ソニーセミコンダクタ九州, *³ 新居浜工業高等専門学校

校技術室、*4新居浜工業高等専門学校材料工学科
新居浜工業高等専門学校紀要、第43巻、2007

(出典 新居浜工業高等専門学校年間業績報告第6号、第7号、第8号より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

学生が特別研究指導教員及び研究テーマを選択できるように配慮されている。またその成果については、すべての学生が学外において発表している。特に中国四国地区専攻科生研究交流会は、他高専の教員や学生とも研究内容について活発に意見交換する場として機能している。また、特別研究の支援等に技術職員が協力できるシステムを整備している。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

単位認定および修了認定については、「新居浜工業高等専門学校学則」及び「新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に定め、専攻科履修要覧を用いて前期始業日のガイダンスで学生に周知している(資料5-8-①-1, 資料5-8-①-2, 訪問調査資料 平成18年度専攻科履修要覧)。この際、1単位の学修時間が授業時間の学習を含めた45時間であることも説明している(資料5-8-①-3, 資料5-8-①-4)。

各科目の成績評価の方法はシラバスに記載し、これに基づいて適切に単位を認定している。なお、前期末試験および学年末試験後に1週間授業期間を設け、答案を返却して採点ミスがないかどうかのチェックをしたり、評価について問い合わせができるようにしている。

単位が認定されなかった科目のうち、条件を満たした場合については再試験を実施している(資料5-8-①-5, 資料5-8-①-6)。

単位認定の結果に基づき、卒業修了認定会議で修了認定を行っている。

資料5-8-①-1

新居浜工業高等専門学校学則

第45条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。

(出典 新居浜工業高等専門学校学則)

資料5-8-①-2

新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

第5条 成績は、授業科目ごとに第4条に規定する試験の成績その他を総合して100点法で評価するものとする。

成績の評価は、次の区分によるものとする。

A 80点以上

- B 70点以上80点未満
- C 60点以上70点未満
- D 60点未満

(単位の認定)

第6条 前条第2項の規定に基づき、A、B及びCに評価された授業科目については、当該単位数を修得と認めるものとする。

(修了要件等)

第7条 専攻科の修了要件は、学則第45条第1項に規定するもののほか、修了に必要な修得単位数の内訳は、別に定めるところによる。

- 2 本校の他専攻、他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、大学等の許可を得た上、受講申告書を、事前に校長に提出しなければならない。なお、その授業科目を履修の上修得した単位は、16単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料5-8-①-3

5. 授業科目、単位等

専攻科の各専攻別の授業科目及び単位数は、16ページ以降に示す各専攻案内の教育課程表のとおりである。

各授業科目の単位数は、45単位時間（33.75実時間）で構成され、該当授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

- (1) 講義については、15単位時間（11.25実時間）の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30単位時間（22.5実時間）の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験及び実習については、45単位時間（33.75実時間）の授業をもって1単位とする。

(出典 平成18年度専攻科履修要覧)

資料5-8-①-4

平成18年4月10日

専攻科生各位

専攻科長

専攻科ガイダンス（平成18年度）

(略)

2. 履修に当たって

1) 単位の考え方と自学自習の勧め（平成18年度 専攻科履修要覧 p.2）

各授業科目の単位数は1単位＝45単位時間（33.75実時間）で構成される。その考え方は次の通りである。

- ・講義：15単位時間（11.25実時間）の授業をもって1単位とする。残りの30単位時間（22.5実時間）は授業時間以外の自主学習によって確保する。

例えば、前期2単位の講義科目の場合、90分授業×15回＝22.5実時間が授業時間であり、45実時間の自主学習を含めて2単位が認められることになる。

- ・演習：30単位時間（22.5実時間）の授業をもって1単位とする。残りの15単位時間（11.25実時間）は授業時間以外の自主学習によって確保する。
- ・実験・実習：45単位時間（33.75実時間）の授業をもって1単位とする。

（略）

（出典 平成 18 年度専攻科ガイダンス資料）

資料 5 - 8 - ① - 5

新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

平成 4 年 4 月 1 日規程第 1 号

（略）

第 4 条 再試験は、期末試験の評価が 60 点未満であった者のうち、別紙様式 5 の「再試験受験願」を、所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施するものとする。

（略）

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料 5 - 8 - ① - 6

(4) 科目担当教員は、合格しなかった科目について再試験を行うことができる。再試験を行うことのできる科目は、成績評価の割合のうち、定期試験が 50% 以上の実験・実習を除く科目である。また、学生が再試験を受けるための資格は、(1) 成績が 50 点～59 点、(2) 欠課時数が、授業時数の 20% 以下の条件を満たすことが必要である。

再試験を希望する学生は、科目担当教員の認印を得た「再試験受験願」を、前期末に合否が判定された科目の場合は 10 月 25 日、後期末に合否が判定された科目の場合は 4 月 25 日までに学生課教務係に提出しなければならない。ただし、2 年次学年末に合否が判定された科目の場合は、「再試験受験願」を 3 月 18 日までに提出しなければならない。

再試験では、課題提出などを課すことは自由であるが、試験を最低 1 回は実施する。

再試験の結果は、前期末に合否が判定された科目の場合は 11 月 18 日、後期末に合否が判定された科目の場合は 5 月 18 日までに学生課教務係に提出する。また、2 年次学年末に合否が判定された科目の場合は、3 月 22 日までに再試験の結果を提出する。再試験の成績評価は最高 60 点とする。

再試験の結果、合格しなかった授業科目のうち、修得する必要がある授業科目については、学生は次年度に再受講しなければならない。

（出典 平成 17 年度教員便覧の改訂箇所より抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価、単位認定および修了認定に関する規定が明確に策定され、その周知も十分である。これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

＜準学士課程＞

準学士課程の教育目標「課題発見と問題解決のための確かな知識，豊かな感性及び実践力を養う」を達成するために，各学科ごとに「デザイン能力」や「問題解決能力」を身に付けさせるための授業科目を適切に配置し，様々な工夫をしている。

関連科目担当教員の指導のもとで適切と認められる演習課題に対して一定の学修成果をあげた者に「課題演習2」の単位を認定している。

英語教育に関しては，英語運用能力を高めるために，「技術英語1」，「時事英語」および「実用英語」においてクラスを半分に分ける少人数教育を導入している。「経営工学」では，幅広い視野を身につけ，将来自分に関わりたい仕事について考えさせるために，経営や知財，品質管理などに関する講義を企業在職者を講師として行っている。

インターンシップは，学習の動機付けと職業に対する意識付けを行うとともに，将来の社会人としての自覚を促すために，4年次に全員が履修している。

特別活動は，人間の素養を涵養するために，「学級経営計画書」にしたがって「特別活動計画書」を作成して計画的に実施している。

社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的・主体的な活動に対して，後援会からの資金援助を行うチャレンジプロジェクトという制度を設けている。学外のコンテストについては，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，デザインコンペティションを3本柱とし，これらへの積極的な参加を促す活動を展開している。また学内でも，ものづくりコンテストをはじめ，各種コンテストを実施している。

＜専攻科課程＞

社会からの要請に対応した授業として，東予産業創造センターの呼びかけに応じて，ベンチャー精神やチャレンジ精神の涵養を図るために，地元企業や高専OBの起業家を講師とする「ベンチャービジネス概論」を開設している。

全専攻共通の必修科目「英語演習書講読」と「科学英語表現」ではクラスを2つに分けて，日本人教員と外国人教員による少人数授業を実施している。「学外実習」は，これまでに学んできた専門の知識・技術を用いて課題発見・問題解決に当たり，実習後の特別研究に活用できるようになることを目的とし，1年次に全員が履修している。

創造性を育む授業として，生産工学専攻で「デザインテクノロジー」，「計測制御実習」，電子工学専攻において「問題解決グループ演習」，「システムデザイン工学演習」などを開講している。

(改善を要する点)

＜準学士課程＞

該当なし。

＜専攻科課程＞

創造性を育む授業について，生物応用化学専攻では適切な科目の設定が遅れている。

(3) 基準5の自己評価の概要

＜準学士課程＞

授業科目は，準学士課程の教育目標を達成するために適切に配置し，その内容を体系化している。

幅広い学生のニーズに対応して、「技能検定及び資格試験」や「技能審査」に合格した場合、および適切と認められる演習課題に対して一定の学修成果をあげた場合に、単位を認定する制度を整えている。

教育効果を高めるために、数学の習熟度別クラス編成、英語の少人数授業、実験科目の少人数・対話型の授業、科学技術ソフトウェアの活用など、さまざまな工夫をおこなっている。

シラバスは、授業目標、進め方、授業内容、評価方法、学生へのメッセージを記載するかたちで統一しており、科目ごとに担当教員から学生に配布している。本校ホームページにも公開し、学生に授業目標を把握させるためだけではなく、科目間連携を図るためにも活用している。

創造性を育むための授業は、各学科で適切に開設している。インターンシップは、主に夏季休業中を利用して実施しており、原則として4年次に全員が履修している。

成績評価、単位認定、進級判定および卒業認定は、履修要覧によってその基準を学生に周知し、厳格かつ適切に実施している。

1～3学年における特別活動は、学級経営計画書に基づいて作成した特別活動計画書にしたがって実施している。また、朝のショートホームルームや研修旅行によっても、人間の素養の涵養に取り組んでいる。

挨拶運動や身だしなみ指導などの生活指導や、クラブ活動やチャレンジプロジェクトなどの課外活動によっても、学生の自主性、責任感、公共心などを喚起している。

<専攻科課程>

専攻科課程は準学士課程との連携を十分配慮しており、かつ専攻科課程の教育目標を達成するために適切に授業を配置している。

学生の幅広いニーズに応えるために、本校の他専攻、他の高等専門学校の専攻科及び大学等の授業科目について単位を認める制度を整えている。また、他機関との間で単位互換協定を締結し、遠隔授業などで単位が修得できるように整備している。

授業形態については、英語科目の少人数授業、学生による発表や実験・実習を取り入れた講義科目、本校OBの起業家などを外部講師とした授業を導入するなど、様々な工夫を行っている。

「学外実習」は、準学士課程での実施を踏まえて課題発見・問題解決の能力を養い、実習後の特別研究に活用できるようになることを目的として実施しており、原則として1年次に全員が履修している。

創造性を育む授業は、生産工学専攻と電子工学専攻で設定されており、問題解決能力、発想力、アイデアの具現化能力などの育成を図っている。

シラバスは、準学士課程と同じ様式で作成している。JABEEの各プログラムの学習・教育目標も記載しており、科目の位置づけがわかるようにしている。

特別研究は、2年次の学年末における専攻科特別研究発表会でその成果を発表させ、特別研究論文として報告させている。中間報告の機会としては、2年次の4月に開催される中国四国地区専攻科生研究交流会があり、ほとんどの学生が発表している。これを含む学会発表を強く推奨することで、研究のレベルを維持するようにしている。

成績評価、単位認定および修了認定については、専攻科履修要覧によってその基準を学生に周知し、厳格かつ適切に行っている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程，専攻科課程とも，カリキュラムに設定された科目を，必修科目や選択必修科目などの条件を満たすように修得することにより，各学科および各専攻の教育目標が達成できるように設計されている（資料6-1-①-1，資料6-1-①-2）。すなわち，卒業要件，修了要件を満たすことで教育目標が達成できるようになっており，科目の修得状況によって教育目標の達成状況を把握できる。各科目では到達目標を定めており，その達成度を定期試験，小テスト，レポートなどの方法で評価し，60点以上を合格としている。到達目標と成績評価の方法はシラバスに明記している（資料6-1-①-3，訪問調査資料 平成18年度シラバス）。各科目の修得状況は，準学士課程では年4回，専攻科課程では年2回，学生の成績一覧表を作成し，全教員に配布することで把握できるようになっている。

資料 6 - 1 - ① - 1

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名					
	1年	2年	3年	4年	5年	
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学A	
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	数学特別演習		
		工学基礎実験		数値計算		
	物理1	物理2	応用物理1	確率統計		
	化学1	化学2		応用物理2	応用物理3	
	情報リテラシー		情報処理		経営工学	
B (専門知識)	機械工学入門		材料力学1	熱力学	熱機関	
			機構学	水力学	化学工学概論	
			メカトロニクス基礎	材料力学2	流体機械	
				電気工学概論1	材料力学3	
				メカトロニクス応用	電気工学概論2	
				計測工学	機械制御	
				工学実験1	機械力学	
			金属材料		工学実験2	
					非金属材料	塑性加工学
						機械設計製図
	機械製図1	機械製図2	CAD製図	機械設計法		
	工作実習1	工作実習2	総合実習			
		機械工作法				
C (デザイン能力)		デザイン工学演習		工学実験1	工学実験2	
				創造設計製作	卒業研究	
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学	
	倫理				歴史特論	
	情報リテラシー				ヨーロッパ思想特論	
	武道				自然科学史	
	体育1	保健			応用倫理学	
	体育2				環境と人間	技術者倫理
	国語1	体育3	体育4	体育5		
	音楽	国語2	国語3	国語4	国語特講	
	美術				初級独語	中級独語
					独語会話	
				初級中国語	中級中国語	
				インターンシップ		
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講	
					創造設計製作	卒業研究
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語	
		英語2B	英語3		総合英語	
	英会話1		英会話2		実用英語	
					英会話3	
F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動			

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電気情報工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1 → 数学A-3-2	応用数学B	
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	数学特別演習 確率統計	
	物理1	物理2	応用物理1	応用物理2	
	化学1	化学2		機械工学概論A → 機械工学概論B → 機械工学概論C	
	情報リテラ				経営工学
B (専門知識)		電気電子計測	電気電子材料	電気電子設計	電機機器A → 電機機器B 電力工学A → 電力工学B 自動制御1 → 自動制御2
	電気情報基礎	回路理論1	基礎電子回路	電子回路	半導体工学A → 半導体工学 電気法規
	電気情報基礎演習	回路理論演習	回路理論2	回路理論3	電波工学 通信工学 通信機器
		電気数学A	電気数学B	電磁気学1 → 電磁気学2	電波法規
	情報処理基礎	プログラミング1	プログラミング2	情報理論	情報通信システム
			デジタル回路	数値計算A → 数値計算B	
	電気情報実習A	電気情報実習B	電気情報工学実験1	コンピュータハードウェア	コンピュータ応用システム
				アルゴリズムとデータ構造	情報通信ネットワーク
				画像処理	OSとアーキテクチャ
				情報数学	ファイルとDB
			電気情報工学実験2	人工知能 ソフトウェアの設計と開発 電気工学実験 情報工学実験	
C (能力)					卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラ				ヨーロッパ思想特論
					自然科学史
	武道	保健			応用倫理学
	体育1	体育2	体育3	体育4	環境と人間 → 技術者倫理
	国語1	国語2	国語3	国語4	体育5
	音楽				国語特講
	美術			初級独語	中級独語
				初級中国語	独語会話 中級中国語
			インターンシップ		
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	電気工学実験
	電気情報実習A	電気情報実習B	電気情報工学実験1	電気情報工学実験2	情報工学実験
					卒業研究
	英語1	英語2A → 英語2B	技術英語1 → 英語3	技術英語2	時事英語
					総合英語
	英会話1		英会話2		実用英語 英会話3
F (性・社会)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学科 平成18年度入学生)					
教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1	数学A-2	数学A-3-1	数学A-3-2	応用数学B
	数学B-1	数学B-2	数学B-3	応用数学D	
	物理1	物理2	基礎情報数学	数学特別演習	
	化学1	化学2	応用物理1	応用物理2	
	情報リテラシー				経営工学
B (専門知識)	電気基礎1	電気基礎2	電気磁気学1	電気磁気学2	電気磁気学3
	電気基礎演習	電気回路1	電気回路2	電気回路3	電気回路4
			電子回路1	電子回路2	
		デジタル回路1	デジタル回路	電子計算機1	電子計算機2
		計測工学			
		メカトロニクス基礎	メカトロニクス		
	情報処理1	情報処理2	情報処理3	電気機器	数値計算
			情報基礎実習		
		電気電子実験1	電気電子実験2	電子制御実験1	電子制御実験2
	電子基礎実習			電子創作実習	
				工学基礎研究	
	C (能力)				
D (教養・技術者倫理)	地理	歴史1	歴史2	政治・経済	法学
	倫理				歴史特論
	情報リテラシー				ヨーロッパ思想特論
	武道	保健			自然科学史
	体育1	体育2	体育3	体育4	体育5
	国語1	国語2	国語3	国語4	国語特講
	音楽			初級独語	中級独語
	美術			初級中国語	中級中国語
				インターンシップ	独語会話
					環境と人間
				技術者倫理	
E (コミュニケーション能力)	国語1	国語2	国語3	国語4	
				電子制御実験1	電子制御実験2
				工学基礎研究	卒業研究
	英語1	英語2A	技術英語1	技術英語2	時事英語
	英会話1	英語2B	英語3		総合英語
		英会話2		実用英語	
				英会話3	
F (性) (社会)	特別活動	特別活動	特別活動		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (環境・倫理・技術者)				合成化学 インターンシップ	環境と人間 → 環境化学 有機工業化学 技術者倫理 応用倫理学
	数学A-1 数学B-1 物理1 化学1 生物応用化学演習1A 情報リテラシー	数学A-2 数学B-2 物理2 化学2 生物応用化学演習2A コンピュータサイエンス	数学A-3-1 → 数学A-3-2 数学B-3 応用物理1 生物応用化学演習3 物理化学1	応用数学C 確率統計 数学特別演習 応用物理2 → 応用物理3 応用化学演習1 → 応用化学演習2 物理化学2 生物物理化学1 化学工学1 無機化学1 有機化学2 分析化学	生物物理化学2 化学工学2 化学工学3 無機機能化学 → 材料物性化学 有機工業化学 有機機能化学 生物化学2 → 生物化学3 分子生物学1 → 分子生物学2 生体触媒工学 → 細胞遺伝子工学 微生物工学 → 醗酵工学 食品化学
B (専門知識)		有機化学1	生物化学1	生物化学2 → 生物化学3 機器分析 生物工学実験1 → 生物工学実験2 インターンシップ	卒業研究 分子生物学2 細胞遺伝子工学 醗酵工学 食品化学
	基礎生物学1 基礎化学実験	基礎生物学2 微生物学 分析化学実験	生物化学1 生物応用化学実験1 生物応用化学実験2	生物化学2 → 生物化学3 機器分析 生物工学実験1 → 生物工学実験2 インターンシップ	卒業研究
C (自己表現)	国語1 英語1 英会話1	国語2 英語2A 英語2B	国語3 技術英語1 英語3 英会話2	国語4 プレゼンテーション技法 インターンシップ 合成化学 技術英語2 英語3	国語特講 卒業研究 有機工業化学 時事英語 工業英語 総合英語 実用英語 英会話3
				インターンシップ プレゼンテーション技法 政治・経済	卒業研究 経営工学 法学 歴史特論 ヨーロッパ思想特論 自然科学史 応用倫理学
D (問題解決能力・自己向上力)	地理 倫理 情報リテラシー 武道 体育1 国語1 音楽 美術	歴史1 保健 体育2 国語2	歴史2 体育3 国語3	政治・経済 体育4 国語4 初級独語 初級中国語	環境と人間 体育5 国語特講 中級独語 独語会話 中級中国語
	特別活動	特別活動	特別活動		
E (性・社会)					

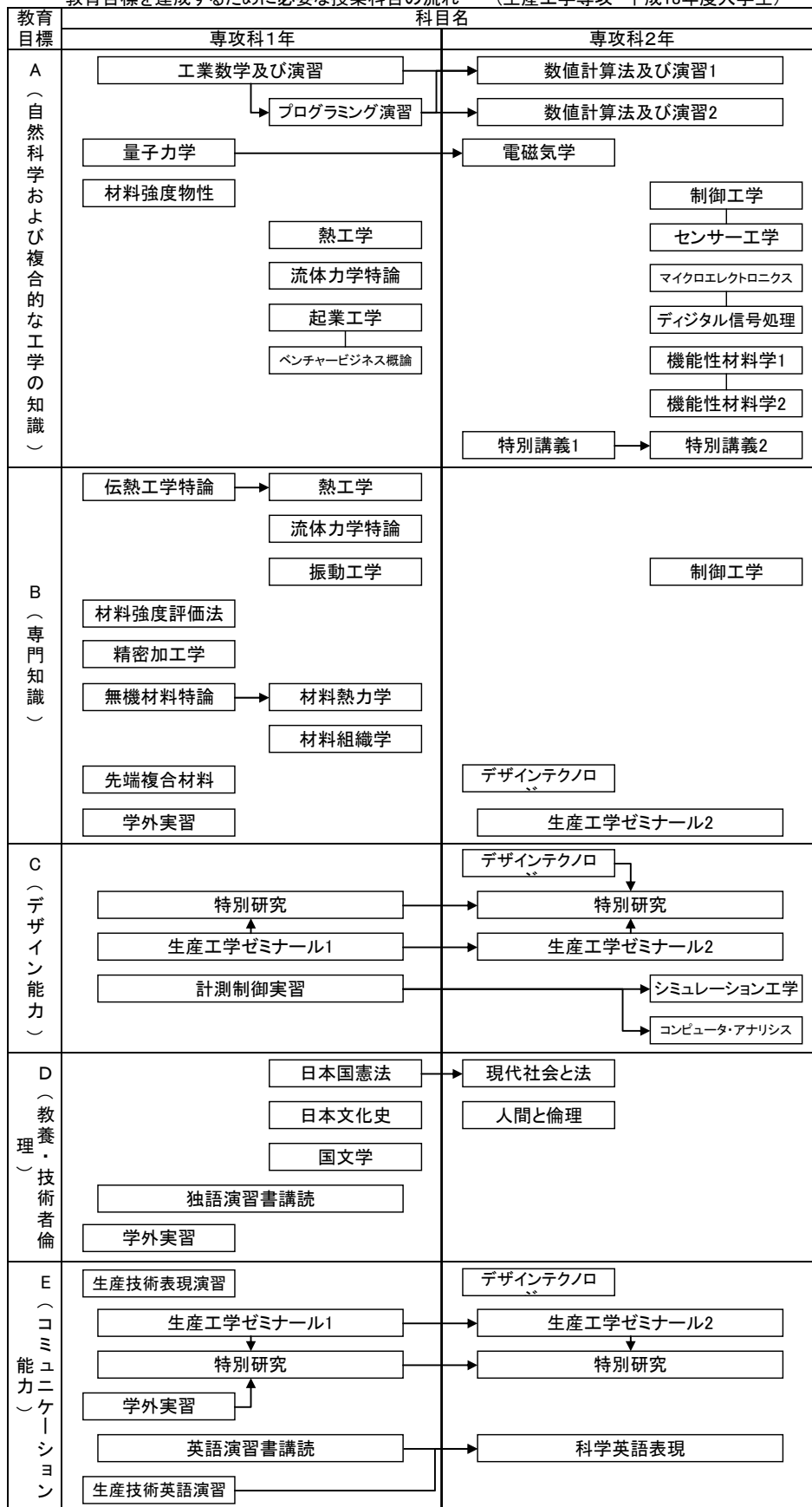
教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (材料工学科 平成18年度入学生)

教育目標	科目名				
	1年	2年	3年	4年	5年
A (工学基礎知識)	数学A-1 ↑ 材料基礎演習 ↓ 数学B-1	数学A-2	数学A-3-1 → 数学A-3-2	応用数学B ↓ 数学特別演習	
	物理1 ↓ 化学1	物理2 ↓ 化学2	数学B-3 ↓ 応用物理1	確率統計 ↓ 応用物理2	
B (専門知識)	情報リテラシー	情報処理1	情報処理2		経営工学
	材料工学入門 ↓ 基礎製図	材料科学1 ↓ 材料工学演習 ↓ 機械工作法 ↓ 機械工作法実習	材料科学2 ↓ 物理化学 ↓ 無機化学 ↓ 材料力学 ↓ 設計製図 ↓ 電気工学概論 ↓ 材料工学実験1	金属材料学1 ↓ 金属材料学2 ↓ 材料物理化学 ↓ 無機材料学 ↓ 有機化学 ↓ 材料表面学 ↓ 材料加工学 ↓ 総合実習	複合材料 ↓ 粉体工学 ↓ 機械工学概論 ↓ 環境材料学 ↓ 高分子材料学 ↓ 電子材料学 ↓ 材料強度学 ↓ 材料物性学 ↓ 材料接合工学 ↓ 計測制御工学
C (デザイン能力)				材料工学実験2 ↓ 総合実習 ↓ 工学基礎研究	材料工学実験3 ↓ 材料工学実験4 ↓ 卒業研究
D (教養・技術者倫理)	地理 ↓ 倫理 ↓ 情報リテラシー	歴史1	歴史2	政治・経済	法学 ↓ 歴史特論 ↓ ヨーロッパ思想特論 ↓ 自然科学史 ↓ 応用倫理学 ↓ 環境と人間 → 技術者倫理
	武道 ↓ 体育1 ↓ 国語1 ↓ 音楽 ↓ 美術	保健 ↓ 体育2 ↓ 国語2	体育3 ↓ 国語3	体育4 ↓ 国語4 ↓ 初級独語 ↓ 初級中国語 ↓ インターンシップ	体育5 ↓ 国語特講 ↓ 中級独語 ↓ 独語会話 ↓ 中級中国語
E (コミュニケーション能力)	国語1 ↓ 英語1 ↓ 英会話1	国語2 ↓ 英語2A ↓ 英語2B	国語3 ↓ 技術英語1 ↓ 英語3 ↓ 英会話2	国語4 ↓ インターンシップ ↓ 技術英語2 ↓ 工業英語	国語特講 ↓ 卒業研究 ↓ 時事英語 ↓ 総合英語 ↓ 実用英語 ↓ 英会話3
	F (社会性)	特別活動	特別活動	特別活動	

(出典 各学科(科)作成)

資料 6-1-①-2

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生産工学専攻 平成18年度入学生)



教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (生物応用化学専攻 平成18年度入学生)

教育目標	科目名	
	専攻科1年	専攻科2年
A (環境・倫理・技術者)	理論有機化学 → 有機合成化学 先端化学産業概論 学外実習	環境化学特論 電気化学 特別講義2 人間と倫理
	工業数学及び演習 化学数学1 → 化学数学2 プログラミング演習 物理化学特論 化学工学概論 → 化学工学特論	数値計算法及び演習1 数値計算法及び演習2 シミュレーション工学 電磁気学 → マイクロエレクトロニクス 量子化学 機能性材料学2 反応工学 無機化学特論 → 機能性材料学1 電気化学 → センサー工学
B (専門知識)	理論有機化学 → 有機合成化学 高分子化学概論 生物化学概論 → 生物化学特論 微生物工学概論 先端機器測定実習 学外実習 特別研究	環境化学特論 細胞工学特論 特別研究
	化学技術表現演習 国文学 特別研究 学外実習 理論有機化学 → 有機合成化学 英語演習書講読	特別研究 無機化学特論 → センサー工学 科学英語表現 化学技術英語演習
C (自己表現)	特別研究 学外実習 先端化学産業概論 → 起業工学 ベンチャービジネス概論 プログラミング演習	特別研究 化学特許概論 → 特別講義2 数値計算法及び演習1 数値計算法及び演習2 シミュレーション工学 電磁気学 → マイクロエレクトロニクス 制御工学 センサー工学 機能性材料学1 機能性材料学2
	英語演習書講読 独語演習書講読 日本国憲法 日本文化史 化学技術表現演習 国文学	科学英語表現 化学技術英語演習 現代社会と法 人間と倫理 特別講義1
D (問題解決能力・自己向上力)		

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子工学専攻 平成18年度入学生)		
教育目標	科目名	
	専攻科1年	専攻科2年
A (自然科学及び複合的な工学の知識)	工業数学及び演習	
	数値解析学及び演習	
B (専門知識)	量子力学	
	線形システム理論	機械システム設計
C (システムデザイン能力)	計算機制御特論	
	環境化学概論	
D (教養・技術者倫理)	生体情報工学	人工知能
	信号処理	通信工学特論
E (コミュニケーション能力)	電磁気学特論	電子物性論
	電子材料特論	電子材料特論
A (自然科学及び複合的な工学の知識)	起業工学	機能性材料学
	ベンチャービジネス概論	
B (専門知識)	学外実習	
	電気回路特論	グラフ理論
C (システムデザイン能力)	学外実習	
	パワーエレクトロニクス	計測工学特論
D (教養・技術者倫理)	学外実習	センサー工学
	システム工学	マイクロ波工学
E (コミュニケーション能力)	問題解決グループ演習	精密加工学
	システムデザイン工学演習	物理化学特論1
A (自然科学及び複合的な工学の知識)	学外実習	物理化学特論2
	特別研究	特別講義1
B (専門知識)	特別研究	特別講義2
	特別研究	
C (システムデザイン能力)	特別研究	
	特別研究	
D (教養・技術者倫理)	日本国憲法	現代社会と法
	日本文化史	人間と倫理
E (コミュニケーション能力)	国文学	
	独語演習書講読	
A (自然科学及び複合的な工学の知識)	電子工学ゼミナール	
	英語演習書講読	科学英語表現
B (専門知識)	電子技術英語演習	
	学外実習	
C (システムデザイン能力)	特別研究	特別研究
	特別研究	特別研究

(出典 各専攻作成)

資料6-1-①-3

シラバス書式

授業科目	担当教員	開講期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
	年 学科		単位
授業概要 到達目標 ・			
教科書 参考書			
授業の進め方			
授業内容			
前期		後期	
1		1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	
成績評価の方法			

学習・教育目標 (生産工学)		学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
(出典 平成18年度シラバス)					

(分析結果とその根拠理由)

卒業要件，修了要件を満たすように科目を修得することで教育目標を達成できるようにカリキュラムが設計されており，科目の修得状況から教育目標の達成度が把握できるようになっている。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位修得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程学生の進級率は，平成17年度にやや低下したものの，年々高くなっており，平成18年度は93%であった(資料6-1-②-1)。専攻科課程の進級率は平成14年度から18年度までの平均が97%である(資料6-1-②-2)。また，専攻科修了生は，学位授与機構の審査により，全員学士の学位を授与されている。

学校が認める資格を取得した場合，「技能審査」あるいは「課題演習1」として単位を認定しており，認定された学生数は年々増加傾向にある(資料6-1-②-3)。また，平成18年度に，数学検定において優秀な成績を収めた団体に対して贈られる「数検」グランプリ金賞を受賞した(資料6-1-②-4)。

卒業研究の成果は，学年末に実施される卒業研究発表会で報告し，卒業研究論文としてまとめられており，各学科が定めた評価方法により複数の教員が厳正に評価している(資料6-1-②-5)。専攻科課程の特別研究の成果は全員が学会などで発表しており，研究のレベルは維持されている(資料6-1-②-6)。

また，デザインコンペティション，プログラミングコンテスト，学生室内飛行ロボットコンテスト，キャンパスベンチャーグランプリなどにチャレンジし，高い成果を上げている(資料6-1-②-7，資料6-1-②-8，資料6-1-②-9，資料6-1-②-10)

資料6-1-②-1

本科生の年度別退学，留年，進級者数

年 度	H18	H17	H16	H15	H14
年度当初在籍者数(A)	996	1003	979	970	967
留年/退学	48/26	48/47	47/35	41/52	63/52
合計者数(B)	74	95	82	93	115

進級率($(A-B) \div A$)	92.5	90.5	91.6	90.4	88.1	
-----------------------	------	------	------	------	------	--

(出典 教務係資料)

資料6-1-②-2

専攻科生の年度別在籍，退学者数

年 度	H18	H17	H16	H15	H14
年度当初在籍者数(A)	57	60	53	51	55
退学者数(B)	1	2	0	3	2
学年末在籍者数(A-B)	56	58	53	48	53
在籍率($(A-B) \div A$)	98.2	96.7	100	94.1	96.4

(出典 教務係資料)

資料6-1-②-3

平成16年度	M	E	D	C	Z	計	合計	
基本情報処理技術者試験			2			2	2	
初級システムアドミニストレータ			2			2	2	
デジタル技術検定	4級	1				1	2	
	3級		1			1		
情報処理活用能力検定	3級		1	1		2	3	
	準2級			1		1		
パーソナルコンピューター利用技術検定	3級		1			1	10	
	2級			9		9		
危険物取扱者	甲種				3	3	11	
	乙種	3			3	2		
電気工事士	2種	1				1	1	
工事担任者	デジタル第1種		1			1	4	
	デジタル第3種		2			2		
	アナログ・デジタル総合職		1			1		
実用英語技能検定	準2級	3	2	4	2	1	12	12
工業英語能力検定	3級	1		1			2	2
実用数学技能検定	2級			1	1		2	2
日本漢字能力検定	2級		4		1	1	6	6
日本語能力検定	1級		2				2	2
TOEIC	615点				1		1	3
TOEIC	930点		1				1	
TOEIC	890点		1				1	
計		9	15	23	11	4	62	62

平成17年度		M	E	D	C	Z	計	合計
デジタル技術検定	3級	0	5	16	0	0	21	25
	2級情報部門	0	0	2	0	0	2	
	2級制御部門	0	2	0	0	0	2	
危険物取扱者	甲種	0	0	0	1	0	1	13
	乙種	5	0	0	6	1	12	
初級システムアドミニストレータ		0	0	3	0	0	3	3
パーソナルコンピューター利用技術認定試験	3級	0	0	6	0	0	6	10
	2級	0	1	3	0	0	4	
情報処理活用能力検定	準2級 コミュニケーション分野	0	1	0	0	0	1	2
	3級 情報リテラシー分野	0	1	0	0	0	1	
CGクリエイター検定	2級 WEBデザイン部門	0	0	1	0	0	1	1
CGエンジニア検定	3級	0	0	1	0	0	1	1
マルチメディア検定	3級	0	0	1	0	0	1	1
工事担任者	アナログ・デジタル 総合種	0	1	0	0	0	1	1
機械設計技術者	3級	3	0	0	0	0	3	3
基本情報処理技術者試験		0	1	0	0	0	1	1
日本語漢字能力検定	2級	0	2	5	1	1	9	9
日本語能力試験	1級	1	1	1	1	1	5	5
実用数学技能検定	2級	1	3	6	1	0	11	11
TOEIC	850点～	0	0	1	0	0	1	11
	700点～849点	1	0	1	0	0	2	
	500点～699点	0	0	2	0	0	2	
	400点～499点	0	1	1	3	1	6	
実用英語技能検定	準2級	0	0	3	3	0	6	6
工業英語技能検定	3級	0	0	1	0	0	1	1
計		11	19	54	16	4	104	104

平成18年度		M	E	D	C	Z	計	合計
デジタル技術検定	3級		5	11			16	22
	2級情報部門		1	3			4	
	2級制御部門			2			2	
危険物取扱者	甲種				2		2	25
	乙種	5			16	2	23	
初級システムアドミニストレータ			1	2			3	3
パーソナルコンピューター利用技術認定試験	3級						0	1
	2級			1			1	
情報処理活用能力検定	3級		1				1	1
基本情報処理技術者試験			1				1	1
CGクリエイター検定	2級 WEBデザイン部門						0	0
CGエンジニア検定	3級						0	0
マルチメディア検定	3級						0	0
電気工事士	2種		6				6	6
工事担任者	AI-DD総合種		1				1	1
ガス溶接技能者		1					1	1
機械設計技術者	3級	8					8	8
日本語漢字能力検定	2級	2	1	1	1	1	6	6
日本語能力試験	1級						0	0
実用数学技能検定	2級	3	8	4	4	3	22	22
TOEIC	850点～						0	13
	700点～849点		1	2			3	
	500点～699点	1	2			1	4	
	400点～499点			5	1		6	
TOEFL	CBT 173点			1			1	1
実用英語技能検定	2級		1	3			4	8
	準2級			1	3		4	
工業英語技能検定	3級						0	0
計		20	29	36	27	7	119	119

(出典 教務係資料)

資料6-1-②-4

<「数検」グランプリ金賞> 団体

部門	学校・団体名	都道府県名
大学・短期大学	姫路獨協大学	兵庫県
高等専門学校	仙台電波工業高等専門学校	宮城県
高等専門学校	新居浜工業高等専門学校	愛媛県

(以下略)

(出典 (財)日本数学検定協会ホームページ)

資料 6 - 1 - ② - 5

授業科目	担当教員	開講期	
卒業研究 (Graduation Study)	機械工学科全教員	通年	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11920	5年 機械工学科	必修	12 単位

授業目標

研究テーマへの自主的な取組みを通して、学んだ専門知識を活用する能力、設計製作等の技術力、IT に関する知識、問題の発掘と解決する能力、実験結果を解析し考察する能力、プレゼンテーション能力などを実践的に身に付けること。

教科書 各教官に委ねる。

参考書 各教官に委ねる。

授業の進め方 各教官あたり 3～4 名の学生を指導する。学生は個人あるいはグループごとに研究テーマに取り組む。各教官が実施予定の研究テーマを紹介し、学生は希望するテーマを決定する。

授業内容 学生各自が研究テーマを持ち、各教官の指導のもとに研究を行う。テーマの分野は次の通りである。

- 材料力学・材料試験
- 熱工学
- 流体工学
- 制御系設計
- 計測法
- 工業材料
- 加工法
- ロボットの設計・製作
- 福祉・介護機器
- 他、機械工学に関連する分野

成績評価の方法 日常の研究態度 40%、卒業研究報告書 40%、卒業研究発表会 20%として評価する。

学生へのメッセージ これまでの講義内容や、図書館、インターネットなどの幅広い情報を総括して、自主的に研究課題に取り組み、問題を解決する習慣を身に付けること。また、研究課題を見極め、研究目標をしっかりと計画し、その計画をいかにして効率よく成し遂げられるかを考えながら、研究の成果のみならず、研究スタッフとしての自主性と協調性の両面を経験とともに身に付けて欲しい。

学習・教育目標 (生産工学)	C-1、 C-2,E-1	学習・教育目標 (システムデザイン工学)		学習・教育目標 (生物応用化学)	
-------------------	-----------------	-------------------------	--	---------------------	--

(出典 平成 18 年度シラバス)

平成 18 年度本校専攻科生の学外発表状況

〔論文等〕

伊藤里美

Acoustical Gas Temperature Estimator Applying to Gymnasium and Outdoor Environment for Evaluation of Watering Effect
International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol.2, • No.5 • pp971-984, October 2006

大濱瑛輔

Graph construction with the maximum number of trees by continuous edge addition
Artificial Life and Robotics, Vol.10, No.2, pp.185-188, 2006

新居広光

水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察
第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文 pp.28-31, 2006

阿部伸也, 田中大貴

手作り飛行機の安定飛行に関する研究
新居浜工業高等専門学校紀要, 第 43 号, pp.5-8, 2007

〔学会等口頭発表〕

阿部伸也

手作り飛行機の安定飛行に関する研究
日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

渡部弘綱

脳性麻痺児用座位保持補助具の開発
日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

莚田賢一

バッテリー式介護・入浴移動車の開発
日本リハビリ工学協会第 20 回リハ工学カンファレンス 2007 年 3 月 (佐賀)

近江将

硬質積層薄膜によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究
第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会、2006 年 6 月 (松山)

毛利廣義

Ni 濃度の異なる Cu-Ni-Si 系合金における相変態
第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

渡部祐也

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と拡散に関する研究
第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

小澤卓矢

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と相互拡散
第 111 回軽金属学会秋期大会 2006 年 11 月 (東京)

日野雅也

メカニカルアロイングを用いた LaFe₄Sb₁₂ 熱電材料の作製
第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

石川圭太

界面活性剤-タンパク質複合体の沈殿生成を利用したタンパク質の分離
第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

猪谷和成

タリウム-希土類-シリケートガラスの電気特性
第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知)

猪谷和成

8mol%Y₂O₃ 安定化 ZrO₂ 電解質中の SiO₂ 量が電気特性に及ぼす影響
電気化学会第 74 回大会 2007 年 3 月 (野田)

伊藤智理

アガリクス菌床による多環芳香族炭化水素類汚染土壌の浄化(2)
日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

柿山拓司

低電荷密度ポリアクリル酸へのドデシルトリエチルアンモニウムイオンの結合挙動

<p>第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島) <u>鎌田将行</u> 脈動多孔板塔を用いた逆ミセルからのリゾチームの逆抽出 第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島) <u>野本直弘</u> 高水温で機能する水質浄化微生物の探索 日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山) <u>藤中祐樹</u> <i>Alternaria</i> KH-1 株による生分解性ポリマー分解への高級アルコール添加効果 日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山) <u>坂本洗太郎</u> 海洋生物の付着を防止する微生物生産多糖に関する研究 日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山) <u>白石竜二</u> 逆ミセル抽出に及ぼす多孔板塔構造の影響 第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島) <u>藤原和司</u> ブドウ'デラウェア'の裂果に及ぼす果粉の着生と GA 処理時の硫酸 Mn 加用の影響 園芸学会平成 19 年度春季大会 2007 年 3 月 (京都) <u>宮脇和宏</u> 多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出における溶液条件の検討 第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島) <u>山口智之</u> UASB/DHS 排水処理システムに於ける UASB 槽内の微生物群の解明 日本農芸化学会 2007 年度大会 2007 年 3 月 (東京) <u>渡邊孝允</u> 各種ペロブスカイト酸化物の炭素酸化特性 第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知) <u>石本寛幸</u> 回生付電動アシスト自転車の製作 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>伊藤里美</u> ウェーブレット変換を用いた採譜システム 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>片上健太</u> 片眼無眼球者の眼球電図(EOG)特性 ―クロストーク処理法の提案― 電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会 2006 年 7 月 (岡山) <u>片上健太</u> 眼球電池モデルによる眼電位図の特性解析 第 110 回日本眼科学会総会 2006 年 4 月 (大阪) <u>河渕丈志</u> 太陽電池を利用した多機能噴水の開発 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>白石哲也</u> 前方障害物回避の自動車安全走行支援の提案 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>高石悠太</u> 垂直磁気記録における CITI 符号化 PR1ML 方式の一検討 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>新居広光</u> 水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察 第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム 2006 年 11 月 (広島) <u>伴野慎吾</u> 進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山) <u>星加一太</u> 屈折コントラストを利用した X 線画像シミュレーション</p>
--

平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>森本康雅</u>		
水/セラミック電極の応用		
第 24 回プラズマプロセッシング研究会	2007 年 1 月	(豊中)
<u>山内健司</u>		
車載レーダ用高効率反射器の設計法		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>山本雄大</u>		
電動アシスト車椅子の開発		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>渡邊潤</u>		
強化信号を用いた学習オートマトン環境変化認識機構に関する一考察		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>大濱瑛輔</u>		
枝付加による最大木数グラフの構成と同形グラフについて		
平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会	2006 年 9 月	(松山)
<u>大濱瑛輔</u>		
Isomorphic Structure of Graphs with the Maximum Number of Trees		
The 12th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2007, 2007.1, Beppu, JAPAN		
[平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会]		
<u>阿部伸也</u>		
低速飛行機の安定飛行条件に関する研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>宇野弘記</u>		
歩行安定化のための歩行動作の解析		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>近江将</u>		
硬質の薄膜形成によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>越智剛</u>		
酸化鉛を含まない Bi ₂ O ₃ 系低融点ガラスの耐水性評価		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>莖田賢一</u>		
バッテリー式介掛入浴移動車の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>宮崎翔士</u>		
二珪化モリブデン皮膜の作製		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>毛利廣義</u>		
Cu-Ni-Si 合金の時効に伴う相変態過程		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡辺康平</u>		
アルミニウム青銅铸件に対する Mn, Cr, Ti の添加効果		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部弘綱</u>		
座位保持困難者に対する座位保持補助具の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部祐也</u>		
Ti-Al-Co 系における相互拡散に関する基礎研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>石川圭太</u>		
界面活性剤 AOT を用いたタンパク質の沈殿分離		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>猪谷和成</u>		
Na ₂ O-RE ₂ O ₃ -GeO ₂ (RE=希土類元素) 系ガラスの作製と電気特性評価		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>柿山拓司</u>		

ドデシルエチルジメチルアンモニウムのポリアクリル酸への吸着挙動		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>鎌田将行</u>		
脈動多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>野本直弘</u>		
高水温で機能する水質浄化微生物の探索		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>藤中祐樹</u>		
KH-1 株による生分解性ポリマー分解へのリパーゼ誘導物質の添加効果		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>石本寛幸</u>		
回生付電動アシスト自転車の改良		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>伊藤里美</u>		
ウェーブレット変換を用いた採譜システム		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>片上健太</u>		
眼電位園の解析		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>河渕丈志</u>		
多機能噴水の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>白石哲也</u>		
Java 言語による前方障害物回避の自動車安全走行シミュレーション		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>高石悠太</u>		
垂直磁気記録におけるトラック間干渉軽減符号に関する研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>新居広光</u>		
レーザーアブレーションにおける放出電子の高密度プラズマ状態		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>伴野慎吾</u>		
進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>星加一太</u>		
屈折コントラストの医学応用		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>森本康雅</u>		
水セラミック陰極を用いた応用技術の研究		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>山内健司</u>		
車載用高効率反射器の特性解析		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>山本雄大</u>		
電動アシスト車椅子の開発		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡邊潤</u>		
多重強化学習法を用いた環境変化認証機構に関する一考案		
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
(出典 平成18年度年間業績報告などより編集)		

資料 6-1-②-7

栄冠の木製アーチ橋

全国の高等専門学校生が生活環境に関するデザインや設計技術を競う「第3回全国高専デザインコンペティション（デザコン）」が、宮崎県の都城高専で

先ごろあり、構造部門で新居浜高専機械工学科5年、村上友洋さん(20)と高橋良太さん(20)の作品「Marvel of art」が最優秀賞を受賞した。

全
国
高
専
村
上
・
高
橋
さ
ん
(
新
居
浜
)最
優
秀
賞



デザコン構造部門で最優秀賞に輝いた新居浜高専の高橋さん(前列右)と村上さん(同左)

半年かけ卒業製作

製作。橋の中心部に重り
を乗せ、耐えられる重さ
やその予測値などを競
う。重りを乗せた状態で
美しいアーチ形状が保て
るかどうかも審査対象
で、今大会には三十一校
の五十チームが参加し
た。
二人が製作した橋は、
百九十八センチ。予測値とほ
ぼ同じ二百五十センチを見事
なれば」と快挙を喜ぶ。
村上さんは「設計通り
組み立てられるか不安だ
ったが、妥協せずに最後
までやれて良かった」と
満足顔。高橋さんは「卒
業を前に良い思い出がで
きた。次回も上位入賞で
きるよう、後輩たちには
頑張ってもらいたい」と
エールを送った。

デザコンは、高専連合
会の主催で、高専三大コ
ンテストの一つ。昨年十
一月十七、十八の両日に
開かれ、新居浜高専から
は二チームが出場した。
構造部門は、二人一組
で二百センチ以下の木製橋を
ちが出場するきつかけに
二人は卒業研究の一環
として昨年五月から製作
に着手。二人を教える同
高専の谷口佳文教授(五十
三)は「そこそこやれると確
信していたが、最優秀に
なるとは。今後、後輩た
ちが出場するきつかけに

に支え、優れた耐荷重性
やアーチデザインなどが
高く評価された。

(出典 平成 19 年 1 月 17 日 愛媛新聞記事)

全国高等専門学校 第17回プログラミングコンテスト本選結果

自由部門

賞の名称	タイトル	高専名
文部科学大臣賞 最優秀賞	ループ・ゴールドバークマシン・ビルダー	鈴鹿
優秀賞	\$フィン ファンタジー	詫間電波
審査委員特別賞	ボクのいなか探検記♪ —心の中のふるさと—	松江
審査委員特別賞	Blog☆Stars	新居浜
審査委員特別賞	EasyCPUMaker —簡単CPU作成ツール—	都城
審査委員特別賞	NEWS —オンラインワープロシステム—	有明
敢闘賞	dia —Developer Instructional Appli—	宮城
敢闘賞	指揮者体験プログラム 奏(かなで) —気軽に指揮者気分♪—	鈴鹿
敢闘賞	@Mail. Base	茨城
敢闘賞	Monolith —オンライン共有型クリップボード—	福島
敢闘賞	人Navigation —構内ナビゲーションシステム—	函館
敢闘賞	Can you follow me? —ついてこれるか?—	鹿児島
敢闘賞	良好旅行 —Travel Without Stress—	石川
敢闘賞	project ToDo	弓削商船
敢闘賞	World Wide Honeycomb —新空間情報通信—	久留米
敢闘賞	ChanKo —ノベルゲームのパラダイムシフト—	津山
敢闘賞	Web Leaf —学習ノート共有システム—	八戸
敢闘賞	FRONT ENGINE —フロントエンド作成ソフト—	熊本電波
敢闘賞	アナタ、ドコニ〜ル —家族の位置検出による生活支援システム—	鳥羽商船
佳作	watcher —動き感知センサを用いた監視システム—	米子

(出典 全国高専プログラミングコンテストホームページ)

参加チーム一覧

飛行機タイプ

機体名	代表者所属		参加者						顧問
Slow Flier	福岡工業大学 知能機械工学科	4年	新海正嗣	江口敬太	井上潤一郎	河野太	椋木真貴	河村良行	
べんぎん号	帝京大学 理工学部 航空宇宙工学科	4年	井上ひとみ	寺島望				芳谷直治	
Double Fault 2nd	新居浜工業高等専門学校 専攻科	2年	阿部伸也	田中大貴	松本和宏	鈴木啓史	伊藤健太	松田雄二	
オオルリ	名古屋大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻	修士1年	橋和希	田口周作				池田忠繁	
カワセミ	名古屋大学 工学部 機械・航空工学科 航空宇宙工学コース専攻	4年	西前誠	鈴木敏友紀	西島宏幸			池田忠繁	
HitoshiMonCAFE☆	日本大学 理工学部 精密機械工学科	4年	千葉史門	佐藤育	坂下巨樹	高田輝紀		青木義男	
ILLUSION_68	日本工学院専門学校 電子工学科	2年	石井球太	高橋和弘	砂川聖斗	土屋智史	森田健一	松浦源太郎	
TSC	名古屋大学 工学部 航空宇宙工学科	4年	金宰亨	水木栄	後藤良典	石井卓也		梅村章	
Libellen-07	日本大学大学院 理工学研究科 航空宇宙工学専攻	修士1年	永井俊一	吉場裕一	中島健	鈴木佑輔	高橋亮太	本橋龍郎	
昴	早稲田大学 理工学部 機械工学科	3年	瀬戸隆太郎	鈴木拓也				三輪敬之	
ババロア丸	帝京大学 理工学部	4年	安西雄一郎	奥野博成				芳谷直治	
D.wade	金沢工業大学 工学部 片柳研究室	4年	川崎信隆	阿部嵩弘				片柳亮二	
IGA	都立航空工業高等専門学校 航空工学科	5年	小谷知正	青木祐輔	五十嵐裕佑	大嶋啓文	萬智樹	飯野明	
IH-1	日本大学 理工学部 航空宇宙工学科	4年	小林大祐	細谷知広	井山達夫			安部健一	
鷗	東京都立航空工業高等専門学校 航空工学科	5年	小竹祥太	平英享	石鍋治己	青木将		宮野智行	
いえもん	帝京大学 理工学部	4年	平石雄士	大橋俊之				芳谷直治	
G-FLY	神奈川工科大学 電気電子工学科	2年	塩原章利	北原正規	田村敏	佐野智彦		三浦直勝	
べけとんび	東京都立科学技術大学 工学部 航空宇宙システム工学科	3年	杉本洋平	中野美琴	西健太郎	比嘉武尊		小島久久	
式号機	金沢工業大学 夢考房小型無人飛行機プロジェクト	3年	柴宮賢志	高橋純平	戸田拓海	中務透	濱智樹	中島円	
日和	金沢工業大学 工学部 機械システム工学科	4年	前田晋吾	佐藤允昭	水野昌周	河内賢一		中島円	
飛悠人(ひゅうまん)	東京大学 工学部 航空宇宙工学科	4年	谷口弘樹	古賀星吾	A. アドリアナ	伊海田皓史	児玉拓也	鈴木真二	
toko2	東京大学 理科一類	2年	串田真也	洪井峻	奥田哲矢	種子田尚		土屋武司	

飛行機タイプ

競技順	機体名	飛行1回目				飛行2回目				順位		
		判読数		飛行時間 [秒]	接地回数	得点	判読数		飛行時間 [秒]		接地回数	得点
		正答数	誤答数				正答数	誤答数				
1	べんぎん号					リタイヤ	1	0	149	9	-539	14
2	飛悠人					リタイヤ					リタイヤ	
3	Slow Flier	8	2	107	0	133	9	5	147	0	-57	6
4	べけとんび					リタイヤ					リタイヤ	
5	ババロア丸					リタイヤ	0	0	104	4	-224	12
6	式号機	15	0	149	0	421	15	2	178	1	212	2
7	オオルリ					リタイヤ	10	2	165	7	-285	13
8	TSC					リタイヤ	6	3	132	3	-192	11
9	カワセミ	10	3	104	1	76	10	2	170	0	130	7
10	鷗	8	0	111	0	249	13	0	140	0	370	3
11	ILLUSION_68	14	1	108	2	252	12	2	112	2	128	4
12	IGA	11	2	102	2	108	14	4	139	0	161	5
13	D.wade	10	5	85	0	35	10	2	142	3	-22	9
14	toko2					リタイヤ	5	1	171	1	-21	10
15	昴					リタイヤ					リタイヤ	
16	Libellen-07	15	1	112	0	398	15	0	108	0	462	1
17	Double Fault 2nd	6	0	91	2	89	5	1	174	7	-384	8
18	G-FLY					リタイヤ					リタイヤ	

3チーム棄権。1チーム機体審査不通過。

(出典 全日本学生室内飛行ロボットコンテスト)

資料 6 - 1 - ② - 1 0

第 4 回キャンパスベンチャーグランプリ 四国



第4回キャンパスベンチャーグランプリ四国受賞者一覧(2006年)

受賞名	氏名	学校	テーマ
最優秀賞	矢野 詢子 池上 洋行 毛利 加代 片岡 知美 三谷 知弘	諒間電波工業 高等専門学校	図書館利用者カードを忘れても大丈夫「リメンバーコード」
優秀賞・ 四国経済産業局長賞	高尾 美代子	諒間電波工業 高等専門学校	ファンタジックセラピーシステムの開発
優秀賞	上野 直人 香川 真司 脇 翔太 近藤 晃充	諒間電波工業 高等専門学校	ハザードコンパス
四国経済連合会会長賞	宮本 和典	香川大学	四国アイランド SNS(四国農産物ソーシャルネットワークサービス)
日刊工業新聞社賞	川上 幸恵	新居浜工業 高等専門学校	使いたいとき『新品電池』！10年置いて置き大丈夫！！
中国四国産業人クラブ賞	笹田 多紀	香川大学	冷蔵庫付属型食材管理システムの開発
奨励賞	大平 隆一郎 宮武 巧 芳地 淳史 大西 宏昌 堀瀬 友食 田中 大樹	諒間電波工業 高等専門学校	ZigBeeを用いた消費エネルギーモニタリングシステムの開発と販売
奨励賞	木谷 謙治 宮本 佳典	愛媛大学	携帯電話バーコードリーダーを利用したどこでも使える手軽な図書管理システム
佳作	立石 啓江	阿南工業 高等専門学校	小学校での「もの作り」教育を考えたブックホルダーキットの考案
佳作	河野 匡食 平野 食士	愛媛大学	Web3D技術に基づく一目でわかるバーチャル案内板
努力賞	山口 智之	新居浜工業 高等専門学校	光で見る！環境汚染危険物評価キット ～誰でもできる環境分析～
努力賞	瀬下 卓也	香川大学	食品小売店と出版社の提携による食品販売
努力賞	武井 裕史 高木 伸一 川上 由記 宮城 悠 待鳥 哲男	高知大学	ホリデーワーク

(出典 キャンパスベンチャーグランプリホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程学生の進級率は年々高くなっている。また、専攻科課程に入学した学生はほぼ全員が2年間で修了し、学位を授与されている。資格取得による単位認定者数は増加傾向にあり、卒業研究、特別研究での成果のレベルは維持されている。これより、教育の成果が上がっていると判断できる。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程において、卒業生の進路決定者の割合は100%である(資料6-1-③-1)。その内訳は、就職が約6割、進学が約4割となっている。求人倍率は例年10倍以上である。

専攻科課程修了生の就職者と進学者の割合は年度によって大きく異なるが、就職が大半を占めている。

就職先は、準学士課程卒業生、専攻科課程修了生とも各専門分野の製造業や技術サービス業がほとんどである(資料6-1-③-2)。進学先は、本校専攻科をはじめ、工学部(工学研究科)、農学部(農学研究科)など、それぞれの専門分野である。

資料 6-1-③-1

準学士課程卒業生の進路

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他 (自営業・専門学校など)	進路決定者割合	求人数
16年度	160	98	53	8	0.99	1175
17年度	175	107	63	5	1.00	1491
18年度	149	97	57	4	1.00	1972

専攻科課程修了生の進路

	修了者数	就職者数	進学者数	その他 (自営業・専門学校など)	進路決定者割合
16年度	24	20	4	0	1.00
17年度	27	21	6	0	1.00
18年度	30	28	2	0	1.00

(出典 学生就学支援係資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2

平成18年度準学士課程卒業生の就職先・進学先

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	材料工学科
就職先	今治造船(株) 愛媛小林製薬(株) 愛媛サニタリープロダクツ(株) (株)エクセディ キヤノン(株) クラレ西条(株) (株)資生堂 住友金属鉱山(株) スミメックエンジニアリング(株) ダイキン工業(株) (株)ダイハツテクナ ー 中外製薬工場(株) 中電プラント(株) DRD(株) (株)タケチ (株)西島製作所 日本貨物鉄道(株) 日本キャリア工業(株) 富士重工業(株) マルホ発條工業(株) 万里設備(株) 三菱重工業(株) (株)ミルボン 明治乳業(株) ユースエンジニアリング(株) リンテック(株)	今治造船(株) ウィル(株) (株)エクセディ NTT西日本(株) 京セラミタージャパン(株) きんでん(株) 四国電力㈱ JALエンジンテクノロジー(株) 住友金属鉱山(株) (株)センス 大和ハウス(株) 東芝EIコントロールシステム(株) 凸版印刷(株) 日信電子サービス(株) 三菱化学エンジニアリング(株) 三菱電機(株) ユースエンジニアリング(株) 理研ビタミン(株) リコーテクノシステムズ(株) (株)菱進テック	(株)SEN 愛媛東部ヤクルト販売(株) オムロンフィールドエンジニアリング(株) 川重テクノサービス(株) (株)京セラ 新神戸電機(株) セコムテクノサービス(株) 大王ペーパーコンピュータリング(株) ダイキン工業(株) 東レ(株) 凸版印刷(株) 富士通アドバンスソリューションズ(株) マツダ(株) 三菱ビルテクノサービス(株) ユニチカ(株)	(株)イージーエス (株)大塚製薬工場 (株)コベルコ科研 (株)資生堂 (株)シーテック 第一工業製薬(株) (株)トクヤマ 波方ターミナル(株) ユニチカ(株) リンテック(株)	一宮運輸(株) (株)インテリジェントウェイブ コベルコ科研(株) (株)シーテック (株)東研サーモテック 東伸熱工(株) 日本ケッチェン(株) 日本精工(株) 日本ゼオン(株) 不二精機(株) 富士ダイス(株) 三好鉄工所(株) ユースエンジニアリング(株) ヨータイ(株) リンテック(株)
進学先	新居浜高専 豊橋技術科学大学 生産システム工学系 徳島大学工学部機械工学科 金沢大学工学部機能機械工学科 埼玉大学工学部機械工学科	新居浜高専専攻科 徳島大学工学部知能情報工学科 徳島大学工学部電気電子工学科 広島大学工学部第二類 愛媛大学工学部電気電子工学科 室蘭工業大学情報工学科	新居浜高専専攻科 広島市立大学情報科学部情報メディア工学科 群馬大学工学部電気電子工学科 電気通信大学電気通信学部情報通信工学科 電気通信大学電気通信学部電子工学科 愛媛大学工学部電気電子工学科 豊橋技術科学大学工学部電気電子工学科 金沢大学工学部電気電子工学科	新居浜高専専攻科 徳島大学工学部生物工学科 広島大学工学部第三類発酵工学課程 岡山大学工学部物質応用化学科 島根大学総合理工学部物質化学科 豊橋技術科学大学エコロジー工学系 豊橋技術科学大学物質工学系 長岡技術科学大学環境システム工学 愛媛大学農学部生物資源学科	新居浜高専専攻科 香川大学工学部材料創造工学科 長岡技術科学大学環境システム工学課程 長岡技術科学大学機械創造工学課程 愛媛大学工学部機能材料工学科

平成18年度専攻科課程卒業生の就職先・進学先

	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻
就職先	アイム(株) 今治造船(株) (株)新来島どつく 日新製鋼(株) 日本精工(株) パナソニック四国エレクトロニクス(株) ユニ・チャーム(株) リンテック(株)	(株)大塚製薬工場 三洋電機(株)モバイルエナジーカンパニー 住友金属鉱山(株) ダイソー(株) パナソニック四国エレクトロニクス(株) リンテック(株)	伊藤忠テクノサイエンス(株) (株)日本製鋼所 三浦工業(株) (株)イージーエス NECネットエスアイ・エンジニアリング(株) (株)日新システムズ パナソニックエレクトロニックデバイス津山(株) 新生電子(株) ユースエンジニアリング(株) 三菱電機エンジニアリング(株) パナソニック四国エレクトロニクス(株) (株)中央エンジニアリング
進学先	徳島大学大学院先端技術科学 教育部知的力学システム工学専攻		徳島大学大学院先端技術化学 教育部工学研究科システム 創生工学専攻

(出典 学生課資料より編集)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，専攻科課程とも進路決定者の割合は高く，その就職先や進学先からも，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。また，求人倍率も非常に高く，卒業生の評価が高いことがうかがえる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の学生に対して実施した授業アンケートの「この授業の学習目標に対する自分の達成度はどのくらいだと思いますか」という設問から学習達成度を把握している。すなわち，達成度の自己評価を80%以上，60%以上，60%未満の3段階に分け，全学生が80%以上であれば50ポイント，全学生が60%未満であれば-50ポイントとなるよう各科目ごとに達成度ポイントを計算した。科目を学習目標ごとに分類し，達成度ポイントの平均値をその学習目標の達成度として求めた(資料6-1-④-1)。学習目標によってはやや達成度の低いものもあるが，ほぼ10ポイント以上であり，教育の成果が上がっていると判断できる。

生物応用化学科では，年度末に1～5年生を対象に学習・教育目標に関するアンケートを実施し，学生自身に学習達成度をチェックさせた(資料6-1-④-2)。物理や英語の理解などいくつか達成度を低く評価している項目もあるが，全体的にみて教育の成果が上がっていると判断できる(資料6-1-④-3)。

専攻科課程の学生に対しては，「勉強アンケート」の中で学生に達成度の自己点検をさせ，その状況を把握している(資料6-1-④-4)。授業の理解度は，4段階評価の評価3以上が77%を占め，評価1はいなかった(資料6-1-④-5)。また，各期ごとに学生自身が自己評価として学習の目標とその達成度を書いて専攻主任に提出している(資料6-1-④-6，資料6-1-④-7)。以

上の結果から、教育の効果が上がっていると判断できる。

資料6-1-④-1

授業アンケートによる教育目標の達成度評価

教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	全体
工学基礎知識(全学科)	10	13	5	12	-	10
専門知識・デザイン能力(機械)	17	1	14	6	19	11
専門知識・問題解決能力(電気)	23	6	-2	11	7	9
専門知識・問題解決能力(電子)	21	18	10	15	9	14
専門知識(化学)	12	9	8	8	11	9
専門知識・デザイン能力(材料)	-11	2	0	7	10	2
教養・技術者倫理(全学科)	19	10	24	13	13	16
コミュニケーション能力(全学科)	-3	7	13	12	13	8

(出典 平成18年度授業アンケートより編集)

資料6-1-④-2

学習・教育目標に関するアンケート 2006

(本科1~5年生を対象)

学習する側の立場からの意見をきき、生物応用化学科の学習・教育目標を改善していくための参考にしたいと考えていますので、以下のアンケートにご協力ください。

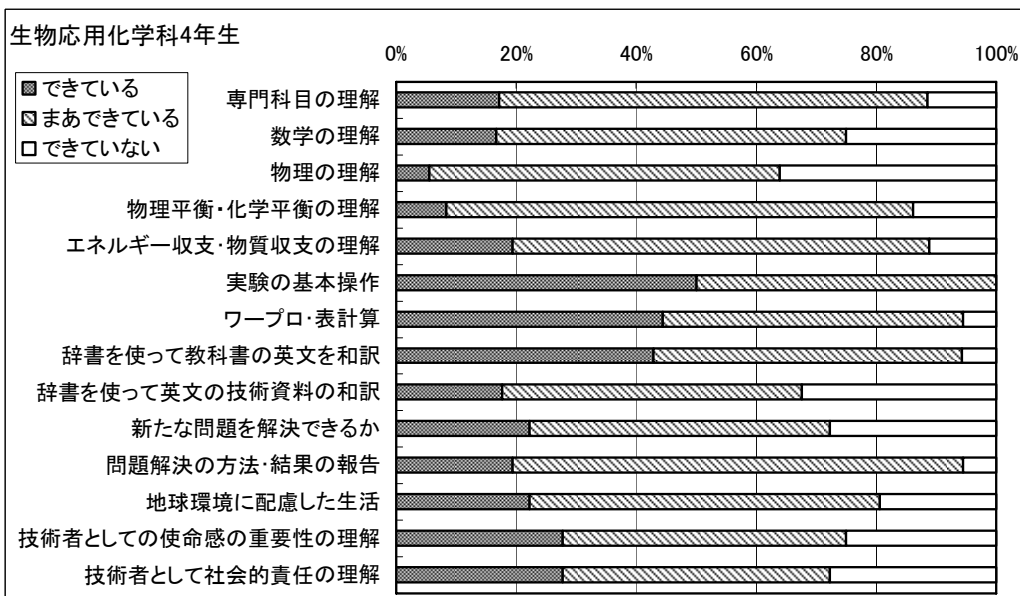
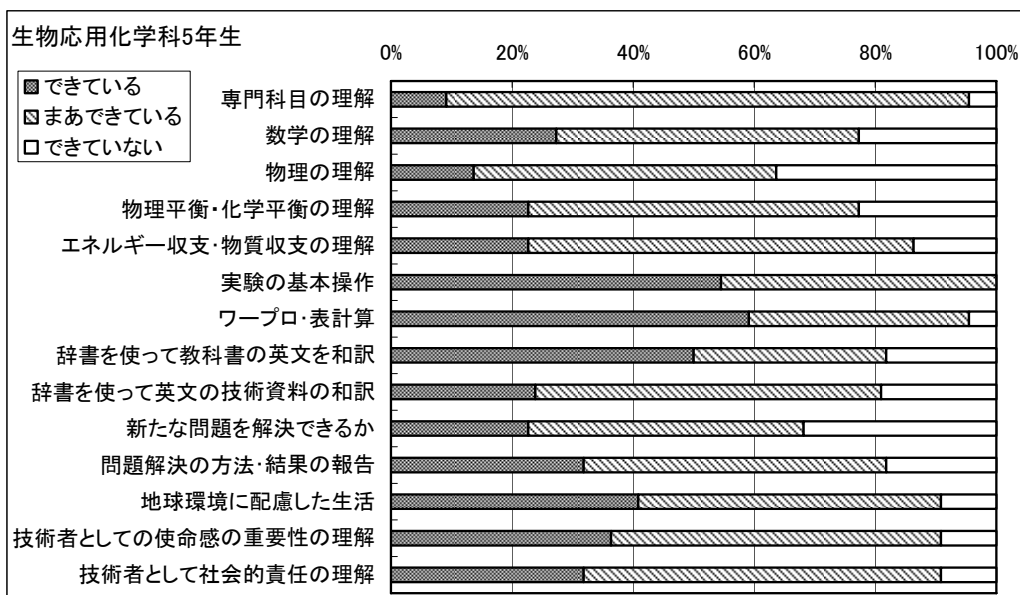
選択の場合 をぬりつぶしてください(例)。

学年: 1年 2年 3年 4年 5年

- 各学年で実施している専門科目の内容は、理解できていますか。
 できている まあできている できていない
 その中で、できていないと思っている科目をあげてください。
 ()
- 数学の内容は、理解できていますか。
 できている まあできている できていない
- 物理の内容は、理解できていますか。
 できている まあできている できていない
- 物理平衡・化学平衡の内容は、理解できていますか。
 できている まあできている できていない
- エネルギー収支・物質収支の内容は、理解できていますか。
 できている まあできている できていない
- 各学年で実施している実験の基本操作は、できるようになっていますか。
 できている まあできている できていない
- ワープロ・表計算ソフトを使うことは、できるようになっていますか。
 できている まあできている できていない
- 辞書を使って教科書の英文を訳すことができますか。
 できている まあできている できていない
- 辞書を使って簡単な英文の技術資料(装置マニュアルなど)を訳すことができますか。
 (4年生以上の学生は、回答してください)

	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> まあできている	<input type="checkbox"/> できていない
10.	新たな問題・課題に出会ったとき、自分で解決していくことができますか。		
	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> まあできている	<input type="checkbox"/> できていない
11.	問題・課題の解決の方法および結果を報告できますか。		
	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> まあできている	<input type="checkbox"/> できていない
12.	地球環境に配慮した生活をしていますか。		
	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> まあできている	<input type="checkbox"/> できていない
13.	技術者としての使命感を持つことのたいせつさを理解していますか。		
	<input type="checkbox"/> 理解している	<input type="checkbox"/> まあ理解している	<input type="checkbox"/> 理解していない
14.	技術者としての社会的責任というものを理解していますか。		
	<input type="checkbox"/> 理解している	<input type="checkbox"/> まあ理解している	<input type="checkbox"/> 理解していない
(出典 生物応用化学科教育目標アンケート)			

資料 6-1-④-3



(出典 生物応用化学科教育目標アンケート)

資料 6-1-④-4

勉学に関するアンケート (専攻科)

(略)

【2】 勉学状況について

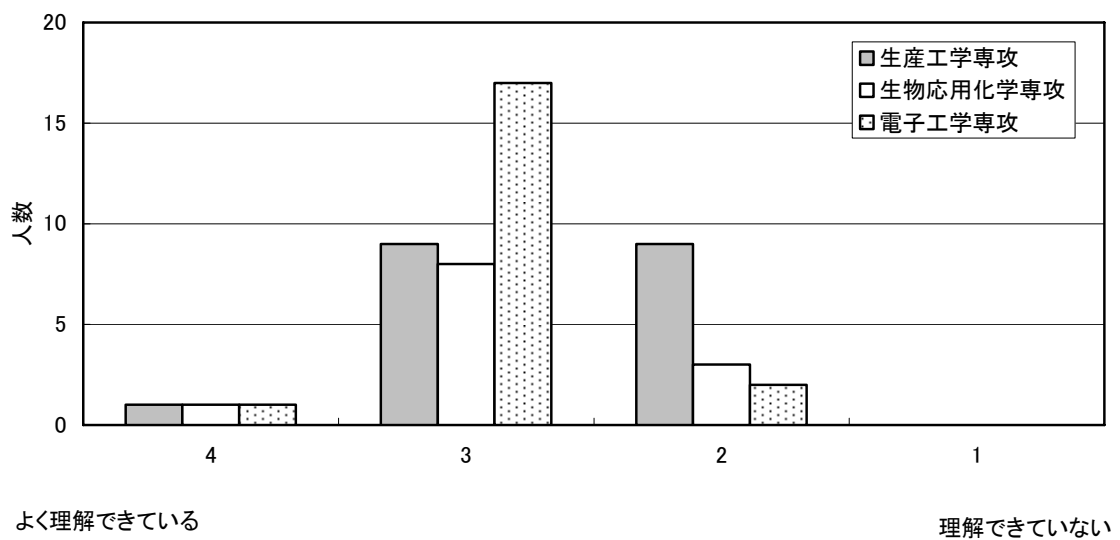
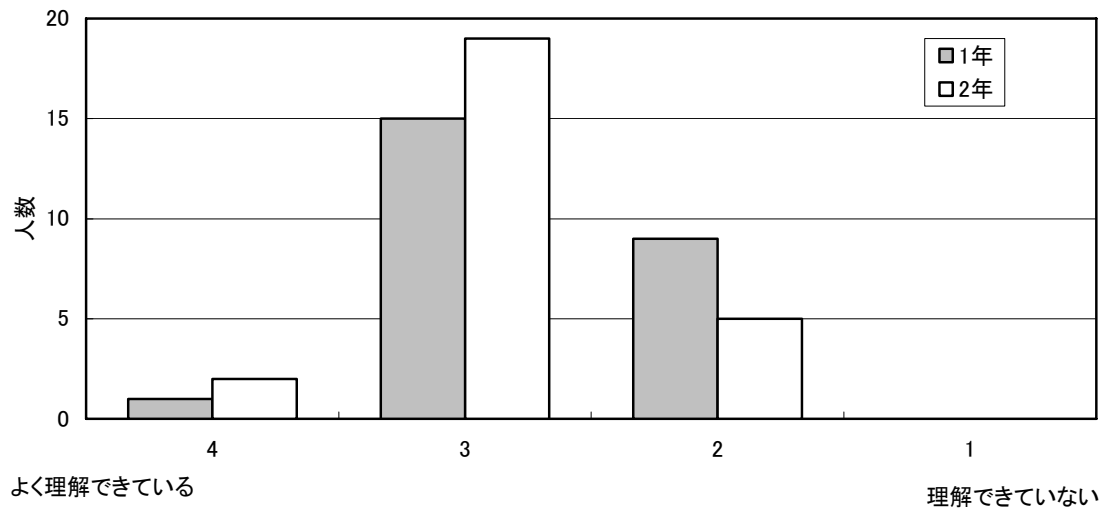
1. 授業の理解度はどうですか。4段階で評価してください。

よく理解できている □ 4 □ 3 □ 2 □ 1 理解できていない

(略)

(出典 専攻科勉学アンケートより抜粋)

資料6-1-④-5



平均値	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻
1年	2.4	2.7	3.0
2年	2.8	3.0	2.9

(出典 平成18年度勉学アンケート)

資料6-1-④-6

年度 前・後 期

各学年における自己評価

学生番号：		氏名：	
-------	--	-----	--

この学年で、どのような能力（学習・教育目標）を修得するのか、具体的な目標を記載して下さい。

専 攻 科 年 次	<u>修得目標</u> 年 月 日
専 攻 科 年 次	<u>実績</u> 年 月 日
指 導 内 容	年 月 日

(出典 専攻主任資料)

平成18年度 前(後)期

各学年における自己評価

学生番号:	640605	氏名:	山口 智之
-------	--------	-----	-------

この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を達成するのか、具体的な目標を記載して下さい。

専攻科 1年次	<p>修得目標 H18年 11月 2日</p> <p>B-7 工業数学及び簿記、化学数学を学ぶ。確率・統計・行列に関する基礎と応用の知識を修得する。</p> <p>B-8 プログラム演習を学ぶ。Visual Basic for Windowsの知識を応用し、コンピュータの活用能力を高める。</p> <p>B-9 専門科目(英語科目)を応用し、化学士等一部の知識を応用し、深い知識を修得する。</p> <p>C-2 英語の4技能を高める。TOEICの点数を上げる。</p> <p>D-2 産業工学、心臓-脳系制御論を学ぶ。産業工学の知識を修得する。</p>
	<p>実績 H18年 4月 13日</p> <p>・ 東京コンベンション・センターにおいて努力賞を授賞した。</p> <p>・ 日本農芸化学会に於いて発表(学生)を行った。</p> <p>・ TOEIC試験において980点を取った。目標は600点 over (5は達していない)</p> <p>・ Visual Basic を使って コンピュータ-活用能力を高めた。</p> <p>・ 化学数学(数学)、専門知識について、深い知識を修得できた。</p>
指導内容	年 月 日

年度 前(後)期 各学年における自己評価

学生番号:	640502	氏名:	猪谷 和成
-------	--------	-----	-------

この学年で、どのような能力(学習・教育目標)を修得するのか、具体的な目標を記載して下さい。

修得目標		68年 11月 日
専攻科 2年次	B-3	制御工学やシミュレーション工学では、制御理論やTOF747の制御、シミュレーションの学習等があるため、これらをよく理解して、企業に実際に利用するとき、4分程度にできるようにする。
	C-2	専門分野での英語力を上げたいので、その分野の論文をよく読みたい。TOEICの点数も450点程度を目標に英語と覚える。
	D-1	今取り組んでいる研究とある程度のことになり、結果を出したい。
実績		07年 03月 04日
専攻科 年次	B-3	1/15"論文" "カルマ=7007-"という、プログラムの自動で実行してついでとからできた。制御理論についても、大まかに理解できた。B-3については、自動では達成できなかった。 [95点]
	C-2	英語の論文については、新しい研究テーマができたこともあり、その目と直して重要な部分を理解できるように頑張った。また、また英語力は上がったといえるが、TOEICも点があり変化はなかった。 [70点]
	D-1	一応満足しているところまで、結果を出せた。あと、今年から、卒業までです。 [90点]
指導内容		年 月 日

(出典 専攻主任資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、各科目の授業アンケートにおける授業の達成度に基づいて学習目標の達

成度を評価している。また、生物応用化学科では、学生に学習目標の達成度を自己評価させている。専攻科課程では、勉強アンケートにより授業の理解度を自己点検させるとともに、各期ごとに学習の目標を立て、その達成度を評価させている。これらの結果より、教育の成果が上がっていると判断できる。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

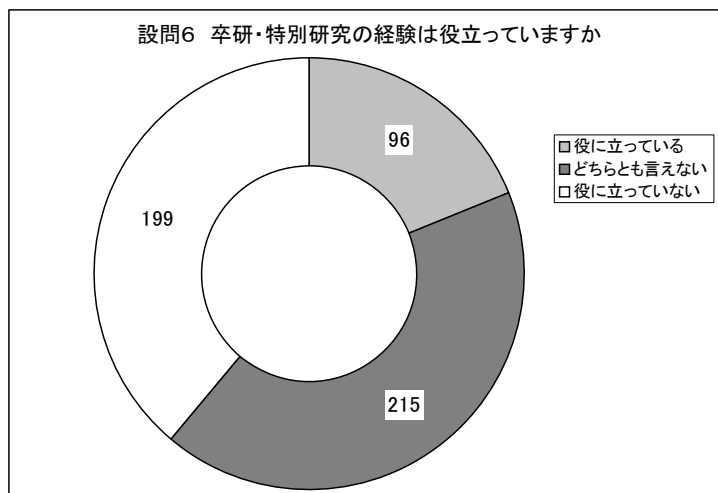
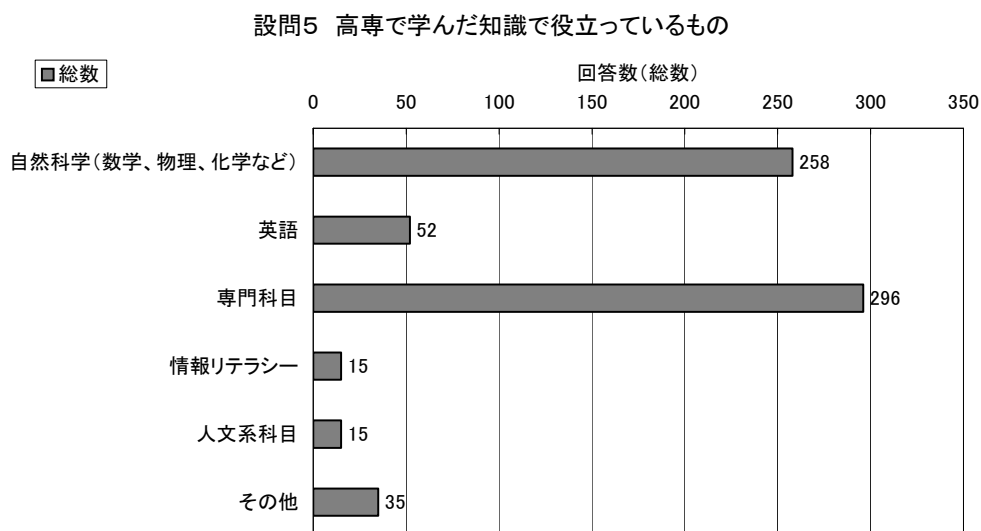
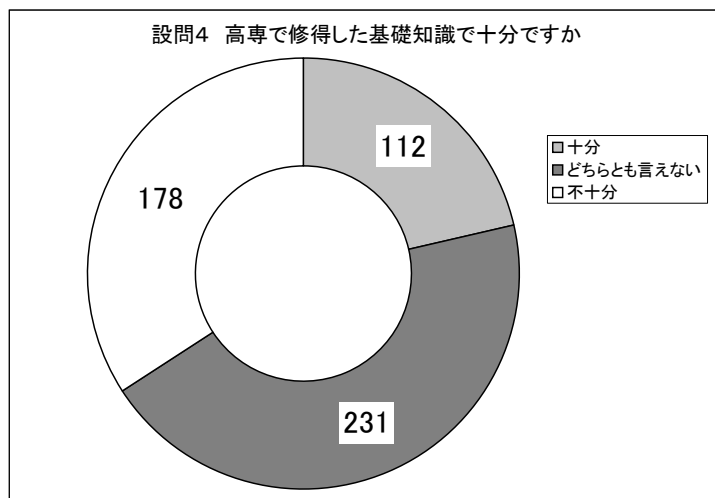
（観点に係る状況）

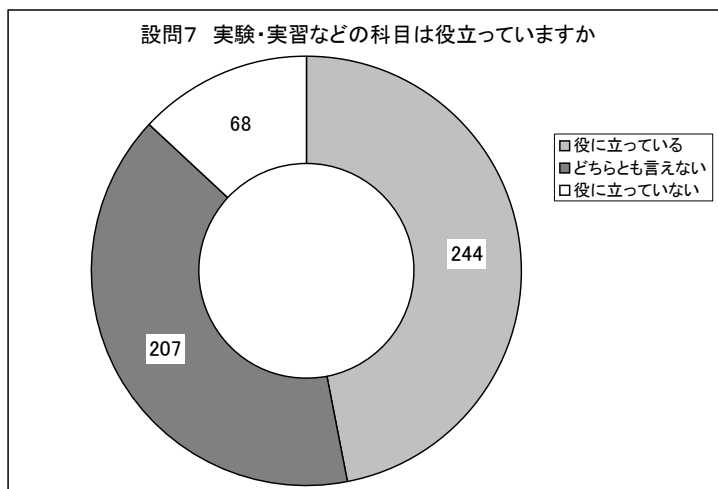
平成13～15年度にわたり3回に分けてこれまでの卒業生全員に対して、学習・教育目標、カリキュラム、教育指導方法、施設の充実度、必要としている能力についてアンケートを実施した（訪問調査資料 平成10～13年度点検報告書、平成14年度点検報告書、平成15年度点検報告書）。各年度の結果はほぼ同じであり、「高専で修得した基礎知識で十分である」とした者は5分の1程度であった（資料6-1-⑤-1）。その中で役立っている科目として、専門科目および数学・物理・化学などの自然科学をあげた者は50%を超えたが、英語・情報リテラシー・人文系科目は少なかった。「卒業研究・特別研究の経験が役立っている」との回答は20%程度であり、「実験実習などの科目が役に立っている」とした者は50%であった。

また、平成18年度に、平成13年度卒業生に対して学校評価に関するアンケートを実施した。「本校の教育で身についたと思うもの」の設問に対し、専門科目の基礎力が69%、専門科目の基本技術が51%の回答であった。教育内容の充実を図るべき能力として最も多かったのは、英語力とプレゼンテーション力であった（資料6-1-⑤-2）。

平成15年度に、卒業生の就職した企業を対象に、準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の採用状況、業務内容、企業が望む能力などを調査している（訪問調査資料 平成15年度点検報告書）。これによれば、準学士課程卒業生に対して、企業の64%が専門基礎知識があると回答しており、協調性、誠実さ、真面目さなどについても高い評価を得ている（資料6-1-⑤-3）。専攻科課程修了生に対しては、86%の企業が専門基礎知識があると回答している。また、実践的能力についても高い評価を得ている。

資料6-1-⑤-1





(出典 平成15年度点検報告書企業へのアンケートより抜粋)

資料6-1-⑤-2

出身校の教育で身に付いたと思うもの(1人5つまで)

	人数
専門科目の基礎力	24
専門科目の応用力	3
専門科目の基本技術	18
人文社会系の一般教養	
自然科学系の一般教養	3
英語力	6
論理的思考力	9
問題認識力	9
問題解決力	6
対人交渉力	7
プレゼンテーション力	7
コミュニケーション力	10
創造力	1
実践力	10
技術者倫理	3
その他	

出身校の教育に関して、教育内容の充実を図るべきと考えるもの(1人3つまで)

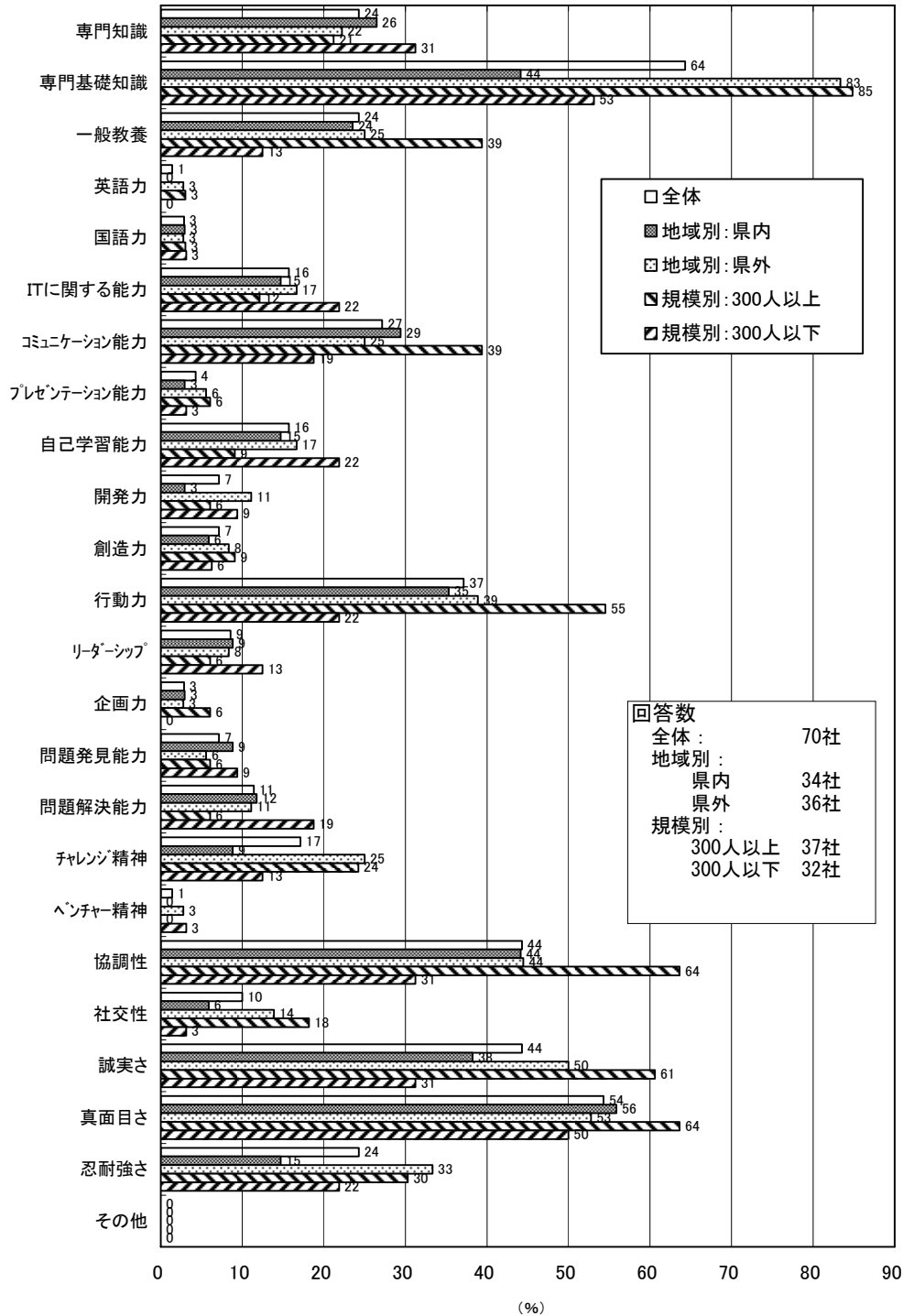
	人数
専門科目の基礎力	6
専門科目の応用力	4
専門科目の基本技術	8
人文社会系の一般教養	
自然科学系の一般教養	
英語力	16
論理的思考力	2
問題認識力	7
問題解決力	7
対人交渉力	7
プレゼンテーション力	16
コミュニケーション力	11
創造力	5
実践力	3
技術者倫理	
その他	

(出典 平成18年度学校評価に関するアンケートより抜粋)

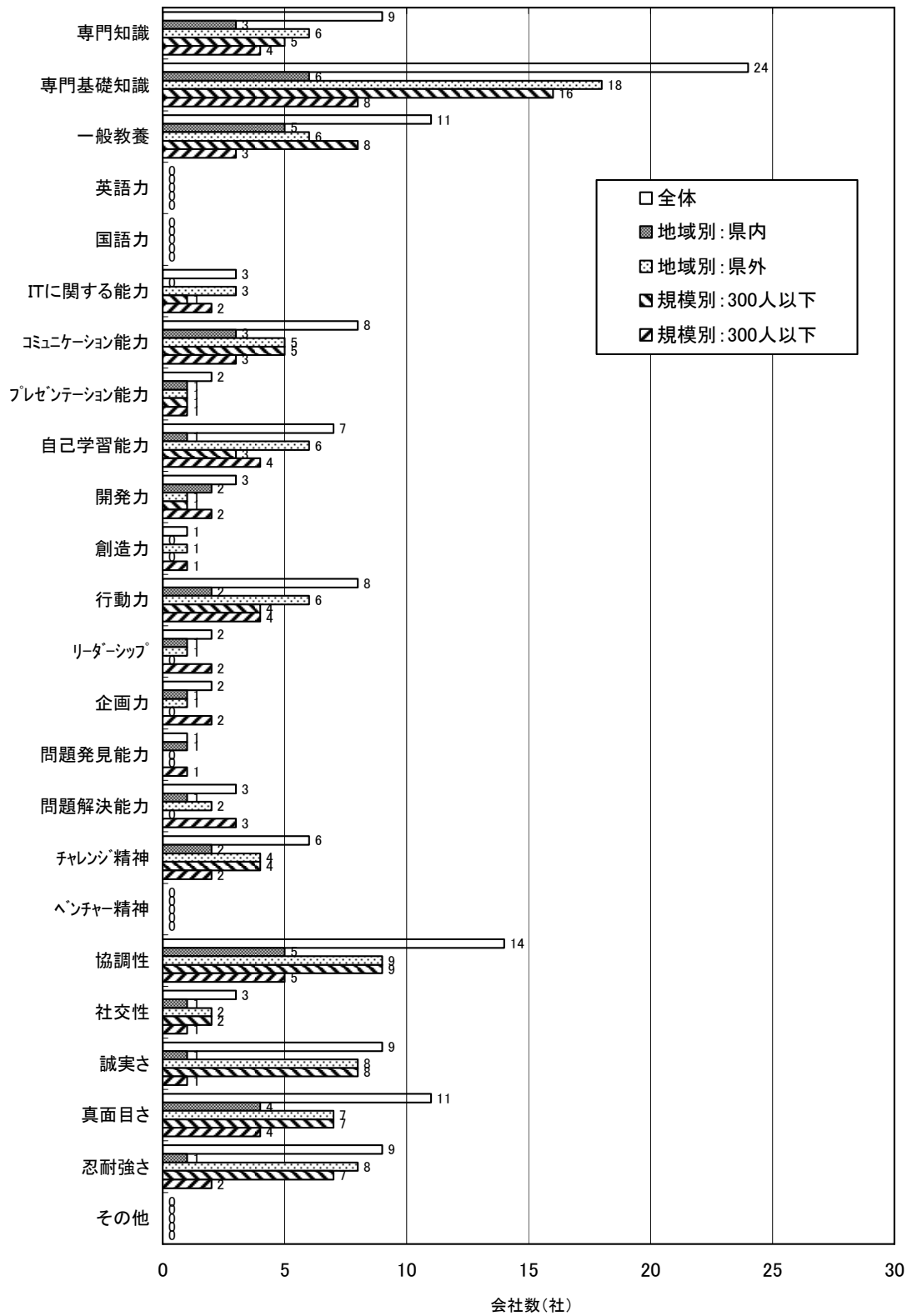
資料6-1-⑤-3

企業へのアンケートより

設問10(1) 新居浜高専 卒業生が満たしているもの

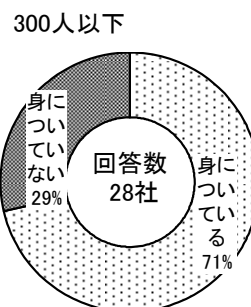
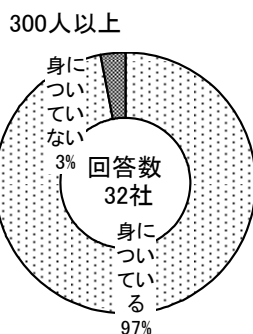
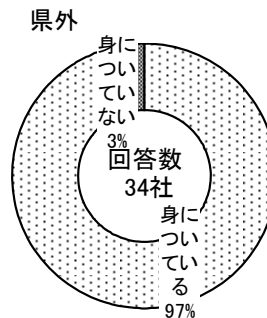
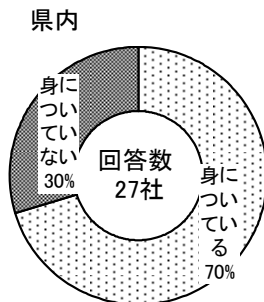
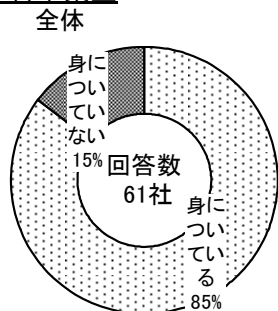


設問10(2) 新居浜高専 専攻科修了生が満たしているもの

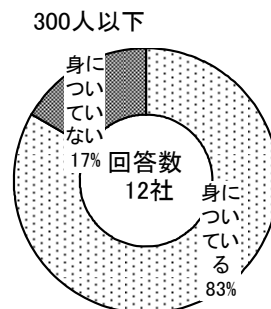
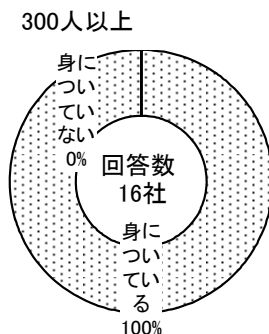
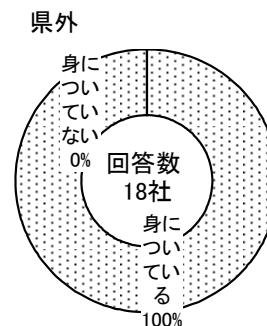
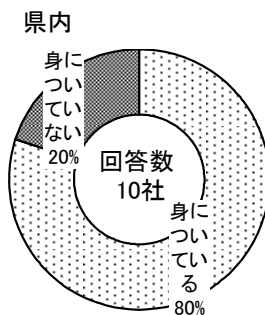
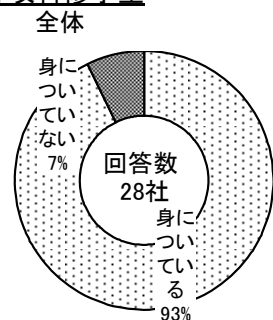


設問 1 2 実践的能力が身についているか

本科卒業生



専攻科修了生



(出典 平成15年度点検報告書企業へのアンケートより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生や企業を対象にアンケートなどを実施して、卒業生・修了生の能力に関して意見を聴取している。また、その結果から、専門基礎知識や実験実習に関しては十分教育の成果や効果が上がっ

ていると判断されるが、英語力など不足していると指摘されるものもある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路決定者の割合はほぼ100%であり、就職先は各専門分野の製造業や技術サービス業、進学先は本校専攻科をはじめ工学部（工学研究科）や農学部（農学研究科）などそれぞれの専門分野である。

卒業生や企業を対象にしたアンケートの結果などから、専門基礎知識や実験実習に関する評価が高いことがわかり、十分教育の成果や効果が上がっていると判断される。

(改善を要する点)

学生自身が行う教育目標の達成度評価は、適切な方法で実施されているとはいえ、改善が必要である。

(3) 基準6の自己評価の概要

卒業要件、修了要件を満たすように科目を修得することで教育目標を達成できるようにカリキュラムが設計されており、科目の修得状況から教育目標の達成度が把握できるようになっている。

進級率や資格取得者数は増加の傾向にある。また、学生は卒業研究・特別研究の成果を発表したり、各種コンテストで成果を上げている。

準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路決定者の割合はほぼ100%であり、いずれもこれまでに学んだ専門分野の知識・技術を活用できる職業に就いたり、専門知識をさらに発展させることができる学校に進学している。

準学士課程においては、授業アンケートにおける授業の達成度に基づいて学習目標の達成度を評価している。また、生物応用化学科では、学生に学習目標の達成度を自己評価させている。専攻科課程では、勉学アンケートにより授業の理解度を自己点検させるとともに、各期ごとに学習の目標を立て、その達成度を評価させている。

平成13～15年度にわたり3回に分けてこれまでの卒業生全員にアンケートを実施し、特に専門科目や自然科学、実験実習科目が役立っているとの回答を得た。また、企業アンケートの結果より、専門基礎知識や実践的能力について高い評価を得ていることが確認できた。

以上のことから、教育の成果が上がっていると判断できる。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

年度当初の始業日前に、教務委員会と学生委員会が学級担任連絡会を開催し、その年度の指導方針や注意事項を全学級担任・副担任および専攻主任に周知徹底し、これを踏まえて学生に対するガイダンスを行うことにしている(資料7-1-①-1)。

準学士課程の新生生に対しては、入学直後の新生生研修、および授業開始後の特別活動を利用して、学級担任および副担任から学習に関するガイダンスが行われる(資料7-1-①-2)。

また、全学生に対して学級担任・副担任が前期始業日に「本科履修要覧」を配布し、その年度の履修指導を行っている(訪問調査資料 平成18年度本科履修要覧)。なお、留年生に対しては、前年度の春季休業中に個別の履修指導を実施している。このほか、学級担任・副担任は日常的に個々の学生への学習を進める上での指導を行っている(資料7-1-①-3)。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制は、全学生を対象とするオフィスアワーとして整備されている(資料7-1-①-4)。オフィスアワーは、各学科(科)の掲示板にて学生に周知している。オフィスアワーに限らず、多くの学生が教員研究室を訪れて助言を受けている(資料7-1-①-5)。

非常勤講師の科目については、その質問などに答える担当の常勤教員を定め、教室に掲示し学生に周知している(資料7-1-①-6)。

準学士課程1, 2年生には、専門学科の教員が各学科の学生のアドバイザーとなって、学生に助言や指導を行っている(資料7-1-①-7)。

専攻科においては、学習を進める上での専攻科生へのガイダンスは主として前期および後期始業日に実施している(資料7-1-①-8)。前期始業日には「専攻科ガイダンス」及び「専攻科履修要覧」を配布し、履修に当たって専攻科の教育目標、科目履修方法、他機関における科目の履修等を説明している(訪問調査資料 平成18年度専攻科履修要覧)。自主的学習を進める上での相談・助言は、各専攻主任、各学科・科の専攻科担当教員および特別研究指導教員が行っている。

資料7-1-①-1

平成18年3月31日

平成18年度 学級担任 副担任 専攻主任 各位

教務主事

学級担任連絡会について(通知)

このことについて、下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

1 日時 平成18年4月5日(水) 15時00分～

2 場所 視聴覚教室

(出典 教務主事からのメール)

資料7-1-①-2

平成18年度新入生研修プログラム

4月7日(金)

時間	行事	場所	担当	備考
入学式後				
13:30 ~ 14:10	学級担任との懇談	各ホームルーム	学級担任	
14:10 ~ 15:00	学生心得等の説明 カードキーの使用説明 ロッカーの使用法	視聴覚教室	学生主事 学生相談室長 情報センター長 学生委員 学生就学支援係	各学科担当者が学生を視聴覚教室まで誘導
15:00 ~	解散	各ホームルーム		学生委員が学生を各ホームルームまで誘導

4月10日(月)

時間	行事	場所	担当	備考
8:40 ~ 9:00	ショートホーム	各ホームルーム	学級担任	
9:10 ~ 10:10	始業式	第1体育館		
10:20 ~ 12:30	クラス写真撮影 ロングホーム	グラウンド北側 各ホームルーム	学級担任等	
13:15 ~ 14:45	英語学力試験	各ホームルーム	各試験監督	
14:55 ~ 15:45	学力確認試験(数学)	各ホームルーム	学級担任	
15:55 ~ 16:45	学科紹介	各学科の教室	各学科主任	

4月11日(火)

時間	行事	場所	担当	備考
16:00 ~ 17:00	クラブ紹介	視聴覚教室	学生会	

※12日(水)~14日(金)の放課後に、図書館説明、集合研修を行います。また、4月中に空いている時間で個人面談を行います。

(出典 学生課教務係資料より編集)

資料7-1-①-3

学生指導の記録（平成14年度以降入学の学生）

担任_____

氏名		学籍番号		学年・クラス(学科)		入学年度	
前年度までの修得単位数				今年度の追認試験による修得単位数			
当該学年の修得単位数				累積修得単位数			
一般科目の累積修得単位数				課題演習等による認定単位数			
当該学年の*印必修科目の授業出席条件充足の有無							
未 修 得 科 目	追認を受ける 科目（単位数）						
	未修得が確定した 科目（単位数）						
当該年度の欠課時間総数				前年度留年者については、前年度の欠課時間総数			
当該学年における懲戒処分の有無							
通学手段				出身中学校			
課外活動、コンテスト等への参加状況							
資格試験等の受験及び取得状況							
インターンシップ(4年)							
進路希望状況							
その他、基礎的なデータ							
性格等							

次年度担任への申し送り事項

- ・次年度の担任が見て、参考となるような内容を
- ・学生の良いところや今後期待できることも

(出典 平成18年度指導記録)

資料7-1-①-4

2006年度数理科オフィスアワー一覧

今年度の数理科教員(数学, 物理, 化学)のオフィスアワーは次の通りです. 質問等に利用して下さい.

科目	教員名	場所	曜日	時間
数学	小山	教員室(一般棟3階)	木	16:00-18:00
	川崎	教員室(電子計算機室)	月	15:00-17:00
	千葉	教員室(一般棟3階)	火	16:00-18:00 (第3火曜の分は第3月曜に実施)
	西谷	教員室(一般棟3階)	月	15:00-17:00
	柳井	教員室(一般棟3階)	月	15:00-17:00
	古城	教員室(機械棟2階)	月	15:00-16:30
	三井	教員室(電子計算機室)	月	15:00-17:00
物理	平木	物理教室 物理補習も兼ねて合同で行う	月	16:00-18:00
	竹田			
	矢野			
	大村			
化学	矢野	物理教室	月	16:00-18:00
	柴田	教員室(電子計算機室)	木	15:00-17:00

(出典 数理科教務委員)

資料7-1-①-5

平成19年2月オフィスアワー利用学生数調査

(オフィスアワー以外の時間も含む。括弧内はオフィスアワーの来室者数。)

学科・科	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	週平均	教員1人当たり4週計
M	17 (1)	11 (0)	22 (0)	25 (2)	75 (3)	18.8 (0.8)	7.5 (0.3)
E	26 (6)	30 (9)	26 (7)	30 (2)	112 (24)	28 (6)	22.4 (4.8)
D	69 (11)	94 (19)	128 (16)	100 (15)	391 (61)	97.8 (15.3)	43.4 (6.8)
C	88 (9)	66 (8)	98 (6)	120 (6)	372 (29)	93 (7.3)	31 (2.4)
Z	17 (2)	41 (3)	35 (2)	25 (2)	118 (9)	29.5 (2.3)	11.8 (0.9)
S	203 (60)	232 (45)	241 (23)	235 (34)	911 (162)	227.8 (40.5)	75.9 (13.5)

G	81 (27)	83 (27)	107 (33)	77 (23)	348(110)	87 (27.5)	26.8 (8.5)
	合計				2327 (398)	581.8 (99.5)	32.8 (5.6)

(出典 教務委員会調査資料より作成)

資料 7-1-①-6

非常勤講師の授業に対応する常勤教員の一覧 (一部)

氏名	授業科目	対象学生	担当教員	備考
青野 正明	電気磁気学1	3D	出口教員	後期
	電気磁気学3	5D		前期
	電気磁気学特論	1SE		前期
稲見 嘉代子	音楽	1全	森長教員	
板野 哲	歴史1	2全	鹿毛教員	
稲見 靖	機械工作法	2Z	Z教員全員	
今村 倣啓	情報処理	3M	三井教員	

(以下略)

(出典 学生課教務係資料)

資料 7-1-①-7

21. アドバイザーとしての業務

専門学科の教員は、自己の学科の1・2学年の学生数名を分担し、学級担任と連携しながら、将来計画、勉学の方法等および悩みや生活全般について積極的に(随時接触して)相談に預かり、助言を与えることとする。学生の退学時やその他必要な場合、指導の経過や状況説明を求められることがある。

(出典 平成17年度教員便覧)

資料 7-1-①-8
平成18年4月10日

専攻科生各位

専攻科長

専攻科ガイダンス (平成18年度)

1. 専攻科を取り巻く環境

1) 専攻科を設置する高専

本校の専攻科は平成4年に第1期校として設置され、今年で15年目になる。それ以降、現在までに国公私立高専63校中59校と、ほとんどに専攻科が設置された。これは、専攻科が社会の要請に応じて優れた実践的技術者を育ててきた証拠であり、専攻科で学ぶ諸君は自信と誇りを持って勉学に励んでもらいたい。

2) 国際的に通用する技術者認証制度 (平成18年度 専攻科履修要覧 p.2)

グローバル化がますます進展する中、アメリカ、ヨーロッパ等で整備されている「国際的に通用する技術者を相互の国で認定する制度」の必要性が、日本でも求められている。これに応えるために、日本

技術者教育認定機構（JABEE）が平成11年に設立され、併せて、技術士制度が改善された。JABEEは、専攻科を持つ高専、大学学部を対象にするもので、認定を受けたプログラムの修了生は、技術士補の資格を得る。技術士補は、技術士＝「科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある資格」を取得するために一番近道の国家資格である。技術士補には多くの企業で待遇面（昇進、給与など）の優遇措置がなされている。

本校では、平成15年度に生物応用化学専攻「生物応用化学プログラム」が、愛媛県内大学・高専の工学系学科として初めてJABEEの審査を受け、認定された。生産工学専攻「生産工学プログラム」、電子工学専攻「システムデザイン工学プログラム」も平成17年度に審査を受け、認定を受ける見通しである。

2. 履修に当たって

1) 単位の考え方と自学自習の勧め（平成18年度 専攻科履修要覧 p.2）

各授業科目の単位数は1単位＝45単位時間（33.75実時間）で構成される。その考え方は次の通りである。

- ・講義：15単位時間（11.25実時間）の授業をもって1単位とする。残りの30単位時間（22.5実時間）は授業時間以外の自主学習によって確保する。
例えば、前期2単位の講義科目の場合、90分授業×15回＝22.5実時間が授業時間であり、45実時間の自主学習を含めて2単位が認められることになる。
- ・演習：30単位時間（22.5実時間）の授業をもって1単位とする。残りの15単位時間（11.25実時間）は授業時間以外の自主学習によって確保する。
- ・実験・実習：45単位時間（33.75実時間）の授業をもって1単位とする。

2) 履修方法、定期試験等（平成18年度 専攻科履修要覧 p.2～4）

a) 履修方法について

年間受講計画をたて、これに基づいて「受講申告書」を所定の期日までに提出すること。

受講を取り消す場合は「受講科目取消申告書」を所定の期日までに提出すること。

b) 集中講義（時間割上にない科目）

- ・起業工学：1年後期、180分×4日、1単位
- ・ベンチャービジネス概論：1年後期、90分×8日、1単位
- ・特別講義1：2年夏休み（8/7～10）「中国四国国立大学等共同授業」、180分×4日、1単位
- ・特別講義2：2年後期「品質管理と安全管理」、90分×8日、1単位

c) 定期試験

中間試験期間は設けず、前期末および学年末に行う。科目によっては授業時間に中間試験を実施する。

d) 再試験

合格しなかった科目について、再試験を行うことがある。再試験受験資格は次の通りである。

- ・成績評価が50点～59点であること
- ・欠課時数が、授業時数の20%以下であること
- ・成績評価の割合のうち、定期試験が50%以上の科目
- ・実験・実習は除く

再試験を希望するときは、速やかに科目担当教員に申し出て、「再試験受験願」を所定の期日までに提出すること。特に必修科目については注意すること。再試験の成績評価は最高60点となる。

3) 特別研究の推進（平成18年度 専攻科履修要覧 p.7～8）

特別研究は専攻科の2年間の課程を通じて、指導教員の指導を受けて自主的に推進するものである。

研究成果は、在学中に専門分野の学会等で1回以上発表することを最低目標としている。指導教員と相談し、あらかじめ学生会員として学会等に加入しておくこと。

中四国専攻科生研究交流会を平成10年度より実施し、専攻科1年での研究成果を発表することになっている。時期は2年次の4月末である。平成18年度は4月24日(月)～25日(火)阿南高専主幹で開催される。

2年次2月中旬に、特別研究発表会を実施し、特別研究論文を提出する。

4) 英語の重視 (平成18年度 専攻科履修要覧 p.8～10)

TOEIC IPは必ず受験すること (実施日5月13日(土)、12月2日(土)の予定)。

TOEIC模擬試験も年数回実施する予定。また、英語の補習を専攻科生の希望者を対象に週に1回程度実施する予定であるので、積極的に参加すること。

目標スコアを定め (最低目標400点)、ALC Net Academyなどを積極的に活用して、努力すること。

5) 学外実習 (シニア・インターンシップ) (平成18年度 専攻科履修要覧 p.10～11)

1年次の夏休み (春休みになる場合もあり) に、約1ヶ月の学外実習を実施する。

本科4年次のインターンシップでは、職業体験と組織における責任とマナーを学ぶ程度であったが、シニア・インターンシップでは、これまでに身につけた専門知識と実験技術を課題発見と問題解決に生かす訓練し、その体験をその後の勉学や特別研究に活用することを目的とする。

6) 他機関における科目の履修 (平成18年度 専攻科履修要覧 p.11～12)

大学等他機関の科目を修得した単位は、16単位を超えない範囲で、専攻科における履修とみなし、単位の修得が認められる。詳細は受講申請時期に連絡するので、積極的に受講することを勧める。

- ・長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学などの遠隔授業 (e-learning)
- ・放送大学の授業
- ・愛媛大学の特別聴講学生として履修できる授業 (平成18年度より開始。夏休みの集中講義など)

3. 学位授与機構への学位授与申請 (平成18年度 専攻科履修要覧 p.4～5)

「新しい学士への途 平成18年度版」(学位授与機構) にしたがって申請する。

1) 修得単位の要件確認

- ・申請する専攻区分による修得すべき単位数のチェック

2) 学修成果 (レポート) の作成

- ・提出時期: 2年次10月上旬
- ・内容: 専攻に係わる特定のテーマ (特別研究) について

3) 小論文試験

- ・試験日: 12月の第3日曜日 (平成18年度は、12月17日(日)の予定)
- ・場所: 大阪大学工学部
- ・課題: 提出されたレポートの内容に関連する事項について小論文の形で課される。

4. 進路

大学院進学か、就職か、早目に決めて準備をしておくこと。求人は1年次の1月頃には始まっている。

「企業の求める人物像に関するアンケート調査結果について」を参照。

5. 学生会活動

代議員、図書委員、環境委員などの活動

国領祭で専攻科の科展示

6. 専攻科担当教員

専攻科長: 早瀬

専攻主任: 生産工学専攻 豊田、生物応用化学専攻 衣笠、電子工学専攻 皆本

専攻科担当教員: 材料工学科 池内、電子制御工学科 田中、数理科 川崎、一般教養科 尾崎

(出典 平成18年度専攻科ガイダンス資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では、学級担任および副担任による新入生研修や始業日のロングホームルームにおい

て、履修指導や学習指導などのガイダンスを適切に行っている。また、日常的な相談助言も学級担任および副担任が実施している。オフィスアワーは設定されているが、その時間に限らず多くの学生が相談助言のため教員研究室を訪れている。

専攻科課程では、始業日にガイダンスにおいて履修指導などを適切に実施している。また、自主的学習を進める上での相談助言は専攻主任や特別研究指導教員が行っている。

観点 7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的学習環境として、電算機演習室、図書館、専攻科棟 2F 専攻科学生室およびアイデア通り工房を整備している。また、キャンパス生活環境としては、尚友会館、図書館棟 1 階ロビーなどが整備されている。

電算機演習室は 4 ヶ所あり、全校生がデータを持ち運びしないで 4 室どこからでも LAN に接続して利用できるようになっている。ALC-NetAcademy や MatLab, LabView, 3D-CAD などのソフトを導入し、語学や製図などの自習環境も整えている。語学ソフトは校内 LAN に接続されており、学生は演習室以外からでもアクセスすることができる。学生の演習室利用については、IC カードキーによる「入室管理システム」により管理されており、平日は 19 時まで自由に使用できるようになっている。平成 16 年度以降、入室者数は急増している（資料 7-1-②-1）。

図書館は、自主的学習環境として約 690m² のスペースを有し、平日は 9 時～20 時、土曜日は 10 時～16 時、休業中は 9 時～17 時の間、開館している。図書館利用心得は学生便覧の中に明記されている（資料 7-1-②-2）。平成 10 年度から平成 16 年度にかけては着実に貸出冊数を伸ばしてきたが、平成 17 年度はやや低下した。平成 18 年度はこの反省から図書館利用活性化アクションプランを実行し、貸出冊数は改善した（資料 7-1-②-3、資料 7-1-②-4）。

専攻科学生室は、専攻科の学生が自学自習などに活用するスペースであり、LAN に接続したパソコン 2 台、掲示板、大学院募集要項などを置いたラックなどを設置している。勉強アンケートで学生室の使い方について調査し、より利用しやすい環境整備をしている（資料 7-1-②-5）。

アイデア通り工房は、新居浜高専アイデア通りプロジェクトなどの各種プロジェクト、ロボコン等のものづくり活動、体験学習など多様なものづくりに対応した共同利用施設として、平成 17 年 4 月に整備された。ものづくり教育支援センターの管理の下、利用方法が定められている（資料 7-1-②-6）。平成 18 年度は、ロボットコンテスト、鳥人間コンテスト、デザインコンペティションなどの製作の場として利用された（訪問調査資料 平成 18 年度ものづくり教育支援センター活動報告書）。

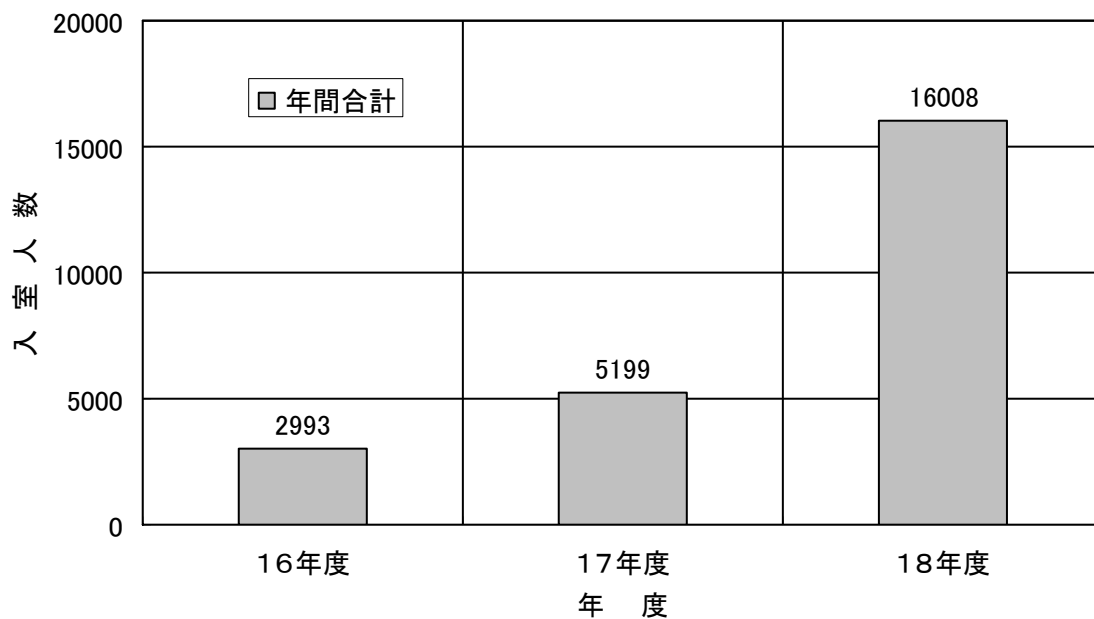
尚友会館は学生向けの厚生施設であり、保健室、カウンセリング室、食堂、売店、ミーティングルーム、和室、オーディオルーム、談話室を有している。平成 16 年度から平成 17 年度にかけて、テラス部分の拡張や小庭園などの周辺整備を行い、学生の憩いのスペースとなっている。尚友会館の利用に対する規則は、学生便覧の中に記載されている（資料 7-1-②-7、資料 7-1-②-8）。

図書館棟 1 階ロビーは広さ 75m² でソファ 50 席、テーブル 4 脚などが設置され、学生の憩いの場

となっているとともに、掲示パネルやショーケースなどで学生の学習成果を展示している。
 電子制御工学科棟2階および生物応用化学科3～5階にはラウンジが設置されている。

資料 7-1-②-1

パソコン演習室利用状況(年度別)



(出典 情報教育センター資料)

資料 7-1-②-2

図書館利用心得



1 図書館とは・・・

- ◇ 図書館は、今後5年間の学習と研究活動に必要な資料・情報を得るために不可欠であるので、大いに利用しよう。
- ◇ 図書館では、学生生活の様々な場面での問題解決の糸口を見出せることができる。
- ◇ 図書館は、気軽に快適な時間を過ごせる交流の場でもある。
- ◇ 図書館を利用することによって、情報活用能力を磨くことができる。
- ◇ 視野の拡大など人間性豊かで自律した人格形成に役立つ。
- ◇ 図書館で得た知識は、卒業後、社会人或いは進学しても、情報の収集活動や利用に応用することができる。

2 利用資格

- ◇ 教職員及び学生
- ◇ 校外者で利用を希望する者（手続きが必要）

3 利用のマナー

- ◇ 他の利用者の迷惑にならないように、静かにしよう。
- ◇ 閲覧室では、飲食は厳禁である。
- ◇ 携帯電話の使用は、禁止する。
- ◇ 書架から取り出した図書や雑誌は、元の場所に返そう。
- ◇ カバン・ハンドバック等は、ロッカーに入れ、教科書・ノート・筆記用具以外は、閲覧室へ持ち込んではいならない。
- ◇ 本校の図書館は、校外者の方も利用することができる。失礼のないようにしよう。

4 図書館の利用方法

- 開館日・時間等

月曜日～金曜日	土曜日	休業期間中
9：00～20：00	10：00～16：00	9：00～17：00

（休館日）

日曜日・国民の祝日・年末年始（12月29日～1月3日）

春・夏・冬季休業期間中の土曜日

その他館長が必要と認めた日

※ 臨時に開館・閉館の日及び時間を変更する場合は、事前に掲示する。

- 本の探し方
 - ◇ 閲覧室内で直接探す。
館内案内図を参考に探すとよい。
 - ◇ OPAC (Online Public Access Catalog) で検索して探す。
閲覧室にOPAC用端末を2台設置している。書名・著者名等キーワードを入力して探すことができる。
- 貸出
 - 借りたい本と「学生証」を持って、カウンターに申し出る。
5冊以内
 - ※ 長期休業中の貸し出しについては、その都度掲示している。
 - ※ 最新の雑誌は、貸し出しできない。
- 返却
 - 借りた本人が、直接カウンターへ返却する。
1週間以内
 - ※ やむを得ず、開館時間内に返却できないときは、閲覧室入口の「時間外却ポスト」に返却する。
- インターネット
 - 閲覧室内に設置している5台のパソコンを利用することができる。

□ 電子ジャーナル

インターネットの端末を利用して本校で契約している電子ジャーナルを利用できる。

SD (科学, 技術, 医学, 社会科学)

ACS (無機化学・有機化学・物理化学など化学系全般)

MathSciNet (数学, 統計学, 計算機科学, 数学の歴史・教育など)

JDream (科学技術, 医学に関する, 学術論文や解説的記事などの文献情報を幅広く検索できる2次データベース)

KANON (工学・理学・語学・社会科学など全分野)

IEEE-ASPP (電気・電子工学, コンピュータ, 物理学)

□ 各種サービス

図書館では, 下記のサービスを行っている。希望者は, カウンターに申し出ること。

◇ レファレンスサービス

授業の準備・レポート提出等のために必要な資料・情報を探したい, また, その利用方法について知りたい場合に図書館職員が援助することである。

◇ 文献複写 (有料)

図書館資料の複写サービスを受けることができる。必要とする資料が本校の図書館にない場合は, 他の大学図書館にも文献複写を依頼することもできる。

他大学図書館の場合は, 複写料のほかに郵送料が必要となる。

◇ 相互貸借 (有料)

必要とする図書が本校の図書館にない場合は, 他の大学図書館等から一定期間借用するこ

— 26 —

とができる。

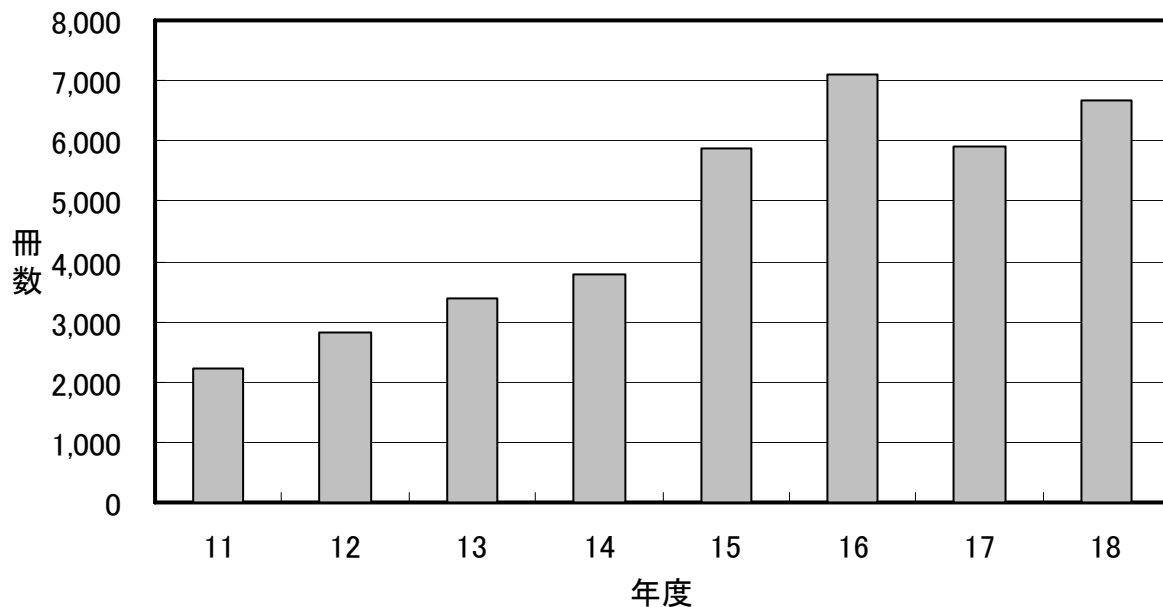
◇ 他大学図書館等の利用

他大学図書館等を利用したい場合は, 相手館の了承を得た上で, 閲覧依頼書を発行する。

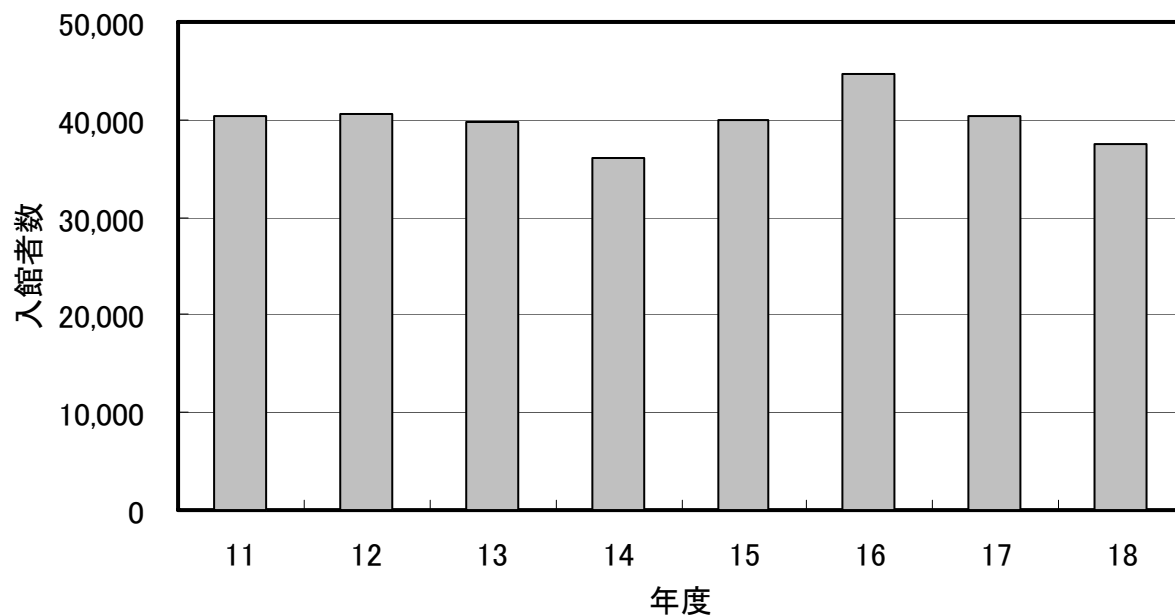
(出典 平成18年度学生便覧)

資料7-1-②-3

貸出冊数(学生のみ)の推移



入館者数(校外者含む)の推移



(出典 図書館資料)

資料 7-1-②-4

図書館利用教育に関するアクションプラン

広報・図書委員会

1 教員に対する図書館利用教育

研修会の実施

- ・クラス担任を対象とする研修会を、広報・図書委員会委員会で早急に検討し実施する。

2 新入学生に対する図書館利用教育

図書館で「マニュアル」を作成し、広報・図書委員会で検討の上、新入生クラス担任に配布する。

- (1) 新入生に対するオリエンテーションの実施（入学式直後）
 - ・図書館の存在・位置・概略の説明し、気軽に利用出来る図書館であることをアピールする。
(引率者・クラス担任・図書館)
- (2) 特別活動を利用したガイダンス（入学後一定期間を置いて実施）
 - ・図書館利用の意義・目的等、今後5年間の学生生活を送る上での重要性を認識させる。(クラス担任)
 - ・図書館の利用の仕方・本の探し方等手続きの説明（図書館）
- (3) 上記活動終了後は、2年次以降の学生と同様な教育を実施する。

3 2年生以降の学生に対する教育

- (1) SHRを利用した読書推進活動（クラス担任）
 - ・読書会、朗読会、学生による本紹介等
- (2) 特別活動を利用した図書館での授業（各教員）
 - ・図書館利用教育を取り入れ、不断の図書館利用を喚起する。

4 図書館行事の推進

- ・マナー傾向にある下記の行事の活性化を図る。

(詳細は、新年度実施に向けて広報・図書委員会で早急に検討する。)

- (1) 読書感想文コンクール
 - ・一般教養科との連携をさらに、図る。
 - ・募集期間の確立
 - 6月募集開始 9月上旬締め切り
(夏季休暇・ブックハンティングを考慮)
 - ・課題図書・自由図書部門の設定等対象図書を検討する。
 - ・募集開始をクラス担任から学生に周知し、応募意欲を喚起する。
(他高専の読書感想文を各クラスに配布する。)
 - ・ブックハンティング参加者には、応募を義務付ける。
- (2) 図書館ホームページ（読書感想文コンクールに並行して実施）
 - ・募集期間
 - 6月募集開始 9月上旬締め切り
 - ・募集開始をクラス担任から学生に周知し、応募意欲を喚起する。

5 その他

- (1) 教科教育に、図書館利用を導く課題等を組み込む。(各教員)
 - ・シラバス参考書・推薦図書・指定図書の活用
- (2) 4年以上の学生に電子ジャーナルが利用できるよう指導する。(各学科、広報・図書委員)
 - ・学内研修会の外、専門業者による研修会の実施も検討する。
 - ・広報・図書委員会と各学科(学科で担当者を1名選任)の協力を得て、実施に向けた検討を行う。
- (3) クラス間の競争心を引き出すため、クラス別の利用状況を毎月グラフで掲示する。(図書館)
- (4) 図書館活動の表彰を、終業式(該当が4年以下の場合、専攻科1年は新年度始業式、5年又専攻科2年は年度末までにホームルームで行う。)に行い、全学生に成果を顕彰する。(今年度

から、実施)

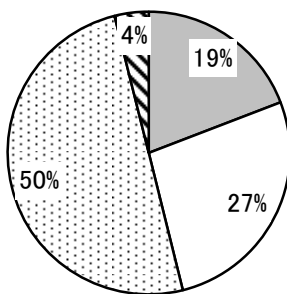
(出典 図書館資料)

資料7-1-②-5

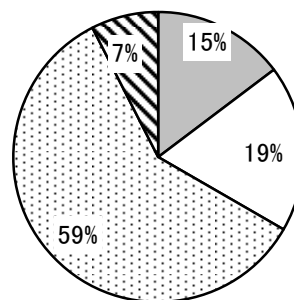
5. 専攻科学生室についてどう思いますか。

- 使いやすい
- 使いにくい
- どちらともいえない
- その他(具体的に書いてください)

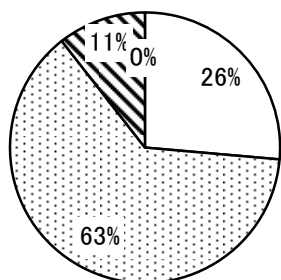
1年



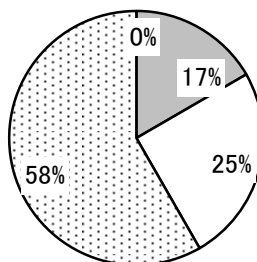
2年



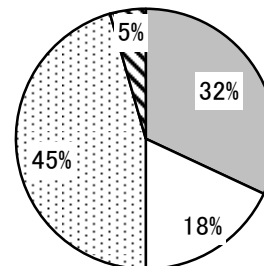
生産工学専攻



生物応用化学専攻



電子工学専攻



その他(具体的に書いてください)
場所が場所だけに使う機会がない。

6. 5で「使いやすい」と答えた人に聞きます。どんな点が使いやすいですか。

大きな机とそれを囲むように配置された椅子が、友達との勉強環境を充実させてくれる。
自分達の教室がないので、ちょっとした時間を過ごす場合に非常に便利だ。
専攻科学生室が講義室の近くにあるため、時間をつぶす時に使いやすい。
専攻科生専用なので気が楽
専攻科生しか使わないから。
キレイ
広めの空間でくつろげる。
空き時間に最適な場所

7. 5で「使いにくい」と答えた人に聞きます。どんな点が使いにくいですか。

パソコンが使えない(ネットを含む)(4人)
 研究室から遠く、利用しにくい(4人)
 風の通りが悪く暑い。
 各自のロッカーがない。
 バイク駐車場から遠い。
 千鳥から遠い。
 外から丸見えで落ち着かない
 完全なホームルームでないため、利用者が少なく、利用しようと思わなくなる。
 1時間目までの時間つぶしにしか使えないと思う。
 机などがすくなくすぎる。

8. 専攻科学生室を有効活用するために整備してほしい物品・資料等があれば書いてください。

自動販売機(6人)
 インターネット環境(3人)
 パソコン(3人)
 就職などの情報(2人)
 ロッカー(2人)
 冷蔵庫(2人)
 大学院の情報
 様々な企業の動向
 テレビをおいてほしい。そうすれば人も集まるし、みんなと仲良くなれると思う。
 電子レンジ
 ゴミ箱

(出典 平成18年度専攻科勉学アンケート)

資料 7-1-②-6

利 用 方 法

「アイデア通り工房」(以下、「工房」という。)は新居浜高専の学内共同利用施設で、本校の学生は誰でも工房の設備を使用することができます。以下の事項を守って、ものづくりの場としてどんどん活用してください。

1. 利用申込み及び登録について

- 利用希望者は利用申込書を提出してください。
- 利用申込書は学生課学生係にあります。必要な事項を記入の上、利用開始の10日前までに、学生課学生係に提出してください。(受付時間は17時まで)
- 第1アイデア通り工房(機械実習工場工房)は、ICカードで入退室を行います。利用が許可されたプロジェクトの学生は、利用登録されます。
- 第2アイデア通り工房(材料棟工房)は、指導教員が鍵の管理を行います。

2. 利用許可について

利用許可については、指導教員に連絡します。(利用スペースが確保できないことがあります)

3. 利用できる時間

平日(月～金) 14:00～19:00

ただし、土日・休日(休業日を含む)については、特別な事情がある場合には、指導教員を通じ、ものづくり教育支援センター長の許可を得て利用してください。

4. 利用上の注意事項

- 必ず2人以上で使用してください。
- 安全および施設管理の点から、原則として教員もしくは技術職員の立ち会いが必要です。
- 登録者以外のは入室は禁止です。

- 工房内は常に整理整頓に努めてください。
- 設備、機器を使用後は必ず元の状態に戻してください。
- 工具類は各プロジェクトで用意してください。
- 設備、機器等を破損した場合は、速やかに指導教員に申し出てください。
- 旋盤等の所定の工作機械は、機器操作の講習を受けた者のみが使用可能です。
(講習日は別途連絡します)
- 使用後は毎回清掃をしてください。
- 工作により出たゴミは分別して所定の場所に捨ててください。
- 工作以外のゴミは必ず各自で持ち帰ってください。
- 工房内での飲食は禁止です。
- 実習工場側のドアからの出入りは禁止です。
- 最後に退室する人は、戸締まり、消灯を確認してください。
- プロジェクト終了後は、全てのものを撤去してください。

(出典 アイデア通り工房の掲示)

資料 7-1-②-7

新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」管理運営規則

昭和 59 年 2 月 13 日規則第 3 号

(趣旨)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)福利会館「尚友会館」(以下「会館」という。)の管理運営については、他の法令に定めのあるもののほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 会館は、学生及び職員の福利厚生を増進を図るとともに、学生の課外活動を助成し、学校生活を豊かにすることを目的とする。

(施設)

第 3 条 会館には、ミーティングルーム、和室、オーディオルーム、保健室、カウンセリング室、食堂、売店及び談話室等を設ける。

(管理及び運営)

第 4 条 会館の管理運営の責任者は、校長とする。

(使用者の範囲)

第 5 条 尚友会館を使用できる者は、本校の学生及び職員とする。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りでない。

(使用の許可)

第 6 条 会館の使用を希望する者は、あらかじめ校長の許可を受けなければならない。

(使用の制限)

第 7 条 校長は、使用者がこの規則に違反した場合又は会館の運営上支障があると認められる場合は、使用の許可を取り消すことがある。

(弁償責任)

第 8 条 使用者が、故意若しくは重大な過失により、施設・設備又は備品をき損又は亡失したときは、校長の指示により、その損害を賠償し、又は現状に回復しなければならない。

(事務)

第 9 条 会館の管理運営に関する事務は、学生課学生係において処理する。

(補則)

第 10 条 会館の使用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 7-1-②-8

新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」使用細則

昭和 59 年 2 月 13 日規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この細則は、新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」管理運営規則第 10 条の規定に基づき、新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」(以下「会館」という。)の使用に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用の範囲)

第 2 条 ミーティングルーム、和室及びオーディオルームは、次の各号に掲げる場合に使用することができる。

- (1) 学生会活動及びクラブの活動
 - (2) 学生又は職員の研修及び集会
 - (3) 前 2 号に掲げるもののほか、校長が適当と認めた場合
- 2 食堂及び談話室は、原則として共用の場として使用するものとする。

(使用時間及び休館日)

第 3 条 会館の使用時間及び休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、校長が特に必要と認める場合は、変更することがある。

(1) 使用時間

室 名	時 間
ミーティングルーム	8 時 3 0 分～1 9 時 0 0 分
和室	
オーディオルーム	
保健室	8 時 3 0 分～1 7 時 1 5 分
カウンセリング室	
談話室	6 時 0 0 分～2 1 時 0 0 分
食堂	1 0 時 0 0 分～1 3 時 3 0 分
売店	8 時 0 0 分～1 8 時 0 0 分

(2) 休館日 日曜日、土曜日、国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律 178 号)に規定する休日及び年末年始(12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで)

(使用の手続き)

第 4 条 第 2 条第 1 項に該当し使用しようとする場合は、代表者が使用日の 3 日前までに、別紙様式の「尚友会館使用許可願」を、学生主事を経て学生課学生係(以下「学生係」という。)に提出し、校長の許可を受けなければならない。また、食堂及び談話室を、第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に該当し使用する場合においても同様とする。

(使用の許可等)

第 5 条 使用の許可は、原則として申込受付順とする。ただし、特別の事情がある場合には、校長が順位を調整することがある。

- 2 前項の規定に基づき使用することを許可したときは、尚友会館使用許可書を交付する。
- 3 前 2 項の規定に基づき使用許可を受けた後に、使用する必要がなくなつた場合又は使用内容に変更が生じた場合は、速やかにその旨を学生係に申し出なければならない。

(使用上の遵守事項)

第 6 条 会館の使用に当たっては、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可された目的以外に使用しないこと。
- (2) 許可時間及び場所を厳守すること。
- (3) 設備・備品等を、無断で所定の場所から移動させないこと。
- (4) 設備・備品等は充分注意し取り扱うこととし、使用中に破損、汚損又は亡失したときは、速やかに学生係に届け出なければならない。
- (5) 騒音、喧騒等他の者に迷惑の係る行為はしないこと。
- (6) 使用後は、清掃及び整理整頓するとともに、当該施設の戸締り及び消灯等を確実に行うこと。
- (7) 備え付けられている電気器具以外の器具は、使用してはならない。ただし、特別の事情がある

場合は、事前に学生係に願い出て許可を受けて使用すること。

(鍵の管理等)

第7条 会館の鍵は、学生係において管理する。

2 使用を許可された者は、使用前に学生係において鍵を受領すること。また、使用後は、学生係に前条第6号に規定する措置をとった旨の報告及び鍵の返却をしなければならない。ただし、勤務時間外にあつては、学生係の指示により、守衛室において鍵の授受等を行うことができる。

附 則

この細則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成17年7月29日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

電算機演習室は、4室をLANで接続し、どの部屋からでもデータ共有できるようになったこと、語学などのソフトが充実したこと、ICカードキーによる入室管理ができるようになったことなどから、学生の時間外利用者が大幅に増えており、効果的に活用されている。

図書館は、自主的学習環境として整備されており、図書館利用活性化アクションプランなどの効果によって着実に貸出冊数を伸ばしている。

アイデア通り工房は、学生のものでづくり活動の場として平成17年度に整備され、各種コンテストへの参加、アイデア通りプロジェクトなど、さまざまな製作活動に活用されている。

学生の厚生施設としては、食堂、売店、談話室などが整備され、有効に活用されている。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

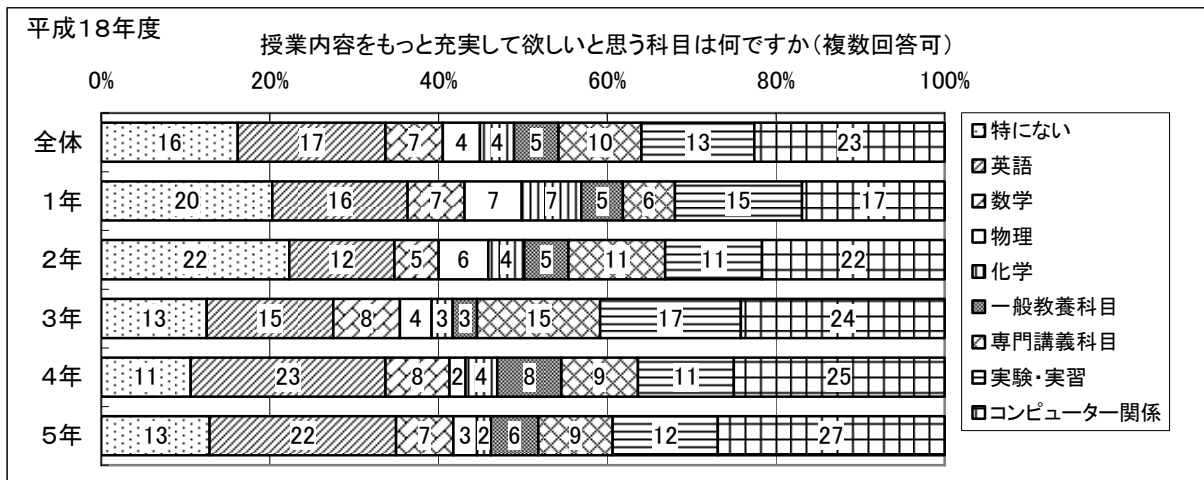
準学士課程、専攻科課程ともに勉学に関するアンケートを行い、充実してほしい科目の質問項目をとおして、学生のニーズを把握するように努めている（資料7-1-③-1、資料7-1-③-2）。充実してほしい科目の回答において英語が多く、英語に対する学習支援の必要性が示されている。また、実験・実習やコンピュータ関係の充実を望む回答も多い。

準学士課程4、5年生に対して、資格試験、進路、海外留学の指導に関するアンケート調査を行い、学生のニーズを把握している（資料7-1-③-3、資料7-1-③-4）。

1、2年生で数学・物理について上級生による学習支援（ティーチングアシスタント制度）を受けた学生にアンケート調査を行い、実施方法や内容についての要望を把握している（資料7-1-③-5）。英語実力養成講座の受講学生に対しても実施方法などに関するアンケート調査を行っている（資料7-1-③-6）。

また、学科ごとに開催する学生と教員との懇談会においても学習支援に関するニーズを聞き取り調査している（資料7-1-③-7）。

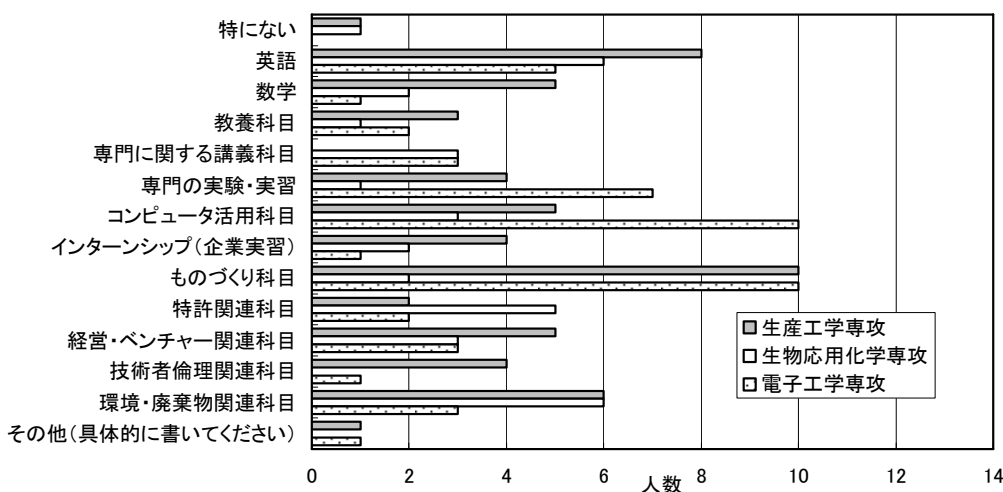
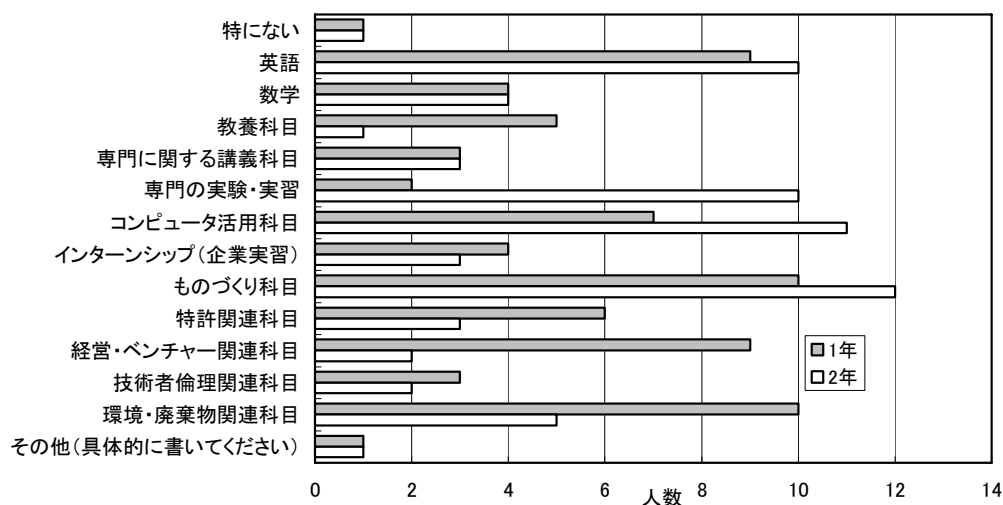
資料7-1-③-1



(出典 平成18年度勉学アンケート)

資料7-1-③-2

4. 授業内容をもっと充実してほしいと思う科目は何ですか。(複数回答可)



5. 4で「教養科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。

社会人としての礼儀、作法等
 一般常識を確認できるような授業
 週に一回は、気分転換も含めて、体育の授業を入れてほしい。
 コミュニケーション能力

6. 4で「専門の講義科目」と答えた人に聞きます。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。

分子生物学などのバイオ系科目
 専攻以外の知識・技術
 機器の使い方
 情報系
 電気回路の基礎理論を確認しながら実際に問題を多く解きたい

(出典 平成18年度専攻科勉学アンケート)

資料7-1-③-3

平成19年3月

学生支援に関するアンケート

学年 4年・5年 学科 M・E・D・C・Z (○をつけてください)

以下のアンケート項目の□を塗りつぶしてください。

1. 技能検定および資格試験に関して。

1-1. 技能検定および資格試験に対する学校側の支援・指導に満足している。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

1-2. 技能検定および資格試験の関連情報は十分に得られた。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

1-3. 長期休業中の技能検定 (TOEIC・数学検定) に対する補講に満足していますか (受講者のみ)。

 満足している どちらかといえば満足している どちらかといえば不満である 不満である

1-4. 技能試験および資格試験に関する学校側の支援で充実を望むものは何ですか。

()

2. 就職・進学に関して。

2-1. 就職・進学について決定した内容には満足している (5年生のみ)。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

2-2. 就職・進学指導には満足している。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

2-3. 就職・進学の関連情報は十分に得られた。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

2-4. 就職・進学に関する学校側の支援で充実を望むものは何ですか。

()

3. 海外留学・海外研修に関して (経験者と希望者対象)。

3-1. 海外留学・海外研修の指導には満足している。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

3-2. 海外留学・海外研修の関連情報は十分に得られた。

 そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない

3-3. 海外留学・海外研修に関する学校側の支援で充実を望むものは何ですか。

()

(出典 学生支援に関するアンケート)

資料7-1-③-4

4年生全体

設問1-1 技能検定及び資格試験に対する学校側の支援・指導に満足している。

設問1-2 技能試験及び資格試験の関連情報は充分得られた。

設問1-3 長期休暇中の技能検定(TOEIC,数学検定)に対する補講に満足していますか(受講者のみ)。

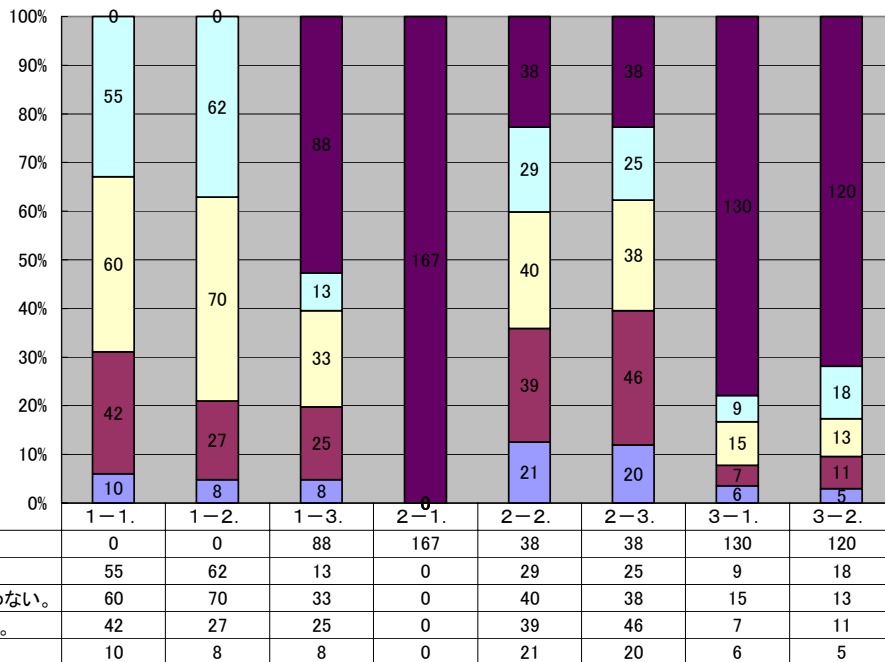
設問2-1 就職・進学について決定した内容に満足している(5年生のみ)。

設問2-2 就職・進学指導には満足している。

設問2-3 就職・進学の関連情報は充分に得られた。

設問3-1 海外留学・海外研修の指導には満足している。

設問3-2 海外留学・海外研修の関連情報は充分に得られた。



設問項目

5年生全体

設問1-1 技能検定及び資格試験に対する学校側の支援・指導に満足している。

設問1-2 技能試験及び資格試験の関連情報は充分得られた。

設問1-3 長期休暇中の技能検定(TOEIC,数学検定)に対する補講に満足していますか(受講者のみ)。

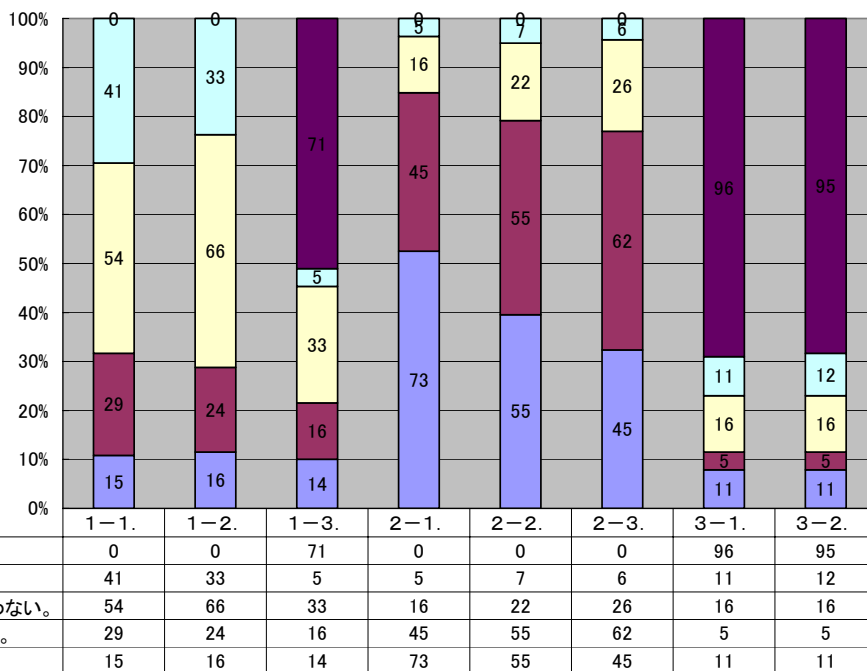
設問2-1 就職・進学について決定した内容に満足している(5年生のみ)。

設問2-2 就職・進学指導には満足している。

設問2-3 就職・進学の関連情報は充分に得られた。

設問3-1 海外留学・海外研修の指導には満足している。

設問3-2 海外留学・海外研修の関連情報は充分に得られた。



設問項目

(出典 点検・評価運営委員会資料)

Q5. 問題のレベルはどうでしたか.

1. 難しすぎた 2. 適当だった 3. 易しすぎた

Q6. どのような教え方をしましたか. 一番多かった方法を教えてください.

1. 全員まとめて一斉に指導した.
2. 一人ずつ対応した.
3. その他

Q7. 今回のTA補習の成果はあったと思いますか.

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない
3. と答えた人は, 理由を書いてください.

Q8. 受講生は何人くらいが適当でしたか. (名)

Q9. 補習の感想や改善すべき問題点など, 自由に書いてください.

(問題や解答の配布の仕方, 受講生の机の配置, 受講人数, 教えることの体験は自分にとってどうだったか, など何についてもよい)

(出典 教務委員会資料)

資料7-1-③-6

英語実力養成講座参加者アンケート(H.18.8.31)

平成18年度 本科 () 学年 () 科 () 組

専攻科 () 学年 () 専攻

(1) 参加したコースはどのコースでしたか.

- ①TOEIC対応コース ②基礎コース ③実力養成コース

(2) 受講して, 良かったですか. 次の3つから選び, 理由を書いてください.

- ①良かった ②良くなかった ③どちらとも言えない

(理由)

(3) このような実力養成講座を今後続けて欲しいですか.

- ①続けて欲しい ②必要なし

(4) 学年末休業中に同じような実力養成講座を予定しておりますが, 参加したいと思いませんか.

- ①参加したいと思う ②参加したいとは思わない

(5) (4) で①と回答された人は, どのコースを受けたいですか.

(6) このような講座についてのご意見, ご希望など何でもかまいませんからお書きください. 今後, 参考にしたいと思えます.

(出典 英語科主任保存資料)

電気情報工学科 学生と教員との懇談会 問題点とそれに対する学科の意見

1. 日時:平成19年2月16日(金)、16:10~17:10
 2. 場所:5E教室
 3. 参加者: 学生:電気情報工学科の各学年2名ずつ、計10名
 教員:主任、教務委員、各学年の担任、副担任、計8名
- なお、下記「学科としての意見」は懇談会の場、及び、後日学科内で纏めた意見である。

学生の問題点	学科としての意見
<授業に対する問題点>	
・小テストが重なるので、先生間で調整して欲しい(5E)。	・小テスト時期をずらす等の方法もあるので、そういう状況になった場合には教えてください。
・卒論で忙しいときに実験レポート提出がある(5E)。	・スケジュールは予め分かっているのに、計画的に実施するしかないと思う。
・実験報告書は手書きでなければならないのか(3E)。	・原則:3年生までは手書き。4、5年生を含めて理由を担当先生が学生に説明する。
・休憩時間(3分程度)を取って貰えれば眠たくならない(全学年)。	・先生毎に状況を見て対応して貰う。
・居眠りをしている者の対応をきちんとし、徹底して欲しい(5E)。	・学科としては対応を決めている(先生によっては出来ていない場合があると思われるが、これについては今後検討する)。
・ただただ板書する先生、また、教科書通りを板書する先生が居る(3E)。	・授業の仕方については学科として今後チェックしていく。
・年度末になるとシラバス通りにするために最後の方の講義がおそろかになる。また、試験にはそこから出される(3E)。	・授業は遅れ気味になる傾向はあるが、重要なところはちゃんと講義するように学科内で議論する。
・黒板の下の方、左右(光る)に書かれたら見えない。また、先生の陰で見えない(4E)。	・左右(光る)に関してはブラインドを降ろす、両端最前列の席を空けるなどの工夫をするなど学科内で検討していく。その他については学科内で注意する。
・アンケート結果はフィードバックして貰えないのか(3E)。	・フィードバックすべきとのことで教務委員会が中心となり、実践していこうとしている。
・課題(宿題など)が出されたとき、答だけではなく、途中の考え方を記載した模範解答が欲しい(専門、一般科目)。WebClassなどの有効利用を考えるべき。回路理論演習は解答コピーが欲しい(2E)。	・WebClassは有効に利用していきたい。左記問題点に答えられるよう検討する。
・情報処理室のユーザ環境が壊れても修理が非常に遅い(1E)。	・今後左記のようなことがないように対応していく。
・授業中うるさい学生が居る。叱られてもすぐまたうるさくする。徹底的に対応して欲しい(2E)。	・左記のようにうるさい学生はごく一部の常習犯的な学生である。対応を検討する。

<授業以外に関する問題点>	
・体育館が混んでいるので、部活時間を出来れば20:00まで延ばして欲しい(1E)。	・部活時間変更には色々な問題がある。学科だけでは解決できない問題である。20:00までの延長は難しいと思われる。
・寮ルールは学校より厳しすぎる(服装など)(1E)。また、校則違反した場合の罰則としては最初注意するが、その後注意を止める。学生には効果がない(2E)。風紀指導はやるならきちんと最後まで指導して欲しい(全学年)。	・学校全体としての問題であるが、教職員一人一人意識して対応していきたい。
・ピアス、茶髪禁止に関しては厳しくなくても良いと思うが、ルールならば罰則が緩すぎるのではないのか(5E)。	・学校のルールである。学校としての厳しい対応が必要であるが、教職員としても一人一人厳しく指導していく必要があると考える。
・資格について、案内だけでなく、どのような勉強をすればよいのかまた、朝の補習などで指導して貰えないのか(2E、4E、5E)。	・資格取得については学科としても力を入れている。朝の補習はすぐには難しいが、ショートホームルームで1日1問の問題を行うなど今後工夫をして行く必要があると考える。

<設備に関する問題点>	
・バイクを止める場所に屋根が欲しい(3E)。	・学校としての問題であり、今後機会がある毎に学科としても訴えていきたい。
・光の波長測定装置など実験設備が老朽化しすぎて動かないものがある。また、回路測定で回路が悪いのか波形が観測できないものがある。きちんと保守・点検をして欲しい(5E)。	・古い装置はそれなりに意義のあるものがあり、別に悪いわけではないが、動かないことは不味い。今後動くものに更新していきたい。
・演習室PCIにFlashを入れて欲しい(就職活動で見れないページがある)(3E)。	・入れるかどうかについては今後学科内で検討していきたい。

<その他>	
・定期試験後の1週間の期間:90分も必要なのか。やるならちゃんと90分やって欲しい(例えば30分で試験解答を終わって、その後はほったらかされるのは困る)(3E)。	・関連項目、その後の授業内容を講義するなどして、90分間は有効に使うようにしていきたい。
・新居浜祭りに休日があるので、西条祭りも休日にして欲しい(5E)。	・学校として考えることであるが、休日にすることは今は難しいと考える。その理由としては、実験など試験を実施しない科目の授業時間数の確保が現在ぎりぎり、これ以上休みを取ることが困難などが上げられる。
・今回の懇談会は忙しい卒論締め切り日にして欲しくなかった(5E)。	・その気持ちは分かるが、当方のスケジュールもあり、止む終えなかった。
・今回の懇談会に対する検討結果はいつ知らせて貰えるのか。ずるずる行かれて報告無しでは困る(5E)。	・期末試験後の特活の時間に担任から報告する。

(出典 平成18年度電気情報工学科 学生と教員との懇談会)

(分析結果とその根拠理由)

勉強アンケートや学生と教員との懇談会などにより、学習支援に関する学生のニーズを適切に把握している。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

長期休業中には「英語実力養成講座」，「数検合格対策講座」，「機械設計技術者試験3級受験対策講座」および「電気情報工学科夏休み実力養成研修」の学習支援プログラムを実施している。(資料7-1-④-1)。英語実力養成講座は，TOEIC対応コースを設け，希望者に対して春季休業中に2日間および夏季休業中に4日間それぞれ8時間実施した(資料7-1-④-2，資料7-1-④-3)。数検合格対策講座は，受験者対象に夏季休業中の2日間行った(資料7-1-④-4，資料7-1-④-5)。機械設計技術者試験は，受験者対象に夏季休業中に3日間行った(資料7-1-④-6)。電気情報工学科夏休み実力養成研修では，資格試験対策を含む種々の学習支援について夏季休業中の5日間取り組んだ(資料7-1-④-7)。

また，資格試験などにおいては，教務係や各学科・科の担当教員が受験申し込みの窓口になり受験を支援したり，TOEIC IPが低額で受験できるように後援会が支援しているなどの体制も整っている。各種の技能検定・審査及び資格試験に合格した場合，これを単位認定する制度を設け，学生の受験を支援している(資料7-1-④-8，資料7-1-④-9)。

外国留学については，外国の教育機関において取得した単位の認定に関して学則に整備されている(資料7-1-④-10)。実施に当たっては学級担任と英語科の教員が連携をとり，外国留学予定者に対して，留学前の事前指導と留学後の学内報告会を行っており，毎年外国留学している学生がいる(資料7-1-④-11)。

資料7-1-④-1

夏季休業中の学習支援について

平成18年度夏季休業中に次のとおり学習支援プログラムが実施されます。

1 英語実力養成講座(全学生対象)

8月28日(月)～31日(木)

- (1) TOEIC 対応コース(初級者から上級者まで)
- (2) 基礎コース(中学・高専低学年の基礎からやり直し、基礎学力をつけたい学生を対象)
- (3) 実力養成コース(基礎学力のある学生で、進学・編入学等のため、さらに実力をつけたい学生を対象)

2 数検合格対策講座(数検受験者を対象)

昨年度から，本校は「数検」の実施校となっている。

今年度も受験者を対象に8月下旬(受験直前)に対策講座を開講する。

3 課題演習2の開講(夏季体験学習に向けて)(全学生対象)

7月28日(金)、29日(土)の2日間、中学生を対象に実施される夏季体験学習に、本校の多数の学生がテーマ参加する。その準備学習(30時間以上)も含めて「課題演習2」を開講する。座学ではなかなかつかめない工学的現象を理解し、それを人に説明するなど貴重な体験ができる。

4 機械設計技術者試験3級受験対策講座

実施期間：7月24日(月)～26日(水) 9:30～16:00

5 電気情報工学科 夏休み実力養成研修(電気情報工学科・電気工学科学生対象)

実施期間 8月21日(月)～25日(金)の5日間 9:30～17:00

実施科目：専門基礎(電磁気、電気回路、プログラミングなど)

工学基礎(物理、数学)

資格試験、専攻科入試、編入学試験問題解答

自由課題：プログラミング、ホームページ、物づくり

1年生から5年生まで、互いに協力し合い、自分がやりたい勉強をする。また、自由課題の場合は、自分が考えたやり方について先生の指導を受けた後、自分が主体的に実行する。

6 数学夏季補習(1年生対象)

実施期間：7月20日(木)、21日(金)、24日(月)、25日(火)の4日間

1年生の希望者 数学A-140名程度、数学B-140名程度を対象とし、夏休み前までの学習範囲を復習する。

7 インターンシップ

(4年生、専攻科1年生対象)

実施期間：夏季休業中

(出典 高専だより第90号)

資料7-1-④-2

長期休業中の学習支援について
平成18年度夏季英語実力養成講座実施要領
(主催：英語学力強化対策委員会)

1. 開講期間及び実施時間

開講期間：8月28日(月)～31日(木)の4日間

実施時間：8月28日(月) 14:00～16:00

8月29日(火) 10:00～12:00

8月30日(水) 10:00～12:00

8月31日(木) 10:00～12:00

2. 場所：第1、第2電算室、LL教室等

3. 講座の種類：(1) TOEIC 対応コース(初心者から上級者まで)

(2) 基礎コース(中学・高専低学年の基礎からやり直し、
基礎学力をつけたい者を対象)

(3) 実力養成コース（基礎学力のある者で、進学・編入学等のため、
さらに実力をつけたい者を対象）

4. 対象者：本校の学生。希望者は、学年を問わず、どのコースでも選択できます。コースについて決めかねている場合は、英語教員に相談してください。
5. 準備するもの：辞書、ノート、筆記用具等。
6. 使用教材：TOEIC 用教材、プリント教材等（担当者が準備）
7. 担当者：本校英語教員（外国人教員を含む）
8. 受講申し込み期限：7月18日（火）までに、学生本人が教務係へ申し込むこと。
（申し込みの際、連絡先の電話番号を付記すること）
9. 寮生で、特別寮生により受講を希望する場合は、「特別寮生願」（保護者の確認印が必要）を7月11日（火）までに指導教員（塚野教員）に届け出ること。さらに、ガイダンス（7月18日 [火] 21：00～）を受ける必要があります。
10. 講座実施場所は、第1日目（8/28）午前中に、学生課掲示板に掲載しますので、ご覧ください。
11. 台風等の場合は、中止することがあります。
12. 講座についての問い合わせは、新居浜高専学生課教務係（Tel.0897-37-7724）

以上

（出典 英語主任保存資料）

資料 7-1-④-3

平成18年度夏季英語実力養成講座について（総括）2006.9.20

本校学生の英語学力向上の一助にするため、下記の通り、英語学力強化対策委員会主催により、実力養成講座を開講した。申し込み者総数は、88名（内、寮生17名）だったが、9名は参加しなかった。4日間皆勤者は、41名だった。

基礎コース希望者が多く、ほとんどが1年生であった。実力養成コース希望者は、1名だったので、TOEIC コースに変更してもらった。

基礎コース受講者は、82名（申し込み時）で、78名が1年生で、残り4名が3年生3名と2年生1名であった。

TOEIC コース受講者は、7名（申し込み時）で、1年生1名、3年生4名、4年生2名であった。

基礎コースでは、参加者多く、4班（各20名程度）に分けて実施した。問題プリントを用いた英文法の基礎的内容の総復習を行った。

TOEIC コースでは、第2電算室でPCを利用し、演習、リスニング、速読などを行った。

（出典 英語主任保存資料）

資料 7-1-④-4

学生のみなさんへ

数学担当教員

実用数学技能検定（数検）団体受検のお知らせ

本校では本科生・専攻科生を対象に、8月26日（土）8：50～12：00、物理教室において数検の団体受検を行います。（1次・2次試験を続けて行います。）

受検希望者は7月12日（水）まで（厳守）に、所定の受検申込書に検定料を添えて、常勤の数学担当教員に申し込んでください。

2級（高専3年以上に相当） 4,000円

準2級（高専2年以上に相当） 3,500円

（いずれも個人受検の正規料金の500円引きになっています。）

なお、締切以降は、（たとえ受検しなくとも）受け取った検定料はお返しできません。また、階級の変更もできません。

1級（大学生レベル）・準1級（高専4・5年以上に相当）は今回の団体受検では取り扱えません。（年3回、指定の会場で個人受検を実施しています。検定料1級・5,500円、準1級・5,000円）

また、過去に1次試験または2次試験のいずれか片方のみ合格した者が再び同じ階級を受検する場合は、（合格証のコピーを提出すれば）1次（2次）試験が免除されます（検定料も1,000円引きになります）。

● 検定概要・時間割

8:50から受検上の注意を聞いたのち、1次・2次の2つの試験を続けて受検します。

1次試験（計算技能検定）9:00～10:00(60分)…計算能力を問う（最終的な解答のみを答える）試験。定規等・電卓等は使用できません。

2次試験（数理技能検定）10:10～11:40(90分)…数学的思考力を問う記述式（途中の計算や証明をきちんと書く）試験。定規等を使用しますので、持参してください。また、電卓等（関数電卓も含む）の使用が認められますので、必要なら持参してください。各試験とも開始30分経過後は途中退出を認めません。2次試験終了後、数検からのアンケートを行います。

● 当日持参するもの

筆記用具、定規等（コンパス・分度器も含む）、

電卓等（関数電卓も含む、ただし、携帯電話やパソコンは使用不可）

● 試験範囲

詳しくは過去の試験問題、数検の本やホームページを見てください。およそ次の通りです。

2級…中学3年～高専2年の内容

準2級…中学2年～高専1年の内容

● 合格の基準

1次は全問題の70%程度、2次は全問題の60%程度できていれば合格です。1次・2次ともに合格してはじめて、その階級を合格したと見なします。

● 合格率

本校では平成16年度から団体受検を行っています。結果は次の通りです。

平成16年度：2級 19名中6名合格（合格率32%）[4年生4名、5年生2名合格]

準2級 9名中5名合格（合格率56%）[2年生5名合格]

平成17年度：2級 22名中12名合格（合格率55%）

[2年生3名、3年生6名、4年生2名、専攻科生1名合格]

準2級 3名中3名合格（合格率100%）[2年生3名合格]

なお、全国で見ると、だいたい次の通りです。

2級 30%程度

準2級 40%程度

● 数検合格の意義

英検などと同じように、就職・進学の際、履歴書に「数検〇級合格」と書くことができます。

また、本科生は、所定の手続きをとれば、

1級合格ならば4単位、

準1級合格ならば2単位、

2級合格ならば1単位

を卒業単位として認定します。(ただし、重複して合格しているときは、より上級の単位数を上限とします。「本科履修要覧」pp.13～14参照)

● 数検に合格するには

決して安くない検定料を払って受検するので、受検するからにはしっかり勉強しておかないといけません。(試験勉強しないとまず合格しません。) 書店で数検対策の本

受かる!数検 学習研究社 1,200円(級別)

数学検定問題集 樹創育社 1,000円(級別)

数検 新過去問題集 (有)エス・アールマトリックス 1,000円(級別)

のどれか(古城研究室に見本があります)を買い、過去問をたくさん解いて問題傾向をつかみ、よく練習することが必要です。(高専の定期試験とは問題傾向が違います。)

● 補習について

昨年度と同様に、希望者には8月24日(木)・25日(金)両日の9:00～11:00に物理教室で補習(数検合格対策講座)を行う予定です。(それまでに自分である程度勉強しておくことは言うまでもありません。)また、個別に質問に来ても構いません。

● 寮生について

寮生の受検申込者で希望者には、8月23日(水)～25日(金)の間、夏季特別残寮できるように別途手続きをとってもらいます。

● 検定結果

検定結果(「個別成績表」、「合格証書」)は10月初旬に学校宛に送付されますので、個別に渡します。なお、1次(あるいは2次)だけを合格した場合、1次(2次)合格証が与えられます(もちろん、その階級を合格したわけではありません)。次回、同じ階級を受検する際、(合格証のコピーを提出すれば)1次(2次)試験が免除されます(検定料も1,000円引きになります)。

数検のホームページ: <http://www.suken.net/>

(出典 数学教員保存資料)

資料7-1-④-5

平成18年8月26日実用数学団体受検の申込状況

2級 27名 5年2名(E科1名、D科1名)

4年12名(M科4名、D科5名、C科3名)

3年12名(M科2名、E科4名、D科2名、C科1名、Z科3名)

2年1名(D科1名)

準2級 2名 2年2名(D科1名、Z科1名)

計29名

(出典 数学教員保存資料)

資料7-1-④-6

平成18年度 機械設計技術者試験3級 合格対策講座

7/24(月)
 9:00-10:20 ガイダンスおよび機械製図、
 10:30-11:50 機構学・機械要素設計
 12:30-13:50 材料力学
 14:00-15:20 機械力学

担当

吉川
 谷口
 北住
 鎌田

7/25(火)
 9:00-10:20 流体力学
 10:30-11:50 熱力学
 12:30-13:50 制御工学
 14:00-15:20 工業材料

松田
 下村
 豊田
 刑部

7/26(水)
 9:00-10:20 工作法
 10:30-11:50 質疑・昼食
 12:00-16:10 模擬試験

石井
 宮田・谷脇

参加者

5M	4M	1SM
石村	大石	田中
小野	大西正	松本
黒田	国見	水関
鈴木	水関	
曾我		
高橋和		
田坂		
三村		
村上		

7月26日の模擬試験

12:00-13:00
 ・機械力学 ・流体力学 ・制御工学
 13:10-15:00
 ・機械製図 ・機構学・機械要素設計
 ・熱工学 ・工業材料
 15:10-16:10
 ・材料力学 ・工作法

試験当日の時間割

【第1時限】12:50~13:50
 【第2時限】14:00~15:50
 【第3時限】16:00~17:00

(出典 機械工学科保管資料)

資料7-1-④-7

**5 電気情報工学科 夏休み実力養成研修
(電気情報工学科・電気工学科学学生対象)**

実施期間 8月21(月)～25日(金)の5日間
9:30～17:00

実施科目：専門基礎（電磁気、電気回路、プログラミングなど）
工学基礎（物理、数学）
資格試験、専攻科入試、編入学試験
問題解答

自由課題：プログラミング、ホームページ、物づくり

1年生から5年生まで、互いに協力し合い、自分がやりたい勉強をする。
また、自由課題の場合は、自分が考えたやり方について先生の指導を受けた後、自分が主体的に実行する。

(出典 新居浜高専だより第90号)

資料7-1-④-8

VI 課題演習等による単位の認定

1 課題演習

- (1) 課題演習は選択科目とし、課題演習1及び課題演習2の2種類である。
(2) 課題演習1は、関連科目担当教員の指導のもとで本校が適切と認める表1の技能検定及び資格試験に合格した者に対して単位が認定されるものである。単位認定条件は、次のとおりである。なお、表2については、単位の認定はされないが在学中に受験できる資格等試験である。
ア 表1の技能検定及び資格試験に合格した場合、次の表に基づき、合格した学年の単位として第1学年から第5学年を通して3単位まで認められる。

学 科	名 称	単位数	学年別単位数
			1年～5年
機械工学科	機械工学演習1	1	1
	機械工学演習2	1	1
	機械工学演習3	1	1
電気情報工学科 電気工学科	電気技術演習1	1	1
	電気技術演習2	1	1
	電気技術演習3	1	1
電子制御工学科	電子工学演習1	1	1
	電子工学演習2	1	1
	電子工学演習3	1	1
生物応用化学科	化学技術演習1	1	1
	化学技術演習2	1	1
	化学技術演習3	1	1
材料工学科	材料工学演習1	1	1

	材料工学演習 2	1	1
	材料工学演習 3	1	1

イ 認定単位は専門科目の単位とし、認定される授業科目名は課題演習()とし、()内には名称が記入される。

ウ 単位の認定を受けようとする者は、単位認定申請書に資格証明書(写)等を添付し、学担任を経て教務係に提出しなければならない。認定された評価は、「A」となる。

エ 認定された単位は、申請を行った年度に在籍する学年における修得単位となる。

(3) 課題演習 2 は、関連科目担当教員の指導のもとで適切と認められる演習課題を学修し、一定の学修成果をあげた者に対して、次の表に基づき、単位が認定される。

学 科	名 称	単位数	学年別単位数				
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機械工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
電気情報工学科 電気工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
電子制御工学科	電子総合演習	5	1	1	1	1	1
生物応用化学科	課題研究	5	1	1	1	1	1
材料工学科	課題研究	5	1	1	1	1	1

注 認定される単位は、第 1 学年から第 5 学年を通じて 3 単位を限度とする。

単位認定条件は、次のとおりである。

ア 認定単位は専門科目の単位とし、認定される授業科目名は課題演習()とし、()内には名称が記入される。

イ 評価は、演習課題の内容、学修時間、学修成果、熱意等により判定される。認定された評価は、「A」となる。

(4) I の 4 の (2) の条件にかかわらず、単位が認定される。

(5) 既に認定されている課題演習の単位は、第 1 学年から第 3 学年で進級できなかった場合でも取り消されない。

3 技能審査の合格による単位の認定

(1) 単位が認定される技能審査と単位数は、次のとおりである。

技能審査の 名 称	合格した級又はスコアに対する認定単位数				一般又は専 門科目の別	認定科 目 名
	6	4	2	1		
実用英語 技能検定	1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	一般科目	英 検
工業英語能力 検定試験	1 級	2 級	3 級		一般科目	英 検
TOE I C	850～	700～849	500～699	400～499	一般科目	英 検
TOE F L	550～	500～549	450～499	400～449	一般科目	英 検
実用数学 技能検定		1 級	準 1 級	2 級	一般科目	数 検
ドイツ語検定	1 級	2 級	3 級	4 級	一般科目	独 検
日本漢字能力検定		1 級	準 1 級	2 級	一般科目	漢 検

注) 認定科目「英検」について英語圏の留学生は該当しない。また、「独検」についてはドイツ語圏の留学生は、該当しない。

また、留学生が日本語能力検定試験 1 級に合格した場合は、2 単位を認める。その場合の認定科目名は日本語とする。ただし、同一年度に異なる技能審査に合格（スコアに到達）した場合又は同一技能審査の異なる級に合格（スコアに到達）した場合は、認定可能な最も大きい単位数のみが修得単位として認定される。次年度以降に、認定科目「英検」内の異なる技能審査に合格した場合、あるいは同一の技能審査の上位の級に合格し、さらに単位の認定が可能な場合は、既に認定されている単位数との差のみが修得単位として認定される。

(2) 単位の認定を受けようとする者は、単位認定申請書に合格証明書（写）等を添付し、学級担任を経て教務係に提出する必要がある。認定された評価は、「A」となる。

(3) 認定された単位は、申請を行った年度に在籍する学年における修得単位となる。

(4) 既に認定されている単位は、第 1 学年から第 3 学年で進級できなかった場合でも取り消されない。

(5) 現に在籍し、既に単位の認定が可能な技能審査に合格している者については、認定可能な単位数と既に認定されている単位数との差のみが修得単位として認定される。

(出典 平成 18 年度本科履修要覧)

資料 7 - 1 - ④ - 9

平成18年度 課題演習 1 および技能検定による単位認定者数

平成18年度		M	E	D	C	Z	計	合計
デジタル技術検定	3級		5	11			16	22
	2級情報部門		1	3			4	
	2級制御部門			2			2	
危険物取扱者	甲種				2		2	25
	乙種	5			16	2	23	
初級システムアドミニストレータ			1	2			3	3
パーソナルコンピューター利用技術認定試験	3級						0	1
	2級			1			1	
情報処理活用能力検定	3級		1				1	1
基本情報処理技術者試験			1				1	1
CGクリエイター検定	2級 WEBデザイン部門						0	0
CGエンジニア検定	3級						0	0
マルチメディア検定	3級						0	0
電気工事士	2種		6				6	6
工事担任者	AI・DD総合種		1				1	1
ガス溶接技能者		1					1	1
機械設計技術者	3級	8					8	8
日本語漢字能力検定	2級	2	1	1	1	1	6	6
日本語能力試験	1級						0	0
実用数学技能検定	2級	3	8	4	4	3	22	22
TOEIC	850点～						0	13
	700点～849点		1	2			3	
	500点～699点	1	2			1	4	
	400点～499点			5	1		6	
TOEFL	CBT 173点			1			1	1
実用英語技能検定	2級		1	3			4	8
	準2級			1	3		4	
工業英語技能検定	3級						0	0
計		20	29	36	27	7	119	119

(出典 教務係資料)

資料 7-1-④-10

新居浜工業高等専門学校学則

(留学)

第 25 条の 2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生については、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

(出典 新居浜工業高等専門学校学則)

資料 7-1-④-11

在学生海外留学（研修）実績一覧

年度	所属学科・学年	留学先	期間
15	生物応用化学科 3年	イギリス	2003.7～2004.6
16	電子制御工学科 4年	アメリカ	2004.4～2005.3
	生物応用化学科 3年	アメリカ	2004.7～2005.6
	電子制御工学科 3年	アメリカ	2004.7～2005.6
	生物応用化学科 3年	アメリカ	短期留学(ローター) 2005.8月上旬3週間
17	機械工学科 3年	カナダ	2005.7～2006.7
	材料工学科 3年	アメリカ	短期留学(ローター) 2005.8.4～8.25
18	生物応用化学科4年	アメリカ	短期留学(ローター) 2006.8.5～8.25

(出典 教務係資料より編集)

(分析結果とその根拠理由)

長期休業中には学習支援プログラムを実施し、平成18年度は英語実力養成講座のTOEIC対応コースに約80名、数検合格対策講座に約20名、機械設計技術者試験3級受験対策講座に約15名、電気情報工学科夏休み実力養成研修には約50名の参加があった。また、資格試験については教務係や各学科・科の担当教員が窓口になったり、単位認定制度を設けるなど支援体制が整っている。以上のことより、資格試験に対する支援体制は整い、十分機能している。

外国留学に関する支援については学則に明記しており、実施に当たっては教員間で連携をとり、支援を行っているが、組織としての支援体制は十分に整っているとは言いがたい。

観点 7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

工業高校等から4年生への編入学生に対しては、3月の入学手続きの際に各学科主任が面談し、事前学習のために3年までに習う基礎科目のテキストや定期試験問題を渡すなどしている（資料7-1-⑤-1、資料7-1-⑤-2）。入学後には学科ごとに適宜補習を行う他、数学担当教員が数学の補習を行っている。数学の補習は平成18年度は週1回2時間で、4月から6月まで10回実施した（資料7-1-⑤-3）。

障害を持つ学生については、電子制御工学科では学生実験や卒業研究等において、車椅子の学生が健常の学生と同様に自立して実験・観察やデータ収集が可能となるよう、ハードウェア、およびソフトウェアの改善を行っている。例えば、実験室の作業台や電算機室第4演習室のパソコン台を専用に改造したり、実験装置のモニター画面をパソコンに出力できるようなソフト改善を行って見やすくなるような対応を行った。また、教室での講義においても学生本人と相談の上、各々の車椅子に対応した机を作成し、移動の便を考えて教室備品の位置を変更するなど工夫している。また、聴覚障害のある学生に対してはFM補聴システムを整備している（資料7-1-⑤

－ 4)。

外国人留学生に対しては、個別に留学生指導教員（学級担任や卒業研究指導教員であることが多い）がつき、指導・助言を行っている（資料 7－1－⑤－5）。また、当該学科の学生の中から助言を与えるための留学生相談員を選んでいる。留学生は、特別に編成された時間割によって「日本語」の授業（5単位）を受けることができるようになっている。また、3年生の「国語 3」, 「歴史 2」, 4年生の「国語 4」, 「政治・経済」の授業の代わりに「自然科学基礎演習 1～4」として各学科で補充授業を行っている（資料 7－1－⑤－6）。具体的には、数学や物理・化学などの専門基礎科目の補習や、低学年での専門科目の補講として製図やものづくりの基礎教育、電磁気、プログラミングを行っている。

資料 7－1－⑤－1

平成 19 年 2 月 22 日

平成 19 年度編入学合格者 各位

新居浜工業高等専門学校長

水 野 豊（公印省略）

平成 19 年度新居浜工業高等専門学校編入学生
入学手続について（通知）

標記について、入学手続関係書類を送付しますので、別紙「平成 19 年度編入入学者心得（4年生）」を熟読し、入学手続をしてください。

なお、編入学手続期間は、3月15日（木）または3月16日（金）となっておりますが、学級担任等との懇談を下記のとおり予定していますので、編入学手続を済ませた後、学生課教務係へ立ち寄ってください。

なお、日時等で都合がつかない場合は、学生課教務係までご連絡ください。

記

学級担任等との懇談日時 平成 19 年 3 月 15 日（木） 13 時～16 時の間
もしくは
平成 19 年 3 月 16 日（金） 9 時～16 時の間

※ 提出書類の内容に関することは、担当係へお問い合わせください。

※ その他疑問点等がある場合は、下記まで連絡してください。

連絡先：新居浜高専学生課教務係

TEL 0 8 9 7 - 3 7 - 7 7 2 4

0 8 9 7 - 3 7 - 7 7 2 5

0 8 9 7 - 3 7 - 7 8 6 1

(出典 平成 19 年度編入学合格者への送付資料)

資料 7 - 1 - ⑤ - 2

H 1 9 年度 4 E 編入学生について

07.2.8 佐藤

<07.2.7 学科会議での了承結果>

(1) 編入学生：2 名 (福岡工業、熊本工業：電子科、電子機械科)

→ 2 月中に必要な書類送る→辞退しなければ 3 月 1 5, 1 6 日位に本校に来る予定。

(2) H 1 9 年度計画 (案)

① 春休み中の作業

- ・ 3 月 1 5, 1 6 日位に本校に来たときに、授業の厳しさ (ノートをちゃんと取ること。レベルが高く、速いので、授業中にちゃんと聞き、復習などを行うこと) をハッキリ言う。
- ・ 3 月 1 5, 1 6 日位に本校に来たときに、H 1 8 年度 3 E 「回路理論 2」の定期試験の問題 (模範解答付き) を渡す。→ 4 月に試験を行う (補習用のレベル確認のため)。

② 4 月以降の作業：補習

- ・ 回路理論 (佐藤先生)
- ・ 電磁気学 1 (井門先生)
- ・ 応用数学 (川崎先生)

応用数学の学習のために次の教科書と問題集の購入の指示を行う。

<教科書>

- ・ 新編高専の数学 1 (第 2 版) 田代・難波 編 森北出版
- ・ 新編高専の数学 2 (第 2 版) 田代・難波 編 森北出版
- ・ 新編高専の数学 3 (第 2 版) 田代・難波 編 森北出版

<問題集>

- ・ 新編高専の数学 1 問題集 田代 編 森北出版
- ・ 新編高専の数学 2 問題集 田代 編 森北出版
- ・ 新編高専の数学 3 問題集 田代 編 森北出版
- ・ ファイン 5, 1 7 0 選、数学 III C

第一学習社編集部 編 第一学習社

(出典 電気情報工学科所蔵資料)

資料 7-1-⑤-3

工業高校等から 4 年生への編入学生に対して行っている数学補習について

- ・ 期間 平成 18 年 4 月 17 日（月）に第 1 回、以後原則として毎週月曜日。6 月 26 日まで。
- ・ 実施回数 10 回
- ・ 実施時間 15 時から 17 時
- ・ 実施教室 当初 4E 教室、その後教員室
- ・ 担当者 数理科 川崎宏一
- ・ 受講人数 4E 2 名 4D 2 名 4C 1 名 計 5 名
- ・ 実施状況 工業高校では自然対数の授業を受けてないため、自然対数、微分、積分の補習を行った。当初は全員熱心によく勉強した。4E の 1 名が脱落したため、学科主任にも相談したが、立ち直りは難しかった。そのためか、4E の他の 1 名も不熱心となった。4D 2 名、4C 1 名は最後までよく勉強し、補習により自然対数、微分、積分の学力が身についたと考えられる。4D 2 名、4C 1 名は前期・後期中間を通して見ると、数学の成績がクラス平均を上回っている。4E の脱落していない 1 名はクラス平均点を下回っているが、合格点となっている。

（出典 数学補習担当者の報告書）

資料 7-1-⑤-4

物品貸し出し簿

品名 補聴器セット(一式)

規格と数量 ワイヤレスマイクロホン(RD-M650Z)1台
 ワイヤレス受信機(RD-650Z)1台
 ML-33(ループイヤホン)2本
 充電器及び充電電池8本

貸出期間	貸出日	返却日	使用者・学年・学科・氏名
	平成18年4月11日	在学中のため継続使用	

（出典 教務係資料）

資料7-1-⑤-5

新居浜工業高等専門学校外国人留学生規則

昭和59年9月27日規則第6号

(趣旨)

第1条 新居浜工業高等専門学校学則第54条の規定に基づき、外国人留学生(以下「留学生」という。)に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(教育課程)

第2条 留学生については、履修を円滑に行うため、特別に編成された教育課程をもつて、通常の教育課程の履修に替えることができる。

2 前項の特別な教育課程は、関係学科主任及び第3条第1項に定める指導教員が協議の上、編成し、教務委員会の議を経て、校長が定めるものとする。

(留学生指導教員)

第3条 留学生の学習及び生活指導に必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教員(以下「指導教員」という。)を置く。

(留学生相談員)

第4条 学校生活等において、留学生に助言を与えるため、留学生相談員(以下「相談員」という。)を置く。

2 前項の相談員は、当該学科の学生の中から学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 相談員は、指導教員と連絡を密にし、随時その指導を受けるものとする。

(学則等の準用)

第5条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、学則等の学内規則を準用する。

附 則

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年10月1日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成8年7月1日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

		3M ハミルディン(マレーシア) モハマド ノール(マレーシア)		3E ミン(ベトナム) ルアンサイ(ラオス)		3D ファラ ファシハ(マレーシア)			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
月	1	数学A-3-1 千葉	数学A-3-2 千葉	電磁気学1 井門	電磁気学1 井門	デジタル回路2 栗原	電気回路2 今井	月	1
月	2	金属材料(林)	メカトロニクス基礎M 豊田・宮田	技術英語1 鴻上・タベシ	電子工学(小松)	数学A-3-1 (篠原)	数学A-3-2 (篠原)	月	2
月	3	技術英語1 佐渡・タベシ	技術英語1 佐渡・タベシ	数学B-3 西谷	数学B-3 西谷	応用物理1 大村	応用物理1 大村	月	3
月	4	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	月	4
火	1	応用物理1 大村	応用物理1 大村	英会話2(ウルフ)	英語3 佐渡	自然科学基礎演習2 白井	電子回路1 白井	火	1
火	2	機構学 谷口	機構学 谷口	数学A-3-1 千葉	数学A-3-2 千葉	基礎情報数学(篠原)	電気磁気学1(青野)	火	2
火	3	総合実習(M) 石井	総合実習(M) 石井	電気情報工学実験1 井門・香川・横山	電気情報工学実験1 井門・香川・横山	体育3 安藤	体育3 安藤	火	3
火	4	総合実習(M)/石井	総合実習(M)/石井	電気情報工学実験1/井門・香川・横山	電気情報工学実験1/井門・香川・横山	技術英語1 佐渡・タベシ		火	4
水	1	情報処理(今村)	数学B-3 西谷	自然科学基礎演習2 福見	自然科学基礎演習2 馬淵	英会話2(ウルフ)	英語3 佐渡	水	1
水	2	数学B-3 西谷	情報処理(今村)	自然科学基礎演習1 壇上	技術英語1 鴻上・タベシ	数学B-3 千葉	数学B-3 千葉	水	2
水	3	自然科学基礎演習2 石井	英語3 佐渡	プログラミング2 平野	プログラミング2 平野	自然科学基礎演習1 田中	自然科学基礎演習1 白井	水	3
水	4	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	水	4
木	1	体育3 安藤	体育3 安藤	デジタル回路 松村	デジタル回路 栗原	情報処理3 田中	情報処理3 田中	木	1
木	2	数学A-3-1 千葉	自然科学基礎演習2 石井	電気電子材料&電気数学B 馬淵&壇上	電気電子製図 尾西	メカトロニクス(永田)	技術英語1 佐渡・タベシ	木	2
木	3	材料力学1 北住	材料力学1 鎌田	応用物理1 大村	応用物理1 大村	電気回路2 今井	電子計算機1 栗原	木	3
木	4	特別活動(3)/課外特別活動 下村・尾崎	特別活動(3)/課外特別活動 下村・尾崎	特別活動(3)/課外特別活動 鴻上・稲見	特別活動(3)/課外特別活動 鴻上・稲見	特別活動(3)/課外特別活動 白井・千葉	特別活動(3)/課外特別活動 白井・千葉	木	4
木		日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	日本語(内田)	木	
金	1	CAD製図 吉川	CAD製図 吉川	回路理論2 佐藤	回路理論2 佐藤	数学A-3-1 (篠原)	数学A-3-2 (篠原)	金	1
金	2	CAD製図 吉川	情報処理(今村)	数学A-3-1 千葉	数学A-3-2 千葉	電子回路1 白井	情報基礎実習 白井・占部	金	2
金	3	英会話2(ウルフ)	数学A-3-2 千葉	体育3(高橋清)	体育3(高橋清)	電気電子実験2 深山・白井・栗原	電気電子実験2 深山・白井・栗原	金	3
金	4		金属材料(林)	基礎電子回路 尾西	基礎電子回路 尾西	電気電子実験2/深山・白井・栗原	電気電子実験2/深山・白井・栗原	金	4

日本語の授業：場所(コース別教室) 木曜日は16時05分から行います。

		4M カイリ (マレーシア)		4E クワン (ベトナム) マイヌル (バングラデシュ)				4D ファクラッジ (マレーシア) ハギル (マレーシア)					
				(電気)	(情報)	(電気)	(情報)	(電気)	(情報)	(電気)	(情報)		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	月	日
月	1	創造設計製作 谷口・吉川・鎌田	創造設計製作 谷口・吉川・鎌田	回路理論3 皆本	同左	電子回路王	同左	数値計算(D) 田中	数値計算(D) 栗原			月	1
月	2	創造設計製作 谷口・吉川・鎌田	創造設計製作 谷口・吉川・鎌田	機械工学概論A (上出)	情報数学 先山	数値計算A 檀上	同左	応用数学B 川崎宏	電気磁気学2(D) 出口幹			月	2
月	3	自然科学基礎演習3 下村	メカトロニクス応用 豊田	半導体工学A (小松)	同左	応用数学B 川崎宏	同左	初級独語&初級中国語(DCZ) (田淵)&	初級独語&初級中国語(DCZ) (田淵)&			月	3
月	4	熱力学 下村	計測工学M 刑部	確率統計 三井	同左	電気法規 (奥坂)	情報数学 先山					月	4
火	1	応用物理2 竹田	熱力学 下村	電気電子学2(E) 檀上	同左	体育4 (近藤邦)	同左	応用数学D 古城	応用数学B 川崎宏			火	1
火	2	応用数学A (上出)	応用数学A (上出)	応用数学B 川崎宏	同左	電気情報工学実験2 佐藤・馬淵・檀上・王・平野・先山	同左	電気回路3 稲見和	電気機器 稲見和			火	2
火	3	自然科学基礎演習4 下村	電気工学概論1 (奥坂)	自然科学基礎演習3 檀上	自然科学基礎演習3 檀上	機械工学概論B (松岡)	情報理論 (小松)	電子回路2 出口幹	自然科学基礎演習4 松村			火	3
火	4	数学特別演習(MDZ) 千葉	数学特別演習(MDZ) 千葉	数学特別演習(EC) 小山	同左	数学特別演習(EC) 小山	同左	Mと同じ	Mと同じ			火	4
水	1	確率統計 三井	応用物理3 竹田	電力工学A 檀上	情報理論 (小松)	回路理論3 稲見和	同左	電子計算機2 松村	工学基礎研究(D) D全教員			水	1
水	2	電気工学概論1 (奥坂)	材料力学2 北住	応用物理2 竹田	同左	半導体工学A (小松)	同左	電子制御実験1&電子創作実習 榑原・占部&出口幹・松友	電子制御実験1&電子創作実習 今井・占部&出口幹・松友			水	2
水	3	水力学 松田	数値計算(M) 下村・宮田	電気機器A 稲見和	同左	電気機器A 稲見和	同左	電子制御実験1&電子創作実習 榑原・占部&出口幹・松友	電子制御実験1&電子創作実習 今井・占部&出口幹・松友			水	3
水	4	計測工学M 刑部		電気情報工学実験2 伊月・先山・香川	同左	自動制御1 王	同左	電子制御実験1&電子創作実習 榑原・占部&出口幹・松友	電子制御実験1&電子創作実習 今井・占部&出口幹・松友			水	4
木	1	技術英語2 (後藤)	技術英語2 (後藤)	コンピュータハードウェア&画像処理 王&平野	同左	電力工学A 檀上	アルゴリズムとデータ構造 先山	自然科学基礎演習4 今井	電子計算機2 松村			木	1
木	2	初級独語&初級中国語(ME) (ウイランド)&野田	初級独語&初級中国語(ME) (ウイランド)&野田	Mと同じ	同左	Mと同じ	同左	電気数学 榑原	自然科学基礎演習3 松村			木	2
木	3	機械設計法 (永田)	自然科学基礎演習4 下村	電気情報工学実験2 伊月・先山・香川	同左	電気情報工学実験2 佐藤・馬淵・檀上・王・平野・先山	同左	電気機器 (奥坂)	体育4 (近藤邦)			木	3
木	4	課外特別活動/ 0	課外特別活動/ 0	電気情報工学実験2/ 課外特別活動 伊月・先山・香川	同左	電気情報工学実験2/ 課外特別活動 伊月・先山・香川	同左	課外特別活動/ 0	電子回路2 出口幹			木	4
金	1	メカトロニクス応用 豊田	水力学 松田	技術英語2 (坂田)	同左	技術英語2 (坂田)	同左	制御工学1 深山	制御工学1 深山			金	1
金	2	材料力学2 北住	体育4 (高橋清)	電気電子設計 尾西	アルゴリズムとデータ構造 先山	コンピュータハードウェア&画像処理 伊月&平野	同左	応用物理2 竹田	電気回路4 出口幹			金	2
金	3	工学実験1 M全教員	工学実験1 M全教員	自然科学基礎演習4 井門	自然科学基礎演習4 井門	自然科学基礎演習4 皆本	自然科学基礎演習4 皆本	技術英語2 (坂田)	技術英語2 (坂田)			金	3
金	4	工学実験1 / M全教員	工学実験1 / M全教員	電子回路王	同左	課外特別活動/ 0	課外特別活動/ 0	電気磁気学2(D) 出口幹	課外特別活動/ 0			金	4

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対しては、学習支援体制が整っており、有効に機能している。編入学生に対しては、数学の補習を全員対象に毎年実施するなどの学習支援を行っている。それ以外についてはその都度個別に対応している。

観点 7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

クラブ活動や学生会活動などに対する支援は学生委員会が中心となって実施している（資料 7-1-⑥-1）。

クラブ活動については、教員全員がクラブ顧問をしており、ほとんどのクラブに複数の顧問を割り当てている（7-1-⑥-2）。学生の自宅学習時間確保のため、クラブ活動は平日原則19時までとし、17時15分～19時30分までの間、全教員の2名ずつの当番によって、その間のクラブ活動の安全指導にあたっている（資料 7-1-⑥-3、資料 7-1-⑥-4）。クラブ活動のための施設としては、体育館や器楽練習室などを整備している（資料 7-1-⑥-5）。

チャレンジプロジェクトは、社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的・主体的な活動に対して、後援会からの資金援助を行うもので、平成15年度より導入している（資料 7-1-⑥-6、資料 7-1-⑥-7）。平成18年度は6件の応募があり審査の結果、全プロジェクトに対して資金面での支援を行っている。また、1月の学生大会でプロジェクトの成果を発表している。

ロボットコンテスト（ロボコン）とプログラミングコンテスト（プロコン）については平成16年度より、デザインコンペティション（デザコン）については平成18年度よりアイデアの学内予選を導入し、これをブラッシュアップのために活用してもらおう場としている（資料 7-1-⑥-8）。

学生会活動については、学生委員会から担当者を決め、学生会の会議に出席して、きめ細かい指導を行っている。また、活動の拠点として学生会室を用意し、学内LANにつながったパソコンを設置している。資金面においては、後援会より支援を行なっている（資料 7-1-⑥-9）。

資料 7-1-⑥-1

新居浜工業高等専門学校学生委員会規程

平成19年3月19日規程第6号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校に、学生の厚生補導に関する事項に対処するため、学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生及び学生団体に関する事項
- (2) 学生の集会及び催物に関する事項

- (3) 学生の出版及び掲示に関する事項
- (4) 学生の賞罰に関する事項
- (5) 学生の保健衛生に関する事項
- (6) 入学料免除及び徴収猶予に関する事項
- (7) 授業料免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除に関する事項
- (8) 奨学生の推薦に関する事項
- (9) その他学生の厚生補導に関する事項
(組織及び任期)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 学生主事補
- (3) 各学科、数理科及び一般教養科の教員 各1人
- (4) 学生課長

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第2号の委員は、同項第3号の委員を兼ねることができる。

4 第1項第3号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

5 前項の委員に欠員が生じた場合の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(協力者)

第5条 委員長は、必要により委員でない職員を委員会に出席させることができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、学生課が処理する。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料7-1-⑥-2

クラブ顧問一覧

H18. 4. 1現在

クラブ名	H17年度顧問	H18年度顧問
写真部	○刑部、下村	刑部・牧
美術部	○豊田、千葉	豊田・千葉・今井
ESS	○尾崎、タベシ	尾崎・タベシ
プラスバンド部	○白井、出口、深山、今井、平野	白井・出口・深山・平野
茶道部	○中川、野口	中川・野口
ローターアクト部	○皆本、吉川	皆本・吉川
コンピューター部	○田中、占部	田中・平野
軽音楽部	○檀上、松原	檀上・松原
陸上競技部	○吉川、衣笠、王	吉川・衣笠
硬式野球部(高学年)	○日野、高橋	日野・高橋
硬式野球部(低学年)	○間淵、尾西、栗原、井上	間淵・尾西・栗原
サッカー部	○安藤、小山、古城	安藤・谷脇・王

バレーボール部(男)	○西井、香川、鹿毛	西井・香川・鹿毛・谷本
バレーボール部(女)	○松田、新田、堤	松田・新田・堤
バスケットボール部(男)	○今城、伊月	今城・伊月
バスケットボール部(女)	○朝日、大村	今城・大村
ソフトテニス部	○佐渡、鴻上、河村	佐渡・鴻上・河村・宮田
卓球部	○竹田、白井、鎌田	竹田・白井・鎌田
柔道部	○谷口、北住、野田	野田・北住・谷口
剣道部	○多田、柳井	多田・柳井・先山
ワンダーフォーゲル	○山田、木本	谷・松友・木本
水泳部	○塚野、横山、タベシ	塚野・横山・タベシ
バドミントン部	○矢野、西谷、平木、三井	矢野・西谷・平木・三井
空手部	○木本	木本・井上
弓道部	○松英、早瀬、堤、榊原	松英・早瀬・榊原
テニス部	○志賀、皆本、曾我部、下村	下村・志賀・皆本・曾我部
ラグビー部	○牧、牛尾、矢野	牛尾・矢野
漫画同好会	○稲見	稲見・朝日
文学研究会	○森長	森長・古城
ロボット研究会	○宮田、出口、松友	宮田・出口・松友
先端技術研究会	○刑部、松田、鎌田	刑部・松田・平木
応援団同好会	○谷	谷・千葉
科学研究会	○桑田、中山、馬淵	桑田・中山・馬淵
フットサル愛好会	○谷脇、佐藤、石井	谷脇・佐藤・石井
マルチメディア愛好会	○占部、宮田、川崎	占部・先山・川崎
天文愛好会	○勝浦	勝浦・松村
軟式野球愛好会	○池内、相根	池内・相根
DANCE愛好会	○野村、松村	野村・松村
奇術愛好会	○谷本、香川、井門	谷本・香川・井門
自転車愛好会	○柴田	柴田
トレーニング愛好会	○柴田	柴田
演劇愛好会	○野田	野田・横山
自動車愛好会	○池内	小山・池内・日野

○は主顧問

(出典 学生委員会資料)

資料 7-1-⑥-3

クラブ活動安全管理指導者業務要領

1 クラブ（愛好会を含む。）活動時間等

区分	該当曜日・期間等	活動時間等	備考
授業日	下記休業日以外の月～金曜日	授業終了時刻～19時まで	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員は、勤務時間内に練習計画等の確認と適切な指導を行う。 ・17時15分以降は、クラブ安全管理指導者が安全管理指導を行う。

休業日 (1)	土・日曜日 国民の祝日に関する法律に定める休日 学校が特に定める日	原則として対外試合	・指導教員が引率する。 ・変形労働時間内 ・特定の大会の直前の期間の練習は、年間計画を立てて実施する。
休業日 (2)	春季休業日 4月1日～4月7日 夏季休業日 7月28日～8月31日 冬季休業日 12月25日～翌年1月7日 学年末休業日 3月20日～3月31日	最長17時まで (但し、当該クラブの指導教員の変形労働時間内)	・指導教員の変形労働時間枠内

- 2 クラブ活動安全管理指導者は、全教員の輪番制で行う。
- (1) 指導者は、練習時間（17時15分から19時）及び練習終了時（19時）の巡回を2回実施し、必要に応じ安全管理指導を行うとともに、事故などの緊急事態に対応する。
 - (2) 労働時間は、17時15分から19時30分までとする。（休憩時間15分を含む。）
 - (3) 各クラブより活動終了報告を受ける。
 - (4) 緊急時の対応で、19時30分を超えた場合は、時間外労働として取り扱う。
 - (5) 出張・休暇・病気等急な公務又はやむを得ない理由で当番ができない場合は、当面の間交替要員は出さず、相互に連絡をとり1名による勤務とする。この場合、練習終了時の巡回のみ実施することとする。
 - (6) 勤務場所（待機場所）は、第1体育館正面玄関右の部屋とする。

3 緊急連絡先

医療機関		学校関係	
十全総合病院	0897-33-1818	学生主事	内線751
吉松外科	0897-32-5787	学生課長	内線722
急患センター	0897-32-5658	学生課長補佐	内線723
		学生就学支援係長	内線726
		施設係長	内線719
		守衛室	内線710

* 緊急時、タクシーを利用する場合、タクシーチケットは守衛室にあります。

(出典 学生課資料)

資料 7-1-⑥-4

教 員 各 位

11月分クラブ活動安全管理指導者割振表を送信しますので、よろしくお願ひします。

月 日	曜日	クラブ活動安全管理指導者			
11.1	水	三井 正 堤 主 計			
2	木	尾崎 司郎 曾我部 卓三			
6	月	鴻上 政明 池内 保一			
7	火	野口 裕子 谷 耕治			
8	水	安藤 進一 相根 博道			
9	木	谷本 修治 高橋 知司			
13	月	塚野 修 新田 敦己			
14	火	野村 真理子 松原 靖廣			
15	水	今城 英二 志賀 信哉			
16	木	鹿毛 敏夫 松英 達也			

17	金	森	長	新	朝	日	太	郎
20	月	野	田	善	弘	日	野	孝
21	火	佐	渡	一	邦	川	崎	宏
22	水	彗	田	博	範	竹	田	正
24	金	井	上	嘉	仁	小	山	一
27	月	刑	部	富	夫	矢	野	潤
28	火	豊	田	幸	裕	千	葉	克
29	水	鎌	田	慶	宣	西	谷	郁
30	木	谷	口	佳	文	柳	井	忠

高橋 芳文 takaha-y@off.niihama-nct.ac.jp

(出典 学生係担当者からのメール)

資料7-1-⑥-5

<施設>		主な利用団体、目的
第一体育館	1,075m ²	バドミントン部、卓球部、フットサル愛好会
第二体育館	879m ²	バレーボール部、バスケットボール部
武道場	325m ²	剣道部、柔道部
グラウンド	22,251m ²	野球部、陸上競技部、サッカー部
テニスコート	全天候型4面 694m ² /面	テニス部、ソフトテニス部
弓道場		弓道部
プール		水泳部
トレーニング室		各クラブが使用可
和室	61m ²	茶道部
オーディオルーム	64m ²	軽音楽部
ミーティングルーム	114m ²	奇術愛好会
器楽練習室		ブラスバンド部、ロボット研究会
学生会室	29m ²	学生会執行部
合宿研修所	198m ²	各クラブが長期休業中に利用できる
アイデア通り工房		ロボット研究会、各種活動に利用可
第一工房	108m ² 、第二工房 76m ²	
教室(申請により使用可)	一般棟 84m ² /室	演劇部
ロッカールーム	男子61m ² 、女子30m ²	各クラブが使用可
クラブ安全指導員室	24m ²	課外活動での事故発生時の対応

(出典 学生委員会資料)

資料 7 - 1 - ⑥ - 6

第1回
応募締切日：五月三十一日
学生委員会

目的

一、プロジェクトを計画し実行することで、何事にも挑戦する気持ちを育てる
 一、自主的・主体的に取り組むことで、社会性や協調性を養う
 一、プロジェクトを通して、地域社会に貢献する

そこで

様々なプロジェクトを公募し、活動費の全部または一部を本校後援会より助成する
 (助成は1件につき十万円程度)



平成十八年度 新居浜高専
チャレンジプロジェクト募集

《募集分野》いろいろなプロジェクトを企画してください。

- ・高専の特徴を生かした活動
- ・地域社会への貢献
- ・ボランティア活動 …など

《応募資格》

- ・本校の学生が複数名おり、主体的に活動していること。
- ・外部または本校教職員のアドバイザー的参加があること。
- ・原則として3ヶ月以上の長期の活動であること。

《審査》(以下の事をふまえ、学生委員会で審議します)

- ⇒安全性が確認できること。
- ⇒対外的に責任が取れる体制であること。
- ⇒高専生にふさわしい活動であること。

《活動・会計報告》

⇒学生会主催(定期学生大会など)で活動報告(会計報告を含む)を行うものとします。

～平成17年度後援プロジェクト～

- ・トリ・コン!【鳥人間コンテスト参加】(助成金額: ¥200,000-)
- ・子供向け手品奇術福祉公演(助成金額: ¥75,619-)



《応募要領》

所定の『活動計画書』に必要事項を記入し、活動内容を添えて、**学生就学支援係**まで提出してください。

活動計画書
(所定の用紙)
※必要事項を記入

+

活動内容
(A4用紙2枚程度)

- ・プロジェクトの目的
- ・全体の活動計画・方法
- ・全体の予算見積もり

→

学生就学支援係



問い合わせは
学生就学支援係
まで

※応募いただいたプロジェクトには、応募締切り後、プレゼンを行っていただきます。
 ※「活動計画書」は学生就学支援係にあります。

(出典 学生委員会資料)

チャレンジプロジェクトの実績

平成 15 年度 4 件

内訳

(1) 禁煙推進プロジェクト：

世界禁煙デーに関連した松山市大街道での禁煙PRデモに自作のぬいぐるみなどを作って参加。校内での禁煙活動（学生、教職員へのアンケート調査など）（学生6名、教員2名）

(2) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加（学生10名、教員3名）

(3) ITボランティア活動

ITを利用した国際会議I E A R N（淡路島で開催）の運営の手伝いボランティア（学生6名、教員2名）

(4) ガラス細工教室

障害者を対象としたガラス細工教室の開催（学生6名、教員2名）

平成 16 年度 2 件

内訳

(1) ソーラーボート

ソーラーボートを製作して、福岡県柳川市で毎年開催されるソーラーボート大会へ参加（学生10名、教員3名）

(2) 幼児対象手品、奇術ボランティア（学生10名、教員2名）

平成 17 年度 2 件

内訳

(1) トリコン

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加（学生15名、教員3名）

(2) 子供向け手品、奇術福祉公演（学生10名、教員2名）

平成 18 年度 6 件

内訳

(1) 高専打ち水大作戦 2006

学内外に対して環境への関心を高めるための企画（学生20名、教員1名）

(2) 高専ソコヂカラ

文化系部活動・愛好会による地域参加型イベントの企画（学生5名、教員1名）

(3) 「環境日本一エコエネルギーコンテスト」ソーラーカー部門への参加

山梨県で11月19日に開催されるエコエネルギーを活用した技術・アイデアを競うコンテストへの参加（学生6名、教員1名）

(4) トリコン 2007

琵琶湖で毎年行われるとり人間コンテストへの参加（学生10名、教員2名）

(5) マスコットロボット「ロボ太」の製作

新居浜高専PR用の縄跳びをするロボットの製作（学生19名、教員1名）

(6) 手品奇術ボランティア公演

手品を通じた地域へのボランティア活動を企画（学生6名、教員3名）

（出典 学生委員会資料を編集）

平成18年度
新居浜高専が参加する全国公式大会
— ものづくり課外活動 —

めざせ全国大会!

更新日 2006.6.14

全国高等専門学校プログラミングコンテスト
プロコン2006公式HP

公式スケジュール

オンライン登録(応募)期間 5月24日(水)～30日(水)

予選(書類審査) 7月1日(土) 東京高専

予選結果 7月3日(月) 公式HPにて

システム調整 9月上旬

本選 10月7日(土)～8日(日) 茨城高専

学内選考会申込み期限	5月15日(月)17時	学生就学支援係
学内選考会	5月18日(木)16時30分	視聴覚教室
選考結果発表	5月24日(水)	学内掲示
ビデオ上映	7月上旬	昼食時に学食にて
経過報告	7月上旬	学内掲示
選考結果表彰	9月1日(金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告会・お披露目会	9月1日(金)	プレゼン：視聴覚教室、展示図書館下ロビー

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト
高専ロボコン2006公式HP

公式スケジュール

アイデア申込み 6月21日(水) NHKエンタープライズ必着

アイデア審査結果 7月上旬

参加者エントリー 9月8日(金) NHKエンタープライズ必着

四国地区大会 11月4日(土)～5日(日) 高松高専

全国大会 11月25日(土)～26日(日) 国技館(東京)		
1年生向け課題説明およびアイデア募集説明会	5月8日(月) 15時	視聴覚教室
課題説明およびアイデア募集説明会	5月8日(月) 16時	視聴覚教室
2年生向け課題説明およびアイデア募集説明会	6月2日(金) 15時10分	視聴覚教室
1年生アイデア提出期限	5月26日(金) 17時	クラス担任
2年生アイデア提出期限	6月8日(木) 17時	クラス担任
学内選考会申込み期限	5月29日(月) 17時	学生就学支援係
1次選考(書類選考)	5月30日(火)	
1次選考結果発表	6月2日(金) 12時	学内掲示
2次選考会	6月9日(金) 17時	視聴覚教室
2次選考結果発表	6月16日(金)	学内掲示
ビデオ上映	9月上旬	昼食時に学食にて
経過報告	9月上旬	学内掲示
選考結果表彰	9月1日(金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告会・お披露目会	10月上旬	アイデア通り工房

全国高等専門学校デザインコンペティション デザコン 2006 公式HP

公式スケジュール

構造デザインコンペティション

「ブリッジコンテスト」

エントリーシート・立面図提出 9月23日(金)～10月6日(金) 都城高専

パンフレット提出 10月6日(金) 都城高専

本選参加要項 9月上旬公開

本選 11月17日(土)～18日(日) 都城高専

環境デザインコンペティション

「山あいの生きられる空間」

プレゼンポスター提出期限 9月1日(金)～9月6日(水) 消印有効 都城高専

予選 9月中旬

予選結果発表 9月22日(金)

本選 同上

プロポーザルコンペティション

「商店街のマスカレード」

図面提出期限 8月31日(木) 消印有効 都城高専

予選 9月中旬

予選結果発表 9月22日(金)

本選 同上		
学内選考会申込み期限	6月30日(金)17時	学生就学支援係
学内選考会	7月7日(金)16時30分	視聴覚教室
選考結果発表	7月13日(水)	学内掲示
選考結果表彰	9月1日(金)	視聴覚教室、学生主事
経過報告	10月上旬	学内掲示
経過報告会・お披露目会	11月上旬	アイデア通り工房

管理：学生委員会コンテスト担当

(出典 本校ホームページ)

資料7-1-⑥-9

平成18年度 後援会費の課外活動及び福利厚生への助成状況一覧

図書充実費	580,947円	(図書購入費・ブックハンティング経費)
学生福利厚生費	914,540円	(肝機能検査費・胸部関節撮影)
学生指導費	3,463,454円	(インターンシップ経費・学会等参加経費・ティティン経費)
課外活動	文化系	1,620,015円 (ロボコン・プログラムコンテスト・デザインコンテスト・四国地区高専総合文化祭)
	体育系	5,470,133円 (全国高専体育大会・四国地区高専体育大会・西日本高専弓道大会・県高校総体・各種参加経費)
助成費	チャレンジプロジェクト	466,500円 (高専打ち水大作戦・高専ソコデカラ開催・エコエネルギーコンテスト)
課外活動推進費		1,568,187円 (課外活動引率経費・各大会参加交通費)

(出典 後援会決算書より編集)

(分析結果とその根拠理由)

学生会活動やクラブ活動などの課外活動に対しては、学生委員会を中心とする支援体制を整備し、機能している。特に、クラブ活動については、複数顧問制及び安全指導体制をとっており、また、チャレンジプロジェクトなどの支援制度も設けている。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の生活全般にわたる指導・相談・助言については、準学士課程では主に学級担任・副担任、専攻科課程では専攻主任が担当している。準学士課程1,2年生には、専門学科の教員が各学科の学生のアドバイザーとなって、学生に助言や指導を行っている(資料7-2-①-1)。特に問題が生じた場合は、学生主事を中心とした学生委員会で支援を行う体制となっている。

また、相談の内容によっては学生相談室が対応している(資料7-2-①-2)。学生相談室は、学生相談室長と各学科(科)から1名の計8名の学内相談員と教育経験者、臨床心理士、精神科医

の3名の学外相談員で構成されており、学生のメンタルヘルスケアに当たっている（資料7-2-①-3）。相談室の利用方法については、毎月発行する「学生相談室だより」で全学生に案内している（資料7-2-①-4）。

健康面については常勤の看護師を配置し、配慮している。年1回の健康診断以外に、若者に増えてきた生活習慣病に対応するため、後援会の補助を得て、2年生、4年生及び専攻科1年生に対して、肝機能を含む血液検査を実施している（資料7-2-①-5）。

経済面については、入学料の免除及び徴収猶予、授業料・寄宿料の免除等の制度を設けて、配慮している（資料7-2-①-6、資料7-2-①-7、資料7-2-①-8）。これについては選考の学内規則を設けている（資料7-2-①-9）。また、日本学生支援機構などの奨学金制度があり、活用されている（資料7-2-①-8、資料7-2-①-9）。

資料7-2-①-1

21. アドバイザーとしての業務

専門学科の教員は、自己の学科の1・2学年の学生数名を分担し、学級担任と連携しながら、将来計画、勉学の方法等および悩みや生活全般について積極的に（随時接触して）相談に預かり、助言を与えることとする。学生の退学時やその他必要な場合、指導の経過や状況説明を求められることがある。

（出典 平成17年度教員便覧）

資料7-2-①-2

新居浜工業高等専門学校学生相談室規程

平成5年3月23日規程第4号

（設置）

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

（目的）

第2条 相談室は、本校学生の持つ個人的問題についての相談に応じ、その解決のための適切な助言及び指導を行い、より良い学生生活が送れるための支援を行う。

（業務）

第3条 相談室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の個人的問題に関する相談
- (2) 学生の精神的不適應に関する相談
- (3) 学生の学習上の問題に関する相談
- (4) 学生の職業選択、進路に関する相談
- (5) その他必要な業務

（組織）

第4条 相談室は、次の各号の職員をもって組織する。

- (1) 学生相談室長（以下「室長」という。）
- (2) 相談員 若干人
- (3) カウンセラー

2 室長及び相談員は、本校専任教員の中から、校長が任命する。

カウンセラーは、学外の有識者に、校長が委嘱する。

（運営）

第5条 室長は、相談室の業務を掌理し、その運営に当たるものとする。

（相談の手続き）

第6条 学生が、第3条各号の相談を行おうとする場合には、室長又は相談員に申し込むものとする。

2 相談員は、前項の申込みを受けた場合には、速やかに室長に連絡しなければならない。

(相談場所)

第7条 相談室は、本校保健室に置く。

2 学生相談は、相談室で行うものとする。ただし、相談の内容によっては、室長の判断により適当な場所で行うことができる。

(事務)

第8条 相談室に関する事務は、学生課学生生活支援係において処理する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年5月15日から施行する。

(出典 新居浜高等専門学校規則集)

資料7-2-①-3

平成18年度学生相談件数

月	明石 拓爾		高橋 堯		守屋 優子		本校相談員
	来校回数	相談回数	来校回数	相談回数	来校回数	相談回数	相談回数
4	1	1	5	2	3	1	0
5	1	1	10	4	4	3	0
6	1	1	6	3	3	2	1
7	0	0	4	1	2	1	0
8	0	0	0	0	0	0	1
9	1	1	3	2	3	0	1
10	1	1	7	2	3	2	3
11	1	1	7	1	5	2	1
12	1	1	3	1	3	1	3
1	1	2	6	3	4	1	1
2	1	2	4	0	2	1	1
3	0	0	2	1	0	0	1

計	9	11	57	20	32	14	13
---	---	----	----	----	----	----	----

(出典 学生相談室資料)

資料 7-2-①-4

学生相談室だより

平成 18 年 9 月

夏休みも終わり、もうすぐ前期末試験がはじまります。まだ、夏休み気分が抜けてない人はいませんか？はやく気持ちを切り換えましょう。

これまで暑かった気温も少しずつですが低くなり、過ごしやすくなりましたが、急激な気温の変化には気をつけ、風邪をひかないよう、規則正しい生活を続けましょう。

夏休み中のさまざまな事件より

今治では、いじめを苦に中学生になったばかりの生徒が自殺するという悲しいニュースが全国に放映されました。また、つい最近、山口県の徳山高専で、なんと学校の中で 5 年生の女子学生が絞殺されるという事件も報じられました。現時点では真相は不明ですが、同級生の男性に逮捕状が出されたと報じられています。同級生間での殺人など、信じられないことですが、いったいどうしたのでしょうか？

1. 命を大切に、 2. 一人で悩まずに、 3. 周りの人に相談を。

あらためて説明するまでもなく命は大切なものです。でも、このような事件を起こす人は、命を大切に思っていないのではと疑われても仕方ありません。皆さんは、どうか、命を大切にしてください。また、この前の相談室だよりにもあったように、友人とのコミュニケーションを大切に、それでも悩み事があれば、一人で悩まず、友達や担任の先生に相談してみましよう。また、相談室には専門のカウンセラーの先生も待機されています。

気軽に来室してください。

学生相談室は尚友会館 1 階保健室の奥にあります。学外カウンセラーとして待機していただいている先生方は、第 3 木曜日 16 時から明石先生、毎週水曜日 17 時 30 分から、守屋先生、週に 2 回月曜日と火曜日の 16 時から高橋先生です。また、そのほか校内にも各学科に学生相談員の先生が居ます。

電子制御工学科相談員 栗原義武

(出典 平成18年度学生相談室だより)

資料 7-2-①-5

貧血・肝機能検査計画書

専攻科1年生、本科4年生及び2年生の、貧血・肝機能検査を、下記のとおり実施いたします。

記

月日	学年	学科	実施時間	人数	場所
10月11日 (水)	2	M	8:35 ~ 9:00	42	保健室
	2	E	9:00 ~ 9:20	41	
	2	D	9:20 ~ 9:40	45	
	2	C	9:40 ~ 10:00	39	
	2	Z	10:00 ~ 10:20	43	
10月12日 (木)	1年専攻科生		8:35 ~ 8:50	28	
	4	M	8:50 ~ 9:10	43	
	4	E	9:10 ~ 9:30	42	
	4	D	9:30 ~ 9:50	47	
	4	C	9:50 ~ 10:10	41	
	4	Z	10:10 ~ 10:30	37	

注意事項

○検査前日の21時以降から検査終了まで、絶食（飲み物を含む）とする。

○計画された時間を厳守し、必ず全員受けること。

(出典 学生課資料)

資料7-2-①-6

新居浜工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予取扱規程

平成15年2月26日規程第5号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 新居浜工業高等専門学校学則第33条第1項及び第2項に基づく入学料の免除及び徴収猶予の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

第2章 入学料免除

(免除の対象)

第2条 免除の対象となる者は、本校に入学する者であつて、次の各号の一に該当する特別な事情により、納付が著しく困難であると認められる者とする。

(1) 入学前1年以内において、本校に入学する者の学資を主として負担している者（以下この号において「学資負担者」という。）が死亡し、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であつて、校長が相当と認める事由がある場合

(免除の許可)

第3条 免除の許可は、本人の申請に基づき、校長が選考の上、理事長の承認を得て行う。

(免除の申請)

第4条 入学料免除を受けようとする者は、入学料免除願（別紙様式1）に、関係書類を付して所定の期日までに、校長に提出するものとする。

(免除の額)

第5条 入学料免除の額は、原則として入学料の全額又は半額とする。

(免除申請者の選考)

第6条 校長は、学生委員会に諮り、入学料免除申請者の選考を行うものとする。

第3章 入学料の徴収猶予

(徴収猶予の対象)

第7条 入学料の徴収猶予は、本校に入学する者であつて、次の各号の一に該当する場合に行うことができる。

(1) 経済的理由によつて納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 入学前1年以内において、本校に入学する者の学資を主として負担している者（以下この号において「学資負担者」という。）が死亡し、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合

(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合

(徴収猶予の許可)

第8条 徴収猶予の許可は、本人の申請に基づき、校長が選考の上行う。

(徴収猶予の申請)

第9条 入学料徴収猶予を受けようとする者は、入学料徴収猶予願（別紙様式2）に、関係書類を付して所定の期日までに、校長に提出するものとする。ただし、免除の申請をした者については、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請を行わせることができる。

(徴収猶予の期間及び許可の取消)

第10条 第7条の徴収猶予の期間は、当該入学に係る年度の9月末日までとする。

2 入学料の徴収猶予を許可された者が、前項の期間内に入学料を納入しない場合は、許可を取り消す。

(徴収猶予申請者の選考)

第11条 校長は、学生委員会に諮り、入学料徴収猶予者の選考を行うものとする。

第4章 その他

(申請に係る徴収猶予)

第12条 免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間は、免除又は徴収猶予の申請をした者に係る入学料の徴収を猶予する。

(免除等不許可による入学料の納付)

第13条 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者（第9条のただし書により徴収猶予の申請をした者を除く。）については、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に、納付すべき入学料を納付しなければならない。

(死亡等による免除)

第14条 次の各号の一に該当する場合には未納の入学料の全額を免除する。

- (1) 入学料の免除又は徴収猶予を申請した者について、第7条又は第12条により徴収を猶予している期間内において死亡した場合
- (2) 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者について、第13条に規定する期間内において死亡した場合
- (3) 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者であつて、納付すべき入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合
(徴収猶予に係る延滞金)

第15条 徴収を猶予した入学金に係る延滞金は、その全額を免除する。

附 則

- 1 この規程は、平成15年3月1日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校入学料免除取扱規程（昭和51年2月10日規則第7号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成17年3月7日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料7-2-①-7

新居浜工業高等専門学校授業料寄宿料免除等取扱規程

昭和53年4月1日規則第2号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 新居浜工業高等専門学校学則第33条第3項及び第4項の規定に基づく授業料免除、徴収猶予及び寄宿料免除の取扱いについては、この規定の定めるところによる。

第2章 授業料免除

(経済的理由による免除)

第2条 授業料免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められるものについて、本人の申請に基づき、校長が選考の上許可する。

第3条 授業料免除は、年度を2期に分けた区分によるものとし、各期ごとの免除願提出期日までに受理した申請に対して、当該期分の授業料について許可する。

第4条 授業料免除の額は、原則として各期分の授業料について、その全額又は半額とし、免除の総額は、毎年度定められた額の範囲内とする。

第5条 授業料免除の許可を受けようとする者は、別に定める願書(様式1)に関係書類を付して、所定の期日までに学生主事を経て校長に提出するものとする。

(特別の理由による免除)

第6条 次の各号の一に該当し、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合は、当該事由の発生した日の属する期の翌期に納付すべき授業料を免除することができる。ただし、当該事由の発生の時期が当該期の授業料の納期限以前であり、かつ、当該期分の授業料を納付していない場合は、当該期分の授業料を免除することができる。

(1) 授業料の各期ごとの納期前6月以内(新入学者に対する入学した日の属する期分に係る場合は、入学前1年以内)において、学生の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であつて、校長が相当と認める事由がある場合

2 前項の免除の許可は、本人の申請に基づき、校長が被災による納付困難な事情を認定して行うものとし、その取扱いについては、第3条、第4条及び第5条の規定を準用する。

第7条 休学を許可した場合は、次の算式により算定した授業料の全額を免除することができる。

〔授業料の年額〕 × 〔休学当月の翌月から復学当月の前日までの月数〕 / 12

第8条 死亡又は行方不明のため学生を除籍した場合は、当該学生に係る未納の授業料の全額を免除することができる。

第9条 授業料の未納を理由として学生を除籍した場合は、当該学生に係る未納の授業料の全額を免除することができる。

第10条 授業料の徴収猶予を許可している学生に対し、その願い出により退学を許可した場合は、月割計算により退学を許可した日の属する月の翌月以降に納付すべき授業料の全額を免除することができる。

第11条 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者であって、納付すべき入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合は、その者に係る未納の授業料は全額を免除することができる。

(許可の取消し)

第12条 授業料免除を許可された者で、許可決定後、免除の理由が消滅した場合又は免除の申請に虚偽の事実が判明した場合は、校長はその許可を取り消す。

2 前項により免除の許可を取り消された場合は、次の各号に定める授業料を、許可取消しの日の属する月の末日までに納付しなければならない。

(1) 許可の理由が消滅した場合にあつては、月割計算により取消しの日の属する月以降に納付すべき授業料

(2) 虚偽の事実が判明した場合にあつては、その期の授業料の全額

第3章 授業料の徴収猶予

(徴収猶予の範囲等)

第13条 授業料の徴収猶予は、次の各号の一に該当する場合について、本人の申請に基づき、校長が選考の上決定する。ただし、第2号に該当する場合は、本人又はこれに代わる者の申請に基づくものとする。

(1) 経済的理由により納付期限までに授業料納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 学生が行方不明の場合

(3) 学生又は学資負担者が災害を受け、納付期限までに授業料納付が困難であると認められる場合。

(4) その他やむを得ない事情があると認められる場合。

第14条 授業料の徴収猶予の期間は、前期にあつては9月末日まで、後期にあつては2月末日までとする。

第15条 授業料の徴収猶予の願い出(様式2)については、第5条の規定を準用する。

(月割分納)

第16条 特別の事情があると認められる場合は、その期の授業料について月割分納を許可することができる。

2 月割分納の額は、授業料年額の12分の1に相当する額とし、毎月末日までに納付するものとする。

ただし、休業期間中の分は休業期間開始前に、納付するものとする。

3 月割分納の願い出(様式2)については、第5条の規定を準用する。

(許可の取消し)

第17条 授業料の徴収猶予の許可の取消しについては、第12条第1項の規定を準用する。

2 前項により徴収猶予の許可を取り消された場合は、許可取消しの日の属する月の末日までにその期の授業料の全額を納付しなければならない。

第4章 寄宿料免除

(免除の範囲等)

第18条 学生又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合は、災害の発生した日の属する月の翌月から起算して6月間の範囲内において校長が必要と認める期間に納

付すべき寄宿料の全額を免除することができる。

2 免除は、本人の申請に基づき、校長が納付が著しく困難な事情であると認める場合に行う。

3 校長が必要と認める期間が翌年度にわたる場合は、翌年度当初において、翌年度分に係る免除の申請を改めて行わせるものとする。

第19条 死亡又は行方不明のため学生を除籍した場合は、当該学生に係る未納の寄宿料の全額を免除することができる。

第20条 授業料の未納を理由に学生を除籍した場合は、当該学生に係る未納の寄宿料の全額を免除することができる。

第21条 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除の許可をした者であって、納付すべき入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合は、その者に係る未納の寄宿料は全額を免除することができる。

(許可の取消し)

第22条 寄宿料免除の許可取消しについては、第12条第1項の規定を準用する。

第5章 その他

第23条 校長は、学生委員会に諮り、授業料免除、徴収猶予及び寄宿料免除等の選考を行うものとする。

附 則

1 この規程は、昭和53年4月1日から施行する。

2 昭和37年4月1日施行の「授業料寄宿料免除等取扱規程」は、廃止する。

附 則

1 この規則は、平成2年2月1日から施行し、平成元年1月8日から適用する。

2 この規則施行の際、現にあるこの規則による改正前の様式による用紙は当分の間、これを取り繕い使用することができる。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年9月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年3月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料7-2-①-8

授業料免除適用者及び奨学金貸与者人数

平成18年度授業料免除状況

項 目		前期	後期	計	備 考
申 請 者		108	89	197	
内 訳	全額免除許可	55	55	110	
	半額免除許可	0	0	0	
	不許可	26	19	45	
	超過免除申請者	27	15	42	
内 訳	半額免除決定	12	14	26	
	不許可	15	1	16	

平成18年度奨学生状況

H18. 9. 1現在

学年・学科(組)	日本学生支援機構奨学金			愛媛県奨学金			その他					合計	備考
	自宅	自宅外	計	自宅	自宅外	計	あしなが	いよぎん	帝京	日新	計		
合計	46	49	95	24	26	50	1	1	1		4	149	

(出典 新居浜高専データベース)

資料7-2-①-9

第二章 学生生活・指導

1. 奨学金制度

(1) 独立行政法人日本学生支援機構奨学金は、4月上旬に全学生を対象に募集し、学生委員会で「奨学生選考基準」に基づき選考の上、日本学生支援機構に推薦を行っている。出願の時期等については、その都度掲示等で学生に連絡している。出願書類等は、学生係で配布し学生が直接提出することになっている。

また、奨学生が留年した場合は、奨学金の廃止又は1か年停止となり、停学の処分等を受けた場合にも、一時停止又は廃止となることがある。

(2) このほか、家計の急変により、緊急に奨学金を必要とする場合には、随時、受付を行っている。

(3) 上記以外にも、本校から出願している主な奨学金には次のものがある。手続き・選考方法等は、日本学生支援機構とほぼ同様である。

- ・愛媛県（5月末頃：1学年対象）
- ・（財）中西奨学会（4月頃：2学年対象）
- ・（財）三浦教育振興財団（4月頃：主として専攻科対象）

2. 授業料免除及び徴収猶予

「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則」（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）及び「授業料寄宿料免除等取扱規程」に基づき実施している。

申請の時期は、4月（前期分）、9月（後期分）であるが、その都度掲示等により学生に連絡している。申請書類は学生係で配布し、学級担任又は専攻主任（以下「学級担任等」という。）を経て、学生が直接提出することになっている。

学生委員会で「授業料免除選考基準」により選考の上、該当者に授業料の半期分の全額又は半額が免除され、あるいは徴収が猶予される。（学力優秀とは、学科50/100以内、母子・父子家庭は、60/100以内の成績）

それぞれの該当事由は、次のとおり。

(1) 授業料免除（次の各号のいずれかに該当）

- ① 経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる場合
- ② 各期の授業料の納期6月前以内（新生に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内）に学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合
- ③ 前項に準ずる場合で、校長が相当と認める事由がある場合

(2) 授業料徴収猶予（次の各号のいずれかに該当）

- ① 経済的理由によって納付期限までに授業料納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合
- ② 学生が行方不明の場合
- ③ 学生又は学資負担者が災害を受け、納付困難であると認められる場合
- ④ その他やむを得ない事情があると認められる場合

3. 入学料の免除及び徴収猶予

「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則」(独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号)及び「入学料免除及び徴収猶予取扱規程」に基づき実施している。

なお、新入生及び保護者には、入学手続き説明時に学生係で説明し申請書類の交付を行っている。

学生委員会で「入学料徴収猶予選考基準」により選考の上、該当者の入学料の免除又は徴収が猶予される。

それぞれの該当事由は、次のとおり。

(1) 入学料免除(次の各号のいずれかに該当)

- ① 入学前1年以内に、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合
- ② 前項に準ずる場合で、校長が相当と認める事由がある場合

(2) 入学料徴収猶予(次の各号のいずれかに該当)

- ① 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀と認められる場合
- ② 入学前1年以内に、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難である場合
- ③ その他やむを得ない事情があると認められる場合

(出典 平成17年度教員便覧)

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活面の指導や相談については、担任をはじめとして、学生委員会や学生相談室などの体制が整備され、機能している。また、経済面についても授業料免除や奨学金の制度が整備され、適切に運用されている。

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者(例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。)への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点到に係る状況)

外国人留学生の生活支援体制としては、個々の留学生に対して留学生指導教員及び学生の留学生相談員(チューター)を配置している(資料7-2-②-1, 資料7-2-②-2)。また、教員5名からなる留学生指導班を設置し、留学生支援全般にわたる方針を決めたり、イベントの企画を行っている(資料7-2-②-3, 資料7-2-②-4)。留学生同士が交流できる場として、平成15年度から留学生交流室を用意している。留学生の生活の場として学寮を利用できるようにして

おり、特別な配慮として、専用シャワー室とイスラム系などの留学生の食事に対応できる専用の食堂を備えている。

障害を持つ学生については、車椅子の学生が平成 12 年度及び 14 年度にそれぞれ 1 名ずつ入学した。それに伴い、平成 11 年度より順次バリアフリー施設の導入、整備を行い、生活支援体制の準備を進めてきた。現在も学年進行に伴い、実験室等において必要な対策を講じており、ほとんどすべての学内施設へ車椅子で移動できるようになっている（資料 7-2-②-5）。また、学科主任、学級担任及び看護師が本人及び保護者と緊密に連絡を取り合い、生活面で支障のないように配慮する体制をとっている。

資料 7-2-②-1

新居浜工業高等専門学校外国人留学生規則

昭和 59 年 9 月 27 日規則第 6 号

（趣旨）

第 1 条 新居浜工業高等専門学校学則第 54 条の規定に基づき、外国人留学生(以下「留学生」という。)に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（教育課程）

第 2 条 留学生については、履修を円滑に行うため、特別に編成された教育課程をもつて、通常の教育課程の履修に替えることができる。

2 前項の特別な教育課程は、関係学科主任及び第 3 条第 1 項に定める指導教員が協議の上、編成し、教務委員会の議を経て、校長が定めるものとする。

（留学生指導教員）

第 3 条 留学生の学習及び生活指導に必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教員(以下「指導教員」という。)を置く。

（留学生相談員）

第 4 条 学校生活等において、留学生に助言を与えるため、留学生相談員(以下「相談員」という。)を置く。

2 前項の相談員は、当該学科の学生の中から学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 相談員は、指導教員と連絡を密にし、随時その指導を受けるものとする。

（学則等の準用）

第 5 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、学則等の学内規則を準用する。

附 則

この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 4 年 10 月 1 日から施行し、平成 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 8 年 7 月 1 日から施行し、平成 8 年 4 月 1 日から適用する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料 7 - 2 - ② - 2

平成18年度 外国人留学生・担任・チューター等名簿

No.	氏 名 等	国 籍	学 科・学 年	留学制度	担 任 内線電話	指導教員 内線電話	チューター
1	ホ チョン ピン HO CHONG PING (通称名 ホ) 1984. 4. 29生(男)	マレーシア	機械工学科 5年	マレーシア 政府派遣	松田雄二 744	谷脇充浩 735	
2	チャン ドウック トアン TRAN DUC TOAN (通称名 トアン) 1983. 6. 28生(男)	ベトナム	電気工学科 5年	国 費	伊月宣之 752	井門英司 753	
3	ホアン テー コン HOANG THE CONG (通称名 コン) 1983. 5. 19生(男)	ベトナム	電子制御工学科 5年	国 費	深山幸穂 772	深山幸穂 772	
4	リム ウェイ ヨン LIM WEI YONG (通称名 リム) 1984. 3. 26生(女)	マレーシア	電子制御工学科 5年	マレーシア 政府派遣	深山幸穂 772	深山幸穂 772	
5	モハマド カイリ ビン ユソフ MOHD KHAIRI BIN YUSOF (通称名 カイリ) 1985. 12. 5生(男)	マレーシア	機械工学科 4年	マレーシア 政府派遣	鎌田慶宣 737	下村信雄 739	4M 水関康晴
6	チャン クワン TRAN QUANG (通称名 クワン) 1984. 9. 3生(男)	ベトナム	電気情報工学科 4年	国 費	王 欣 757	皆本佳計 756	4E 森川裕一
7	イスラム モハンマド マイヌル ISLAM MOHAMMAD MYNUL (通称名 マイヌル) 1985. 12. 3生(男)	バングラデ シュ	電気情報工学科 4年	国 費	王 欣 757	皆本佳計 756	4E 島尾剛司
8	ファクラッジ ビン バハルディン FAKHURADZI BIN BAHARUDIN (通称名 ファクラッジ) 1985. 9. 26生(男)	マレーシア	電子制御工学科 4年	マレーシア 政府派遣	松村弘志 766	松村弘志 766	4D 石川誠也
9	ハギル アズワン ビン ハムダン HAGIL AZWAN BIN HAMDAN (通称名 ハギル) 1985. 9. 1生(男)	マレーシア	電子制御工学科 4年	マレーシア 政府派遣	松村弘志 766	松村弘志 766	4D 中川将之
10	ハミルディン ビン ハロン HAMIRUDIN BIN HARON (通称名 ハミルディン) 1986. 6. 17生(男)	マレーシア	機械工学科 3年	マレーシア 政府派遣	下村信雄 739	石井重典 742	3M 井上隆仁
11	モハマド ノール ビン マド カリド MOHD NOOR BIN MD KHALID (通称名 モハマド ノール) 1986. 9. 15生(男)	マレーシア	機械工学科 3年	マレーシア 政府派遣	下村信雄 739	石井重典 742	3M 宇都宮翔一
12	チャン ビン ミン TRAN BINH MINH (通称名 ミン) 1985. 12. 10生(男)	ベトナム	電気情報工学科 3年	国 費	鴻上政明 853	稲見和生 754	3D 西川俊平
13	ルアンサイ サレムサイ LUANGXAY SALEUMXAY (通称名 ルアンサイ) 1986. 5. 1生(男)	ラオス	電気情報工学科 3年	国 費	鴻上政明 853	稲見和生 754	4E 村上祐一
14	ファラ ファシハ ビンティ ムハマド ダン FARAH FASIAH BINTI MUHAMAD DAN (通称名 ファラ ファシハ) 1987. 7. 3生(女)	マレーシア	電子制御工学科 3年	マレーシア 政府派遣	白井みゆき 764	白井みゆき 764	3D 棟田 舞

留学生指導班の内線電話……… 檀上光昭(751)、谷脇充浩(735)、井門英司(753)、白井みゆき(764)、野田善弘(807)

★ 担任、指導教員、留学生指導班の先生に学外から電話する場合は、内線番号の前に 0897-37-7 をつける。(例：谷脇先生の内線電話(735)の外線番号は、0897-37-7735 となる。)

(出典 学生課資料)

資料 7-2-②-3

外国人留学生指導教員

谷脇 充浩 (ホ)	:5 M)	松村 弘志 (アズワン、フアクラツ)	:4 D)
井門 英司 (トア)	:5 E)	石井 重典 (ハミルディン、モハマドノール)	:3 M)
深山 幸穂 (コン、リム)	:5 D)	稲見 和生 (ミン、ルアソサイ)	:3 E)
下村 信雄 (カリ)	:4 M)	白井みゆき (ファラファシ)	:3 D)
皆本 佳計 (クワン、マイル)	:4 E)		

(出典 平成 18 年度各種委員会委員等名簿より抜粋)

資料 7-2-②-4

構成団体が主催又は後援した国際交流事業 (H.17.10~H.18.9)

【別紙 3】

団体名 新居浜工業高等専門学校

平成 18 年 10 月 1 日

開催年月日	国際交流事業名	事業の概要	留学生参加人数
H17.11.12~ 11.13	国領祭への模擬店の出店	同学園祭に、世界味巡りの模擬店を出店し、留学生の祖国の料理を通じて、同祭に集う学生、地域の方とのコミュニケーションを図る。	14
H17.11.27	四国地区高専総合文化祭の留学生紹介コーナー	同文化祭に、四国 6 高専の留学生紹介コーナーを設け、四国 6 高専の一般学生・留学生及び地域の方との交流を行う。	14
H18.1.13~ 1.15	平成 17 年度留学生研修旅行	日本の奥深い文化や歴史に触れ、日本をより深く理解し、併せて留学生同士の交流を活発にする。 金沢、福井の史跡見学	13
H18.1.16~ 1.25	平成 17 年度留学生ウィーク	留学生と留学生の母国を、全校学生、教職員、地域の方に紹介し、相互理解を深める。	9
H18.1.26	留学生の寮生に対する母国紹介	2 年生の寮生に対し、モンゴルとタイの留学生(寮生、5 年生)が母国紹介を行った。	2
H18.2.21	学寮送別会	5 年生・専攻科 2 年生の寮生送別会に、送別する側、される側の双方に留学生が参加した。	13
H18.4.9	学年集会	定例の学年集会に加えて、新留学生の紹介を行った。	2
H18.5.13	寮マッチ	新入寮生歓迎の寮マッチに、留学生が参加し親睦を深めた。	14
H18.6.16	平成 18 年度留学生歓迎交流懇談会	新たに入学した留学生を歓迎するとともに、地域の方、教職員、チューター、在学生代表等が一堂に会し、相互理解と親睦を深める。	14
H18.9.11~ 9.15	平成 18 年度留学生ウィーク	留学生と留学生の母国を、全校学生、教職員、地域の方に紹介し、相互理解を深める。	14

※ 平成 17 年 10 月から平成 18 年 9 月までの間に留学生が参加した事項のみ記載してください。

(出典 学生課資料)

資料7-2-②-5

バリアフリー施設設置概要

総務課施設係作成

平成11年度整備

1. 生物応用化学科・高度技術教育研究センター本館新営に付帯して、同建物に車椅子用エレベータ、車椅子用WC(1階)及び玄関スロープを整備
2. 一般教室棟改修に際して、全ての教室に車椅子で出入り可能なスムーズ式引き戸を整備
3. 機械工学科棟に、車椅子用エレベータ及び車椅子用WC(EV増築部の2階)を整備
4. 機械工学科棟及び第1体育館に、車椅子用スロープを整備
5. 電子制御工学科棟教室の扉を車椅子で出入り可能なスムーズ式引き戸に改修

平成12年度整備

1. 基幹・環境整備工事として、次の事項を整備
 - ◆ 図書館に、車椅子用エレベータ、車椅子用WC(EV増築部の2階)、スロープ、スロープキャノピー、点字ブロック、自動扉及び車椅子用駐車場を整備
 - ◆ 一般教室棟に、車椅子用エレベータ、車椅子用WC(EV増築部の2階)、自動扉、スロープ、スロープキャノピーを整備
 - ◆ 管理・電気工学科棟玄関に、ミニスロープ、自動扉、車椅子用駐車場の設置及び正門から管理棟玄関にかけて点字ブロック整備
 - ◆ 電子制御工学科棟の既設一般用エレベータを車椅子用に改修及び東出入口にスムーズ式引き戸、スロープ、スロープキャノピーを整備
 - ◆ 生物応用化学科棟東出入口に自動扉を、西出入口にスムーズ式引き戸、既存スロープにキャノピー設置及び玄関前からスロープにかけて点字ブロック整備
 - ◆ 第1体育館玄関をスムーズ式引き戸に改修、既存スロープにキャノピー設置及び内部ミニスロープ設置
 - ◆ 第2体育館玄関をスムーズ式引き戸に改修、スロープ、スロープキャノピー設置及び内部ミニスロープ設置
 - ◆ 尚友会館玄関をスムーズ式引き戸に改修及び自動販売機・談話コーナーにミニスロープ設置(玄関スロープは昭和59年建設時に設置済)
 - ◆ 構内の舗装路を全面改修して不陸や段差をなくし、車椅子や杖使用の人に通行しやすいよう配慮した。
 - ◆ 学外者にもわかりよい構内案内板、誘導板を充実した。
2. 合併教室棟美術室にミニスロープを整備
3. 電子制御工学科棟3階東出入口扉改修及びミニスロープ設置

平成13年度整備

1. 電子制御工学科棟1階に車椅子用WCを整備
2. 武道場玄関扉をスムーズ式引き戸に改修

平成14年度整備

1. 生物応用化学科棟－電子制御工学科棟間2階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修

2. 専攻科棟－電子制御工学科棟間2階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修

平成15年度

1. 図書館東側出入口を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修
2. 女子寮への改修の際に、玄関スロープおよび内部ミニスロープを設置

平成16年度

1. 機械工学科棟3階情報教育センター第2演習室入口にミニスロープ取付
2. 高度技術教育研究センター別館改修に際し、玄関スロープ取付
3. 電子制御工学科棟4D教室後部引き戸を車椅子使用可能なよう改修
4. 電子制御工学科棟－専攻科棟間4階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修

平成17年度

1. 電子制御工学科棟5D教室後部引き戸を車椅子使用可能なよう改修
2. 図書館棟2階閲覧室入口を自動扉に改修
3. 管理棟前構内点字ブロックを更新

平成18年度

1. 専攻科棟2階に車椅子用WCを新設
2. 生物応用化学科棟1階西出入口、電子制御工学科棟1階東出入口、同2階西出入口及び専攻科棟2階東出入口を自動扉に改修
3. 電子制御工学科棟2階東出入口を自動扉に改修

(出典 施設係資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対しては、留学生指導教員と留学生相談員を配置し、さらに留学生指導班を組織して生活支援を適切に行っている。障害のある学生に対しては、バリアフリー化を含めて生活面での支援を適切に行っている。

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は、定員 434 名の男子寮と定員 60 名の女子寮を有していて、通学が困難な学生が本校で勉学できる環境を整えている。男子寮は 5 棟から成り、基本的に同一学年の寮生を同一の棟に収容している。女子寮は平成 15 年の 12 月に竣工し、平成 16 年 1 月から初めての女子寮生を迎えた。平成 18 年 5 月 1 日現在の寮生数は男子 292 名、女子 25 名の計 317 名である(資料 7-2-③-1)。

寮生活にかかる費用は、寄宿料の他、学寮運営費、寮生会費、食費および食堂経費などであり、月額約 3 万円である(資料 7-2-③-2)。

施設・設備面では、男子寮については、3 人部屋(3 年生まで)と 1 人部屋(4 年生以上)で構

成される居室の他、2つの浴室、各階に補食室や洗濯室などを設け、また、スチーム暖房を備えて、基本的な生活を保証している。女子寮については、2人部屋（3年生まで）と1人部屋（4年生以上）で構成される居室（エアコン設置）、浴室、洗濯室、および各階に補食のできるコミュニケーションスペースなどを設けている。また、学習に活用したり、教養のための情報を収集できるようにするために、コンピュータ・ネットワーク環境を整えている。

学寮は、新居浜工業高等専門学校学寮管理運営規則に基づいて管理運営がなされている（資料7-2-③-3）。学寮の管理・運営は、主事、主事補、各科代表委員、寮監、事務職員によって構成される寮務委員会によって行われている。また、毎日、2名の宿直教員、休日1名の日直教員によって寮生の生活の管理と指導を行っている。なお、女子寮については、毎日19時から22時までの時間帯で外部委託の学寮指導員により生活支援を行い、約2週間に1回の頻度で女性教員が宿直する体制をとっている。

また、全寮生で構成する寮生会の執行部会と指導寮生会などによる運営体制も確立している（資料7-2-③-4）。執行部会は、寮生会長、副会長、指導寮生会長、書記、会計、専門委員会委員長、副委員長で構成され、寮生の生活面でのサポートや指導を行っている。指導寮生会は3年生以下の寮生の生活指導や学習面での支援を行っている。

寮生は、生活規範、外出・外泊、所持品など、寮生活におけるきまりを守ることが求められている。これは寮生全員に配布する「寮生活のしおり」に「寮生心得」を明確に示していて、これに従って、寮務委員会、寮生会執行部、指導寮生会が寮生指導を行っている（資料7-2-③-5）。

1人部屋となっている高学年寮を除く各棟には、居室以外に学習スペースが備えられている（資料7-2-③-6）。なお、向陽寮の寮生は、居住する棟に隣接する学寮管理棟の中にある集会室を学習スペースとして利用している。21時の点呼以降から23時までの2時間を学習時間として定めているが、23時以降も学習を続けたい寮生には学習スペースを利用できるようにしている。

資料7-2-③-1

寮 生 数 (平成18年5月1日現在)

寮名	階	寮生数		居室別内訳		学年別内訳									
				複数室	個室	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2			
雄風北寮 (定員 87人)	1	13	(0)	12	(0)	0	12	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	0
	2	18	(0)	17	(0)	0	15	2	(0)	1	(0)	0	(0)	0	0
	3	21	(0)	20	(0)	0	18	2	(0)	1	(0)	0	(0)	0	0
	4	18	(0)	17	(0)	1	14	2	(0)	0	(0)	1	(0)	0	0
小計		55	(0)	51	(0)	1	59	6	(0)	3	(0)	1	(0)	0	0
雄風南寮 (定員 63人)	1	12	(1)	11	(1)	0	0	11	(1)	0	(0)	1	(0)	0	0
	2	17	(2)	16	(2)	0	3	13	(2)	0	(0)	1	(0)	0	0
	3	17	(1)	16	(1)	0	2	14	(1)	1	(0)	0	(0)	0	0
小計		46	(4)	43	(4)	0	5	38	(4)	1	(0)	2	(0)	0	0
清風寮(女)	1	9	(1)	8	(1)	2	0	6	(1)	1	(0)	0	(0)	0	0

	3	13 (0)	12 (0)	1 (0)	6	2	4 (0)	0 (0)	1 (1)	0	0
小計		35 (2)	31 (1)	4 (1)	12	4	15 (1)	1 (0)	3 (1)	0	0
向陽寮 (定員 166人)	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
	2	24 (0)	22 (0)	2 (0)	20	2	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0	0
	3	23 (0)	22 (0)	1 (0)	20	2	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0	0
	4	21 (0)	20 (0)	1 (0)	18	2	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0	0
小計		68 (0)	64 (0)	4 (0)	58	6	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0	0
蛭雪寮 (定員 59人)	1	12 (2)	0 (0)	12 (2)	0	0	1 (0)	11 (2)	0 (0)	0	0
	2	15 (1)	0 (0)	15 (1)	0	0	0 (0)	15 (1)	0 (0)	0	0
	3	11 (1)	0 (0)	11 (1)	0	0	0 (0)	11 (1)	0 (0)	0	0
	4	10 (1)	0 (0)	10 (1)	0	0	0 (0)	10 (1)	0 (0)	0	0
小計		48 (5)	0 (0)	48 (5)	0	0	1 (0)	47 (5)	0 (0)	0	0
青雲寮 (定員 59人)	1	14 (0)	0 (0)	14 (0)	0	0	0 (0)	1 (0)	10 (0)	0	3
	2	15 (2)	0 (0)	15 (2)	0	0	0 (0)	2 (0)	6 (2)	5	2
	3	14 (0)	0 (0)	14 (0)	0	0	1 (0)	0 (0)	10 (0)	0	3
	4	13 (1)	0 (0)	13 (1)	0	0	0 (0)	1 (0)	12 (1)	0	0
小計		56 (3)	0 (0)	56 (3)	0	0	1 (0)	4 (0)	38 (3)	5	8
合計		323 (14)	204 (5)	119 (9)	71	74	61 (5)	59 (5)	45 (4)	5	8

注：（ ）内の数字は、留学生の内数
(出典 学生生活支援係資料)

資料7-2-③-2

平成18年度学寮諸経費

区分	金額 (1人1ヶ月当たり)
寄宿料	700円(相部屋)
学寮運営経費	3,200円
給食材料費	約18,800円 (1日当たり628円)
食堂経費	7,500円
合計	約30,200円

- ※ ・寄宿料：800円(個室)
 ・寮生会費：2,500円(6ヶ月当たり)
 ・入寮費：2,000円(入寮時のみ)
 ・冷暖房費：1,000円(清風寮のみ1ヶ月当たり)

(出典 学生生活支援係資料)

資料7-2-③-3

新居浜工業高等専門学校学寮管理運営規則

昭和43年4月1日規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)の学則第 48 条第2項の規定に基づき、本校における学寮の管理運営について必要な事項を定め、その円滑かつ適正な運用を図るものとする。

(目的)

第2条 学寮は、本校の教育施設であつて、学生の学園生活の向上を図るとともに規律ある共同生活をとおして教養を高め、将来にわたる人間形成に資することを目的とする。

(施設の名称等)

第3条 学寮は、向陽寮、雄風寮、螢雪寮、青雲寮及び清風寮とする。

2 向陽寮及び雄風寮には、第1学年から第3学年までの男子学生を、螢雪寮及び青雲寮には、第4学年以上の男子学生を、また、清風寮には、女子学生を入寮させる。

(管理運営責任者等)

第4条 学寮の管理運営責任者は、校長とする。

2 学寮の管理運営に関する事務は、事務部の所管とする。

(寮監等)

第5条 寮生の教育及び生活指導を行うため、寮監及び当直教員を置く。

2 寮監は、本校専任教員の中から校長が任命する。

第6条 削除

(会議)

第7条 学寮運営の具体的方策を審議するため、寮務委員会を置く。

2 寮務委員会に関する事項は、別に定める。

(入寮)

第8条 学寮には、本校学生に限り入寮することができる。

第9条 本校学生で入寮を希望する者は、入寮願を寮務主事を経て校長に提出するものとする。

(入寮の許可)

第10条 学生の入寮については、校長が許可する。

(入寮手続)

第11条 学生が、第8条及び第9条の規定により入寮する場合は、指定された期限内に入寮願を寮務主事を経て校長に誓約書を提出しなければならない。

2 前項の手続を完了しない者又は虚偽の申し立てをしたことが判明した者については、校長は当該入寮の許可を取り消すことがある。

(寄宿料)

第12条 寮生は、寄宿料月額 700 円を所定の日までに納入しなければならない。ただし、個室に入居する者は、月額 800 円を所定の日までに納入するものとする。

2 入寮の日が月の中途である場合にあつても、その月分の寄宿料を納入しなければならない。また、退寮するときは既納の寄宿料は還付しない。

(諸経費)

第13条 学寮における寮生の生活上必要な食費及び光熱水料等の諸経費は、寮生の負担とする。

2 寮生は、前項の経費について学校の定める額を毎月所定の日までに納入しなければならない。

(施設設備保全の義務)

第14条 寮生は、居室、共用施設その他学寮の施設設備を常に正常な状態において保全するため、次の各号に定めるところに誠実に従わなければならない。

- (1) 居室を居室以外の目的に使用しないこと。
- (2) 居室には、部外者を宿泊させないこと。
- (3) 居室に工作を加えないこと。
- (4) 学寮施設に許可なく掲示、貼紙等をしないこと。
- (5) 施設設備を滅失、き損及び汚損しないこと。
- (6) 防火管理、保健衛生管理、災害防止その他学寮施設の管理運営上の必要から行う学校の指示に従い、積極的にこれに協力すること。

2 前項第 3 号又は第 5 号の規定に違反した者は、速やかに原状に回復するか又はそれに必要な経費の弁償をするものとする。

第15条 寮生は、火災その他災害の防止について常に注意し、事故を発見したときは、直ちに臨機の処置をとるとともに関係職員に報告し、その指示に従つて行動しなければならない。

(生活規律)

第16条 寮生は、本校の諸規則、寮生心得及び関係職員の指示に基づき行動するとともに相互に敬愛し、自己及び共同生活の向上充実に努めなければならない。

2 寮生が外出又は外泊をしようとするときは、所定の様式により寮務主事へ届け出て許可を受けなければならない。

3 寮生は、学習、談話、食事、就寝及び外来者との面会等については、定められた場所で行わなければならない。

(健康保持)

第 17 条 寮生は、常に衛生に留意し、健康の維持増進に努めなければならない。

2 寮務主事は、必要があると認める場合、寮生に対し健康診断の受診又は療養を命ずることがある。

(環境の整備)

第 18 条 寮生は、学寮内外の清掃を実施し、清潔、整頓を旨とし、快適な環境の保持に努めなければならない。

(管理点検)

第 19 条 関係職員は、管理又は指導上必要がある場合、寮生の居室に入室することができる。

(共同生活の自主的規律)

第 20 条 寮生は、学寮設置の目的に従い、学寮における日常生活上の具体的な問題を共同して処理し、自主的にこれを規律するため校長の承認を得て寮生会を設けることができる。

2 寮生会が、学寮の設置目的を逸脱し又は管理運営に支障を生ずることがある場合は、校長が寮生会を解散又は寮生全役員を交替させることがある。

3 寮生が、寮生会の規約を制定又は改廃しようとするときは、校長の許可を得て処理しなければならない。

(退寮)

第 21 条 寮生で、退寮を希望する者は、退寮願を寮務主事を経て校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 寮生で、学則第 5 条に定める春季、夏季、冬季及び学年末の休業期間中(以下「休業期間中」という。)のみの退寮は、許可しない。

3 寮生が、次の各号のいずれかに該当するときは、校長は退寮を命ずるものとする。

(1) 特別の理由がなく寄宿科又は第 13 条に定める諸経費の納入を怠ったとき。

(2) 風紀を乱す行為のあつたとき。

(3) 共同生活の秩序を著しく乱す行為のあつたとき。

(4) 疾病その他により共同生活に適しないと認めるとき。

(食堂等の閉鎖)

第 22 条 学寮の食堂等は、休業期間中は閉鎖するものとする。

(施設の利用)

第 23 条 本校教職員及び寮生のほかは、学寮施設を利用することはできない。ただし、特別の理由があるときは、校長の許可を得て使用することができる。

(細則等への委任)

第 24 条 この規則の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

2 昭和 38 年 9 月 2 日施行の新居浜工業高等専門学校寄宿舎規程は廃止する。

附 則

この規則は、昭和 43 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、昭和 45 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、昭和 46 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、昭和 48 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 3 条第 1 項に規定する施設の名称に係る改正については、昭和 61 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この改正規則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規則は、平成 3 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 4 年 10 月 1 日から施行し、平成 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則
この規則は、平成 15 年 12 月 10 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 7 - 2 - ③ - 4

新居浜工業高等専門学校寮生会会則

昭和 58 年 3 月 9 日規則第 1 号

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は、新居浜工業高等専門学校寮生会と称する。

第 2 条 本会は、学校の指導のもとに寮生の自治協力によつて、寮生活が円滑、有意義に営まれることを目的とする。

第 3 条 本会は、新居浜工業高等専門学校の全寮生をもつて組織する。

第 2 章 機 関

第 4 条 本会の機関は、次のとおりとする。

- (1) 寮生大会
- (2) 執行部会
 - ア 風紀委員会
 - イ 文化委員会
 - ウ 体育委員会
 - エ 生活委員会
 - オ 環境衛生委員会

(3) 指導寮生会

(4) 会計監査

(5) 選挙管理委員会

第 5 条 前条に定める各機関の会議は、その構成員の 3 分の 2 以上の出席をもつて成立し、議決には出席者の過半数の同意を必要とする。

第 1 節 寮生大会

第 6 条 寮生大会は、本会の最高議決機関である。

第 7 条 定期寮生大会は、年 2 回開催する。

第 8 条 前条に定める定期寮生大会の外、次の場合には、臨時寮生大会を開くことができる。

- (1) 全寮生の 3 分の 1 以上が必要と認めるとき。
- (2) 寮生会会長が必要と認めるとき。

第 9 条 寮生大会は、寮生会会長が招集し、議題等について 5 日前までに告示しなければならない。ただし、急を要する場合はこの限りでない。

第 10 条 寮生大会は、次の事項について審議議決する。

- (1) 会則の変更
- (2) 予算、決算の承認
- (3) 事業報告
- (4) 役員の承認
- (5) 監査報告
- (6) その他の重要事項

第 11 条 寮生大会においては、議長、副議長を各 1 名選出し、別に書記を置く。書記は、執行部会の書記がこれに当たる。

第 2 節 執行部会

第 12 条 寮生会を円滑に運営するため執行部会を置く。

2 執行部会は、寮生大会において決議された事項について執行する。

第 13 条 執行部会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 寮生会会長 1 名
- (2) 寮生会副会長 2 名
- (3) 指導寮生会会長 1 名
- (4) 書 記 1 名
- (5) 会 計 1 名
- (6) 専門委員会委員長 5 名

- (7) 専門委員会副委員長 5名
- 2 寮生会会長及び寮生会副会長は、立候補制とし、全寮生の直接選挙により寮生会会長1名、寮生会副会長を2名選出する。ただし、立候補者がいない場合若しくは定員に満たない場合は、その不足する定員については寮生の互選による。任期は、1か年とする。
- 3 指導寮生会会長の任期及び選出方法については、第 22 条及び第 24 条に定める。
- 4 書記及び会計については、寮生会会長が指名し、それぞれ所掌事務を処理する。任期は、1か年とする。
- 5 専門委員会委員長の決定方法及び任期は、第 16 条に定める。
- 第 14 条 執行部会は、必要の都度寮生会会長が招集し、その議長となる。
- 2 寮生会会長に事故あるときは、寮生会副会長がこれを代行する。
- 第 15 条 本部会の業務を処理するため、次の専門委員会を置く。
- (1) 風紀委員会
(2) 文化委員会
(3) 体育委員会
(4) 生活委員会
(5) 環境衛生委員会
- 第 16 条 各専門委員会委員長は、寮生会会長が指名する。任期は、1か年とする。
- 2 各専門委員会副委員長及び委員は、各専門委員会委員長が指名する。任期は、1か年とする。
- 3 各専門委員会委員の定数は、次のとおりとする。
- (1) 風紀委員会委員 10 名
(2) 文化委員会委員 9 名
(3) 体育委員会委員 10 名
(4) 生活委員会委員 12 名
(5) 環境衛生委員会委員 22 名(各階1名)
- 第 17 条 風紀委員会は、寮生の日常生活の規律、秩序の維持、礼儀、服装等の風紀に関する業務を行う。
- 第 18 条 文化委員会は、寮生の文化、運営等に関する業務を行う。
- 第 18 条の2 体育委員会は、寮生の体育行事の企画、運営等に関する業務を行う。
- 第 19 条 生活委員会は、寮生の協同課業等の企画、運営に関する業務を行う。
- 第 20 条 環境衛生委員会は、寮内外の清掃及び寮生の保健衛生等に関する業務を行う。
- 第3節 指導寮生会
- 第 21 条 寮生の指導に当たるため、指導寮生及び指導寮生補佐で構成する指導寮生会を置く。
- 第 22 条 指導寮生は、校長が指名し、任期は、1か年とする。
- 第 23 条 指導寮生補佐は、寮務委員会の推薦により寮務主事が指名する。任期は、1か年とする。
- 第 24 条 指導寮生会に会長を置き、指導寮生の互選により選出する。
- 第 25 条 指導寮生会は、必要の都度会長が招集し、その議長となる。
- 第4節 会計監査
- 第 26 条 本会の会計について監査するため会計監査を置く。
- 2 会計監査は、立候補制とし、全寮生の直接選挙により3名選出する。ただし、立候補者がいない場合若しくは定員に満たない場合は、その不足する定員については、寮生の互選による。任期は、1か年とする。
- 第 27 条 会計監査は、年1回行う。ただし、必要と認めた場合は、臨時に行うことがある。
- 第5節 選挙管理委員会
- 第 28 条 選挙管理委員会は、寮生会会長、寮生会副会長及び会計監査の選挙について統轄管理する。
- 第 29 条 選挙管理委員会は、各階から選出された委員(各階1名)をもつて構成する。任期は、会務終了までとする。
- 第 30 条 選挙管理委員会の委員長及び副委員長(1名)は、委員の互選により選出する。
- 第3章 会計
- 第 31 条 本会の経費は、会費、寄附金その他をもつてこれに充てる。
- 第 32 条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月 31 日に終わる。
- 第 33 条 本会の会費は、年額 5,000 円とし、4月、10月の2期に分納するものとする。
- 第4章 雑則
- 第 34 条 本会則の改正は、寮生大会において3分の2以上の賛成を得た上、校長の承認を得なければならない。
- 附 則
- 1 この会則は、昭和 58 年4月1日から施行する。
- 2 昭和 40 年4月1日制定の「新居浜工業高等専門学校向陽寮寮生会会則」及び「新居浜工業高等専門学校雄風寮寮生会会則」は、廃止する。
- 附 則
- この会則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成9年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校寮生会会則)

資料 7 - 2 - ③ - 5

II 寮生心得

寮生は、本校の教育方針に則り、規律ある共同生活のうちに切磋琢磨して、人格の向上と学業の成就を期すものとする。この目的を達成するため、学寮管理運営規則及び寮生心得に従って生活しなければならない。

第1 生活規範

- 1 寮生は、日課に従って生活する。
- 2 第1学年から第3学年までの朝の点呼は、協同課業開始前に整列して受ける。また、夜の点呼は自室前に整列して受ける。
第4学年、第5学年、専攻科生の点呼は自室前に整列して受ける。
- 3 協同課業は、協同精神を涵養する目的をもって、一定の計画に従って休日以外毎日実行する。ただし、試験時間割発表の日から試験終了の日までの協同課業は休止し、点呼のみとする。
- 4 静粛時間中は、学習する者に迷惑を及ぼさぬよう、また、消灯後は他の者の睡眠を妨げることをしないよう静粛を保つこと。
- 5 静粛時間中は学習に集中し、学業能率をあげるため、特に次の事項に留意して学業に励むものとする。
 - (1) 無用の談話を慎み、必要な学習は静粛時間中に完遂するよう心掛けること。
 - (2) 居室においてオーディオ機器や楽器等の音を出すことを一切禁止する。
- 6 学習時間中は自分の居室で勉学に励むものとし、他室訪問はもとより、特別な理由のないかぎり就寝してはならない。
- 7 消灯後も引き続いて学習したいときは、自習室において静かに行うこと。
- 8 定期試験開始7日前から試験終了の前日までの消灯時間は、寮務委員会でその都度協議して決定する。
- 9 登校及び外出時は、必ず窓を閉め、掛け金を掛け、照明や電気器具のスイッチを切り、居室の出入口を施錠しておくこと。

第2 外出、外泊

- 1 門限までの外出は自由とし、門限後の外出は、当直教員が承認した場合を除いて禁止する。
- 2 外出が門限以降に及ぶことが予測される場合には、「外泊・外出許可願」を寮務主事に提出し、許可を受けて外出すること。
なお、外出後、届出時刻までに帰寮できなくなった場合には、その旨電話等で当直教員に連絡すること。
- 3 帰省等で外泊しようとする場合には、「外泊・外出許可願」を寮務主事に提出し、許可を受けること。
- 4 外出及び外泊後帰寮した際には、必ず「帰寮届」を指導寮生又は週番に提出すること。
また、その時刻が点呼後の場合には、当直教員にもその旨申し出ること。

第1 1 風紀・秩序

- 1 居室棟は土足禁止となっているので、必ず上履き(踵のないスリッパ)を使用すること。
- 2 アルバイトは、保護者の同意の下、必ず事前に学級担任に届け出ること。(ただし、1～3年生のアルバイトは、原則として禁止) なお、深夜業や風俗営業等のアルバイトは、禁止する。
- 3 無断で他人の物を使用してはならない。
- 4 他人の迷惑となるような言動をしてはならない。

- 5 寮内では、華美な服装や不快な気持ちを抱かせる服装をしないこと。
 - 6 1, 2年生は、登校時には学生服を着用すること。
 - 7 静粛時間以外においても、居室での談話、楽器の演奏、オーディオ機器等の使用に当たっては、他の寮生に迷惑にならないよう心掛けること。
 - 8 寮内に掲示したい場合には、寮務主事の許可を受けて、指定された場所に掲示すること。
 - 9 外来者との面会は、当直教員又は学生生活支援係の指示を受けて、指定の場所で行うこと。
 - 10 下記の行為は一切禁止する。
 - (1) 暴力行為
 - (2) 使役行為やいじめ行為
 - (3) 飲酒・喫煙
 - (4) マージャンやテレビゲームなどの好ましくないゲーム
 - (5) 自室に他室の寮生を宿泊させること。
 - (6) 寮生以外の者を無断で寮内に立ち入らせること。
 - (7) 男子寮生が女子寮へ、女子寮生が男子寮へ立ち入ること。
 - (8) 犬猫等の動物を寮内に持ち込むこと。
 - (9) その他学則や寮則違反となる行為
- (出典 平成 18 年度寮生活のしおり)

資料 7-2-③-6

学寮学習スペース面積
(単位 m²)

学寮管理棟集会室		152	雄風南寮	1 階	27
雄風北寮	1 階	14		2 階	27
	2 階	48		3 階	27
	3 階	14	計		81
	4 階	14	清風寮	1 階	73
計		90		2 階	28
				3 階	28
			計		129

(出典 施設実態調査平面図より編集)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮は、生活の場としての基本的な設備や学習の場としての学習スペースやコンピュータ・ネットワーク環境を整えている。寮務委員会による管理・運営のもとに、寮務委員や当直教員による生活指導および寮生会執行部会・指導寮生会による寮生相互支援の体制を整えている。また、指導寮生会による低学年寮生に対する学習支援もおこなっている。これより、学生寮は生活・勉学の場として有効に機能していると言える。

観点 7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の進路指導に関する企画は教務委員会が行い、それを受けて各学科が指導を実施する体制をとっている。

1, 2年生では、特別教育活動の時間を利用して、年1回卒業生による講話を実施し、また、1～4年生では企業等への研修旅行を行い、学生の職業に対する意識の涵養をはかっている(資料7-2-④-1, 資料7-2-④-2)。4年生及び専攻科1年生では、専門や将来のキャリアに関連する就業体験としてインターンシップを実施しており、全員が履修している(資料7-2-④-3, 資料7-2-④-4)。また、年2回(5年生は1回)開催される保護者懇談会では、就職や進学についての進路情報を保護者にも提供して、学生、保護者、教員の三者で学生の進路について考えることのできる環境を整備している(資料7-2-④-5)。

学生委員会において、学内での4年生及び専攻科1年生対象の企業説明会を企画、実施し、学生が参加企業の会社説明を直接受けられるように配慮している(資料7-2-④-6, 資料7-2-④-7)。その際、学生に対して就職活動に当たってのマナーや心構えについての事前指導を行っている。

専攻科教育委員会は、大学院進学希望者に対して大学院説明会を開いたり、大学院入試情報を専攻科学生室に配架することにより、進路に関する支援を行っている(資料7-2-④-8)。

5年生に対しては担任、専攻科2年生に対しては専攻主任が、進路担当の窓口となり、就職・進学の相談を受けている。4年次の年度末または5年次の年度当初に教員2名～3名で個人面接の練習を実施し、アドバイスをを行っている(資料7-2-④-9)。進路先の資料は、5年担任および専攻主任が学生が閲覧できるように整理している。

就職と進学の割合は、就職が約60%、進学が約40%となっており、ほぼ100%の学生が就職または進学ができています(資料7-2-④-10)。

資料7-2-④-1

平成18年11月21日

教員各位

学生課教務係

卒業生講話の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますのでお知らせします。
授業等に支障のない限り、ご参観願います。

—記—

1 卒業生(修了生)

(1)卒業年(修了年)	平成 8年度卒業	機械工学科	鈴木 正広
	平成 3年度卒業	電気工学科	村上 利男
	平成 7年度卒業	電子制御工学科	矢葺 広和
	平成13年度卒業	生物応用化学科	越智 善道
	平成13年度卒業	材料工学科	和田孔太郎

2 講話要領

(1)日 時 平成18年11月24日(金)14時25分～15時55分

1年生の特別活動及び2年生の特別活動の時間に各1回(1年生から開始、1回の講話時間30分程度)

(2)場 所 各学年・学科ホームルーム

(3)講話内容 学生時代及び会社での体験談等のような内容の講話

(出典 学生課資料)

資料 7-2-④-2

平成18年度1年生～4年生研修実施状況

	実 施 日	研 修 先
1年1組	平成18年7月19日(水)	パナソニック四国エレクトロニクス(株)(西条市)
1年2組	平成18年7月19日(水)	ルネサステクノロジー(株)西条事業所(西条市)
1年3組	平成18年7月19日(水)	今治造船(株)西条工場(西条市)
1年4組	平成18年7月19日(水)	住友化学(株)愛媛工場(新居浜市)
1年5組	平成18年7月19日(水)	住友重機械工業(株)愛媛製造所(新居浜市)
M-2	平成18年5月19日(金)	タケチ伊予工場・武智エンジニアリング(伊予市)
E-2	平成18年5月19日(金)	アサヒビール西条工場(西条市)
D-2	平成18年5月19日(金)	四国電力本川発電所・原子力保安研修所(本川町)
C-2	平成18年5月12日(金)	タカキベーカリー岡山工場(鴨方町)
Z-2	平成18年5月19日(金)	伯方の塩大島工場(大三島町)
M-3	平成18年5月19日(金)	伊方原子力発電所・ウインドヒル(伊方町)
E-3	平成18年5月19日(金)	四国電力本川発電所(本川町)
D-3	平成18年5月26日(金)	パナソニック四国エレクトロニクス(松山市)・四国ココロ(小松町)
C-3	平成18年5月26日(金)	四国乳業(川町)・松山市下水道中央浄化センター
Z-3	平成18年5月26日(金)	三菱自動車水島工場・スチール西日本製鉄所(倉敷市)
M-4	平成18年7月14日(金)	三菱自動車水島工場(倉敷市)
E-4	平成18年11月22日(水)	伊方原子力発電所(伊方町)
D-4	平成18年6月26日(月)	(株)大塚製薬(松茂町)・三洋電機(株)モバイルエンジニアリング(洲本市)
C-4	平成18年6月30日(金)	林原生物化学研究所(藤崎町)・三菱化学(株)(坂出市)
Z-4	平成18年5月24日(水)	JFEスチール西日本製鉄所・富士ダイス(株)(倉敷市)

(出典 学生課資料)

資料 7-2-④-3

インターンシップ実施要領

現在、高等教育においては、国際化・情報化の進展、産業構造の変化など、日本の社会情勢の変化に伴って、これまで以上に自主性創造性を持った人材を育成するよう具体的な取り組みが求められています。

その有力な方法として、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連する就業体験を行うインターンシップがあり、本校においても鋭意取り組むものとし、正規の教育課程に位置付け、単位を認定している。

1. 目的

学生が、学外において、就業体験をすることにより、本校で学習していることが、企業等の現場では実際にどのように活かされているのかを認識し、実習後の学習上の動機付けとすること、自分は、何が出来るのか、何をしたいのか、そのために何を勉強すればいいのか等をじっくり考え、職業に関する自分の興味や関心・適性がどこにあるのかを見つめること、また、実社会の厳しさを多少なりとも体験することにより、社会人になるにあたっての自覚を持ち、さらに自己啓発をする機会を持つこと等を目的とする。

2. 実施時期

原則として、夏季休暇中（7月21日から8月31日）の連続する2週間とする。（やむを得ずこの期間に参加できなかった者は、3月に実施する。）

3. 受入先

就業体験の受入先を製造・生産分野等の企業に限定せず、セールスエンジニアとして活躍する販売分野、専門技術・知識を必要とする経営分野等受入可能な企業拡大に努めるとともに、公設研究機関、大学研究室等幅広く受入先を確保する。

4. 研修テーマ

研修テーマ等は、受入先の研修プログラムに一任する。

5. 学内研修

参加学生は、受入先の実習・研修中における学生の心得・服務等について、事前に本校での研修を行う。

6. 実施証明・単位認定

研修終了後、学生の実施内容、出席状況等に基づいて、受入機関が行う総合評価を基に本校で単位を認定する。

7. 学生に対する報酬・諸経費

教育・研修として実施するため、無報酬とする。

研修中における諸経費については、原則として学生の負担とする。

但し、遠隔地などの理由で往復旅費又は宿泊費について、受入先から支弁の提案があれば、受領する。

8. 賠償保険について

学生は、「インターンシップ活動賠償保険」に加入のうえ、研修に参加する。

保険料の掛金は、学校側で一括納入する。

（出典 学生課所蔵文書より編集）

資料7-2-④-4

シニア・インターンシップ実施要領

新居浜工業高等専門学校専攻科

新居浜工業高等専門学校専攻科は、国際化・情報化の進展、急速な産業構造の変化など日本の社会情勢の変化に伴って、これまで以上に社会的に自立した「実践的技術者」の育成を目指して設立されました。そして、大学の“理論”を基に実験を通じた「ものづくり」工学教育とは異なり、本校専攻科は“体験”を通じて“理論”を“知恵と行動力”へ変え「ものづくり」の出来る実践力と創造力を併せた技術開発能力を有し、しかも国際的に通用するコミュニケーション能力、倫理観を備え社会と連携できる広い視野を持った人材を育成することを目指しております。

学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連する就業体験を行うシニア・インターンシップは、その有力な方法として、本校においても鋭意取り組んでおります。

1. 目的

企業、官公庁及び教育関係機関等の実社会で実習する体験を通じて、

1) これまで本科5年間の講義や卒業研究などで身につけた専門基礎知識と実験技術などを用いて、問

題を見出し、計画的にその問題を解決することの出来る能力を確かめ、さらに伸張する。

- 2) 組織の一員としてのマナー、社会が要求する個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得する。
 - 3) 実習体験で得た成果を今後の勉学の目的や特別研究に活用するとともに、自分の目指す技術者像を明確にする。
- 以上の三つを、シニア・インターンシップの目的としています。

2. 実施学年

専攻科第1学年（26名）の学生を対象といたします。

- ① 生産工学専攻(機械工学系) (4名)
- ② 生産工学専攻(材料工学系) (6名)
- ③ 生物応用化学専攻(6名)
- ④ 電子工学専攻(10名)

3. 受入依頼学生数

受入機関のご都合により何名でも可です。

4. 実施時期

夏季休暇中（7月11日から8月31日）の連続する1ヶ月程度といたします。

5. 研修テーマ

シニア・インターンシップのテーマを事前に提示して頂き、学生は、実習・研修の内容等について、専攻科主任及び特別研究担当教員と相談し、その計画について検討します。

6. 学内研修

参加学生は、研修中における学生の心得・服務等について、事前に本校での研修を行い、責任を持って派遣いたします。受入先で、学生に必要とされる基礎知識や事前準備が必要な場合は、前もってご連絡頂ければ学生に周知徹底いたします。

7. 実施証明・単位認定

研修終了後、学生の実施内容、出席状況等に基づいて受入機関において総合評価をしていただき、それを基に本校で単位を認定させていただきます。

8. 学生に対する報酬・諸経費

- ・教育・研修として実施するため、無報酬といたします。
- ・研修中における諸経費については、原則として学生の負担といたしますが、遠隔地などの理由で往復旅費又は宿泊費について、受入先から支弁のご提案があれば、受けさせていただきます。

9. 傷害保険

学生は、「インターンシップ傷害保険」に加入のうえ、研修に参加いたします。

対人賠償：1億円限度、対物賠償：250万円限度です。

10. 連絡先

シニア・インターンシップに関する連絡事項その他不明事項がございましたら、下記の者が対応させていただきます。

問い合わせ先

新居浜工業高等専門学校 学生課教務係 荒木
Tel 0897-37-7725 Fax 0897-37-7844
E-mail kyoumu-c@off.niihama-nct.ac.jp

専攻科長 早瀬伸樹 (Tel 0897-37-7837, Fax 0897-37-7777)
生産工学専攻主任 豊田幸裕 (Tel 0897-37-7736)
生物応用化学専攻主任 衣笠 巧 (Tel 0897-37-7787)
電子工学専攻主任 皆本佳計 (Tel 0897-37-7756)

(出典 平成18年度シニア・インターンシップ実施要領)

資料7-2-④-5

平成18年6月22日

1～4年生保護者 各位

新居浜工業高等専門学校長
水野 豊
(公印省略)

平成18年度1～4年生保護者懇談会等の開催について(案内)

貴下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校運営に多大のご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、本年度の保護者懇談会を下記により開催します。本校ではこの懇談会は、学生指導上大変重要なものと位置づけており、ぜひ全ての保護者の皆様と懇談の機会を持ちたいと考えております。

なお、この2日間の開催となりますが、保護者の皆様におかれましては、万障お繰り合わせの上、下記日程にてご出席くださいますようお願い申し上げます。ご来校の上は、学校の諸施設や学寮なども見てください、今後のご家庭でのご指導の参考にしていただければ幸いに存じます。

なお、準備の都合もありますので、同封のハガキに必要事項をご記入の上、**6月30日(金)まで**にご回答くださいますようお願いいたします。

記

1. 実施日 平成18年7月8日(土)・7月9日(日)
2. 保護者と学級担任との個別懇談
 - (1) 時間 9時00分～16時00分
 - (2) 場所 各教員研究室等
3. 保護者と学校との学年別懇談(1・3・4年生)
 - 1年生
 - (1) 時間 11時30分～12時30分
 - (2) 場所 視聴覚教室
 - 3年生
 - (1) 時間 12時30分～13時30分
 - (2) 場所 視聴覚教室
 - 4年生
 - (1) 時間 12時00分～13時00分
 - (2) 場所 階段教室
4. 2年生保護者と学校との学科別懇談
 - (1) 時間 12時00分～13時00分
 - (2) 場所 機械：2M教室、電気：2E教室、電子：1-1教室、
生化：1-2教室、材料：1-4教室
5. 寮生保護者と学寮との懇談
 - (1) 時間 9時00分～16時00分
 - (2) 場所 学寮管理棟
6. 保護者対象 学生相談室の開設
 - (1) 時間 9時00分～16時00分(随時)
 - (2) 場所 学生課向側「主事室」(特設相談室)

以上

第5学年保護者 各位

平成18年4月10日

新居浜工業高等専門学校長
水野 豊
(公印省略)

平成18年度 第5学年保護者懇談会の開催について (案内)

貴下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校運営に多大の御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、標記のことについて、下記のとおり開催いたしますので御案内申し上げます。この懇談会は、主に学生の将来の進路について話し合うことにしておりますので、万障お繰り合わせの上、是非御出席くださいますようお願いいたします。

なお、来る4月22日(土)又は4月23日(日)のいずれか御都合のよい日を選択の上、同封の葉書で4月17日(月)までに御回答願います。

記

保護者と学級担任との個別懇談

日 時 平成18年4月22日(土) 9時～16時
4月23日(日) 9時～16時

場 所 本校教員研究室

※ 実施場所については、同封の『保護者懇談会案内図』を御参照ください。

※官製葉書裏面

平成18年度 5年生保護者懇談会の開催について (回答)

ご出席等の有無 (ご希望に○を付してください。)

個別懇談 に 出 席 する。
欠 席

ご出席の場合の希望日時

平成18年4月 日 時 分頃

(時間が重複した場合には、調整致しますので、あらかじめご了承ください。)

保護者の氏名等

住 所

保護者氏名

電話番号
学生氏名
学科
(出典 学生課資料)

資料 7 - 2 - ④ - 6
<p>平成 18 年度企業説明会実施要領</p> <p>1. 目的 本校の学生が、5 年間又は専攻科を含めた 7 年間の一貫教育で培った実践的技術者としての知識及び能力を生かすため、就職活動に際し直接企業の概要を把握できる機会は、4 年生で実施している 2 週間のインターンシップ及び 2 日間の工場見学のみであり、到底満足できるものではありません。しかも、正課授業の合間での会社訪問にも時間的制約があり、本校へ送付される求人パンフレット及びホームページの検索で、自身の将来を左右する就職資料の収集を行っている状況であります。さらに、保護者におきましても、高専の就職をマスコミ報道にのみ頼っている状況であります。</p> <p> 今回計画いたしました本校での企業合同説明会は、企業等の人事担当者の皆様に御来校いただき、企業等の求める人材、採用状況及び会社概要等について、学生、就職担当教員に直接御説明をいたさうとするものです。</p> <p>2. 開催日時 平成 19 年 2 月 6 日(火) 13 時 00 分～16 時 30 分</p> <p>3. 会 場 愛媛県新居浜市八雲町 7 番 1 号 新居浜工業高等専門学校 第 1 体育館</p> <p>4. 対象者 ①本科 4 年生 (207 名) ②専攻科 1 年生 (26 名) ③教員・保護者</p> <p>5. 主 催 新居浜工業高等専門学校</p> <p>6. 予定数 会場の都合により、当面約 80 社を予定しております。参加希望企業多数の場合は、希望にお応えできかねますので御了承ください。</p> <p>7. 会場概要 ①ポスター等の展示は、参加される企業側で準備をお願いいたします。 ②1 企業 1 ブース (2 m 四方) とさせていただきます。 ③3 面をパネルで囲み、長机 1 脚、パイプ椅子 4 脚を準備いたします。 ④パソコン等については特に準備をしておりませんので、必要に応じて持参していただきますようお願いいたします。なお、パソコン用電源を 2 口準備いたしますが、プリンタ等周辺機器用の電源が必要な場合は、別途連絡をお願いします。 ⑤お茶 (ペットボトル) を本校で準備いたします。</p> <p>8. 参加料 パネル組み立てその他会場設営のため、大変申し訳ありませんが、1 企業当たり 10,000 円を設営費の一部負担としていただきたく存じます。</p> <p>9. その他 連絡事項及び不明点等がございましたら、下記まで御連絡ください。 新居浜工業高等専門学校 学生課学生就学支援係 木原</p> <p>TEL 0897-37-7861 FAX 0897-37-7844 メールアドレス shuga-c@off.niihama-nct.ac.jp</p>
(出典 学生課資料)

資料 7 - 2 - ④ - 7		
企業説明会参加企業数		
企業説明会	応募企業数	参加企業数
平成 15 年度第 1 回	41 社	41 社

平成15年度第2回	51社	51社
平成16年度	79社	78社
平成17年度	116社	80社
平成18年度	90社	79社

(出典 学生課資料)

資料7-2-④-8

専攻主任各位

お世話になります。
早瀬です。
豊橋技術科学大学の説明会の日程が決まりましたので、
御連絡いたします。

時間：4月17日（月） 16：10～17：10
場所：専攻科AV室

進学希望者、興味のある学生への出席依頼をお願いいたします。
本科の希望者と合同で実施する予定です。
前後30分程度、教員との面談も希望されていますので、
もしご希望があれば参加してみてください。
私は、参加する予定です。
以上、よろしく願い致します。

新居浜工業高等専門学校
生物応用化学科
早瀬伸樹

TEL：0897-37-7837
FAX：0897-37-7777

E-mail：hayase@chem.niihama-nct.ac.jp

専攻主任各位
CC 稲見先生

早稲田大学 大学院 情報生産システム研究科の紹介を
以下の日程で行います。
大学院進学希望の学生への御連絡をよろしく願い致します。

記

- 1 日 時 5月1日（月）15時00分～16時00分
2 場 所 専攻科AV室

新居浜工業高等専門学校
生物応用化学科
早瀬伸樹

TEL : 0897-37-7837
FAX : 0897-37-7777

E-mail : hayase@chem.niihama-nct.ac.jp

専攻主任各位

お世話になります。
早瀬です。

東北大学大学院工学研究科の募集要項（推薦入学）
名古屋工業大学大学院工学研究科募集要項（推薦入学）
を、専攻科学生室に置いておきます。

御連絡まで。

新居浜工業高等専門学校
生物応用化学科
早瀬伸樹

TEL : 0897-37-7837
FAX : 0897-37-7777

E-mail : hayase@chem.niihama-nct.ac.jp

(出典 専攻科長よりのメール)

資料 7 - 2 - ④ - 9

4M 課外特別活動 面接指導

4M 学生 43 名が 5 班（各班 8 or 9 名）に分かれて、下記の面接員のもとで個人面接（約 10 分）を受ける。

日 時：平成 18 年 3 月 2 日（金）3 時限目（13：00 より開始）

面接員： A（○鎌田・谷脇），B（谷口・○北住），C（刑部・○松田），
D（○下村・石井），E（豊田・吉川・宮田）

面接会場： 上記○印の教員室を面接会場とする。（E の会場は、機械科資料室）

評価方法： 以下の 5 項目を 5 段階で評価する。（後日、5 角形のグラフを作成し評価する）

- ① 自信 （目で表現できる。）
- ② 若さ （きびきびした態度，元気のある回答，話題の豊富さ）
- ③ 素直さ（言葉遣い）
- ④ 意欲 （回答の内容，表現力）
- ⑤ 真剣 （質問に対するうなずき，態度）

参考（面接パワーアップ塾，実務教育出版より，アピールしたい 5 つのポイント）

質問内容：（以下の 1. 2. の質問は事前に学生に伝えてあります。）

1. 卒業後の進路を具体的に教えてください
（進路先，職種，企業・大学名，理由）
2. 卒業研究発表会を聴いて，卒業研究ではどんなことがやりたいですか
（何に関心を持ったか？）
3. その他…（下記参照）

自己 P R

- あなたの長所と短所を教えてください

- 高専で打ち込んだことを教えてください。
- あなたの特徴を教えてください
- 自分が誇れるものは何ですか
- 挫折したことはありますか
- 嫌いな人の性格を教えてください

就職観, 人生観

- 社会に出るには何が必要だと思いますか
- 学生と社会人の違いはどんな所にあると思いますか
- 高専の4年生と5年生の違いはどんな所にあると思いますか
- 人生で何を成し遂げたいですか
- どんな社会人になりたいですか

番外編

- 今日の面接は何点ですか
- 先生と友達と自分の意見が3つに割れたらどうしますか?
- 高専が今後生き残っていくためには何が必要だと思いますか?
あなたならどんなことを企画しますか?, 高専に提案はありますか?
- 10年後のあなたは何をしていますか?
- なぜ, 進学(就職)しないのですか?

模擬面接試験の進め方

機械工学科 番 氏名

1. 概要

4M 学生 43 名が 5 班(各班 8 or 9 名)に分かれて, 下記の面接員のもとで個人面接(約 10 分)を受ける。

2. 日 時

平成 18 年 3 月 2 日(金)3 時限目(13:00 より開始)

3. 面接員と会場

A(○鎌田・谷脇), B(谷口・○北住), C(刑部・○松田),

D(○下村・石井), E(豊田・吉川・宮田)

上記○印の教員室を面接会場とする。(E の会場は, 機械科資料室)

4. 主な質問

Q1 卒業後の進路を具体的に教えてください

(進路先, 職種, 企業・大学名, 理由)

Q2 卒業研究発表会を聴いて, 卒業研究ではどんなことがやりたいですか

(何に関心を持ったか?)

5. 面接時の基本的なマナー

①面接会場がある建物に入った時から、面接は始まっている。

②試験会場のドアを軽くノックして、「失礼します」と声を掛けてから中へ。

③静かにドアを閉め、面接担当者のほうへ体を向けて一礼。

④椅子の横で学校名、名前を名乗り、「よろしく申し上げます」で一礼。「どうぞ」と言われて座る。

⑤「失礼します」と断って、背筋を伸ばし、やや深めに腰掛ける。手は軽く握ってひざの上に乗せておく。

⑥面接官の胸からアゴのあたりに視線をおき、ときどき相手の目を見ながら話す。
(じっと見つめたり、下を向くのはよくない。)

⑦面接が終わったら、軽く頭を下げて「ありがとうございました」と付け加える。

⑧部屋を出るときも、「失礼します」と一言。ドアはかならず静かに閉める。

6. 面接後に、以下の項目を整理しておき、本番に備えること。また5段階で自己評価すること。

- 面接の質問と回答

- 良かった点
- 反省点

評価項目	評価点
① 自信（目で表現できる。）	
② 若さ（きびきび, 元気, 話題）	
③ 素直さ(言葉遣い)	
④ 意欲（回答の内容, 表現力）	
⑤ 真剣（質問に対するうなずき, 態度）	

(出典 機械工学科4年担任保存資料)

資料7-2-④-10

準学士課程卒業生の進路

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他 (自営業・専門学校など)	進路決定者割合	求人数
16年度	160	98	53	8	0.99	1175
17年度	175	107	63	5	1.00	1491
18年度	149	97	57	4	1.00	1972

専攻科課程修了生の進路

	修了者数	就職者数	進学者数	その他 (自営業・専門学校など)	進路決定者割合
16年度	24	20	4	0	1.00
17年度	27	21	6	0	1.00
18年度	30	28	2	0	1.00

(出典 学生就学支援係資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生の進路指導に関しては教務委員会、学生委員会が企画し、学級担任および専攻主任が中心となって、各学科と連携しながら実施する体制をとっている。低学年から継続的に進路や技術者としての職業に対する意識を涵養する機会を準備し、高学年では就職や進学についての具体的情報を提供するだけでなく、インターンシップなどの体験的に学ぶシステムを用意している。以上より、就職や進学などの進路指導を行う体制は整備され、機能していると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

電算機演習室は4室あり、LANで接続してどの部屋からでもデータ共有できるようになっている。また、語学などのソフトが充実し、ICカードキーによる入室管理ができるようになったことなどから、学生の時間外利用者が大幅に増えている。

学生のものづくり活動の場として整備されたアイデア通り工房は、各種コンテストやアイデア通

りプロジェクトなど、さまざまな製作活動に効果的に活用されている。

長期休業中には「英語実力養成講座」、「数検合格対策講座」、「機械設計技術者試験3級受験対策講座」および「電気情報工学科夏休み実力養成研修」の学習支援プログラムを実施している。

障害を持つ学生については、障害の状態に応じて学習環境および生活環境への支援を適切に行っている。

クラブ活動については、全教員による安全指導体制をとっており、活動状況の把握と指導および緊急時の対応ができるように整備している。

社会や地域へ貢献するための学生の自主的・主体的な活動をチャレンジプロジェクトに認定し、資金援助を行う制度を整備している。

学寮に関しては、寮生会役員会と指導寮生会という組織がしっかりと機能している。特に、指導寮生会は低学年の学習・生活面において十分に機能を果たしている。

4年生及び専攻科1年生対象に学内で企業説明会を開催し、学生が参加企業の会社説明を直接受けられるように配慮している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは、前期始業時の学級担任などによる全体的な指導と日常的な個々の学生への指導の体制を整備し、実施している。学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制としてオフィスアワーを設けている。

自主的学習環境としては、電算機演習室、図書館、専攻科学生室、アイデア通り工房などを整備し、効果的に活用されている。特に、4つの電算機演習室はLANで接続され、どの部屋からでもデータ共有できるようになったこと、語学などのソフトが充実したこと、ICカードキーによる入室管理ができるようになったことなどから、学生の利用者が大幅に増えている。厚生施設、コミュニケーションスペースとしては、尚友会館、図書館棟1階ロビーなどを整備している。

学習支援に関する学生のニーズは、勉学に関するアンケートや学科ごとに学生と教員の懇談会などにより把握している。

資格試験などに対する支援としては、長期休業中に「英語実力養成講座」や「数検合格対策講座」などを実施している。また、資格試験などに合格した場合に単位認定する制度も設けている。

高等学校からの編入学生に対しては、入学前の事前学習および入学後の補習などの学習支援を適宜行っている。障害のある学生に対する学習支援は、その都度個別に対応している。外国人留学生に対しては、留学生指導教員の配置や特別な時間割編成などの学習支援体制が整っており、有効に機能している。

課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって実施している。クラブ活動については、全教員による複数顧問体制とクラブ活動安全指導体制によって円滑に実施されている。社会や地域へ貢献しようとする学生の自主的な活動に対しては、チャレンジプロジェクトとして資金援助を行っている。また、ロボコンなどの学外コンテストの学内アイデア予選を導入し、活発化を図っている。

学生の生活全般にわたる指導・相談・助言については、準学士課程では主に学級担任と副担任、

専攻科課程では専攻主任が担当している。内容によっては、学生委員会、学生相談室、看護師などが支援を行う体制となっている。また、入学料・授業料免除や奨学金などの経済的な支援策も十分に機能している。

外国人留学生に対しては、留学生指導教員や学生の留学生相談員を配置して、適切に生活支援を行っている。障害のある学生に対しては、学内のバリアフリー化だけでなく、本人や保護者との連絡を密にして生活支援を行っている。

学寮に関しては、ソフト面では寮生側の指導部と関係教職員との連携がうまく機能していて、スムーズな寮運営がなされている。

進路指導については、学級担任と専攻主任が教務委員会、学生委員会、専攻科教育委員会と連携して行っている。準学士課程4年生と専攻科1年生を対象に、学校に企業の人事担当者などを集めて企業説明会を開催している。就職と進学割合は、就職が約60%、進学が約40%となっており、ほぼ100%の学生が就職または進学ができています。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

校地および校舎については、高等専門学校設置基準に基づき算定された基準面積が確保されている（資料 8-1-①-1）。各学科等の収容施設についても整備している（資料 8-1-①-2）。

教育研究関係設備は、各学科（科）および高度技術教育研究センター、情報教育センター、図書館が所管している（資料 8-1-①-3）。

各学科棟、一般教室棟等は、カリキュラム・シラバスに則り、教員及び学生の教育研究活動に有効に利用されている。運動施設は、運動場や2つの体育館、プール、テニスコート、武道場などを整備し、体育の授業や課外活動などで利用されている。

さらに、各教室にスクリーンを設置し、各棟に全教職員が共通で使用できる視聴覚機器ユニット（プロジェクター、DVD-VHSデッキ、スピーカーなど）を配置することで、視聴覚教材を活用した授業が行える環境を整備している（資料 8-1-①-4、資料 8-1-①-5）。

高度技術教育研究センター施設としては、本館と別館（インキュベーションラボラトリ）があり、大型実験設備を配置し、卒業研究や特別研究のために利用されている（資料 8-1-①-6、資料 8-1-①-7）。

情報教育センター施設としては、4つの電算機演習室があり、各学科（科）の情報教育の推進やIT技術を利用した教育法の開発に活用されている（資料 8-1-①-8、資料 8-1-①-9）。

ものづくり教育支援センター施設としては、実習工場とアイデア通り工房があり、実験・実習およびものづくり課外活動に利用されている（資料 8-1-①-10、訪問調査資料 平成18年度ものづくり教育支援センター活動報告書）。

図書館は、開架書架、書庫、閲覧室などがある。閲覧室には4人用と1人用の閲覧机があり、合わせて86の座席がある。また、インターネットコーナーやAV視聴コーナーなども備えている（資料 8-1-①-11、資料 8-1-①-12）。図書館の入館者数と貸出冊数は、平成17年度には少し低下したが、平成11年度以降、徐々に増加している（資料 8-1-①-13）。

平成11年度より順次バリアフリー化を行い、ほとんどすべての学内施設へ車椅子で移動できるようになっている（資料 8-1-①-14）。

資料 8-1-①-1

敷地、建物別保有面積

	延床面積
機械工学科棟	3,321㎡
管理・電気情報工学科棟	3,407㎡
電子制御工学科棟	2,286㎡

生物応用化学科棟	2,644m ²
材料工学科棟	2,316m ²
一般教室棟	1,793m ²

(出典 学校案内2006)

資料 8-1-①-2

収容施設についての整備状況

- (イ) 機械工学科棟 延面積 3,321m² 建築年 昭和41年
 大規模改修 平成6年、12年 R3階
 教室等 24 機械工学科 実験・実習室(演習室含む)13 準備室1
 数理科 実験・実習室2 化学・物理準備室3
 特別教室1(階段教室) 普通教室4
 教員研究室 16 機械工学科教員研究室10 学科事務室1
 数理科教員研究室5
 教育研究支援室 12 J A B E E関係資料室1 後援会事務室1 教職員連絡コーナー2
 女子更衣室1 男子トイレ4 女子トイレ1 多機能トイレ1
 情報教育センター1(第2演習室)
- (ロ) 管理・電気情報工学科棟 延面積 3,407m² 建築年 昭和40, 41年
 大規模改修 平成5年、6年 R3階
 教室等 14 電気情報工学科 実験・実習13 LL教室1
 教員研究室等 22 電気情報工学科 教員研究室10 共同教員室1
 一般教養科 教員・研究室10 一般科目ゼミナール室1
 事務室 12 校長室1 部長室1 事務控室等4 総務課4 事務電算室1
 職員控室1 準備室1
 教育研究支援室 16 会議室1 男子更衣室1 女子更衣室1 シャワー室2 男子トイレ
 女子トイレ2 印刷室1 物品庫1 倉庫2
 情報教育センター1(第3演習室)
- (ハ) 一般教室棟 延面積 1,793m² 建築年 昭和38, 39年
 大規模改修 平成6年、12年 R3階
 教室等 9 普通教室8 留学生交流室1
 一般教養科教員研究室等 2 教員研究室2
 数理科教員研究室等 5 教員研究室4 数理科事務室1
 教育研究支援室 7 会議室2 男子トイレ2 女子トイレ1 多機能トイレ1 更衣室1
- (ニ) 電子制御工学科棟 延面積 2,286m² 建築年 平成2年 R5階
 教室等 19 実験・実習室10 準備室1 機材室1 ゼミナール室2 普通教室5
 電子制御工学科教員研究室等 12 教員研究室10 事務室1 技術員室1
 教育研究支援室 12 男子トイレ5 女子トイレ3 多機能トイレ1 女子更衣室1
 情報教育センター1(CAD実習室・第4演習室) ラウンジ1
- (ホ) 生物応用化学科棟 延面積 2,644m² 建築年 平成12年 R5階
 教室等 24 実験・実習室9 卒業研究室6 実験準備室1 普通教室3
 高度技術教育研究センター・実験室5
 教員・研究室等 13 教員・研究室11 資料ゼミナール室1 管理室1
 教育研究支援室 18 リフレッシュラウンジ3

	高度技術教育研究センター・ラウンジ 1
	男子トイレ 5 女子トイレ 5 多機能トイレ 1 男子更衣室 1
	女子更衣室 1 倉庫 1
(へ) 材料工学科棟	延面積 2,316㎡ 建築年 昭和42年
	大規模改修 平成 6年, 11年, 12年 R3階
教室等 22	実験・実習室16 材料準備室 1 普通教室 4 アイデア通り工房 1
材料工学科教員・研究室等 12	教員・研究室10 事務室 1 器材室(事務室) 1
一般教養科教員・研究室等 3	教員・研究室 3
教育研究支援室 9	多目的室 1 学生会室 1 男子更衣室 1 女子更衣室 1
	男子トイレ 3 女子トイレ 1 キャリア教育プラザ 1
(ト) 専攻科棟	延面積 1,223㎡ 建築年 平成 6年 R4階
教室等 14	実験・実習室 9 ゼミナール室 2 講義室 2
	情報教育センター・AV室 1
教員研究室等 9	教員研究室 8 事務室 1
教育研究支援室 7	男子トイレ 1 女子トイレ 1 多機能トイレ 1 女子更衣室 1
	専攻科学生室 1 手洗いコーナー 1 倉庫 1
(チ) 合併教室棟	延面積 660㎡ 建築年 昭和55年 R3階
教室等 6	多目的教室 4 (コース別教室 1, 専攻科系教室 1, 美術系教室 1, 製図系教室 1) 普通教室 1 生物応用化学科機材室 1
事務室 1	総務課技術室兼リエゾンルーム 1
③ 附属施設	
(イ) 機械実習工場	延面積 648㎡ 建築年 昭和41年 S1階
	大規模改修 昭和61年
教室等 8	実験実習室 4 実習控室 2、器材室 1 アイデア通り工房 1
(ロ) 材料実習工場	延面積 397㎡ 建築年 昭和53年 S1階
	実験実習室 6
(ハ) 高度技術教育研究センター別館	
	延面積 325㎡ 建築年 昭和54年 R1階
	大規模改修 平成16年
研究室等 4	実験エリア 3 実験室 1
教育研究支援室 1	コミュニケーションスペース 1
(ニ) 情報教育センター	延面積 307㎡ 建築年 昭和47年 R1階
教室等 2	演習室 1 ネットワーク基幹室 1
教員研究室等 4	教員研究室 3 資料室 1
教育研究支援室 1	共用スペース 1
(ホ) 体育施設	
(い) 屋内体育施設	
○ 第1体育館	延面積 990㎡ 建築年 昭和40年 S1階
	大規模改修 昭和61年、平成 19年
教室等 1	体育室 1
教育支援室 6	トレーニング室 1 器具室 1 控室 1 シャワー室 1
	男子トイレ 1 女子トイレ 1
○ 第2体育館	延面積 879㎡ 建築年 昭和55年 S1階
	大規模改修 平成19年
教室等 1	体育室 1
教育支援室 4	器具庫 1 控室 1、シャワー室 1 男子トイレ 1

○ 武道場	延面積 325㎡	建築年 昭和41年	S1階
教室等 2	剣道場 1	柔道場 1	
教員室等 1	教員室 1		
教育支援室 3	更衣室 1	シャワー室 1	男子トイレ 1
○ 弓道場	延面積 105㎡	建築年 昭和48年	B1階
射場 1	射場 1		
その他 5	師範席 1	道具入 1	的場 1 鑑的場 1 矢取場 1
(ろ) 屋外体育施設			
○ 運動場 1	面積 27,628㎡		
○ 屋外運動場 附属施設	延面積 85㎡	建築年 昭和40,46年	R1、B1階
	器具室 5	第1体育館併設	
(へ) 図書館棟	延面積 1,650㎡	建築年 昭和45年	R2階
	大規模改修年	平成4年	
教室等 6	閲覧室等 4	情報教育センター・視聴覚教室 2	
事務室 8	学生課 8		
教育研究支援室 7	談話室 1	男子トイレ 1	女子トイレ 1 多機能トイレ 1

(出典 平成18年度施設実態報告建物平面図)

資料 8-1-①-3

設備の整備状況

機械工学科	所属設備	550個	内重要物品	96個
電気情報工学科	所属設備	478個	内重要物品	41個
電子制御工学科	所属設備	433個	内重要物品	31個
生物応用化学科	所属設備	563個	内重要物品	88個
材料工学科	所属設備	492個	内重要物品	89個
数理科	所属設備	185個	内重要物品	19個
一般教養科所属設備	所属設備	136個	内重要物品	8個
高度技術教育研究センター	所属設備	89個	内重要物品	34個
情報教育センター	所属設備	35個	内重要物品	6個
専攻科	所属設備	2個	内重要物品	1個
図書館	蔵書	77,063冊		

(和漢書 63,710冊, 洋書 13,353冊, 雑誌 896冊,
和雑誌 534冊, 洋雑誌 362冊)
DVDソフト (ビデオ含む) 571個

(出典 平成18年度資産一覧表, 重要物品一覧表)

特殊教室の設備、収容人数

収容人数()は最大収容可能人数(机なし)

棟	教室名	収容人数	設備
専攻科棟	講義室1	29	黒板、OHP、スクリーン
	講義室2	29	黒板、テレビデオ、スクリーン
	ゼミナール室	11	黒板、テレビデオ、OHP
	AV室	42	SCSによる遠隔授業設備一式 ・プロジェクター(センタースクリーン) ・プラズマディスプレイ(サイドモニター) ・ デスクトップパソコン ・ DVD・VHS再生機 ・ HDD・DVDレコーダー ・ 書画カメラ、 (上記設備はSCS設備の一部であるが、多目的にも利用可) 移動式ホワイトボード※黒板は使用禁止
合併教室棟	多目的室	29(35)	黒板、スクリーン
	コース別室	25(32)	黒板、スクリーン、テレビデオ
	製図室(環境材料)	52	黒板
	美術室	67(70)	黒板、VHS、DVD
管理棟	LL教室	46	黒板、VHS、テープ、プロジェクター
図書館棟	視聴覚教室	204	黒板、VHS、DVD、マイク、書画投影機、パソコン、スクリーン
機械棟	製図室	48	製図台、黒板
	階段教室	159	黒板、VHS、マイク、スクリーン
	物理教室	45	黒板
尚友会館	ミーティングルーム	65	黒板

コンピュータ室(4室)

共通ソフト、共通設備:ソフト(オフィス、メーラー(Almail)、キーボード練習用ソフト、ALC NetAcademy、Acrobat reader、WebClassによるE-learning)、プロジェクタ、ホワイトボード

電子計算機室	第1演習室	48	共通ソフトを利用した基本的な情報教育 要望があれば設置可能(Labview、Matlab)*1 Alc Netacademyによる語学教育
機 械 棟	第2演習室	24×2部屋	少人数教育(40人の一斉授業には不適) Alc Netacademyによる語学教育
			共通ソフトを利用した基本的な情報教育 要望があれば設置可能(Labview、Matlab)*1
電 子 棟	CAD実習室	48	情報処理教育(C、C++、C#、Visual Basic etc) Labview、Matlab、3DCADを利用した専門教育
電 気 棟	情報処理室	48	情報処理教育(C、C++、C#、Visual Basic etc) Labview、Matlab、3DCADを利用した専門教育

*1:CAD実習室、情報処理室と比較した場合、動作が遅くなる可能性がある。

教務係管理共有設備			
機械棟階段教室前 3F	プロジェクター、DVDデッキ		
材料科事務室3F	プロジェクター、DVDデッキ		
化学科事務室5F	プロジェクター、DVDデッキ		
一般教室棟3F	プロジェクター、DVDデッキ		
電子制御事務室4F	プロジェクター		

(出典 教務係資料)

資料 8-1-①-5

【映像システム 会議室等予約表】

今月 カレンダー 前の月 2007 年 2 月 次の月 ヘルプ

部局別 【 会議室 乗用車 視聴覚教室 専攻科 AV 教室 映像システム 体育施設
電子計算機室等 草刈機 図書館 】

利用目的 【 授業 会議 その他 】

日	曜日	数理科管理	機械工学科管理	材料工学科管理	生物応用化学科 管理	電子制御工学科 (プロジェクトのみ)
1	木			<u>10:30~12:00</u> 松英達也 <u>12:45~16:00</u> 谷耕治	<u>13:00~17:00</u> 牧慎也	<u>14:25~15:55</u> 白井みゆき
2	金			<u>13:30~17:00</u> 新田敦己	<u>10:30~12:00</u> 牧慎也	
3	土					
4	日					
5	月		<u>12:24~14:15</u> 下村信雄	<u>8:50~10:20</u> 谷耕治	<u>10:30~12:00</u> 牧慎也	
6	火	<u>8:50~10:20</u> 牧慎也	<u>8:30~10:20</u> 下村信雄	<u>8:50~10:20</u> 衣笠巧		
7	水		<u>10:00~13:30</u> 鎌田慶宣	<u>12:30~14:30</u> 高橋知司	<u>8:30~10:30</u> 桑田茂樹	
8	木		<u>14:00~19:00</u> 松田雄二	<u>10:30~12:00</u> 松英達也 <u>12:45~16:00</u> 谷耕治		
9	金				<u>10:30~12:00</u> 牧慎也 <u>14:25~15:15</u> 河村秀男	
10	土					
11	日 [建国記念日]					<u>9:00~17:00</u> 白井みゆき
12	月		<u>12:24~14:15</u> 下村信雄		<u>10:30~12:00</u> 牧慎也	<u>9:00~17:00</u> 白井みゆき
13	火	<u>8:50~10:20</u> 牧慎也	<u>8:30~10:20</u> 下村信雄	<u>8:30~10:30</u> 鎌田慶宣		
14	水		<u>8:00~12:30</u> 鎌田慶宣 <u>12:45~14:15</u> 下村信雄	<u>8:50~10:20</u> 谷耕治		
15	木		<u>14:15~16:30</u> 鎌田慶宣	<u>12:45~16:00</u> 谷耕治		
16	金		<u>12:00~16:00</u> 豊田幸裕		<u>10:30~12:00</u> 牧慎也	<u>12:45~17:00</u> 西井靖博

17	土					
18	日					
19	月		12:24~14:15 下村信雄	8:50~10:20 谷耕治	10:30~12:00 牧慎也	
20	火	8:50~10:20 牧慎也	8:30~10:20 下村信雄	8:00~11:00 鎌田慶宣	8:50~10:20 衣笠巧 12:45~15:30 堤主計	
21	水					
22	木					
23	金				10:30~12:00 牧慎也	
24	土					
25	日					
26	月		12:24~14:15 下村信雄		10:30~12:00 牧慎也	
27	火	8:50~10:20 牧慎也	8:30~10:20 下村信雄			
28	水					
日	曜日	数理科管理	機械工学科管理	材料工学科管理	生物応用化学科 管理	電子制御工学科 (プロジェクト のみ)

[今月](#) [カレンダー](#) [前の月](#) [次の月](#) [ヘルプ](#)
 (出典 本校ホームページ)

主な高度技術教育研究センター機器の紹介

主な高度技術教育研究センター機器の紹介をします。

- 移動体用情報通信シミュレーション装置
- 全有機炭素測定装置 (TOC)
- 超伝導磁石核磁気共鳴装置 (NMR)
- 電子線マイクロアナライザ (EPMA)
- 走査型電子顕微鏡 (SEM)
- エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置
- 熱分析器 (示差熱天秤, 示差走査熱量計)
- 紫外可視分光光度計
- フーリエ赤外分光装置
- ワイヤークット放電加工機 (W-EDM)
- 深絞り試験機
- 放射線測定器

(出典 本校ホームページ)

資料 8-1-①-7

平成 18 年度 高技センター関連 実験室、リエゾンルーム等の利用状況

○共同研究（１），受託研究（２）での利用

	研究テーマ等	利用 期間	利用室名
1	有機性廃棄物発酵メカニズムの解明	H18.4 ～ H19.3	第1東実験室 第5実験室
1	商品価値の低くなった果物の食品商品開発	H18.4 ～ H19.3	第1東実験室 第5実験室
1	La 固溶型 Y ₂ O ₃ 安定化ジルコニアの作製とその特性	H18.4 ～ H19.3	第2, 第3, 第5実験室 マテリアル 実験エリア
1	アスベストの迅速な分析技術の検討	H18.4 ～ H19.3	第2, 第3, 第5実験室 マテリアル 実験エリア
1	福祉機器改善等にかかる開発および情報データベース化	H18.4 ～ H19.3	第4 実験室
1	新規徐放材料の開発とその徐放性に関する研究	H18.4 ～ H19.3	第5 実験室 NMR室
2	環境適応型徐放材料の開発	H18.5 ～ H19.3	第5 実験室 NMR室
2	カビ・クリーニングシートの開発	H18.5 ～ H19.3	第1東、第5実験室 NMR室
2	高機能リサイクル材料を用いた瀬戸内海の藻場再生技術	H18.5 ～ H19.3	第1東実験室
2	インテリジェントセンシング材料の開発に関する研究	H18.5 ～ H19.3	第1東、第3、第5実験室、NMR室
2	I T S 対応近距離車載レーダ用高効率反射器の開発	H18.9 ～ H19.2	第2 西実験室
2	I T S 用車載センサに関する研究	H18.11～ H19.3	第1 西実験室

○共同研究、受託研究以外での利用

<授業関連>

- ・ 1 S C / 先端機器測定実習
本館・第5 実験室、本館・第3 実験室、別館・NMR 室
- ・ 3 C / 生物応用化学実験 2（有機化学実験）
本館・第5 実験室
- ・ 1 S E / システムデザイン工学演習
本館・第1 実験室
- ・ 4 E / 電気情報工学実験 2
本館・第1 実験室
- ・ 卒業研究、特別研究
本館・第1～5 実験室（M、E、D、C、Z）
別館・全体（M、C、Z）

<その他>

- ・ 愛テクフォーラム
リエゾンルーム
- ・ 介護工学研究会

- 本館・第4実験室
- ・高技センター関連の各種打ち合わせ
本館・ラウンジ室
本館・第4実験室
リエゾンルーム
- ・都市エリア事業 コーディネーター
リエゾンルーム
- ・現代GP関連打ち合わせ
リエゾンルーム
- ・技術室
リエゾンルーム

(出典 高度技術教育センター資料)

資料 8 - 1 - ① - 8

演習室の設備

●ハードウェア

- ・電子計算機室第一演習室

サーバ(Windows 2003)	1台
ファイルサーバ(Windows 2003)	1台
パソコン(Windows XP)	49台
モノクロレーザプリンタ	3台
- ・電子計算機室第二演習室

サーバ(Windows 2003)	1台
パソコン(Windows XP)	50台
モノクロレーザプリンタ	2台
- ・電気情報工学科情報処理室 (第三演習室)

サーバ(Windows 2003)	1台
パソコン(Windows XP)	49台
カラーレーザプリンタ	1台
モノクロレーザプリンタ	2台
- ・電子制御工学科 CAD 実習室 (第四演習室)

サーバ(Windows 2003)	1台
パソコン(Windows XP)	47台
カラーレーザプリンタ	1台
モノクロレーザプリンタ	2台

●ソフトウェア

- Microsoft Office (2003)
- Microsoft Visual Studio
- Borland C++
- Matlab
- LabVIEW
- Pro/Engineer
- Ansys
- Mathmatica
- Microwave Office
- ALC NetAcademy
- Web Class
- etc

(出典 本校ホームページより編集)

資料 8 - 1 - ① - 9

授業における電算室の利用状況

	前期	前期	前期	前期
	第 1 電算室	第 2 電算室	電気情報処理室	電子 CAD 室
月	1 2S(M) 数値計算法及び演習 1	1 S(M) 伝熱工学特論	4M 創造設計製作	4D 数値計算(D)
月	2 4C(応化) プレゼンテーション技法	3E 技術英語 1	4M 創造設計製作	5D 制御工学 2
月	3 1-4 (C) 情報リテラシー(C)	3M 技術英語 1	1 SE 数値解析学及び演習	1-3 (D) 電気基礎演習&電子基礎実習
月	4			1-3 (D) 電気基礎演習&電子基礎実習/
火	1 2C コンピュータサイエンス 2	2S(M) 科学英語表現	1-2 (E) 情報リテラシー(E)	
火	2 4M 応用数学 A	3Z 技術英語 1	2S(M) デザインテクノロジー	5D 電子制御実験 2
火	3		3E 電気情報工学実験 1	5D 電子制御実験 2
火	4	3D 技術英語 1	3E 電気情報工学実験 1/	5D 電子制御実験 2
水	1 3M 情報処理	5M 工学実験 2	2E プログラミング 1	2D 情報処理 2
水	2 5E 時事英語 (第 1)	5M 工学実験 2/卒業研究 (M)	2E 回路理論演習&電気情報実習 B	4D 電子制御実験 1 & 電子創作実習
水	3	5C(応化) 時事英語 (第 2)	3E プログラミング 2	4D 電子制御実験 1 & 電子創作実習
水	4 1-5 (Z) 情報リテラシー(Z)	3C 技術英語 1	4E(電気) 電気情報工学実験 2	4D 電子制御実験 1 & 電子創作実習
木	1 1-3 (D) 情報リテラシー(D)	1-1 (M) 情報リテラシー(M)	4E(電気) コンピュータハードウェア&画像処理	3D 情報処理 3
木	2 2S(M) 数値計算法及び演習 2	5D 時事英語 (第 2)		4D 電気数学
木	3 1 S(M) 計測制御実習	5D 実用英語	4E(電気) 電気情報工学実験 2	1-1 (M) 美術
木	4 1 S(M) 計測制御実習/		4E(電気) 電気情報工学実験 2/	1-2 (E) 音楽&美術
金	1 5Z 時事英語 (第 1)		3M CAD製図	4D 制御工学 1
金	2	1 S(M) 英語演習書講読	3M CAD製図	4Z 総合実習 (Z)
金	3 2Z 情報処理 1	4M 工学実験 1		4Z 総合実習 (Z)
金	4 5M 時事英語 (第 1)	4M 工学実験 1/		4Z 総合実習 (Z)

	後期 第1電算室	後期 第2電算室	後期 電気情報処理室	後期 電子CAD室
月	1 2S(M) 数値計算法及び演習1		4M 創造設計製作	4D 数値計算(D)
月	2 5M 時事英語(第1)	5E 情報通信システム&ロボット工学&半導体工学&通信機器	4M 創造設計製作	2D 情報処理2
月	3 3Z 電算機応用	3M 技術英語1	2S(M) 制御工学	1-3 (D) 電気基礎演習&電子基礎実習
月	4	3C 技術英語1		1-3 (D) 電気基礎演習&電子基礎実習/
火	1 2C コンピュータサイエンス2	2S(M) 科学英語表現	1-2 (E) 情報処理基礎	
火	2 4M 応用数学A	3Z 技術英語1	4E(電気) 電気情報工学実験2	5D 電子制御実験2
火	3 5E 時事英語(第1)		3E 電気情報工学実験1	5D 電子制御実験2
火	4		3E 電気情報工学実験1/	5D 電子制御実験2
水	1 5D 時事英語(第1)	1S(M) プログラミング演習	2E プログラミング1	
水	2 3M 情報処理	3E 技術英語1	2E 回路理論演習&電気情報実習B	4D 電子制御実験1 & 電子創作実習
水	3 4M 数値計算(M)	5C(応化) 時事英語(第2)	3E プログラミング2	4D 電子制御実験1 & 電子創作実習
水	4			4D 電子制御実験1 & 電子創作実習
木	1		1SE 数値解析学及び演習	3D 情報処理3
木	2 2S(M) 数値計算法及び演習2	3D 技術英語1	3E 電気電子製図	1-5 (Z) 美術
木	3 2S(M) デジタル信号処理	5D 実用英語	4E(電気) 電気情報工学実験2	1S(M) 計測制御実習
木	4			1S(M) 計測制御実習/
金	1 5Z 時事英語(第1)	2SE 通信工学特論	3M CAD製図	4D 制御工学1
金	2 3M 情報処理	1S(M) 英語演習書講読	4E(電気) コンピュータハードウェア&画像処理	3D 情報基礎実習2
金	3 2Z 情報処理1	4M 工学実験1		
金	4	4M 工学実験1/		

(出典 平成18年度教務係資料)

資料 8-1-①-10

共同利用施設

◎機械実習工場内機械一覧表

番号	機械名	台数	仕様	利用状況
1	汎用旋盤	8	大隈-1、山崎-1、ダイワ-2 滝沢550D-1、800D-3、	13h/週
2	CNC旋盤	4	ベッド長1000mm	9h/週
3	立フライス盤	2	ベッド長1000mm、1100mm	5h/週
4	ベット型横フライス盤	1	ベッド長1300mm	5h/週
5	小型ラジアルボール盤	1	腕長900mm/m	6h/月
6	直立ボール盤	1	テーブル510φ 能力鋼40φ	6h/月
7	形削盤	1	ストローク650mm	5h/週
8	精密平面研削盤	1	ベッド長700mm	5h/週
9	スロッター	1		年5回
10	ホブ盤	1		6h/週
11	コンタマシン	1		
12	XYテーブル付き卓上ボール盤	1		年5回
13	卓上ボール盤	2		5h/週
14	高速切断機	1		
15	のこ盤	2		
16	両頭グラインダ	6	305mm	
17	ベルトグラインダ	1		
18	交流アーク溶接機	4	出力電流範囲 55～300A	6h/週
19	Tig溶接機	1	出力電流範囲 4～200A直流式	
20	プラズマ切断機	1	出力電流範囲 20～80A	
21	CO2溶接機	2	DC 60～350A 16～36V	年10回
22	MIG自動溶接機	1	アルミ用	
23	エアハンマ	1	1/20t 大谷式	年6回
24	鍛造用コークス炉	2		5h/週
25	移動式ガス溶接器	1		年5回
26	軽合金溶解炉	1	電気炉	5h/月
27	砂型造型機	1	ジョルトスクイーズ式	5h/月
28	シェルモールド造型機	1	ガスバーナー加熱式	年6回
29	可傾式坩堝炉	1	コークス炉	
30	サンドブレンザ	1		
31	高周波誘導溶解炉	1	3000Hz 50Kg	年5回
32	スポット溶接機	1		

◎材料実習工場内機械一覧表

番号	機械名	仕様	利用状況
1	シリコニット電気炉	200V 15kw 常用1500℃	
2	縦フライス盤	600mm	1日/週
3	小型圧延機	ローラー幅 120mm	1日/週
4	スエーピングマシン	10mm-2mm	
5	縦フライス盤	900mm	1日/週
6	ボール盤	最高3000rpm	1日/週
7	伸線機	巻き取り径350mm	
8	パイブレーションカッター	1000mm	2h/週
9	アーク溶接	150A	1日/週
10	Tig溶接機	AC-DC180A	1日/週
11	プラズマジェット	300V 120A	
12	真空電気焼鈍炉	210V 13kw	
13	圧縮試験機	最大荷重 100t	1日/週
14	シリコニット電気炉	200V 2.7kw 常用1400℃	年2ヶ月
15	コンプレッサー	2.2kw	1日/週
16	ガス溶解炉		1日/週
17	高周波誘導真空溶解炉	20kw 3kHz 溶解料5kg	
18	高周波誘導真空ホットプレス炉	20kw 3kHz プレス荷重10t	

(出典 本校ホームページ)

9 図書館

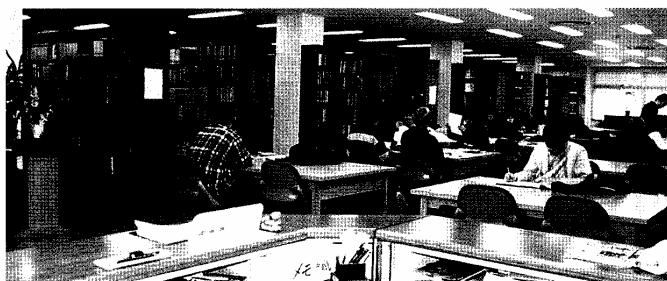
図書館は、工学、自然科学系を中心とした多数の図書、学術雑誌を所蔵して、学生の学習、研究に、教職員の教育、研究等に供している。さらに近年は、一般教養図書も充実させている。

また、広く一般の方々にも開放し、閲覧、貸出等のサービスを行っている。

学術雑誌については各分野の電子ジャーナル（ASP、AIP/APS、ACS、IEEE-ASPP、JDream、KANON、MathSci Net、SD）を充実させ、教員研究はもとより学生の教育研究にも活用している。

所蔵図書検索や新着図書案内は電子情報化されており、館内の検索用端末（OPAC）はもちろん、学外からも本校図書館ホームページを通して利用できる。

閲覧室には、インターネットコーナー（パソコン 5 台）及び AV 視聴コーナー（4 台のビデオ・CD・DVD 視聴装置）を設けている。インターネットコーナーでは世界中の情報検索が可能であり、AV 視聴コーナーでは、図書館所蔵の各種ソフトを視聴することができる。



閲覧室



OPACによる所蔵検索

開館時間（日曜日、国民の休日、年末年始、春・夏・冬季休業期間中の土曜日は閉館）

月曜日 ~ 金曜日	土曜日	春・夏・冬季休業期間中
9:00 ~ 20:00	10:00 ~ 16:00	9:00 ~ 17:00

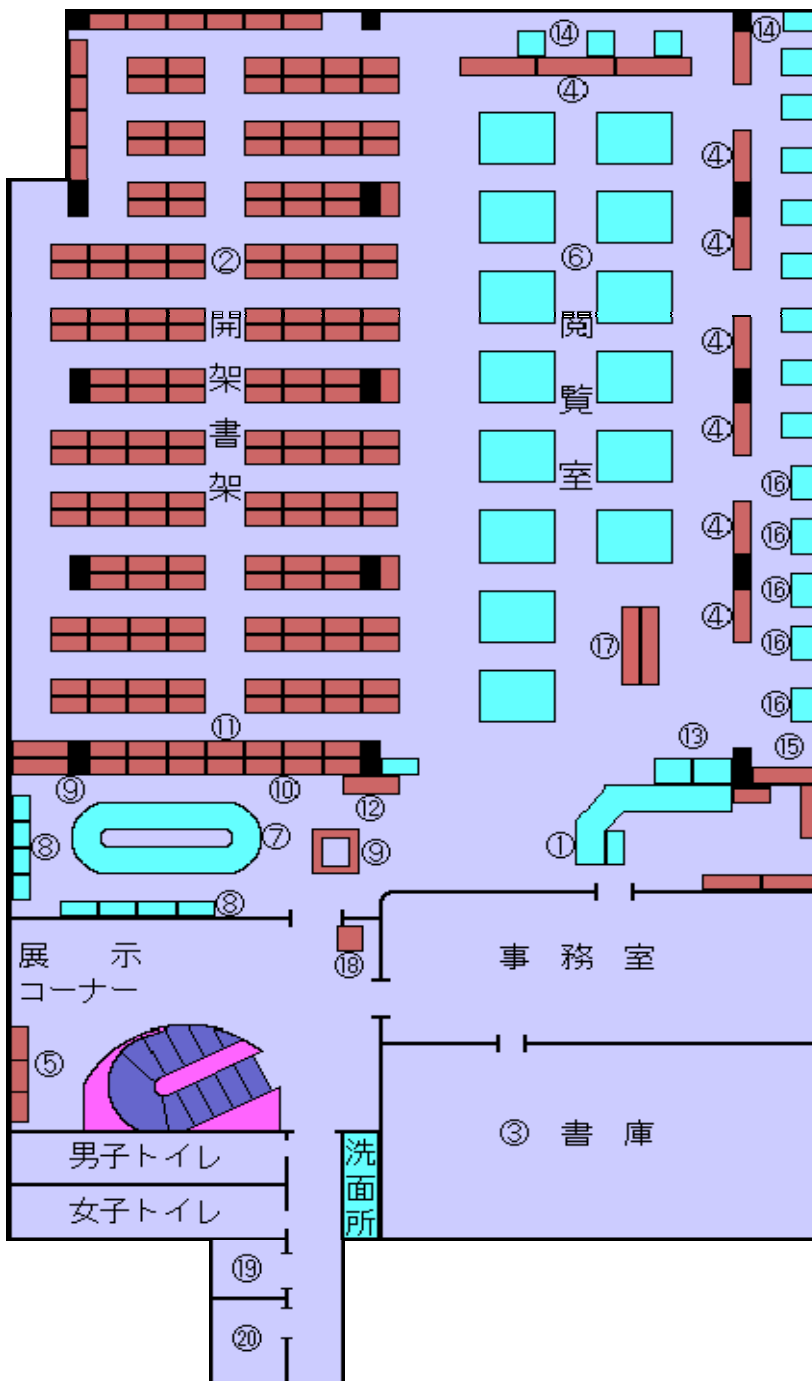
蔵書の状況

平成18年4月1日現在

区分	図書の冊数			雑誌の種類数		
	和漢書	洋書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
総記	4,145	350	4,495	475	362	837
哲学	3,249	521	3,770			
歴史	4,702	49	4,751			
社会科学	5,191	175	5,366			
自然科学	13,636	6,903	20,539			
工学	18,038	3,859	21,897			
産業	346	3	349			
芸術	1,944	130	2,074			
語学	3,639	933	4,572			
文学	8,288	414	8,702			
合計	63,178	13,337	76,515			

（出典 学校案内2006）

館内案内図

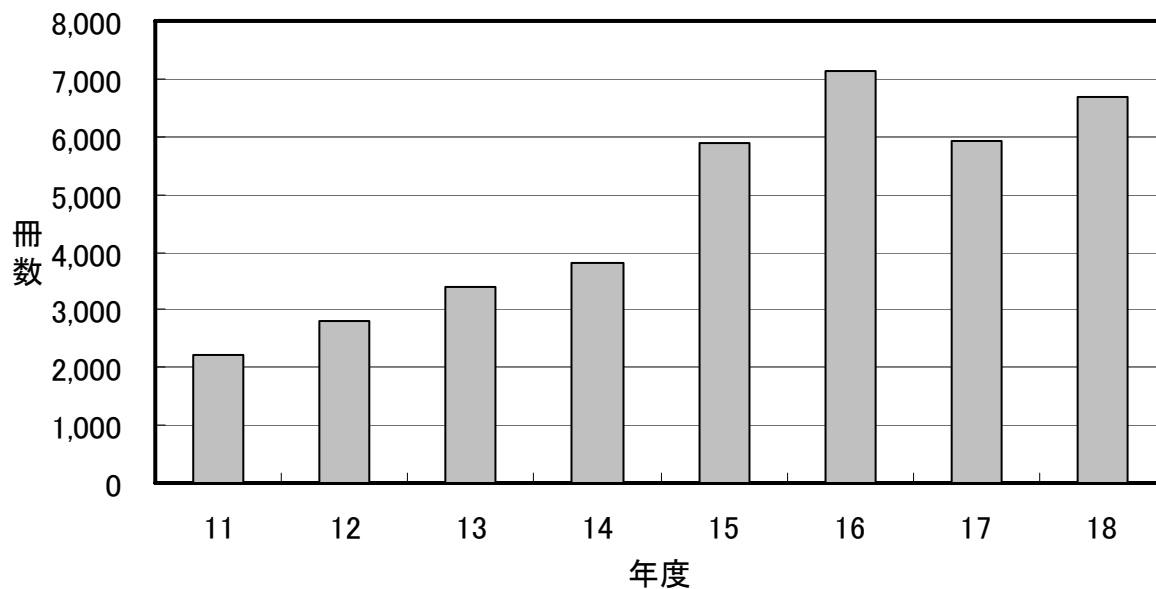


- 1.カウンター
- 2.開架書架
- 3.書庫
- 4.参考図書
- 5.ロッカー
- 6.閲覧室
- 7.新聞雑誌閲覧コーナー
- 8.新聞架
- 9.雑誌架
- 10.資格・就職関係図書
- 11.入門図書
- 12.新着図書
- 13.所蔵検索用端末
(OPAC)
- 14.ビデオ・DVDコーナー
- 15.ビデオ・DVD収納棚
- 16.インターネット用端末
- 17.推薦図書
- 18.時間外返却ポスト
- 19.エレベーター
- 20.身体障害者用トイレ

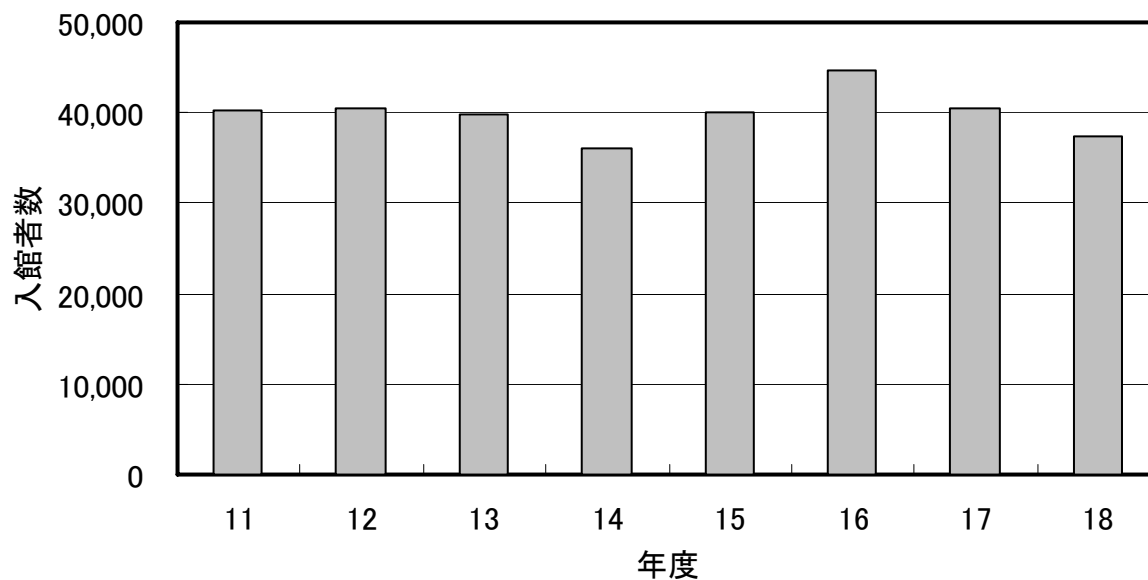
(出典 本校ホームページ)

資料 8-1-①-13

貸出冊数(学生のみ)の推移



入館者数(校外者含む)の推移



(出典 図書係資料)

バリアフリー施設設置概要

平成11年度整備

1. 生物応用化学科・高度技術教育研究センター本館新営に付帯して、同建物に車椅子用エレベータ、車椅子用WC(1階)及び玄関スロープを整備
2. 一般教室棟改修に際して、全ての教室に車椅子で出入り可能なスムーズ式引き戸を整備
3. 機械工学科棟に、車椅子用エレベータ及び車椅子用WC(EV増築部の2階)を整備
4. 機械工学科棟及び第1体育館に、車椅子用スロープを整備
5. 電子制御工学科棟教室の扉を車椅子で出入り可能なスムーズ式引き戸に改修

平成12年度整備

1. 基幹・環境整備工事として、次の事項を整備
 - ◆ 図書館に、車椅子用エレベータ、車椅子用WC(EV増築部の2階)、スロープ、スロープキャノピー、点字ブロック、自動扉及び車椅子用駐車場を整備
 - ◆ 一般教室棟に、車椅子用エレベータ、車椅子用WC(EV増築部の2階)、自動扉、スロープ、スロープキャノピーを整備
 - ◆ 管理・電気工学科棟玄関に、ミニスロープ、自動扉、車椅子用駐車場の設置及び正門から管理棟玄関にかけて点字ブロック整備
 - ◆ 電子制御工学科棟の既設一般用エレベータを車椅子用に改修及び東出入口にスムーズ式引き戸、スロープ、スロープキャノピーを整備
 - ◆ 生物応用化学科棟東出入口に自動扉を、西出入口にスムーズ式引き戸、既存スロープにキャノピー設置及び玄関前からスロープにかけて点字ブロック整備
 - ◆ 第1体育館玄関をスムーズ式引き戸に改修、既存スロープにキャノピー設置及び内部ミニスロープ設置
 - ◆ 第2体育館玄関をスムーズ式引き戸に改修、スロープ、スロープキャノピー設置及び内部ミニスロープ設置
 - ◆ 尚友会館玄関をスムーズ式引き戸に改修及び自動販売機・談話コーナーにミニスロープ設置(玄関スロープは昭和59年建設時に設置済)
 - ◆ 構内の舗装路を全面改修して不陸や段差をなくし、車椅子や杖使用の人に通行しやすいよう配慮した。
 - ◆ 学外者にもわかりよい構内案内板、誘導板を充実した。
2. 合併教室棟美術室にミニスロープを整備
3. 電子制御工学科棟3階東出入口扉改修及びミニスロープ設置

平成13年度整備

1. 電子制御工学科棟1階に車椅子用WCを整備
2. 武道場玄関扉をスムーズ式引き戸に改修

平成14年度整備

1. 生物応用化学科棟－電子制御工学科棟間2階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修
2. 専攻科棟－電子制御工学科棟間2階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修

平成15年度整備

1. 図書館東側出入口を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修
2. 女子寮への改修の際に、玄関スロープおよび内部ミニスロープを設置

平成16年度整備

1. 機械工学科棟3階情報教育センター第2演習室入口にミニスロープ取付
2. 高度技術教育研究センター別館改修に際し、玄関スロープ取付

3. 電子制御工学科棟4D教室後部引き戸を車椅子使用可能なよう改修
4. 電子制御工学科棟－専攻科棟間4階渡り廊下を車椅子でスムーズに通行可能なよう改修

平成17年度整備

1. 電子制御工学科棟5D教室後部引き戸を車椅子使用可能なよう改修
2. 図書館棟2階閲覧室入口を自動扉に改修
3. 管理棟前構内点字ブロックを更新

平成18年度整備

1. 専攻科棟2階に車椅子用WCを新設
2. 生物応用化学科棟1階西出入口、電子制御工学科棟1階東出入口、同2階西出入口及び専攻科棟2階東出入口を自動扉に改修
3. 電子制御工学科棟2階東出入口を自動扉に改修

(出典 施設係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の施設及び設備については、適正に確保されている。

施設及び設備は、教育課程及び個々の施設管理運営規程に則って、教員組織、各センター組織、図書館などにより適切に運用されており、有効に活用されている。

施設・設備のバリアフリー化については、十分配慮されている。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校には電算機演習室（PC端末室）が4室あり、情報教育センターで管理、運営している。4ヶ所の演習室は学内LANで有機的に統合され、教職員・学生はどの演習室からでもファイルに一元的にアクセスできる環境に整備されている（資料8-1-②-1）。演習室ごとに47～50台のパソコン端末と3、4台のネットワークプリンタが備え付けられ、どの演習室からでも、またこのプリンタにでも出力可能となっている。

すべての教室、実験室、研究室に情報コンセントを設置しており、講義や実験実習、卒業研究などでネットワークが利用できる環境を整備している。

ネットワークのセキュリティについては、情報セキュリティ委員会が情報セキュリティポリシーにしたがって管理、運用している（資料8-1-②-2、訪問調査資料 新居浜工業高等専門学校情報セキュリティポリシー）。ネットワークの日常の運用管理については、情報教育センターネットワーク運用管理部門によって十分なセキュリティ管理のもとに運用されている（資料8-1-②-3）。平成18年度末に、学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システムを導入し、ネットワークセキュリティを強化した（資料8-1-②-4）。

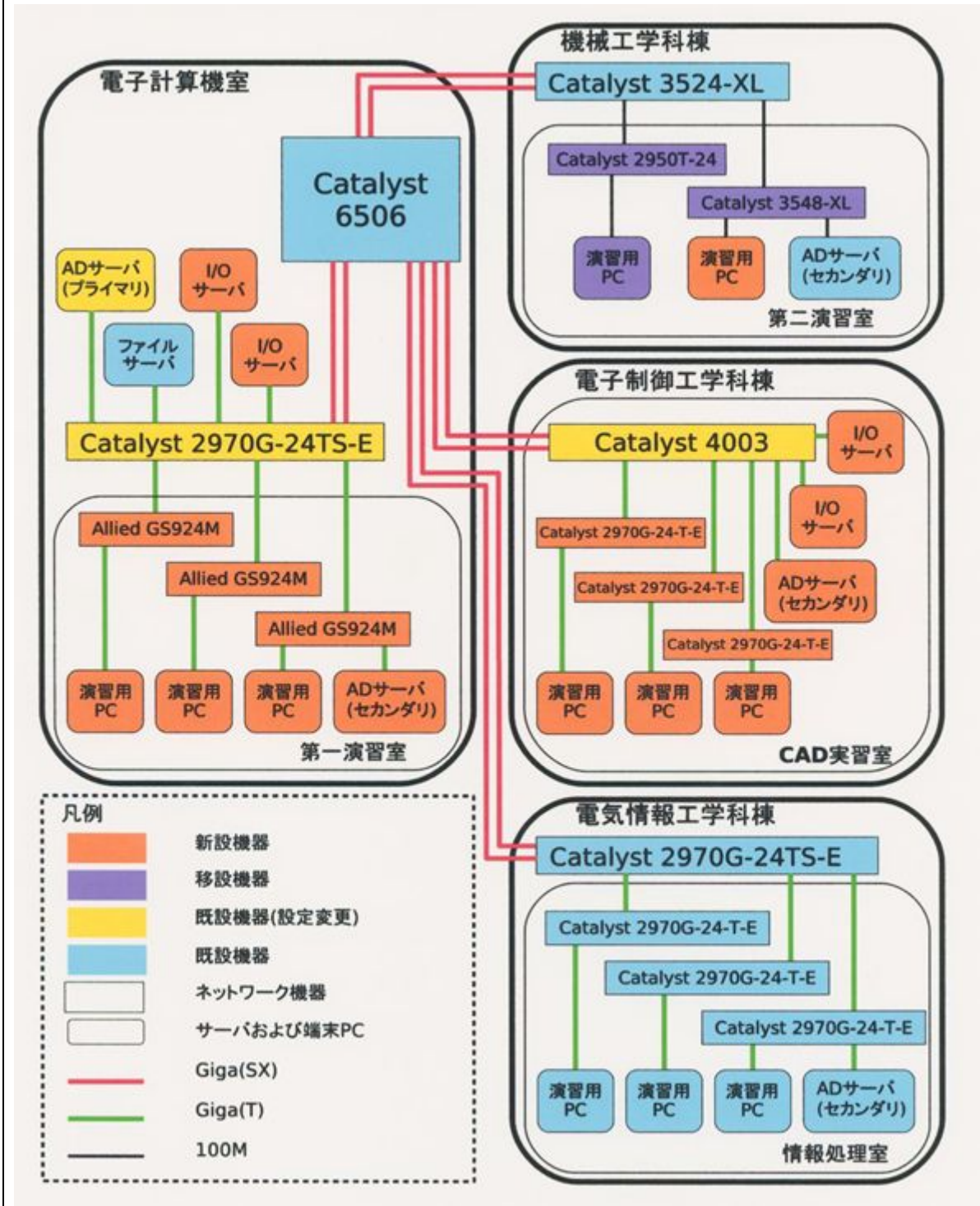
学生に対する情報ネットワーク利用講習は、情報教育センターによって新入生全員に対して入学当初に行われている（資料8-1-②-5）。さらに、準学士課程1年次の「情報リテラシー」の授業で全学科統一して、詳細な利用方法の説明やマナー教育などを実施している（資料8-1-②-6）。また、学寮でのネットワーク利用者のために、寮生対象の講習会を年2回実施している（資料8-1-②-7）。専攻科学生室における情報ネットワーク利用については、利用規則を定め、

ウイルス対策などの指導をしている（資料 8-1-②-8）。

演習室の入室者数は，平成16年度以降急増している（資料 8-1-②-9）。

資料 8-1-②-1

新居浜高専計算機システム接続図



(出典「教育用電子計算機システム」の仕様策定委員会資料)

資料 8-1-②-2

新居浜工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規程

平成15年 3月12日規程第13号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校に、全学の情報セキュリティに関し、情報セキュリティの確保、情報セキュリティポリシーの策定、遵守及び対外的な対応を行うため、情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 情報セキュリティポリシーの策定に関すること。
- (2) 情報セキュリティポリシーの評価及び点検に関すること。
- (3) 情報セキュリティポリシーの遵守の励行及び違反に対する措置に関すること。
- (4) 情報セキュリティの恒常的な安全性の確保に関すること。
- (5) 情報セキュリティに関する情報収集及び重要事項に関する関係部署との連絡調整に関すること。
- (6) 教育研究活動におけるネットワークの利用ルールの制定に関すること。
- (7) 外部情報ネットワークとの連絡調整に関すること。
- (8) 情報セキュリティ教育に関すること。
- (9) その他情報セキュリティに関すること。

(情報セキュリティ総括責任者)

第3条 本校の情報セキュリティの総括を行うため、情報セキュリティ総括責任者を置く。

- 2 情報セキュリティ総括責任者は、情報セキュリティに関し、外部機関との窓口となる。
- 3 情報セキュリティ総括責任者は、教務主事、学生主事及び寮務主事のうちから校長が指名する。

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 情報セキュリティ総括責任者
- (2) 事務部長
- (3) 情報教育センターネットワーク運用管理部門部門長
- (4) 校長が指名した者若干名

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。
- 4 委員会に副委員長を置き、前条第3号の委員をもって充てる。
- 5 副委員長は、委員長を補佐する。
- 6 副委員長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 前条第3号及び第4号の委員の任期は1年とし、再任は妨げない。
- 8 前項に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員以外の職員の出席)

第6条 委員長は、必要により委員でない職員を委員会に出席させることができる。

(報告)

第7条 委員長は委員会における審議の結果を、必要に応じ、運営会議に報告する。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 8-1-②-3

新居浜工業高等専門学校情報教育センター部門細則

平成15年2月12日細則第1号

(目的)

第1条 この細則は、新居浜工業高等専門学校情報教育センター規程第3条第2項の規定に基づき、新居浜工業高等専門学校情報教育センター（以下「センター」という。）の部門に関し、必要な事項を定める。

(業務)

第2条 各部門は、新居浜工業高等専門学校情報教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の定める方針により業務を行う。

(部門長)

第3条 各部門に部門長を置き、副センター長の中からセンター長が指名する。

2 部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(情報教育推進部門)

第4条 情報教育推進部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理教育及び情報リテラシー教育の企画に関すること。
- (2) マルチメディア教育の企画に関すること。
- (3) 遠隔教育のコンテンツの企画・開発に関すること。
- (4) 電子計算機室の管理・運営に関すること。
- (5) スペース・コラボレーション・システムの管理・運営に関すること。
- (6) AV教室、視聴覚教室、LL教室の管理・運営に関すること。

2 情報教育推進部門は、次に掲げる委員をもつて組織する。

- (1) 部門長
- (2) 専攻主任1人
- (3) 教務主事補1人
- (4) 部門長、専攻主任及び教務主事補の所属以外の学科・科の教員 各1人
- (5) 学生課専門職員
- (6) センター長が指名した者

3 前項第2号、第3号及び第4号の委員は、校長が指名する。

(事務処理システム推進部門)

第5条 事務処理システム推進部門は、情報ネットワーク及び電子計算機による効率的事務処理法の企画・立案に関する業務を行う。

2 事務処理システム推進部門は、部門長、総務課長、学生課長及び学生課専門職員をもつて組織する。

(ネットワーク運用管理部門)

第6条 ネットワーク運用管理部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 情報ネットワーク及び電子計算機等を利用した教育の推進の実現化の技術的支援に関すること。
- (2) 情報ネットワーク及び電子計算機等を活用した情報処理教育、情報リテラシー教育及びマルチメディア教育実現化の支援に関すること。
- (3) 情報ネットワーク及び電子計算機等を利用した事務処理、広報及び研究活動等の支援に関すること。
- (4) 情報ネットワークシステムの運用と管理に関すること。
- (5) 教育用電子計算機システムの運用と管理に関すること。
- (6) 職員の情報ネットワーク及び電子計算機等の活用能力向上に関すること。
- (7) 情報ネットワークを介した情報検索及び情報公開の支援に関すること。

2 ネットワーク運用管理部門の構成員は、情報処理関係業務の知識を有する者で、センター長が指名した者をもって充てる。

(委員の任期)

第7条 第4条第2項第4号、第6号及び前条第2項に掲げる委員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(報告等)

第8条 各部門は、業務の進捗状況について運営委員会に報告を行うものとする。また、業務の遂行に伴い生じる課題、提案事項等について、必要に応じ、運営委員会に諮ることとする。

(その他)

第9条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は新居浜工業高等専門学校情報教育センター運営委員会が別に定める。

附 則

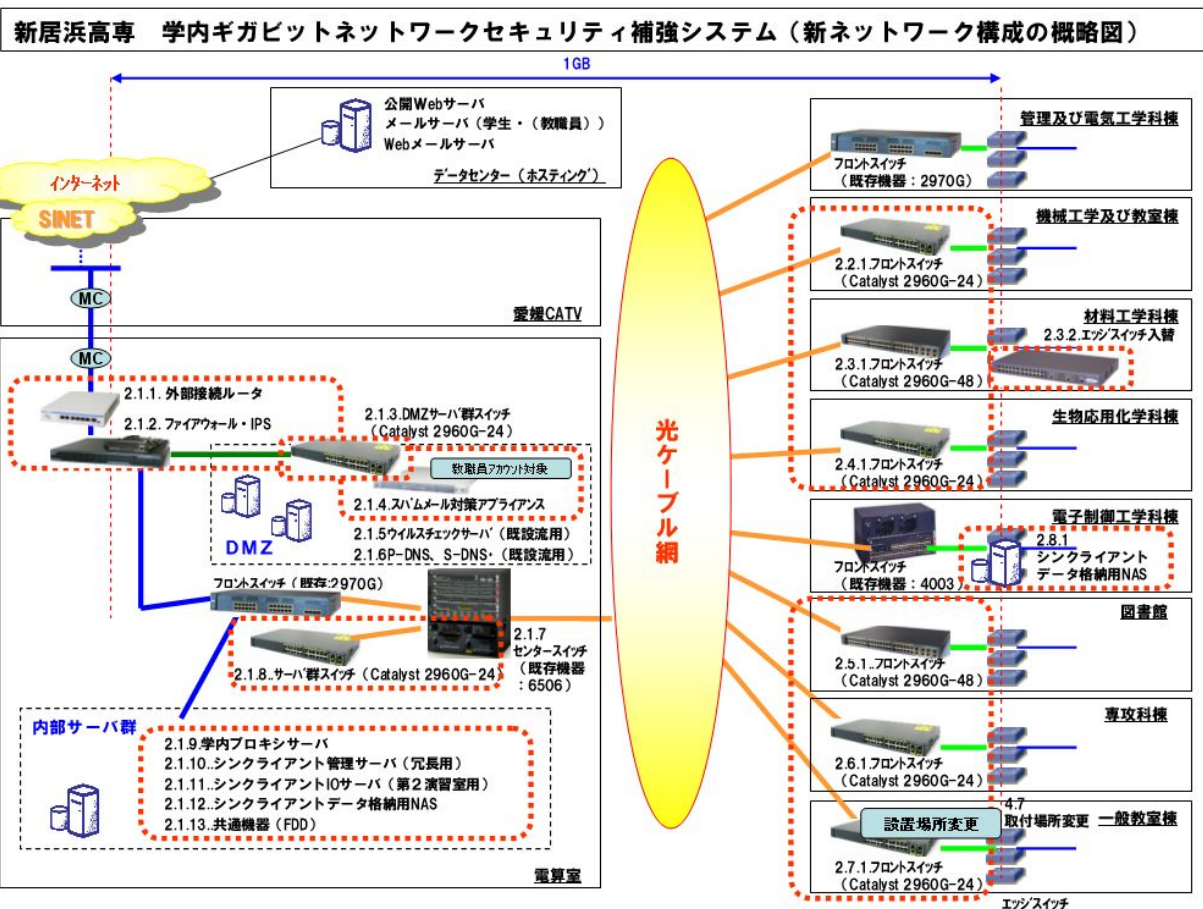
この細則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則)

資料 8 - 1 - ② - 4



(出典 情報教育センターネットワーク運用管理部門資料)

電子計算機室使用方法について

1 電子計算機室使用上の注意

1. コンピュータは所定の操作手順に基づいて丁寧に使用すること
2. 室内での飲食は禁止
3. プリンタは節度ある使い方をすること

2 電子計算機室で使用できるアプリケーションソフト

- 第1演習室
Word(ワープロ), Excel(表計算), PowerPoint(プレゼンテーション), Matlab(数式処理), LabVIEW(グラフィカルプログラミング), Ansys, Microwave Office, Visual Basic, NetAcademy(英語学習)
- 第2演習室
Word, Excel, PowerPoint, Matlab(数式処理), LabVIEW(グラフィカルプログラミング), Ansys, Microwave Office, NetAcademy(英語学習)
- 電気情報工学科情報処理室
Word(ワープロ), Excel(表計算), PowerPoint(プレゼンテーション), Visual Studio(コンパイラ) Matlab, LabVIEW, Ansys, Microwave Office, Pro/Engineer(3D-CAD), etc
- 電子制御工学科 CAD 室
Word(ワープロ), Excel(表計算), PowerPoint(プレゼンテーション), Visual Studio(コンパイラ) Matlab, LabVIEW, Ansys, Microwave Office, Pro/Engineer(3D-CAD), etc

3 ログオン

電子計算機室等では同じコンピュータを複数の人が利用する

現在の使用者が誰であるのかわかるようにしなければならないので、ログオンという作業を行う。

Ctrl+Alt+Del

ログオンするためには、まず、**[Ctrl]** と **[Alt]** のキーを押しながら **[Delete]** を押す

ユーザー名とパスワード

次に、ユーザー名とパスワードを入力する。ユーザー名は個人ごとに異なる名前を割り振っており、(秘密の)パスワードによってその人であることが確認できるようになっている。

終了するには

まず、ログオンのときと同じように**[Ctrl]** と **[Alt]** のキーを押しながら **[Delete]** を押し、シャットダウンを選ぶ。そこでまた選択肢が出てくるので、もう一度シャットダウンを選び、OK をクリック。本体の電源が切れるのを確認してモニタの電源を切る。

4 パスワードの変更

4.1 パスワードの選定

パスワードは以下のような基準で決めること

6文字以上であること

アルファベットの大文字と小文字を混ぜるかまたはアルファベットと数字を混ぜること

辞書に載っている単語などはだめ

4.2 パスワードの変更方法

1. ログオンのときと同じように**[Ctrl]** と **[Alt]** のキーを押しながら **[Delete]** を押す
2. 「パスワードの変更」をクリックする
3. 「古いパスワード」の欄に現在のパスワードを入力、「新しいパスワード」の欄と「新しいパスワードの確認入力」の欄に新しいパスワードを入力する

4. 「OK」をクリックする。パスワードが正しく入力されていたら「パスワードは変更されました」と表示されるので「OK」をクリックして、次に「キャンセル」をクリックする。

5 故障等発生時の対処について

利用しているコンピュータ等が故障したと思われる場合は次の手順で報告すること

1. 部屋に備え付けの故障報告書に記入する
2. 室内の内線電話を使用して緊急時対応教官に連絡し、指示を仰ぐ
3. 不在の場合(留守電も含む)はモニタの電源を切り、備え付けの「故障中」の紙をキーボード上などのわかりやすい位置に置く
4. 故障報告書を守衛に渡す(不在の場合は守衛室)

6 電子メールの利用

電子メールの利用については情報リテラシーの授業で使い方の説明をするので、注意事項を守って使うこと。

7 WWW(ホームページ)の閲覧

7.1 WWWについて

WWWはWorld Wide Webの略で、インターネットを通して世界中のコンピュータからいろいろな情報を得ることができる。情報量は膨大で利用価値は高いが、トラブルにまきこまれないためには注意が必要である。

7.2 WWWをみるときの注意

制限事項が多いと感じるかもしれないが、他人に迷惑をかけないように注意事項をしっかりと守って利用すること

自分の行なった行為の結果については自分で責任を持つこと。

WWWの利用時は、自分は名乗っていないから誰が使っているかわからないはずだと思っているかもしれない。しかし、記録はちゃんと残っている。問題が発生した時には、誰がその行為を行なったのかを調べることもできる。

他人に迷惑をかけるような行為を行なうと、裁判になったり賠償責任が生じるような場合もあるが、そのような事態には自分で対処してもらおうので肝に命じておくように。

商用利用の禁止

オンラインショップ、オークションなどでの物品の売買は禁止!!

年齢制限のあるページなどへのアクセスの禁止

学校でアクセスするのにふさわしくないページには近付かない!!

違法データのダウンロード禁止

著作権などの法律に違反しているデータ(音楽、プログラムなど)をダウンロードしない!!

情報は真実がどうかかわらない

WWWで発信される情報のすべてが真実というわけではない。情報を確認するためには複数の情報源にあたる必要がある。

掲示板、チャット

掲示板やチャットなど他人とコミュニケーションをとることのできるページがある。ネット上では相手の顔は見えないが、相手はどこかに実在する人間である。そのところを良く考えて書き込むこと

個人情報の公開

WWWでは書き込みが可能なページがいろいろと存在するが、個人情報の書き込みについては十分に注意して行うこと。特に、他人の個人情報を書き込むことは絶対にだめ!!

(出典 情報教育センターネットワーク運用管理部門)

資料 8 - 1 - ② - 6

授業科目	担当教員	開講期	
情報リテラシー	下村 信雄	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11139	1年 機械工学科		1単位

授業概要: コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などコンピュータリテラシーや、高度情報化社会のあり方・情報化社会への参画する姿勢について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ・情報処理室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変ができること。
- ・ファイルのコピーや移動、フォルダの作成ができること。
- ・キーボードから文字の入力がスムーズにできること。
- ・ワープロソフトを用い、簡単な定型書類が作成できること。
- ・ワープロソフトを用い、図、絵、グラフ入りの書類が作成できること。
- ・入手した情報を加工、表現する際に守らなければならないことを理解すること。
- ・情報を発信することには責任が伴うことを理解できること。
- ・セキュリティを守る数々の技術について理解し、情報化社会を生きるために自らを守る方法を知ること。
- ・メディアリテラシーを知り、入手した情報を鵜呑みにせず批判的に受け入れることの大切さを理解すること。
- ・有害情報やインターネット上の犯罪について知ることで、高度情報化社会の負の面について理解すること。
- ・情報に関する法律について学び、他人の著作権や個人情報の重要性について理解すること。

教科書: ネットワーク社会における情報の活用と技術 岡田正 他編

参考書: なし

授業の進め方: 講義と演習を取り混ぜて行なう。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、タイピング練習、ファイル・フォルダの操作
- 2 タイピング練習、インターネット検索、メールの設定と使い方
- 3 タイピング練習、WebClass の使い方、ワープロソフトの使い方 1
- 4 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 2
- 5 情報の加工と表現
- 6 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 3
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 4
- 9 セキュリティを守る技術 1(認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例)
- 10 セキュリティを守る技術 2(セキュリティホールとコンピュータウイルス)
- 11 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 5
- 12 情報の受信・発信(インターネットと犯罪)
- 13 情報の受信・発信(メディアリテラシー)
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

成績評価の方法: 課題提出及び課題等授業に取り組む姿勢 60%、前期末試験 40%で評価する。

学生へのメッセージ: これからの高度情報化社会を歩いていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、モラルがとても大切になります。是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。

(出典 平成18年度シラバス)

平成 18 年 4 月 13 日

学寮ネットワーク使用希望者へ

情報教育センターネットワーク管理部門
学寮ネットワーク担当者

学寮ネットワーク使用希望者講習会のお知らせ

学寮ネットワーク使用希望者を対象とした講習会を下記のとおりで開催します。学寮ネットワークの使用を希望する者は**筆記用具**を持参の上、集合して下さい。

記

1. 日時 平成 18 年 4 月 18 日 (火) 20:20 ~ 20:45 (新規)、21:30 ~ 22:30 (継続)
2. 場所 視聴覚教室
3. 主な内容
 - (a) 学寮ネットワークのしくみ、使用方法、注意点
 - (b) 使用許可願の書き方
 - (c) これまでの事例
 - (d) アンケート

備考

1. 学寮ネットワークを使用するにはパソコンや OS の他
 - 無線 LAN アダプタ (IEEE802.11b の規格に対応したもの、男子寮) または LAN アダプタ (指導寮生、清風寮)
 - **コンピュータウィルスを検出し、除去するアプリケーション**

が必要です。これらは使用希望者の負担になりますので**各自で用意**をお願いします。
2. 使用許可願は 第 1 回の締切が **5 月 8 日**です。5 月 8 日までに許可願を提出した人は **5 月 9 日**よりネットワークを使用することができます。
以後、占部の当直日までに提出すれば、その占部の当直日より使用可能です。
3. 現在利用中の者は必ず**継続講習会**を受講すること。受講しなかった場合は利用が継続できません!
4. 現在、パソコン、無線 LAN アダプタ等が無いが今年度中に接続を希望するものも必ず**受講**してください。新規講習会は後期までありません。
5. 昨年度講習会を受講したものの利用しなかったものについては**新規**を受講してください。
6. 不明な点がありましたら、情報教育センターネットワーク管理部門学寮ネットワーク担当者の電子制御工学科占部まで問い合わせして下さい。占部の教官室は電子制御工学科棟 5F です。

昨年度講習会受講	現在利用中	新規受講	継続受講	
○	○	不要	要	継続して利用可
○	×	要	不要	5/9 より利用可
×	×	要	不要	#

以上

(出典 情報教育センター資料)

専攻科学生室ネットワークの使用における注意事項

1. ネットワークの利用時間について

平日：8：00～19：00

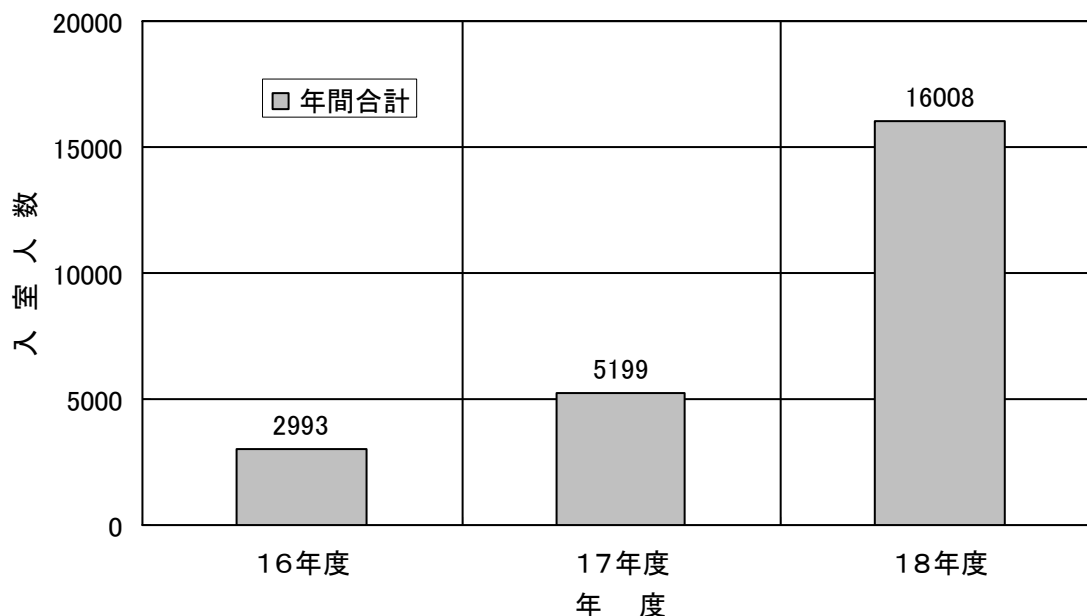
2. 「専攻科学生室ネットワーク使用心得」について

- (1) ネットワークの利用目的が教育研究活動に関連するものであること。
- (2) ウイルス検出ソフトは、定期的に更新し、機能させておくこと。
 - ・ 自分のパソコンだけでなく、ネットワークを介して他のパソコンにも影響を及ぼすことを自覚しておくこと。
- (3) 金品の取引に関する行為を行わない。
 - ・ ネットワークを使用して、物品の注文・購入・販売をしない
 - ・ インターネットオークションに物品を提出したり、落札しない。
- (4) 違法行為および公序良俗に反する行為を行わないこと。
 - ・ 違法なデータのダウンロード・交換、違法行為を推奨するようなページあるいは学校から接続するのにふさわしくないページへのアクセスを行わない。
 - ・ メールや掲示板などで他人を 誹謗したり 中傷したりする行為を行わない。
- (5) 著しくネットワークに障害を及ぼす行為を行わないこと。
 - ・ 膨大なデータのダウンロード・交換や動画の送受信、チャットなどを行わない。
- (6) 個人情報（氏名、住所、メールアドレス、電話番号、家族構成など）の取り扱いは慎重に行うこと。
- (7) 備品を移動させたり持ち出したりしない。
- (8) ネットワークを介して他人の権利を侵害してはならない。

(出典 専攻科教育委員会資料)

資料 8-1-②-9

パソコン演習室利用状況(年度別)



(出典 情報教育センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の情報ネットワークの整備は情報教育センターが行っている。4ヶ所の電算機演習室をLAN接続し、ファイルを一元的に管理することによって、すべての演習室からアクセスできるようにしている。また、教室、実験室、研究室からもネットワークに接続できる環境を整えている。

情報ネットワークシステムに対するセキュリティは、情報セキュリティポリシーに則った管理のもとで適切に運用されている。また、学生に対するネットワーク利用講習は第1学年から実施されている。演習室の利用者数は年々大きく増加している。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

現在、本校図書館は、約8万冊の蔵書、1000種類の雑誌の他に視聴覚教材、DVDソフト等を有する(資料8-2-①-1)。工学および自然科学に関する図書がそれぞれ全体の約29%および27%となっている。

教育用図書は、学生自身によるブックハンティングおよび図書購入希望システムによる購入、教員による学生向け選書システムによる購入によって充実を図っている(資料8-2-①-2、資料8-

2-①-3, 資料8-2-①-4, 資料8-2-①-5, 資料8-2-①-6)。また, シラバスに参考書として挙げられた図書を図書館に購入・配架することになっている(資料8-2-①-7)。

さらに学生向けに様々な図書紹介活動を行って図書利用を喚起している。例えば, 学校運営目標のひとつに学生一人あたりの年間図書貸出冊数10冊を掲げ, クラスごとの借り出し冊数累計の途中経過を掲示し, 上位クラスの表彰を行った(資料8-2-①-8, 資料8-2-①-9, 資料8-2-①-10)。読書感想文コンクールに課題図書部門を新設するなどの工夫をし, 優れた感想文を書いた学生を表彰した(資料8-2-①-11, 資料8-2-①-12)。また, 毎月発行するLIBRARY Presentsで教員による推薦図書を数冊ずつ紹介している(資料8-2-①-13)。

図書館入館者数は過去8年間でほぼ横ばいであるが, 貸出冊数は学生一人あたりの貸出冊数の目標には及ばないものの, 大きく増加している(資料8-2-①-14)。

電子ジャーナルの導入を積極的に進め, 長岡技術科学大学主導のコンソーシアムに積極的に参加している(資料8-2-①-15, 資料8-2-①-16)。現在利用可能な電子ジャーナルは, KANON(16,000タイトル), IEEE-ASPP(120タイトル), AIP/APS, ACS(32タイトル), MathSciNet(1,800タイトル), ScieceDirect(1,000タイトル), JDream(抄録翻訳), JDreamIIである。独立した電子ジャーナル化がなされていない機械工学系を除き, 一般教養科系を含む主要学会のジャーナルをカバーしている。

資料8-2-①-1

新居浜工業高等専門学校図書館の蔵書数推移

区分		1. 4. 1	5. 4. 1	10. 4. 1	13. 4. 1	14. 4. 1	15. 4. 1	16. 4. 1	17. 4. 1	18. 4. 1	19. 3. 31
総記	和漢書	2,983	3,194	3,455	3,844	3,943	3,982	3,989	4,128	4,146	4,224
	洋書	315	328	345	347	347	348	349	350	350	350
哲学	和漢書	2,046	2,410	2,802	3,051	3,111	3,127	3,142	3,224	3,249	3,263
	洋書	285	391	475	511	516	516	518	520	521	521
歴史	和漢書	3,884	4,162	4,440	4,575	4,563	4,603	4,641	4,664	4,700	4,729
	洋書	34	34	38	49	49	49	49	49	49	49
社会科学	和漢書	4,308	4,557	5,002	5,126	5,047	5,096	5,130	5,161	5,192	5,225
	洋書	104	147	158	164	168	168	169	172	174	176
自然科学	和漢書	10,217	11,196	12,427	12,996	13,160	13,301	13,434	13,554	13,637	13,729
	洋書	4,684	5,313	6,281	6,636	6,725	6,793	6,853	6,889	6,903	6,916
工学	和漢書	14,529	15,746	16,839	17,299	17,421	17,657	17,804	17,904	18,038	18,187
	洋書	2,899	3,392	3,645	3,771	3,812	3,850	3,852	3,856	3,859	3,861
産業	和漢書	304	314	321	325	323	327	333	339	346	352
	洋書	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
芸術	和漢書	1,667	1,772	1,867	1,886	1,888	1,897	1,906	1,935	1,944	1,947
	洋書	127	127	128	128	128	129	130	130	130	130
語学	和漢書	2,550	2,993	3,342	3,476	3,499	3,542	3,555	3,561	3,640	3,696
	洋書	775	832	890	905	914	914	916	918	932	933
文学	和漢書	6,519	7,078	7,632	7,871	7,995	8,064	8,127	8,207	8,288	8,358
	洋書	409	410	410	411	411	411	412	414	414	414
合計		58,641	64,399	70,500	73,374	74,023	74,777	75,312	75,978	76,515	77,063

(出典：図書係所蔵資料より編集)

資料 8-2-①-2

第 2 回ブックハンティング

- 日 時 平成 18 年 11 月 23 日 (木) 勤労感謝の日
- 場 所 宮脇書店総本店 (旧宮脇カルチャースペース)
高松市朝日新町 3-4
- 購入限度額 一人 6,000~8,000 円 (参加人数による)
- 応募受付 平成 18 年 10 月 10 日 (火) ~ 11 月 10 日 (金)
- そ の 他 参加希望者は図書館カウンター参加希望者名簿にクラス・氏名を記入のこと



(出典 図書係掲示物)

新着案内

(ブックハンティング分①)

【自然科学】

- ・素数に惹かれた人たち
- ・素数の音楽
- ・続直感でわかる数学
- ・科学の国のアリス
- ・ゼロから学ぶ元素の世界
- ・おもしろ化学マジック
- ・分析化学演習
- ・やさしい環境化学実験
- ・利己的な遺伝子
- ・NASA
- ・離散数学コンピュータサイエンスの基礎数学
- ・数学する本能
- ・科学哲学のすすめ
- ・死後の世界を突き止めた量子力学
- ・知っておきたい化学の豆知識
- ・マンガ化学が驚異的によくわかる
- ・単位が取れる有機化学ノート
- ・化学物質のウラの裏
- ・ワトソン遺伝子の分子生物学
- ・140億年のすべてが見える宇宙の事典

【工学】

- ・工学倫理
- ・若きエンジニアへの手紙
- ・入門技術解説半導体の基礎理論
- ・技術のしくみからデザインまですべてわかる鉄道
- ・図解入門よくわかる最新モータ技術の基本とメカニズム
- ・工学の歴史と技術の倫理
- ・青色発行ダイオードは誰のものか
- ・ROBOCODE BIBLE 最強ロボットへの道

【情報】

- ・Windows mode 12
- ・グーグル・ツール
- ・できるホームページHTML入門
- ・Visual C++ 逆引き大全 500 の極意
- ・解決 LATEX 2 ε
- ・厳選フリーソフトウェア活用バイブル
- ・史上最大の発明アルゴリズム
- ・オペレーティングシステム IT Text
- ・LAN& インターネットつなぎ方大事典
- ・Lepton 先生「ネットワーク技術」勉強会
- ・世界一わかりやすいCプログラミングの授業
- ・ウィルコム WZERO 3 コンプリートガイド
- ・最新 debian GNU/Linux 完全攻略ガイド

【歴史・地理等】

- ・目からウロコ 日本地図の謎
- ・あの戦争は何だったのか
- ・自虐でやんす
- ・暴かれた9. 1 1
- ・目からウロコ 世界地図の謎
- ・昭和の戦争を読み解く
- ・日米相互誤解史
- ・疑惑の真相 300 人委員会

【資格】

- ・TOEIC テスト新公式問題集
- ・よくわかる環境計量士試験 濃度関係

【自己啓発】

- ・3週間続ければ一生が変わる
- ・大人の漢字脳ドリル
- ・とっさの機転 60秒ゲームでひらめき脳を手に入れる
- ・着るものがない!
- ・男の品格
- ・「頭のいい人」はシンプルに生きる
- ・できる人は1週間を「168時間」で考えている
- ・名将に学ぶ人間学

【その他】

- ・キャラクター小説の作り方
- ・しあわせの雑学
- ・誕生日事典
- ・アンネ・フランクの記憶
- ・決定版 徳大寺有恒のクルマ運転術
- ・水木しげるの日本妖怪紀行
- ・宮崎アニメの暗号

(ブックハンティング分②)

【小説等】五十音順

- ・ 赤い指
- ・ 悪意
- ・ あなたはだいじょうぶ
- ・ アルゼンチンババア
- ・ 石ノ目
- ・ 失はれる物語
- ・ うそうそ
- ・ 英雄列伝
- ・ 屋上探偵
- ・ おまけのこ
- ・ ガールズ・ブルー
- ・ 学園キノ
- ・ 金糸雀が啼く夜
- ・ 神様のパズル
- ・ 仮面山荘殺人事件
- ・ 黄色い目をした猫の幸せ
- ・ 奇跡を信じて
- ・ 偽装狂時代
- ・ 君がくれたもの
- ・ きみにしか聞こえない
- ・ 暗いところで待ち合わせ
- ・ 氷の森
- ・ 黒笑小説
- ・ さみしさの周波数
- ・ 四月は霧の00密室
- ・ 私立霧舎学園ミステリ白書
- ・ 失踪HOLIDAY
- ・ 宿命
- ・ 銃とチョコレート
- ・ 女子大生会計士の事件簿 DX 1～4
- ・ 新撰組血風録
- ・ 聖剣伝説 I・II
- ・ 千の風になって ちひろの空
- ・ 卒業
- ・ 太陽と月
- ・ 第六大陸 1・2
- ・ ダウンタウンのココだけの話
- ・ だれかのことを強く思ってたかった
- ・ 探偵倶楽部
- ・ 着信アリ 2
- ・ 超・殺人事件 推理作家の苦悩
- ・ 天国からはじまる物語
- ・ 天子の卵
- ・ 東京フレンズ I・II
- ・ 時をかける少女
- ・ どちらかが彼女を殺した
- ・ ドミノ
- ・ ドラゴンラージャ
7 追跡・8 報復・10 友情
- ・ トリックスダーズ D・L・M
- ・ 夏空にきみと見た夢
- ・ 夏と花火と私の死体
- ・ ネコソギラジカル
下青色サヴァンと戯言遣い
- ・ 眠りの森
- ・ パーティミアス プトレマイオスの門
- ・ 初恋温泉
- ・ バッテリーV・VI
- ・ ひかりをすくう
- ・ 光に向かって100の花束
- ・ ヒストリアン I・II
- ・ 人質カノン
- ・ ひな菊の人生
- ・ 100回泣くこと
- ・ 100人の魔法使い
- ・ 平面いぬ
- ・ ぼくの心霊スポット
- ・ ボロボロになった人へ
- ・ 本棚探偵の冒険
- ・ 松本人志の最終審判 好きか、嫌いか
- ・ 窓際のトットちゃん
- ・ THE MANZAI 2
- ・ 霧舎巧傑作短編集
- ・ 名探偵の掟
- ・ 名探偵の呪縛
- ・ めしさまへ
- ・ ゆくとしくるとし
- ・ 吉永さん家のガーゴイル
- ・ 夜のピクニック
- ・ ラフ
- ・ ラブ&フリー
- ・ レイクサイド
- ・ ロマンズ小説の七日間
- ・ 私が彼を殺した
- ・ 笑うな
- ・ Line
- ・ ST 警視庁科学特捜版
- ・ TOY JOY POP

(出典 LIBRARY Presents第16号)

資料 8-2-①-4

学生の図書購入依頼書の様式

L I B R A R Y R e q u e s t							
平成	年	月	日	科	年		
書名							
著(編)者名							
発行(出版社)所			金額	円			
その他要望事項							
図書係処理	購入		平成	年	月	日	入荷予定
	購入せず		理由				

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-5

学生希望図書の実績

経 費		冊数	金額	内 訳									
				学生希望図書		参考図書		基本図書		資格就職関係		一般教養・実用	
				冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額
国費	学生図書購入費	462	1376198	74	187617	24	201907	69	290490	5	9781	42	67247
後援会	図書充実費	295	350350	181	164524	0	0	0	0	40	81106	71	101190
合 計		757	1726548	255	352141	24	201907	69	290490	45	90887	113	168437

経 費		内 訳									
		視聴覚		郷土史料		推薦		指定課題		シラバス	
		冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額
国費	学生図書購入費	22	76656	2	3013	165	405607	11	11344	48	1E+05
後援会	図書充実費	0	0	1	1650	2	1880	0	0	0	0
合 計		22	76656	3	4663	167	407487	11	11344	48	1E+05

(出典 図書係資料)

平成18年度 学生用図書購入費使用計画

件名	予算額	使用予定額	内訳	備考
学生用図書購入費	1,854,000			
○ 共通図書費 (第1類) (図書館に常備)		1,244,000	200,000 200,000 200,000 14,000 70,000 145,000 80,000 5,000 330,000	(内訳) 学生希望図書ブックハンティング @90,000円×2回 希望調査等 20,000円 参考図書 定期購読14種 外 基本図書 @100,000円×2分野(学科) 資格・就職関係図書 定期購読6種 一般教養書・実用書・小説等 雑誌 15種 視聴覚資料 定期購読1種 40,000円 外 郷土資料 新聞 8紙
○ 学習参考図書購入費 (第2類)		610,000	470,000 40,000 100,000	教員推薦図書 一人当り選択基準 @5,000円×86名 情報誌・ブルーバック等推薦図書 @1,000円×40冊 指定・課題図書 @2,000円×20冊 シラバス関係図書 @2,000円×50冊
合計	1,854,000	1,854,000	1,854,000	

(出典 図書係資料)

シラバスの参考書 購入リスト

007.1	IM		情報理論 / 今井秀樹著 ; . -- 4刷(第3回修正). -- 昭晃堂,1986.3.
007.1	YO		情報理論の基礎 / 横尾英俊著 ; . -- 共立出版,2004.9.
007.6	AO		情報リテラシーとプレゼンテーション / 青木由直著 ; 電子情報通信学会編 ; . -- コロナ社,2003.2. -- (電子情報通信レクチャーシリーズ / 電子情報通信学会編 ; A-5).
007.6	MO		マイクロコンピュータの基礎 / 森下巖著 ; . -- 昭晃堂,1988.5.
007.6	OK		ネットワーク社会における情報の活用と技術 : 情報教育テキスト / 岡田正 ; 高橋参吉 ; . -- 実教出版,2003.2.15.
007.64	17		コンピュータアルゴリズム全科 : プログラミング詳説 : 基礎からグラフィクスまで / 千葉則茂[ほか]著 ; . -- 啓学出版,1991.3.
007.64	FU		C言語による最新アルゴリズム事典 / 奥村晴彦著 ; . -- 技術評論社,1991.2. -- (Software technology ; 13).
007.64	FU		やさしく学べるC言語 / 福田良之介著 ; 黒瀬能幸監修 ; . -- 森北出版,2000.12.
007.64	OH		Excelによるシステム最適化 / 大野勝久編著 ; 田村隆善, 伊藤崇博共著 ; . -- コロナ社,2001.5.
080	BB	1099	発表の技法 : 計画の立て方からパソコン利用法まで / 諏訪邦夫著 ; . -- 講談社,1995.12. -- (ブルーバック ; B-1099).
130	YA		哲学 : 原典資料集 / 山本巍[ほか]著 ; . -- 東京大学出版会,1993.2. .
130.2	MA		知の歴史 : ビジュアル版哲学入門 / プライアン・マギー著 ; . -- BL出版,1999.9.
150.4	KA		環境倫理学のすすめ / 加藤尚武. -- 丸善.
150.4	KA		応用倫理学のすすめ / 加藤尚武. -- 丸善.
153.5	SA		はじめての工学倫理 / 齊藤了文, 坂下浩司編 ; . -- 第2版. -- 昭和堂,2005.4.

他300冊

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-8

平成 18 年度学校運営重点推進目標

個性豊かな教育を創造・実践するとともに、教育研究の向上にたゆまず努力し、地域とともに歩む信頼される学校をめざし、次の取組みに重点を置く。

(略)

3. 学習支援に関すること

(略)

○図書館利用に関するアクションプランを実行するとともに、自ら調べ、学ぶ態度の育成に努める。学生一人あたりの年間図書貸出冊数 10 冊を目標とする。

(略)

(出典 平成 18 年度学校運営重点推進目標)

資料 8-2-①-9



平成18年度



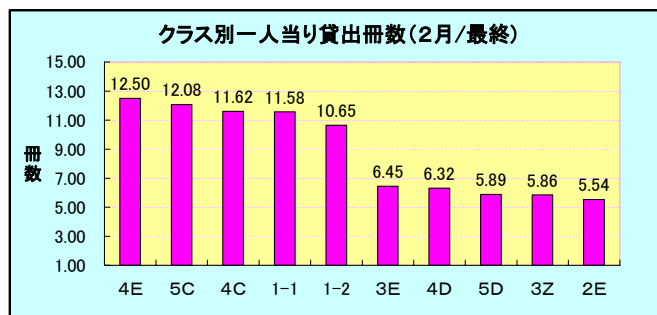
クラス別貸出冊数

今年の目標は、一人10冊です。

図書館をよく利用し一人当り貸出冊数の多いクラス

(2月/最終)

第1位	4年	電気情報工学科
第2位	5年	生物応用化学科
第3位	4年	生物応用化学科



以下、ご覧のとおりです。

第11位	3C	5.37冊	第16位	5E	4.46冊	第21位	3D	3.10冊
第12位	4M	5.28冊	第17位	3M	4.25冊	第22位	1-3	2.23冊
第13位	1-4	5.16冊	第18位	2D	3.47冊	第23位	5M	2.11冊
第14位	1-5	5.07冊	第19位	4Z	3.43冊	第24位	2Z	1.63冊
第15位	5Z	4.67冊	第20位	2C	3.18冊	第25位	2M	0.82冊



新居浜工業高等専門学校図書館

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-10

図 書 館 表 彰 実 施 要 領

1. 平成 18 年度図書館表彰は、学生表彰規程第 2 条（4）に該当する以下の学生・クラスに対して行う。

2. 該当者（個人・団体）

○ 読書感想文

（課題部門）

優秀賞 3D 内田 頼克 佳 作 1-1 日野 陽介

（自由部門）

優秀賞 5C 越智 明德 佳 作 2D 藤堂 佑樹

学生賞 5C 越智 明德

○ 借出冊数（クラス別）

最優秀賞 第 1 位 電気情報工学科 4 年

優秀賞 第 2 位 生物応用化学科 5 年

優秀賞 第 3 位 生物応用化学科 4 年

3. 日時 4 年以下の表彰は、3 月 7 日（水）終業式で行う。

5C（越智明德君含む）の表彰は、日程調整の後決定する。

4. 場所 終業式会場及びホームルーム

5. 次第 ・終業式会場 終業式式次第による

・ホームルーム会場

出席者 校長、図書館長、クラス担任、図書主任

式次第

開会の辞 図書館長

表彰状の授与 校長

挨拶 校長

閉会の辞 図書館長

6. その他 表彰状（案）は、別紙のとおり

読書感想文は、副賞（図書券）有

クラス代表（表彰状受取） クラス担任に依頼

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-11

(新) 読書感想文コンクール実施要領

1. 主旨

自分が読んだ本について、感動した点、ここが面白かった、一押しはこの本だなどの 読後感、解説、あるいは批評などを含め「読書感想文」とする。高専のコンクールらしく出来る限り広いジャンルの図書を対象にすることで、学生が「読書感想文」へ取り組み やすくなり、広い視野と

豊かな人間性をバランスよく育む。また、他の学生が学友の文章を読んで、良い本を知り、本の世界に自然に親しむという効果がある。

2. 応募資格

本科の学生及び専攻科生

3. 募集対象

以下の2部門に分けて募集する。

- 自由図書部門

自由図書とは、小説、物語、戯曲、詩歌、評論、随筆などの文芸や歴史、伝記、紀行文などのノンフィクション散文に限らず、広く、理工学書、理工学解説書、入門書なども対象とする。良質のコミックも含む。ただし、広報図書委員会が適切でない判断した図書を対象としたものは受理しない。

- 課題図書部門

広報図書委員会が指定する図書を対象とする。

4. 原稿の文字数

400字以上 1000字以内

5. 応募期間

6月～9月上旬

6. 提出方法

応募者はパソコンでWord等のテキストファイルを作成し、それをフロッピーディスクに保存したものを、図書館事務室に提出する。

7. 審査

審査は広報・図書委員会で行う（広報・図書委員会から審査員を委嘱して審査を行うことを含む）。また、広報・図書委員会で選考された作品のうち、高学年の図書委員の投票による学生賞を設ける。

8. 表彰

優秀賞 1名

佳作 1名

学生賞 1名

※ 賞状と副賞を贈呈する。

9. その他

表彰作品の著作権に関する一切の権利は、広報・図書委員会に帰属する。応募作品の氏名、学年・学科名、題名、対象図書名は、本校の広報紙等により公表されることがある。

応募作品は、返却しない。

(出典 図書係資料)

読書感想文コンクール

1. 対象学生

全本科生・専攻科生

2. 対象書籍

● 自由図書部門

小説、物語、戯曲、詩歌、評論、随筆などの文芸や歴史、伝記、紀行文などのノンフィクション散文に限らず、広く、理工学書、理工学解説書、入門書なども対象とする。良質のコミック（図書館所蔵のもの）も含む。

● 課題図書部門

広報図書委員会が指定する図書を対象とする。

+

対象学年	課 題 図 書 名		
1～3学年	博士の愛した数式 小川洋子著	最新科学おもしろ雑学帖 中西貞之著	けのやれないことをやれ！ 岡野聖行著
4,5学年	公吉の原点を後世に 広瀬 武著	大学生のためのエンジニア入門 三谷千城著	失敗に学ぶものづくり 増村洋太郎著
専攻科	車はなぜまがるか？ 三田村崇三著	二十歳の原点 高野悦子著	量子力学論争 万川・もり著、櫻山義夫訳

3. 原稿の文字数

400字以上 1000字以内

4. 応募期間

6月～9月上旬

5. 提出方法

応募者はパソコンでWord等のテキストファイルを作成し、それをフロッピーディスクに保存したものを、図書館事務室に提出する。

6. 表彰 各部門それぞれ1名（賞状と副賞を贈呈する。）

○ 優 秀 賞 ○ 佳 作 ○ 学 生 賞

7. その他

表彰作品の著作権に関する一切の権利は、広報・図書委員会に帰属する。応募作品の氏名、学年・学科名、題名、対象図書名は、本校の広報紙等により公表されることがある。応募作品は、返却しない。

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-13

わたしが薦めるこの一書

ダニエル・キイス 著 小尾 芙佐 訳 「アルジャーノンに花束を」

生物応用化学科 衣 笠 巧

本書は、1959年にその原型となった中篇が発表され、1966年に長篇化されて世界中の人に読まれた SF 小説である。しかし、40年以上も前に書かれたとは思えないほど新鮮な読み応えがあり、また、SF という狭い範疇を飛び出して、幸せとは何なのかを考えさせてくれる名作である。

主人公チャーリー・ゴードンは、知的障害者である。32歳ながら幼児の知能しかなく、パン屋で働いているが、何をやっても失敗ばかりで、他の店員から嘲笑されていた。そんな彼に、大学教授から頭が良くなる手術を受けないかという申し出があった。賢くなれば、まわりの人たちと同じことができるようになり、家族とも再会できると考えたチャーリーは、喜んで引き受ける。手術によって、今までわからなかったことが理解できるようになり、知る喜びに満たされていくチャーリー。だが、さらに知能は急上昇を遂げ、彼の手術をした教授までも追い越していく。そして……。

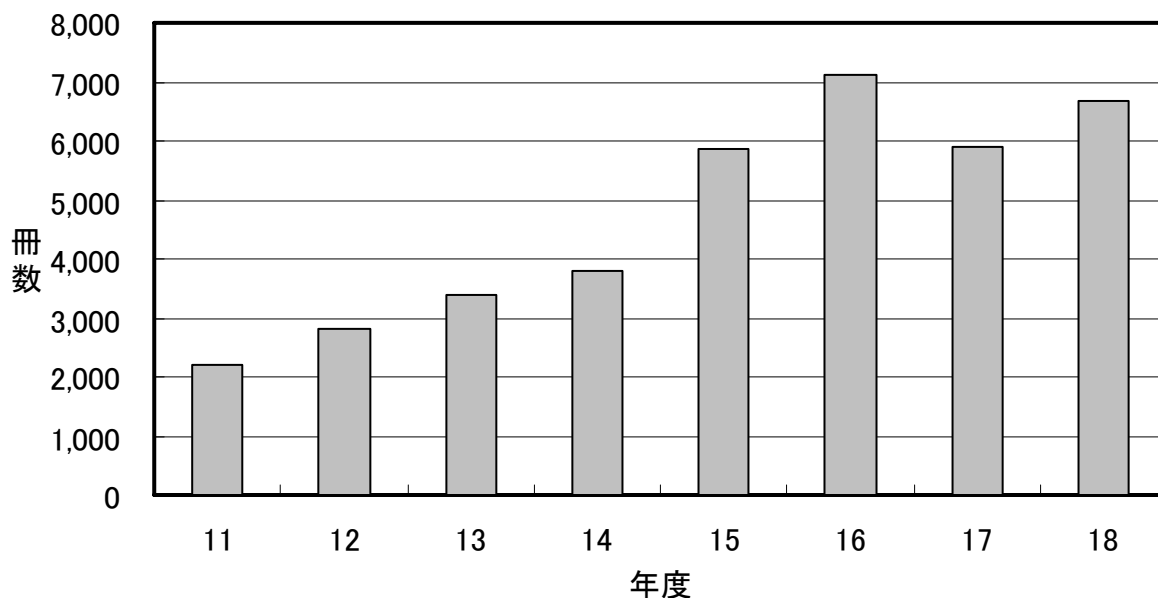
ここから先は実際に読んでみてもらいたい。本書は、脳外科手術を受けることになったチャーリーの一人称として書かれており、「経過報告」の体裁をとっている。読み進むにつれて彼に起こった変化を追体験できるわけだ。最初は、ほとんど漢字を使わず、間違いも多い。ところが、手術を受けてから文章レベルがどんどん高くなっていく。チャーリーの知能がみるみるうちに向上していく様子が、文体によってもわかるしくみになっているのだ。この生き生きとした描き方は、訳者の手に負うところが大きいだろう。ついついページをめくる手が止まらなくなってしまう。

本書を読んで何を思うか、それはひとそれぞれ。ただ、最後の一文を読み終わった後、瞳を閉じてじっくりとその思いを噛み締めてほしい。

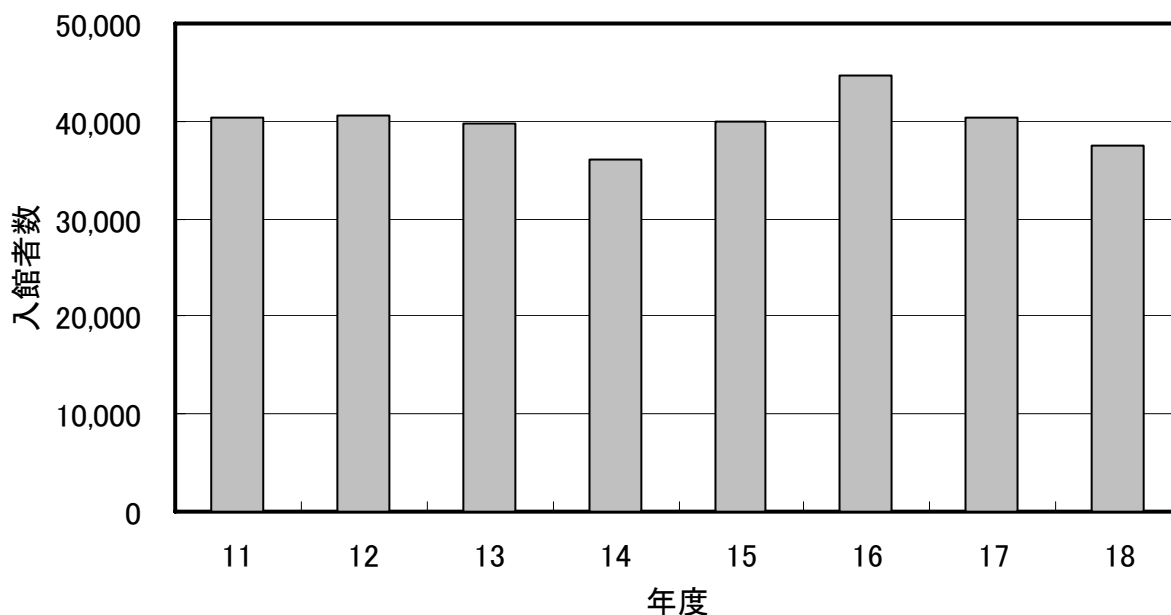
(出典 LIBRARY Presents第14号)

資料 8-2-①-14

貸出冊数(学生のみ)の推移



入館者数(校外者含む)の推移



(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-15

KANON Kousen And Nagaoka gidai journal ONline system

KANONコンソーシアム

アクセスURL: <http://library.nagaokaut.ac.jp/>

契約条件

Swets社のTable of Contents Service の使用代金を支払う
2005年価格: Euro700 (96,432円) / 高等

内容

収録数: 約16,000タイトル
データレベル: 目次情報
収録範囲: 全分野
データ更新頻度: 毎日
システム: 長岡技術科学大学オリジナル開発システム
2005年1月5日に新システムをリリース
電子ジャーナルフルテキストへのリンク、SDIの充実等機能UP

収録タイトル

収録タイトル一覧: <https://www.swetswise.com/public/download.do>

2005年参加高等 (2005年2月22日現在)

函館高等、釧路高等、旭川高等、八戸高等、宮城高等、秋田高等、鶴岡高等、福島高等、茨城高等、小山高等、富山高専、富山商船高等、福井高等、長野高等、岐阜高等、沼津高等、豊田高等、高羽商船高等、鈴鹿高等、舞鶴高等、奈良高等、和歌山高専、米子高等、松江高等、津山高専、呉高等、阿南高等、詫間電波高等、新居浜高等、弓削商船高等、高知高等、久留米高等、有明高等、北九州高等、佐世保高等、八代高等、都城高等、鹿児島高等 (38高等)

情報サイト

<http://lib.nagaokaut.ac.jp/kousen/SwetScan/SwetScan.html>

新外国雑誌目次データベース
あため KANON



JDreamコンソーシアム

■ アクセスURL <http://lib.nagaokaut.ac.jp/kousen/JDream/JDreamgate.html>

■ 同時アクセス数 55 (55高等と長岡技大全体で55)

■ 利用上の注意
利用の際には必ず「長岡技術科学大学および高等専門学校向けJST固定料金制サービス利用約款」をお読みください。
<http://lib.nagaokaut.ac.jp/kousen/JDream/jstyakkan.html>

■ 利用環境
Windows98、2000、XP:IE5.0以上 または Netscape4.7以上
MacOS8、9、X:IE5.1、5.2 または Netscape4.7以上

■ 内容
科学技術、医学に関する、学術論文や解説的記事などの文献情報を幅広く検索できる2次データベース

DB名	収録情報	収録件数
JSTPlus	科学技術(医学を含む)全分野に関する文献情報。世界50カ国の情報を含む。	1981- 約1,400万件
JST7580	科学技術全分野に関する文献情報。世界50カ国の情報を含む。	1975-1980 約220万件
JMEDPlus	日本国内発行の資料から医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学等に關する文献情報を収録。	1981- 約290万件
医学・薬学予稿集全文DB	医学・薬学・看護学系学会より許諾を頂いた予稿集の全文をPDF化。	1999- 約48万件

■ 利用機関 国立55高等と長岡技大

■ 情報サイト <http://lib.nagaokaut.ac.jp/kousen/JDream/JDream.html>

(出典 図書係資料)

資料 8-2-①-16

電子ジャーナル利用集計

		2004年 1～12月	2005年 1～12月	2006年 1～12月
ACS	Hits	1064	692	1106
	Visits	188	113	71
	Page Views	824	541	303
AIP/APS	Articles	233	54	38
	Abstracts	147	156	82
	Searches	211	190	101
	T/Contents	162	0	1
	HomePage	492	19	4
IEEE-ASPP		—	606	565
KANON	論文検索	—	151	131
	雑誌検索	—	22	22
	詳細表示	—	48	38
	複写依頼	—	0	0
MathSciNet	Sessions	551	316	777
	Queries	986	681	1335
SD	Full Text	534	711	673
JDream II	検索実行回数	—	—	11
	オンライン表示	—	—	41
	ダウンロード	—	—	11

※ JDream II は2006年1～3月のみのデータ。4～12月のデータは下表。

		2006年 4～12月
JDream II	検索回数	814
	オンライン書誌	1,567
	オンライン抄録	1,193
	ダウンロード書誌	24,909
	ダウンロード抄録	23,904

(出典 図書係所蔵資料より編集)

(分析結果とその根拠理由)

本校図書館の選書システムは充実しており、工学および自然科学分野の図書が過半数を占め、教育研究上必要な資料が整っている。また、電子ジャーナルが積極的に導入されている。学生一人10冊借り出しの目標に近づきつつあることなどから、図書資料は有効に活用されていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学内LANによるファイルの一元管理やICカードキーによる電算機演習室の入室管理などにより、学生が情報ネットワークを利用しやすい環境を整えている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

校地および校舎については、高等専門学校設置基準に基き算定された基準面積を確保している。各学科棟、一般教室棟、各センター施設、運動場、体育館等は、教員及び学生の教育研究活動や課外活動などで有効に利用されている。また、バリアフリー化も進んでおり、ほとんどすべての学内施設へ車椅子で移動できるようにしている。

情報ネットワークについては、4つの電算機演習室を学内LANで有機的に統合してファイルの一元管理をできるようにし、どの演習室からでも利用できる環境に整備している。

情報ネットワークに関するセキュリティポリシーは、情報セキュリティ委員会によって策定され、その管理運営は情報教育センターネットワーク運用管理部門が担当している。学生に対する情報ネットワーク利用講習は、情報教育センターが新入生全員および学寮のネットワーク利用者に対して行っている。さらに、第1学年の情報リテラシーの授業で、利用方法やマナーについて教育している。

図書館は、約8万冊の蔵書等を有し、工学および自然科学に関する図書が過半数を占めている。教育用図書は、学生自身によるブックハンティングや教員による学生向け選書システムによる購入によって充実を図っている。図書の貸出冊数は、学生一人あたりの借り出し冊数の目標を立てて、着実に伸ばしてきている。また、電子ジャーナルの導入を積極的に進め、主要学会のジャーナルをカバーしている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動の実態を示すデータや資料は、各課、委員会等の各部門が収集・蓄積し、そのうち重要なデータはデータベース化している。

教育活動に関する点検は、蓄積したデータに基づいて点検・評価運営委員会と外部委員による運営諮問会議が実施している（資料 9-1-①-1，資料 9-1-①-2）。

以下に点検活動の流れを示す（資料 9-1-①-3）。

- ①点検・評価運営委員会は、点検・評価の方針の策定および実施計画の策定を行なう。
- ②点検専門部会は、企業や本校卒業生及び修了生に対してアンケートを実施し、結果を解析・評価する。また、各学科（科）および各委員会などの点検・評価活動を運営目標と教育改善推進計画の実施状況に基づいて評価する。これらを点検報告書としてとりまとめ、点検・評価運営委員会に報告する。（訪問調査資料 平成 18 年度新居浜工業高等専門学校点検報告書）。
- ③点検・評価運営委員会は、点検専門部会からの報告を基に、教育改善を運営会議へ提案する。
- ④運営諮問会議は、本校の運営基本方針、教育研究計画等について、校長の求めに応じて意見を述べる。そして、校長はその結果を運営会議に報告する（訪問調査資料 平成 18 年度新居浜工業高等専門学校点検報告書）。

資料 9-1-①-1

新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則

平成 13 年 8 月 29 日規則第 4 号

(目的)

第 1 条 この規則は、新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動及び管理運営等について行う点検・評価に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(点検・評価に関する事項)

第 2 条 点検・評価に関する事項は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 教育目標等に関する事項
- (2) 教育組織及び教育実施体制に関する事項
- (3) 教育・研究活動に関する事項
- (4) 教員の教育活動の評価体制に関する事項
- (5) 学生の受入に関する事項
- (6) 学生支援に関する事項
- (7) 地域との連携及び国際交流に関する事項
- (8) 財務に関する事項
- (9) 施設設備に関する事項
- (10) 管理運営に関する事項

(点検・評価の実施体制)

第 3 条 点検・評価は、点検・評価運営委員会（以下「運営委員会」という。）の総括の下に実施するものとする。

2 点検・評価を実施するため、点検専門部会を置く。

(運営委員会)

第 4 条 運営委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 事務部長

- (4) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (5) 専攻科長
- (6) 各学科、数理科及び一般教養科の主任
- (7) 高度技術教育研究センター長
- (8) 総務課長及び学生課長

- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
 - 3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- (所掌事項)

第5条 運営委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 点検・評価の方針の策定に関する事。
- (2) 点検・評価の実施計画の決定に関する事。
- (3) 部会への点検及び評価・企画の依頼に関する事。
- (4) 部会からの報告の取り扱いに関する事。
- (5) 点検・評価結果のとりまとめ及び報告書の作成に関する事。
- (6) 点検・評価結果の公表に関する事。

(運営)

第6条 校長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

- 2 運営委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴することができる。
- (点検専門部会)

第7条 点検専門部会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 教務主事、学生主事及び寮務主事のうち、校長が指名した者 1人
- (2) 教授又は准教授のうち、校長が指名した者 3人
- (3) 総務課長及び学生課長

(所掌事項)

第8条 点検専門部会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 運営委員会の付託に基づく点検の実施に関する事。
- (2) 点検結果のとりまとめ及び報告に関する事。
- (3) 点検結果に基づく評価に関する事。
- (4) 年度ごとの学校運営目標及び計画の評価に関する事。
- (5) 本条(3)(4)の評価結果に基づく点検評価報告書の作成及び運営委員会への報告に関する事。
- (6) 学校評価データベースの構築に関する事。

(事務)

第9条 運営委員会の事務は、総務課において処理する。

(実施事項)

第10条 この規則に定めるもののほか、点検・評価の実施に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て校長が定める。

附 則

この規則は、平成13年8月29日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年8月26日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年6月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年2月8日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料9-1-①-2

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員が互選する。

- 2 会長は会議を招集し、その議長となる。
- 3 会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

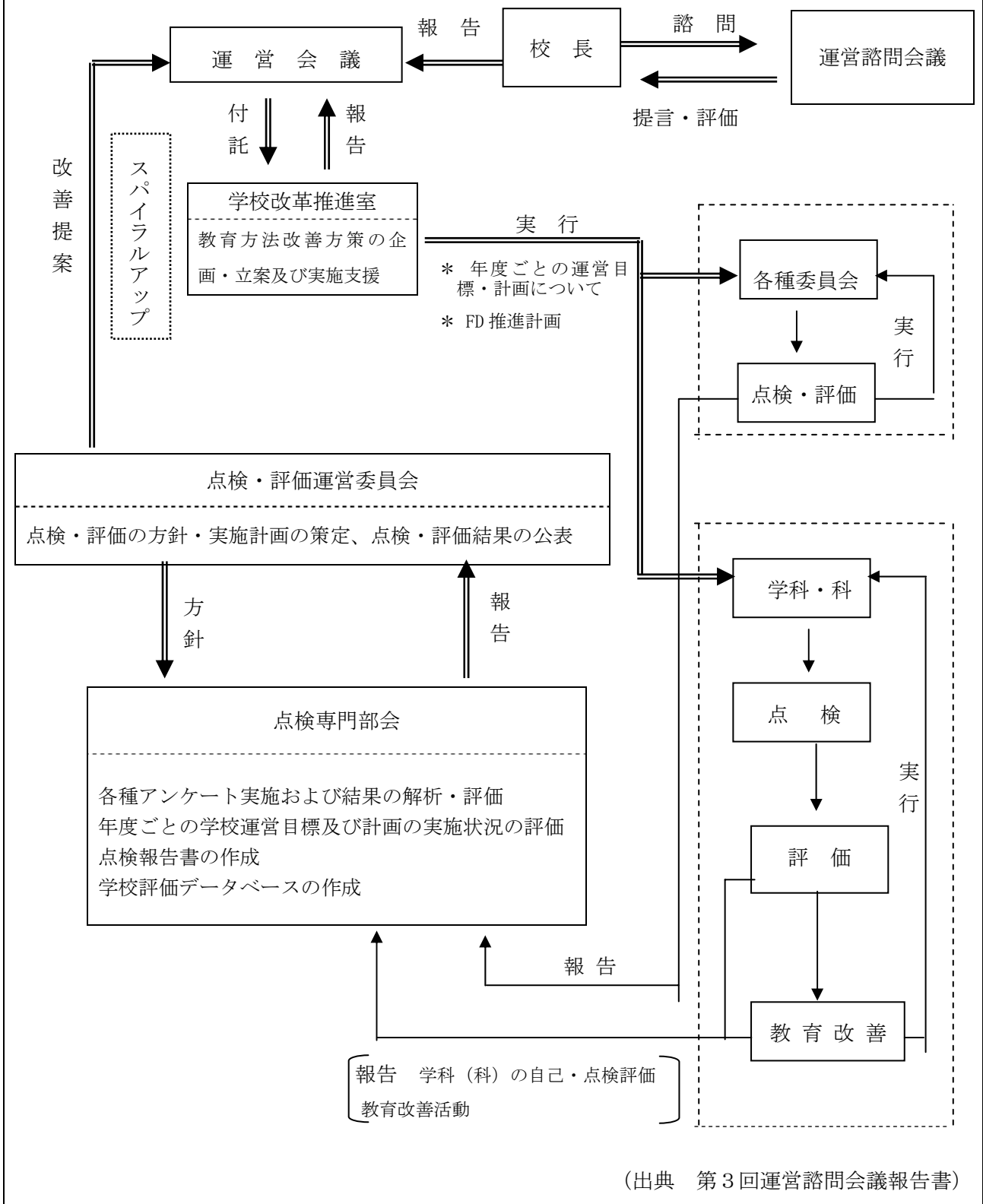
附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程(平成13年8月29日規程第8号)は、廃止する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料9-1-①-3

教育改善等実施の組織体制図



(分析結果とその根拠理由)

() 年 学科 組 科目名【 】
 担当教員【 】

1. シラバス（授業要目）どおりの授業および評価ですか。
 そう思う そう思わない シラバスを知らない
2. 作図にかける時間数など、進め方は適切ですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
3. 設備の点検・整備はよくできていると思いますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
4. 担当者の指導は適切ですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
5. テキストやプリントは理解しやすいですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
6. 製図はどのように仕上げていますか。
 自分で仕上げる 他人と相談して仕上げる 他人のものを丸写しする
7. 作図技術の指導は適切ですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
8. 製図の内容に興味を感じますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
9. 授業内容全般についてよく理解できと思いますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
10. あなたの製図に対する姿勢はどうですか。
 真面目に受けている だいたい真面目に受けている あまり真面目に受けていない
11. 他の図面を見て理解できると思いますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
12. この授業の学習目標に対する自分の達成度はどのくらいだと思いますか。
 80%以上 60%以上 60%未満

体育に関するアンケート

体育の授業改善のための資料にします。以下の設問に対して該当する項目の□をぬりつぶしてしてください。(例 ■)

() 年 学科 組 科目名【 】
 担当教員【 】

1. シラバス（授業要目）どおりの授業および評価ですか。
 そう思う そう思わない シラバスを知らない
2. テーマごとにかける時間数などすすめ方が適切ですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
3. 1班の人数は適切ですか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
4. 設備の点検・整備はよくできていると思いますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない
5. 安全や事故に対する配慮がなされていると思いますか。
 そう思う どちらともいえない そう思わない

12. 前問で「考えている」と答えた人に、その進路（希望）はどこですか

就職 専攻科進学 大学編入 その他

(出典 平成 18 年度勉学アンケート)

資料 9-1-②-4

勉学に関するアンケート（専攻科）

教育改善のための参考にしますので、以下の設問に該当する項目にチェックを入れてください。

学 年： 1年 2年
 専 攻： 生産工学専攻 生物応用化学専攻 電子工学専攻

【1】新居浜高専専攻科を選んだ理由は何ですか。（複数回答可）

- 自分のやりたい勉強ができる JABEE の認定を受けている（受ける見込み）
 大学院進学に有利である 就職に有利である
 今までと同じ環境で勉強できる 授業料が安い
 自宅から通学できる 寮がある
 大学編入希望だったが、うまくいかなかった
 就職希望だったが、うまくいかなかった
 その他（具体的に書いてください）

【2】学習意欲について

1. 学習面において、専攻科に入学してよかったと思いますか。4段階で評価してください。
 よかったと思わない 1 2 3 4 よかったと思う

2. 設問【2】-1で「3」または「4」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）

- 自分のやりたい勉強ができる 本科から連続の授業なのでとつきやすい
 大学ではできない勉強ができる 少人数でわかりやすい
 その他（具体的に書いてください）

3. 設問【2】-1で「1」または「2」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）

- 授業内容が思っていたのと違う
 授業レベルが高くてついていけない
 授業の量が多すぎる
 大学に編入学した方がよかったと思う
 高専卒業で就職した方がよかったと思う
 その他（具体的に書いてください）

4. 設問【2】-3で「授業内容が思っていたのと違う」と答えた人に質問します。どのように違っていましたか。

5. 設問【2】-3で「大学に編入学した方がよかったと思う」と答えた人に質問します。なぜそう思いましたか。

6. 設問【2】-3で「高専卒業で就職した方がよかったと思う」と答えた人に質問します。なぜそう思いましたか。

【3】勉学状況について

1. 授業の理解度はどうですか。4段階で評価してください。
理解できていない 1 2 3 4 よく理解できている
2. 設問【3】－1で理解度を「1」または「2」と評価した人に聞きます。今後、どうすればよいと思いますか。(複数回答可)
 真剣に授業を聞く 予習・復習など自主学習をしっかりやる
 生活状況(アルバイトなど)を改める このままでよい
 その他(具体的に書いてください)
3. 授業の時間数についてどう思いますか。
 多い 適当 少ない
4. 宿題、レポートの分量はどう思いますか。
 多い 適当 少ない
5. 授業時間以外の学習時間(宿題やレポート、予習・復習、資格取得やTOEICの勉強などの合計)は1日平均どの程度ですか。
 2時間以上 1時間程度 30分程度 ほとんどしない
6. そのうち、宿題やレポート以外の自主的な学習時間は1日平均どの程度ですか。
 2時間以上 1時間程度 30分程度 ほとんどしない
7. 宿題やレポート以外の自主的な学習の内容を具体的に書いてください。

【4】教育内容について

1. 自分の所属する専攻(プログラム)の「学習・教育目標」を知っていますか。
 よく知っている だいたい知っている あまり知らない 全く知らない
2. 在学中にどんな能力を伸ばしたいと考えていますか。(複数回答可)
 専門知識 専門以外の工学知識 一般教養
 論理的思考力 問題解決力・課題発見力 コンピュータ活用力
 英語力 日本語コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力
 その他(具体的に書いてください)
3. 授業内容をもっと充実してほしいと思う科目は何ですか。(複数回答可)
 特にない 英語 数学
 教養科目 専門の講義科目 専門の実験・実習
 コンピュータ活用科目 インターンシップ(企業実習)
 ものづくり科目 特許関連科目 経営・ベンチャー関連科目
 技術者倫理関連科目 環境・廃棄物関連科目
 その他(具体的に書いてください)
4. 設問【4】－3で「教養科目」と答えた人に質問します。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。
5. 設問【4】－3で「専門の講義科目」と答えた人に質問します。具体的にどんな科目を充実してほしいですか。
6. 苦手とする分野は何ですか。(複数回答可)
 特にない 英語 数学
 教養科目 専門の講義科目

- 専門の実験・実習 コンピュータ活用科目
 その他（具体的に書いてください）

7. 設問【4】－6で「教養科目」と答えた人に質問します。具体的にどんな科目が苦手ですか。

8. 設問【4】－6で「専門の講義科目」と答えた人に質問します。具体的にどんな科目が苦手ですか。

9. 講義科目について（複数回答可）

- このままでよい
 基礎学力の充実を図るようにしてほしい
 分野は狭くてもよいので、もっと深く専門的にしてほしい
 幅広く、色々な分野の勉強ができるようにしてほしい
 その他（具体的に書いてください）

【5】進路について

1. 将来の進路の面において、専攻科に入学してよかったと思いますか。4段階で評価してください。
 よかったと思わない 1 2 3 4 よかったと思う

2. 設問【5】－1で「1」または「2」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）

- 希望の大学院への進学が難しい 希望の企業への就職が難しい
 進路指導が不適切
 その他（具体的に書いてください）

3. 専攻科修了後の進路について考えていますか（2年生は、決まっている場合を含む）。

- 就職 大学院進学
 考えているが、まだ迷っている まだ考えていない
 その他（具体的に書いてください）

4. 専攻科修了生の過去の進学・就職先を知っていますか。

- よく知っている 少しは知っている あまり知らない 全く知らない

5. 進路を考えるための情報について聞きます。（複数回答可）

- 情報を積極的に仕入れている
 情報を与えてもらえるのを待っている
 役に立つ情報を十分に手に入れることができる
 どうやって情報を仕入れてよいかわからない
 情報はあるが、どのように考えてよいかわからない
 その他（具体的に書いてください）

【6】特別研究について

1. 自分の特別研究に関して満足していますか。4段階で評価してください。
 満足していない 1 2 3 4 満足している

2. 設問【6】－1で「1」または「2」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数回答可）

- 研究テーマが面白くない
 内容が難しすぎて理解できない
 教員に言われたことを作業しているだけで、面白くない
 研究よりも、他の色々な勉強をしたい
 その他（具体的に書いてください）

3. 特別研究の時間についてどう思いますか。

- 多い 適当 少ない

【7】 学生生活について

1. 学生生活面において、専攻科に入学してよかったと思いますか。4段階で評価してください。

- よかったと思わない 1 2 3 4 よかったと思う

2. 専攻科での学生生活をどのように感じていますか。(複数回答可)

- 本科のときと変わりはない
 全く新しい気持ちに切り替わった
 充実した毎日を送っている
 勉学に時間を取られ過ぎる、もっと余裕が欲しい
 面白くない日々を送っている
 その他 (具体的に書いてください)

3. 設問【7】－2で「面白くない日々を送っている」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。

4. 専攻科の学生活動についてどう思いますか。(複数回答可)

- 本科の学生会と一緒に活動 (クラスマッチなど) に参加したい
 国領祭に専攻科として参加したい
 専攻科生の独自の行事 (スポーツ大会など) をしたい
 特に参加する気はない
 その他 (具体的に書いてください)

5. 専攻科学生室についてどう思いますか。(複数回答可)

- 使いやすい
 使いにくい
 どちらともいえない
 その他 (具体的に書いてください)

6. 設問【7】－5で「使いやすい」と答えた人に聞きます。どんな点が使いやすいですか。

7. 設問【7】－5で「使いにくい」と答えた人に聞きます。どんな点が使いにくいですか。

8. 専攻科学生室を有効活用するために整備してほしい物品・資料等があれば書いてください。

【8】 専攻科全般について

1. 後輩に、専攻科への入学を勧めますか。

- 入学を勧めたい
 入学を勧めたくない
 どちらともいえない
 その他 (具体的に書いてください)

2. 設問【8】－1で「入学を勧めたい」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。

3. 設問【8】－1で「入学を勧めたくない」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。

4. 専攻科のよいところは何ですか。

5. 以上にかかわらず、専攻科について意見、感想などがあれば、何でも自由に書いてください。

(出典 専攻科教育委員会)

資料 9 - 1 - ② - 5

学生による担任アンケート

このアンケート調査は、本校の教育改善の一環として、授業アンケートや勉強アンケートだけでなく、クラス担任の仕事に関しても学生のみなさんの意見を聞くためのものです。この1年間を振り返り、みなさんのクラス担任について回答してください。

以下の設問に対して該当する項目の□をぬりつぶしてください。(例 ■)

あなたの学年は (全員)

1年 2年 3年 4年 5年

あなたのクラスは (1, 2年生のみ)

1組 2組 3組 4組 5組

あなたの学科は (全員)

M E D C Z

1. あなたは、学校の諸規則を守り、健全な学生生活を送っていると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
2. あなたは、学校行事やクラス全体の行事、与えられた役割などに進んで参画していますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
3. あなたの担任は、学習面 (学習方法や学習姿勢など) の指導に熱心で、その指導は適切であると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
4. あなたの担任は、生活・行動面の指導に熱心で、その指導は適切であると思いますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
5. あなたの担任は、ホームルームやクラス全体の行事などについて熱心に取り組んでいますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
6. あなたの担任は、学生の意見を参考にしながらクラス運営をしていますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
7. あなたの担任は、学生の悩みや相談を親身になって聞いてくれますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
8. あなたの担任は、学校の話だけでなく社会、進路、人生のことなど、ためになる話をしてくれますか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない
9. 指導面に関して、あなたの担任のもっとも良い点を1つ挙げてください。(記述)
10. あなたの担任を総合的に判断すると、良い担任ですか。
 そう思う ややそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない
 そう思わない

(出典 学生課教務係資料)

資料9-1-②-6

平成18年度学生と学校との交流懇談会要旨

日 時	平成19年2月14日(水) 16時10分～19時10分
場 所	第2会議室
出席者	<p>【学校関係者】</p> <p>校 長, 教務主事(代理:吉川), 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 西井教員(学生会担当) 事務部長, 総務課長, 学生課長</p> <p>【学生会・寮生会】</p> <p>学生会長 5D 石 川 和 樹 風紀委員長 5E 古 田 将 空 次期学生会長 4D 白 石 泰 大 次期副会長 3M 峯 原 将 志 " 3D 戸 田 美 里 寮生会長 5E 日 野 洋 介 副会長 5C 岡 田 舞 " 4C 森 野 智 仁</p>
進 行	岡山学生課長

懇談会要旨

1 開会

教職員及び学生の紹介の後、学生課長から本懇談会の進行について説明があった。

2 校長あいさつ

校長から、あいさつ及び本懇談会の趣旨について説明があった。

3 前回懇談会での提案事項に対する学校の取組みについて

平成17年度の本懇談会における主な提案事項に対する学校の取組みについて、教務委員会、学生委員会、寮務委員会及び専攻科から、それぞれ資料に基づき報告があった。

4 学生会の取組みについて

学生会長から、平成18年度における学生会の取組みについて、資料に基づき報告があった。
なお、学校側から、学生会新聞について教職員にも配布してほしい旨要望があった。

5 寮生会の取組みについて

寮生会長から、平成18年度における寮生会の取組みについて、資料に基づき報告があった。

6 学生会からの提案について

(1) 新入生歓迎オリエンテーション

学校行事、学生会行事やクラブ紹介などを、SHR等を利用して紹介する。

(2) 卒業式第2部

卒業式後のパーティで、卒業生の思い出の写真をスライドで紹介する。

(3) 「高専ソコチカラ」を学生会の行事とし、運営、経費の補助等を行う。

(4) 「よさこい」への参加

高知高専との学生会交流の一環として行いたい。

(5) 体育祭の実施

現在はクラスマッチしか行っていないが、運動会のような形式で全員が参加できるような体育祭を計画中である。

【学校側】

種目などを考えて、全員が楽しく参加できるような行事にしてほしい。とりあえずは現行のク

ラスマッチの中で改善を考えてほしい。

- (6) イルミネーションを盛大にし、点灯式を行う。本館玄関前の樹木のところにプラグを付けてほしい。

【学校側】

単に金をかけて盛大にするのではなく、身近な材料をもとに自分達で工夫し高専生らしいものづくりを中心とした手作りのイベントを考えてほしい。

- (7) セタイベント，バレンタインイベントの実施
 (8) 昼休みに楽しい放送の実施
 (9) 環境美化活動（市民一斉清掃への参加など）

【学校側】

ボランティア活動全般への取組も行ってもらいたい。

- (10) 風紀活動

今年度も実施したが、校門での低学年に対する茶髪，ピアスの指導を継続して行う。

【学校側】

学生委員会，学級担任等と連携して行ってほしい。

- (11) 防犯の呼びかけ

学生会としてポスターの作成，掲示など防犯活動を行いたい。

【学校側】

非常にいい試みであるので，是非実行してほしい。

7 学生会からの要望について

- (1) 学生会行事に参加しない学生への罰則

【学校側】

罰則を考えるだけではなく，普段から学生会活動を活発にして，学生全員の意識向上を図ってほしい。例えば，定期学生大会の議題等については事前に各クラスに周知し，それについてあらかじめ議論をしてもらうなどすれば，学生全員が内容を把握でき，意識も向上できるのではないかな。

学生委員会においても検討したい。

- (2) 学校側で施設の建設や修復の案が出たとき，学生の意見を聞いたり告知したりしてほしい。

【学校側】

時間的なこともあり，事前に告知できないこともあるが，できる限り早く告知できるよう努力したい。

- (3) 第2体育館のトイレを男女別に

【学校側】

グラウンドへのトイレの設置は予算的に難しいので，第2体育館のトイレを外から利用できるよう検討している。男女別にするには予算措置が必要であり，今すぐというわけにはいかないが検討していきたい。

- (4) 制度を変えるときには，学生の意見を聞いたり告知したりしてほしい。

【学校側】

現在，学修単位の導入を検討している。学修単位の考え方や実施科目については，できる限り早く周知できるよう努力したい。

【学生会】

学生としては，案の段階でもいいから教えてほしい。

【学校側】

すべてのプロセスをとるわけにはいかないが，可能な部分については告知していきたい。

- (5) 時間割の改善（パソコンを使用する授業が重なるとフリーズする。）

【学校側】

情報教育委員会で，サーバーの交換など対策を行っている。

- (6) 教員は，オフィスアワーの時間は部屋にいてほしい。

【学校側】

オフィスアワーの時間は在室しておくよう教員に徹底したい。また、急用などのときは研究室に掲示し、いつ頃帰るかわかるように配慮したい。

- (7) 携帯用のサイト作成やメール配信を行ってほしい。

【学校側】

現在も台風のときなど、教務主事、学生課長は、深夜、早朝に出勤しサイト作成の準備態勢を取っている。すべての情報に対応するのは時間的、技術的に難しいが、できるものについては努力したい。

- (8) 風紀指導を行ってほしい。

【学校側】

現在も、担任と学生委員会が協力し、指導している。まだ、不十分な点もあるので今後も改善したい。

- (9) 土日に学校施設を利用できるようにしてほしい。

【学校側】

学校として施設の管理に責任がある。空いているからといって自由に使用していいというわけにはいかない。教職員の当番をおくことについては、教職員の勤務時間の問題があるので、現状以上の対応は無理である。

8 寮生会からの提案等について

- (1) 環境委員会を中心に、学寮の環境対策を徹底していく。(土足の排除、風呂掃除徹底、共用部分の清掃の徹底など)

【学校側】

現在、土足については無くなっているようであるが、共用部分の隅などに綿ほこりが溜まっている状況があるので、改善してほしい。

- (2) 生活委員を中心として寮食堂でのマナーの向上に努める。

【学校側】

食堂だけでなく、日常生活におけるすべてのマナーを向上させてほしい。

- (3) 低学年や女子寮生とよく意見交換をし、寮行事に活かしていく。
(4) 随時改善点(小さいことでも)を見つけて、迅速に改善していく。

【学校側】

点呼時間外に外出している者を多数見かける。寮生会で議論して点呼時間外の外出をなくすよう努力してほしい。

今年度、指導した学生のうち半数近くが寮生である。寮生の規範意識を向上させるよう努めてほしい。(学生委員会)

9 校長あいさつ

校長から、今後とも学生と教職員が協力しあい、キャンパス全体が、学びやすい場、住みやすい場になるよう、継続して話し合っていきたいことなど、閉会のあいさつがあった。

10 閉会

(出典 平成18年度運営会議資料)

電気情報工学科 学生と教員との懇談会 問題点とそれに対する学科の意見

1. 日時:平成19年2月16日(金)、16:10~17:10
 2. 場所:5E教室
 3. 参加者: 学生:電気情報工学科の各学年2名ずつ、計10名
教員:主任、教務委員、各学年の担任、副担任、計8名
- なお、下記「学科としての意見」は懇談会の場、及び、後日学科内で纏めた意見である。

学生の問題点	学科としての意見
<授業に対する問題点> ・小テストが重なるので、先生間で調整して欲しい(5E)。	・小テスト時期をずらす等の方法もあるので、そういう状況になった場合には教えてください。
・卒論で忙しいときに実験レポート提出がある(5E)。	・スケジュールは予め分かっているので、計画的に実施するしかないと思う。
・実験報告書は手書きでなければならないのか(3E)。	・原則:3年生までは手書き。4、5年生を含めて理由を担当先生が学生に説明する。
・休憩時間(3分程度)を取って貰えれば眠たくならない(全学年)。	・先生毎に状況を見て対応して貰う。
・居眠りをしている者の対応をきちんとし、徹底して欲しい(5E)。	・学科としては対応を決めている(先生によっては来ていない場合があると 思われるが、これについては今後検討する)。
・ただただ板書する先生、また、教科書通りを板書する先生が居る(3E)。	・授業の仕方については学科として今後チェックしていく。
・年度末になるとシラバス通りにするために最後の方の講義がおろそかになる。また、試験にはそこから出される(3E)。	・授業は遅れ気味になる傾向はあるが、重要なところはちゃんと講義するように学科内で議論する。
・黒板の下の方、左右(光る)に書かれたら見えない。	・左右(光る)に関してはブラインドを降ろす、両端最前列の席を空けるなどの工夫をするなど学科内で検討していく。その他については学科内で注意する。
・また、先生の陰で見えない(4E)。	・フィードバックすべきとのことで教務委員会が中心となり、実践していくこと している。
・アンケート結果はフィードバックして貰えないのか(3E)。	・WebClassは有効に利用していきたい。左記問題点に答えられるよう検討する。
・課題(宿題など)が出されたとき、答だけではなく、途中の考え方などを記載した模範解答が欲しい(専門、一般科目)。WebClassなどの有効利用を考えるべき。回路理論演習は解答コピーが欲しい(2E)。	・今後左記のようなことがないように対応していく。
・情報処理室のユーザ環境が壊れても修理が非常に遅い(1E)。	・左記のようにうるさい学生はごく一部の常習犯的な学生である。対応を 検討する。
・授業中うるさい学生が居る。叱られてもすぐまたうるさくする。徹底的に対応して欲しい(2E)。	

<授業以外に関する問題点> ・体育館が混んでいるので、部活時間を出来れば20:00まで延ばして欲しい(1E)。	・部活時間変更には色々な問題がある。学科だけでは解決できない問題である。20:00までの延長は難しいと思われる。
・寮ルールは学校より厳しすぎる(服装など)(1E)。 また、校則違反した場合の罰則としては最初注意するが、その後注意を止める。学生には効果がない(2E)。風紀指導はやるならきちんと最後まで指導して欲しい(全学年)。	・学校全体としての問題であるが、教職員一人一人意識して対応していきたい。
・ピアス、茶髪禁止に関しては厳しくなくても良いと思うが、ルールならば罰則が緩すぎるのではないのか(5E)。	・学校のルールである。学校としての厳しい対応が必要であるが、教職員としても一人一人厳しく指導していく必要があると考える。
・資格について、案内だけでなく、どのような勉強をすればよいのか。また、朝の補習などで指導して貰えないのか(2E、4E、5E)。	・資格取得については学科としても力を入れている。朝の補習はすぐには難しいが、ショートホームルームで1日1問の問題を行うなど今後工夫をして行く必要があると考える。
<設備に関する問題点> ・バイクを止める場所に屋根が欲しい(3E)。	・学校としての問題であり、今後機会がある毎に学科としても訴えていきたい。
・光の波長測定装置など実験設備が老朽化しすぎて動かないものがある。また、回路測定で回路が悪いのか波形が観測できないものがある。きちんと保守・点検をして欲しい(5E)。	・古い装置はそれなりに意義のあるものがあり、別に悪いわけではないが、動かないことは不味い。今後動くものに更新していきたい。
・演習室PCにFlashを入れて欲しい(就職活動で見れないページがある)(3E)。	・入れるかどうかについては今後学科内で検討していきたい。
<その他> ・定期試験後の1週間の期間:90分も必要なのか。やるならちゃんと90分やって欲しい(例えば30分で試験解答を終わって、その後はほったらかされるのは困る)(3E)。	・関連項目、その後の授業内容を講義するなどして、90分間は有効に使うようにしていきたい。
・新居浜祭りに休日があるので、西条祭日も休日にして欲しい(5E)。	・学校として考えることであるが、休日にすることは今は難しいと考える。その理由としては、実験など試験を実施しない科目の授業時間数の確保が現在ぎりぎり、これ以上休みを取ることが困難などが上げられる。
・今回の懇談会は忙しい卒論締め切り日にして欲しくなかった(5E)。	・その気持ちは分かるが、当方のスケジュールもあり、止む終えなかった。
・今回の懇談会に対する検討結果はいつ知らせて貰えるのか。ずるずる行かれて報告無しでは困る(5E)。	・期末試験後の特活の時間に担任から報告する。

(出典 平成18年度電気情報工学科 学生と教員との懇談会まとめ)

資料 9 - 1 - ② - 8

平成 18 年度専攻科生との交流懇談会議事録

1. 日時 平成 19 年 2 月 8 日 (木) 16:10~18:20
2. 場所 教職員連絡コーナー南
3. 出席者: 水野校長、早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)
阿部(2SM)、石本(2SE)、藤中(2SC)、小澤(1SM)、中常(1SE)、白石(1SC)
4. 配布資料:
資料 1 平成 17 年度専攻科生との交流懇談会後の活動報告
資料 2 平成 18 年度専攻科生との交流懇談会における専攻科生からの提案及び要望
5. 議事概要
水野校長の挨拶の後、専攻科長より前回懇談会からの活動状況報告があり、その後学生からの提案に基づく懇談を実施した。

(中略)

(2) 学生からの提案に基づく懇談概要

①施設関係

(1)	提案・要望	生物棟と電子棟の間に電灯を設置してほしい。(2SC)
	対応	施設係に相談し対処する。
(2)	提案・要望	教室の中に放送のスピーカーを設置してほしい。(2SC)
	対応	放送の聞こえにくい教室について施設係に確認を依頼する。
(3)	提案・要望	AED の数を増やしてほしい。(2SC)
	対応	AED の数を増やすより、まず専攻科生への AED の講習会の実施を検討する。
(4)	提案・要望	バイク置き場の屋根の部分を増やしてほしい。(2SE)
	対応	予算申請を実施している。
(5)	提案・要望	パソコン(演習室の)システム管理をきちんとしてほしい。(2SE)
	対応	情報教育センターに連絡して、対応を依頼する。
(6)	提案・要望	専攻科生室のコンピュータを使いやすくしてほしい。(2SE)
	対応	設置している 2 台のコンピュータは、申請すればインターネットを利用可能である。個人のノートパソコン等からも、申請してウイルス対策等が確認できればインターネットの利用が可能である。
(7)	提案・要望	専攻科生室に、ゴミ箱や自動販売機を設置してもらいたい。(2SM)
	対応	ゴミは持ち帰ること。自動販売機については、維持管理の問題で難しい。
(8)	提案・要望	運動場にトイレを設置して欲しい。(2SM)
	対応	近隣のトイレを利用する。維持管理がしっかりできるようになるまでは、設置しない。
(9)	提案・要望	原付を西門近くにも置けるようにしてほしい。(1SE)
	対応	事故防止のために、これまでのバイク置き場を利用する。
(10)	提案・要望	個別のロッカーを設置してほしい。(1SE)
	対応	全員分の設置は難しいが、専攻科生室への 20 個程度のロッカーの設置を検討する。

②授業関係

(1)	提案・要望	ビジネスマナーの授業をしてほしい。(2SC)
	対応	ビジネスマナーに関する書籍、ビデオ等の配架を検討する。

(2)	提案・要望	無駄な教室の移動をできるだけ少なくしてほしい。(1SE)
	対応	教室が空いていれば、移動の必要がないように教室の変更は可能なので、担当教員に相談すること。
(3)	提案・要望	1, 2年の授業科目数のバランスを考えてほしい。(1SE)
	対応	基礎科目、応用科目等の問題もあるが、今後科目の配置を検討する。
(4)	提案・要望	研究に費やす時間を増やしてほしい。(1SE)
	対応	問題解決グループ演習の学習で放課後にも多くの時間を費やしていることを認識しているので、内容を検討する。
(5)	提案・要望	英語の授業をTOEIC重点にしてほしい。(1SE)
	対応	授業ではTOEICの自学自習に必要な基礎的な文法を学習している。TOEIC対応は授業だけでなく自学自習で対応すること。TOEIC各問題の場面設定が理解できるように、海外でのビジネス、留学等いろいろなケースに関する解説を、授業に組み入れることを検討する。
(6)	提案・要望	体育の授業を入れてほしい。(1SE)
	対応	リフレッシュは授業でなく、工夫して実施すること。
(7)	提案・要望	インターンシップ先を増やしてほしい。(1SE)
	対応	インターンシップ先開拓を進める。具体的なインターンシップ先の提案を期待する。
(8)	提案・要望	テスト返却期間は必要ないのでは。(1SE)
	対応	達成度の評価、試験の解説、授業のまとめ等に必要である。

③学生生活関係

(1)	提案・要望	クラスマッチで専攻科1年と2年に分けてほしい。(2SE)
	対応	現在もチームを分けて出場することは可能である。
(2)	提案・要望	車両乗り入れ、バイク置き場等のルールの徹底。(2SE)
	対応	学生委員会に依頼する。
(3)	提案・要望	学外行事(専攻科交流会、学会など)へ参加する際の経費を考えてもらいたい(2SM)
	対応	旅費、宿泊費の一部を補助している。
(4)	提案・要望	専攻科生への連絡を徹底してほしい。(2SM)
	対応	連絡を徹底する。専攻科学生室の掲示板を見ること。
(5)	提案・要望	就職活動の時期に行事が重ならないようにしてほしい。(1SE)
	提案・要望	学外行事の日程変更は難しいので、予定をたてて準備に入ること。

(出典 平成18年度専攻科生との交流懇談会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケートにより、個々の授業に対する学生の評価を聴取できている。勉学に関するアンケートでは、学生の学科に対する満足度などを把握できている。これらの結果は教務委員会と専攻科教育委員会が分析し、評価している。また、学生会代表学生などとの懇談によって、学生からの意見や要望を聴取し、各委員会や学科(科)が評価に活用している。

観点9-1-③： 学外関係者(例えば、卒業(修了)生、就職先等の関係者等が考えられる。)の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

地元各界の有識者をメンバーとする運営諮問会議から教育研究活動や地域連携活動に関する意見を聴き取り、本校の各部門の自己点検に反映している(資料9-1-③-1)。

平成15年度に全学生の保護者を対象に教育改善に役立てるためのアンケートを実施し、教育活動の点検を行った(資料9-1-③-2, 訪問調査資料 新居浜工業高等専門学校点検報告書(平成15年度版))。また、毎年、保護者懇談会および授業参観日における保護者アンケートにより、保護者から見た授業を含めた学校の状況について意見を聴取し、それによる評価を行っている(資料9-1-③-3, 資料9-1-③-4, 資料9-1-③-5)。授業参観日に関しては、近隣の中学校および高校の教員にも案内を出し、参加者に授業の状況についてコメントをもらった(資料9-1-③-6)。さらに、学寮では保護者連絡会において、寮生指導に対する意見を聴取し、点検に活用している(資料9-1-③-7)。

平成13年度から平成15年度、および平成18年度に卒業生を対象に、平成15年度には就職先の企業を対象にアンケートを実施し、教育内容の点検を行った(資料9-1-③-8, 資料9-1-③-9, 資料9-1-③-10, 訪問調査資料 新居浜工業高等専門学校点検報告書(平成15年度版), 平成18年度新居浜工業高等専門学校点検報告書)。

資料9-1-③-1

(2) 第1回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

指 摘 事 項 等	対 応 状 況
○創造性教育について ・ ミニロボコンやセルフプランニング実験などの取り組みの積極的な推進	・ H17から生物応用化学科の「生物応用化学実験」にセルフプランニング実験を導入 ・ 専攻科における問題解決型学習の充実(H17電子工学専攻「問題解決グループ演習」導入) ・ 卒業研究・特別研究論文集の作成(H17予定)
○安全衛生に関する取り組みの推進	・ 教職員用と学生用の安全マニュアルの作成、安全教育でのマニュアルの活用(H17) ・ AED(自動体外式除細動器)の設置と教職員、学生を対象とした救命救急講習会の実施(H17) ・ 寮の防災マニュアルの作成(H17予定)
○学生指導 ・ 55高専が協力した課外活動やコンクールの取り組みの推進	・ H16から四国6高専による共同授業の実施(H17テーマ「海の世界とエネルギー」) ・ 全国では、プログラミングコンテスト、ロボコン以外にも、H16からデザインコンテストを実施、本校も今後参加予定 ・ 新居浜ものづくりのまちシンボルロボアイデアコンテストの実施(H17)

<p>○研究活動と地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業との交流の推進 ・ 長期インターンシップの検討 ・ 教育研究設備の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17 高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」の立ち上げ ・ 専攻科シニアインターンシップの充実 ・ 都市エリア産学官促進事業で、走査型電子顕微鏡など研究設備の充実 (H17 予定)
<p>○教育理念及び教育目標に応じた入学 者確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PR活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松山地区ものづくりフェスティバルの開催 (H17) ・ 中学生向けのわかりやすい学生受入方針の募集要項等への明示 (H17)

第2回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

指 摘 事 項 等	対 応 状 況
<p>1. 入試志願者の確保方策について</p>	
<p>○継続的PR活動と保護者等PR対象の 拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学3年生用広報誌「はばたけ未来へ」(23,000部発行)の内容の大幅な見直し ・ 中学2年生へのPRを開始 ・ カレンダー付募集ポスター(1,000部発行)の配布 ・ 中学校訪問：訪問地域の拡大と複数回訪問の実施
<p>○メディア等を活用したPR（情報発信 の充実）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ TV、新聞等のメディアの活用はできていない。 ・ メールマガジンの配信を開始 (H18.4) 毎月1回発行。 ・ 新居浜高専のポスターの作成・配布
<p>○理系離れ対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来からの実施：中学生対象の夏季体験学習、小・中学校理科教員対象のサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)、ものづくりフェスタ in 松山(2年目)、中学ロボコンへの参加(2年目)、出前講座等 ・ 新規に実施：科学フェスティバル(大洲)へ参加、愛媛大学理学部「親子フェスタ」へテーマ参加、四電フェスタへ参加等
<p>○中学校主催の進路説明会への積極的 参加等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校訪問時に参加したい旨を依頼 (H17年度 111校→H18年度 163校) ・ 中学校長理事校への挨拶(本校校長) ・ 地区別説明会の拡大(県内5地区及び県外3カ所) ・ 学校見学会(9月と学園祭時の2回実施)
<p>○女子学生の確保(設備の充実、女性教 員の増員、進路先の開拓等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女子寮等を含めて、設備については徐々に整備 ・ 女性教員も増員予定
<p>○その他(選抜方法の見直し)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦基準、推薦枠、面接方法の見直し ・ 入試会場の増設(推薦選抜：2会場、学力選抜：5会場) (※ 別紙参照)

<p>2. 地域との連携による教育活動の促進について</p> <p>○学生主体型、学生参加型の地域連携教育活動の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）地域活性化への貢献（地元型）」の採択 テーマ「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」 概要「ものづくり人材育成」および「まちづくり・地域の求心力向上」（ファイル資料7） ・市内小学校校区文化祭への学生作製作品の出展と学生による成果発表
<p>○公開講座の実施状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座、出前イベント、公開講座等 小中学校対象59講座、市民対象25講座を公開（案内） 出前講座6件、出前イベント6件 出前イベント（四電フェスタ、ものづくりフェスタ in 松山、愛媛大学理学部親子フェスタなど）への学生参加 新居浜市生涯学習センターと共催で新居浜高専市民講座を毎年8講座 新居浜高専単独主催の公開講座1講座
<p>○愛テクフォーラムと学生との関わりの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会 学生、教員約200名が参加 ・市内小学校校区文化祭への学生作製作品の出展と学生による成果発表

（出典 第2回および第3回運営諮問会議報告書より編集）

資料9-1-③-2

保護者へのアンケート調査票

本アンケートは保護者の皆様のご意見を伺い、学校運営、教育改善のための資料として使わせていただくためのものです。どうぞ率直なご意見をお寄せ下さい。

選択形式の回答は□内に×印を入れて下さい。機械で読み取りますので□内からはみ出ないようにご記入下さい。

お子さんの性別、学年・学科をお選びください。

男子 女子

(本科生) 学年 1 2 3 4 5

学科 機械 電気（電気情報） 電子制御
 生物応用化学 材料

(専攻科生) 学年 1 2

専攻 生産工学（機械） 生産工学（生物応用化学）
 生産工学（材料） 電子工学

(複数回答可)

- 学費が大学に比べ安い 地元で就職して欲しい 少人数教育である
大学院の進学に有利である
その他 ()

5. 2 「大学に進学させたい」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。

(複数回答可)

- 大学の方が専攻科より肩書きが上のように思う 大学院の進学に有利である
県外に出てほしい(新しい環境を経験してほしい)
その他 ()

6. 5年生, 専攻科生の保護者にお尋ねします。

進路指導は適切だと思われますか。

- そう思う そう思わない どちらともいえない

6. 1 「そう思う」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。

(複数回答可)

- きめ細かい指導をしてくれる
必要な情報を良く提供してくれる
親の意見を親身になって聞いてくれる
子供の意見を親身になって聞いてくれる
子供の精神的な支えになってくれている
その他 ()

6. 2 「そう思わない」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。

(複数回答可)

- 学生の自主性を重んじると言うことを楯にして、ほったらかしだから
親の意見を親身になって聞いてくれない
子供の意見を親身になって聞いてくれない
子供の精神的な支えになってくれていない
その他 ()

7. 10月29日(水)に実施しました授業参観(公開授業)に関してお尋ね致します。

7. 1 このような授業参観を実施する必要性についてお尋ねします。

- 実施した方がよい 必要ない
(必要ないと答えた方は、7. 5と7. 6のみお答えください)

7. 2 実施時期について、何月頃を希望されますか。

(記入例: 4月なら04、12月なら12)

- 月頃

7. 3 実施曜日についてお尋ねします。

- 平日がよい 土曜日がよい 日曜日がよい

7. 4 当日、各学年や各学科において相談窓口を開設しておりました。

この相談窓口の必要性についてお尋ねします。

- 必要である 必要ない

7. 5 今回は、授業のみの参観ですが、クラブ活動の参観、懇談会など、併せて実施

を希望される催しがございましたらご記入下さい。

7. 6 その他、授業参観に関するご意見をご記入下さい。

8. アルバイトについてどう思いますか。

- 許可して構わない 禁止した方が良い どちらともいえない
その他 ()

8. 1 「許可して構わない」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。
(複数回答可)

- 社会性が身に付く お金を稼ぐことの意味を知る
礼儀正しくなる 携帯電話代等、小遣いは自分で稼ぐべき
その他 ()

8. 2 「禁止した方が良い」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。
(複数回答可)

- 学校生活に支障が生じる 学生は学校生活のみを楽しむべき
就職するまでは学問に専念してほしい 小遣いは十分に与えている
その他 ()

9. 学生の運転免許の取得についてどう思いますか。

- 本人の意志に任せる 学校で全面的に禁止して欲しい
高校生の年代までは学校で禁止して欲しい
その他 ()

10. 「茶髪」についてどう思いますか。

- 本人の意志に任せる 学校で全面的に禁止して欲しい
高校生の年代までは学校で禁止して欲しい
その他 ()

11. 本校の学生指導についてお聞かせ下さい。

- 現在のままでよい 規則や指導をもっと厳しくしてもらいたい
規則や指導をもっと緩やかにしてもらいたい
その他 ()

12. 自宅通学生の保護者にお尋ねします。

ご家庭での毎日の勉強時間(試験期間中を除く)はどのくらいでしょうか。

- ほとんどしない 1時間未満 2時間程度 3時間以上

13. 自宅通学生(男子学生)の保護者にお尋ねします。

お子さんが寮に入らなかった理由は何ですか。(複数回答可)

- 自宅が通学可能範囲にある 子供を子を目の届くところにおきたい
寮は規則が厳しい 入寮させたかったが、子供が嫌がった
寮に入れてしまうと寂しくなる 経済的な理由
その他 ()

*以下の質問14～17は、寮生の保護者にお尋ねします。自宅通学生の保護者は、質問18に進んでください。

14. 寮に入れてよかったですか。

そう思う そう思わない どちらともいえない

14.1 「そう思う」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。

(複数回答可)

規律正しい生活ができている 成績が向上した、または維持できている
 集団生活を通じて協調性や自律性が養われ、たくましくなった
 その他 ()

14.2 「そう思わない」と答えた方にお尋ねします。理由をお聞かせ下さい。

(複数回答可)

規律が厳しすぎる 規律が緩すぎて、生活が乱れている
 寮関係者の生活指導が不十分である 設備が古い、あるいは、不十分である
 その他 ()

15. 帰省したら寮生活に関する話をしてくれますか。

よくする 時々する ほとんどしない

15.1 「よくする」または「時々する」と答えた方にお尋ねします。どのような内容が多いですか。(複数回答可)

寮生活の楽しさ 寮生活の苦しさ 寮生活の不便さ 寮の友達のこと
 その他 ()

16. 寮務委員会では、10月に寮生保護者連絡会を実施し、また7月の保護者懇談会では寮関係者が待機してご相談に応じていますが、このまま継続してよいと思われませんか。

よい 改善すべきである どちらともいえない

16.1 「改善すべきである」と答えた方にお尋ねします。

改善すべき点やその改善策をご記入下さい。

17. 寮の規則、指導、設備などについてご意見やご要望があればご記入下さい。

18. 本校に学生相談室があることをご存知ですか。

知っている 知らない。

19. 学生相談室を利用したいと思いますか。

必要があれば相談したい したくない どちらともいえない

20. 授業、生活指導やクラブ指導、保護者との連携など教官に対するご意見やご要望があればご記入下さい。

21. 学校へのご意見やご要望があればご記入下さい。

【以上、アンケートにご協力ありがとうございました】

(出典 平成15年度保護者アンケート)

資料9-1-③-3

平成18年7月

保護者の方へのアンケート

新居浜工業高等専門学校

本アンケートは保護者の皆様のご意見を伺い、学校運営、教育改善の資料として使わせていただきます。

どうぞ率直なご意見をお寄せ下さい。回答は選択形式です。

あてはまる文の先頭にある を、はみ出さないよう濃く塗りつぶしてください。例

また、()内には、簡潔に記入くださるようお願いいたします。

* お子さんの学年・学科をお選びください。

学年 1年 2年 3年 4年、 1年生の場合は、()組

学科 機械工学科 電気情報工学科 電子制御工学科 生物応用化学科 材料工学科

* 保護者懇談会について

1. 保護者懇談会の時期についてお尋ねします。

この時期でよい 他の時期がよい

他の時期とお答えの方:()月がよい

2. 保護者懇談会開催の曜日についてお尋ねします。

現行の土・日でよい 平日の放課後がよい

その他()

3. 保護者懇談会で教員と話したい内容についてお尋ねします。(複数回答可)

成績について 学校生活について 家庭での生活について

進路について その他()

4. 担任との個別懇談の時間についてお尋ねします。

(まだ懇談のお済みでない方:通常15分~20分です。)

ちょうどよい もう少し長い方がよい もう少し短くてよい

長い方がよいとお答えの方:()分は必要

5. 保護者懇談会の回数について、お尋ねします。

これまで通り年1回で良い。 年2回してほしい。

その他()

6. 学科別、学年別懇談会についてお尋ねします。

今後も実施した方がよい このような形態の懇談は不要

不要とお答えの方:希望の形態があればお答えください(その理由もお教えてください)。

()

7. 本日の学科別、学年別懇談会において、もっと知らせてほしい情報等がありましたら、お答えください。

()

8. その他、ご意見をお書きください。

裏面に続く

*** 高専について**

1. 高専とはどんな学校かどうやって知りましたか(複数回答可能です。)
 本校の PR 誌(はばたけ未来など) 本校のホームページ 中学校の先生
 高専の在校生 高専の卒業生 高専の在校生・卒業生以外の親戚や知り合い
 9 月初めにあった学校見学会 夏休みにあった夏季体験学習
 その他()
2. 本校を受験させた理由をお選びください。(複数回答可能です。)
 就職が有利である 専攻科に入学させたい 大学に編入学させたい
 本人が、学科の専門分野が好き 学生寮がある 理数系科目が得意
 経済的負担が少ない 課外活動が活発である
 学校の自由な雰囲気が良い 大学に比較して、きめ細かな教育を行っている
 大学と同じ高等教育を受けさせることができる
 高校から就職するよりも高度な技術者として仕事につける
 その他()
3. 本校に入学させてよかったと思いますか。
 そう思う そう思わない どちらとも言えない
 その理由を自由に書いてください。
 ()
4. 高専は高校と大学のどちらに近いと思いますか。
 高校に近い 大学に近い わからない
5. 高専卒の会社における仕事の内容や待遇は高校卒と大学卒のどちらに近いと思いますか
 高校卒に近い 大学卒に近い わからない
6. その他、高専について自由にお書きください。

*** 制服について**

本校では、制服という形でなく、標準服という形で服装を決めています。兄弟や知り合いのいわゆるお下がりの服や中学時代の服が使える利点はありますが、一目見て本校の学生とはわからないという指摘もあります。

1. 制服についてお尋ねします。
 現状の標準服でよい。
 制服を決めたほうがよい
 その他
2. 本校では、制服を決めず、1、2年生の間は標準服着用を義務付けています。
 1、2年生だけは標準服または制服でよい。
 3年生まで、標準服または制服とした方がよい。
 5年生まで、標準服または制服とした方がよい。
 全学年、制服も標準服もいらない。学生の自由にさせればよい。
 その他()
3. その他、ご意見をお書きください。

【アンケートにご協力ありがとうございました】

(出典 教務委員会)

資料 9 - 1 - ③ - 4

学年		1年計	2年計	3年計	4年計	学年なし	合計
		175	143	100	97	6	521
懇談会の時期	この時期	171	141	99	97	4	512
	他の時期	1	1	1	0	0	3
開催の曜日	土・日	166	136	98	92	3	495
	平日	4	5	0	3	0	12
	その他	1	0	0	1	0	2
教員と話したい内容	成績	141	125	79	61	3	409
	学校生活	154	110	63	54	3	384
	家庭生活	19	12	10	3	0	44
	進路	63	74	82	89	2	310
	その他	7	2	0	0	0	9
個別懇談の時間	よい	155	128	93	81	3	460
	少し長く	9	7	3	11	0	30
	少し短く	3	4	0	2	0	9
懇談会の回数	1回	80	84	66	61	1	292
	2回	85	55	29	34	2	205
	その他	4	2	2	0	0	8
学科別・学年別の実施	実施	148	127	84	84	4	447
	不要	4	8	7	2	0	21
高専とはどんな学校かどうやって知ったか	PR誌	34	20	17	15	0	86
	HP	51	22	17	19	0	109
	中学教諭	43	44	30	32	2	151
	高専在校生	34	33	9	18	1	95
	高専卒業生	46	33	12	25	0	116
	親戚・知人	41	43	26	26	1	137
	見学会	36	17	12	10	1	76
	夏季体験	46	32	21	13	0	112
	その他	4	7	3	8	0	22
本校を受験させた理由	就職	98	95	55	60	2	310
	専攻科	21	10	5	4	0	40
	編入学	29	26	8	16	2	81
	専門分野	70	51	29	43	1	194
	学生寮	25	10	11	13	0	59
	理数科得意	51	41	25	21	1	139
	経済	35	34	25	34	0	128
	課外活動	12	3	2	0	0	17
	自由な雰囲気	47	38	21	19	2	127
	きめ細かな教育	15	11	1	5	0	32
	大学と同じような教育	52	42	26	18	0	138
	高度な技術者	78	59	37	29	1	204
その他	7	1	4	6	0	18	
本校に入学させてよかった	思う	140	99	77	74	5	395
	思わない	0	4	0	1	0	5
	どちらでも	31	32	17	19	0	99
高専は高校と大学どちらに近い	高校	10	9	7	13	0	39
	大学	140	118	78	73	4	413
	わからない	21	12	10	7	1	51
高専卒の会社での待遇	高校	14	17	17	19	1	68
	大学	80	53	39	35	1	208
	わからない	72	70	39	41	3	225
制服について	現状	147	118	77	84	5	431
	決める	22	20	15	8	0	65
	その他	5	3	3	1	0	12
制服決めず標準服を着用	1, 2年だけ	94	74	51	51	5	275
	3年まで	53	48	31	31	0	163
	5年まで	6	0	4	0	0	10
	自由	13	16	8	10	0	47
	その他	3	0	0	1	0	4

(出典 教務委員会)

資料9-1-③-5

(授業参観 参加保護者数)

平成18年度

本 科							専攻科		
組	1年	科	2年	3年	4年	5年	専攻	1年	2年
1組	26	M	5	6	5	1	SM	0	0
2組	22	E	4	7	4	1	SC	1	0
3組	12	D	6	6	3	4	SE	0	0
4組	20	C	8	5	3	1			
5組	18	Z	5	4	3	1			
計	98		28	28	18	8			
本科合計 180名							専攻科合計 1名		

※両親とも来校の場合1名でカウント、両親での来校数は36

平成17年度

本 科							専攻科		
組	人数	科	2年	3年	4年	5年	専攻	1年	2年
1組	10	M	6	2	4	1	SM	0	1
2組	9	E	10	5	3	0	SC	0	0
3組	16	D	9	4	2	0	SE	0	0
4組	10	C	7	8	0	1			
5組	12	Z	3	6	4	1			
計	57		35	25	13	3			
本科合計 133名							専攻科合計 1名		

※両親とも来校の場合1名でカウント、両親での来校数は21(うち専攻科1)

(ご意見)

No.	内 容	学年等
1	いろんな案内(国領祭)なども、保護者に連絡していただけたらと思います。	2
2	先生の指導のすばらしさに感動するとともに、私自身の勉強になりました。	1
3	2時間ほど参観させていただいたのですが、ずっと立ちっぱなしだったので、椅子があると楽だったかなと思います。	4
4	2年くらい前に見せていただいた時には、かなり私語をしている学生が多くみうけられたが、今回少なかったのが印象的でした。	4
5	もう少し部活を熱心に指導してほしい。	2
6	3月末に新年度の予定表を家庭の方に郵送してほしい。	3
7	難しい授業内容ですが、がんばって勉強している事をうれしく思いました。ただ、欠席が目立ち残念でした。	4
8	校舎の周りに草がはえているので、見た目が悪いので、草取りをして校舎をきれいにしたら良い。	1
9	高専大会での記録を見てみたい。	1
10	服装・頭髪等についても、もう少しきびしく指導してほしい。	1
11	男子寮の整備(美)	3
12	教室の暗さが気になりました。片方はブラインド、もう片方はカーテンでしたが、日があたるためカーテンがしめきられていて暗かったです。	4
13	授業スタイルの古さに驚きを感じ、落胆しました。現在の新しい授業スタイルは、ないのでしょうか。	1

15	引き続き、熱心なご指導をよろしくお願い致します。	1
16	盗難が相次いでいることに、大変驚いています。学内に銀行、あるいは郵便局のATMの設置は検討できないのか？学生が大金を持つ必要がなくなると思うが□。	3
17	授業参観で気になったことを後で先生に個別懇談で相談できたのでよかったです。	1
18	授業参観なのに、ずっとレポート作成というのはおかしいのではないのでしょうか？	学校関係者
19	さまざまな学生さんがいて参考になりました。	2
20	今後とも先生との交流を増やしてください。	1
21	授業態度がひどすぎる。寝ていたり、漫画を読んでいた。いくら自由とはいえ、もう少し基本的態度(授業を受ける)ぐらいは厳しくすべきです。	2
22	楽しい英語クラスでした。	1
23	寮生活なので生活面で心配しております。5年間で一人前になってくれるだろうと期待しております。	1
24	授業中にジュースやお菓子が机の上にあるのでびっくりしました。後方の子達は食べていたのでびっくりしました。	3
25	何故、英語の授業は黒板を使わないのか？ただ和文を英文に言い換えるだけで、理解させることが出来るのか疑問。以前、制服についてのアンケートを記入したが、結果はどうだったのでしょうか？	1
26	もう少し、厳しく指導して欲しいと思います。風紀面、生活面、自由すぎるのもどうかと。	1
27	できれば、低学年のうちから進学を考えている人に対してや、就職について考えている人たちの指導をして頂きたいです。(子供も今の状態では解りづらいのですが□)学校は毎日とても楽しみにしております。校風はとてもいいですね。	1
28	教育や生活全般にわたり学生にとってよりよい環境になるように学校を挙げて取り組んでいる様子を感じ、すばらしいと思うことが最近たくさんあります。ありがとうございます。	4
29	楽しそうに授業を受けていました。中学と様子も違いまじめに見えよかったです。	1
30	校内における卒業研究等の成果を一般の目に触れるような形で公開する等、高専の存在というものへのアピールを考えて頂きたいと思います。	5
31	初めて校内を拝見したのですが、普通高校とは少し違い、感動した。	1
32	教職員一人一人が挨拶や声かけをしており、意欲を感じました。学生にとって教職員こそが最大の教育環境・条件であるとの考えが浸透し、学校が願う方向へとずいぶん変わったように思います。お礼申し上げます。	4
33	メールマガジンの内容を増やして欲しいです。	1
34	寮の懇談が時間がかかってとても残念でした。	3
35	寮生なのでよかったです。寮生活はルールが難しいですね。はっきりとした(子供に正確に伝わる)ルール作りを希望します。	1
36	自動販売機の設置場所を増やして頂けたらと思います。(南側の奥の方へ)部活時の自転車置き場以外の駐輪は帰りの電車の時間が無くいつも走り込みなので無理なのではないでしょうか。	1
37	先生方が、進級のために学生達のことを本当に考えて努力されておられますこと、大変ありがたいことです。これからも保護者として、見捨てないで欲しいです	1
38	寮食堂の試食会を開催してください。子供がどういうものを食べているのか親として認識したい。試食は子供と一緒に食べるようにしてもらいたい。	1
39	ホームページはよく見ているので、内容の充実に期待しています。	1
40	真剣に授業を受けている学生が少ないのに驚いた。	3
41	家庭へ送られてくる文書等、細かく説明があり、とてもうれしく思います。休日開催の参観日、懇談会も有難く参加しています。	2
42	教科により授業を聞いていない、又は、前を向いていない学生が何人もおり驚きました。もう少し授業に集中するようにご指導願いたいと思います。	1
43	1年生は未だ初々しく、しかし、中学校から急に専門になり、戸惑っているようだった。数学は基礎と発展にわかれてよかった。授業中携帯を使用しているのが気になった。4、5年生になると研究室で頑張っているようだった。	学校関係者
44	学寮保護者説明会が予定をかなりオーバーしたので、参観しようと思っていた「基礎製図」の授業を参観することが出来ませんでした。	1

(出典 高専だより第 91 号)

資料 9-1-③-6

平成 18 年 10 月 6 日

各中学校長
各高等学校長 殿

新居浜工業高等専門学校長
水 野 豊
(公印省略)

授業参観の実施について (ご案内)

秋冷の候 貴下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の運営につきまして多大のご協力ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、本校では、広く授業 (講義) や実験などを公開し教育への理解をより深めていただくとともに、高専、中学校及び高等学校間の連携を踏むことを目的とした授業参観を下記のとおり予定しております。

公務ご多端の折とは存じますが、別添の授業時間割表をご参考に貴校教員のご都合のよい時間にご参観くださいますようお願い申し上げます。

記

1 日 時 平成 18 年 10 月 21 日 (土) 1 時限～4 時限

1 時限 8 : 50 ～ 10 : 20

2 時限 10 : 30 ～ 12 : 00

3 時限 12 : 45 ～ 14 : 15

4 時限 14 : 25 ～ 15 : 55

2 場 所 各教室、実験室等

※ 同封の「授業時間割表」及び「教室等配置図」をご参照ください。

<参観に当たってのお願い>

- ・参観中は携帯電話の電源を切る、あるいはマナーモードにしてください。
- ・参観中の私語はお控えください。
- ・実験・実習を参観の際は、実験機器等に触れないようお願いいたします。
- ・校内は禁煙ですので、ご協力ください。

(出典 教務係資料)

資料9-1-③-7

平成18年12月25日

平成18年度学寮保護者連絡会におけるアンケート調査結果

アンケート実施日：平成18年10月21日（土）12：30～14：10

場所：視聴覚教室

回収数：35（うち2枚は「とくになし」との回答）

アンケートで多くの要望と意見が多かった件は、食事と盗難の問題であった。

食事については、質の向上、試食会開催、朝食時間の延長、寮生の意見聴取の要望があった。質の向上については、食費を上げてよいものを提供してもらいたいとの要望である。これについては、寮生保護者に意見を求めることにする。試食会の開催については、期間を設定すれば、都合の悪い方は参加できないことになるため、事前の申し込みを条件に保護者の都合のよい日に昼食か夕食を実費で提供できるようにした。朝食時間の延長については、共同課業を登校前に設定すると、会食日にその後始末の時間がとれない、また、水曜日の階独自の課業の実施が難しくなるなど問題が大きい。また、起床後すぐの時間帯に設定することは、食堂の準備の問題と寮生の準備時間の問題から、実施が難しい。現行のスケジュールを維持しつつ、起床時間をきちんと守るような方法を検討したい。

盗難については、多くの現金を置かないような指導、情報提供、警察の捜査の要望が寄せられた。多くの現金を置かずに、キャッシュカードを利用するように従来から指導しているが、現金を使う必要があり、口座からおろした現金を開けっ放しに居室に置いていて被害に遭っているのが、今後も鍵のかかるところに現金などの貴重品を保管するように指導していく。また、警察に捜査を依頼すべきとの要望については、従来寮生と保護者の意向を確認して、対応しているが、捜査の依頼を原則とし、寮生と保護者に同意を求める方向で対応していくこととする。情報提供については、できるだけ対応していくこととする。当然のことであるが、モラルの教育にも努めていく。

その他、様々な要望が寄せられたが、できることについてはその要望に答えていく。

なお、今年度の夏休みから開始した特別残寮中の食事提供については、感謝の言葉をいただくなど、我々の指導を評価する意見も寄せられ、励みになった。寮生が快適で、安心の共同生活を送れるように、よりきめ細かい指導を心がけていく。

(出典 寮務委員会資料)

資料9-1-③-8

企業へのアンケート調査票

次の点にご留意いただき、ご回答ください。

- ・該当する選択肢の□に□を入れてください。
- ・質問中の本科卒業生とは、高専5年間の教育課程を卒業した者、専攻科修了生とは高専5年間の教育課程を卒業後、さらに高専で2年間の専攻科教育課程を修了した者を指します。
- ・専攻科修了生の採用実績がなければ、専攻科修了生に関する質問はとばして、先に進んでください。

貴社名

1. 貴社の業種をお選びください。

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 機械 | <input type="checkbox"/> 建設 | <input type="checkbox"/> 輸送機器 |
| <input type="checkbox"/> 電気機器 | <input type="checkbox"/> 電力・電気設備 | <input type="checkbox"/> 住宅・設備 |
| <input type="checkbox"/> コンピュータ・情報機器 | <input type="checkbox"/> 鉄鋼・非鉄金属・窯業 | <input type="checkbox"/> 化学工業 |
| <input type="checkbox"/> サービス業 | <input type="checkbox"/> 放送・通信 | <input type="checkbox"/> 繊維・紙 |
| <input type="checkbox"/> 銀行・証券・不動産 | <input type="checkbox"/> 食品 | |

その他 ()

2. 貴社の全従業員数をご記入ください。 名

そのうち

(1) 高専本科卒業生の総数 名

(2) 新居浜高専本科卒業生 名

(3) 高専専攻科修了生の総数 名

(4) 新居浜高専専攻科修了生 名

*以下の質問3～9は、全国高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生についてご回答ください。

3. 本科卒業生あるいは専攻科修了生の配属先をお選びください。(複数回答可)

(1) 本科卒業生

研究・開発

設計

製造

現場作業

営業・販売

サービスエンジニア

保守・点検

システムエンジニア

検査・分析

プログラマー

その他 ()

(2) 専攻科修了生

研究・開発

設計

製造

現場作業

営業・販売

サービスエンジニア

保守・点検

システムエンジニア

検査・分析

プログラマー

その他 ()

4. 本科卒業生あるいは専攻科修了生の採用状況についてお選びください。

(1) 本科卒業生

毎年1名以上採用

数年に1名程度採用

求人するが応募者なし

近年採用を控えている

採用を控えているを選んだ場合はその理由をご記入ください。

()

(2) 専攻科修了生

毎年1名以上採用

数年に1名程度採用

求人するが応募者なし

近年採用を控えている

採用を控えているを選んだ場合はその理由をご記入ください。

()

5. 本科卒業生あるいは専攻科修了生の採用時に取得していれば有用な資格はありますか？

ある

ない

あるを選んだ場合はその資格名と理由をご記入ください。

()

6. 本科卒業生あるいは専攻科修了生に「知的財産権」、「技術者倫理」、「経営工学」、「環境工学」、「品質管理」に関する講義を受講させる必要があると思いますか？

(1) 本科卒業生

ある

ない

あるを選んだ場合は科目名と、その理由をご記入ください。
()

(2) 専攻科修了生

ある ない

あるを選んだ場合は科目名と、その理由をご記入ください。
()

7. 本科卒業生あるいは専攻科修了生の貴社での業務内容は下記のどれと同等ですか。

(1) 本科卒業生

高校卒 短大卒 大学卒 大学院卒
その他 ()

(2) 専攻科修了生

高校卒 短大卒 大学卒 大学院卒
その他 ()

8. 採用時に学校における課外活動や社会奉仕活動を重視していますか。

(1) 本科卒業生

重視している 重視しない

(2) 専攻科修了生

重視している 重視しない

9. 本科卒業生あるいは専攻科修了生に対して、貴社が求める重要なものをお選びください。(複数回答可)

(1) 本科卒業生

専門知識 専門基礎知識 一般教養 英語力
国語力 ITに関する能力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力
自己学習能力 開発力 創造力 行動力
リーダーシップ 企画力 問題発見能力 問題解決能力
チャレンジ精神 ベンチャー精神 協調性 社交性
誠実さ 真面目さ 忍耐強さ
その他 ()

(2) 専攻科修了生

専門知識 専門基礎知識 一般教養 英語力
国語力 ITに関する能力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力
自己学習能力 開発力 創造力 行動力
リーダーシップ 企画力 問題発見能力 問題解決能力
チャレンジ精神 ベンチャー精神 協調性 社交性
誠実さ 真面目さ 忍耐強さ
その他 ()

*以下の質問10～15は、新居浜高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生についてご回答ください。新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生の採用実績がなければ、質問16に進んでください。

10. 質問9の要求項目のうち、新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生が

満たしていると思われるものをお選びください。(複数回答可)

(1) 本科卒業生

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門基礎知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 | <input type="checkbox"/> 英語力 |
| <input type="checkbox"/> 国語力 | <input type="checkbox"/> I Tに関する能力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> 自己学習能力 | <input type="checkbox"/> 開発力 | <input type="checkbox"/> 創造力 | <input type="checkbox"/> 行動力 |
| <input type="checkbox"/> リダーシップ | <input type="checkbox"/> 企画力 | <input type="checkbox"/> 問題発見能力 | <input type="checkbox"/> 問題解決能力 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ精神 | <input type="checkbox"/> ベンチャー精神 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 社交性 |
| <input type="checkbox"/> 誠実さ | <input type="checkbox"/> 真面目さ | <input type="checkbox"/> 忍耐強さ | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | |

(2) 専攻科修了生

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門基礎知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 | <input type="checkbox"/> 英語力 |
| <input type="checkbox"/> 国語力 | <input type="checkbox"/> I Tに関する能力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> 自己学習能力 | <input type="checkbox"/> 開発力 | <input type="checkbox"/> 創造力 | <input type="checkbox"/> 行動力 |
| <input type="checkbox"/> リダーシップ | <input type="checkbox"/> 企画力 | <input type="checkbox"/> 問題発見能力 | <input type="checkbox"/> 問題解決能力 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ精神 | <input type="checkbox"/> ベンチャー精神 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 社交性 |
| <input type="checkbox"/> 誠実さ | <input type="checkbox"/> 真面目さ | <input type="checkbox"/> 忍耐強さ | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | |

1 1. 質問 9 の要求項目のうち、新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生に不足していると思われるものをお選びください。(複数回答可)

(1) 本科卒業生

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門基礎知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 | <input type="checkbox"/> 英語力 |
| <input type="checkbox"/> 国語力 | <input type="checkbox"/> I Tに関する能力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> 自己学習能力 | <input type="checkbox"/> 開発力 | <input type="checkbox"/> 創造力 | <input type="checkbox"/> 行動力 |
| <input type="checkbox"/> リダーシップ | <input type="checkbox"/> 企画力 | <input type="checkbox"/> 問題発見能力 | <input type="checkbox"/> 問題解決能力 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ精神 | <input type="checkbox"/> ベンチャー精神 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 社交性 |
| <input type="checkbox"/> 誠実さ | <input type="checkbox"/> 真面目さ | <input type="checkbox"/> 忍耐強さ | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | |

(2) 専攻科修了生

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 専門知識 | <input type="checkbox"/> 専門基礎知識 | <input type="checkbox"/> 一般教養 | <input type="checkbox"/> 英語力 |
| <input type="checkbox"/> 国語力 | <input type="checkbox"/> I Tに関する能力 | <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 | <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 |
| <input type="checkbox"/> 自己学習能力 | <input type="checkbox"/> 開発力 | <input type="checkbox"/> 創造力 | <input type="checkbox"/> 行動力 |
| <input type="checkbox"/> リダーシップ | <input type="checkbox"/> 企画力 | <input type="checkbox"/> 問題発見能力 | <input type="checkbox"/> 問題解決能力 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ精神 | <input type="checkbox"/> ベンチャー精神 | <input type="checkbox"/> 協調性 | <input type="checkbox"/> 社交性 |
| <input type="checkbox"/> 誠実さ | <input type="checkbox"/> 真面目さ | <input type="checkbox"/> 忍耐強さ | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | |

1 2. 新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生に実践的能力が身についていると思われませんか?

(1) 本科卒業生

- 身についている 身についていない
- 身についていないを選んだ場合はどのような能力が不足していますか?
- ()

(2) 専攻科修了生

- 身についている 身についていない
- 身についていないを選んだ場合はどのような能力が不足していますか?
- ()

1 3 . 新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生についてお尋ねします。

1 3 - 1 . 英語力についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような能力でしょうか？

英文読解 英作文 ヒアリング 会話能力

その他 ()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような能力でしょうか？

英文読解 英作文 ヒアリング 会話能力

その他 ()

1 3 - 2 . 数学、物理学、化学等の自然科学に関する基礎知識についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

1 3 - 3 . 専門分野に関する専門知識についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

1 3 - 4 . IT に関する知識についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

また、不足しているとすれば、どのような知識ですか？

()

14. 新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生の貴社での勤務評価についてお答えください。

(1) 本科卒業生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

(2) 専攻科修了生

非常に満足している ほぼ満足している 普通である

やや不満である 非常に不満である

ご意見があればご記入ください。

()

15. 大学卒業生と比較した場合、新居浜高専本科卒業生あるいは専攻科修了生が優れていると思われる点、劣れていると思われる点があればご記入ください。

16. 高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に期待すること、学生へのアドバイス等があればご記入ください。

17. 高専に対するご意見ご提案等があればご記入ください。

【以上、アンケートにご協力ありがとうございました。】

(出典 平成15年度企業アンケート)

資料9-1-③-9

卒業生の皆さんへ

高専機構によるアンケートに追加して、新居浜高専独自のアンケートにもお答えください。本校での進路指導や就職先での処遇などを中心とした項目を設定しています。

皆さんから寄せられたアンケート結果に基づいて、新居浜高専の教育・指導・学習支援をより良いものにしていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートは他の目的で使用することはありません。

① 卒業（修了）後に新居浜高専に来校したことがありますか。

1 よく来ている 2 一、二度来たことがある 3 一度もない

② その目的は何ですか。

1 近況報告 2 仕事に関する相談 3 在校生に会うため

4 その他 ()

③ 大学卒業生と比べて、高専卒業生の仕事内容に差があると感じますか。

1 感じる 2 どちらとも言えない 3 感じない

- ④ 「1 感じる」を選んだ方に尋ねます。具体的にどのようなところですか。
- ⑤ 卒業・修了後に取得した資格がありますか。
1 ある 2 ない
- ⑥ 「1 ある」を選んだ方に尋ねます。それは何ですか。
- ⑦ 業務を行う上で今後必要だと思う資格あるいは取得したいと思っている資格は何ですか。
- ⑧ 転職の経験がありますか。また、転職を考えたことがある、あるいは現在考えていますか。
1 転職の経験がある 2 転職を考えたことがある
3 現在考えている 4 考えたことがない
- ⑨ 新居浜高専のホームページを見ますか。
1 よく見る 2 ときどき見る 3 見たことがない
- ⑩ 知り合いから新居浜高専の受験相談を受けた場合、受験を勧めますか。
1 勧めると思う 2 どちらとも言えない 3 勧めないと思う
- ⑪ 新居浜高専の卒業生であることを誇りに思いますか。
1 思う 2 どちらとも言えない 3 思わない
- ⑫ 「学校評価に関するアンケート」設問 2-1 の満足度調査について、「4 あまり満足していない」、「5 全く満足していない」と評価した方に尋ねます。具体的にどのようなことですか。ア～ソの各項目ごとに書いてください。

ア 専門科目の講義	
イ 専門科目の実験	
ウ 専門科目の実習	
エ 工場実習、インターシップ	
オ 卒業研究	
カ 人文社会系一般科目	
キ 自然科学系一般科目	
ク 英語	
ケ 教育施設・設備	
コ 厚生補導施設・設備	
サ 課外活動	
シ 寮生活	
ス 生活相談、生活指導	
セ 進路相談、進路指導	

ソ 資格取得	
--------	--

⑬ 新居浜高専をよくするための提案があれば、自由に書いてください。

*アンケートにご協力ありがとうございました。

(出典 点検・評価運営委員会資料)

資料 9-1-③-10

平成 18 年度卒業生アンケートのまとめ

本校に対する満足度については、授業面では、概ね満足した科目として、専門科目の講義・実験、工場実習・インターンシップがあがっている。なかでも、実習・インターンシップについては満足度が高い。実践教育を積極的に行っている本校の教育が評価されている。

それに対して、満足度の低い科目として、一般科目があがっている。特に、英語に対する満足度は低い。本校では、国際的コミュニケーション能力の育成に力を入れ始めているが、卒業生が入学してから卒業するまでの期間にはまだそのような積極的な教育活動が開始されていなかったため、このような結果が出ているのであろうが、ますますの充実が急がれるところである。

進路指導面や施設面では概ね満足という回答が寄せられた。課外活動や学寮については、満足度は高くなかった。また、資格試験などに関する指導についても満足度は低く、低学年から情報発信・提供や指導が必要である。

本校の良い点としては、工場実習も含め学校で学んだことが職場ですぐに活かされた、専門科目について基礎から応用までしっかり学ぶことができた、本校の自己責任・自己管理の方針が仕事をするにあたって役立っている、規則に縛られず、オープンな雰囲気なので、勉強させられているという意識を持たずに学習できた、施設・設備が充実していた、個別の教員室があり、質問や相談がしやすかった、という回答があった。

悪い点としては、教育が実践的でなかった、パソコンを使った教育が不足していた、パソコン関連の授業が難しかった、プレゼンテーションの機会が少なかった、一部の教員の質が悪かった、授業担当者により授業の進め方に違いがあり、モチベーションに差が出た、モラルやマナーの指導が不足して、学生のモラルが低かった、成績評価の方法に問題があった、ネットワーク環境が悪かった、他学年との交流が少なかった、専攻科に行くメリットがなかった、という回答があった。

不満を感じた理由としては、専門科目の講義や実験については、レベルが低い、教え方が適当であった、おもしろくなかったからという回答が寄せられた。人文社会系の科目については、科目が少なかった、という回答があった。英語については、レベルの低さ、会話に関する教育の不足、実用・工業英語に関する教育の不足、授業時間数の不足などがあがった。施設・設備面では、古さを指摘する声があった。生活指導面では、きちんとした学生指導の必要性を指摘する声があった。進路指導面や資格取得に関しては、広報活動、情報提供の不足を指摘する声が多かった。

今後充実を図るべき点として、教育の質の向上、より高度で新しい専門知識の教授、工場実習・インターンシップの充実、プレゼンテーション力の向上に向けた指導、実践的な英語の教育の充実、授業科目の意義や重要性の認識づけ施設・設備面のさらなる充実、進路、資格などに関する情報発信・提供の充実、専門以外の基礎知識を学べるシステムの導入、実際に仕事をしている人からの生の声の活用、企業との共同研究・開発を通じた学生への動機付け、学生間、学生と教員間のより一層の親密化などがあげられた。

卒業生からの意見を受けるまでもなく、すでに改善されたもの、現在改善中のもの、改善について検討されているものもあるが、まだ検討もされていない項目もあり、本校の教育・研究や運営をよりよいものにするための貴重な意見として役立てたい。

(出典 平成 18 年度新居浜工業高等専門学校点検報告書)

(分析結果とその根拠理由)

運営諮問会議による学外有識者の意見聴取，保護者懇談会や参観日における保護者アンケート，学寮保護者懇談会における意見聴取は毎年実施しており，自己点検に活用している。また，平成18年度に卒業生アンケートを実施し，教育改善のための意見を求めた。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の最高審議機関である運営会議および学校改革推進室が，各学科（科）および各委員会などと連携して，次のような流れで教育改善を行なっている（資料 9-1-④-1，資料 9-1-④-2，資料 9-1-④-3）。

- ①運営会議は，年間の学校運営重点推進目標を立案するとともに，学校改革推進室に教育改善方策の具体化および各学科（科）や各委員会などでの取り組みの促進を付託する。また，運営諮問会議の意見を改善に活用するように各学科（科），各委員会などへ伝達する。
- ②学校改革推進室は，学校運営重点推進目標に基づき，教育改善方策を企画・立案し，各学科（科）や各委員会などへ教育改善の実行を指示するとともに，実施の支援を行なう。
- ③各学科（科），各委員会などは，それぞれ，年間運営目標・計画，教育改善推進計画を立て，互いに連携をとりながら教育改善を実施する。
- ④各学科（科），各委員会などは，その実施状況，達成度について年度末に自己点検・評価し，点検専門部会に報告する（訪問調査資料 平成 18 年度新居浜工業高等専門学校点検報告書）。
具体的な改善方策としては，次のようなものが挙げられる。

平成15年度に実施した保護者対象のアンケートに基づく点検を受けて，学生のアルバイトや課程学習の時間確保，授業参観の実施などの改善に取り組んだ（資料 9-1-④-4）

卒業生アンケートや企業アンケートにより卒業生の英語力が不足しているとの指摘を受け，その改善のために様々な活動を行った。例えば，平成 15 年度から長期休業中に英語実力養成講座を開催し，学生のレベルに応じた補習を行っている。（資料 9-1-④-5）。また，平成 15 年度に ALC NetAcademy の TOEIC 初級・中級コースを，平成 17 年度に語彙を増やすためのソフト Power Words を導入し，自学自習環境を整えた。平成 15 年度に英語学力強化対策委員会を設置して，英語担当教員と専門教員との連携を強めることとした。その活動の一環として，最低限必要と思われる専門用語を選別し，Power Words による自学自習教材を作成した（資料 9-1-④-6）。

専攻科勉学アンケートでは，学習時間は一日に 1 時間程度，課題以外の予習・復習はほとんどしない者が最も多く，自宅学習が少ないという点検結果を得た（資料 9-1-④-7）。そこで，平成 17 年度に専攻科教育委員会において自主学習アンケートを実施し，科目ごとの自主学習状況を科目担当者に把握させた上で，平成 18 年度には試行的に特に自学自習を勧める科目として英語、数学など数科目を定め，重点的に自宅学習時間の増加を図った（資料 9-1-④-8，資料 9-1-④-9）。また，その結果を踏まえて次年度から全科目で自主学習の推進を図るための措置を決定した（資料 9-1-④-10，資料 9-1-④-11）。また，専攻科勉学アンケートにおける学生の意見に，

「ホームルームがなくて落ち着かない」という要望が多く、これに応じて平成 17 年度に専攻科学生室を設置した。

高等学校の学習指導要領の変更を受けて、情報教育センターが各学科の情報教育の現状を調査・点検し、情報教育のあり方を検討した結果、平成 17 年度に教科書を統一して学科にかかわらず必要な内容を授業で教えることにし、平成 18 年度からは全学科で科目名を「情報リテラシー」に統一した（資料 9-1-④-12, 資料 9-1-④-13）。

学生と教員との交流懇談会における学生の提案・意見に基づいて、授業アンケートの項目の見直しやフィードバック、専攻科学生室の整備などの改善を実施した（資料 9-1-④-14, 資料 9-1-④-15）。

学科（科）ごとにも点検評価に基づく教育改善を実施している。例えば、機械工学科では卒業生の就職先企業数社を訪問するなどしてコア科目である材料力学の教授内容について意見聴取を行い、その結果に基づいて材料力学のシラバスを大幅に改定した（資料 9-1-④-16）。

資料 9-1-④-1

新居浜工業高等専門学校運営会議規則

昭和 44 年 4 月 1 日規則第 1 号

(設置)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議を置く。

(目的)

第 2 条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の運営に関する次の各号に掲げる重要事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算概算の方針に関する事項
- (3) 学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項
- (4) 人事の基準に関する事項
- (5) 組織の改廃、教育研究体制の改善等に関する事項
- (6) 教務・厚生補導・寮務に関する重要事項
- (7) その他本校の運営に関する重要事項

(組織)

第 3 条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
 - (2) 事務部長
 - (3) 教務主事、学生主事及び寮務主事
 - (4) 専攻科長
 - (5) 各学科、数理科及び一般教養科の主任
 - (6) 高度技術教育研究センター長
 - (7) 総務課長及び学生課長
- 2 運営会議の委員は、校長が委嘱する。

(会議の開催)

第 3 条の 2 運営会議は、月 2 回開催する。ただし、必要があると認められた場合は、随時開催することができる。

(会議の招集)

第 4 条 校長は、運営会議を招集し、その議長となる。

- 2 校長に事故あるときは、あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

(委員以外の職員の出席)

第 5 条 校長は、必要に応じて委員以外の職員を運営会議に出席させることができる。

(会議の事務)

第 6 条 運営会議に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、運営会議の議を経て校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和44年4月1日から施行する。
- 2 従来の新居浜工業高等専門学校主任会規程は、廃止する。

附 則

この規則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正規則は、昭和62年1月24日から施行する。
- 2 この改正規則施行の際、第3条第1項第4号及び第5号に規定する幹事である者の任期は、第3条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

附 則

この改正規則は、昭和63年4月22日から施行し、昭和63年4月1日から適

附 則

この改正規則は、平成4年9月28日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成8年7月1日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成11年4月27日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成11年9月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校将来計画委員会規程（昭和63年規則第2号）及び新居浜工業高等専門学校専攻科運営委員会規程（平成4年規則第12号）は廃止する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料9-1-④-2

新居浜工業高等専門学校学校改革推進室要項

平成14年9月11日要項第2号

（設置）

第1 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校改革推進室（以下「推進室」という。）を置く。

（目的）

第2 推進室は、点検・評価運営委員会の結果・報告に基づき、本校の教育方法等を改善するために必要な方策の企画・立案及び推進を図ることを目的とする。

（組織）

第3 推進室は、次の各号の職員をもつて組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 事務部長
- (4) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (5) 教授又は助教授の中から校長が指名した者 若干名

（室長の職務）

第4 室長は、校長をもつて充てる。

- 2 室長は、推進室の業務を総括する。

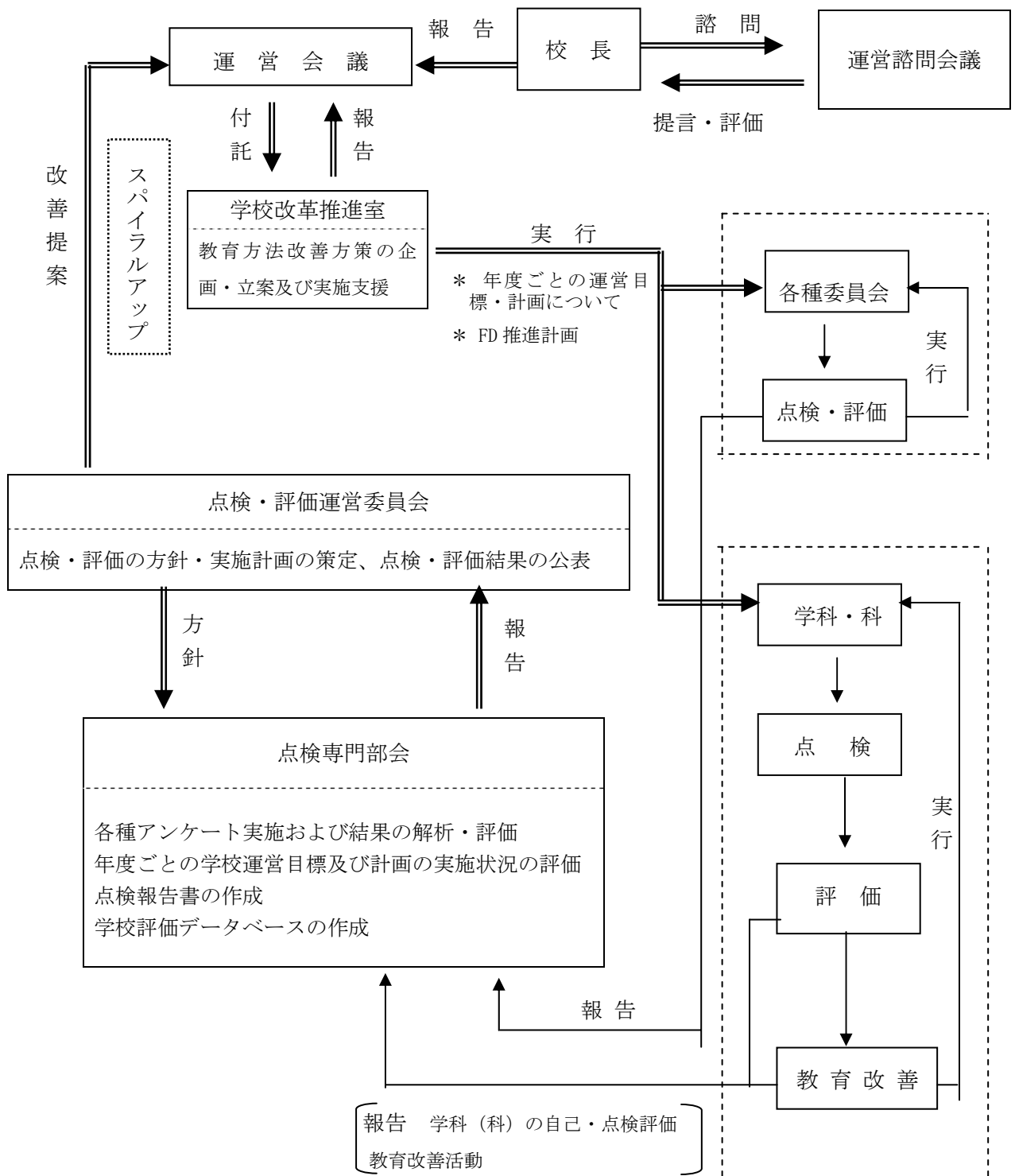
附 則

この要項は、平成14年9月11日から施行する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

資料9-1-④-3

教育改善等実施の組織体制図



(出典 第3回運営諮問会議報告書)

平成16年8月1日

新居浜高専だより

第 84 号

◎ 保護者へのアンケート調査結果について

昨年12月、本校の教育活動、生活指導の改善に資するために、保護者へのアンケート調査を実施しました。保護者の皆様からは多数（71%）の回答をいただきありがとうございます。アンケートの結果ならびに寄せられたご意見、ご要望を踏まえ、下記の新しい方針の下、今年度の学生指導にあたることに致しました。

1. アルバイトについて

アルバイトを通じて社会性が身に付くという肯定的な意見が多数ありましたが、一方で、過度のアルバイトにより学業不振に陥り退学に至る学生や、フリーター志向が強くなり就職意欲が低下する学生が増える傾向が見られます。このような現状を考慮し、今年度から、学生は保護者の同意の下に学校に届けを出し、学業がおろそかにならないよう担任からの適切な指導を受けることが必要となりました。

2. 家庭学習の時間確保について

学生への勉学に関するアンケートならびに今回のアンケートから、自宅での学習時間が極端に少ないという実態が明らかになりました。家庭での学習（予習・復習）を推進し、学業優先の学生生活を送ってもらうために、クラブ活動は、平日午後7時を目処に終了するようにしました。また、学寮では高学年寮の門限、点呼の時間を23時から21時に変更し、毎日の日課の中に学習時間帯を設けました。

3. 8:30登校運動について

遅刻、欠課を減らすために、8:30登校運動を推進しています。とくに、低学年には毎朝8時30分からショート・ホームルームを実施し、8時40分からの授業に取り組む態勢作りをしています。

4. 茶髪・ピアスについて

本人の意思に任せるという意見が過半数を超えていましたが、低学年の多くの保護者からは学生として好ましくないとの回答がありました。高専生としての基本的な生活習慣を身につけることが大切な低学年の時期には、学生らしい身だしなみが必要であるとの考えから、1・2年生は茶髪・ピアスを禁止としました。また、3年以上も自主的に慎むように指導しています。

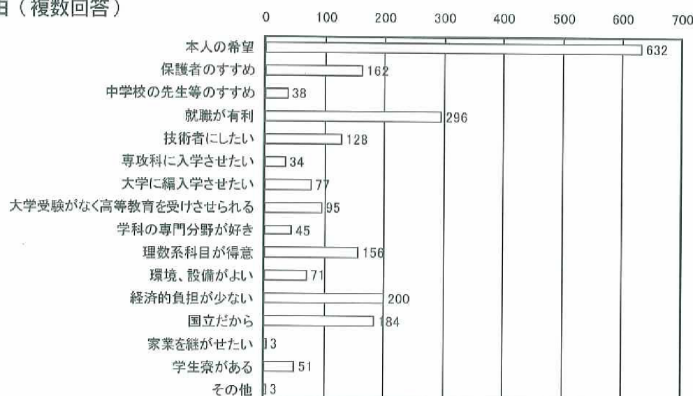
5. 授業参観の実施について

できるだけ多くの保護者の皆様に授業、課外活動の様子を見ていただくために、授業参観を休日に実施するようにしました。今年度は、授業参観日を11月7日(日曜日)に予定しております。

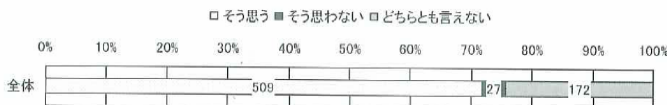
以上、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。また、アンケート集計結果も併せて紹介します。

● アンケート集計結果

○ 高専に入学させた理由（複数回答）



○ 高専に入学させてよかったと思いますか

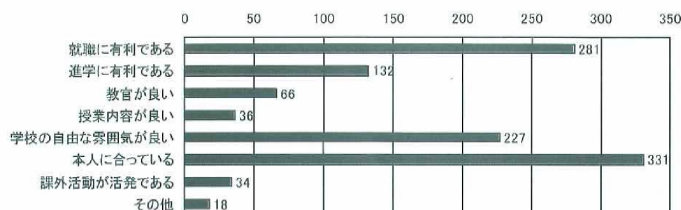


第 84 号

新居浜高専だより

平成16年8月1日

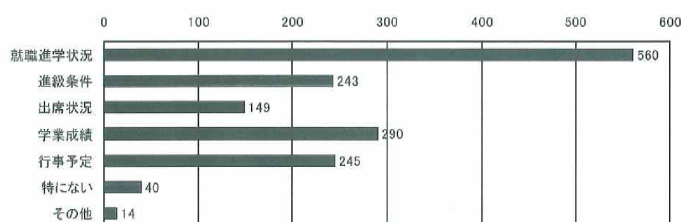
○ 入学させてよかったと思う理由（複数回答）



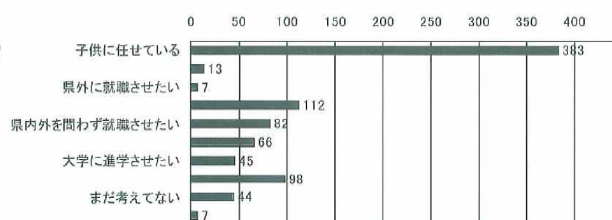
○ 入学させてよかったと思わない理由（複数回答）



○ 学校に関して
知らせて欲しい情報
（複数回答）



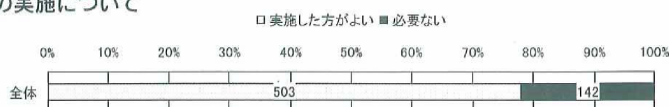
○ 進路についての考え
（1～4年生保護者）（複数回答）



○ 進路指導は適切だと思いますか（5年生、専攻科生保護者）



○ 授業参観（公開授業）の実施について

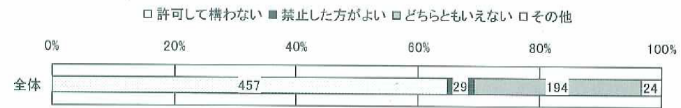


平成16年8月1日

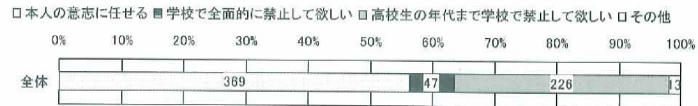
新居浜高専だより

第84号

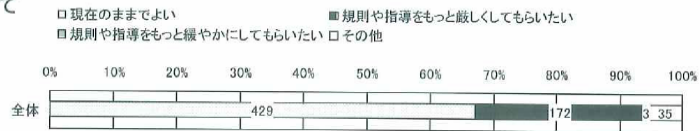
○ アルバイトについて



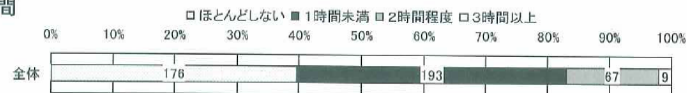
○ 茶髪について



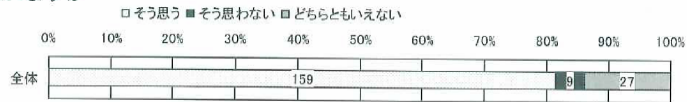
○ 本校の学生指導について



○ 自宅での毎日の勉強時間



○ 寮に入れてよかったですか



資料9-1-④-5

平成18年度夏季英語実力養成講座実施要領

(主催：英語学力強化対策委員会)

1. 開講期間及び実施時間
 - 開講期間：8月28日(月)～31日(木)の4日間
 - 実施時間：8月28日(月) 14:00～16:00
 - 8月29日(火) 10:00～12:00
 - 8月30日(水) 10:00～12:00
 - 8月31日(木) 10:00～12:00
2. 場所：第1, 第2電算室、LL教室等
3. 講座の種類：(1) TOEIC 対応コース (初心者から上級者まで)
 (2) 基礎コース (中学・高専低学年の基礎からやり直し、基礎学力をつけたい者を対象)
 (3) 実力養成コース (基礎学力のある者で、進学・編入学等のため、さらに実力をつけたい者を対象)
4. 対象者：本校の学生。希望者は、学年を問わず、どのコースでも選択できます。
 コースについて決めかねている場合は、英語教員に相談してください。
5. 準備するもの：辞書、ノート、筆記用具等。
6. 使用教材：TOEIC 用教材、プリント教材等 (担当者が準備)
7. 担当者：本校英語教員 (外国人教員を含む)
8. 受講申し込み期限：7月18日(火)までに、学生本人が教務係へ申し込むこと。
 (申し込みの際、連絡先の電話番号を付記すること)
9. 寮生で、特別残寮により受講を希望する場合は、「特別残寮願」(保護者の確認印が必要)を7月11日(火)までに指導教員(塚野教員)に届け出ること。さらに、ガイダンス(7月18日[火] 21:00～)を受ける必要があります。
10. 講座実施場所は、第1日目(8/28)午前中に、学生課掲示版に掲載しますので、ご覧ください。
11. 台風等の場合は、中止することがあります。
12. 講座についての問い合わせは、新居浜高専学生課教務係 (Tel. 0897-37-7724)

(出典 英語学力強化対策委員会資料)

資料9-1-④-6

講座名：[PowerWords 語彙学習コース](#)

選択	教材1	学習日	進捗	選択	教材1	学習日	進捗	選択	辞書ID	教材2	学習日	進捗
<input type="radio"/>	レベル1			<input type="radio"/>	レベル7			<input type="radio"/>	1009	化学系工業英語		
<input type="radio"/>	レベル2			<input type="radio"/>	レベル8			<input type="radio"/>	1010	化学系単語100選		
<input type="radio"/>	レベル3			<input type="radio"/>	レベル9			<input type="radio"/>	1007	toeic 英単語		
<input type="radio"/>	レベル4			<input type="radio"/>	レベル10			<input checked="" type="radio"/>	1003	電気関係		
<input type="radio"/>	レベル5			<input type="radio"/>	レベル11			<input type="radio"/>	1015	材料力学辞書		
<input type="radio"/>	レベル6			<input type="radio"/>	レベル12			<input type="radio"/>	1016	MAT03		

学習を開始する

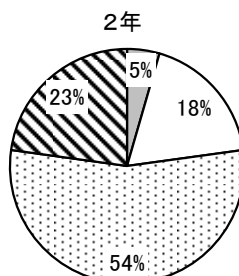
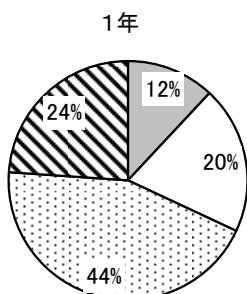
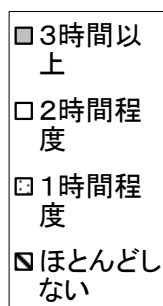
復習する

講座一覧へ戻る

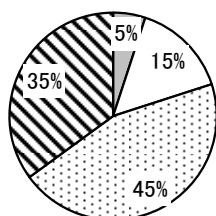
(出典 ALC NetAcademy PowerWords語彙学習コース)

資料9-1-④-7

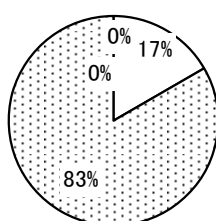
【2】-5 授業時間以外の1日の勉強時間はどの程度ですか。(宿題やレポートを含む)



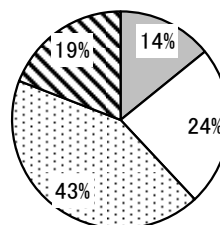
生産工学専攻



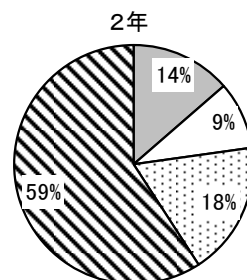
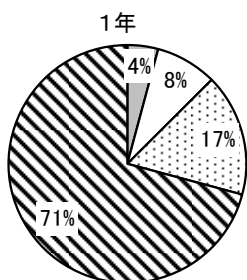
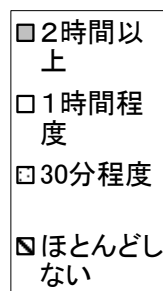
生物応用化学専攻



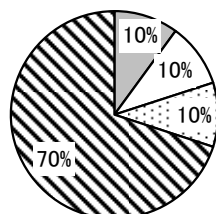
電子工学専攻



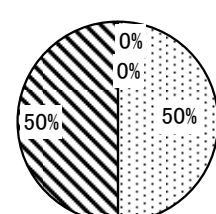
【2】-6 そのうち、宿題やレポート以外の予習・復習の時間はどの程度ですか。



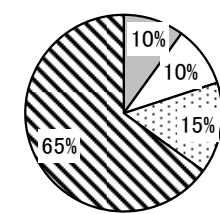
生産工学専攻



生物応用化学専攻



電子工学専攻



(出典 平成16年度専攻科勉学アンケート)

資料 9-1-④-8

授業時間外の学習に関するアンケート（専攻科）

このアンケートでは、授業時間外の学習の状況を把握し、自主学習のサポートを進めるための授業方法改善の資料に活用したいので、以下の設問に対して該当する項目の□をぬりつぶしてください。

() 年 () 専攻 科目名【 】
 担当教員【 】

(注) 授業時間外の学習には、課題、レポート、自主学習等の全ての学習時間を含みます。

1. この授業の内容が理解できますか。
理解できる ほぼ理解できる 理解できない
2. この科目について授業時間外の学習が必要だと思いますか。
そう思う そう思わない (理由:)
3. この科目の1週あたりの課題、レポート等に費やす平均時間はどれ位ですか。
全くしない 約15分 約30分 約1時間 1時間以上 (時間)
 (上記の回答方法で答えにくい場合:)
4. この科目の1週あたりの課題やレポート以外の自主的な学習に費やす平均時間はどれ位ですか。
全くしない 約15分 約30分 約1時間 1時間以上 (時間)
 (上記の回答方法で答えにくい場合:)
5. 自主学習を行う時、どのような資料を使用しますか。(複数回答可)
教科書 シラバスに記載された参考書 図書館にある参考書 授業のノート
教員の配布する資料 インターネット 自主学習は行っていない。
その他 ()
 ・次に、課題やレポート以外の自主学習を行っていない人はお答えください。

6. なぜ自主学習をしないのですか。(複数回答可)
やり方がわからない
時間が無い (理由:)
必要性を感じない (理由:)
その他 (具体的に:)

(出典 専攻科授業時間外の学習に関するアンケート)

資料 9-1-④-9

学科・科主任殿

専攻科長

「専攻科授業時間外の学習に関するアンケート」について

専攻科授業時間外アンケートが集計できましたので、御報告いたします。
 各学科・専攻で分析いただき、授業改善での活用をお願いいたします。

1. 「専攻科授業時間外の学習に関するアンケート」のまとめ

「授業の内容を理解できない」と回答した学生が70%以上いた科目は、29科目中4科目である。そのほとんどは4名以下の受講者の科目であり、1～2名の学生のアンケートの回答が反映された結果であり、授業を全く理解できていない学生は少ないと考えられる。

ほぼ全ての科目で過半数以上の学生が、「授業時間外の学習が必要であると思う」と考えているが、課題・レポートに費やす時間、課題・レポート以外の学習に費やす時間が30分程度以下の学生が多く見られる。また、課題・レポートに費やす時間についての質問で、時間をかけている学生がいる一方で、全くしない学生が多く見られる。課題やレポートの課し方やそのフォローについて改善が必要であると考えられる。

自主学習を行う時に用いる資料としては、教科書、配布プリント、インターネット等を使う学生が多いが、自主学習のやり方がわからないと回答する学生もいることより、自主学習に使用できる資料や方法の例示等の指導が必要と考えられる。

専攻科の授業は、少人数で授業形態も様々であるため包括的にまとめることは難しいが、本授業アンケートの結果を各科目担当教員が解析し授業改善につなげてほしい。

2. 各専攻・学科への依頼事項

- (1) 課題解決能力、自学自習能力の養成のための科目を各専攻の専門科目（講義科目）より各学年で半期1科目選定し、実施する。
- (2) 基礎学力の定着のために、以下の科目については、授業時間外学習を推進する。
 - ・ 英語科目（英語演習書講読、科学英語表現）
 - ・ 数学（工業数学及び演習）

（出典 専攻科教育委員会資料）

資料9-1-④-10

自学自習（授業時間外学習）促進に関する調査

専攻科では、少人数教育の利点を活かし学生の自学自習能力の養成、また学修単位への対応として授業時間外の学習の推進に取り組んでいます。今年度は、基礎学力の定着、課題解決能力、自学自習能力の養成のための科目について、授業時間外学習の推進科目として試行いただきました。本調査では、その結果を分析し自学自習を支援する授業への改善につなげていきたいと考えています。

つきましては、ご面倒ですが、以下の質問にお答えいただきますようお願い申し上げます。

1. 授業科目名：無機化学特論
2. 専攻及び学年：生物応用化学専攻2年
3. 受講者人数：7名
4. どのような方法で自学自習を進めましたか？（宿題、レポート、プレゼンテーション、小テスト等の方法や頻度について具体的に記載してください。）

2回に1回の割合で、教科書の割り当て部分を読み、それに関する内容を本やインターネットで調べてレポート作成（A4/2枚）する。（3時間程度の学習）作成したレポートにより15～20分間プレゼンテーションを行い、質問を受ける。回答できなかった質問に関する内容については、次回までレポート作成を行う。
5. 自学自習を進めるために授業時間中の授業方法を変更（工夫）しましたか。

各学生のレポート作成とプレゼンテーションの回数を倍に増やした。
6. 授業1回当たりの教員が想定している授業時間外の学習時間と実際の学生の学習時間をお答えください。

※詳しい事情聴取をしておりません。

資料 9-1-④-12

第 2 回情報教育センター情報教育推進部門会議 議事録

日 時 : 平成 16 年 6 月 29 日 (火) 16:00~18:15
 場 所 : 第 2 会議室
 司 会 : 勝浦
 出席者 : 勝浦 (部門長), 深山, 馬淵, 松英 (Z), 木本 (G)
 記 録 : 松英

3. 各グループからの報告

2.1 社会構成員としての必要不可欠な情報教育のプログラム構築

[1]-[3]担当: 深山、馬淵

H15 年度に選定した情報教育の内容を各科のシラバスに盛り込み、H17 年度の実施について検討する。(原案をセンター長 (伊月) から教務主事へ)

(出典 平成 16 年度第 2 回情報教育センター情報教育推進部門会議議事録より抜粋)

.....

第四回情報教育センター情報教育推進部門会議 議事録

日 時 : 平成 17 年 12 月 13 日 (火) 16:00~17:15
 場 所 : 第二会議室
 司 会 : 勝浦
 出席者 : 勝浦 (部門長)、平野 (E)、朝日 (Z)、柳井 (S)、榊原 (D)
 記 録 : 勝浦

議 題 :

(1) 情報基礎教育について

11 月の共通シラバスの叩き台への意見を元に作成したシラバス案について各学科での意見を求め、それらを集約し最終的なシラバスを決定し教務委員会に提出する。

(出典 平成 17 年度第 4 回情報教育センター情報教育推進部門会議議事録より抜粋)

資料 9-1-④-13

授業科目	担当教員	開講期	
情報リテラシー	下村 信雄	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11139	1 年 機械工学科		1 単位
授業概要: コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などコンピューターリテラシー			

や、高度情報化社会のあり方・情報化社会への参画する姿勢について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ・情報処理室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変ができること。
- ・ファイルのコピーや移動、フォルダの作成ができること。
- ・キーボードから文字の入力がスムーズにできること。
- ・ワープロソフトを用い、簡単な定型書類が作成できること。
- ・ワープロソフトを用い、図、絵、グラフ入りの書類が作成できること。
- ・入手した情報を加工、表現する際に守らなければならないことを理解すること。
- ・情報を発信することには責任が伴うことを理解できること。
- ・セキュリティを守る数々の技術について理解し、情報化社会を生きるために自らを守る方法を知ること。
- ・メディアリテラシーを知り、入手した情報を鵜呑みにせず批判的に受け入れることの大切さを理解すること。
- ・有害情報やインターネット上の犯罪について知ることで、高度情報化社会の負の面について理解すること。
- ・情報に関する法律について学び、他人の著作権や個人情報の重要性について理解すること。

教科書: ネットワーク社会における情報の活用と技術 岡田正 他編

参考書: なし

授業の進め方: 講義と演習を取り混ぜて行なう。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、タイピング練習、ファイル・フォルダの操作
- 2 タイピング練習、インターネット検索、メールの設定と使い方
- 3 タイピング練習、WebClass の使い方、ワープロソフトの使い方 1
- 4 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 2
- 5 情報の加工と表現
- 6 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 3
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 4
- 9 セキュリティを守る技術 1(認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例)
- 10 セキュリティを守る技術 2(セキュリティホールとコンピュータウイルス)
- 11 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 5
- 12 情報の受信・発信(インターネットと犯罪)
- 13 情報の受信・発信(メディアリテラシー)
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

成績評価の方法: 課題提出及び課題等授業に取り組む姿勢 60%、前期末試験 40%で評価する。

学生へのメッセージ: これからの高度情報化社会を歩いていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、モラルがとても大切になります。是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。

(出典 平成18年度シラバス)

資料 9 - 1 - ④ - 1 4

平成18年度学生と学校との交流懇談会要旨

日 時 平成19年2月14日(水) 16時10分～19時10分
 場 所 第2会議室
 出席者 【学校関係者】
 校長、教務主事(代理:吉川)、学生主事、寮務主事、

専攻科長，西井教員（学生会担当）
事務部長，総務課長，学生課長

【学生会・寮生会】

学生会長	5 D	石川和樹
風紀委員長	5 E	古田将空
次期学生会長	4 D	白石泰大
次期副会長	3 M	峯原将志
〃	3 D	戸田美里
寮生会長	5 E	日野洋介
副会長	5 C	岡田舞
〃	4 C	森野智仁

進行 岡山学生課長
懇談会要旨

1 開会

教職員及び学生の紹介の後，学生課長から本懇談会の進行について説明があった。

2 校長あいさつ

校長から，あいさつ及び本懇談会の趣旨について説明があった。

3 前回懇談会での提案事項に対する学校の取組みについて

平成17年度の本懇談会における主な提案事項に対する学校の取組みについて，教務委員会，学生委員会，寮務委員会及び専攻科から，それぞれ資料に基づき報告があった。

(以下略)

(出典 平成18年度学生と学校との交流懇談会)

資料9-1-④-15

平成18年度専攻科生との交流懇談会議事録

1. 日時 平成19年2月8日（木） 16:10～18:20

2. 場所 教職員連絡コーナー南

3. 出席者：水野校長、早瀬(専攻科長)、豊田(専攻主任)、皆本(専攻主任)

阿部(2SM)、石本(2SE)、藤中(2SC)、小澤(1SM)、中常(1SE)、白石(1SC)

4. 配布資料：

資料1 平成17年度専攻科学生との交流懇談会後の活動報告

資料2 平成18年度専攻科学生との交流懇談会における専攻科学生からの提案及び要望

5. 議事概要

水野校長の挨拶の後、専攻科長より前回懇談会からの活動状況報告があり、その後学生からの提案に基づく懇談を実施した。

(1) 平成17年度専攻科学生との交流懇談会後の活動報告

(1)	提案・要望	新しくできる専攻科の部屋にネットのできるパソコンがほしい。
	対応	インターネットをできるパソコンを2台導入した。
(2)	提案・要望	美術室の鍵を開けてほしい。(ホムルームがないので、先生が来るまで待つため)
	対応	来年度より、専攻科学生室が使用できるので、その部屋を使用してほしい。
(3)	提案・要望	エレベータの使用を許可してほしい。
	対応	各学科でのルールに従ってほしい。実験等の機器の運搬での使用は認められているはずである。
(4)	提案・要望	専攻科生以外の自動車の駐車を禁止するか、駐車場を拡大してほしい。駐車場を増やすか本科生の自動車での通学を取り締まってほしい。
	対応	専攻科棟南に駐車場を整備するが、駐車可能台数の大幅な増加は難しい。

		本科生の車両の違法乗り入れは、学生委員会が中心に指導している。そのような学生がいる場合には教員に連絡してほしい。
(5)	提案・要望	専攻科生については、自動二輪（400cc まで）での通学を許可してほしい。自動車が許可されているのだから、自動二輪（400cc まで）も良いのではないか。
	対応	自動車の乗り入れは、特別研究等で帰宅が遅くなるような場合にのみ特別に許可している。自動二輪は、通学の安全上の問題からも許可することは難しい。
(6)	提案・要望	学生の要望で図書館に本を入れてほしい。
	対応	現在も、図書館に申請すれば図書を購入は可能である。
(7)	提案・要望	忙しいので国領祭での専攻科展示をやめてほしい。
	対応	専攻科の地域への PR、学生会活動への参加の一環として推進しているので、協力してほしい。来年度は、連絡を早くして準備期間に余裕を持たせるようにしたい。
(8)	提案・要望	特別研究指導教員の不在が多いと感じる。
	対応	授業、会議等で不在の場合もあると思うが、教員に連絡し研究指導の時間を設定する等して対応してほしい。
(9)	提案・要望	学位授与機構の試験の際の交通費を補助してほしい。
	対応	学位取得の受益者負担となるため、旅費の補助は困難である。
(10)	提案・要望	もう一度必須科目を見直してほしい。何故必須なのかわからない科目が多い。
	対応	必修科目は、修了生アンケート等も参考にしながら、各専攻で必要と思われる科目を設定している。学際的な科目も修了後に必要になるので、しっかり学んでほしい。また、カリキュラムの検討は毎年実施している。
(11)	提案・要望	専攻科生はプレゼンによる講義が多く、その準備のために多くの時間を要するため、就職活動等の時間がとれない等の支障が生じている。
	対応	昨年度は、専攻によっては、特別研究の中間発表等の実施の連絡が遅くなり、準備のための負担が多くなったようである。今年度は、特別研究の中間発表等の実施については準備の時間が十分にとれるように早く連絡するように改善した。また、グループ実習で授業時間外の準備の負荷が異なる場合があることわかったので、該当科目については来年度より実施方法を変更するように依頼している。

(略)

(出典 平成18年度専攻科生との交流懇談会議事録)

資料 9 - 1 - ④ - 1 6

新居浜高専における 材料力学教育の現状と将来

**新居浜高専 機械工学科
鎌田 慶宣**

平成18年8月11日(金)

新来島どっくのヒヤリング

造船業界でも、有限要素解析(FEM)が設計の主流だが、
新入社員や経験に乏しい技術者は以下の点に不足が見られる。

- －応力やひずみなどの計算結果を正しく見る能力
- －仮説(単純化した力学的なイメージ)を立てる能力
- －こういう結果が出るはずがないということに気付く能力
- －複雑な構造をFEMに行く前に先ず梁理論等で手計算できる能力
- －解析能力だけでなく、仕様を満足する設計問題を解く力

要は、基本的な原理・事柄を確実に理解し、設計課題について先ず自分で手計算できる程度の力をつけること

機械工学教育が目指すもの

- 機械工学を有機的に結合した大きなものとして捉えること
- 与えられた問題を、いかに早く機械的に解くかではなく、別解を探したり、他分野とのつながりを考えたりできること
- 未知の問題に直面したときに、独創的な新しい方法を生み出せること

要は、少なくとも基本的な原理・事柄を確実に理解しておくことが重要

教育改善の方向付け

- 基本的な原理・事柄の確実な理解に重点を置き修得内容の取捨選択と集中
- 学生に身近なものや、企業での設計例の引用
- 数学、物理、専門(創造設計)科目との連携
- 変形などの可視化(CAE構造解析の活用)
- E-learning教材の準備

ま と め

- **基本的な原理・事柄の確実な理解に重点を置き修得内容の取捨選択と集中**
- **学生に身近なものや、企業での設計例の引用**
- **仕様を満足させる設計演習教材の充実**
- **CAE活用による応力などの可視化**
- **E-learningの積極的な活用**

以上の改善方策を現場で実のあるものにするには、多くの課題が予想されるが、鋭意進めていく。

(出典 平成18年度四国地区高専共同事業FD研修会発表資料より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

点検・評価の結果を受けて運営会議と学校改革推進室が、各学科(科)および各委員会などと連携して教育改善を実施する体制が整備されている。また、この体制に則って具体的な改善活動が継続的に実施されている。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

各教員は、学生による授業アンケートなどの評価結果を踏まえて、年度当初に「業務努力目標(教育活動・FD、研究活動、学校運営参画、社会貢献)」を提出し、年度末にはその実施報告及び自己評価を行い、各学科(科)主任を経由して校長に提出している(資料9-1-⑤-1)。校長はこれをもとに教員と面談し、改善活動の状況を把握している。また、運営諮問会議の意見や各種アンケート結果などを踏まえて、教育改善を促している。

業務努力目標及び自己評価記入表 (平成 18 年度)

所属・職名 _____

氏 名 _____

	重点業務努力目標	具体的な活動	評価
教育活動 (F D を含む。)	(1)学習指導 (2)課外活動指導 (3)学生生活指導 (4)FD活動		
研究活動	(1)教育へのフィードバック (2)地域ニーズへの対応		
学校運営 参			
社会 貢 献	(1)産学連携活動 (2)生涯学習・教育支援活動		

- 備考 1 業務努力目標は、事項ごとに整理し、簡潔に記入すること。
- 2 具体的な活動の欄には、年度当初にあっては活動プランを、年度末の報告にあっては活動実績のうち特記すべき内容を記載すること。
- 3 評価欄には、当該年度末において業務努力目標事項ごとに、次の3段階で評価すること。
- A・・・達成できた。
 - B・・・ほぼ達成できた。
 - C・・・達成できなかった。

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

各教員は、授業アンケートなどの評価結果に基づいて年度当初に業務努力目標を作成し、具体的な改善活動を実施している。学校は、年度末に各教員からその活動報告書を提出させることで教育改善状況を把握している。

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員は、年度当初に研究計画調書を作成し、校長に提出することになっており、その中で研究の教育へのフィードバックを記載し、教育改善につながることを意識して研究活動を実施している(資料 9-1-⑥-1)。特に卒業研究や特別研究においては、そのテーマに各教員の研究テーマを取り入れており、学生は各専門分野の先端の研究に触れることができると共に、課題発見能力や問題解決能力などを身に付ける上で寄与している(資料 9-1-⑥-2, 資料 9-1-⑥-3, 資料 9-1-⑥-4, 資料 9-1-⑥-5)。

教員の教育改善に関する研究活動の実施例として、平成18年度には「新居浜高専における材料力学教育の現状と将来」、「新居浜高専における教育用電子計算機システムについて」など11件がある(資料 9-1-⑥-6)。

また、教員の研究分野の知見を活かした課外活動を実施し、教育の質の向上に役立てている。平成18年度には、ロボットコンテスト、プロミングコンテスト、デザインコンペティション、室内飛行ロボットコンテスト、エコエネルギーコンテストなどに研究活動が活かされた(資料 9-1-⑥-7, 資料 9-1-⑥-8, 資料 9-1-⑥-9, 資料 9-1-⑥-10, 資料 9-1-⑥-11)。

資料9-1-⑥-1

平成18年度 研究計画調書

平成 年 月 日

学 科 名		職 名		氏 名	
テ ー マ 名					
研 究 目 的					
研 究 計 画 ・ 方 法 ・ 概 要					
研 究 の 教 育 へ の フ ィ ー ド バ ッ ク					
地 域 と の 連 携					

注) 研究業績が掲載されている「平成17年度国立新居浜工業高等専門学校年間業績報告」の該当ページのコピーを添付してください(原稿段階のものでも可)。

平成18年度の具体的な研究計画	内 容										
	外 部 資 金										
	研究成果の発表予定										
卒業研究・特別研究のテーマ名	(卒業研究)										
	(特別研究)										
区 分	機械	電気	電子	材料	数理	一般	総合評価				
計 画 評 価											
備 考											

(出典 総務課資料)

資料 9 - 1 - ⑥ - 2

平成18年度 機械工学科 卒業研究テーマ

番号	発表題目	発表者	指導 教員
1	新居浜シンボルロボットの製作 -太鼓叩きロボット-	飯尾敏雄	宮田
2	大型トラック用ハブのハンマリング実験	飯尾友樹	鎌田
3	斜め折れ線擬似円筒容器のCAD/CAE	石村敏史	鎌田
4	エオリアンハブの製作	伊藤健太	松田
5	新居浜シンボルロボットの製作 -太鼓叩きロボット-	伊藤隆洋	宮田
6	二方向形状記憶合金薄膜の制御	伊藤立陽	刑部
7	コイル巻き可変治具の開発	浮田佑介	吉川
8	マイクロバブルを用いた浄化装置の製作	大氣恭平	松田
9	き裂のある大型トラック用ハブのCAE解析	大久保寛和	鎌田
10	超音波モータのステッピングドライブに関する研究	越智亮介	宮田
11	たわみ防止給線機の開発	小野潤一	吉川
12	MH合金モデル熱交換機の性能評価	加藤憂紀	下村
13	窒化ケイ素球の鋼平面での圧縮による静的強度および疲労寿命分布	木原陵太	北住
14	窒化ケイ素球の鋼平面での圧縮による静的強度および疲労寿命分布	黒田峻介	北住
15	倒立振子制御装置の製作	末竹哲也	豊田
16	エオリアンハブの製作	鈴木啓史	松田
17	バイオメタル・ファイバーを利用したアクチュエータの試作	曾我文哉	刑部
18	屋根散水における散水ノズルの改良	曾根秀貴	谷脇
19	セダン車用一人介助移乗補助装置の開発	高橋和裕	吉川
20	FRP工具の研究 -歯の研磨-	高橋良太	石井
21	FRP工具の研究 -歯の研磨-	武本卓樹	石井
22	窒化ケイ素球の鋼平面での圧縮による静的強度および疲労寿命分布	田坂洋範	北住
23	屋根散水システムの設置と最適な運転条件の検討	戸田祥太	谷脇
24	効率的な除霜に関する実験的研究	戸田祐太	下村
25	形状記憶合金を用いた玩具の試作	中森義生	刑部
26	屋根散水による実習工場内室温の変化	永井正人	谷脇
27	倒立振子制御装置の製作	西岡直樹	豊田
28	ブリッジコンテスト参加のための橋の製作 (2)	日越栄雄	谷口
29	水撃ポンプの出力増加に関する研究	尾藤友胤	松田
30	MH合金の相当熱伝達率の測定	松藤和也	下村
31	昆虫型ロボットの製作	峯 良人	谷口
32	形状記憶合金を用いたアクチュエータの試作	三村徹朗	刑部
33	ブリッジコンテスト参加のための橋の製作 (1)	村上友洋	谷口
34	シンボルロボ「銅滴の夢」の設計	八十島啓介	谷口
35	音の解析	好井生光	豊田
36	冷蔵庫内着霜の実験的研究	渡部貴史	下村
37	新居浜シンボルロボットの製作 -かき夫ロボット-	渡邊拓弥	宮田
38	CADを用いた回転機械の振動研究	ホジョン	鎌田

平成18年度 電気工学科 卒業研究テーマ

番号	発表題目	発表者	指導 教員
1	太陽光追尾機能を有するソーラーカーの開発	桐嶋 えりか	皆本
2	太陽電池-バッテリー充電システムの開発	古田 将空	皆本
3	自然エネルギー利用発電のモニタリングシステム	前田 誠司	皆本
4	GPUを用いた並列計算機の構築ならびに性能評価	石田 和弥	横山
5	確率的探索手法を用いた時間割作成システムの構築	石川 祐輝	横山
6	連続的枝付加による最大な木の個数をもつグラフの構成 - グラフ構成法-	阿部 秀央	井門
7	連続的枝付加による最大な木の個数をもつグラフの構成 - 同形グラフ-	池 隆史	井門
8	所定の連結度を満たすグラフ拡張法	橋本 祐介	井門
9	太陽光エネルギーを利用した水中掃除ロボットの製作 (1)	安野 僚祐	尾西
10	太陽光エネルギーを利用した水中掃除ロボットの製作 (2)	鈴木 優輔	尾西
11	電動車椅子のアシスト機能の改良	豊田 祐太郎	尾西
12	眼球電図における眼球周囲の電極位置と電位の関係(1)	山本 貢	伊月
13	眼球電図における眼球周囲の電極位置と電位の関係(2)	曾我部 友輝	伊月
14	眼球電図のクロストークの特性解析	西山 慎吾	伊月
15	画像処理実験のテーマ開発	藤田 翼	平野
16	中皮腫自動抽出ソフトの開発	森本 恭平	平野
17	マイクロストリップ線路を用いたアレーアンテナの研究	佐藤 裕介	香川
18	GP-IBによる測定器の制御	檜垣 佑也	香川
19	マイクロ波シミュレータを用いた回路解析	前田 大輔	香川
20	エコ小型夜間照明システムの開発	鈴木 祐輝	王
21	赤外線センサーによる距離検出法の研究	越智 裕章	王
22	赤外線センサーを用いた方向判定装置の開発	日野 洋介	王
23	水中レーザー・アブレーションによる高密度プラズマ	野口 大輔	馬淵
24	ナノコイルの電気的特性	星田 孝憲	馬淵
25	固体燃料電池の最適条件	岩瀬 薫子	馬淵
26	テンプレートマッチングによるトランプタワーのカード検出	山下 敬佑	先山
27	アクティブカメラを利用した物体追跡	ト ア ン	先山
28	2台のカメラを用いたラジコンカーのリアルタイム追跡撮影	西原 一隆	先山
29	新居浜高専の電気料金の節約対策について	福田 裕貴	檀上
30	新居浜高専の電気料金の節約対策について	藤山 愛	檀上
31	ポケコンによる発光ダイオード列を用いた文字表示	瀬戸口 甘菜	稲見
32	ポケコンによる発光ダイオード列を用いた動画表示	三宅 翔大	稲見
33	表計算ソフト (エクセル) によるトランジスタ増幅回路の動作表示	村尾 亜由美	稲見
34	車々間通信用アレーアンテナの指向性合成	山田 孝博	佐藤
35	交差点で車々間通信を行うための電波伝搬特性解析	野島 彰紘	佐藤
36	後側方車両検出用車載アンテナの最適設計法	結田 圭介	佐藤

平成18年度 電子制御工学科 卒業研究テーマ

番号	発表題目	発表者	指導 教員
1	[20] 模型自動車によるヘッドライトの眩惑防止 (1)	石川 和樹	松村弘志
2	[27] 自動演奏楽器の製作 (2)	井出 理恵	出口幹雄
3	[16] セラニューラルネットワークによるモアレ縞シミュレーション	稲井 弘次郎	占部弘治
4	[7] 音波式位置検出システム (1) - 音波伝播時間の多経路同時計測 -	小川 靖弘	深山幸穂
5	[33] ANSYSを用いた埋込磁石モータの特性解析	荻山 団造	松友真哉
6	[24] 長手磁気記録再生特性の簡略化モデルと検出方式の検討	金井 祥司	栗原義武
7	[36] マイクロストリップ-スロット変換器の設計に関する研究	川村 拓也	今井伸明
8	[13] プログラマブル・デジタルIC CPLDを用いた電子ルーレットの設計・製作	菊池 伸寛	榊原久司
9	[28] PICマイコンを用いた電子楽器 (光センサテルミン) の製作 (1)	近藤 愛由美	出口幹雄
10	[8] 音波式位置検出システム (2) - Gold系列の発生法と性質 -	近藤 将次	深山幸穂
11	[15] DCサーボモータを用いた高速位置決め制御	近藤 雅紀	榊原久司
12	[18] マルチディスプレイを利用した宇宙旅行シミュレータの製作 - メインプログラムの製作 -	佐伯 貴大	占部弘治
13	[6] ダイクストラ法による最短経路検索	杉野 善朗	白井みゆき
14	[5] オブジェクト指向技術を用いた学習・判断シミュレータの製作	首藤 将貴	白井みゆき
15	[10] 音波式位置検出システム (4) - 試作機の製作と性能検証 -	曾我 基貴	深山幸穂
16	[1] ウェーブレット変換を用いた電子透かしに関する考察	多田 裕佑	田中大二郎
17	[35] 電磁界シミュレータを用いたマイクロ波基本回路のシミュレーション計算に関する研究 - 平面アンテナおよび帯域阻止フィルタについての計算結果 -	谷野宮光希	今井伸明
18	[2] FFTを用いた欠損画像の復元	土岐 優司	田中大二郎
19	[22] Javaによる前方衝突防止の交通アニメーション	中矢 智孝	松村弘志
20	[23] Javaによる交差点付近の交通アニメーション	永易 良太	松村弘志
21	[17] マルチディスプレイを利用した宇宙旅行シミュレータの製作 - 入力デバイスの製作 -	縄田 怜也	占部弘治
22	[9] 音波式位置検出システム (3) - 送信側と同期不要の位置推定法 -	西坂 成亮	深山幸穂
23	[14] DSPを用いた筋電位特徴抽出システムの設計	檜垣 佑児	榊原久司
24	[12] Tinyマイコンを用いたイーサネット計測基板の製作	檜垣 良太	榊原久司
25	[26] 自動演奏楽器の製作 (1)	日野 由喜	出口幹雄
26	[11] ウェーブレット変換を用いた採譜システムの性能向上	日野 祐志	深山幸穂
27	[32] ANSYSを用いた表面永久磁石モータの特性解析	藤山 拓也	松友真哉
28	[31] Flashを用いたWeb上における電子棟案内システムの作成	前田 有希	松友真哉
29	[25] 垂直磁気記録における簡略化PRML方式モデルの誤り率特性	正木 寿和	栗原義武
30	[3] 格子状フィールドに置かれた物体の最適整理手法に関する考察	松本 誠	田中大二郎
31	[34] 電磁界シミュレータを用いたマイクロ波基本回路のシミュレーション計算に関する研究 - インピーダンス変換器についての計算結果 -	森 秀人	今井伸明
32	[21] 模型自動車によるヘッドライトの眩惑防止 (2)	森井 一光	松村弘志
33	[19] Ajax を活用したWebアルバムの製作	弓山 彬	占部弘治
34	[30] 電界解析結果からの等電位線の可視化手法に関する検討	横内 亮太	松友真哉
35	[4] 学生実験用画像処理プログラムの開発	ホアンテー コン	田中大二郎
36	[29] PICマイコンを用いた電子楽器 (光センサテルミン) の製作 (2)	リムウェイ ン	出口幹雄

平成18年度 生物応用化学科 卒業研究テーマ

番号	発表題目	発表者	指導 教員
1	アガリクスの抗酸化物抽出法の開発(2)	青山 真琴	中川
2	側鎖と主鎖末端に蛍光性基を導入した剛直鎖ポリペプチドにおける光励起エネルギー移動	石川 大生	間淵
3	DTABミセルへの1-ヘプチルアルコールの可溶化	茨木 里美	河村
4	ラクチド/ ϵ -カプロラクトン共重合体の合成方法の検討	岡田 舞	堤
5	新規細胞死誘導化合物の探求	越智 明德	牛尾
6	低界面張力系での滴合一に及ぼす界面張力の影響	越智 吉豊	西井
7	逆ミセルを用いたメチレンブルー抽出のための基礎的検討	鹿島 裕史	衣笠
8	白色腐朽菌が生産する酵素の利用に関する研究	加治井 文乃	早瀬
9	微生物による環境浄化に関する基礎的検討	河野 佳央璃	早瀬
10	デシルピリジニウムイオン選択性電極の作成	小林 知明	勝浦
11	合成色素を用いた色素増感太陽電池の作製と応用(2) —耐久性と薄膜化—	近藤 可奈子	間淵
12	L-ラクチドと環状カーボネートの共重合体の合成とそれらの酵素分解性	酒藤 潤	堤
13	DPPCリポソームへの1-ノナノールの可溶化	白石 悠	河村
14	逆ミセル乳化液膜の安定性に及ぼす操作条件の影響	神野 朋美	衣笠
15	高温作動型pH電極の開発	高須賀 恵	桑田
16	藻場再生の為の基礎的研究	田所 南海帆	牧
17	Nafion膜を用いた過酸化水素センサの応答特性	津島 達也	桑田
18	低界面張力系での滴生成に及ぼす各種因子の影響	直野 敬之	西井
19	Sr固定化に対するリン酸ジルコニウム調製方法が及ぼす影響について	真鍋 比呂美	中山
20	低電荷密度ポリアクリル酸へのデシルトリメチルアンモニウムイオンの結合挙動	三宅 暁久	勝浦
21	果実の高付加価値生産 (要旨は不掲載)	村上 紗郁	牧
22	固相反応法により作製した複合酸化物の酸化触媒特性	山田 陽一郎	中山
23	抗酸化能力評価用センサ素子材の開発	山本 慎也	中川
24	色素内包マイクロカプセル作製法の開発	和氣 一恵	中川
25	植物抽出液による細胞死誘導作用の検定	渡部 純也	牛尾

平成18年度 材料工学科 卒業研究テーマ

No.	発表題目	発表者	指導 教員
1	アルミナ繊維強化アルミニウム複合材料の熱膨張	安部 葵	池内
2	水晶振動子ガスセンサのセンサ感応材料と応答物質の関係に関する研究	安藤 愛由美	松原
3	酸化ビスマス系低融点ガラスの結晶化	安藤 芽久美	新田
4	メカニカルアロイング法を用いたLaFe4Sb12熱電材料の作製	石倉 正隆	志賀
5	強加工による非鉄金属材料の硬さ変化に関する基礎研究	伊藤 大起	志賀
6	半導体ガスセンサと水晶振動子ガスセンサを組み合わせた匂いセンサシステムの開発	上野 彩美	松原
7	水熱合成薄膜堆積法によるSrTiO3薄膜の作製	大辻 貴裕	日野
8	複合型匂いセンサシステムによる水-エタノール混合系の測定	岡崎 徳大	松原
9	古代製鉄法”たたら”による和鉄の生成に関する研究	岡部 達也	松英
10	RE2O3-Na2O-B2O3系ガラス(RE=希土類)の作製とガラス化の確認	岡本 明日香	朝日
11	酸化ビスマス系ガラスの結晶化による強誘電体の作製	楠 仁希	新田
12	RE2O3-Na2O-B2O3系ガラス(RE=希土類)の熱特性評価	工藤 裕也	朝日
13	Al廃材の2, 3の性質とAl-Al2O3系複合材料の作製	白石 匠	高橋
14	Bi2O3-P2O5系のガラス化範囲及び熱的性質	高石 亮太	新田
15	チラノ繊維強化アルミニウム複合材料の熱膨張	高濱 宏光	池内
16	Y2O3-Na2O-SiO2-B2O3系ガラス(RE=希土類)の作製とガラス化の確認	玉岡 慎也	朝日
17	Ci-Ni-Si合金における相変態過程のX線回折	林 美那	相根
18	アルミニウム青銅の硬さ並びに組織に及ぼすクロムの影響	深川 大輔	谷
19	海洋チェーン鋼の耐食性評価	星加 学	日野
20	クロム添加アルミニウム青銅鋳物の機械的性質	本宮 嵩洋	谷
21	表面改質によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究	三宅 あゆみ	松英
22	Ci-Ni-Si合金の電子顕微鏡による相変態過程の観察	森川 瞳	相根
23	強加工による金属材料の硬さ変化に関する基礎研究	山内 義弘	志賀
24	S45CおよびSK4の熱処理と組織および硬さの検証	渡部 心睦	曾我部

(出典 平成18年度卒業研究要旨集)

平成18年度専攻科生産工学専攻・生物応用化学専攻特別研究テーマ

8 : 5 0	宇野 弘記	歩行安定化のための歩行動作の解析
9 : 1 0	近江 将	硬質薄膜の形成によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究
9 : 3 0	宮崎 翔士	MoSi ₂ 皮膜の作製
9 : 5 0	石川 圭太	界面活性剤-タンパク質複合体の沈殿生成を利用したタンパク質の分離
1 0 : 1 0	猪谷 和成	8mol%Y ₂ O ₃ 安定化 ZrO ₂ 電解質中の SiO ₂ 量が電気特性に及ぼす影響
1 0 : 4 0	伊藤 智理	アガリクス廃菌床による多環芳香族炭化水素類汚染土壌の浄化
1 1 : 0 0	柿山 拓司	ドデシルエチルジメチルアンモニウム及びドデシルトリエチルアンモニウムのポリアク リル酸への結合挙動
1 1 : 2 0	鎌田 将行	脈動多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出
1 1 : 4 0	野本 直弘	高水温で機能する水質浄化微生物の探索
1 2 : 5 0	藤中 祐樹	<i>Alternaria</i> KH-1 株による生分解性ポリマー分解への高級アルコール添加効果
1 3 : 1 0	阿部 伸也	手作り飛行機の安定飛行条件に関する研究
1 3 : 3 0	莖田 賢一	段差解消装置の設計・開発
1 3 : 5 0	渡部 弘綱	座位保持困難者に対する座位保持補助具の開発
1 4 : 2 0	越智 剛	酸化鉛を含まない酸化ビスマス系低融点ガラスの耐水性評価
1 4 : 4 0	毛利 廣義	Ni 濃度の異なる Cu-Ni-Si 系合金における相変態
1 5 : 0 0	渡邊 康平	アルミニウム青銅鋳物の機械的性質に対するマンガン並びにクロムの添加効果
1 5 : 2 0	渡部 祐也	Ti-Al-Co 系合金の 2, 3 の性質と相互拡散

平成18年度専攻科電子工学専攻特別研究発表会プログラム

1 2 : 5 0	石本 寛幸	回生付電動アシスト自転車の製作
1 3 : 0 5	伊藤 里美	ウェーブレット変換を用いた採譜システムの改良
1 3 : 2 0	山内 健司	車載レーダ用高効率反射器の設計法
1 3 : 3 5	白石 哲也	前方障害物回避の自動車安全走行支援の提案
1 3 : 5 0	伴野 慎吾	進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究
1 4 : 0 5	河渕 丈志	太陽光発電制御・モニタリングシステムの開発
< 休憩 10分 >		
1 4 : 3 0	渡邊 潤	強化信号を用いた学習オートマトン環境変化認識機構に関する一考察
1 4 : 4 5	新居 広光	水中レーザーアブレーションにおける高密度プラズマの状態方程式の導出
1 5 : 0 0	片上 健太	眼球電図 (EOG) の眼科診断への応用
1 5 : 1 5	星加 一太	屈折コントラストを利用した X 線画像のシミュレーション
1 5 : 3 0	森本 康雅	水/セラミック電極の応用技術の研究
1 5 : 4 5	高石 悠太	垂直磁気記録におけるトラック間干渉軽減符号に関する研究
1 6 : 0 0	山本 雄太	電動アシスト車椅子の開発

(出典 平成18年度専攻科特別研究発表会プログラム)

資料 9-1-⑥-4

平成 18 年度準学士課程学生の学外発表状況

(下線が準学士課程学生)

谷脇充浩、上岡勇輝、山内優子

屋根散水による実習工場内室温の変化

新居浜工業高等専門学校紀要 43 巻 (2007)

鎌田慶宣、本田拓也、伊藤勝久、松木康紘、河村武俊

PET ボトルの軸方向圧潰実験

廃棄物学会第 17 回研究発表論文集

松田雄二、阿部伸也、田中大貴、戒能真

手作り飛行機の安定飛行に関する研究

新居浜工業高等専門学校紀要第 43 号 pp.5-8 (2007)

星田孝憲、芦田有、馬淵真人

ナノコイルの電気的特性の理論的解明

第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集(2006.11) pp.25-27

岩瀬薫子、尾西康次、芦田有、馬淵真人

最適な固体燃料電池を実現するために必要な条件

第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集(2006.11) p.21

佐藤真一、香川福有、結田圭介、片岡丈

マルチパスを考慮した車載レーダ用アンテナの一設計法

2007 年電子通信学会総合大会 B-1-115 (2007.3)

鈴木優輔、安野僚祐、尾西康次

太陽光エネルギーを利用した水中掃除ロボットの制作

18 年度高専卒業研究発表会講演論文集 p.38 (大阪) (2007.3)

高須賀恵、中山享、桑田茂樹、朝日太郎

高温作動型 pH 電極の開発

第 12 回高専シンポジウム講演要旨集 p.84 (2007.1)

中川克彦、青山真琴、伊藤智理、堤主計、森永弘志、宮部真司

種々の熱抽出法によるアガリクス成分の抗酸化指標に対する影響について (2)

日本農芸化学会 2007 年度大会 (2007.3)

(出典 平成18年度年間業績報告などより編集)

資料 9-1-⑥-5

平成 18 年度専攻科課程学生の学外発表状況

[論文等]

伊藤里美

Acoustical Gas Temperature Estimator Applying to Gymnasium and Outdoor Environment for Evaluation of Watering Effect

International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol.2, No.5 pp971-984, October 2006

大濱瑛輔

Graph construction with the maximum number of trees by continuous edge addition

Artificial Life and Robotics, Vol.10, No.2, pp.185-188, 2006

新居広光

水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察

第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文 pp.28-31, 2006

阿部伸也、田中大貴

手作り飛行機の安定飛行に関する研究

新居浜工業高等専門学校紀要, 第 43 号, pp.5-8, 2007

[学会等口頭発表]

阿部伸也

手作り飛行機の安定飛行に関する研究

日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

渡部弘綱

脳性麻痺児用座位保持補助具の開発

日本機械学会中国四国学生会 第 37 回学生員卒業研究発表講演会 2007 年 3 月 (徳島)

莖田賢一

バッテリー式介護・入浴移動車の開発

日本リハビリ工学協会第 20 回リハ工学カンファレンス 2007 年 3 月 (佐賀)

近江将

硬質積層薄膜によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会、2006 年 6 月 (松山)

毛利廣義

Ni 濃度の異なる Cu-Ni-Si 系合金における相変態

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

渡部祐也

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と拡散に関する研究

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

小澤卓矢

Ti-Al-Co 系合金の 2、3 の性質と相互拡散

第 111 回軽金属学会秋期大会 2006 年 11 月 (東京)

日野雅也

メカニカルアロイングを用いた LaFe₄Sb₁₂ 熱電材料の作製

第 15 回 日本材料科学会四国支部講演大会 2006 年 6 月 (松山)

石川圭太

界面活性剤-タンパク質複合体の沈殿生成を利用したタンパク質の分離

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

猪谷和成

タリウム-希土類-シリケートガラスの電気特性

第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知)

猪谷和成

8mol%Y₂O₃ 安定化 ZrO₂ 電解質中の SiO₂ 量が電気特性に及ぼす影響

電気化学会第 74 回大会 2007 年 3 月 (野田)

伊藤智理

アガリクス菌床による多環芳香族炭化水素類汚染土壌の浄化(2)

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

柿山拓司

低電荷密度ポリアクリル酸へのドデシルトリエチルアンモニウムイオンの結合挙動

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

鎌田将行

脈動多孔板塔を用いた逆ミセルからのリゾチームの逆抽出

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

野本直弘

高水温で機能する水質浄化微生物の探索

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

藤中祐樹

Alternaria KH-1 株による生分解性ポリマー分解への高級アルコール添加効果

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

坂本洗太郎

海洋生物の付着を防止する微生物生産多糖に関する研究

日本農芸化学会中四国支部創立 5 周年記念第 16 回講演会 2006 年 9 月 (松山)

白石竜二

逆ミセル抽出に及ぼす多孔板塔構造の影響

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

藤原和司

ブドウ‘デラウェア’の裂果に及ぼす果粉の着生と GA 処理時の硫酸 Mn 加用の影響

園芸学会平成 19 年度春季大会 2007 年 3 月 (京都)

宮脇和宏

多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出における溶液条件の検討

第 12 回高専シンポジウム 2007 年 1 月 (三島)

山口智之

<p>UASB/DHS 排水処理システムに於ける UASB 槽内の微生物群の解明 日本農芸化学会 2007 年度大会 2007 年 3 月 (東京)</p> <p><u>渡邊孝允</u> 各種ペロブスカイト酸化物の炭素酸化特性 第 13 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 2006 年 11 月 (高知)</p> <p><u>石本寛幸</u> 回生付電動アシスト自転車の製作 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>伊藤里美</u> ウェーブレット変換を用いた採譜システム 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>片上健太</u> 片眼無眼球者の眼球電図(EOG)特性 ―クロストーク処理法の提案― 電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会 2006 年 7 月 (岡山)</p> <p><u>片上健太</u> 眼球電池モデルによる眼電位図の特性解析 第 110 回日本眼科学会総会 2006 年 4 月 (大阪)</p> <p><u>河渕丈志</u> 太陽電池を利用した多機能噴水の開発 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>白石哲也</u> 前方障害物回避の自動車安全走行支援の提案 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>高石悠太</u> 垂直磁気記録における CITI 符号化 PR1ML 方式の一検討 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>新居広光</u> 水中レーザー・アブレーションを用いた高密度ナノスケールプラズマ生成の最適化の理論的考察 第 8 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム 2006 年 11 月 (広島)</p> <p><u>伴野慎吾</u> 進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>星加一太</u> 屈折コントラストを利用した X 線画像シミュレーション 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>森本康雅</u> 水/セラミック電極の応用 第 24 回プラズマプロセッシング研究会 2007 年 1 月 (豊中)</p> <p><u>山内健司</u> 車載レーダ用高効率反射器の設計法 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>山本雄大</u> 電動アシスト車椅子の開発 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>渡邊潤</u> 強化信号を用いた学習オートマトン環境変化認識機構に関する一考察 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>大濱瑛輔</u> 枝付加による最大木数グラフの構成と同形グラフについて 平成 18 年度電気関係学会四国支部連合大会 2006 年 9 月 (松山)</p> <p><u>大濱瑛輔</u> Isomorphic Structure of Graphs with the Maximum Number of Trees The 12th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2007, 2007.1, Beppu, JAPAN [平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会]</p> <p><u>阿部伸也</u> 低速飛行機の安定飛行条件に関する研究 平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会 2006 年 4 月 (阿南)</p>

<u>宇野弘記</u> 歩行安定化のための歩行動作の解析	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>近江将</u> 硬質の薄膜形成によるアルミニウム合金の性能改善に関する研究	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>越智剛</u> 酸化鉛を含まない Bi ₂ O ₃ 系低融点ガラスの耐水性評価	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>莖田賢一</u> バッテリー式介掛入浴移動車の開発	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>宮崎翔士</u> 二珪化モリブデン皮膜の作製	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>毛利廣義</u> Cu-Ni-Si 合金の時効に伴う相変態過程	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡辺康平</u> アルミニウム青銅鋳物に対する Mn, Cr, Ti の添加効果	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部弘綱</u> 座位保持困難者に対する座位保持補助具の開発	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>渡部祐也</u> Ti-Al-Co 系における相互拡散に関する基礎研究	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>石川圭太</u> 界面活性剤 AOT を用いたタンパク質の沈殿分離	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>猪谷和成</u> Na ₂ O-RE ₂ O ₃ -GeO ₂ (RE=希土類元素) 系ガラスの作製と電気特性評価	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>柿山拓司</u> ドデシルエチルジメチルアンモニウムのポリアクリル酸への吸着挙動	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>鎌田将行</u> 脈動多孔板塔を用いたリゾチームの逆ミセル抽出	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>野本直弘</u> 高水温で機能する水質浄化微生物の探索	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>藤中祐樹</u> KH-1 株による生分解性ポリマー分解へのリパーゼ誘導物質の添加効果	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>石本寛幸</u> 回生付電動アシスト自転車の改良	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>伊藤里美</u> ウェーブレット変換を用いた採譜システム	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>片上健太</u> 眼電位圍の解析	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)
<u>河渕丈志</u> 多機能噴水の開発	平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)

<u>白石哲也</u>			
Java 言語による前方障害物回避の自動車安全走行シミュレーション			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>高石悠太</u>			
垂直磁気記録におけるトラック間干渉軽減符号に関する研究			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>新居広光</u>			
レーザーアブレーションにおける放出電子の高密度プラズマ状態			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>伴野慎吾</u>			
進化輪郭に基づく追跡アルゴリズムの研究			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>星加一太</u>			
屈折コントラストの医学応用			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>森本康雅</u>			
水セラミック陰極を用いた応用技術の研究			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>山内健司</u>			
車載用高効率反射器の特性解析			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>山本雄大</u>			
電動アシスト車椅子の開発			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
<u>渡邊潤</u>			
多重強化学習法を用いた環境変化認証機構に関する一考案			
平成 18 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会	2006 年 4 月	(阿南)	
(出典 平成 18 年度年間業績報告などより編集)			

資料9-1-⑥-6

研究活動が教育の質の改善に寄与している例

発表者	発表タイトル	発表場所
鎌田慶宣	新居浜高専における材料力学教育の現状と将来	四国地区高専共同事業FD研修会(機械・材料系)講演
勝浦創・伊月宣之・栗原義武	新居浜高専における教育用電子計算機システムについて	情報処理教育研究発表会論文集第26号(2006.8) pp.137-139
出口幹雄	低学年導入教育実習教材の製品化に伴う教育効果	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.317-322
出口幹雄	車椅子学生のための実験支援システム	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.317-322
栗原義武・田中大二郎・占部弘治	電気電子系学科カリキュラムの中での数値計算教育の取組み事例	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.179-184
松村弘志・宮田剛・西井靖博・近藤美智江・野口裕子	睡眠アンケートの分析による睡眠障害発見と支援体制の確立	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.575-580
西井靖博・堤主計	化学系学科における問題解決型実験の試み	平成18年度教育教員研究集会(木更津)2006.8
志賀信哉・松英達也・池内保一	材料工学導入教育におけるLEGO・MINDSTORMSの活用	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.419-423
柴田亮	一般化学授業での電気分解の取り扱いにおける問題点	論文集 高専教育 第30号(2007.3) pp.83-88
古城克也	実用数学技能検定への取り組みと結果の分析について	日本数学教育学会第88回総会高専・大学部会(2006.7)
小山一夫・千葉克夫	数学低習熟度学生に対する補習講座における新しい試み	新居浜工業高等専門学校紀要第43号(2007.2)pp.1-4

(出典 平成18年度年間業績報告より編集)



大会結果 (四国)

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2006

ふるさと自慢特急便

賞	学校名(ロボット名)
優勝	詫間電波工業高等専門学校A ARK (アーク)
準優勝	高松工業高等専門学校B JIN (ジン)
アイデア賞	高松工業高等専門学校A まんでがん
技術賞	詫間電波工業高等専門学校B 蒼天 (ソウテン)
デザイン賞	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバス)
特別賞 本田技研工業(株)	阿南工業高等専門学校B Rhombus (ランバス)
特別賞 四国電力(株)	弓削商船高等専門学校A 弓削クロスシフト (ユゲクロスシフト)
特別賞 マブチモーター(株)	詫間電波工業高等専門学校B 蒼天 (ソウテン)
特別賞 ソリットワークス・シヤパン(株)	新居浜工業高等専門学校A 燧の運び屋 (ヒウチノハコビヤ)
特別賞 (株)安川電機	高松工業高等専門学校B JIN (ジン)

(出典 全国高専ロボットコンテストホームページ)

全国高等専門学校 第17回プログラミングコンテスト本選結果

自由部門

賞の名称	タイトル	高専名
文部科学大臣賞 最優秀賞	ルーブ・ゴールドパークマシン・ビルダー	鈴鹿
優秀賞	\$フィン ファンタジー	詫間電波
審査委員特別賞	ボクのいなか探検記♪ —心の中のふるさと—	松江
審査委員特別賞	Blog☆Stars	新居浜
審査委員特別賞	EasyCPUMaker —簡単CPU作成ツール—	都城
審査委員特別賞	NEWS —オンラインワープロシステム—	有明
敢闘賞	dia —Developer Instructional Appli—	宮城
敢闘賞	指揮者体験プログラム 奏(かなで) —気軽に指揮者気分♪—	鈴鹿
敢闘賞	@Mail. Base	茨城
敢闘賞	Monolith —オンライン共有型クリップボード—	福島
敢闘賞	人Navigation —構内ナビゲーションシステム—	函館
敢闘賞	Can you follow me? —ついてこれるか?—	鹿児島
敢闘賞	良好旅行 —Travel Without Stress—	石川
敢闘賞	project ToDo	弓削商船
敢闘賞	World Wide Honeycomb —新空間情報通信—	久留米
敢闘賞	ChanKo —ノベルゲームのパラダイムシフト—	津山
敢闘賞	Web Leaf —学習ノート共有システム—	八戸
敢闘賞	FRONT ENGINE —フロントエンド作成ソフト—	熊本電波
敢闘賞	アナタ、ドコニ〜ル —家族の位置検出による生活支援システム—	鳥羽商船
佳作	watcher —動き感知センサを用いた監視システム—	米子

(出典 全国高専プログラミングコンテストホームページ)

栄冠の木製アーチ橋

全国の高等専門学校生が生活環境に関するデザインや設計技術を競う「第3回全国高専デザインコンペティション（デザコン）」が、宮崎県の都城高専で

先ごろあり、構造部門で新居浜高専機械工学科5年、村上友洋さん(20)と高橋良太さん(20)の作品「Marvel of art」が最優秀賞を受賞した。

全国高専デザインコンペ 村上・高橋さん(新居浜)最優秀賞



デザコン構造部門で最優秀賞に輝いた新居浜高専の高橋さん(前列右)と村上さん(同左)

製作。橋の中心部に重り
を乗せ、耐えられる重さ
やその予測値などを競
う。重りを乗せた状態で
美しいアーチ形状が保て
るかどうかも審査対象
で、今大会には三十一校
の五十チームが参加し
た。

二人が製作した橋は、
百九十八kg。予測値とほ
ぼ同じ二百五十kgを見事
に支え、優れた耐荷重性
やアーチデザインなどが
高く評価された。

半年かけ卒業製作

デザコンは、高専連合
会の主催で、高専三大コ
ンテストの一つ。昨年十
一月十七、十八の両日に
開かれ、新居浜高専から
は二チームが出場した。

二人は卒業研究の一環
として昨年五月から製作
に着手。二人を教える同
高専の谷口佳文教授(五十
は「そこそこやれると確
信していたが、最優秀に
なるとは。今後、後輩た
ちが出場するきっかけに

(出典 平成 19 年 1 月 17 日 愛媛新聞記事)

参加チーム一覧

飛行機タイプ

機体名	代表者所属	参加者	顧問
Slow Flier	福岡工業大学 知能機械工学科 4年	新海正嗣 江口敬太 井上潤一郎	河野太 椋木英貴 河村良行
べんぎん号	帝京大学 理工学部 航空宇宙工学科 4年	井上ひとみ 寺島望	芳谷直治
Double Fault 2nd	新居浜工業高等専門学校 専攻科 2年	阿部伸也 田中大貴 橋和希 田口周作	松本和宏 鈴木啓史 伊藤健太 松田雄二
オオルリ	名古屋大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻 修士1年	西前誠 鈴木敏友紀	池田忠繁
カワセミ	名古屋大学 工学部 機械・航空工学科 航空宇宙工学コース専攻 4年	西前誠 鈴木敏友紀	池田忠繁
HitoshiMonCAFE☆	日本大学 理工学部 精密機械工学科 4年	千葉史門 佐藤育 坂下巨樹	高田輝紀 青木義男
ILLUSION_68	日本工学院専門学校 電子工学科 2年	石井球太 高橋和弘 砂川聖斗	土屋智史 森田健一 松浦源太郎
TSC	名古屋大学 工学部 航空宇宙工学科 4年	金宰亨 水木栄 後藤良典	石井卓也 梅村章
Libellen-07	日本大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻 修士1年	永井俊一 吉場裕一 中島健	鈴木佑輔 高橋亮太 本橋龍郎
昴	早稲田大学 理工学部 機械工学科 3年	瀬戸隆太郎 鈴木拓也	三輪敬之
ババロア丸	帝京大学 理工学部 4年	安西雄一郎 奥野博成	芳谷直治
D.wade	金沢工業大学 工学部 片柳研究室 4年	川崎信隆 阿部高弘	片柳亮二
IGA	都立航空工業高等専門学校 航空工学科 5年	小谷知正 青木祐輔	五十嵐裕佑 大嶋啓文 萬智樹 飯野明
IH-1	日本大学 理工学部 航空宇宙工学科 4年	小林大祐 細谷知広	井山達夫 安部健一
鷗	東京都立航空工業高等専門学校 航空工学科 5年	小竹祥太 平英享	石鍋治己 青木将 宮野智行
いえもん	帝京大学 理工学部 4年	平石雄士 大橋俊之	芳谷直治
G-FLY	神奈川工科大学 電気電子工学科 2年	塩原章利 北原正規	田村敏 佐野智彦 三浦直勝
べけとんび	東京都立科学技術大学 工学部 航空宇宙システム工学科 3年	杉本洋平 中野美琴	西健太郎 比嘉武尊 小島広久
式号機	金沢工業大学 夢考房 小型無人飛行機プロジェクト 3年	柴富賢志 高橋純平	戸田拓海 中務透 濱智樹 中島円
日和	金沢工業大学 工学部 機械システム工学科 4年	前田晋吾 佐藤允昭	水野昌周 河内賢一 伊瀬田皓史 児玉拓也 鈴木真二
飛悠人(ひゅうまん)	東京大学 工学部 航空宇宙工学科 4年	谷口弘樹 古賀星吾	A アドリアナ 伊瀬田皓史 児玉拓也 鈴木真二
toko2	東京大学 理科一類 2年	串田真也 渋谷峻	奥田哲矢 種子田尚 土屋武司

飛行機タイプ

競技順	機体名	飛行1回目					飛行2回目					順位
		判読数		飛行時間 [秒]	接地回数	得点	判読数		飛行時間 [秒]	接地回数	得点	
		正答数	誤答数				正答数	誤答数				
1	べんぎん号											
2	飛悠人											
3	Slow Flier	8	2	107	0	133	9	5	147	0	-57	6
4	べけとんび											
5	ババロア丸								104	4	-224	12
6	式号機	15	0	149	0	421	15	2	178	1	212	2
7	オオルリ								165	7	-285	13
8	TSC								132	3	-192	11
9	カワセミ	10	3	104	1	76	10	2	170	0	130	7
10	鷗	8	0	111	0	249	13	0	140	0	370	3
11	ILLUSION_68	14	1	108	2	252	12	2	112	2	128	4
12	IGA	11	2	102	2	108	14	4	139	0	161	5
13	D.wade	10	5	85	0	35	10	2	142	3	-22	9
14	toko2								171	1	-21	10
15	昴											
16	Libellen-07	15	1	112	0	398	15	0	108	0	462	1
17	Double Fault 2nd	6	0	91	2	89	5	1	174	7	-384	8
18	G-FLY											

3チーム棄権、1チーム機体審査不通過。

(出典 全日本学生室内飛行ロボットコンテスト)

資料9-1-⑥-11

NO	団体名等	所属	代表者氏名	ソーラーカーの愛称
1	愛知工業大学	電気学科電力システム研究室	太田 拓弥	AIT・PS-Lab
2	宇都宮大学Aチーム	工学部技術部	浦井 勇	陽東1号
3	宇都宮大学Bチーム	〃	〃	陽東2号
4	東京農工大学			
5	東京農工大学			
6	山梨大学Aチーム	工学部 清弘智昭研究室	河合 裕紀	天鈿女命号(アマノウズメゴウ)
7	山梨大学Bチーム	工学部附属ものづくり教育実践センター	小野 哲男	ものづくり1号
8	新居浜工業高等専門学校	電気情報工学科 皆本研究室	桐嶋 えりか	ワケアリみかん
9	山梨県立産業技術短期大学校	電子技術科		
10	山梨県立産業技術短期大学校	〃		
11	京都府立田辺高等学校	電子科	長谷 広一	MYMY-KOHST
12	栃木県立真岡工業高等学校	機械研究部機械科	飯野 浩史	コットン1号
13	山形電波工業高等学校		石川 諒	天の童R
14	山梨県立甲府工業高等学校	機械技術部	長谷川 琢也	でんでん丸1号
15	山梨県立甲府南高等学校	数理・情報部	石井 峻広	GENIUS
16	山梨県立韮崎工業高等学校Aチーム		伊藤 一弘	NISER
17	山梨県立韮崎工業高等学校Bチーム		野口 洋貴	NOKS1
18	山梨県立富士北稜高等学校	電気エネルギー系列		
19	山梨県立富士北稜高等学校	〃		

(出典 環境日本—エコエネルギーコンテスト ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動は、卒業研究や特別研究をはじめとする多くの授業や課外活動において教育の質の改善に寄与している。

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメントに関しては、教育改善推進計画の中で実施計画が策定され、これに沿って活動が行われている(資料9-2-①-1)。

高度技術教育研究センターは、県内小・中・高校教諭および大学を交えた教育フォーラムを平成15年度以降、毎年テーマを変えて開催し、教員の資質向上につなげている。平成18年度は、「現代GPものづくり教育研究フォーラム・新居浜高専教育フォーラム2006」として「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」をテーマに開催した(資料9-2-①-2)。

教務委員会が中心となって、教員が相互に授業を参観する公開授業を公開授業実施要領にしたがって行っている（資料 9-2-①-3, 資料 9-2-①-4, 資料 9-2-①-5）。聴講した教員のコメントは教務係を通じて公開授業を実施した教員にフィードバックされ、授業改善に活用されている。また、教務委員会が市内の中学校・高校への授業参観を企画し、平成 16 年度に中学校、平成 17 年度に高校の授業参観が実現した（資料 9-2-①-7, 資料 9-2-①-8）。

情報教育センターは、Excel, Matlab, WebClass などのソフトウェア利用講習会を開催し、教職員の情報機器の活用に関する能力向上を図っている（資料 9-2-①-9）。また、ものづくり教育支援センターでは、3D-CAD および 3 次元樹脂モデル造型機の講習会を実施した（資料 9-2-①-10）。

教員の教育に関する資質と能力を高めることを目的として、四国地区高専共同事業 F D 研修会を平成 17 年度と平成 18 年度に分けて実施し、各科目・各専門分野の教員が参加して事例発表と意見交換を行った（資料 9-2-①-11）。

学外 F D 研修会などは全教員に案内され、教員は積極的に参加しているが、特に重要な研修会には副校長が参加を促している（資料 9-2-①-12）。また、参加者がその情報を教員会にて報告することにより、全教員がその内容を共有できるようにしている（資料 9-2-①-13）。

資料 9-2-①-1

平成 18 年度教育改善推進計画

1. 基本方針（趣旨）

本計画は、平成 18 年度の学校運営目標に基づき、教育改善活動が組織的、計画的かつ活発に行われるよう定めるものである。

2. 平成 18 年度実施計画

[1] F D 研修会

(1) 学内 F D 研修会の開催

教育改善が必要なテーマについて、学内研修会を開催する。

（テーマ例）

- ・学修単位導入に向けて試行的に実施した科目の研究経過・成果（授業教材、自学自習教材の開発、家庭学習の習慣付けなど）

(2) F D 活動としての教員会

教員会への出席率の向上を図るとともに、F D として位置づける。

（テーマ例）

- ・数学コース別授業の成果と課題
- ・四国高専共通試験、実力試験、英語一斉試験の結果の分析と課題
- ・2 年生を学科別クラス編成にしたことの成果と課題（2 年生の専門教員による担任）

(3) 学外研修会などで発表した F D 活動については、学内でも発表（報告）の機会を設ける。できれば、F D 研修会での発表や高専教育への投稿に関しては、学内事前発表を行う。

四国高専教科別 F D 研修会：数学，機械・材料系科目，理科，
制御情報・工業化学系科目

[2] 学外の F D 研修会への参加促進

機構の主催、共催の研修会には、1 名以上参加する。それ以外の研修会には、内容に応じて参加する。研修会へ参加した場合は、その内容を教員会等で学内に報告する（資料配布）。また、学外 F D 研修会への発表、投稿を推進する。

- [3] 新居浜高専教育フォーラム2006の開催
昨年に引き続き、第4回のフォーラムを開催する。年度当初にテーマを決定する。
- [4] 公開授業・授業参観
学内公開授業については、聴講者数の増員を図るとともに、全教員の実施を目指す（3年間に最低1回は実施、ただし、卒業研究やインターンシップ等の発表は除く）。
また、市内中学校との連携の一環として、相互授業参観も実施する。
- [5] 各種アンケートの分析結果のFDとしての活用法の改善
授業アンケート、勉学アンケートの集計・分析を早期に実施できるシステム（web活用）を検討し、フィードバックや結果の活用が効率的に行えるように改善策を講じる。
- [6] 各科・教科ごとの教育改善グループの活性化
JABEEプログラム毎の教育改善グループの活動を活性化し、審査結果を踏まえた改善策を講じる。また、科・学科組織との位置付けや連携体制を確立する。
- [7] 新任教員のための研修
新任教員学内研修実施要領に基づき、各教員の研修プログラムを作成し、計画的に実施する。（本年度は、平成17年度の新任教員との懇談も行う。）

（出典 平成18年度教育改善推進計画の実施状況）

資料9-2-①-2

平成18年12月15日

各 位

新居浜工業高等専門学校

現代GPものづくり教育研究フォーラム・新居浜高専教育フォーラム2006
「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」の開催について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

文部科学省が募集した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に新居浜高専の取組「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」が選定されました。

この取組は、高専教育において異学年で構成する各グループの出前講座開講、小中学校教員との研修講座及び地域連携推進員である外部指導者の協力により、ものづくり人材の育成と地域教育に貢献する3年間の事業です。各年度毎に「ものづくり教育研究フォーラム」を開催し、講演・討議を通じて、取組内容の検討を深めるとともに、広く地域に情報を発信し普及を図ります。

初年度である平成18年度は発進の年度でもあるため、「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」をテーマとして開催し、取組の構図を固めるとともに、愛媛大学、先進校の奈良高専の講師による講演・討議を通じて、人材養成のポイントに焦点を合わせます。

また、過去3回開催してきた新居浜高専教育フォーラムの目的である「地域にあるさまざまな教育機関が学校種を超えて互いに教育経験を学び合い、情報交換を行うことにより今後の教育のあり方を探求する。」の趣旨とも合致するため、第4回目の「新居浜高専教育フォーラム2006」としても開催します。

このような趣旨に基づき下記のとおり開催しますので、ご多用とは存じますが、多数の皆様がご参加くださるようご案内いたします。

なお、準備等のため、ご参加申込を12月20日（木）までに、FAX 又はメールでお願いいたします。

敬 具

記

- 1 日 時 平成18年12月26日（火）13：30～16：30
- 2 場 所 新居浜高専 第1会議室
- 3 対象者 小学校・中学校・高校、塾等の先生、一般市民及び新居浜高専の教職員、学生
- 4 次 第
 - 13：30 開会挨拶 新居浜高専 校長 水野 豊
 - 13：40 基調講演
 (演 題)「ものづくり教育を考える」
 (講演者) 愛媛大学 大学院理工学研究科 物質生命工学専攻 教授 定岡芳彦氏
 - 14：30 休憩
 - 14：40 現代GP先進取組 講演
 (演 題)「奈良高専における地域連携事業と現代GP」
 (講演者) 奈良高専 電気工学科 教授 京兼 純氏
 - 15：20 <地元でのものづくり活動事例>
 「小学校理科クラブへの出前講座」
 新居浜高専 電気情報工学科 助教授 稲見 和生
 新居浜市立中萩小学校 教諭 加藤 茂樹 氏
 「小中学校教諭の理科実技研修」
 ー理科光学教材の作成・簡易顕微鏡作りー
 新居浜高専 生物応用化学科 講師 西井 靖博
 (参加の小中学校教諭からコメントをいただきます。)
 - 15：50 討 議 (司 会) 新居浜高専 高技センター長 川崎 宏一
 - 16：30 閉会挨拶 新居浜高専 ものづくりセンター長 谷口 佳文
 (自由懇談会)
- 5 参加費 無料
- 6 後 援 (依頼中) 愛媛県教育委員会、新居浜市教育委員会
- 7 申込事項 ① 所属及び役職名 ② 氏 名 ③ 連絡先
- 8 申 込 先 新 居 浜 高 専 総 務 課 地 域 連 携 係 (TEL 0897-37-7701、7706)
 FAX：0897-37-7842 E-mail：tiren-c@off.niihama-nct.ac.jp

(出典 総務課資料)

平成 15 年度公開授業試行要領

I 新任教官（講師昇任教官を含む）は、研修の一環として下記の要領で授業参観、授業公開を行う。

1. 新任教官は、参観希望授業（科目、担当教官、日時限）を各科・学科の教務委員を通じて教務委員会に報告する。教務主事は、これを受け、科目担当教官に依頼、了承を得る（主任を介するか）。
2. 新任教官は、授業参観の報告書（書式が必要か）を教務係に提出する。
3. 新任教官は、およそ一カ月後をめどに自らの授業を公開する旨を「授業公開申告書」（書式作成）により教務委員会に報告する（教務係に提出）。教務委員会は、これを受け、全教官に告知し多くの教官が参観するよう努める。参観教官は書面または電子メールなどで感想、意見等を新任教官宛に送る。
4. 新任教官は、「公開授業実施報告書」（書式作成）を教務係に提出する。

※趣旨 この公開授業は、新任教官の教授能力の向上はもとより、他教官もまた自らの授業に資し参考とすること、さらに、FDの一環として定着させることを目的とする。

※今回の試行においては、平成 14 年度の新任教官（講師昇任教官を含む）についても下記Ⅲの要領で授業を公開することを教務主事から各科・学科の主任に依頼する。

II 保護者向け公開授業を下記の要領で試行する。

1. 月日時限 10月29日（水）1～8限（裏面の時間割参照）
2. 学年・学科 本科全学年・全学科の授業
3. 方法 当日の授業・実験等を全て公開する。

管理棟玄関に案内窓口を設け、教務係事務官および教務委員が対応する。

各学科主任および担任は、個別窓口を設け、保護者の質問等に随時応じる。

※趣旨 広く保護者に高専の授業（講義）や実験などを参観してもらい、高専の教育に対する理解を深めてもらうことを目的とする。

III 一般的な公開授業は、下記の要領で試行する。

1. 公開授業を行う教官は、「授業公開申告書」を教務係に提出する。
2. 教務委員会はこれを受け、全教官に告知し多くの教官が参観するよう努める。参観教官は書面または電子メールなどで感想、意見等を実施教官宛に送る。
3. 公開授業を行った教官は、「公開授業実施報告書」を教務係に提出する。

※趣旨 FDの一環として、各教官が自らの教育の向上に努めるうえでの有効な方法として定着させることを目的とする。

IV 特に教務委員会から依頼する公開授業を上記のⅢの要領で試行する。

※ 今後、全ての公開授業（校長裁量経費によるものを含む）は、上記のいずれかの要領で実施し、教務委員会が一括して管理する。

教務委員会

（出典 教務委員会資料）

資料9-2-①-4

授業公開申告書

平成 年 月 日

所 属
職・氏名
学科・科主任氏名

下記の授業について、公開します。

記

1. 科目名：
2. 対象学年：
3. 担当者：
4. 日時：
5. 場所：
6. 授業形態：
7. 内容
8. その他

(出典 教務係資料)

資料9-2-①-5

公開授業実施報告書

平成 年 月 日

所 属
職・氏名
学科・科主任氏名

下記のとおり、公開授業を実施したので報告します。

記

1. 科目名：
2. 対象学年：
3. 担当者：
4. 日時：
5. 場所：
6. 授業形態：

7. 状況
1. 授業内容
2. 参観者用資料
3. 授業感想および参観者コメント
4. その他

(出典 教務係資料)

資料 9 - 2 - ① - 6

平成18年度公開授業の実施状況

	日 時	時 限	科 目 名	対象学年・学科	科 目 担 当 者	場 所
1	平成18年5月23日(火)	1時限目	電気磁気学	電気情報工学科4年	壇上光昭	電気情報工学科4学年ホームルーム
2	平成18年5月26日(金)	4時限目	特別活動	電気情報工学科2年	担任・井門英司 副担任・香川福有	電気情報工学科2学年ホームルーム
3	平成18年7月13日(木)	3時限目	武道(剣道)	1年5組	彦田博範	武道場
4	平成18年7月14日(金)	2時限目	アルゴリズムとデータ構造	4E(情報工学コース)	先山卓朗	階段教室
5	平成18年9月15日(金)	4時限目	電気磁気学2	電子制御工学科4年	出口幹雄	4D教室(電子棟2階)
6	平成18年9月19日(火)	2時限目	問題解決グループ演習	電子工学専攻1年	横山、榎原	第一会議室
7	平成18年10月26日(木)	3時限目	インターンシップ報告会	材料工学科4年	相根博道	4Z教室
8	平成18年11月1日(水)	2時限目	固体物理学	材料工学科5年	相根博道	5Z教室
9	平成18年11月20日(月)	1時限目	歴史特論	5年(選択)	鹿毛敏夫	視聴覚教室
10	平成18年12月1日(金)	3~4限目	生物応用化学実験3,4 (セルフプランニング実験)	生物応用化学科4年	桑田、河村、早瀬、 衣笠、牧、西井教員	電子制御工学科棟5階CAD教室
11	平成19年1月16日(火)	1時限目	技術者倫理	材料工学科5年	谷本修治	5年材料工学科教室
12	平成19年1月17日(水)	1時限目	化学工学3	生物応用化学科5年	西井靖博	コース別教室
13	平成19年1月22日(月)	2時限目	環境化学	生物応用化学科5年	牧 慎也	生物応用化学科棟 2階 5C
14	平成19年2月7日(水)	2時限目	振動工学	生産工学専攻1年(選択)	鎌田慶宣	多目的室
15	平成19年2月20日(火)	4時限目	工学基礎実験	機械工学科2年	刑部富夫、鎌田慶宣、 北住順一、松田雄二、 宮田剛	機械工学科2年教室、製図
16	平成19年2月14日(水)	3,4時限目	電気基礎演習	電子制御工学科1年	白井みゆき、占部弘治、 今井伸明	電子制御工学科CAD実験室
17	平成19年2月16日(金)	1~3限目	卒業研究	材料工学科5年	新田敦己	視聴覚教室
18	平成19年2月16日(金)	1時限目	食品化学	生物応用化学科5年	中川克彦	生物応用化学棟2F 5C教室
19	平成19年3月5日(月)	3時限目	日本文化史	専攻科1年(選択)	鹿毛敏夫	多目的室
20	平成19年3月7日(水)	2~4限目	電子創作実習	電子制御工学科4年	出口幹雄・松友真哉	基礎工学実験室(電子棟3階)

(出典 教務係資料)

資料9-2-①-7

平成17年1月28日

教員各位

教務主事

中学校の授業参観の実施について

地域教育機関との連携協力およびFDの一環として、下記の中学校の授業参観を実施致します。多くの先生方の参加をお願い致します。

各中学校に参加人数等を事前に連絡しておきたいと思っておりますので、参加される場合は、中学校名と日時を教務係までご連絡願います。(川東中学校につきましては2月2日(水)までに、また、西中学校と北中学校につきましては2月10日(木)までにご連絡ください。)

記

1) 新居浜市立川東中学校

2月4日(金) 1校時(8:45)～6校時(15:30) ; 昼休み(12:35～13:40)

2月5日(土) 1校時(8:45)～4校時(12:35) ; 多少の時間変更あり

2) 新居浜市立西中学校

2月16日(水) 1校時(8:35)～6校時(15:20) ; 昼休み(12:25～13:30)

3) 新居浜市立北中学校

2月18日(金) 1校時(8:40)～6校時(16:00) ; 昼休み(12:30～14:10)

なお、いずれの中学校においても、学年、クラスを問わず参観できます。

(出典 教務係からの職員連絡メール)

資料9-2-①-8

17新工高第447号
平成17年5月11日

県立学校長 殿
関係国・私立学校長 殿
総合教育センター所長 殿

愛媛県立新居浜工業高等学校長 藤岡 洋助

学校訪問研修について

このことについて、下記により実施いたしますので、貴職・貴校教職員並びに貴センター所員の御参加をいただきますよう御案内申し上げます。

記

1 期 日 平成17年 6月15日 (水)

2 指導努力目標

自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成
—ものづくりから人づくりへ、特色ある学校づくり—

3 日 程

8:15～	9:10	受 付
8:30～	8:45	ショートホームルーム (朝の読書 8:30～8:40)
8:50～	9:00	清 掃
9:10～	10:00	第1時限(授業参観)
10:15～	11:05	第2時限(授業参観)
11:20～	12:10	第3時限(ホームルーム活動参観)
12:10～	13:10	昼 食(施設設備参観を含む)
13:10～	14:40	分科会
14:50～	15:35	全体会(一般参加者を除く)

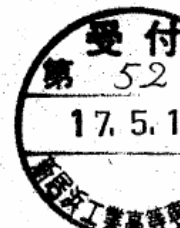
4 分科会

(1) 国語	(2) 地理歴史・公民	(3) 数学	(4) 理科
(5) 保健体育	(6) 芸術	(7) 外国語	(8) 家庭
(9) 工業	(10) 特別活動及び生徒指導		(11) 事務

5 参加申込み

(1) 申込締切り 平成17年5月27日(金)
(2) 申込方法 別紙参加申込書を御利用ください。
(3) 申込先 〒792-0004

愛媛県新居浜市北新町8番1号
愛媛県立新居浜工業高等学校 総務課
TEL 0897-37-2029
FAX 0897-37-6440



(出典 教務係資料)

◎情報教育センター

センター長 伊月 宣之

1. 平成18年度運営目標
高度情報通信社会に対応するために次の五つを運営目標とする。
 1. 1 IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
 1. 2 ITを活用した新教育手法の導入推進
 1. 3 情報教育設備の有効利用と充実
 1. 4 学内ネットワーク設備の更なる整備と安全で健全な運用管理の実現
 1. 5 事務処理システム推進部門としての要求を明確化し、その要求に沿ったネットワーク（セキュリティ確保）構築のためにネットワーク運用管理部門に働きかけ、事務処理の効率化、教職員間使用システムの運用管理体制の構築を推進していく。

2. 平成18年度実施計画
 2. 1 IT社会構成員としての必要不可欠な情報基礎教育のプログラム構築
 - [1] 共通科目「情報リテラシー」実施状況の調査及び改善
 - ・各学科一斉に1年前期で「情報リテラシー」授業を実施した。前期1単位であるが、全学科連携をとって実施できた。授業の進み具合、試験の採点法等問題点は残っているが、今回の実施結果を踏まえて、次年度の改善に取り組んでいきたい。
 - ・情報リテラシー教材を共有化するためにWebClass内にコースを作成した。
 2. 2 ITを活用した新教育手法の導入推進
 - [1] ITを活用した新教育手法の導入推進
 - (1) 新教育手法導入のための各種講習会の実施
 - ・下記(2)に記したように、WebClassの講習会を回実施した。
 - (2) WebClass活用のための講習会の実施
 - ・WebClassの講習会は予定通り1回は実施したが、まだ不十分との声があり、2回実施した。
 - (3) 自学自習教材作成のためのノウハウ集の公開
 - ・一部の科目、授業アンケート、新入生アンケートなどサンプルを作って公開している。
 - [2] 自学自習教材作成、マルチメディア教育、遠隔教育の推進
 - (1) 自習教材の作成及び作成のサポート
 - ・一部の科目で教材を作っている。その際のサポートはまだ不十分である。
 - (2) 遠隔授業の作成
 - ・まだ進んでいない。
 - (3) 外部組織(高専IT教育コンソーシアム、eラーニング高等教育連携など)との連携
 - ・検討中である。
 - (4) 現代的教育ニーズ取組支援プログラムの推進
 - ・進行していない。
 - (5) SCS利用の促進
 - ・従来通りの配信状況を維持している。
 2. 3 情報教育設備の有効利用と充実
 - [1] ものづくり教育を支援するデジタルエンジニアリング教育環境の向上
 - ・情報処理室(第3演習室)にPIC書き込み装置が16セット組み込まれ、学生実験や夏季体験講座に利用されている。

〔2〕 LL 教室のあり方の検討

- ・まだ具体的な案が出ないまま検討中であり、今後の課題となっている。

2. 4 学内ネットワークの円滑な運用管理

〔1〕 4ヶ所の演習室の円滑な運用・連携

- ・会議室等予約システムに演習室の使用予約ページを組み込み円滑に運用されている。
- ・情報処理室のディスク領域の割り振りが不適切であったのを、パーティションの設定変更を行い、同時に共通ファイルのエリアを全学共通に整備した結果、これまで情報処理室利用者のファイルに起こっていた一部の不具合が改善された。
- ・昨年度末に4つの演習室の更新が全て完了し、4月から新システムで情報教育がスタートした。円滑な運用・管理ができているが、一部演習室の利用が偏っている面もあるので、次年度からは時間割等の工夫が必要である。
- ・本年度末にはさらに「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」が導入されて、通信速度が大幅に速くなるので、大幅な運用面の改善が期待できる。

〔2〕 学寮における無線 LAN の整備

- ・春に学寮ネットワーク利用者講習会実施している。
- ・「学内ギガビットネットワークセキュリティ補強システム」の導入に伴い、これまで懸案であった学寮の無線 LAN の整備が実現する運びとなった。

2. 5 情報教育センター報の発行

- ・本年度も持ち越しとなった。

(出典 平成18年度学校運営目標の実施状況)

◎ものづくり教育支援センター

センター長 谷口 佳文

1. 平成18年度運営目標
 1. 1 ものづくり教育の全学的な取組を推進するとともに、ものづくりのための環境を整備する。
 1. 2 ものづくり教育を積極的に支援するため、技術室の活動の活性化を図る。
 1. 3 地域と連携したものづくり活動を推進する。

2. 平成18年度実施計画
 2. 1 PBL教育の推進

ものづくり教育の全学的な取組を活性化するために、PBL教育を推進する。

 - [1] PBL教育研究会を発足し、PBL教育の推進を図る。
 - ・専門学科から1名を選出し、PBL教育研究会を発足した。学内ものづくりコンテストの競技内容、実施時期、実施方法について協議し、10月23日にコンテストを実施した。
 - [2] PBL教育先進校の教員を招き、講演会を開催する。
 - ・現代GP 平成18年度ものづくり教育研究フォーラム「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」において、奈良高専 京兼純教授による「奈良高専における地域連携事業と現代GP」と題した講演が行われた。
 - [3] PBL教育研究集会に参加し、情報収集、交流を行う。
 - ・PBL教育研究会のメンバーが、9月27日に開催された「中国・四国工学教育協会第16回研究集会」に参加し、10月の教員会でその内容を報告した。
 - [4] 外部人材の活用など、地域と連携したPBL教育を推進する。
 - ・現代GPのものづくり活動において、ものづくり経験の豊富な外部の方にプロジェクトアソシエイトとして協力してもらうことになった。
 - ・デザコンのアイデア発表会において、外部の方にアイデアの審査並びに助言をいただいた。
 2. 2 技術室の運営
 - [1] 技術職員の研修を計画・実施し、能力の向上を図る。
 - ・「平成18年度技術交流プログラム」として、核融合科学研究所技術部 山内健治氏を招いて、技術職員を対象とした講演会を6月15日に開催した。
 - ・雇用・能力開発機構愛媛センターと連携して実施した経験者向けTIG溶接技術研修の講義を受講し、能力の向上を図った。
 - [2] 技術室ものづくりプロジェクトを継続して実施する。
 - ・昨年度から継続して製作している「7セグメントデジタル式時計」を完成させ、第1体育館南側壁面に設置した。精度が悪いので、引き続き改良の予定である。

- [3] 技術職員による学内講習会を実施する。
- ・ 1 2月に設置された3次元樹脂モデル造形機を学内で活用してもらうため、モデル作成のために必要な3次元CADの講習会および造形機の利用法の講習会を、3月22日、23日に実施する予定である。
- [4] 教育方法の改善、教材の開発を推進し、その成果を発表する。
- ・ 今年度からの初めての取り組みとして、「平成18年度 技術室活動報告会」を3月13日に実施し、4名が報告を行った。参加者は17名と少なかったが、活発な質疑が行われた。
- [5] 年度末に活動報告書を作成し、センターの活動の広報を行う。
- ・ 昨年度に引き続き「ものづくり教育支援センター活動報告書 平成18年度版」を発行する予定である。
- [6] チャレンジプロジェクト、アイデア通りプロジェクト、各種コンテストなどのものづくり活動の技術支援を積極的に行う。
- ・ ロボコン、プロコン、デザコン、トロッコ列車等の製作活動において、各種部品の製作支援、学生への技術指導を行った。
- [7] 学科の実験実習・卒業研究等の教育研究支援の他に、高度技術教育研究センター、情報教育センターの活動支援を積極的に行う。
- ・ 高度技術教育研究センターのホームページの管理、E P M AおよびS E Mの操作、保守管理を行った。
 - ・ 情報教育センターへの支援活動として、新居浜高専トップページの管理、図書館インターネット閲覧端末の管理、電子計算機演習室・専攻科棟A V室の管理などの管理業務を行った。図書館インターネット閲覧端末については、セキュリティおよび利用者のための改善を行った。

2. 3 施設・設備の有効利用

- [1] 機械および材料実習工場の機能を統合し、施設・設備の効率的な活用を図る。
- ・ 機械および材料実習工場の一部の改修工事が行われ、機械加工の実習に関する機能を機械実習工場に統合した。
- [2] 実習工場内の設備を整理、廃棄し、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースを確保する。
- ・ 機械および材料実習工場の改修工事にあわせて実習工場内の設備を整理、廃棄し、材料実習工場内に、ものづくり活動のスペース、作品展示スペースおよびものづくりのための材料保管スペースを確保した。
- [3] 実習工場、アイデア通り工房の機器利用の際の安全教育を徹底する。
- ・ 実習工場においては、昨年度作成した「実習工場利用の注意事項」に従って、安全指導を行った。
 - ・ アイデア通り工房の旋盤の利用については、機械工学科の学生のみ使用を許可し

ている。3月に、アイデア通り工場の旋盤を入れ替えたため、学生に対する利用の講習を行う予定である。

2. 4 地域との連携

[1] 地域との技術交流・技術支援を推進する。

- ・新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員14人に対して、公開講座として技術職員が講師となり、初心者向け溶接（アーク及びTIG）技術研修を12月1日～8日にかけて実施した。
- ・雇用・能力開発機構愛媛センターと連携して、新居浜機械産業協同組合の傘下企業社員9人に対し、経験者向けTIG溶接技術研修を、1月13、20、27日の毎土曜日に実施した。

[2] 地域のものづくり人材育成事業に参画する。

- ・東予産業創造センターの「産学連携製造中核人材育成事業」提案書作成に協力した。

[3] 「シンボルロボ・アイデアコンテスト」への応募作品の中からロボットを製作し、地域づくりに協力する。

- ・「シンボルロボ・アイデアコンテスト」で入選した太鼓台と別子銅山をモデルにした2台のロボットについて、現代GPの「まちづくりシンボルロボプロジェクト」で製作に取りかかった。

[4] ものづくり教育支援センターホームページを充実し、地域への情報発信を行う。

- ・ものづくり教育支援センターのホームページの更新を技術室でできるようにした。
- ・切山地区案内ロボット製作プロジェクト活動状況の追加、あかがねの里 銅物園プロジェクトの更新などを行なった。

○総合的な評価と課題

- ・年度当初に立てた目標は、いくつかの項目で不十分な点はあるものの、ほぼ達成できたと考ええる。
- ・技術室ものづくりプロジェクト、技術室活動報告会、3次元CADと樹脂モデル造形機の講習会などを通じて、技術室の活動を学内に知ってもらうよう努めた。今後も、さらなる技術室の広報を進めていきたい。
- ・外部人材の活用については、不十分であった。現代GPのものづくりプロジェクトへの協力などを通して、活用を図っていく必要がある。
- ・機械および材料実習工場の改修工事によって機能が統合されたので、有効な活用方法を検討する必要がある。

（出典 平成18年度学校運営目標の実施状況）

平成18年度四国地区高等専門学校FD研修会(数学科)プログラム

8月10日(木)

- 13:00~13:20 受付
- 13:20~13:30 開会挨拶 新居浜高専校長 水野 豊
- 13:30~14:10 参加者自己紹介 1分スピーチ
- 14:10~14:40 講演1 田上 隆徳 (阿南高専)
習熟度クラス編成に関する考察
- 14:40~15:10 講演2 南 貴之 (詫間電波高専)
2年微分積分学における習熟度別授業について
(補習・教材開発を中心に)
- 15:10~15:40 講演3 古城 克也 (新居浜高専)
実用数学技能検定への取り組みと結果の分析について
- 15:50~17:00 テーマ別グループ討議
(1) 学習支援: 補習・自学自習等
(2) 授業方法: 教材開発・コンピュータ利用等
(3) 達成度評価: 統一試験・定期試験等
- 18:00~ 懇親会

8月11日(金)

- 9:00~9:30 講演4 藤井 清治 (弓削商船高専)
学寮における学習支援
- 9:30~10:00 講演5 後藤 章 (高知高専)
高知高専における補習学習支援およびコンピュータ利用
について
- 10:00~10:30 講演6 高橋 宏明 (高松高専)
高松高専数学科による教育改善の取り組みの報告
- 10:40~11:10 グループ討議報告
- 11:10~12:00 全体討議

四国地区高専共同事業FD研修会(機械・材料系)実施要領

1. 目的

各高専から、授業での創意工夫、方法などを提示し、討論を通じて高専教員の教育、特に授業に関する資質と能力を高めることを目的とする。

2. 対象

四国地区各高専の「機械・材料系科目」担当教員

2. 期間

平成18年8月10日(木)・11日(金)

3. 場所

弓削商船高等専門学校 第1会議室

(愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地)

4. 参加人員
各校原則 3 名（講演の講師を含む。）
5. 日 程
別添日程表のとおり
6. 講 師
講演の講師は、各高専の教員とする。
各高専での授業改善の取り組み、授業での創意工夫、特色ある授業方法等に関する内容の講演を発表会形式で行う。

四国地区高専共同事業 F D 研修会（機械・材料系） 日程表

8 月 1 0 日（木）

13:30 ～ 14:00 受 付

14:00 ～ 14:10 開会挨拶 弓削商船高専校長 西垣 和

講 演

14:10 ～ 14:50 演題「学修単位（大学単位）導入前後の材料力学の講義の運営について」

講師：阿南高専（機械工学科：奥 本 良 博）

15:00 ～ 15:40 演題「C A E 教育への取り組み」

講師：高松高専（機械工学科：岩 田 弘）

15:50 ～ 16:30 演題「授業改善－材料加工学（仮）」

講師：新居浜高専（材料工学科：谷 耕 治）

16:40 ～ 17:00 全体会議（上記講師の演題に関する課題等のまとめ）

17:00 ～ 宿舎へ移動

18:00 ～ 20:00 情報交換会

8 月 1 1 日（金）

講 演

9:00 ～ 9:40 演題「材料力学教育のありかた（仮）」

講師：新居浜高専（機械工学科：鎌 田 慶 宣）

9:50 ～ 10:30 演題「高知高専における技術者倫理教育の現状について」

講師：高知高専（機械工学科：吉 田 聖 一）

10:40 ～ 11:20 演題「電子機械工学科における機械工学教育の取り組み」

講師：弓削高専（電子機械工学科：鶴 秀 登）

11:30 ～ 11:50 全体会議（上記講師の演題に関する課題等のまとめ）

11:50 閉会の挨拶 弓削商船高専校長 西垣 和

※ 講演については、講演 2 5 分、質疑応答 1 5 分の予定としております。

（出典 教務係資料）

資料 9 - 2 - ① - 1 2

平成18年度学外FD研修会等参加者一覧

	研修期日	研 修 名	氏 名
1	7 月 18～28 日	情報処理教育実践研修会	平野 雅嗣
2	8 月 3、4 日	高等専門学校教育教員研究集会	勝浦 創

3	8月10,11日	四国地区高専共同事業FD研修会(数学)	古城 克也 川崎 宏一
4	8月10,11日	四国地区高専共同事業FD研修会(機械、材料系)	鎌田 慶宣 谷 耕治 日野 孝紀
5	8月10,11日	四国地区高専共同事業FD研修会(理科、工業化学系)	柴田 亮 堤 主計 西井 靖博 河村 秀夫 中山 享 竹田 正 矢野 潤
6	8月10,11日	四国地区高専共同事業FD研修会(制御情報系)	出口 幹雄 今井 申明 横山 隆志
7	8月22,23日	情報処理教育研究発表会	勝浦 創 栗原 義武
8	8月23~25日	高等専門学校新任教員研修会	佐渡 一邦 松友 真哉
9	8月24,25日	高等専門学校教員研究集会	西井 靖博
10	8月28~30日	高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)	谷本 修治 柴田 亮
11	9月27日	中国・四国工学教育協会 第16回研究集会	松英 達也
12	10月13日	小・中学校教務主任研修会	桑田 茂樹
13	10月18日	第2回「技術士への道」説明会	衣笠 巧
14	10月24,25日	四国地区高等専門学校寮務主事会議	塚野 修
15	11月1,2日	中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会	今城 英二
16	11月17日	中国四国工学教育協会高専教育部会 教員研究集会	桑田 茂樹
17	11月29日	教科・教科外研修会並びに新居浜市教育研究所研究発表会	古城 克也 西井 靖博 伊月 宣之 牧 慎也 大村 泰 川崎 宏一
18	11月27~29日	全国学生相談研修会	今城 英二
19	12月11~13日	国立高等専門学校機構 高等専門学校教員研修(管理職研修)	塚野 修
20	11月22日	平成19年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会	塚野 修 衣笠 巧 松英 達也 栗原 義武 小濱 広美
21	12月8日	学生ボランティア活動支援・促進のための連絡協議の集い	皆本 佳計
22	1月23,24日	全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	今城 英二
23	2月17日	ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」	平野 雅嗣

(出典 平成17年度教育改善推進計画実施状況より抜粋)

資料 9-2-①-13

平成18年度第8回教員会の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますので、御出席願います。なお、配布資料等がありましたら、12月19日（火）午前中までに総務課総務企画担当へ提出願います。

記

1 日 時 平成18年12月19日（火）16:10～

2 場 所 第1会議室

3 報告事項等

(1) 主事報告

(2) 研修会等の報告

- ・全国学生相談研修会
- ・平成19年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会
- ・国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修
- ・教科・教科外研修会並びに新居浜市教育研究所研究発表会

(3) 国立高専の整備について

(4) その他

（出典 総務課からのメール）

（分析結果とその根拠理由）

年度当初の教育改善推進計画に沿って、教育フォーラムの開催、公開授業の実施、各種学内講習会の開催、各種学外研修会への教員派遣など、教職員のファカルティ・ディベロップメントに努めている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメントに基づく教育の質の向上や授業改善への取り組みは、教員の自主的な活動としてだけでなく、各学科（科）や各委員会などで組織的にも行われている。

平成17年度に実施された3D-CAD講習会を契機として、平成18年度から材料工学科の「総合実習」で3D-CADを取り入れた（資料9-2-②-1）。

平成17、18年度に開催されたWebClass講習会を契機として、多くの教員が学生の自学自習支援のためにWebClassを活用している（資料9-2-②-2）

四国地区FD研修会の他高専の取組を取り入れて、英語担当教員グループが多読用洋書を約650冊選抜して図書館に設置し、英語の多読指導の開始準備を整えた（資料9-2-②-3、資料9-2-②-4）。

高専情報処理研究発表会における他高専の情報教育の実践報告を参考として、情報教育センター情報教育推進部門において、本校で学科にかかわらず教えるべき情報教育の内容を検討した。これを受けて、平成17年度から各学科とも共通の教科書を採用して新たな内容で授業を開始した（資料

9-2-②-5, 資料9-2-②-6)。

資料9-2-②-1

平成 18 年 4 月

総合実習・・・ボール盤用万力の製作

課題

ボール盤用万力（ヘッドの幅 80mm、移動距離 80mm、締付力 約 500kgf）の設計・製作

日程計画

第 1～4 週 設計製図、工程計画、鋳造 （1 クラス 5 班編成）

週 \ 班	1	2	3	4	5
1 (4/14)	設計	設計	設計	設計	設計
2 (4/21)			設計	設計	設計
3 (4/28)	設計	設計			
4 (5/12)	設計	設計	設計	設計	設計

第 5～14 週 (2 週×5 回) 製作実施

品 名	使用する工作機械	班				
		5/19 5/26	6/2 6/16	6/23 6/30	7/7 7/14	9/1 9/8
本 体	フライス盤、ボール盤	1	5	4	3	2
固定アゴ 可 動 体	卓上フライス盤、ボール盤	2	1	5	4	3
口金, 押エ板 ハンドル 取付ピン	旋 盤 熱 処 理 ボール盤 研 削 形削り盤	3	2	1	5	4
締付オネジ 締付メネジ	旋 盤、形削り盤 ボール盤	4	3	2	1	5
3DCAD 演習	Pro E (電子 CAD 室)	5	4	3	2	1

第 15 週 (9/15) 組立、調整、検査 （方眼紙 (A4) 各自 1 枚準備）

第 16 週 (9/29) アンケート・作業ノートの訂正など

(出典 材料工学科 総合実習指導書より抜粋)

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer window with the address bar displaying 'http://202.253.200.41'. The page title is 'ログアウト」コース選択」(Closed Course)化学工学1'. The main content area is titled '| 会議室 | 解説 |' and contains a 'メンバーへのお知らせ' (Notice to Members) section with a red font announcement: '化学工学1(学年末試験)に、「リサイクルを含む反応」のヒントを追加しました。'. Below this are navigation links for 'ユニット', '会議室', and '解説'. The '解説' (Explanations) section lists several entries with their respective dates and times, such as 'ミニテストの解答(11/14~11/30)' and '化学工学1(前期中間試験)'. A sidebar on the left contains a menu with categories like 'コンテンツ作成', '成績管理', '学習カルテ', 'ユーザー管理', 'コースオプション', 'ダウンロード', 'バックアップ', and 'メッセージ'.

(出典 本校ホームページ)

四国地区高専共同事業FD研修会

平成 17 年 8 月 11 日
於：高松工業高等専門学校

英文多読授業の取り組みについて

市川 緑 (高松高専)

1. 多読授業とは

- ・ 豊田高専、沖繩高専、東京高専、くらしき作陽大学、電気通信大学、関西大学、順天堂医療看護短大、その他で実践。
- ・ SSS 英語学習法研究会 <http://www.seg.co.jp/sss> が推進 (Start with Simple Stories)
- ・ graded readers を、レベル 0 (使用単語 200~250 語、一冊の総単語数約 1000 語) から徐々にレベルを上げながら読み、読んだ単語数を累計していく。レベルは SSS が統一基準を設定。
SSS 式多読の三原則：「辞書を引かない、分からないところは飛ばす、つまらなくなったらやめる」
- ・ SSS 方式を基準に、改良・工夫が加えられつつある？

2. 高松高専での取り組み

- ・ 授業対象：4 年生 2 クラス (44 名、36 名) 授業時間：週に 45 分×2
授業場所：教材を鍵のかかる書棚にまとめて保管した講義室で。
- ・ 使用教材：Penguin, Oxford, Macmillan, Cambridge, Random House 等から出ている graded readers のシリーズや絵本など、計 600 冊(見込)。現在おもにレベル 0~2 を読んでいる。
Cf. レベル 3 が、高校 1 年修了程度の単語レベル、主要文法事項を網羅。
- ・ 多読シートによる読書記録 (資料 No. 1~3)
4 月からの平均読書語数：S クラス=59864 語 C クラス=41297 語
- ・ 成績評価：文法試験等 40%、平常点 60% (語数やレベルを基準にせず、真剣に取り組んでいるかどうか)

3. 実践してみても多読の利点と、浮上した課題・問題点

利点

- ① 学生の関心の多様性・能力差に対応。
- ② 英語が苦手でも、本が好きなら取り組める。
- ③ 読了する達成感→自信と意欲。
- ④ 教材は語学学習に適切な正統的な英語。
- ⑤ 個人では費用負担が大きいが、予算が確保できれば教室単位で取り組むに適している。
- ⑥ 学習における自律性、自己管理能力の育成。推論能力、理解力、批判的思考力の育成。

課題

- ① 評価方法の見直し：客観的評価をどうするか、平常点のつけ方は？
- ② 教員の役割：フォロー、アドバイス、励ましに努める。教材を出来る限り読んで把握しておく。
- ③ SSS 原則の「辞書を引かない、分からないところは飛ばす」は、一定レベル以下では通用しないのでは？
分からないところをそのままでもいいのか？
- ④ 教材の充実：一般児童書など活用しては？
- ⑤ マンネリ化対策は？ (多読教材を用いて音読、読み聞かせによる内容把握 etc.)
- ⑥ 本の管理の問題：貸し出しを行うべきか？

(出典 平成17年度四国地区高専共同事業FD研修会での発表資料)

資料 9 - 2 - ② - 4

多読用洋書 購入図書一覧

Airport / Arthur Hailey ; retold by Rosalie Kerr ; . -- New ed. -- Pearson Education,1999. -- (Penguin readers ; level 5).
The picture of Dorian Gray / Oscar Wilde ; retold by Kieran McGovern ; . -- New ed. -- Pearson Education,1999. -- (Penguin readers ; level 4).
About a boy / Nick Hornby ; retold by Anne Collins ; . -- Pearson Education,2003. -- (Penguin readers ; level 4).
The time machine / H.G. Wells ; retold by David Maule ; . -- Pearson Education,2006. -- (Penguin readers ; level 4).
Cinderella man / written by Marc Cerasini ; based on the motion picture screenplay by Cliff Hollingsworth and Akiva Goldsman ; motion picture story by Cliff Hollingsworth ; retold by Paul Shipton ; . -- Pearson Education. -- (Penguin readers ; level 4).
The day of the Jackal / Frederick Forsyth ; retold by John Escott ; . -- Addison Wesley Longman,1999. -- (Penguin readers ; Level 4).
On the beach / Nevil Shute ; retold by G.C. Thornley ; . -- New ed. -- Pearson Education,1999. -- (Penguin readers ; level 4).
Crime story collection / by [Margery Allingham] ... [et al.] ; retold by John and Celia Turvey ; . -- New ed. -- Pearson Education,1999. -- (Penguin readers ; level 4).
Lorna Doone / R.D. Blackmore ; retold by Mary Tomalin ; . -- New ed. -- Pearson Education,2000. -- (Penguin readers ; level 4).

他650冊

(出典 図書館所蔵資料)

資料 9 - 2 - ② - 5

第 2 回情報教育センター情報教育推進部門会議 議事録

日 時 : 平成 16 年 6 月 29 日 (火) 16:00~18:15
 場 所 : 第 2 会議室
 司 会 : 勝浦
 出席者 : 勝浦 (部門長), 深山, 馬淵, 松英 (Z), 木本 (G)
 記 録 : 松英

3. 各グループからの報告

2.1 社会構成員としての必要不可欠な情報教育のプログラム構築

[1]-[3]担当: 深山、馬淵

H15 年度に選定した情報教育の内容を各科のシラバスに盛り込み、H17 年度の
 実施について検討する。(原案をセンター長 (伊月) から教務主事へ)

(出典 平成 16 年度第 2 回情報教育センター情報教育推進部門会議議事録より抜粋)

第四回情報教育センター情報教育推進部門会議 議事録

日 時 : 平成 17 年 12 月 13 日 (火) 16:00~17:15
 場 所 : 第二会議室
 司 会 : 勝浦
 出席者 : 勝浦 (部門長)、平野 (E)、朝日 (Z)、柳井 (S)、榊原 (D)
 記 録 : 勝浦

議 題 :

(1) 情報基礎教育について

11月の共通シラバスの叩き台への意見を元に作成したシラバス案について各学科での意見を求め、それらを集約し最終的なシラバスを決定し教務委員会に提出する。

(出典 情報教育センター情報教育推進部門会議議事録)

資料 9 - 2 - ② - 6

授業科目	担当教員	開講期	
情報リテラシー	下村 信雄	前期	
科目番号	対象学年	必修・選択の別	単位数
11139	1年 機械工学科		1単位

授業概要: コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などコンピュータリテラシーや、高度情報化社会のあり方・情報化社会への参画する姿勢について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ・情報処理室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変ができること。
- ・ファイルのコピーや移動、フォルダの作成ができること。
- ・キーボードから文字の入力がスムーズにできること。
- ・ワープロソフトを用い、簡単な定型書類が作成できること。
- ・ワープロソフトを用い、図、絵、グラフ入りの書類が作成できること。
- ・入手した情報を加工、表現する際に守らなければならないことを理解すること。
- ・情報を発信することには責任が伴うことを理解できること。
- ・セキュリティを守る数々の技術について理解し、情報化社会を生きるために自らを守る方法を知ること。
- ・メディアリテラシーを知り、入手した情報を鵜呑みにせず批判的に受け入れることの大切さを理解すること。
- ・有害情報やインターネット上の犯罪について知ることで、高度情報化社会の負の面について理解すること。
- ・情報に関する法律について学び、他人の著作権や個人情報の重要性について理解すること。

教科書: ネットワーク社会における情報の活用と技術 岡田正 他編

参考書: なし

授業の進め方: 講義と演習を取り混ぜて行なう。

授業内容

- 1 電子計算機室の使い方、タイピング練習、ファイル・フォルダの操作
- 2 タイピング練習、インターネット検索、メールの設定と使い方
- 3 タイピング練習、WebClass の使い方、ワープロソフトの使い方 1
- 4 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 2
- 5 情報の加工と表現
- 6 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 3
- 7 情報発信後の責任と評価
- 8 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 4
- 9 セキュリティを守る技術 1(認証とパスワード、暗号、アクセス制御とファイアウォールの動作例)
- 10 セキュリティを守る技術 2(セキュリティホールとコンピュータウイルス)
- 11 タイピング練習、ワープロソフトの使い方 5
- 12 情報の受信・発信(インターネットと犯罪)
- 13 情報の受信・発信(メディアリテラシー)
- 14 情報に関する法律
- 15 期末試験

成績評価の方法: 課題提出及び課題等授業に取り組む姿勢 60%、前期末試験 40%で評価する。

学生へのメッセージ: これからの高度情報化社会を生きていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、モラルがとても大切になります。是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。

(出典 平成18年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントに基づいて、教員個々に、さらに組織的にも、教育の質の向上や授業改善への取り組みを行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学校運営目標の実施状況や教育改善推進計画の実施状況を点検報告書としてとりまとめ、教育活動の点検・評価を行っている。

学生の意見や要望を、勉学に関するアンケートや担任アンケート、学生との懇談会により聴取し、その結果をもとに点検・評価をおこなっている。

各教員は、授業アンケートや公開授業におけるコメントを参考に授業の自己評価を行い、それをもとに改善を加えた次年度の計画書を毎年作成している。

点検・評価結果に基づいて、情報教育に関して学科共通で教えるべきことを決め、1年次に全学科で「情報リテラシー」を開設した。

県内小・中・高校教諭および大学を交えた教育フォーラムを、毎年テーマを変えて開催し、教員の資質向上につなげている。また、教職員対象にWebClass, 3D-CAD, 3次元樹脂モデル造型機などの講習会を実施し、ソフトウェアや機器の活用に関する能力向上を図っており、授業の改善に結びついている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準9の自己評価の概要

教育活動に関する点検・評価は、点検・評価運営委員会の統括の下に、点検専門部会が実施して、点検報告書としてとりまとめている。これを基に点検・評価運営委員会は教育改善を運営会議へ提案する。運営会議は、点検・評価結果を基に学校運営目標を立案するとともに、学校改革推進室に教育改善方策の具体化を付託する。これに基づいて各学科(科)・各委員会はそれぞれ年間運営目標・計画および教育改善推進計画を立て、互いに連携を取りながら教育改善を実施している。

学生の意見は、授業アンケート、勉学アンケート、担任アンケート、学生と教員との懇談会により聴取し、点検・評価に活用している。

地元各界の有識者をメンバーとする運営諮問会議を設置し、提案された教育研究活動や地域連携活動に関する意見は各部門の自己点検に反映する体制にしている。

また、保護者の意見も、保護者懇談会、授業参観日、学寮保護者連絡会などによって聴取している。授業参観日には、近隣の中学校および高校の教員にも参加を依頼し、コメントをもらっている。さらに、卒業生や就職先の企業に対しても適宜アンケートを実施して、意見を聴取している。

以上のような点検結果に基づいて、教育改善活動をおこなっている。例えば、卒業生アンケートや企業アンケートによる英語力不足に関する指摘を踏まえ、英語実力養成講座の開催、語学自習ソフトの導入、英語学力強化対策委員会の設置などを行った。また、情報教育センターとして高等学

校の学習指導要領の変更を契機に自己点検して、情報教育に関して学科共通で教えるべきことを決め、1年次に全学科で「情報リテラシー」を開設した。

各教員は、年度当初に「業務努力目標」を提出し、年度末にその実施報告及び自己評価を行っている。校長はこれをもとに教員と面談し、教育改善を促している。

各教員の研究テーマの多くは卒業研究や特別研究のテーマとして取り入れられており、学生は各専門分野の先端の研究に触れることができると共に、課題発見能力や問題解決能力などを身に付ける上で寄与している。また、教員の研究分野の知見を活かして各種コンテスト参加などの課外活動を実施し、教育の質の向上に役立てている。

ファカルティ・ディベロップメントに関しては、教育改善推進計画の中で実施計画が策定され、これに沿って教育フォーラム、公開授業、ソフトウェア利用講習会などファカルティ・ディベロップメントにつながる行事を積極的に開催している。また、学外のFD研修会などの参加者は、その情報を教員会にて報告し、全教員が共有できるようにしている。

ファカルティ・ディベロップメントに基づく教育の質の向上や授業改善への取り組みは、教員の自主的な活動としてだけでなく、各学科（科）や各委員会などで組織的にも行われている。

また、授業アンケートの集計結果を踏まえて、科目担当者は分析・問題点・対策を文面にして報告するとともに、継続的に授業改善を行っている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

**観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。**

(観点に係る状況)

本校の目的に基づいて行われる教育研究活動を安定して遂行していく資産として、平成17年度
期末決算において「有形固定資産額」は7,434,180千円を有している(資料10-1-①
-1, 資料10-1-①-2, 資料10-1-①-3)。

貸借対照表 (平成 16 ~ 18 年度)

事業年度: 16年度
 支部: 43_新居浜工業高等専門
 会計区分: 国立高専機構
 部署: 総括
 プロジェクト: 総括
 セグメント: 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位:円)

[資産の部]

流動資産

現金及び預金

現金

0

当座預金

0

普通預金

301,813,158

定期預金

0

その他預金

0

301,813,158

有価証券

有価証券

0

0

受取手形

受取手形

0

0

未収学生納付金収入

未収学生納付金収入

253,800

253,800

棚卸資産

未成研究支出金

106,360

未成事業支出金

0

貯蔵品

0

106,360

未収入金

未収入金

0

0

前渡金

前渡金

0

0

前払費用

前払費用

法定福利費

147,495

未経過賃借料

0

未経過保険料

42,296

未経過支払利息

0

189,791

その他の前払費用

83,020

272,811

未収収益

未収収益

0

0

短期貸付金

短期貸付金

0

0

その他の流動資産

仮払金

仮払消費税

0

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

		(単位：円)	
旅費仮払	0	0	
立替金		67,960	
その他流動資産		0	67,960
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産			
建物			
建物	2,168,495,750		
建物附属設備	770,496,943	2,938,992,693	
建物減価償却累計額		-253,406,549	
構築物		577,680,434	
構築物減価償却累計額		-138,512,137	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
車両運搬具		8,601,420	
車両運搬具減価償却累計額		-3,109,862	
工具器具備品		219,419,430	
工具器具備品減価償却累計額		-68,040,735	
土地		4,518,000,000	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		1,000,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	7,800,624,694
無形固定資産			
特許権		0	
借地権		0	
実用新案権		0	
意匠権		0	
ソフトウェア		2,032,625	
電話加入権		363,000	
その他の無形固定資産		1	
著作権		0	

事業年度： 16年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

		(単位：円)
特許権仮勘定	0	2,395,626
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	235,513	
未収財源措置予定額	0	
敷金・保証金	0	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	0	235,513
[資産の部] 合計		8,105,769,922
[本支店勘定]		
[本支店] 函館工業高専	0	
[本支店] 苫小牧工業高専	0	
[本支店] 釧路工業高専	0	
[本支店] 旭川工業高専	0	
[本支店] 八戸工業高専	0	
[本支店] 一関工業高専	0	
[本支店] 宮城工業高専	0	
[本支店] 仙台電波工業高専	0	
[本支店] 秋田工業高専	0	
[本支店] 鶴岡工業高専	0	
[本支店] 福島工業高専	0	
[本支店] 茨城工業高専	0	
[本支店] 小山工業高専	0	
[本支店] 群馬工業高専	0	
[本支店] 木更津工業高専	0	
[本支店] 東京工業高専	0	
[本支店] 長岡工業高専	0	
[本支店] 富山工業高専	0	
[本支店] 富山商船高専	0	
[本支店] 石川工業高専	0	
[本支店] 福井工業高専	0	
[本支店] 長野工業高専	0	
[本支店] 岐阜工業高専	0	
[本支店] 沼津工業高専	0	
[本支店] 豊田工業高専	0	

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位：円)

[本支店]鳥羽商船高専	0	
[本支店]鈴鹿工業高専	0	
[本支店]舞鶴工業高専	0	
[本支店]明石工業高専	0	
[本支店]奈良工業高専	0	
[本支店]和歌山工業高専	0	
[本支店]米子工業高専	0	
[本支店]松江工業高専	0	
[本支店]津山工業高専	0	
[本支店]広島商船高専	0	
[本支店]呉工業高専	0	
[本支店]徳山工業高専	0	
[本支店]宇部工業高専	0	
[本支店]大島商船高専	0	
[本支店]阿南工業高専	0	
[本支店]高松工業高専	0	
[本支店]諺間電波工業高専	0	
[本支店]新居浜工業高専	0	
[本支店]弓削商船高専	0	
[本支店]高知工業高専	0	
[本支店]久留米工業高専	0	
[本支店]有明工業高専	0	
[本支店]北九州工業高専	0	
[本支店]佐世保工業高専	0	
[本支店]熊本電波工業高専	0	
[本支店]八代工業高専	0	
[本支店]大分工業高専	0	
[本支店]都城工業高専	0	
[本支店]鹿児島工業高専	0	
[本支店]沖縄工業高専	0	
[本支店]機構本部	-89,490	
[本支店勘定]合計		-89,490
[負債の部]		
流動負債		
運営費交付金債務		0
授業料債務		0

事業年度： 16年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

		(単位：円)	
承継剰余金債務			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			11,926,003
前受受託研究費等			500,000
前受受託事業費等			0
短期借入金			0
1年以内返済予定長期借入金			0
未払金			313,461,257
未払消費税等			0
未払費用			
給与	3,035,322		
法定福利費	0		
賃借料	1,130,160		
水道光熱費	2,346,063		
未払利息	0		
その他未払費用	6,022,300	12,533,845	
前受金			0
預り金			
科学研究費	0		
社会保険料	0		
源泉所得税等	0		
職員宿舍貸付料	0		
その他預り金	57,344	57,344	
前受収益			
前受利息	0		
その他前受収益	0	0	
引当金			
賞与引当金	0		
修繕引当金	0		
損害補償損失引当金	0		
その他の引当金	0	0	
その他の流動負債			
仮受金	0		
その他の流動負債	0	0	
固定負債			

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

(単位：円)

資産見返負債			
資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	71,165,395		
資産見返授業料	0	71,165,395	
資産見返補助金等		0	
資産見返寄附金		1,793,610	
資産見返物品受贈額		105,457,079	
建設仮勘定見返運営費交付金等			
建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等		0	178,416,084
長期預り金補助金等			0
長期預り金寄附金			0
長期前受受託研究費等			0
長期前受受託事業費等			0
長期借入金			0
長期未払金			0
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部] 合計			516,894,533
[資本の部]			
資本金			
政府出資金			7,974,472,966
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金施設費		12,976,110	
資本剰余金運営費交付金		0	
資本剰余金授業料		0	
資本剰余金補助金等		0	

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

		(単位：円)
資本剰余金寄附金	0	
資本剰余金目的積立金	0	
資本剰余金譲与	1,363,001	
その他の資本剰余金	0	14,339,111
損益外減価償却累計額		-402,325,183
損益外固定資産除売却差額		-1,530,704
利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		0
目的積立金		
目的積立金	0	
目的積立金	0	
目的積立金	0	0
積立金		0
当期末処分利益		3,829,709
繰越欠損金		
当期末処理損失		0
その他の有価証券評価差額金	0	
[資本の部] 合計		7,588,785,899
資本・負債の部合計		8,105,680,432

事業年度： 17年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高专機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

	(単位：円)	
[資産の部]		
流動資産		
現金及び預金		
現金	0	
当座預金	0	
普通預金	40,298,179	
定期預金	0	
その他預金	0	40,298,179
有価証券		
有価証券	0	0
受取手形		
受取手形	0	0
未収学生納付金収入		
未収学生納付金収入	84,600	84,600
棚卸資産		
未成研究支出金	14,960	
未成事業支出金	0	
貯蔵品	0	14,960
未収入金		
未収入金	0	0
前渡金		
前渡金	0	0
前払費用		
前払費用		
法定福利費	80,270	
未経過貸借料	0	
未経過保険料	55,448	
未経過支払利息	0	135,716
その他の前払費用	90,930	226,648
未収収益		
未収収益	0	0
短期貸付金		
短期貸付金	0	0
その他の流動資産		
仮払金		
仮払消費税	0	

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高等機関
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

			(単位：円)
旅費仮払	2,992,136	2,992,136	
立替金		85,327	
その他流動資産		0	3,077,463
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産			
建物			
建物	2,168,496,760		
建物附属設備	786,355,545	2,966,851,295	
建物減価償却累計額		-512,736,999	
構築物		586,981,160	
構築物減価償却累計額		-286,889,141	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
車両運搬具		9,693,266	
車両運搬具減価償却累計額		-3,804,078	
工具器具備品		260,582,182	
工具器具備品減価償却累計額		-130,941,101	
土地		4,618,000,000	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		1,000,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	7,418,737,584
無形固定資産			
特許権		0	
借地権		0	
実用新案権		0	
意匠権		0	
ソフトウェア		972,125	
電話加入権		363,000	
その他の無形固定資産		1	
著作権		0	

事業年度： 17年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 シフト： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

		(単位：円)
特許権仮勘定	0	1,335,126
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	182,357	
未収財源措置予定額	0	
敷金・保証金	0	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	0	182,357
【資産の部】合計		7,463,056,915
【本支店勘定】		
【本支店】函館工業高専	0	
【本支店】苫小牧工業高専	0	
【本支店】釧路工業高専	0	
【本支店】旭川工業高専	0	
【本支店】八戸工業高専	0	
【本支店】一関工業高専	0	
【本支店】富城工業高専	0	
【本支店】仙台電設工業高専	0	
【本支店】秋田工業高専	0	
【本支店】鶴岡工業高専	0	
【本支店】福島工業高専	0	
【本支店】茨城工業高専	0	
【本支店】小山工業高専	0	
【本支店】群馬工業高専	0	
【本支店】木更津工業高専	0	
【本支店】東京工業高専	0	
【本支店】長岡工業高専	0	
【本支店】富山工業高専	0	
【本支店】富山船舶高専	0	
【本支店】石川工業高専	0	
【本支店】福井工業高専	0	
【本支店】長野工業高専	0	
【本支店】岐阜工業高専	0	
【本支店】沼津工業高専	0	
【本支店】豊田工業高専	0	

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 シフト： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位：円)

[本支店]鳥羽商船高専	0	
[本支店]鈴鹿工業高専	0	
[本支店]舞鶴工業高専	0	
[本支店]明石工業高専	0	
[本支店]奈良工業高専	0	
[本支店]和歌山工業高専	0	
[本支店]米子工業高専	0	
[本支店]松江工業高専	0	
[本支店]津山工業高専	0	
[本支店]広島商船高専	0	
[本支店]呉工業高専	0	
[本支店]徳山工業高専	0	
[本支店]宇部工業高専	0	
[本支店]大島商船高専	0	
[本支店]阿南工業高専	0	
[本支店]高松工業高専	0	
[本支店]徳島電機工業高専	0	
[本支店]新居浜工業高専	0	
[本支店]弓削商船高専	0	
[本支店]高知工業高専	0	
[本支店]久留米工業高専	0	
[本支店]有明工業高専	0	
[本支店]北九州工業高専	0	
[本支店]佐世保工業高専	0	
[本支店]熊本電機工業高専	0	
[本支店]八代工業高専	0	
[本支店]大分工業高専	0	
[本支店]都城工業高専	0	
[本支店]鹿児島工業高専	0	
[本支店]神岡工業高専	0	
[本支店]機構本部	-3,919,199	
[本支店勘定]合計		-3,919,199
[負債の部]		
流動負債		
運営費交付金債務		0
授業料債務		0

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

	(単位：円)	
承継剰余金債務		0
預り施設費		0
預り補助金等		0
預り寄附金		11,419,905
前受受託研究費等		1,100,000
前受受託事業費等		0
短期借入金		0
1年以内返済予定長期借入金		0
未払金		50,077,618
未払消費税等		0
未払費用		
給与	2,895,475	
法定福利費	0	
賃借料	851,847	
水道光熱費	2,254,993	
未払利息	0	
その他未払費用	5,824,291	11,826,406
前受金		0
預り金		
科学研究費	0	
社会保険料	0	
源泉所得税等	40,200	
職員宿舍貸付料	0	
その他預り金	20,332	60,532
前受収益		
前受利息	0	
その他前受収益	0	0
引当金		
賞与引当金	0	
修繕引当金	0	
損害補償損失引当金	0	
その他の引当金	0	0
その他の流動負債		
仮受金	0	
その他の流動負債	0	0
固定負債		

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高等機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 サイト： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位：円)

資産見返負債			
資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	96,116,977		
資産見返授業料	0	96,116,977	
資産見返補助金等		0	
資産見返寄附金		1,609,650	
資産見返物品受贈額		62,443,925	
建設仮勘定見返運営費交付金等			
建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等		0	160,170,552
長期預り金補助金等			0
長期預り金寄附金			0
長期前受委託研究費等			0
長期前受委託事業費等			0
長期借入金			0
長期未払金			25,633,688
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部] 合計			260,288,701
[資本の部]			
資本金			
政府出資金			7,974,472,866
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金施設費		12,976,110	
資本剰余金運営費交付金		0	
資本剰余金授業料		0	
資本剰余金補助金等		0	

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 シェア： 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

		(単位：円)
資本剰余金寄附金	0	
資本剰余金目的積立金	0	
資本剰余金譲与	1,363,001	
その他の資本剰余金	0	14,339,111
損益外減価償却累計額		-791,222,134
損益外固定資産除売却差額		-1,560,698
利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		0
目的積立金		
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	
目的積立金	0	
目的積立金	0	0
積立金		0
当期末処分利益		3,719,770
繰越欠損金		
当期末処理損失		0
その他の有価証券評価差額金	0	
[資本の部] 合計		<u>7,199,749,015</u>
資本・負債の部合計		<u>7,450,037,718</u>

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高专機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 コメント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

		(単位：円)	
【資産の部】			
流動資産			
現金及び預金			
現金		0	
当座預金		0	
普通預金		415,456,848	
定期預金		0	
その他預金		0	415,456,848
有価証券			
有価証券		0	0
受取手形			
受取手形		0	0
未収学生納付金収入			
未収学生納付金収入		253,800	253,800
棚卸資産			
未成研究支出金		540,073	
未成事業支出金		0	
貯蔵品		0	540,073
未収入金			
未収入金		0	0
前渡金			
前渡金		0	0
前払費用			
前払費用			
法定福利費	136,588		
未経過賃借料	0		
未経過保険料	75,383		
未経過支払利息	0	211,971	
その他の前払費用		80,930	302,901
未収収益			
未収収益		0	0
短期貸付金			
短期貸付金		0	0
その他の流動資産			
仮払金			
仮払消費税	0		

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

			(単位：円)
旅費仮払	0	0	
立替金		73,340	
その他流動資産		0	73,340
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産			
建物			
建物	2,183,325,070		
建物附属設備	806,846,170	2,989,171,240	
建物減価償却累計額		-746,461,207	
建物減損損失累計額		0	
構築物		599,529,948	
構築物減価償却累計額		-383,639,894	
構築物減損損失累計額		0	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
機械装置減損損失累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
船舶減損損失累計額		0	
車両運搬具		9,693,266	
車両運搬具減価償却累計額		-5,487,975	
車両運搬具減損損失累計額		0	
工具器具備品		290,226,553	
工具器具備品減価償却累計額		-178,651,407	
工具器具備品減損損失累計額		0	
土地		4,518,000,000	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		1,000,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	
その他の有形固定資産減損損失累計額		0	7,093,379,524
無形固定資産			
特許権		0	

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プラント： 総括
 サイト： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

	(単位：円)	
借地権	0	
商標権	0	
実用新案権	0	
意匠権	0	
ソフトウェア	0	
電話加入権	99,000	
その他の無形固定資産	1	
著作権	0	
特許権仮勘定	521,172	620,173
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	120,392	
未収財源措置予定額	0	
敷金・保証金	0	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	0	120,392
【資産の部】 合計		7,510,747,051
【本支店勘定】		
【本支店】 岡部工業高専	0	
【本支店】 苫小牧工業高専	0	
【本支店】 釧路工業高専	0	
【本支店】 旭川工業高専	0	
【本支店】 八戸工業高専	0	
【本支店】 一関工業高専	0	
【本支店】 宮城工業高専	0	
【本支店】 仙台電波工業高専	0	
【本支店】 秋田工業高専	0	
【本支店】 鶴岡工業高専	0	
【本支店】 福島工業高専	0	
【本支店】 茨城工業高専	0	
【本支店】 小山工業高専	0	
【本支店】 群馬工業高専	0	
【本支店】 木更津工業高専	0	
【本支店】 東京工業高専	0	
【本支店】 長岡工業高専	0	

事業年度： 18年度
 支那： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 妙ノ術： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位：円)

[本店] 富山工業高専	0
[本店] 富山商船高専	0
[本店] 石川工業高専	0
[本店] 福井工業高専	0
[本店] 長野工業高専	0
[本店] 岐阜工業高専	0
[本店] 沼津工業高専	0
[本店] 豊田工業高専	0
[本店] 鳥羽商船高専	0
[本店] 鈴鹿工業高専	0
[本店] 舞鶴工業高専	0
[本店] 明石工業高専	0
[本店] 奈良工業高専	0
[本店] 和歌山工業高専	0
[本店] 米子工業高専	0
[本店] 松江工業高専	0
[本店] 津山工業高専	0
[本店] 広島商船高専	0
[本店] 呉工業高専	0
[本店] 徳山工業高専	0
[本店] 宇部工業高専	0
[本店] 大島商船高専	0
[本店] 阿南工業高専	0
[本店] 高松工業高専	0
[本店] 徳島電波工業高専	0
[本店] 新居浜工業高専	0
[本店] 弓削商船高専	0
[本店] 高知工業高専	0
[本店] 久留米工業高専	0
[本店] 有明工業高専	0
[本店] 北九州工業高専	0
[本店] 佐世保工業高専	0
[本店] 熊本電波工業高専	0
[本店] 八代工業高専	0
[本店] 大分工業高専	0
[本店] 都城工業高専	0

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高专機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 サブント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

		(単位：円)	
[本店]鹿児島工業高专	0		
[本店]沖縄工業高专	0		
[本店]機構本部	-7,638,969		
[本店勘定]合計			-7,638,969
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
授業料債務			0
承継剰余金債務			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			12,202,369
前受委託研究費等			
前受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	1,050,000	1,050,000	1,050,000
前受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
1年以内返済予定長期借入金			0
未払金			
退職金	305,330,478		
リース債務	6,372,688		
その他未払金	103,912,722		415,615,888
未払消費税等			0
未払費用			
給与	2,949,772		
法定福利費	0		
賃借料	852,277		
水道光熱費	2,138,709		
未払利息	0		
その他未払費用	6,086,967		12,027,725

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

	(単位：円)	
前受金		0
預り金		
科学研究費	0	
社会保険料	0	
源泉所得税等	3,422,188	
職員宿舍貸付料	0	
その他預り金	6,121,820	9,544,008
前受収益		
前受利息	0	
その他前受収益	0	0
引当金		
賞与引当金	0	
修繕引当金	0	
損害補償損失引当金	0	
その他の引当金	0	0
その他の流動負債		
仮受金	0	
その他の流動負債	0	0
固定負債		
資産見返負債		
資産見返運営費交付金等		
資産見返運営費交付金	105,755,583	
資産見返授業料	22,578,989	128,334,552
資産見返補助金等	5,320,885	
資産見返寄附金	1,910,700	
資産見返物品受贈額	34,985,843	
建設仮勘定見返運営費交付金等		
建設仮勘定見返運営費交付金	0	
建設仮勘定見返授業料	0	0
建設仮勘定見返施設費	0	
建設仮勘定見返補助金等	0	
建設仮勘定見返寄付金	0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等	621,172	
特許権仮勘定見返補助金等	0	171,082,932
長期預り金補助金等		0
長期預り金寄附金		0

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高专機構
 部署： 総括
 アウット： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

(単位：円)

長期前受託研究費等			
長期前受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			19,261,000
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部] 合計			640,783,921
[資本の部]			
資本金			
政府出資金			7,974,472,966
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			
資本剰余金施設費	29,869,875		
資本剰余金運営費交付金	0		
資本剰余金授業料	0		
資本剰余金補助金等	0		
資本剰余金寄附金	0		
資本剰余金目的積立金	0		
資本剰余金譲与	1,363,001		
その他の資本剰余金	0		31,232,876
損益外減価償却累計額			-1,135,024,052
損益外減損損失累計額			-264,000
損益外固定資産除売却差額			-3,907,106
利益剰余金			

事業年度： 18年度
 支筋： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント： 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

	(単位：円)	
前中期目標期間繰越積立金		0
目的積立金		
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	
目的積立金	0	
目的積立金	0	0
積立金		0
当期末処分利益		-4,188,524
繰越欠損金		
当期末処理損失		0
その他の有価証券評価差額金	0	
[資本の部] 合計		<u>6,862,324,161</u>
資本・負債の部合計		<u>7,593,108,082</u>

0 / 0

(出典 総務課資料)

固定資産一覽

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門学校
 会計区分： 国立高専機構

資 産 一 覧 表

出力日 平成19年 6月 5日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日		取得額	減損損失累計額
						供用日	償却率		
資産名称	中期計画区分	取得形態区分	管理部門	規格	備考	供用日	償却率	最終計上日	減価償却累計額
	特定資産区分	勘定科目	管理責任者			除却日	残存価格		
SS4H18A01000001 新居浜工業高等専門学校 棟2階車椅子用V.C改修その他工事	償却資産	自己所有	構内	住宅用、寄宿舎用、宿	教育・研究用	平成18年11月20日	47(年)	2,323,230	0
						平成18年11月20日	0.022	平成18年 3月31日	21,594
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A01000002 材料実習工場棟改修工事(その2)	償却資産	自己所有	材料実習工場	その他のもの(鉄骨鉄筋)	教育研究支援用	平成19年 2月 9日	38(年)	682,500	0
						平成19年 2月 9日	0.027	平成19年 3月31日	3,071
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A01000003 材料工学科棟1階電気室等修繕工事	償却資産	自己所有	材料工学科	住宅用、寄宿舎用、宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	47(年)	2,002,245	0
						平成19年 3月30日	0.022	平成19年 3月31日	3,671
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A01000004 材料工学科棟1階キャリア教育エリア改修工事	償却資産	自己所有	材料工学科	住宅用、寄宿舎用、宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	47(年)	2,112,810	0
						平成19年 3月30日	0.022	平成19年 3月31日	3,874
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A01000005 材料工学科棟1階機能材料実験エリア改修工事	償却資産	自己所有	材料工学科	住宅用、寄宿舎用、宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	47(年)	2,051,490	0
						平成19年 3月30日	0.022	平成19年 3月31日	3,761
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A01000006 機械実習工場高層床床改修その他工事	償却資産	自己所有	材料工学科	住宅用、寄宿舎用、宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	47(年)	1,169,830	0
						平成19年 3月30日	0.022	平成19年 3月31日	2,126
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A02000001 新居浜工業高等専門学校 第1体育館等修繕工事	償却資産	自己所有	第1体育館	店舗用、住宅用、寄宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	24(年)	4,450,035	0
						平成19年 3月30日	0.030	平成19年 3月31日	11,125
							1	償却(登録済)	0
SS4H18A02000002 新居浜工業高等専門学校 第1体育館等修繕工事	償却資産	自己所有	第2体育館	店舗用、住宅用、寄宿	教育・研究用	平成19年 3月30日	24(年)	3,035,610	0
						平成19年 3月30日	0.030	平成19年 3月31日	7,582
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B01000001 一般教養棟動力設備改修その他工事	償却資産	自己所有	構内	その他のもの(電気設備)	教育・研究用	平成18年 8月30日	15(年)	505,050	0
						平成18年 8月30日	0.066	平成19年 3月31日	22,223
							1	償却(登録済)	0

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門学校
 会計区分： 国立高専機構

資 産 一 覧 表

出力日 平成19年 6月 5日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日		取得額	減損損失累計額
						供用日	償却率		
資産名称	中期計画区分	取得形態区分	管理部門	規格	備考	供用日	償却率	最終計上日	減価償却累計額
	特定資産区分	勘定科目	管理責任者			除却日	残存価格		
SS4H18B01000002 一般教養棟動力設備改修その他工事	償却資産	自己所有	構内	その他のもの(電気設備)	教育・研究用	平成18年 8月30日	15(年)	514,710	0
						平成18年 8月30日	0.068	平成19年 3月31日	22,547
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B01000003 寄居地区区画組みメテ設備工事	償却資産	自己所有	当直室	その他のもの(電気設備)	教育・研究用	平成19年 3月16日	15(年)	961,720	0
						平成19年 3月16日	0.055	平成19年 3月31日	5,234
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B01000004 材料工学科棟1階内部改修建築設備工事	償却資産	自己所有	材料工学科	その他のもの(電気設備)	教育・研究用	平成19年 3月20日	15(年)	944,180	0
						平成19年 3月20日	0.066	平成19年 3月31日	6,193
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B02000001 第2体育館シャワー用給湯設備工事	償却資産	自己所有	第2体育館	給排水又は衛生設備	教育・研究用	平成19年 3月 5日	15(年)	850,500	0
						平成19年 3月 5日	0.066	平成19年 3月31日	4,678
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B02000002 高専全館給湯用ボイラ取替工事	償却資産	自己所有	学業食堂	給排水又は衛生設備	教育・研究用	平成19年 3月30日	15(年)	1,984,185	0
						平成19年 3月30日	0.066	平成19年 3月31日	10,913
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B03000001 一般教養棟空調設備改修	償却資産	自己所有	教壇	冷暖房設備(冷暖機)	教育・研究用	平成18年 8月30日	13(年)	2,522,625	0
						平成18年 8月30日	0.076	平成19年 3月31日	127,813
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B03000002 図書館棟空調設備改修工事	償却資産	自己所有	図書室	冷暖房設備(冷暖機)	教育研究支援用	平成19年 3月30日	13(年)	1,283,520	0
						平成19年 3月30日	0.076	平成19年 3月31日	8,129
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B03000003 図書館棟空調設備改修工事(その2)	償却資産	自己所有	図書室	冷暖房設備(冷暖機)	教育研究支援用	平成19年 3月30日	13(年)	641,550	0
						平成19年 3月30日	0.076	平成19年 3月31日	4,063
							1	償却(登録済)	0
SS4H18B03000004 図書館棟空調設備改修工事(その3)	償却資産	自己所有	図書室	冷暖房設備(冷暖機)	教育研究支援用	平成19年 3月30日	13(年)	641,550	0
						平成19年 3月30日	0.076	平成19年 3月31日	4,063
							1	償却(登録済)	0

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門学校
 会計区分： 国立高専機構

資産一覽表

出力日 平成19年 6月 5日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日	耐用年数(月数)	取得額		減損損失累計額	
								最精計上日	減価償却累計額	最精計上日	減価償却累計額
資産名称	中期計画区分	取得形態区分	管理部門	規格	備考	供用日	償却年	償却(登録済)	最精計上日	減価償却累計額	減損損失累計額
	特定資産区分	勘定科目	管理責任者			除却日					
SS4H1800000001	償却資産	運営費交付金及び授業	構内	エヤーカーテン又はド	教育・研究用	平成18年11月20日	12(年)		810,810		0
新居浜工業高等専門学校 棟2階事務用WC改修 その他工事	対象	自己所有	財務			平成18年11月20日	0.063				28,040
	通常	建物附属設備	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		782,770
SS4H1800000002	償却資産	運営費交付金及び授業	構内	エヤーカーテン又はド	教育・研究用	平成18年11月20日	12(年)		1,664,365		0
新居浜工業高等専門学校 棟2階事務用WC改修 その他工事	対象	自己所有	財務			平成18年11月20日	0.063				57,659
	通常	建物附属設備	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		1,606,796
SS4H1800000003	償却資産	運営費交付金及び授業	構内	エヤーカーテン又はド	教育・研究用	平成18年11月20日	12(年)		833,070		0
新居浜工業高等専門学校 棟2階事務用WC改修 その他工事	対象	自己所有	財務			平成18年11月20日	0.063				28,810
	通常	建物附属設備	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		804,260
SS4H1800000004	償却資産	運営費交付金及び授業	電子制御工学科	エヤーカーテン又はド	教育・研究用	平成19年 3月26日	12(年)		1,142,820		0
電子制御工学科棟2階 出入口自動扉改修工 事	対象	自己所有	財務			平成19年 3月26日	0.083				7,905
	通常	建物附属設備	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		1,134,915
SS4H1800000001	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	家中電線類(配電用のも)	一般管理用	平成18年12月18日	25(年)		1,221,990		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.040				16,293
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		1,205,697
SS4H1800000001	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	アスファルト敷又は本	一般管理用	平成18年12月18日	10(年)		1,346,415		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.100				44,880
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		1,301,535
SS4H1800000001	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	その他のもの(鉄骨鉄筋)	一般管理用	平成18年12月18日	60(年)		793,155		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.017				4,525
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		794,526
SS4H1800000002	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	爆発物用防護及び防動	一般管理用	平成18年12月18日	25(年)		1,331,085		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.040				17,748
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		1,313,337
SS4H1800000001	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	つり機、揚架、焼却炉	一般管理用	平成18年12月18日	10(年)		598,710		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.100				19,957
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		578,753

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門学校
 会計区分： 国立高専機構

資産一覽表

出力日 平成19年 6月 5日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日	耐用年数(月数)	取得額		減損損失累計額	
								最精計上日	減価償却累計額	最精計上日	減価償却累計額
資産名称	中期計画区分	取得形態区分	管理部門	規格	備考	供用日	償却年	償却(登録済)	最精計上日	減価償却累計額	減損損失累計額
	特定資産区分	勘定科目	管理責任者			除却日					
SS4H1800000002	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	網球のもの(遊記用)	一般管理用	平成18年12月18日	15(年)		629,475		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.066				13,848
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		616,627
SS4H1800000003	償却資産	施設費	新居浜第3住宅	網球のもの(水泳用)	一般管理用	平成18年12月18日	15(年)		7,424,650		0
新居浜工業高等専門学校 地受水槽整備その他工 事	対象	自己所有	財務			平成18年12月18日	0.066				163,340
	特定	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		7,261,210
SS4H1800000004	償却資産	運営費交付金及び授業	学寮その他	その他のもの(金属製)	教育・研究用	平成19年 3月26日	45(年)		758,415		0
第2浴室ボイラー修繕 タンク改修工事	対象	自己所有	財務			平成19年 3月26日	0.023				1,454
	通常	構築物	不動産管理役				1	償却(登録済)	0		756,961
SS4H1800000001	償却資産	運営費交付金及び授業	電力工学実験室	電気計測器、電気通信	教育・研究用	平成18年10月23日	10(年)		824,280		0
両用電動機直流発電機機 組調整 回転計付	対象	自己所有	電気 共通分	交換電動機実験用		平成18年10月23日	0.100				41,213
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		783,067
SS4H1800000002	償却資産	運営費交付金及び授業	電力工学実験室	電気計測器、電気通信	教育・研究用	平成18年10月23日	10(年)		824,280		0
誘導電動機直流発電機機 組調整 回転計付	対象	自己所有	電気 共通分			平成18年10月23日	0.100				41,213
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		783,067
SS4H1800000001	償却資産	運営費交付金及び授業	牧教員室	その他のもの(課外用)	教育・研究用	平成19年 2月27日	8(年)		749,910		0
グランドピアノ(調律)	対象	自己所有	生物 共通分	ヤマハ MLR-351	共同研究推進費000,000 教育研究費249,910	平成19年 2月27日	0.125				15,623
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		734,287
SS4H1800000002	償却資産	運営費交付金及び授業	学寮食堂	その他のもの(食卓又は)	教育・研究用	平成19年 3月28日	5(年)		2,680,650		0
グランドピアノ(調律)	対象	自己所有	学生生活	ヤマハ PFXM103G(専用 架台付)		平成19年 3月28日	0.200				44,678
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		2,635,972
SS4H1800000001	償却資産	運営費交付金及び授業	ゼミナール室	複写機、計算機(電子)	教育・研究用	平成18年 7月31日	5(年)		588,800		0
アイビー機 Jc- Jansgio Neo C 455 Jc	対象	自己所有	一般 共通分			平成18年 7月31日	0.200				103,320
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		585,480
SS4H1800000002	償却資産	施設特定新給金	学田教員室	その他のもの(電子計算)	教育・研究用	平成18年 7月19日	5(年)		670,600		0
マルチ入力ターミナル取 替システム一式	対象	自己所有	機械 共通分	NR-600		平成18年 7月19日	0.200				85,580
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0		485,020

事業年度： 19年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門学校
 会計区分： 国立高専機構

資 産 一 覧 表

出力日 平成19年 6月 5日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日	耐用年数(月数)	取得額	減損損失累計額	
		取得形態区分	管理部門			供用日	償却率	残存額		減価償却累計額
資産名称	特定資産区分	勘定科目	管理責任者	規格	備考	除却日	残存額	計上事由	経過年数	帳簿価額
SS44H1802000003	償却資産	運営費交付金及び授業	図書館	その他のもの(電話設備)	教育・研究用	平成19年 3月 28日	10(年)	688,000		0
図書館公開用棟南LAN構築一式	対象	自己所有	財務			平成19年 3月 28日	0.100	平成19年 3月 31日		4,900
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	683,100
SS44H1802000004	償却資産	運営費交付金及び授業	CAD室	その他のもの(電話設備)	教育・研究用	平成19年 3月 28日	10(年)	706,986		0
CAD室パソコン移アース	対象	自己所有	財務			平成19年 3月 28日	0.100	平成19年 3月 31日		5,892
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	701,094
SS44H1802000005	償却資産	運営費交付金及び授業	総務課(総合計帳)	その他のもの(電話設備)	教育・研究用	平成19年 3月 28日	10(年)	13,230,000		0
学内ネットワーク19-2bit+774増強の一式	対象	自己所有	財務			平成19年 3月 28日	0.100	平成19年 3月 31日		110,250
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	13,119,750
SS44H1803000001	償却資産	委託研究	中川教員室	試験又は測定機器(時計)	委託研究用	平成19年 3月 6日	1(月)	2,987,500		0
PI二色区分帳計	対象	自己所有	生物 共通分	日本分売 J-805ST		平成19年 3月 6日		平成19年 3月 31日		2,987,499
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	1
SS44H1804000001	償却資産	補助金等	機械実習工場	その他のもの(鑑)	教育・研究用	平成18年12月15日	3(年)	5,985,000		0
3次元増強モデル造形機	対象	自己所有	機械 共通分	Dimension 1200 SST		平成18年12月15日	0.333	平成19年 3月 31日		664,335
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	5,320,665
SS44H1809000001	償却資産	運営費交付金及び授業	グラウンド	スポーツ具(倶楽又はス)	教育・研究用	平成19年 3月 2日	3(年)	679,350		0
バドミントン	対象	自己所有	学生就学	7A7 AT-3154		平成19年 3月 2日	0.333	平成19年 3月 31日		18,852
	通常	工具器具備品	物品管理役				1	償却(登録済)	0	660,498

(出典 総務課資料)

使用現況等表

様式2(機関計)
(新居浜工業高等専門学校機関計)

使用現況等表(法人設立時承継財産)

省庁名 文部科学省
(機関名) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校

区分	使用現況		現物出資を希望するもの		備考	
	数量	価格(円)	数量	価格(円)		
国 有 財 産 台 帳 記 載 事 項	土地	(107,245.80) m ²	(6,653,836,257)	(107,245.80) m ²	(6,653,836,257)	
	樹木	(1,678) 本	(9,427,361)	(1,678) 本	(9,427,361)	
	立木	() m ²	()	() m ²	()	
	竹	() 束	()	() 束	()	
	計		(9,427,361)		(9,427,361)	
	建物	建面積 (17,294.33) m ²	()	建面積 (17,294.33) m ²	()	
		延面積 (40,162.97) m ²	(2,375,148,862)	延面積 (40,162.97) m ²	(2,375,148,862)	
	工作物	()	(1,490,002,367)	()	(1,490,002,367)	
	汽船	() 隻	()	() 隻	()	
	雑船	() 隻	()	() 隻	()	
	計		()		()	
	航空機	() 機	()	() 機	()	
	地上権等	() m ²	()	() m ²	()	
	特許権等	() 件	()	() 件	()	
	計		(10,528,414,847)		(10,528,414,847)	
借 上 財 産	土地	() m ²	()	() m ²	()	
	樹木	() 本	()	() 本	()	
	立木	() m ²	()	() m ²	()	
	竹	() 束	()	() 束	()	
	計		()		()	
	建物	建面積 () m ²	()	建面積 () m ²	()	
		延面積 () m ²	()	延面積 () m ²	()	
	工作物	()	()	()	()	
	汽船	() 隻	()	() 隻	()	
	雑船	() 隻	()	() 隻	()	
	計		()		()	
	航空機	() 機	()	() 機	()	
	地上権等	() m ²	()	() m ²	()	
	特許権等	() 件	()	() 件	()	
	計		()		()	

(再評価分)

別紙1

評価額の内訳

対象資産	口座名	類型	評価額(円)	
対象資産Ⅰ	新居浜工業高等専門学校	建 物	1,502,082,446	} 1,066,156,557
		建物附属工作物	633,211,909	
		土地付着工作物	432,944,648	
		立 木 竹	9,783,390	
小計			2,578,022,393	
対象資産Ⅱ	寄宿舎	建 物	363,150,763	} 196,940,150
		建物附属工作物	89,320,863	
		土地付着工作物	107,619,287	
		立 木 竹	1,292,500	
小計			561,383,413	
対象資産Ⅲ	徳丸宿舎	建 物	450,080	
		建物附属工作物	130,477	
		土地付着工作物	232,321	
		立 木 竹	24,750	
小計			837,628	
対象資産Ⅳ	枝元宿舎	建 物	22,920,239	
		建物附属工作物	4,366,635	
		土地付着工作物	4,109,700	
		立 木 竹	103,000	
小計			31,499,574	
対象資産Ⅴ	合同宿舎	建 物	251,665,177	
		建物附属工作物	22,939,349	
		土地付着工作物	9,405,432	
		立 木 竹	720,000	
小計			284,729,958	
			(円)	
合 計			3,456,472,966	
内 訳		建 物	2,140,268,705	
		建物附属工作物	749,969,233	
		土地付着工作物	554,311,388	
		立 木 竹	11,923,640	

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

法人に移行するに際し、出資財産評価委員会が審査・評価して出資された有形固定資産は、教育研究活動を遂行する為に適切に管理運営されている。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

教育研究活動を行う経費は、運営費交付金及び自己収入で運営され、運営費交付金が減額されるなど、経済状況の厳しい中で自己収入（授業料等）は安定した動きとなっている（資料10-1-②-1）。また、共同研究、受託研究等外部資金収入も増加している（資料10-1-②-2、資料10-1-②-3、資料10-1-②-4、資料10-1-②-5、資料10-1-②-6）。

資料 10-1-②-1

最近4年間の主要収入の推移

授業料収入	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
授業料収入	219,817千円	192,273千円	232,167千円	230,245千円
入学料・検定料収入	26,273千円	26,999千円	25,397千円	27,327千円
共同研究収入	2,380千円	3,890千円	29,499千円	4,150千円
受託研究収入	499千円	14,378千円	9,405千円	19,683千円

(出典 総務課資料)

資料 10-1-②-2

資料名：外部資金受入状況

科目	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
科学研究費補助金	23,800,000	8,300,000	6,200,000	1,800,000	4,900,000
奨学寄付金	11,480,680	5,211,000	2,986,000	4,768,260	7,104,300
共同研究費	2,020,000	2,380,000	3,890,000	9,405,000	4,150,000
受託研究費	7,219,800	499,200	14,378,400	29,499,200	19,683,200
計	44,520,480	16,390,200	27,454,400	45,472,460	35,837,500

(単位：円)

(出典 総務課資料)

資料 10-1-②-3

平成18年度 雑収入実績額調

学校名 新居浜工業高等専門学校

(単位：円)

	決算額	備考
職員宿舍貸付料収入	12,278,178	
寄宿料収入	2,849,500	
その他収入	1,400,391	
学校財産貸付料収入	1,131,621	
刊行物売払代	0	
講習料	185,600	
不用物品売払代	0	
弁償及違約金	0	
雑入	83,170	
合計	16,528,069	

(出典 総務課資料)

資料 10-1-②-4

資料名:平成14～18年度 科学研究費補助金採択状況

科学研究費補助金採択状況

年度	種 目	研究代表者	研 究 題 目	金 額	備 考
14	基礎研究(B)	新田 敦己	酸化鉛を含まないピスマス系低融点ガラスの実用化	4,200,000	
	基礎研究(B)	中山 享	廃棄物焼却灰中の有害重金属の結晶性リン酸ジルコニウムによる永久固定化処理技術	11,400,000	
	基礎研究(C)	高橋 知司	衝撃超高压下でのTi-Al-Cr系L1 ₀ 型/L1 ₂ 型合金の傾斜機能組織	300,000	
	基礎研究(C)	出口 幹雄	絶縁プローブ法によるRF放電プラズマのモニタリングにおける検出感度の改善	600,000	
	基礎研究(C)	川崎 宏一	Spring-8による鋼板の屈折イメージング像の直接高温観察法の研究	400,000	
	基礎研究(C)	深山 幸穂	音波を用いたガス温度・性状分布計測法の開発と屋外等,大型空間への適用	2,200,000	
	若手研究(B)	栗原 義武	高密度デジタル磁気記録のための2次元符号化と信号処理に関する研究	1,800,000	
	若手研究(B)	日野 孝紀	内部電極の単金属化による次世代積層セラミックスコンデンサの開発	2,900,000	
計				23,800,000	
15	基礎研究(B)	新田 敦己	酸化鉛を含まないピスマス系低融点ガラスの実用化	1,300,000	
	基礎研究(B)	中山 享	廃棄物焼却灰中の有害重金属の結晶性リン酸ジルコニウムによる永久固定化処理技術	1,700,000	
	基礎研究(C)	深山 幸穂	音波を用いたガス温度・性状分布計測法の開発と屋外等,大型空間への適用	700,000	
	基礎研究(C)	柳井 忠	ホップ加群の双対性の研究	500,000	
	基礎研究(C)	中川 克彦	環境にやさしく,超高感度なオプティカルHClガスセンサ素子の開発	2,900,000	
	若手研究(B)	栗原 義武	高密度デジタル磁気記録のための2次元符号化と信号処理に関する研究	700,000	
	若手研究(B)	日野 孝紀	内部電極の単金属化による次世代積層セラミックスコンデンサの開発	500,000	
	計				8,300,000

資料名:平成14～18年度 科学研究費補助金採択状況

科学研究費補助金採択状況

年度	種 目	研究代表者	研 究 題 目	金 額	備 考
16	基礎研究(C)	柳井 忠	ホップ加群の双対性の研究	500,000	
	基礎研究(C)	中川 克彦	環境にやさしく,超高感度なオプティカルHClガスセンサ素子の開発	800,000	
	若手研究(B)	栗原 義武	高密度デジタル磁気記録のための2次元符号化と信号処理に関する研究	800,000	
	若手研究(B)	野田 善弘	東南大学知識人の思想に関する研究	500,000	
	若手研究(B)	西井 靖博	逆ミセル系における液滴合一挙動	1,500,000	
	若手研究(B)	香川 福有	円偏波能動アンテナを用いたITS・移動体通信用ビーム走査アレーアンテナの開発	2,100,000	
	計				6,200,000
17	基礎研究(C)	柳井 忠	ホップガロア対応の新たな展開に関する研究	300,000	
	若手研究(B)	野田 善弘	東南大学知識人の思想に関する研究	500,000	
	若手研究(B)	西井 靖博	逆ミセル系における液滴合一挙動	500,000	
	若手研究(B)	香川 福有	円偏波能動アンテナを用いたITS・移動体通信用ビーム走査アレーアンテナの開発	500,000	
	計				1,800,000
18	基礎研究(C)	柳井 忠	ホップガロア対応の新たな展開に関する研究	500,000	
	基礎研究(C)	伊月 宣之	改良した測定法による眼球電図(EOG)の測定とクロストークの定量的解析	1,700,000	
	基礎研究(C)	衣笠 巧	ナノ分子集合体をキャリアとする乳化液膜法によるタンパク質の抽出	2,100,000	
	若手研究(B)	野田 善弘	東南大学知識人の思想に関する研究	200,000	
	若手研究(B)	香川 福有	円偏波能動アンテナを用いたITS・移動体通信用ビーム走査アレーアンテナの開発	400,000	
計				4,900,000	

(出典 総務課資料)

資料 10-1-②-5

資料名:平成16年度 受託研究費受入状況

受託研究費受入状況					
年度	学 科 名	研究代表者	金 額	備 考	
16	生物応用化学科	中川克彦	4,800,000		
	生物応用化学科	牛尾一利			
	生物応用化学科	早瀬伸樹			
	生物応用化学科	堀主計			
	生物応用化学科	西井靖博			
	数理科	川崎宏一	8,580,000		
	生物応用化学科	中川克彦			
	材料工学科	志賀信哉			
	生物応用化学科	桑田茂樹			
	機械工学科	形部富夫			
	電気情報工学科	佐藤真一			499,200
	電気情報工学科	佐藤真一			499,200
	計				14,378,400

資料名:平成17年度 受託研究費受入状況

受託研究費受入状況				
年度	学 科 名	研究代表者	金 額	備 考
17	材料工学科	谷 耕治	2,600,000	
	電気情報工学科	佐藤真一	5,800,000	
	生物応用化学科	関瀬通昭		
	材料工学科	松英達也		
	材料工学科	志賀信哉		
	電子制御工学科	出口幹雄		
	電気情報工学科	佐藤真一	499,200	
	生物応用化学科	中川克彦	18,600,000	
	生物応用化学科	牛尾一利		
	生物応用化学科	早瀬伸樹		
	生物応用化学科	堀主計		
	生物応用化学科	西井靖博		
	数理科	川崎宏一	2,000,000	
	生物応用化学科	教 慎也		
計		29,499,200		

資料名:平成18年度 受託研究費受入状況

受託研究費受入状況				
年度	学 科 名	研究代表者	金 額	備 考
18	数理科	矢野 潤	8,800,000	
	材料工学科	日野孝紀		
	生物応用化学科	堀主計		
	生物応用化学科	中川克彦		
	生物応用化学科	教 慎也		
	電気情報工学科	平野雅嗣	6,500,000	
	生物応用化学科	中川克彦		
	生物応用化学科	牛尾一利		
	生物応用化学科	早瀬伸樹		
	生物応用化学科	堀主計		
	生物応用化学科	西井靖博	1,900,000	
	数理科	川崎宏一		
	電気情報工学科	佐藤真一		
	機械工学科	下村信雄		
	電気情報工学科	佐藤真一	499,200	
計		19,683,200		

(出典 総務課資料)

資料 10-1-②-6

資料名:平成16 共同研究費受入状況

共同研究費受入状況

年度	学 科 名	研 究 代 表 者	金 額	備 考
16	機械工学科	吉川貴士	200,000	
	生物応用化学科	早瀬伸樹	1,050,000	
	生物応用化学科	中山 享	100,000	
	材料工学科	朝日太郎	100,000	
	生物応用化学科	中川克彦	500,000	
	材料工学科	松原靖博	300,000	
	電子制御工学科	今井伸明	420,000	
	電子制御工学科	出口幹雄	420,000	
	生物応用化学科	早瀬伸樹	500,000	
	材料工学科	志賀信哉	300,000	
計			3,890,000	

資料名:平成17年度 共同研究費受入状況

共同研究費受入状況

年度	学 科 名	研 究 代 表 者	金 額	備 考
17	機械工学科	吉川貴士	200,000	
	生物応用化学科	中山 享	100,000	
	材料工学科	朝日太郎	100,000	
	生物応用化学科	中山 享	100,000	
	材料工学科	松原靖博	300,000	
	機械工学科	宮田 剛	100,000	
	生物応用化学科	中山 享	200,000	
	生物応用化学科	早瀬伸樹	2,100,000	
	生物応用化学科	早瀬伸樹	1,365,000	
	生物応用化学科	中川克彦	500,000	
	機械工学科	下村信雄	1,050,000	
	電子制御工学科	今井伸明	420,000	
	機械工学科	下村信雄	500,000	
	生物応用化学科	牧 慎也	150,000	
	機械工学科	下村信雄	500,000	
	電子制御工学科	出口幹雄	420,000	
	機械工学科	下村信雄	800,000	
生物応用化学科	牧 慎也	500,000		
計			9,405,000	

資料名:平成18年度 共同研究費受入状況

共同研究費受入状況

年度	学 科 名	研 究 代 表 者	金 額	備 考
18	機械工学科	吉川貴士	150,000	
	機械工学科	下村信雄	1,000,000	
	生物応用化学科	中山 享	50,000	
	生物応用化学科	中山 享	200,000	
	生物応用化学科	中川克彦	400,000	
	機械工学科	下村信雄	1,050,000	
	材料工学科	松原靖博	300,000	
	電子制御工学科	松友真哉	500,000	
生物応用化学科	牧 慎也	500,000		
計			4,150,000	

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

主要的な自己収入である授業料等収入については、毎年度、収入見込みによって執行計画を策定しており、経常的収入は継続して確保されている。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

機構本部からの予算配分通知に基づき、運営会議で予算配分の基本方針及び予算案を審議・決定する(資料10-2-①-1, 資料10-2-①-2)。決定された年度予算は学科(科)主任および各部門長を通じて関係教職員に総務課から通知する(資料10-2-①-3)。

資料10-2-①-1

平成18年度第5回運営会議議事概要

日時：平成18年6月13日(火) 16時10分～18時40分

場所：第2会議室

出席者：校長、事務部長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、高度技術教育研究センター長、各学科・科主任(刑部、佐藤、榎原、河村、高橋、竹田、野口)、総務課長、学生課長

◎ 議事概要の確認

平成18年度第4回運営会議議事概要(案)について、一部修正のうえ原案どおり確認された。

◎ 協議事項

1 平成18年度学内予算の配分について

校長から資料2に基づき、本年度の予算配分の基本方針の概要説明後、総務課長から配分内容について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、配分通知をすることとなった。

今年度は従来の枠組みを維持して編成ができたが、来年度以降については、運営費交付金の業務効率化分が上乘せされるため、継続して減額となる状況にある。このため実績の分析を踏まえ予算編成の枠組みを検討することが必要である。特に、今後学校間での大きな格差がある非常勤講師手当の見直しが予想されるので、対応を今から各学科、科で検討しておくよう校長から指示があった。また、この配分される予算については有効かつ適正に使っていただきたい旨の依頼があった。

(出典 平成18年度運営会議議事録)

予算配分の基本方針

I 学内予算配分の基本事項

1. 校内共通経費について

- (1) 本年度契約実績及び前年度使用実績から本年度増減が見込まれる事項について加除した金額を配分する。ただし、職員厚生経費・交際費については、機構本部積算額を配分する。(注 留学生経費については、前年度機構本部積算額の配分から変差し、年間必要額を積算の上、配分する。)

2. 教員研究費について

(1) 教員研究費について (各教員に配分)

- ① 教員の「実員数」を基に積算した額から、優秀教員特別配分経費(600千円)、専攻科授業担当特別配分(2,145千円)、新任教員機器整備費(0千円)、共同研究推進費(2,000千円)、教育研究基礎設備整備推進費(5,000千円)、ものづくり教育推進費(1,000千円)、在外研究員旅費不足分(711千円)を控除した額を配分基礎額とする。

(10頁参照)

- 注) ① 専攻科授業担当特別配分は、専攻科で特別研究を指導している教員に 60,000円、専攻科で授業をしている教員に 15,000円を教員研究費として配分する。
 ② 共同研究推進費は、学内の複数の教員の参加する学内外共同研究(地域との連携を含む)のうち、別途定める公募要項に基づき審査の上配分する。
 ③ 教育研究基礎設備整備推進費は、教育研究に存る基盤的設備を整備することを目的に別途定める整備要項に基づき配分する。
 ④ ものづくり教育推進費は、各学科及び専攻科の卒業研究(特別研究)のうち別途定める公募要項に基づき審査の上配分する。
 ⑤ 配分基礎額の50%を各教員に均等配分する。
 ⑥ 残りの50%については次の配分方法で配分する。
 ⑦ 25%は研究計画を4段階(A・B・C・D)に評価して個別に配分する。
 (実績の乏しいものは、D評価とし配分しない)
 ⑧ 25%は教育業績を4段階(A・B・C・D)に評価して個別に配分する。

- 1 -

3. 学科経費について

(1) 学科教育指導費について

学科の教育活動(校外実習、校内コンテスト、成果発表会を含む)及び学科運営経費(コピー代等)に使用するものとする。

- ① 次に示す人数を基に積算する。(12頁参照)

- 一般学生分
 7学科に均等(各学科 1,000人÷7学科)に配分する。
- 留学生分
 留学生の在籍する学科に、在籍する留学生数分を配分する。
- 専攻科学生分
 専攻科の学生に特別研究を指導している教員の所属する学科に、専攻科学生数分を配分する。

- ② 配分単価は、10,500円(平成17年度と同額)とする。

(2) 学生の実験・実習関係費について

学生の実験・実習において活用される消耗品等の購入及び機器の更新に使用するものとする。

① 本科生

- イ. 実験・実習時間数を基に積算する。(13~14頁参照)

- 一般科目
 ① 学年で開設する時間数を基礎とする。
 ② 実験を実施する科目(物理、化学)及び実技の科目(体育、武道)のみを算定の基礎とする。
- 専門科目
 ① 学科で履修すべき時間数(卒業研究は単位数)を基礎とする。
 ② インターンシップは算定の基礎としない。

- ロ. 本科生分前年度の配分単価基礎額(1~2学年 6,000円・3~5学年 13,900円)にそれぞれの在籍学生数(1~2学年 426人・3~5学年 570人)を掛けた額を配分対象科目の総時間(196.5時間)で除したものを時間当たりの配分単価(53,300円)とする。

(参考)

時間当たりの配分単価 = $6,000 \times 426 + 13,900 \times 570 \div 196.5 \text{時間} = 53,300 \text{円}$ (前年度52,800円)

② 専攻科生

専攻科の学生に特別研究を指導している教員の所属する学科に、専攻科学生数分を配分する。(配分単価 13,900円)

4. 校長裁量経費について

- (1) 機構本部から配分された予算総額(1,615,473,147円)から教職員人件費(1,313,553,453円)・仕入経費(445,360円)・教育研究費(校長裁量経費を除く)(145,456,500円)・教育研究支援経費(30,437,000円)・一般経費(71,746,462円)・非常勤講師等的人件費(31,752,000円)・予備費(5,600,030円)・電子ジャーナル等コンソーシアム学科等負担金(△1,644,123円)及び留学生経費(分留経費(1,524,000円)を差し引いた金額(16,602,000円)を校長裁量経費として配分する。
 (2) 校長裁量経費については、別途定める。

- 2 -

5. 特別教育経費について

- (1) 学生用図書購入費として機構本部から配分された金額(1,142,000円)以外に14年度から減額された金額(712,000円(前年度と同額))を別途配分する。
- (2) 図書館経費として機構本部から配分された金額(配分額 2,548,000円から本年度パート必要経費 1,700,000円及び電子ジャーナル負担金 156,000円を控除した 652,000円)以外に次の金額を配分する。
 - ① 年間業績報告発行経費 200,000円
- (3) 視聴覚教室の維持費として380,000円を情報教育センターに配分する。(前年度と同額とした。)
- (4) 技術室運営経費(ものづくり教育支援センター)として以下の金額を配分する。
 - ① 技術室維持費として160,000円を配分する。(前年度配分額 160,000円)
上記以外に実績報告書作成のための経費として 50,000円を配分する。
 - ② 実習工賃経費として200,000円を配分する。(前年度配分額 200,000円)
- (5) 高度技術教育研究センター経費として次の金額を配分する。
 - ① 高度技術教育研究センター運営費 720,000円(前年度配分額 720,000円)
[高度技術教育研究センターでの一般経費(セパ-報発行経費等)として使用]
 - ② 高度技術教育研究センター長裁量経費 500,000円(前年度配分額 500,000円)
[高度技術教育研究センターでの事業的な経費(新たな共同研究の獲得のための経費等)として使用]
 - ③ 高度技術教育研究センター機器維持経費 958,000円(前年度配分額 958,000円)
[高度技術教育研究センターの保有する機器の維持経費として、本部から配分されたX線CT(CT)維持費・超伝導核磁気共鳴装置維持費(配分額については、15頁参照)に加えて高度技術教育研究センターが保有する100万円以上の機器について本部の積算方法により費用した額から校内共通経費分を控除した上記金額を配分する。]
(注)1. 上記維持経費及び本部から配分された維持費は保守点検費、修繕費等機器の維持にかかる経費としてのみ支出される。
2. 機器使用に伴う消耗品は使用者の負担とする。
3. 本部から配分された維持費及び高度技術教育研究センター機器維持経費は、後日使用状況を調査の上調整します。

- (6) 情報教育センター経費として次の金額を配分する。
 - ① 情報教育センター運営費 380,000円(前年度配分額 350,000円)
[情報教育センターでの一般経費(セパ-報発行経費等)として使用]
 - ② 校内LANシステム維持費 820,000円(前年度配分額 820,000円)
○ 校内サーバ-用ライセンス更新料(450千円) - 学内処置
○ 無線LANアクセシビリティ更新料(370千円) - 学内処置
 - ③ 高等教育IT活用推進経費(旅費を含む) 525,000円(前年度配分額 521,000円)
- (7) ものづくり教育支援センター経費として次の金額を配分する。
 - ① ものづくり教育支援センター運営費 300,000円(前年度配分額 300,000円)
[ものづくり教育支援センターでの一般経費(セパ-報発行経費等)として使用]
- (8) 専攻科運営経費として次の金額を配分する。
 - ① 専攻科運営経費 180,000円(前年度配分額 180,000円)
[専攻科での一般経費(専攻科シニア・インターンシップ報告書発行経費等)として使用]
- (9) J A B E B 推進室運営経費として次の金額を配分する。
 - ① J A B E B 推進室運営経費 300,000円(前年度配分額 300,000円)
- (10) その他の特別教育経費については、機構本部から配分された額から校内共通経費分(前年度実績)を控除した金額を配分する。

6. 厚生補導関係費について

- (1) 厚生指導経費については、昨年度使用実績額から四国地区総合文化祭経費 1,683,000円を控除した金額を配分する。
- (2) 厚生指導被導費は、機構本部から配分された額(8,582,000円)を配分する。(前年度追加配分額 4,975,000円)
- (3) 寄附合算費については、収入見込経費のため機構本部配分予算から光熱水料及び清掃費負担金を控除した額を配分する。
収入見込経費のため収入実績に基づき予算調整を行います。
- (4) 地区別共同事業実施経費(四国地区高専総合体育大会)として200,000円を配分する。(1)で積算済み)
12週目のうち2種日本校で実施 1,000,000円(全種目実施時の配分額)×2種目+12種目×200,000円
- (5) ロボットコンテスト等におけるロボット制作費として370,000円配分する。(前年度と同額とした。)

7. 教員研究旅費について

- (1) 教員研究旅費は、教員の「現員数」を基に積算配分する。単独については、前年度と同額とする。
学科別に積算した金額を学科に配分する。(学移単位で予算管理)
- (2) 教員研究委員会、研究協議会、情報処理教育研究会、主事会議、専攻主任会議、J A B E B 関係会議、産学連絡関係会議等の出席旅費及び在外研究員旅費(2,257,000円)として共通経費を設け 4,357,000円(前年度使用実績額 2,100,000円)を配分する。

校内予算配分表

(3)

予算科目	本年度配分額	前年度当初配分額	差引増減額	備考
授業料	1,581,000	1,663,000	-82,000	学費軽減、授業料、修学費、奨学金返付、その他各種学費
広報活動経費	1,150,000	250,000	900,000	学校要員、ス、非イガシシ等職員内ナシシ・学校紹介用スター・入札の管理運営・他職員等
入試PR経費	2,500,000	400,000	2,100,000	固定費削減へ、各種システム等構築の費用削減、ちのづくりフェスティバル、科目体験フェスティバル大会等
事務費	3,350,000	2,500,000	850,000	事務システム、汎用システム構築費、印刷・用紙・印字等の削減、行務と書方の管理運営経費
学内施設整備費	38,158,000	42,018,000	-3,860,000	固定費削減等配分削減額表参照 (15~19頁)
環境整備経費(校舎費)	3,335,000	2,635,000	700,000	固定費削減等配分削減額表参照 (15~19頁)
環境整備経費(学内施設費)	442,000	442,000	-1,000	固定費削減等配分削減額表参照 (15~19頁)
環境整備経費(宿舍修繕費)	1,377,000	1,380,000	-3,000	固定費削減等配分削減額表参照 (15~19頁)
交際費	28,000	28,000	0	消耗品等
一般管理費計	71,746,462	74,512,000	-2,765,538	
教員人件費	27,860,000	25,453,000	2,407,000	非常勤講師分
非常勤教員人件費(教員等)	1,122,000	1,198,000	-76,000	学校医・学校保健医・カウンセラー・学校裁判員等
教員人件費(非常勤教員人件費)	2,738,000	3,000,000	-262,000	別添付表(別添)に於ける事務補助員分(2名)及び外国人教員等専業主夫社会保険料
人件費計	31,720,000	29,651,000	2,069,000	
予備費	5,000,000	5,000,000	0	
電子データ等コンソーシアム学科等負担金	-1,644,128	-1,578,000	-66,128	
合計	300,549,834	265,981,000	34,568,834	

注) 1. 配分合計額は、予算総額から教職員人件費(退職手当・外国人教員分を含む)(1,912,533,463円)・赴任旅費(443,860円)及び留学生生活費等配分保留額(1,624,030円)を除く金額になっております。
(教職員人件費・赴任旅費については、必要額が定額本部から差引額を控えます。)

(出典 総務課資料)

資料 10-2-①-3

平成 18 年 7 月 24 日

各学科(科)主任 殿

総務課長

印 略

平成18年度教員研究費配分一覧表について(通知)

このことについて、貴学科(科)関係分が別紙のとおり決定されましたので通知します。各教員には個人毎の配分額及び配分内訳を別途通知しております。

なお、研究費の使用に当たっては、効率的・効果的な使用に心がけて下さい。使用状況については、事業効果の観点から事後的な評価を行いますのでご留意願います。

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学内の予算配分は運営会議での審議を経て、校長が決定し教職員に通知している。このことから、

適切に収支に係る計画が策定され、関係者に明示されている。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

平成16、17年度決算損益計算書において、平成16年度の「経常収益合計」1,631,137千円に対し、「経常費用合計」1,627,307千円であった。平成17年度は「経常収益合計」1,452,215千円に対し、「経常費用合計」1,449,510千円であった(資料10-2-②-1, 資料10-2-②-2, 資料10-2-②-3)。

資料 10-2-②-1

損益計算書 (平成 16 ~ 18 年度)

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位：円)

[経常費用]

業務費

教育・研究経費

消耗品費		52,913,741
備品費		20,979,775
印刷製本費		4,079,960
水道光熱費		
電気料	14,647,463	
ガス料	198,958	
水道料	1,837,822	16,684,243
旅費交通費		13,679,080
通信運搬費		9,413,680
賃借料		745,250
車両燃料費		2,175,112
福利厚生費		0
保守費		3,543,555
修繕費		6,369,736
損害保険料		0
広告宣伝費		0
行事費		554,486
諸会費		143,525
会議費		10,500
委託調査研究費		0
支払派遣費		0
プログラム開発費		0
支払報酬		
諸謝金	2,038,400	2,038,400
奨学費		
奨学交付金	12,369,000	
留学生給与	0	12,369,000
減価償却費		30,846,549
貸倒損失		0
貸倒引当金繰入額		0
徴収不能引当金繰入額		0
雑費		
備船料	0	

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高专機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位：円)

特許出願費	0		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	18,032,123	18,032,123	194,578,715
教育研究支援費			
消耗品費		10,017,641	
備品費		1,813,300	
印刷製本費		594,720	
水道光熱費			
電気料	2,441,245		
ガス料	35,405		
水道料	306,304	2,782,954	
旅費交通費		175,080	
通信運搬費		1,568,683	
貸借料		154,875	
車両燃料費		362,527	
福利厚生費		0	
保守費		3,891,515	
修繕費		5,247,118	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		50,000	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	84,000	84,000	
減価償却費		26,144,131	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	6,049,190	6,049,190	58,935,734

2 / 7

事業年度： 16年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 切替日：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

		(単位：円)	
受託研究費			
謝金		15,200	
旅費交通費		1,593,085	
人件費		0	
物件費		12,776,255	
減価償却費		129,675	
その他の受託研究費		0	14,514,215
受託事業費			
謝金		0	
旅費交通費		0	
人件費		0	
物件費		0	
減価償却費		0	
その他の受託事業費		0	0
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	499,800,928		
常勤教員賞与	195,498,391		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	139,059,276		
常勤教員法定福利費	10,782,695	845,141,290	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	25,142,600		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	0	25,142,600	870,283,890
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	229,646,328		

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 抄外：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位：円)

常勤職員賞与	78,297,822		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	71,461,932		
常勤職員法定福利費	4,774,690	384,180,772	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	6,797,402		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員法定福利費	1,263,574	8,060,976	392,241,748
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		12,150,904	
備品費		657,015	
印刷製本費		1,162,095	
水道光熱費			
電気料	7,323,734		
ガス料	67,947		
水道料	938,374	8,330,055	
旅費交通費		4,823,970	
通信運搬費		5,040,320	
賃借料		156,240	
車両燃料費		1,624,104	
福利厚生費		851,700	
保守費		3,392,927	
修繕費		18,280,074	
損害保険料		4,891	
広告宣伝費		4,733,733	
行事費		0	
諸会費		8,000	
会議費		11,250	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		1,455,298	
プログラム開発費		0	
諸謝金		0	
支払手数料		0	

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 切替日：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

(単位：円)			
銀行手数料	527,100		
その他手数料	0	527,100	
租税公課			
自動車重量税	107,100		
固定資産税	0		
収入印紙代	0		
消費税等	760		
その他の租税公課	0	107,860	
減価償却費		7,676,129	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	14,029,318		
移設撤去費	1,174,486		
雑役務費	10,197,417	25,401,221	96,394,886
財務費用			
財務費用			
支払利息		358,778	
その他の財務費用		0	358,778
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計			1,627,307,966
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,276,723,259
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益	232,450,120		
[授業料収益] 講習料収益	315,400	232,765,520	
[経常収益] 入学金収益			21,065,400
[経常収益] 検定料収益			6,187,500
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益	14,378,400		
共同研究収益	3,390,000	17,768,400	
[経常収益] 受託事業等収益			0
[経常収益] 補助金等収益			0
[経常収益] 寄附金収益			7,804,093

事業年度： 16年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

		(単位：円)	
[経常収益] 施設費収益			2,248,890
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	1,214,360		
資産見返補助金等戻入	0		
資産見返寄附金等戻入	45,990		
資産見返物品受贈額戻入	49,915,737	51,176,087	
[経常収益] 財務収益			
受取利息	1,663		
その他の財務収益	0	1,663	
[経常収益] 雑益			
財産貸付料収入	15,396,863		
文献複写料	0		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
その他の雑益	0	15,396,863	
[経常収益] 合計		1,631,137,675	
経常利益		3,829,709	
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損	0		
[臨時損失] 固定資産売却損	0		
[臨時損失] 災害損失	0		
[臨時損失] その他の臨時損失	118,978,276		
[臨時損失] 合計		-118,978,276	
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入			0
[臨時利益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	0		
資産見返補助金等戻入	0		
資産見返寄附金戻入	0		
資産見返物品受贈額戻入	0	0	
[臨時利益] その他引当金戻入			0
[臨時利益] その他の臨時利益		118,978,276	

事業年度： 16年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 拠点：

損益計算書

平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

	(単位：円)
[臨時利益] 合計	118,978,276
[当期純利益 (純損失)]	3,829,709
[目的積立金取崩額]	0
[当期総利益 (総損失)]	3,829,709

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 カット：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

[経常費用]

業務費

教育・研究経費

・消耗品費		57,815,588
備品費		15,732,562
印刷製本費		5,089,048
水道光熱費		
電気料	13,959,830	
ガス料	289,145	
水道料	1,936,454	16,185,429
旅費交通費		13,339,790
通信運搬費		9,147,121
賃借料		768,048
車両燃料費		2,263,884
福利厚生費		0
保守費		3,238,872
修繕費		14,555,247
損害保険料		2,000
広告宣伝費		236,250
行事費		1,551,101
諸会費		153,300
会議費		0
委託調査研究費		0
文献複写費		0
支払派遣費		0
プログラム開発費		0
支払報酬		
諸謝金	1,754,300	1,754,300
奨学費		
奨学交付金	13,834,650	
留学生給与	0	13,834,650
減価償却費		34,429,393
貸倒損失		117,300
貸倒引当金繰入額		0
徴収不能引当金繰入額		0
雑費		

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

		(単位：円)	
備給料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	254,725		
損害賠償費	0		
雑役務費	22,010,709	22,265,434	212,479,317
教育研究支援費			
消耗品費		6,857,594	
備品費		436,380	
印刷製本費		581,700	
水道光熱費			
電気料	2,326,639		
ガス料	57,278		
水道料	322,742	2,706,659	
旅費交通費		248,740	
通信運搬費		1,822,973	
賃借料		1,858,500	
車両燃料費		376,665	
福利厚生費		0	
保守費		3,971,562	
修繕費		3,031,278	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		50,000	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	90,000	90,000	
減価償却費		28,313,240	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	15,120		
損害賠償費	0		

事業年度： 17年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

		(単位：円)	
雑役務費	2,316,453	2,331,573	52,676,864
受託研究費			
謝金		57,600	
旅費交通費		1,609,170	
人件費		0	
物件費		17,893,218	
減価償却費		15,861,295	
その他の受託研究費		2,882,787	38,304,070
受託事業費			
謝金		0	
旅費交通費		0	
人件費		0	
物件費		0	
減価償却費		0	
その他の受託事業費		0	0
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	499,600,096		
常勤教員賞与	196,241,543		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	0		
常勤教員法定福利費	12,489,702	708,331,341	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	25,731,400		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	125,863	25,857,263	734,188,604
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			

事業年度： 17年度

支部： 43_新居浜工業高等専門

会計区分： 国立高専機構

部 署： 総括

プロジェクト： 総括

切替日：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位：円)

常勤職員給与	224,049,989		
常勤職員賞与	77,868,765		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	0		
常勤職員法定福利費	4,917,504	306,836,258	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	1,838,406		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員法定福利費	67,537	1,905,943	308,742,201
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		13,024,311	
備品費		982,040	
印刷製本費		505,281	
水道光熱費			
電気料	6,979,912		
ガス料	143,519		
水道料	987,691	8,111,122	
旅費交通費		5,214,820	
通信運搬費		4,912,798	
賃借料		1,274,694	
車両燃料費		1,731,989	
福利厚生費		631,211	
保守費		3,447,100	
修繕費		24,728,455	
損害保険料		47,846	
広告宣伝費		2,133,959	
行事費		0	
諸会費		43,000	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		3,687,858	
プログラム開発費		0	
諸謝金		0	

事業年度： 17年度

支部： 43 新居浜工業高等専門

会計区分： 国立高専機構

部 署： 総括

プロジェクト： 総括

コメント：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位：円)

支払手数料			
銀行手数料	548,835		
その他手数料	70	548,905	
租税公課			
自動車重量税	144,900		
固定資産税	3,695,700		
収入印紙代	5,200		
消費税等	125		
その他の租税公課	0	3,845,925	
減価償却費		4,864,029	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	13,617,531		
移設撤去費	24,712		
雑役務費	9,604,393	23,246,636	102,981,879
財務費用			
財務費用			
支払利息		137,336	
その他の財務費用		0	137,336
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計			1,449,510,271
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,053,980,288
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益	245,949,300		
[授業料収益] 講習料収益	114,400	246,063,700	
[経常収益] 入学金収益			20,227,800
[経常収益] 検定料収益			5,169,400
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益	29,499,200		
共同研究収益	8,805,000	38,304,200	
[経常収益] 受託事業等収益			0
[経常収益] 補助金等収益			0

5 / 7

事業年度： 17年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月 31日

		(単位：円)
[経常収益] 寄附金収益		6,873,881
[経常収益] 施設費収益		6,720,000
[経常収益] 資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	15,211,360	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金等戻入	183,960	
資産見返物品受贈額戻入	43,013,154	
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0	58,408,474
[経常収益] 財務収益		
受取利息	2,046	
その他の財務収益	0	2,046
[経常収益] 雑益		
財産貸付料収入	16,318,453	
文献複写料	0	
物品受贈益	0	
債権受贈益	0	
承継剰余金債務戻入	0	
その他の雑益	147,000	16,465,453
[経常収益] 合計		1,452,215,242
経常利益		2,704,971
[臨時損失]		
[臨時損失] 固定資産除却損		0
[臨時損失] 固定資産売却損		0
[臨時損失] 災害損失		0
[臨時損失] その他の臨時損失		0
[臨時損失] 合計		0
[臨時利益]		
[臨時利益] 固定資産売却益		1,014,799
[臨時利益] 貸倒引当金戻入		0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入		0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入		0
[臨時利益] 資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	0	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金戻入	0	
資産見返物品受贈額戻入	0	0

事業年度： 17年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

	(単位：円)
[臨時利益]その他引当金戻入	0
[臨時利益]その他の臨時利益	0
[臨時利益] 合計	1,014,799
[当期純利益 (純損失)]	3,719,770
[目的積立金取崩額]	0
[当期総利益 (総損失)]	3,719,770

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 フォノ外： 総括
 以外：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

(単位：円)

[経常費用]

業務費

教育・研究経費

消耗品費		62,947,746
備品費		19,916,476
印刷製本費		8,862,503
水道光熱費		
電気料	13,955,847	
ガス料	297,926	
水道料	1,995,579	18,249,352
旅費交通費		18,859,442
通信運搬費		9,384,750
貸借料		6,748,984
車両燃料費		2,532,059
福利厚生費		0
保守費		3,506,895
修繕費		30,364,994
損害保険料		0
広告宣伝費		0
行李費		548,645
諸会費		113,000
会議費		0
委託調査研究費		0
文献複写費		0
支払保連費		711,900
プログラム開発費		0
業務委託費		8,232,180
支払報酬		
謝礼金	3,158,520	3,158,520
奨学費		
奨学交付金	14,427,900	
留学生給与	0	14,427,900
減価償却費		33,529,898
貸倒損失		0
貸倒引当金繰入額		0
徴収不能引当金繰入額		0

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高等機構
 部署： 総括
 プラント： 総括
 シフト：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

		(単位：円)	
雑費			
備船料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑務費	13,736,921	13,736,921	263,834,164
教育研究支援経費			
消耗品費		5,854,414	
備品費		1,196,085	
印刷製本費		600,800	
水道光熱費			
電気料	2,325,972		
ガス料	59,841		
水道料	332,594	2,718,207	
旅費交通費		138,100	
通信運搬費		1,795,817	
賃借料		1,958,500	
車両燃料費		421,981	
福利厚生費		0	
保守費		3,851,532	
修繕費		6,983,636	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		50,000	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		831,681	
支払報酬			
賭博金	0	0	
減価償却費		18,298,831	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 センター：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

		(単位：円)	
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	1,362,930	1,362,930	45,757,174
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
その他の受託研究費	0	0	
その他			
謝金	19,200		
旅費交通費	1,199,690		
人件費	0		
物件費	14,873,782		
減価償却費	2,887,499		
その他の受託研究費	803,028	19,783,199	19,783,199
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
その他の共同研究費	0	0	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	594,580		
人件費	0		
物件費	3,480,870		
減価償却費	0		
その他の共同研究費	24,550	4,100,000	4,100,000
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 アウトラ： 総括
 インスト：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位：円)

旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
その他の受託事業費	0	0	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
その他の受託事業費	0	0	0
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	488,608,575		
常勤教員賞与	199,132,306		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	219,321,064		
常勤教員法定福利費	12,265,312	929,327,267	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	28,088,600		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	125,116	28,213,616	957,540,873
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	214,919,605		
常勤職員賞与	75,688,624		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プラント： 総括
 妙手：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

(単位：円)

常勤職員退職給付費用	93,220,514		
常勤職員法定福利費	4,853,662	388,480,405	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	1,668,420		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	7,503	1,675,923	390,156,328
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		11,708,538	
備品費		703,290	
印刷製本費		555,891	
水道光熱費			
電気料	6,977,925		
ガス料	138,005		
水道料	1,017,255	8,131,185	
旅費交通費		6,444,697	
通信運搬費		4,880,286	
貸借料		778,989	
車両燃料費		2,003,349	
福利厚生費		773,049	
保守費		2,903,282	
修繕費		11,395,068	
損害保険料		71,748	
広告宣伝費		2,339,484	
行事費		0	
諸会費		43,000	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		3,754,477	
プログラム開発費		0	
業務委託費		11,118,393	
贈謝金		45,240	
支払手数料			

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 アドレス外： 総括
 以外：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位：円)			
銀行手数料	652,880		
その他手数料	700	653,380	
租税公課			
自動車重量税	157,500		
固定資産税	3,638,400		
収入印紙代	6,200		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	3,802,100	
減価償却費		3,101,067	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	11,539,669		
移設撤去費	0		
雑務費	6,339,363	17,878,912	92,065,419
財務費用			
財務費用			
支払利息		526,945	
その他の財務費用		0	526,945
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計			1,763,764,102
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,387,705,021
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益		221,868,545	
[授業料収益] 講習料収益		185,600	222,054,145
[経常収益] 入学金収益			20,896,200
[経常収益] 検定料収益			6,600,000
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	19,683,200	19,683,200	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		

事業年度： 18年度
 支部： 43 新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部 署： 総括
 プロジェクト： 総括
 コメント：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ～ 平成19年 3月31日

		(単位：円)	
その他	4,200,000	4,200,000	
[経常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
[経常収益] 補助金等収益			9,308,478
[経常収益] 寄附金収益			10,290,118
[経常収益] 施設費収益			16,041,986
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入		19,076,996	
資産見返補助金等戻入		664,335	
資産見返寄附金戻入		269,550	
資産見返物品受贈額戻入		27,448,062	
特許権仮測定見返運営費交付金戻入		0	
特許権仮測定見返補助金等戻入		0	47,457,963
[経常収益] 財務収益			
受取利息		43,170	
その他の財務収益		0	43,170
[経常収益] 雑益			
財産貸付料収入		16,259,299	
文献複写料		0	
物品受贈益		0	
債権受贈益		0	
承継剰余金債務戻入		0	
間接経費収入		0	
その他の雑益		40,000	16,299,299
[経常収益] 合計			1,759,577,579
経常利益			-4,186,523
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			1
[臨時損失] 固定資産売却損			0
[臨時損失] 災害損失			0
[臨時損失] 減損損失			0
[臨時損失] その他の臨時損失			0
[臨時損失] 合計			-1
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0

事業年度： 18年度
 支部： 43_新居浜工業高等専門
 会計区分： 国立高専機構
 部署： 総括
 プロジェクト： 総括
 セグメント：

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

	(単位：円)
[臨時利益]貸倒引当金戻入	0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入	0
[臨時利益]退職給付引当金戻入	0
[臨時利益]資産見返負債戻入	
資産見返運営費交付金等戻入	0
資産見返補助金等戻入	0
資産見返寄附金戻入	0
資産見返物品受贈額戻入	0
[臨時利益]その他引当金戻入	0
[臨時利益]その他の臨時利益	0
[臨時利益]合計	0
[当期純利益 (純損失)]	-4,186,524
[目的積立金取崩額]	0
[当期総利益 (総損失)]	-4,186,524

資料 10-2-②-2

決算報告書 (平成 16・17 年度)

平成 16 年度 決算報告書

学校名 新居浜工業高等専門学校

(単位: 円)

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (A)-(B)	備 考
収入				
運営費交付金	1,349,094,534	1,349,094,534	0	
施設整備費補助金	15,225,000	15,225,000	0	
自己収入	261,157,000	234,986,628	26,170,374	
授業料収入	220,419,000	192,273,600	28,145,400	
入学科収入	19,677,000	20,811,600	(1,134,600)	
検定料収入	6,836,000	6,187,500	648,500	
雑収入	14,225,000	15,713,928	(1,488,928)	財務収入 1,663円を含む
産学連携等研究収入		18,268,400	(18,268,400)	
寄付金収入		2,986,000	(2,986,000)	
計	1,625,476,534	1,620,560,560	4,915,974	
支出				
業務費	1,612,150,960	1,612,150,960	0	
教育研究経費(教育研究支援経費を含む)	1,125,571,965	1,521,337,444	(395,765,479)	財務費用 255,970円を含む
一般管理費	486,578,995	90,813,516	395,765,479	財務費用 102,808円を含む
施設整備費	15,225,000	15,225,000	0	
産学連携等研究経費	18,268,400	17,874,760	393,640	
寄付金事業費	16,208,614	4,282,611	11,926,003	
計	1,661,852,974	1,648,533,331	12,319,643	

平成 17 年度 決算報告書

学校名 新居浜工業高等専門学校

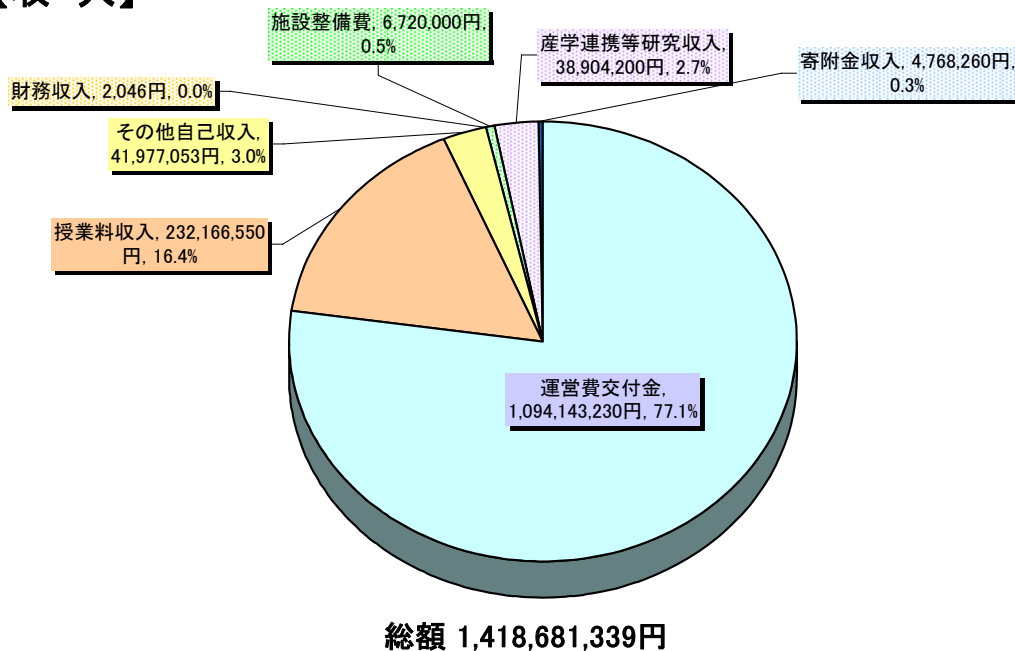
(単位: 円)

区 分	決算額 (B)	備 考
収入		
運営費交付金	1,094,143,230	17年度入学科免除申請分で許可になった分 169,200円を含む(16年度で予算執行済み)
施設整備費補助金	6,720,000	
施設整備資金貸付金償還時補助金	0	
自己収入	274,145,649	
授業料収入	232,166,550	
入学科収入	20,227,800	17年度猶予申請分で本年度収入になった 84,600円を含む(16年度で予算執行済み)
検定料収入	5,169,400	
雑収入	16,581,899	財務収入2,046円を含む
産学連携等研究収入	38,904,200	
寄付金収入	4,768,260	
その他補助金	0	
計	1,418,681,339	
支出		
業務費	1,368,114,879	
教育研究経費(教育研究支援経費を含む)	1,265,089,920	
一般管理費	103,024,959	18年度入学科猶予申請分84,600円を含む(17年度で予算執行済み)
施設整備費	6,720,000	
長期借入金償還金	0	
産学連携等研究経費	38,212,800	
寄付金事業費	5,274,358	
その他補助金	0	
計	1,418,322,037	

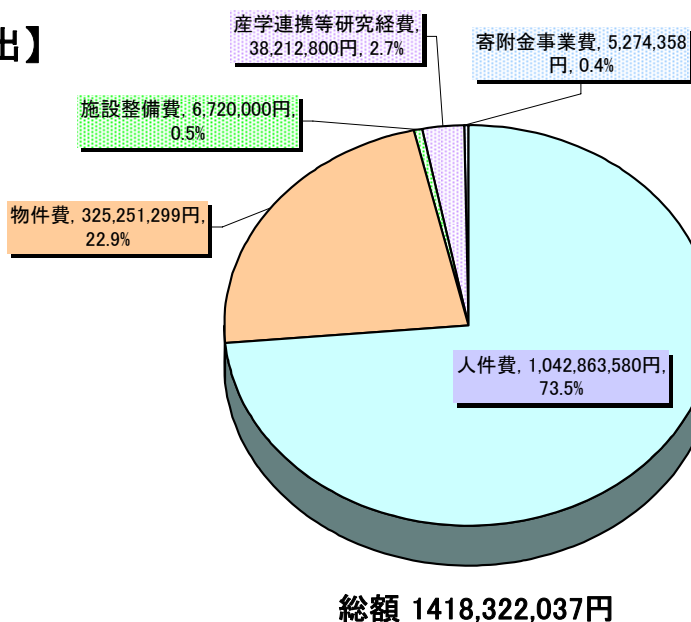
(出典 総務課資料)

15 収入・支出決算額

【収入】



【支出】



注 収入に比べて支出が 359,302円少ないのは、
 支出増 : 平成18年度入学者にかかる入学科猶予申請者1名分 84,600円を前倒しで支出処理
 産学連携等研究費の複数年契約(平成16年度契約分)に伴う繰越処理分 393,640円
 寄附金事業費の収入額に対する支出増 506,098円
 支出減 : 平成17年度入学者にかかる入学科猶予申請者1名分 84,600円の入金(平成16年度に前倒しで支出処理)
 産学連携等研究費の複数年契約(平成17年度契約分)に伴う繰越処理分 1,085,040円(平成18年度に繰越分)
 予算執行残 174,000円(教員特殊業務手当 4,800円・平成16年度入学科免除申請分 169,200円-平成16年度に支出処理済)

(出典 学校案内 2006)

(分析結果とその根拠理由)

平成16, 17年度決算損益計算書で示すとおり, 各年度とも経常収益合計額が経常費用合計額を上回っており, 支出超過となっていない。収支の状況は良好である。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため, 教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し, 適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

予算配分において経常経費以外に「教員研究費」, 「学科経費」, 「校長裁量経費」, 「特別教育経費」, 「厚生補導関係費」等について, 予算配分の基本方針に基づき配分している(資料10-2-③-1, 資料10-2-③-2, 資料10-2-③-3)。「教員研究費」の中から「共同研究推進費」, 「教育研究基盤設備推進費」, 「ものづくり教育推進費」を控除して, 特色ある教育研究活動に配分している(資料10-2-③-4, 資料10-2-③-5, 資料10-2-③-6, 資料10-2-③-7, 資料10-2-③-8, 資料10-2-③-9)。教員に対しては研究業績評価と教育業績評価を行い, 「教員研究費」からインセンティブに予算を配分している(資料10-2-①-10, 資料10-2-①-11, 資料10-2-①-12)。

また, 施設設備は教育研究活動のために適切に配分されている(資料10-2-①-13)。

資料10-2-③-1

予 算 配 分 の 基 本 方 針

I 学内予算配分の基本事項

1. 校内共通経費について

- (1) 本年度契約実績及び前年度使用実績から本年度増減が見込まれる事項について加除した金額を配分する。ただし、職員厚生経費・交際費については、機構本部額算額を配分する。(注 留学生経費については、前年度機構本部額算額の配分から変更し、年間必要額を算出の上、配分する。)

2. 教員研究費について

(1) 教員研究費について(※教員に配分)

- ① 教員の「実員数」を基に積算した額から、優秀教員特別配分経費(600千円)、専攻科授業担当特別配分(2,145千円)、新任教員機器整備費(0千円)、共同研究推進費(2,000千円)、教育研究基盤設備整備推進費(5,000千円)、ものづくり教育推進費(1,000千円)、在外研究員旅費不足分(711千円)を控除した額を配分基礎額とする。(10頁参照)

注) ⅰ. 専攻科授業担当特別配分は、専攻科で特別研究を指導している教員に 60,000円、専攻科で授業をしている教員に 15,000円を教員研究費として配分する。

ⅱ. 共同研究推進費は、学内の複数の教員が参加する学内外共同研究(地域との連携を含む)のうち、別途定める公募要項に基づき審査の上配分する。

ⅲ. 教育研究基盤設備整備推進費は、教育研究に係る基盤的設備を整備することを目的に別途定める整備要項に基づき配分する。

ⅳ. ものづくり教育推進費は、各学科及び専攻科の卒業研究(特別研究)のうち別途定める公募要項に基づき審査の上配分する。

- ② 配分基礎額の50%を各教員に均等配分する。

- ③ 残りの50%については次の配分方法で配分する。

ⅰ. 25%は研究計画を4段階(A・B・C・D)に評価して個別に配分する。

(実績の乏しいものは、D評価とし配分しない)

ⅱ. 25%は教育業績等を4段階(A・B・C・D)に評価して個別に配分する。

3. 学科経費について

(1) 学科教育消費費について

学科の教育活動（校外実習、校内コンテスト、成果発表会を含む）及び学科運営経費（コピー代等）に使用するものとする。

① 次に示す人数を基に積算する。（13頁参照）

- 一般学生分
7学科に均等（各学科 1,000人÷7学科）に配分する。
- 留学生分
留学生の在籍する学科に、在籍する留学生数分を配分する。
- 専攻科学生分
専攻科の学生に特別研究を指導している教員の所属する学科に、専攻科学生数分を配分する。

② 配分単価は、10,500円（平成17年度と同額）とする。

(2) 学生の実験・実習関係費について

学生の実験・実習において活用される消耗品等の購入及び機器の更新に使用するものとする。

① 本科生

イ. 実験・実習時間数を基に積算する。（13～14頁参照）

- 一般科目
イ. 学年で開設する時間数を基礎とする。
ロ. 実験を実施する科目（物理、化学）及び実技の科目（体育、武道）のみを算定の基礎とする。
- 専門科目
イ. 学科で履修すべき時間数（卒業研究は単位数）を基礎とする。
ロ. 1コマ/シフトは算定の基礎としない。

ロ. 本科生分前年度の配分単価基礎額（1～2学年 6,000円・3～5学年 13,900円）にそれぞれの在籍学生数（1～2学年 426人・3～5学年 570人）をかけた額を配分対象科目の総時間（196.5時間）で除したものを時間当たりの配分単価（53,300円）とする。

（参考）

時間当たりの配分単価 $= 6,000円 \times 426人 + 13,900円 \times 570人 \div 196.5時間 = 53,300円$ （前年度52,800円）

② 専攻科生

専攻科の学生に特別研究を指導している教員の所属する学科に、専攻科学生数分を配分する。（配分単価 13,900円）

4. 校長裁量経費について

- (1) 機構本部から配分された予算額総額(1,015,173,147円)から教職員人件費(1,313,553,453円)・社任旅費(445,360円)・教育研究費(校長裁量経費を除く)(146,856,500円)・教育研究支援経費(30,437,000円)・一般管理費(71,746,462円)・非常勤講師等人件費(31,752,000円)・予備費(5,000,000円)・電子ジャーナル等コンソーシアム学科等負担金(△1,644,128円)及び留学生経費配分留保額(1,524,000円)を差し引いた金額(16,502,000円)を校長裁量経費として配分する。
- (2) 校長裁量経費については、別途定める。

資料10-2-③-2

校長裁量経費(第1次公募)募集要項

平成18年7月26日

下記重点項目について、校長裁量経費(第1次公募)の配分を必要とする場合は、別紙「校長裁量経費(第1次公募)要求書」を総務課財務企画係へ提出して下さい。

記

1. 重点項目

- ① 創造性教育の推進
PBL教育の開発・甲斐、新しいカリキュラムの企画・準備
- ② 自学自習の環境整備
- ③ 人件費削減に対応した学務事務等の効率化
- ④ 新規の志願者対策

2. 要求書の様式

別紙のとおり

3. 提出期限

平成18年8月25日(金)

(出典 総務課資料)

資料10-2-③-3

平成18年度 校長裁量経費(第1次公募)採択一覧表

平成18年10月25日作成

コード番号	事項番号	学 科 等 名	研 究 題 目	要 求 額 (千円)	主たる担当者	査定 (千円)
2006401	③	学 生	副教務事務システム改善	1,440	岡山 司 清水 智宏 茂木 豊夫	1,440
2006402	②	奨励委員会・情報教育センター	学業ネットワークの推進L.A N受付環境整備	3,770	堀野 修 伊月 定之 栗原 越武 占部 弘治	1,770
2006403	②	奨励委員会	学業の自学自習の環境整備	1,000	堀野 修 — —	1,000
合 計				4,225		4,235

1. 重点項目

- ① 創造性教育の推進
PBL教育の開発・甲斐、新しいカリキュラムの企画・準備
- ② 自学自習の環境整備
- ③ 人件費削減に対応した学務事務等の効率化
- ④ 新規の志願者対策

(出典 総務課資料)

共同研究推進費募集要項

平成18年 7 月 26日

学内教職員の参加する学内共同研究各プロジェクトについて、下記基本枠費を基本
枠費の上乗分しますので、配分を必要とする場合は別添「共同研究推進費要項書」を総務
課財政企画係へ提出してください。

なお、外研資金が伴われた場合、当該する部分については別家外となります。

記

1. 重点事項 (配分金額1件当たり20万～50万円)

- ① 今年度科研費で申請予定のもので、前年度の審査評価が高いなど採択可能性の高い学内共同研究
- ② 技術相談に基づく可能性取組
- ③ 現代GPの申請準備のための共同研究
- ④ 自学自習教材の開発のための学外共同研究

2. 要項書の様式

別添のとおり

3. 提出期限

平成18年 8 月 25日 (金)

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-5

平成18年度 共同研究推進費採択一覧表

平成18年9月8日作成

コード番号	学 科 等 名	研 究 題 目	要 求 額 (千円)	主たる担当者	查 定 (千円)
2006101	機 械 工 学 科	傾斜した回転運動部分を持つ機械の振動に関する研究	500	鎌田 慶彦 岡本 将広	500
2006102	電 気 情 報 工 学 科	水害防止用検知・通報システム	500	平野 雅嗣 先山 卓朗 皆本 佳計	500
2006103	生 物 応 用 化 学 科	高付加価値機能を有する食品の研究と応用	500	牧 慎也 早瀬 伸樹 山本 喜彦 松本 敏一	500
2006104	一 般 教 養 科	多読指導のためのグレイデイド・リーダーズ活用の試み	500	佐渡 一邦 塚野 修 鴻上 政明 尾崎 司郎 野村真穂子	500
合 計			2,000		2,000

注) 機械工学科の学外担当者は、岡本 将広 (株式会社マルヤス)
生物応用化学科の学外担当者は、山本 喜彦 (東予国共農業組合)・松本 敏一 (鳥取県農業試験場)

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-6

教育研究基盤設備整備推進費募集要項

平成18年 7 月 26 日

1. 主 旨

各学科・科及び高度技術教育研究センターの実験・実習については、毎年度「学校運営目標・計画」に基づいて実施され、成果に則した点検・評価が行われております。現在の実験・実習に使用されている基盤的設備については、非常に長期間使用されているものが見受けられますが、時代に合った実験・実習教育を行っていくためには、「学校運営目標・計画」に基づいた現有設備の現状把握と今後の教育方法の改善に配慮した基盤的設備の整備（更新）を推進していく必要があります。

2. 応募要領

当該推進費を配分していく上で、別添「教育研究基盤設備整備（更新）計画」及び「平成18年度教育研究基盤設備整備推進費要求書」を総務課財務企画係に提出頂き、緊急度等提出内容を検討し配分を行うこととします。

3. 提 出 期 限

平成18年 8 月 25 日 (金)

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-7

平成18年度 教育研究基盤設備整備推進費要求一覧表

平成18年9月27日作成

コード番号	学 科 等 名	既存設備名	—	取得年	取得価額 (千円)	主たる担当者	査 定
		更新設備名	更新設備内訳	—	要求金額 (千円)		
2006301	電気情報工学科	各種電動機実験セット	—	昭和39年 他	1,300	皆本 佳計 王 成	820
		各種電動機実験 セット改修費	—	—	1,570		
2006302	電子制御工学科	オシロスコープおよびCR発振器	—	昭和39年 他	2,890	出口 幹雄	4,180
		デジタルオシロスコープおよびファンクションジェネレータ	デジタルオシロスコープ インタフェースモジュール ファンクションジェネレータ	—	4,180		
合 計				既存設備分	4,190		5,000
				更新設備分	5,750		

注) 電気情報工学科不足分 750千円は、校長裁量経費で配分

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-8

ものづくり教育推進費募集要項

平成18年7月26日

各学科等の本場研究・特別研究及び小中学生向け科学教育教材の開発・製作について、下記要件を踏まえて審査の上配分しますので、下記事項にご留意の上卒業・特別研究テーマ等を選定し、別紙「ものづくり教育推進費要求書」を総務課財務企画係へ提出してください。

記

1. 重点事項 (配分金額1件当たり15万～30万円)

- ① 卒業研究・特別研究の成果としての製作物で、高専の学生の技術力やアイデアを表すものとして広報に活用可能なもの
- ② 小中学生向け科学教育教材の開発・製作と活用

2. 要求書の様式

別添のとおり

3. 提出期限

平成18年8月25日(金)

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-9

平成18年度 ものづくり教育推進経費要求一覧表

平成18年9月15日作成

コード番号	学 科 等 名	卒業研究・特別研究等テーマ名	要 求 額 (千円)	指導教員名	学生氏名	定 額 (千円)
2006201	電気情報工学科	エコ小型夜間照明システムの開発	270	王 欣	鈴木 祐輝	270
2006202	電子制御工学科	光センサーレミンおよび自動演奏楽器の作製	300	出口 幹雄	井手 理志 近藤愛由美 日野 由喜 リム	300
2006203	生産工学専攻	手作り飛行機の安定飛行に関する研究	200	松田 雄二 谷藤 充浩	阿部 伸也 田中 大樹 松本 和広 他4名学生	200
2006204	教務委員会(体験学習WG)	イベント参加用ロボットの作製	250	松友 真哉	ロボット研究会を中心とするメンバー	230
合 計			1,020			1,000

(出典 総務課資料)

資料10-2-③-10

平成18年度 研究計画調書

									平成	年	月	日
学 科 名		職 名		氏 名								
テ ー マ 名												
研 究 目 的												
研 究 計 画 ・ 方 法 ・ 概 要												
研 究 の 教 育 へ の フ ィ ー ド バ ッ ク												
地 域 と の 連 携												

注) 研究業績が掲載されている「平成17年度国立新居浜工業高等専門学校年間業績報告」の該当ページのコピーを添付してください(原稿段階のものでも可)。

平成18年度の具体的な研究計画	内 容										
	外 部 資 金										
	研究成果の発表予定										
卒業研究・特別研究のテーマ名	(卒業研究)										
	(特別研究)										
区 分	機 械	電 気	電 子	材 料	数 理	一 般	総 合 評 価				
計 画 評 価											
備 考											

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-11

様式 2 業務努力目標及び自己評価記入表 (平成 年度)

所属・職名 _____
氏 名 _____

	重点業務努力目標	具体的な活動	評価
教育活動 (FDを含む。)	(1)学習指導		
	(2)課外活動指導		
	(3)学生生活指導		
	(4)FD活動		
研究活動	(1)教育へのフィードバック		
	(2)地域ニーズへの対応		
学校運営参画			
社会貢献	(1)産学連携活動		
	(2)生涯学習・教育支援活動		

- 備考 1 業務努力目標は、事項ごとに整理し、簡潔に記入すること。
- 2 具体的な活動の欄には、年度当初にあつては活動プランを、年度末の報告にあつては活動実績のうち特記すべき内容を記載すること。
- 3 評価欄には、当該年度末において業務努力目標事項ごとに、次の3段階で評価すること。
- A・・・達成できた。
 - B・・・ほぼ達成できた。
 - C・・・達成できなかった。

(出典 総務課人事係資料)

教育業績自己申告書

平成 年度

所属・職名

業績評価項目	自己申告事項	備考
<p>1 教育活動（FDを含む。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 受け持ち科目及び授業時間数（講義・演習，実験実習，卒業研究・特別研究別） ② 特別な学習支援（補習，受験指導等） ② 学生への研究指導（卒業研究及び特別研究の担当学生数並びにその学生の学会発表などの顕著な成果等） ④ 学級担任 ⑤ アドバイザー ⑥ 学生相談 ⑦ 留学生指導 ⑧ 課外活動指導(クラブ名，チャレンジプロジェクト名，校外引率回数，顕著な活動実績など) ⑨ 学生会活動指導 ⑩ 寮生会活動指導 ⑪ 各種コンテスト参加指導(コンテスト名，成績など) ⑫ 教科書作成・教材開発 ⑬ 教育への新たな取組み(教育機器の活用等) ⑭ 若手教員・技術職員への教育指導 ⑮ 公開授業・研究授業の実施，授業評価活動への参加 ⑯※教育改善・教育実践に関する論文(査読の有無・第一著者，共著者，翻訳の別) ⑰ 教育改善に関する研究集会・研修会での発表，参加 ⑱ 教育活動，教育改善論文に関する受賞 ⑲ 学校内FD活動の担当 ⑳ その他業績とすべき事項 <p style="text-align: center;">()</p> <p>(※の項目は，「年間業績報告」に掲載された業績)</p>		

平成18年度

所属・職名

業績評価項目	自己申告事項	備考
<p>2 研究活動</p> <p>① 学位取得</p> <p>② 職務内容に関する資格取得・能力証明(技術士, TOEIC など)</p> <p>③ 科学研究費補助金・競争的研究資金の申請状況(代表者, 分担者別)</p> <p>④ 科学研究費補助金・競争的研究資金の採択状況, 金額 (代表者, 分担者別)</p> <p>⑤※研究論文数 (査読あり) (第一著者, 共著者別)</p> <p>⑥※著書数 (単著, 第一著者, 共著者, 翻訳別)</p> <p>⑦※研究論文数 (査読なし) (第一著書, 共著書別)</p> <p>⑧※報告書等数 (科研費等の研究成果)</p> <p>⑨※研究発表数 (国外・国内別)</p> <p>⑩※特許 (出願・登録)</p> <p>⑪ 共同研究, 受託研究, 奨学寄付金・委任経理金(件数, 金額)</p> <p>⑫ 学会の委員等</p> <p>⑬ 学会等における受賞</p> <p>⑭ 在外研究活動</p> <p>⑮ 国内留学</p> <p>⑯ センターテーマ等プロジェクト研究への参加</p> <p>⑰ 学外研究チームへの参画</p> <p>⑱ その他業績とすべき事項 ()</p> <p>(※の項目は, 「年間業績報告」に掲載された業績)</p> <p>3 学校運営参画</p> <p>① 主事, 専攻科長, 校長補佐</p> <p>② 主事補</p> <p>③ 学科・科・専攻科の主任・副主任</p> <p>④ 学内共同利用施設等の長・副センター長</p> <p>⑤ 各種委員会(委員長・副委員長・委員)</p> <p>⑥ 推進室(室長・室員)</p> <p>⑦ 専門部会・WG等(チーフ・メンバー)</p>		

平成18年度	所属・職名	
業績評価項目	自己申告事項	備考
<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 学校訪問・学校説明会への参画 ⑨ 企業訪問等進路開拓 ⑩ オープンスクールへの参画 ⑪ 体験学習の企画、運営 ⑫ メディア等による本校PR活動等 ⑬ 広報活動への参画 ⑭ その他業績とすべき事項 () <p>4 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 県・市の各種委員会委員 ② 地域産業界等の委員 ③ 地場産業の育成(技術相談員・アドバイザー等) ④ 産業界との共同研究(テーマ, 成果) ⑤ 産業界からの受託研究(テーマ, 成果) ⑥ 技術相談 (件数) ⑦ 各種産官学交流会, 工業技術懇談会での発表等 ⑧ 地域との研究会・懇話会への参加 ⑨ 公開講座(企画運営・講師)・出前講座 ⑩ 生涯学習・市民大学への協力(運営参画・指導) ⑪ 専門を生かした奉仕活動への参加 ⑫ 地方公共団体, 学会等主催の各種研修会の講師等指導 ⑬ 国際協力事業への参加 ⑭ その他業績とすべき事項 () <p>5 その他, 上記分野に該当しないもので, 業績として特記すべき事項</p>		

(出典 総務課資料)

資料 10-2-③-13

収容施設についての整備状況

(イ) 機械工学科棟	延面積 3,321㎡ 建築年 昭和41年 大規模改修 平成6年、12年 R3階
教室等 24	機械工学科 実験・実習室 (演習室含む) 13 準備室 1 数理科 実験・実習室 2 化学・物理準備室 3 特別教室 1 (階段教室) 普通教室 4
教員研究室 16	機械工学科教員研究室10 学科事務室 1 数理科教員研究室 5
教育研究支援室 12	J A B E E 関係資料室 1 後援会事務室 1 教職員連絡コーナー 2 女子更衣室 1 男子トイレ 4 女子トイレ 1 多機能トイレ 1 情報教育センター 1 (第2演習室)

(ロ) 管理・電気情報工学科棟	延面積 3,407㎡ 建築年 昭和40, 41年 大規模改修 平成5年、6年 R3階
教室等 14	電気情報工学科 実験・実習13 LL教室1
教員研究室等 22	電気情報工学科 教員研究室10 共同教員室1 一般教養科 教員・研究室10 一般科目ゼミナール室1
事務室 12	校長室1 部長室1 事務控室等4 総務課4 事務電算室1 職員控室1 準備室1
教育研究支援室 16	会議室1 男子更衣室1 女子更衣室1 シャワー室2 男子トイレ 女子トイレ2 印刷室1 物品庫1 倉庫2 情報教育センター1 (第3演習室)
(ハ) 一般教室棟	延面積 1,793㎡ 建築年 昭和38, 39年 大規模改修 平成6年, 12年 R3階
教室等 9	普通教室8 留学生交流室1
一般教養科教員研究室等 2	教員研究室2
数理科教員研究室等 5	教員研究室4 数理科事務室1
教育研究支援室 7	会議室2 男子トイレ2 女子トイレ1 多機能トイレ1 更衣室1
(二) 電子制御工学科棟	延面積 2,286㎡ 建築年 平成2年 R5階
教室等 19	実験・実習室10 準備室1 機材室1 ゼミナール室2 普通教室5
電子制御工学科教員研究室等 12	教員研究室10 事務室1 技術員室1
教育研究支援室 12	男子トイレ5 女子トイレ3 多機能トイレ1 女子更衣室1 情報教育センター1 (CAD実習室・第4演習室) ラウンジ1
(ホ) 生物応用化学科棟	延面積 2,644㎡ 建築年 平成12年 R5階
教室等 24	実験・実習室9 卒業研究室6 実験準備室1 普通教室3 高度技術教育研究センター・実験室5
教員・研究室等 13	教員・研究室11 資料ゼミナール室1 管理室1
教育研究支援室 18	リフレッシュラウンジ3 高度技術教育研究センター・ラウンジ1 男子トイレ5 女子トイレ5 多機能トイレ1 男子更衣室1 女子更衣室1 倉庫1
(ヘ) 材料工学科棟	延面積 2,316㎡ 建築年 昭和42年 大規模改修 平成6年, 11年, 12年 R3階
教室等 22	実験・実習室16 材料準備室1 普通教室4 アイデア通り工房1
材料工学科教員・研究室等 12	教員・研究室10 事務室1 器材室(事務室)1
一般教養科教員・研究室等 3	教員・研究室3
教育研究支援室 9	多目的室1 学生会室1 男子更衣室1 女子更衣室1 男子トイレ3 女子トイレ1 キャリア教育プラザ1
(ト) 専攻科棟	延面積 1,223㎡ 建築年 平成6年 R4階
教室等 14	実験・実習室9 ゼミナール室2 講義室2 情報教育センター・AV室1
教員研究室等 9	教員研究室8 事務室1
教育研究支援室 7	男子トイレ1 女子トイレ1 多機能トイレ1 女子更衣室1 専攻科学生室1 手洗いコーナー1 倉庫1
(チ) 合併教室棟	延面積 660㎡ 建築年 昭和55年 R3階
教室等 6	多目的教室4 (コース別教室1, 専攻科系教室1, 美術系教室1, 製図系教室1) 普通教室1 生物応用化学科機材室1
事務室 1	総務課技術室兼リエゾンルーム1

③ 附属施設

- (イ) 機械実習工場 延面積 648㎡ 建築年 昭和41年 S1階
大規模改修 昭和61年
教室等 8 実験実習室4 実習控室2、器材室1 アイデア通り工房1
- (ロ) 材料実習工場 延面積 397㎡ 建築年 昭和53年 S1階
実験実習室6
- (ハ) 高度技術教育研究センター別館
延面積 325㎡ 建築年 昭和54年 R1階
大規模改修 平成16年
研究室等 4 実験エリア3 実験室1
教育研究支援室 1 コミュニケーションスペース1
- (ニ) 情報教育センター 延面積 307㎡ 建築年 昭和47年 R1階
教室等 2 演習室1 ネットワーク基幹室1
教員研究室等 4 教員研究室3 資料室1
教育研究支援室 1 共用スペース1
- (ホ) 体育施設
- (い) 屋内体育施設
- 第1体育館 延面積 990㎡ 建築年 昭和40年 S1階
大規模改修 昭和61年、平成19年
教室等 1 体育室1
教育支援室 6 トレーニング室1 器具室1 控室1 シャワー室1
男子トイレ1 女子トイレ1
- 第2体育館 延面積 879㎡ 建築年 昭和55年 S1階
大規模改修 平成19年
教室等 1 体育室1
教育支援室 4 器具庫1 控室1、シャワー室1 男子トイレ1
- 武道場 延面積 325㎡ 建築年 昭和41年 S1階
教室等 2 剣道場1 柔道場1
教員室等 1 教員室1
教育支援室 3 更衣室1 シャワー室1 男子トイレ1
- 弓道場 延面積 105㎡ 建築年 昭和48年 B1階
射場 1 射場1
その他 5 師範席1 道具入1 的場1 鑑的場1 矢取場1
- (ろ) 屋外体育施設
- 運動場 1 面積 27,628㎡
- 屋外運動場
附属施設 延面積 85㎡ 建築年 昭和40,46年 R1、B1階
器具室5 第1体育館併設
- (へ) 図書館棟 延面積 1,650㎡ 建築年 昭和45年 R2階
大規模改修年平成4年
教室等 6 閲覧室等4 情報教育センター・視聴覚教室2
事務室 8 学生課8
教育研究支援室 7 談話室1 男子トイレ1 女子トイレ1 多機能トイレ1

(出典 平成18年度施設実態報告建物平面図)

(分析結果とその根拠理由)

校長裁量経費や共同研究推進費，教育研究基盤設備推進，ものづくり教育推進費の配分は重点テーマを設定し，公募を行っている。教員研究費は業績評価を行うことによって適切な資源の配分がなされている。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構全体の決算報告及び公表は機構本部が行う。また，年度決算に伴う財務諸表等関係書類は，総務課で閲覧できるよう備えている。

(分析結果とその根拠理由)

財務諸表等関係書類は高専機構本部がホームページで公表している。

観点10-3-②： 財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

会計監査については，平成17年度に財務に関する独立行政法人国立高等専門学校機構本部による監査を実施し，平成18年度は四国地区高専間監査で弓削商船高専との相互監査を受検した（資料10-3-②-1，資料10-3-②-2，資料10-3-②-3）。また，学内監査は規程に基づいて毎年実施している（資料10-3-②-4，資料10-3-②-5）。

資料10-3-②-1

平成17年度機構監査通知

高機財第63号
平成18年1月10日

新居浜工業高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長 河野 伊一郎
(公印省略)

平成17年度会計監査について(通知)

平成17年度会計監査を、下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

1 監査の項目

- (1) 会計事務処理の実施状況について
 - (2) 内部監査の実施状況について
 - (3) 入試業務等の実施状況について
- (注) 監査の実施状況により監査項目は追加することがあります。

2 監査の実施時期

平成18年2月1日(水)～3日(金)

3 監査の従事者

総務課長 田中 久仁彦
企画課企画第二係長 木田 伸也



- 1 -

(出典 総務課資料)

平成17年度監事監査及び会計監査（平成18年2月1日～3日）講評内容

日時 平成18年2月3日（金） 11:30～12:10

場所 職員連絡コーナー（南）

講評者 国立高専機構 漆館監事、田中総務課長、木田企画課企画第2係長

本校出席者 校長、事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、会計課係長

【 内 容 】

（監 事）

監事監査については、毎年度どういう監査を行うかということで監査計画を作る決まりになっており、今年度は5項目を掲げて調査を行っている。

- ・ 役務契約の実施状況
- ・ 外部資金の導入状況及び地域共同テクノセンターの使用状況
- ・ 情報処理機器の賃貸借及び回線使用料の状況
- ・ 入試業務の実施状況
- ・ 特殊廃棄物（PCB、アスベスト）の管理状況

今回の監査では、役務契約、情報処理関係の調達状況・回線使用料は監事が、外部資金関係は木田企画第2係長が、入試状況の関係及び特殊廃棄物の関係は田中総務課長が担当することとなっている。

1、役務契約の実施状況について（監事）

（1）電子複写機の調達、保守契約

電子複写機は14台あり、この調達については1台ずつ個別に調達しているが、額も小さいということもあり随意契約となっている

保守契約も複写機メーカーが決まればそのメーカーに契約をお願いせざるを得ないが、これも随意契約となっている。

しかし、昨今はこの複写機メーカーも性能の向上により、高専仕様に対応できる状況で、保守契約に限定しても年間の契約額が60万円程度にもなっており、一括契約すると随意契約の限度額200万円を超えることになり、将来的に切りのよい時期を選んでまとめて契約できないか検討頂きたい。

また、複写機購入と保守との両方込みで契約すると、競争性が発揮できるのではないかとされる。

契約時期が区々で、一括してまとめて解約するのが難しい状況ではあるが、まとめて契約することが必要ではないか。

複写機本体は買い取り方法となっているが賃貸借の方法もあり、どちらが経済的か、他の高専もみながら考えて頂きたい。

また、大きい話しにはなるが、55高専分となると大きい額となるが、場合によっては四国全体で契約し、将来的には本部で一括契約することも考えられる。他の独立法人も参考にして、一括契約、本部契約、管区契約等が最近なされているようであり、この点の状況も参考にしながら、可能であれば機構本部でも検討したいと考えている。

（2）エレベーター保守契約

こちらは5台のエレベーター保守契約があり、16年度、17年度に270万円の随意契約を行っている。

エレベーター保守契約については、従前では日立が設置すると日立に保守契約をせざるを得ないこととなっている。メーカー系の保守業者以外は部品を提供できないことになっており、メーカー系の保守業者と保守契約をせざるを得ない状況であった。

最近、公正取引委員会からメーカー系でない独立系保守業者への部品の供給を制限する行為は独禁法違反とされるようになり、メーカー系以外の保守業者でも保守契約が可能となった。

保守契約額が200万円を超えて随意契約を満たすものではなく、競争契約の対象となっており、経費節減の観点から独立系保守業者も含めた競争契約を実施して頂きたい。

(3) 学寮給食契約

16, 17年度競争で1円契約を行っているが、特に問題ではない。

文科省、機構本部で1円契約の実態調査を実施したが、調査の主旨を誤解して1円入札はまずいとして、一般競争入札を中止し随意契約を行っている高専がある。

結果的に100万円から200万円で契約している高専がある。

こちらは1円契約ということであるが、契約の内容をみると材料費、人件費、光熱水費は寮生が負担し、厨房機器は高専の備品を無償貸与という形になっており、巷間指摘されているようなソフト開発の1円入札とは異なり、所要経費はその度に支払われている。この点からすれば、仕様を適切に指示すれば1円契約でも問題はないものと思われる。このまま続けてよい。

(4) 情報処理機器の調達、賃貸借及び回線使用料

パソコン・電子計算機システムについては、教育用のものとして97台分が随意契約で年間680万円で賃貸借されており、事務用としてはサーバ3台、電子端末として18台年間400万円で賃貸借している。

このほかに買い取っているものとして、教員用、事務用として10万円以上のパソコンに限定して、16年度55台、17年度昨年12月末現在で14台を個別に調達をしており、随意契約となっている。

随意契約となっている理由として、1個1個購入するため金額的に小さいことと、教員の依頼により、特殊機種に指定されており、その機種でないといけないとして、随意契約となっている。

しかし、仕様呈示して、CPUの能力とか記憶容量を指定すれば、必ずしも特定メーカーにお願いする必要はないわけであり、調達計画を建てて年間まとめて購入するか、最低でも見積もり合わせ、できれば競争契約ができないか。

事務用パソコンの今後については、レンタル契約に代えるような話しを聞いており、レンタルにすると当然まとめてレンタルするから当然競争契約となる。

競争性の確保の観点からすれば、レンタルにするのは1歩前進ではないかと考えられる。

レンタルと買い取りとどちらがよいか、市場価格の動勢をみながら考えていく必要がある。

技術的な話しになるが、賃貸借契約の物品というのは教育用の電算機、事務用の電算機にしても、財務諸表の計上については2通りの方法がある。

1つは損益計算書での毎月毎月のレンタル料を損失として計上する場合。

計算機を買ったんだとして毎月毎月割賦で払っていく場合、資産計上を行っている。

本校は資産計上なされており、正しい取扱いである。

有形固定資産に計上すると貸借対照表上、長期末払金計上になるが、未払金にすると支払いできなくなるシステムになっている。実際は賃貸借料として費用計上して支払っているという工夫をしているが、今後も慎重に処理して頂きたい。

(5) ギガビットキャンパスネットワーク保守契約

16年度、17年度ともに年間270万円程で契約している。

高専機構の話しを聞いてみると、いろいろな高専で保守費が異なっていて、不都合が起こったとき保守依頼する一スポット契約と称しているが、このスポット契約をしていても、結果的に16, 17年度ともに保守費が0という高専もあり、当高専のように270万円で契約しているところもあり、また400~500万円かけて保守契約を行っている高専もあり、どの程度の契約が適正なのか判断の迷うところである。いろいろな高専で違いがあり、どのへんがいいのか検討してみたい。

こちらの高専では保守の実績の記録がない。どういう保守を行ったのか記録に留めておく必要がある。保守状況によっては今後の価格交渉に有利に働くのではないかと考えられる。

年2, 3回しか保守に来ていないのであれば、こんなに金が必要なのかということになる。保守実績の記録整備はお願いしたい。

大きい話しになるが、ギガビットネットワークは各高専に設置しており、これらの機器、ウェブ用サーバとかメール用サーバファイナサーバはどこかに共用する、機構本部でもよいが、特定の箇所にサーバを設置し利用すると、保守契約においてもスケールメリットを活かした設計ができる。ネットワークの設計についてもいい方法がないか検討したい。

(6) 学術情報ネットワークの接続経費

高専と愛媛大学とを結ぶ6メガビットの専用回線、ネットワーク接続経費として、月額80万円、年額900万円以上の契約をしているが、平成14年度3月に2社、「四国情報通信ネットワーク」と「日本電気」であるが、見積もり合わせに基づき「四国情報通信ネットワーク」と随意契約をしている。契約期間については長期割引の適用を受けたいとして、平成14年から19年の6年間という大変長期の契約を行っている。他の通信業者・NTTとか四国電力、他の2種通信業者を入れて競争契約すべきではないのか。

規制緩和、技術開発の進展により毎年毎年通信料が安くなっている状況で、長期割引ということで6年間の回線使用料が固定化している。場合によっては1年間の契約の方が毎年毎年安くなっているの、1年ごとの新規契約の方がいいのではないのか。

6年間の契約をしているが、四国通信と相談して2年続けるので安くできないか交渉するのもいいのではないのか。

各高専でみると、月額80万円ではなく20万円前後で契約しているというのが感想であり、もう少し検討頂きたい。

2、外部資金の導入状況及び高度技術教育研究センターの使用状況（木田企画第2係長）

(1) 外部資金の導入状況

受託研究、共同研究、寄附金の導入状況については、16年度に比べて件数、金額ともに増えていた。

これは、新居浜高専の教育振興を図るものとして、17年7月に設立された「新居浜高専技術振興協会」通称「愛テクフォーラム」の目的活動の状況に起因していると思慮される。

今後ともますます期待が高まるものと思われる。

科学研究費補助金の申請件数については、15年度37件、16年度30件、17年度27件と他高専と比べて多いとは言えない状況である。

申請件数については、高専の独自の努力によって増加が図れるものであるので、教員の申請意志を高めるよう不断の関与をお願いしたい。

採択件数についても、15年度7件、16年度6件、17年度4件と多くない状況

である。採択については、申請内容の記述の仕方にも左右されるので、そのためのガイダンスの開催をされているようであるが、更なる充実をお願いしたい。

(2) 外部資金導入の取組み状況

高度技術教育研究センターが中心となり、公開講座、出前講座、工業技術に関連した懇談会、技術相談等多数活発な活動が実施されている。その際、研究者シーズのPRについては、ホームページ上の掲載が主になされているところであるが、シーズ集として教員1人当たりの具体的な研究内容を紹介した冊子などを作成するなどして、更なる充実をお願いしたい。

産学連携、地域連携を推進していくうえで、ますます高度技術教育研究センターの役割が大きくなっていくと思慮される場所であるが、現在窓口が庶務課専門職員が中心となって行っている。更なる推進を行っていく上では、産学連携室のような新組織をつくるなど、要員の問題もあるが、組織的バックアップが必要である。

(3) 高度技術教育研究センターの使用状況

受託研究、共同研究、他の使用や企業との技術相談、他の研究など相当程度件数があがっていると思われる。これは10年前から開催されている地元企業との技術懇談会などに代表されるような産学連携、地域連携の推進が活発に行われてい成果であると考えられ、高専の模範となるべきものと思われ、引き続き推進をお願いしたい。

企業との共同研究を課題テーマに取り上げた専攻科の特別研究にも使用されているが、更に推進するとともに、学生の卒業、特別研究の課題を企業に募って実施するなどすれば、更に企業との研究が深まるものと考えられる。

3、入学者選抜業務の実施状況及び保管 PCB の含有機器の状況 (田中総務課長)

(1) 入学者選抜検査の実施状況

学力検査採点業務や合否判定、入出力データのチェック体制であるが、実施体制としては、教務委員会、また合否判定会議等により、教員と職員がそれぞれその役割を担うなどして責任を果たされている。

コンピュータのシステムについて、過去にはコボル言語による事務システムが用いられていたところ見直し検討されて、新たに教務事務のキャンパスアシストが導入・開発され17年度から稼働し、その出力結果を更にエクセルを活用して採点結果等の照合を行うように措置されているということで、新たな取り組みも進められているところが確認できた。

また、一方入学者選抜業務の改善がなされており、18年度入学者選抜において入試業務の実施手順・業務フロー、及び点検票が作られており、教務主事によって作成されたものが教務委員会での実務指針として認定されたと伺っている。

一連の作業に対して、最低2回以上のチェック、複数人による処理をされるのであり、それぞれの業務において点検表による点検項目が明確になっており、責任者も明確になる形で進められているということではないか。

合否判定の会議資料にまた再度判定結果のチェックを直ちに行っている。

判定基準について、複数学科の総合点が変わらないようになっていて、比較的に分かり易い形になっておりそれでよいのではないかとと思われる。

新たな仕組みを構築していくということであり、間もなく入試が迫っているが、これについては担当者レベルの打合せが重要なことではないかと思われる。

統一学力検査問題以外の試験問題の作成—予備問題の作成については、高松、阿南、高知の他の3高専との協力で作られている。各試験科目毎に4高専から1～2名の先生が選ばれて、各科目区分の責任校を明確にする形で共同作成されている。作成に当

たつて、通知文書で担当者が明確になってなされている。

しかし、試験問題を作成するに当たって、共通認識を図るような具体の作成要領が用意されていない。ここのところは、共通認識をもてるようなものを作られてはどうか。

事務職員、教員に対する入試業務の説明会が大事となってくるが、基本的な実施要綱、ガイドライン、担当者マニュアルについては、最低限の文書が整備されていると思われる。

18年度の入学者選抜に向けては、既に推薦入試のものは終わられており、事前の面接員の打合せを行う等対策がおこなわれている。

2月以降も監督官の打合せ、採点者、事務職員との打合せ等予定されており、十分な打合せを行うこととしている。

昨年の入学者選抜の事前の打ち合わせ資料を拝見したところ、基本的に当日の試験終了までの資料が基本になっている。これから行われる入試に当たっての打合せには、各担当者において自分の役割等が明確になるような形で、説明会や打合せを行えたらよいのではないかと考える。

学力検査問題の保管体制については、学生課に隣接している金庫室がある。ダイヤルとキーにより対応する第1扉とその内側に第2扉があり、キーで開ける金庫が置かれている。第2扉キーは学生課長が持ち、第1扉キーとダイヤル番号は係長が持っている。また開閉につきましては、それに主事、主事補が加わって4名体制で開閉が行われている。また他の者は開閉できないですが、警報が鳴るシステムとなっている。夜間についても国際警備に委託して、夜間警備がなされており、十分な体制であると思われる。

不測の事態に対しても、緊急の連絡図を用意している。

入試業務における個人情報の保護の体制についても、募集要項を拝見すると個人情報の入試業務以外の利用について、予め志願者保護システムが働くようになっており十分ではないかと考えられる。

(2) 保管PCB含有機器について

現場を確認して、まず表示ですが、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条」に定める特別管理産業廃棄物保管基準に明確なように、縦横60cm以上の掲示板を目立つ所に貼って、PCBの種類、管理者の氏名、連絡先、の事項を表示することとなっているが、拝見したところ縦横60cm以上となっていない、管理者の連絡先が書かれていないので、速やかに張り替えて改善して頂きたい。

中身をみて、専用の容器で密閉した、流失防止のための容器・トレイを設置しているということで、対応はなされている。ただし、変圧器1台が非常に強固のもので重量も200kgもあるということで、何も対策がなされていない。現物を拝見したところ表面に液状のものが見られたので、これがPCBであるか不明であるが、何らかの対応は必要と思われる。

毎年報告している県への報告であるが、調査項目の中で「囲い等の有無」のところが年によって考え方の違いによってか、有りとしている場合と無しとしている場合があり、県に確認して頂くように思う。

今年度は昨年の6月に県庁に報告したところであるが、その後新たに報告対象となる変圧器が2台発見されると伺って、現物もみさせてもらって先ほどのような沁みもあることで、1月末には特に漏れのなかったコンデンサー1台にも、容器内での漏れが確認されるという状況の変化も見られるので、県の方とも連絡をとりながら引き続き適切な管理をお願いしたい。

管理者責任について、施設係長と県にも報告しているが、その任命についての法的根拠が廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第6項に規定する「特別管理産業廃棄物管理責任者」ということで示されているところであるが、どのような項目に対応して任命されているか、不明確であり、他の高専の事例とも確認しつつ一般的には高専の先生が就任されるのではないかと、ここは定かでないが、明確になった時点でよいのでその時点でどの者が任命されるのか明確にされなければならないので、検討されたい。

管理体制、記録の整備がなされていない。体制—仕組みといったもので何かしら指示があった場合や何かの事件があった際に確認するということになっているのではないか。

この年間においてもこのような変化がみられることもあり、定期的な検査をする仕組みを設けて頂いて、過去からPCBの確認が行われているわけであるが、記録簿自体が整理されていないので、記録簿の整理も検討する必要がある。

今後の処理計画は、県庁の方で作成することになっているが、作成の確認—県の対応が遅れているのでこのままの状況であるが、進捗状況を確認して県の方で計画が決まったら本校において速やかにそれに基づく処理計画の策定を検討頂きたい。

アスベストについては、昭和60年度に蛍雪、青雲を、昭和61年度に向陽、清風で撤去が行われて、間をおいて平成12年度に既に取り壊されているが、生活排水処理施設にあったアスベストを撤去され、現在のところ全施設において使用されていないとなっている。

確認作業において、過去からの書類による記録が残されていない、昨年あらためて係長が調査した時も、全ての図面を調査する形で作業を行っている。書類により確認したとの記録を残す必要がある。昨年度の調査で一部アスベストではないかと思われるものがいくつか見られたということであるが、業者との確認でアスベストではないものと確認されたということであり、PCBも同様、確認を行うことが重要ではないか。

(出典 総務課資料)

資料10-3-②-3

平成18年12月14日

新居浜工業高等専門学校事務部長 殿

弓削商船高等専門学校

会計課用度係長 野曾 康史

会計課用度係員 長曾我部 昭寿



平成18年度相互会計監査の監査結果報告について

標記のことについて、別紙のとおり監査した結果、適正に執行されていたことを報告いたします。

四 国 6 高 専 相 互 監 査 事 項 一 覧

宿舎規則	・宿舎選考基準の有無	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	11条	委任事項
	・宿舎貸与の申請及び承認手続き状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	14条	委任事項
	・明渡書宿舎の有無及び措置状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	19条・20条	委任事項
	・宿舎選取記録の備付の有無及びその状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	23条	委任事項
会計規則	・総勘定元帳等の整理状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	13条・会計事務取扱規則第8条	
	・総勘定元帳及び補助簿における関係勘定科目の残高との照合	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	14条	
	・予算実施計画の作成の有無	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	17条・会計事務取扱規則第10条	委任事項
	・予算実施計画に基づく契約担当役及び出納命令役への通知	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	18条	委任事項
	・預金口座又は貯金口座の名義(出納命令役)	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	19条	
	・収入金の収納即支払いへの充当の有無	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	23条	
	・収納金の払い込みに対する督促状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	24条・出納事務取扱規則第8条	
	・不慮償還の処理状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	25条・出納事務取扱規則第9条	
	・支払金の領収証書及びその他の証拠書類の徴収・整理状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	27条・会計事務取扱規則第7条	
	・前払いの適否(前払い可能な経費等)	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	28条・会計事務取扱規則第15条	
	・仮払いの適否(仮払い可能な経費等)	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	29条・会計事務取扱規則第16条	
	・固定資産の管理状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	31条	
	・契約方法の適否(一般競争・指名競争・随意契約)	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	32条～34条・契約取扱規則6条～14条	
・予定価格の適切な算定	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	36条・契約事務取扱規則16条～17条		
会計事務取扱規則	・事務の引継ぎの状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	3条	
	・科目等の訂正の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	14条	

出納事務取扱規則	・口座開設・廃止の手続き状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	3条	委任事項
	・現金・預金通帳等の保管状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	4条	
	・収入金の請求・徴収・収納場所の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	6条	
	・小切手の取扱状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	12条	
	・証憑書類の整理・保管状況(日付取・番号取)	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	18条	
不動産管理規則	・不動産の登記又は登録の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	13条	
	・不用の決定の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	15条	委任事項
	・不動産の貸付手続き状況(貸付目的・使用料算定等)	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	20条	委任事項
	・無償貸付の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	21条	
	・不動産の検査の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	25条	
物品管理規則	・固定資産台帳の整理状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	26条	
	・有償貸付の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	26条	
	・無償貸付の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	27条	
	・不用の決定の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	28条～30条	委任事項
	・資産管理台帳・物品管理台帳・図書管理台帳等の整理状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	32条	
契約事務取扱規則	・検査の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	35条	委任事項
	・見積書の徴収の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	18条	
	・入札の公告の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	19条	
	・検査証書の作成の状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	45条	
	・代金の支払の約定の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	54条	

大型設備の調達に係る仕様策定等に關する取扱規則	・仕様策定委員会の設置の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	3条	
	・仕様策定委員会の構成員の状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	5条	
機構選定期則	・委員の委嘱の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	6条	
	・委員会の設置の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	3条	
金庫管理規則	・委員会の構成員の状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	4条	
	・1号金庫の保管中の書類等の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	4条	
	・1号金庫の鍵の保管の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	5条	
	・手授金庫の鍵の保管の状況	[<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()]	6条	
	・金庫閉鎖点検確認簿の状況	[<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他()]	8条	

平成18年12月14日に同地区高専相互監査を実施した。

監査員

弓削商船高等専門学校

会計課 用度係長

会計課 用度係員

野首 康史
長管 敬 昭寿

(出典 総務課資料)

資料 10-3-②-4

新居浜工業高等専門学校会計実地監査規程

平成 16 年 8 月 25 日規程第 15 号

(趣旨)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における会計実地監査（以下「内部監査」という。）は、この規程の定めるところによる。

(基準)

第 2 条 内部監査は独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第 45 条の規定に基づき行うものとする。

(監査員)

第 3 条 内部監査に従事する職員（以下「監査員」という。）は、本校の総務課の職員のほか、必要に応じて総務課以外の職員のうちから校長がこれを命ずる。任命に関する通知は、「内部監査員発令簿」（別紙様式 1）を備え監査員となるべき者に、発令事項を確認の上押印させることにより行うものとする。

(内部監査の時期)

第 4 条 内部監査は、校長が指定する期日に毎会計年度 1 回行わなければならない。ただし、総務課職員の交替等により校長が必要があると認めるときは、臨時に行うことができる。

(内部監査実施の通知)

第 5 条 内部監査を実施しようとするときは、あらかじめ「内部監査実施通知書」（別紙様式 2）により内部監査の日時、監査員の氏名、その他必要事項を通知するものとする。

(内部監査する事項)

第 6 条 監査員は、次の各号に掲げる事項について、実地に監査しなければならない。

- (1) 会計経理に関する法令等の適用に関する事項
- (2) 事業計画、予算及び資金計画の執行に関する事項
- (3) 金銭等の出納保管に関する事項
- (4) 資金の需給及び管理に関する事項
- (5) 資産の取得、管理及び処分に関する事項
- (6) 決算報告書及び財務諸表の適否に関する事項
- (7) 帳簿及び証拠書類に関する事項
- (8) 契約に関する事項
- (9) 旅費に関する事項
- (10) 委任経理金、科学研究費等外部資金に関する事項
- (11) その他校長が必要と認める事項

(調書の提出等)

第 7 条 監査員は、帳簿及び証拠書類又は現場につき監査し、必要があるときは、担当職員に説明を求め又は調書を提出させることができる。

(内部監査の立会)

第 8 条 内部監査の際は、関係職員がこれに立会うものとする。

(内部監査結果の報告)

第 9 条 監査員は、内部監査を終えたときは、すみやかに「内部監査報告書」（別紙様式 3）を校長に提出しなければならない。

(監査事務)

第 10 条 内部監査に関する事務は、総務課財務企画係において処理する。

附 則

この規程は、平成 16 年 8 月 25 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。



(出典 総務課資料)

紙様式 3

内 部 監 査 報 告 書

平成 18 年 4 月 9 日

新居浜工業高等専門学校長 殿

監査員 越智美男  印
監査員 木原 晃 

会計事務内部監査の結果を下記のとおり
報告いたします。

記

- 1 監査対象 平成17年10月1日～平成18年3月31日
- 2 監査年月日 平成 18 年 4 月 9 日
- 3 監査事項とその概要 別紙のとおり

(別 紙)

監 査 事 項	監 査 の 概 要
(1) 会計経理に関する法令等の適用に関する事項	適切に管理執行されていた。
(2) 事業計画、予算及び資金計画の執行に関する事項	適切に管理執行されていた。
(3) 金銭等の出納保管に関する事項	適切に管理執行されていた。
(4) 資金の繰給及び管理に関する事項	適切に管理執行されていた。
(5) 資産の取得、管理及び処分に関する事項	適切に管理執行されていた。
(6) 決算報告書及び財務諸表の適否に関する事項	適切に管理執行されていた。
(7) 帳簿及び証拠書類に関する事項	適切に管理執行されていた。
(8) 契約に関する事項	適切に管理執行されていた。
(9) 旅費に関する事項	適切に管理執行されていた。
(10) 委任経理金、科学研究費等外部資金に関する事項	適切に管理執行されていた。
(11) その他、校長が必要と認める事項	なし

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

平成17年度に財務に関する機構監査の受検、平成18年度は四国地区高専間監査で、本校は弓削商船高専の相互監査を受検した。また、学内監査を毎年実施している。

このことから会計監査等は適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員の教育研究活動経費の配分において、各教員の研究計画及び教育業績について公開された評価方法で、校長・三主事・学科(科)主任による評価を行い、公正に能力別に予算配分を行っている。

(改善を要する点)

施設・設備・教育研究環境の長期整備計画を策定する必要があり、高松高専施設課と連携して平成19年度から策定を行う予定である。

(3) 基準10の自己評価の概要

学校の目的に沿った教育研究活動を遂行していくための資産(校舎・設備等)を有している。収入についても、運営費交付金及び自己収入である入学料、検定料及び授業料収入は安定しており、外部資金である共同研究・受託研究などの収入も増加傾向となっている。支出についても、年度当初に策定した予算書に従って適切に執行されている。

監査は、高専機構による監査や高専間相互監査、内部監査などにより適切に行われている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到係る状況)

本校は、校長がリーダーシップを発揮して管理運営を行っており、それを補佐する三主事（教務主事、学生主事、寮務主事）および専攻科長、図書館長、各センター長、学科主任などの役割と相互の関連を明確に定めている。（資料 11-1-①-1，資料 11-1-①-2）。

教務主事を中心とする教務委員会、学生主事を中心とする学生委員会、寮務主事を中心とする寮務委員会、専攻科長を中心とする専攻科教育委員会をはじめとする各委員会が設置され、諸問題についての検討が行われている。各委員会で検討された事項は運営会議で審議され、最終的な決定を校長が行っている（資料 11-1-①-3）。

資料 1 1 - 1 - ① - 1

新居浜工業高等専門学校教員等組織規程

平成 15 年 3 月 12 日規程第 8 号

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規程は、新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の組織体制を確立し、かつ、連絡を密にして、教育効果の向上を目的とする。

(定義)

第 2 条 この規程で教員とは、学校教育法第 70 条の 7 第 1 項及び新居浜工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 8 条第 1 項に定める校長、教授、助教授、講師、助教及び助手をいう。

第 2 章 副校長

(設置)

第 3 条 本校に、学則第 11 条の規定に基づき、副校長を置く。

(資格)

第 4 条 副校長は、教授をもって充てる。

(職務)

第 5 条 副校長は、校長の命を受け、校長を補佐する。

(任期)

第 6 条 副校長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第 3 章 教務主事、学生主事及び寮務主事

(設置)

第 7 条 本校に、学校教育法施行規則第 72 条の 3 第 1 項、第 2 項及び学則第 9 条の規定に基づき、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

(資格)

第 8 条 教務主事は、教授をもって、学生主事及び寮務主事は、教授又は准教授をもって充てる。

(職務)

第 9 条 教務主事、学生主事及び寮務主事の職務は、学則第 9 条第 2 項、第 3 項及び第 4 項に定めるところによる。

(任期)

第 10 条 教務主事、学生主事及び寮務主事の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第4章 専攻科長

(設置)

第11条 本校専攻科に、学則第37条の2に基づき、専攻科長を置く。

(資格)

第12条 専攻科長は、教授をもって充てる。

(職務)

第13条 専攻科長の職務は、学則第37条の2第2項に定めるところによる。

(任期)

第14条 専攻科長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 校長補佐

(設置)

第15条 本校に、学則第11条の規定に基づき、校長補佐を置く。

(資格)

第16条 校長補佐は、教授又は准教授をもって充てる。

(職務)

第17条 校長補佐は、校長の命を受け、学校運営に係る特命事項について校長を補佐する。

(任期)

第18条 校長補佐の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第6章 図書館長等

(設置)

第19条 本校に、学則第11条の規定に基づき、図書館長、学生相談室長、高度技術教育研究センター長、情報教育センター長、ものづくり教育支援センター長、高度技術教育研究センター副センター長、情報教育センター副センター長及びものづくり教育支援センター副センター長を置く。

(資格)

第20条 図書館長、学生相談室長、高度技術教育研究センター長、情報教育センター長及びものづくり教育支援センター長は、教授又は助教授をもって充てる。

2 高度技術教育研究センター副センター長、情報教育センター副センター長及びものづくり教育支援センター副センター長は、教授又は准教授をもって充てる。

(職務)

第21条 図書館長は、校長の命を受け、図書館の管理運営及び業務に関することを掌理する。

2 学生相談室長は、校長の命を受け、学生相談室の管理運営及び業務に関することを掌理する。

3 高度技術教育研究センター長は、校長の命を受け、高度技術教育研究センターの管理運営及び業務に関することを掌理する。

4 情報教育センター長は、校長の命を受け、情報教育センターの管理運営及び業務に関することを掌理する。

5 ものづくり教育支援センター長は、校長の命を受け、ものづくり教育支援センターの管理運営及び業務に関することを掌理する。

6 高度技術教育研究センター副センター長は、高度技術教育研究センター長の職務を補佐する。

7 情報教育センター副センター長は、情報教育センター長の職務を補佐する。

8 ものづくり教育支援センター副センター長は、ものづくり教育支援センター長の職務を補佐する。

(任期)

第22条 図書館長、学生相談室長、高度技術教育研究センター長、情報教育センター長、ものづくり教育支援センター長、高度技術教育研究センター副センター長、情報教育センター副センター長及びものづくり教育支援センター副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第7章 学科主任等

(設置)

第 23 条 本校に、学則第 11 条の規定に基づき、各学科、数理科及び一般教養科に主任及び副主任を置く。

(資格)

第 24 条 各学科、数理科及び一般教養科の主任は、教授をもって充て、副主任は、教授又は准教授をもって充てる。

(職務)

第 25 条 各学科、数理科及び一般教養科の主任は、学科等を代表して、当該学科等の教育及び管理・運営に関することを掌理するとともに、学科等間の連絡調整に当たる。

2 各学科、数理科及び一般教養科の副主任は、主任の職務を補佐する。

(任期)

第 26 条 各学科、数理科及び一般教養科の主任、副主任、低学年教育主任及び低学年教育副主任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第 8 章 副専攻科長及び専攻主任

(設置)

第 27 条 本校専攻科に、学則第 11 条の規定に基づき、副専攻科長、生産工学専攻主任、生物応用化学専攻主任及び電子工学専攻主任（以下「副専攻科長及び専攻主任」という。）を置く。

(資格)

第 28 条 副専攻科長及び専攻主任は、教授又は准教授をもって充てる。

(職務)

第 29 条 副専攻科長は、専攻科長を補佐し、専攻科の教育及び管理運営に関し、各専攻主任との連絡調整に当たる。

2 専攻主任は、専攻科長を補佐し、当該専攻の教育及び管理運営に関する業務を処理するとともに、学科等との連絡調整に当たる。

(任期)

第 30 条 副専攻科長及び専攻主任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第 9 章 教務主事補、学生主事補、寮務主事補及び寮監

(設置)

第 31 条 本校に、学則第 11 条の規定に基づき、教務主事補、学生主事補、寮務主事補及び寮監を置く。

(資格)

第 32 条 教務主事補は、教授又は准教授をもって充てる。

2 学生主事補、寮務主事補及び寮監は、本校の専任教員をもって充てる。

(職務)

第 33 条 教務主事補は、教務主事の職務を補佐する。

2 学生主事補は、学生主事の職務を補佐する。

3 寮務主事補は、寮務主事の職務を補佐する。

4 寮監は、寮務主事の指示を受け寮生の指導及び生活相談に当たる。

(任期)

第 34 条 教務主事補、学生主事補、寮務主事補及び寮監の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第 10 章 学級担任等

(設置)

第 35 条 本校に、学則第 11 条の規定に基づき、学級担任及び副担任を置く。

2 本校に、学則第 11 条の規定に基づき、学年主任を置く。

(資格)

第 36 条 学級担任は、教授、准教授又は講師をもって充てる。

2 副担任は、本校の専任教員をもって充てる。

3 学年主任は、学級担任をもって充てる。

(職務)

第 37 条 学級担任は、教務主事、学生主事、寮務主事及び主任と連絡を密にして次の事項を行なう。

- (1) 教務の円滑な実施に関すること。
- (2) 学生生活に関すること。
- (3) その他学級運営に関すること。

2 副担任は、学級担任の職務を補佐する。

3 学年主任は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事及び学科・科主任と連絡を密にして次の事項を行なう。

- (1) 当該学年の教育活動の円滑な実施に関すること。
- (2) 学年主任等連絡会への参画及び学年学級担任・副担任連絡会の主宰。

(任期)

第 38 条 学年主任、学級担任及び副担任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第 11 章 会議及び委員会等

(運営会議)

第 39 条 本校に、校長の諮問に応じ、本校の運営に関する重要事項を審議するため、運営会議を置く。

2 運営会議に関する必要な事項は、別に定める。

(教員会)

第 40 条 本校に、教員会を置く。

2 教員会に関する必要な事項は、別に定める。

(委員会等)

第 41 条 本校に、教職員をもって構成する委員会を置く。

2 委員会に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校低学年教育委員会規程（平成 15 年 1 月 23 日規程第 2 号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-①-2

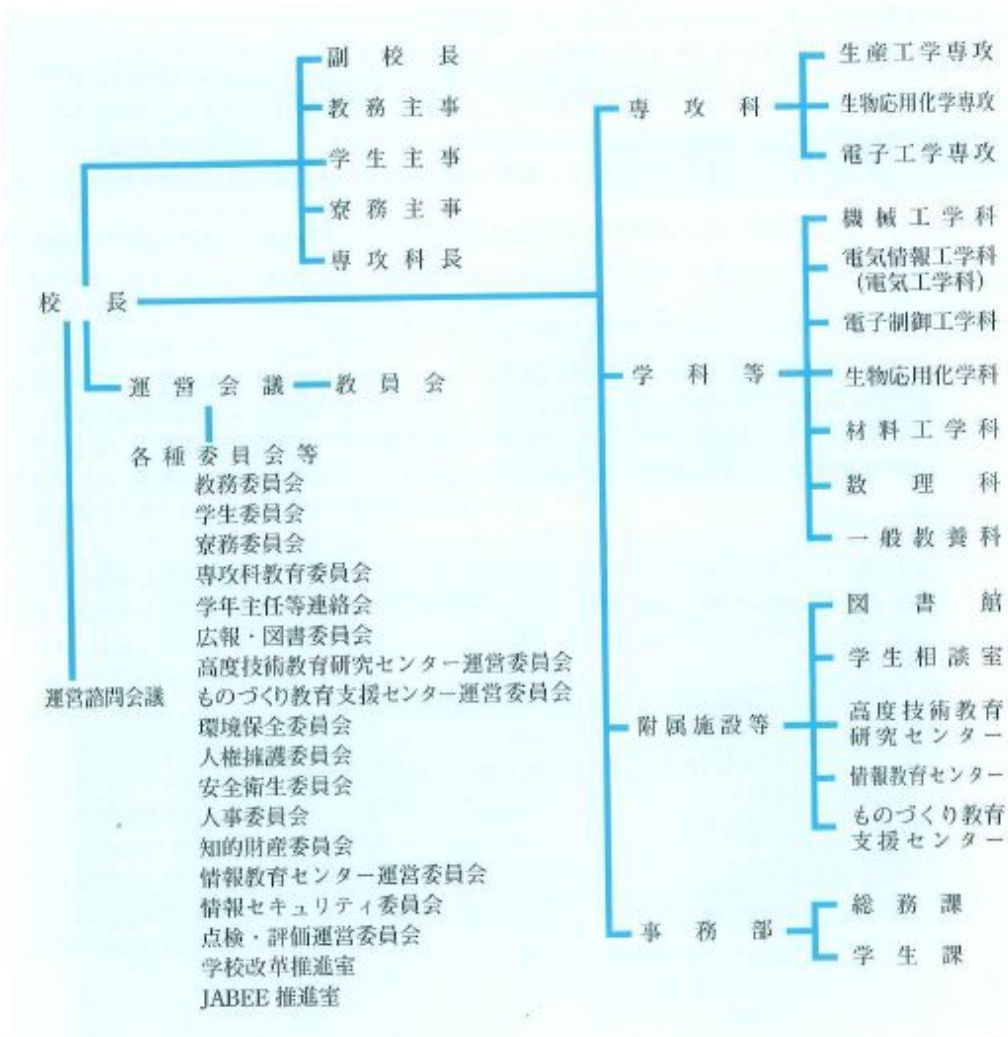
3 組 織

教職員の現員

平成 18 年 4 月 1 日現在

区 分	教 育 職 員							事務系職員	合 計
	校 長	教 授	助教授	講 師	助 手	外国人 教 師	小 計		
現 員	1	35	29	11	9	1	86	50	136

組 織 図



資料 11-1-①-3

新居浜工業高等専門学校運営会議規則

昭和 44 年 4 月 1 日規則第 1 号

(設置)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議を置く。

(目的)

第 2 条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の運営に関する次の各号に掲げる重要事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算概算の方針に関する事項
- (3) 学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項
- (4) 人事の基準に関する事項
- (5) 組織の改廃、教育研究体制の改善等に関する事項
- (6) 教務・厚生補導・寮務に関する重要事項
- (7) その他本校の運営に関する重要事項

(組織)

第 3 条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 事務部長
- (3) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (4) 専攻科長
- (5) 各学科、数理科及び一般教養科の主任
- (6) 高度技術教育研究センター長
- (7) 総務課長及び学生課長

2 運営会議の委員は、校長が委嘱する。

(会議の開催)

第 3 条の 2 運営会議は、月 2 回開催する。ただし、必要があると認められた場合は、随時開催することができる。

(会議の招集)

第 4 条 校長は、運営会議を招集し、その議長となる。

2 校長に事故あるときは、あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

(委員以外の職員の出席)

第 5 条 校長は、必要に応じて委員以外の職員を運営会議に出席させることができる。

(会議の事務)

第 6 条 運営会議に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、運営会議の議を経て校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和 44 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 従来の新居浜工業高等専門学校主任会規程は、廃止する。

附 則

この規則は、昭和 52 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この改正規則は、昭和 62 年 1 月 24 日から施行する。
- 2 この改正規則施行の際、第 3 条第 1 項第 4 号及び第 5 号に規定する幹事である者の任期は、第 3 条第 4 項の規定にかかわらず、昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この改正規則は、昭和 63 年 4 月 22 日から施行し、昭和 63 年 4 月 1 日から適

附 則

この改正規則は、平成 4 年 9 月 28 日から施行し、平成 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 8 年 7 月 1 日から施行し、平成 8 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 11 年 4 月 27 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 11 年 9 月 8 日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校将来計画委員会規程（昭和 63 年規則第 2 号）及び新居浜工業高等専門学校専攻科運営委員会規程（平成 4 年規則第 12 号）は廃止する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

（出典 新居浜工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するため、校長のリーダーシップのもとに管理運営する体制が整っている。学校運営の重要事項は、各委員会で検討した後、運営会議で審議され、校長が最終的な意志決定を行っている。

観点 11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

（観点に係る状況）

各委員会は、学校の管理運営に関して適切に役割分担をし、効果的に活動している（資料 11-1-②-1）。また、各委員会活動がより効果的になるように、平成 16 年度に知財委員会と安全衛生委員会を、平成 17 年度にもものづくり教育支援センター運営委員会を新設した。また、平成 18 年度に低学年教育委員会を廃止し、学年主任を中心に学年ごとの担任が協議する体制とした。

事務部は、事務部長の下に、総務課および学生課を置き、それぞれ学校の管理運営に関して適切に役割分担をしている（資料 11-1-②-2）。各課の事務職員は、それぞれの職務分掌にしたがい、各委員会と連携して効果的な活動を行っている（資料 11-1-②-3）。事務部長および各課長は、運営会議のメンバーとして管理運営に参画している。

資料 11-1-②-1

No.	職名・会名	担当内容
1	校長	校務をつかさどり、所属教職員を監督する。
2	副校長	校長の命を受け、校長を補佐する。
3	教務主事	校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
4	学生主事	校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
5	寮務主事	校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
6	専攻科長	校長の命を受け、専攻科に関することを掌理する。
7	運営会議	校長の諮問に応じ、本校の運営に関する次の各号に掲げる重要事項を審議する。 (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項 (2) 予算概算の方針に関する事項 (3) 学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項 (4) 人事の基準に関する事項 (5) 組織の改廃、教育研究体制の改善等に関する事項 (6) 教務・厚生補導・寮務に関する重要事項
8	教員会	本校の教育目標をより効果的に達成するため、教員相互の意見の交換及び連絡調整を図ることを目的とする。
9	教務委員会	本校の教務に関する事項に対処する。 目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。 (1) 教育課程の編成、改廃及び授業時間割に関する事項 (2) 学生の履修に関する事項 (3) 学業成績等の処理に関する事項 (4) 教育情報処理に関する事項 (5) 学生の募集に関する事項 (6) 入学試験の実施に関する事項 (7) 小・中学生を対象とする公開講座及び体験入学等に関する事項 (8) 教育懇談会、学校説明会及び学校訪問に関する事項 (9) その他教務に関する事項
10	学生委員会	学生の厚生補導に関する事項に対処する。 目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。 (1) 学生及び学生団体に関する事項 (2) 学生の集会及び催物に関する事項 (3) 学生の出版及び掲示に関する事項 (4) 学生の賞罰に関する事項 (5) 学生の保健衛生に関する事項 (6) 入学料免除及び徴収猶予に関する事項 (7) 授業料免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除に関する事項 (8) 奨学生の推薦に関する事項 (9) その他学生の厚生補導に関する事項
11	寮務委員会	寮務に関する事項に対処する。 目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。 (1) 学寮における教育及び生活指導に関する事項 (2) 学寮の防災その他安全保持に関する事項 (3) 寮生の保健衛生に関する事項 (4) その他学寮に関する事項
12	専攻科教育委員会	専攻科の教育等に関する事項に対処するため。 目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。 (1) 専攻科の教育及び指導に関する事項 (2) 専攻科学生の入学、進学及び就職に関する事項 (3) その他専攻科学生に関する事項
13	学年主任等連絡会	校長、教務主事、学生主事、寮務主事及び学科・科主任と連絡を密にする。

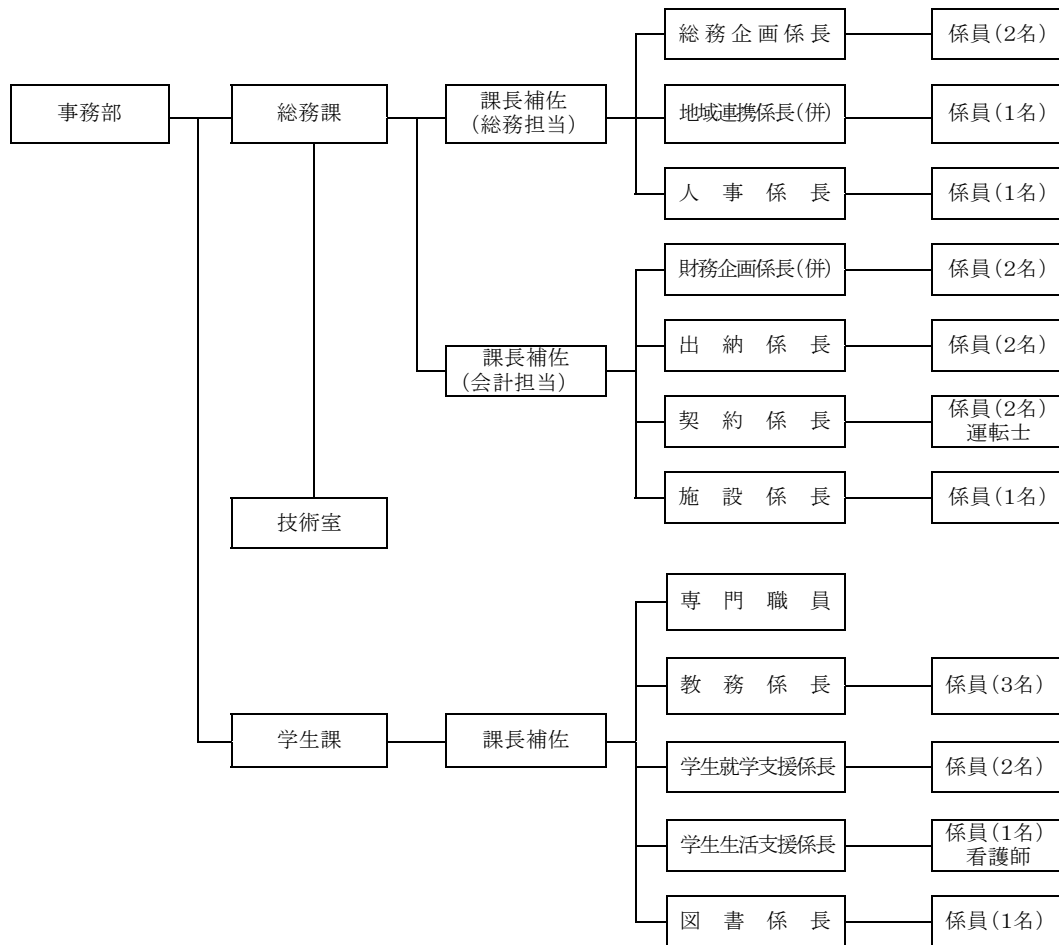
14	広報・図書委員会	<p>広報に関すること及び図書館の運営に関することを審議する。 次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広報の方針の策定に関する事。 (2) 広報の活動内容に関する事。 (3) その他広報に関する事。 (4) 新居浜工業高等専門学校紀要の編集・発行に関する事。 (5) 図書館の運営に関する事。
15	高度技術教育研究センター運営委員会	<p>次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高度技術教育研究センターの基本方針に関する事項。 (2) 高度技術教育研究センターの設備等の利用計画に関する事項。 (3) 各学科、数理科及び一般教養科並びに各部門との連絡調整に関する事項。 (4) 学生に対する高度技術教育に関する事項。 (5) 受託研究・共同研究の受入れ及びその実施に関する事項。 (6) 発明に係る権利の帰属等に関する事項。 (7) 公開講座に関する事項(小・中学生を対象とするものを除く)。 (8) その他高度技術教育研究センターの運営に必要な事項
16	ものづくり教育支援センター運営委員会	<p>センターが所掌する事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学科の実験・実習及び卒業研究等の教育研究支援に関する事。 (2) ものづくり課外活動の支援に関する事。 (3) 地域連携による技術交流・支援に関する事。 (4) 機械及び材料実習工場の管理・運営に関する事。 (5) アイデア通り工房の管理・運営に関する事。 (6) 技術室の業務目標・計画及び評価に関する事。 (7) 技術職員の研修計画に関する事。 (8) その他ものづくり教育及び地域等との技術交流の推進に関する事。
17	環境保全委員会	<p>校長が定める環境方針、環境目的及び環境目標並びに環境方針等に基づく本校の環境保全に関する施策を審議、立案し、総合的かつ計画的に推進することにより、校内及び周辺地域の環境保全を図ることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長が定める環境方針等及び環境方針等の見直しに関する事項 (2) 環境方針等に基づく環境保全に係る施策に関する事項 (3) 環境保全に係る施策の実施内容の点検・評価に関する事項 (4) その他校内及び周辺地域の環境保全に関する事項
18	人権擁護委員会	<p>人権の尊重に関する認識の高まり並びに社会的身分、門地、人種、信条、性別、障害者その他あらゆる不当な差別による人権侵害に対し、人権の擁護に関する施策の推進について、本校の責務を明らかにするとともに、必要な体制を整備し、人権の擁護に資することを目的とする。</p>
19	安全衛生委員会	<p>関係委員会の協力を得て、本校における安全衛生確保を総括する。</p>
20	人事委員会	<p>次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員人事の基本方針及び方策に関する事。 (2) 採用、昇任等教員人事の具体的事項に関する事。 (3) 技術室技術職員の人事に関する事。
21	知的財産委員会	<p>知的財産に対する判断意見を知的財産本部に報告し、その指示に基づいて知的財産本部に代わって知的財産の権利化等を行う。</p>
22	情報教育センター運営委員会	<p>次の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新居浜工業高等専門学校情報教育センター規程第2条に掲げる事項 <ol style="list-style-type: none"> (1-1) 情報教育の推進及び基本方針の策定に関する事。 (1-2) 情報処理教育及び情報リテラシー教育の企画及び実現化の技術的支援に関する事。 (1-3) マルチメディア教育の企画及び実現化の技術的支援に関する事。 (1-4) 遠隔教育のコンテンツの企画・開発に関する事。 (1-5) 情報ネットワークの管理・運営に関する事。 (1-6) 教育用電子計算機システムの管理・運営に関する事。 (1-7) 職員の情報ネットワ

23	情報セキュリティ委員会	<p>次の各号に掲げる事項を掌握する。</p> <p>(1) 情報セキュリティポリシーの策定に関する事。</p> <p>(2) 情報セキュリティポリシーの評価及び点検に関する事。</p> <p>(3) 情報セキュリティポリシーの遵守の励行及び違反に対する措置に関する事。</p> <p>(4) 情報セキュリティの恒常的な安全性の確保に関する事。</p> <p>(5) 情報セキュリティに関する情報収集及び重要事項に関する関係部署との連絡調整に関する事。</p> <p>(6) 教育研究活動におけるネットワークの利用ルールの制定に関する事。</p>
24	点検・評価運営委員会	<p>次に掲げる事項を所掌する。</p> <p>(1) 点検・評価の方針の策定に関する事。</p> <p>(2) 点検・評価の実実施計画の決定に関する事。</p> <p>(3) 部会への点検及び評価・規格の依頼に関する事。</p> <p>(4) 部会からの報告の取扱いに関する事。</p> <p>(5) 点検・評価結果のとりまとめ及び報告書の作成に関する事。</p> <p>(6) 点検・評価結果の公表に関する事。</p>
25	学校改革推進室	<p>点検・評価運営委員会の結果・報告に基づき、本校の教育方法等を改善するために必要な方策の企画・立案及び推進を図ることを目的とする。</p>
26	JABEE推進室	<p>教育プログラムの改善を促進し、技術者教育の質の向上を図ることを目的とする。</p> <p>(1) JABEE継続審査に関する対応方針に関する事</p> <p>(2) 各プログラムが年度ごとに立案する改善計画の審議に関する事</p> <p>(3) 各プログラムの教育活動状況の点検・評価に関する事</p> <p>(4) 各プログラムの連絡調整に関する事</p> <p>(5) その他JABEEプログラムに関する事</p>
27	運営諮問会議	<p>会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。</p> <p>(1) 本校の運営基本方針・教育研究計画に関する事。</p> <p>(2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関する事。</p>

(出典 総務課資料)

資料 11-1-②-2

新居浜工業高等専門学校 事務部組織図



(出典 総務課資料)

資料 11-1-②-3

新居浜工業高等専門学校事務組織規程

平成 18 年 3 月 28 日規程第 3 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 9 条の規定及び新居浜工業高等専門学校学則第 11 条の規定により、新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めるものとする。

(事務組織)

第 2 条 事務部に事務部長、総務課及び学生課を置く。

2 課に係を置く。

(職制)

第 3 条 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。

2 総務課及び学生課に課長を置く。

3 課長は、上司の命を受け、当該課の事務を総括する。

4 課に課長補佐を置くことができる。

5 課長補佐は、上司の命を受け、課長を補佐し、課の事務を総括する。

6 課に専門職員を置くことができる。

7 専門職員は、上司の命を受け、専門的事項を企画・立案及び処理する。

第 4 条 係に係長及び係員を置く。

2 係長及び係員は、上司の命を受け、系の事務を処理する。

3 必要に応じ主任を置くことができる。

4 主任は、上司の命を受け、系の事務を処理する。

第5条 総務課に技術室を置くことができる。

2 技術室に技術専門職員及び室員を置く。

3 技術室に関し、必要な事項は別に定める。

(所掌事務)

第6条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 中期計画、改革等に関する企画・立案に関すること。

(2) 第三者による学校評価に関すること。

(3) 自己点検・評価に関すること。

(4) 地域社会、産業界等との連携に関すること。

(5) 高度技術教育研究センターに関すること。

(6) 科学研究費補助金及びその他研究助成に関すること。

(7) 発明及び知的財産に関すること。

(8) 法人文書の管理及び情報公開業務に関すること。

(9) 個人情報に関すること。

(10) 機密に関すること。

(11) 儀式その他諸行事に関すること。

(12) 運営会議その他会議に関すること。

(13) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。

(14) 内地研究員及び在外研究員等に関すること。

(15) 学術団体等との連絡に関すること。

(16) 広報、渉外に関すること。

(17) 公文書類の接受、発送及び保管に関すること。

(18) 公印の制定、改廃及び保管に関すること。

(19) 職員の採用、退職、給与、懲戒及び就業規則等に関すること。

(20) 職員の定員に関すること。

(21) 職員の研修及び勤務評定に関すること。

(22) 職員の健康管理、福利厚生及び災害保障に関すること。

(23) 共済組合及び退職手当に関すること。

(24) 栄典及び表彰に関すること。

(25) 人事記録、その他人事に関すること。

(26) 教育研究補助に関すること。

(27) 校内の警備に関すること。

(28) 予算及び決算に関すること。

(29) 会計の監査に関すること。

(30) 会計機関の公印の管守に関すること。

(31) 債権の管理に関すること。

(32) 資産の管理及び処分に関すること。

(33) 契約に関すること。

(34) 収入、支出及び計算証明に関すること。

(35) 現金、預金、貯金及びその他有価証券の管理に関すること。

(36) 寄附金の受入に関すること。

(37) 科学研究費補助金等の外部資金の経理に関すること。

(38) 教職員宿舎に関すること。

(39) 施設・設備の計画、整備及び維持保全に関すること。

(40) 学校環境の整備保全に関すること。

(41) 教職員の安全管理に関すること。

(42) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること

(43) その他、学生課の所掌に属しないこと。

第7条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 入学者の選抜に関すること。

(2) 学生の修学指導に関すること。

(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。

(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。

(5) 学生の学籍に関すること。

(6) 学生の課外教育に関すること。

- (7) 学生の賞罰に関する事。
- (8) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (9) 学生に対する奨学金に関する事。
- (10) 留学生及び学生の海外派遣に関する事。
- (11) 入学料、授業料の免除、徴収猶予及び寄宿料の免除に関する事。
- (12) 学生の課外活動に関する事。
- (13) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (14) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (15) 学生の進路に関する事。
- (16) 学生相談に関する事。
- (17) 学生旅客運賃割引証その他諸証明に関する事。
- (18) 学寮の管理運営に関する事。
- (19) 学生の入退寮に関する事。
- (20) 寮生の生活相談等に関する事。
- (21) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保管等に関する事。
- (22) 図書館資料の閲覧、貸出し等利用に関する事。
- (23) 図書館資料に関する予算及び経理に関する事。
- (24) 図書館における教育研究活動及び情報サービスに関する事。
- (25) 電子計算機による事務処理システムの運用及び維持管理の指針に関する事。
- (26) 情報処理システム及び情報化の推進等に関する事。
- (27) 本校のLANシステムの構築及び運用方針に関する事。
- (28) 情報教育センターに関する事。
- (29) その他、学生課の所掌に関する事。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、課の組織及び事務分掌については、別に定める。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

各委員会と事務部は協力しつつ、適切に役割分担し、効果的に管理運営活動を行っている。

観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関する諸規定が整備され、明文化されている(資料 11-1-③-1)。

資料 11-1-③-1

管理運営に関する諸規定

第1章 規則・内規

第1節 学則

○新居浜工業高等専門学校学則

第2節 組織・運営

○新居浜工業高等専門学校教員等組織規程

○新居浜工業高等専門学校運営会議規則

○新居浜工業高等専門学校教員会規程

○新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則

○新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

○新居浜工業高等専門学校事務組織規程

○新居浜工業高等専門学校事務分掌細則

○新居浜工業高等専門学校改革推進室要項

○新居浜工業高等専門学校における技術専門職員に関する規程

- 新居浜工業高等専門学校技術室要項
- 新居浜工業高等専門学校技術室に関する申合せ
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸規則の整備に関する規則
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸規程の整備に関する規程
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸細則の整備に関する細則
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸要項の整備に関する要項
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸要領の整備に関する要領
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸申合せの整備に関する申合せ
- 事務組織変更に伴う新居浜工業高等専門学校諸内規の整備に関する内規

第3節 総務

- 新居浜工業高等専門学校における学内規則の制定等に関する取扱い内規
- 新居浜工業高等専門学校公印規則
- 新居浜工業高等専門学校文書処理規則
- 新居浜工業高等専門学校法人文書管理規程
- 新居浜工業高等専門学校文書決裁規則
- 新居浜工業高等専門学校情報公開取扱要項
- 新居浜工業高等専門学校職員の財産形成貯蓄関係事務取扱要項
- 新居浜工業高等専門学校知的財産権取扱規程
- 新居浜工業高等専門学校外国人受託研修員規程
- 新居浜工業高等専門学校外国人研究員受入規程
- 新居浜工業高等専門学校外国人特別招聘教授（客員教授）要項
- 新居浜工業高等専門学校旅行命令及び旅費支給要項
- 新居浜工業高等専門学校公開講座規程
- 新居浜工業高等専門学校広報・図書委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校ホームページ掲載に関する申合せ
- 新居浜工業高等専門学校研究員等派遣に伴う授業処置に関する申合せ

第4節 総務（人事）

- 新居浜工業高等専門学校職員服務規程
- 新居浜工業高等専門学校安全衛生管理規程
- 新居浜工業高等専門学校人事委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校人事選考委員会に関する要項
- 新居浜工業高等専門学校人権擁護委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校人権侵害の防止等に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校人権侵害に関する苦情相談の取扱要項
- 新居浜工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメント苦情相談等に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談の取扱要項
- 新居浜工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
- 新居浜工業高等専門学校名誉教授称号授与規程の運用に関する要項
- 新居浜工業高等専門学校事務合理化検討委員会要項
- 新居浜工業高等専門学校における旧姓使用取扱要項
- 新居浜工業高等専門学校新任教員学内研修実施要領
- 新居浜工業高等専門学校新任教員学内研修実施細則

第5節 総務（財務）

- 新居浜工業高等専門学校会計機関の補助者の職位指定に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校会計実地監査規程
- 新居浜工業高等専門学校タクシー使用規程
- 新居浜工業高等専門学校共済組合支部出納職員及び監査員の職位指定規程
- 新居浜工業高等専門学校政府調達相談担当者の職位指定に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校債権管理事務取扱要領
- 新居浜工業高等専門学校における出納員の指定に関する要項
- 新居浜工業高等専門学校科学研究費補助金経理事務取扱要領
- 新居浜工業高等専門学校教職員宿舍入居者選考要領
- 新居浜工業高等専門学校謝金支給事務取扱要領
- 新居浜工業高等専門学校被服貸与規程
- 新居浜工業高等専門学校物品管理事務取扱要領

- 新居浜工業高等専門学校八雲荘使用規程
- 新居浜工業高等専門学校国有財産管理規程
- 新居浜工業高等専門学校国有財産監守計画
- 新居浜工業高等専門学校防災規程
- 新居浜工業高等専門学校環境保全委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校施設管理規則
- 新居浜工業高等専門学校電気工作物保安規程
- 新居浜工業高等専門学校毒物及び劇物取扱規程
- 新居浜工業高等専門学校冷暖房使用細則
- 新居浜工業高等専門学校公用車使用要項
- 新居浜工業高等専門学校事務用電子計算機室規則
- 新居浜工業高等専門学校における建設工事に係る競争参加資格等審査委員会要項
- 新居浜工業高等専門学校環境保全推進要項
- 新居浜工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム官職証明書規程
- 新居浜工業高等専門学校における文部科学省電子入札システムの運用規程

第6節 教務

- 新居浜工業高等専門学校教務委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校専攻科教育委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則
- 新居浜工業高等専門学校退学者の再入学に関する規則
- 新居浜工業高等専門学校視聴覚教室管理運営規程
- 新居浜工業高等専門学校研究生規則
- 新居浜工業高等専門学校聴講生規則
- 新居浜工業高等専門学校特別聴講学生規則
- 新居浜工業高等専門学校科目等履修生規則
- 新居浜工業高等専門学校外国人留学生規則

第7節 学生

- 新居浜工業高等専門学校学生準則
- 新居浜工業高等専門学校学生委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校学生の懲戒処分に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校学生相談室規程
- 新居浜工業高等専門学校授業料寄宿料免除等取扱規程
- 新居浜工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予取扱規程
- 新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」管理運営規則
- 新居浜工業高等専門学校福利会館「尚友会館」使用細則
- 新居浜工業高等専門学校合宿研修所使用規程
- 新居浜工業高等専門学校合宿研修所使用細則
- 新居浜工業高等専門学校学生の車両使用に関する規程
- 新居浜工業高等専門学校学生表彰規程
- 新居浜工業高等専門学校無料職業紹介業務運営規程
- 新居浜工業高等専門学校無料職業紹介業務個人情報適正管理要項

第8節 学寮

- 新居浜工業高等専門学校学寮管理運営規則
- 新居浜工業高等専門学校寮務委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校学生寮宿日直規程

第9節 図書

- 新居浜工業高等専門学校図書館規程
- 新居浜工業高等専門学校図書館文献複写規程
- 新居浜工業高等専門学校図書館文献複写料金徴収猶予実施細則
- 新居浜工業高等専門学校図書館一般利用者利用要項
- 新居浜工業高等専門学校紀要投稿・編集要領

- 新居浜工業高等専門学校紀要原稿執筆要領
- 新居浜工業高等専門学校紀要特定論文審査取扱い内規

第 10 節 その他

- 新居浜工業高等専門学校高度技術教育研究センター規程
- 新居浜工業高等専門学校情報教育センター規程
- 新居浜工業高等専門学校情報教育センター運営委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校情報教育センター部門細則
- 新居浜工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規程
- 新居浜工業高等専門学校ものづくり教育支援センター規程
- 新居浜工業高等専門学校実習工場規程
- 新居浜工業高等専門学校地域連携推進員規程
- 新居浜工業高等専門学校地域連携推進員受入要項
- 新居浜工業高等専門学校国立大学法人愛媛大学と独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校との教育研究連携協力における連携推進運営委員会に関する要項
- 新居浜工業高等専門学校リエゾンルーム利用要項
- 新居浜工業高等専門学校 JABEE 推進室設置要項
- 新居浜工業高等専門学校組換え DNA 実験安全管理規則
- 新居浜工業高等専門学校現代 GP 地域連携ものづくり活動推進運営委員会規程

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する諸規定は整備されている。

観点 11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点到に係る状況)

平成 16 年度に運営諮問会議を設置し、外部有識者の意見を聞く体制が整備されている(資料 11-2-①-1)。外部有識者の意見は運営会議において検討され、管理運営の改善に活かされている(資料 11-2-①-2)。

資料 11-2-①-1

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成 17 年 2 月 8 日規程第 2 号

(設置)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第 2 条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第 3 条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、再任することを妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 5 条 会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員が互選する。

2 会長は会議を招集し，その議長となる。

3 会長に事故あるときは，副会長がその職務を代行する。
(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは，委員以外の者に出席を求め，意見を聴くことができる。
(報告)

第7条 校長は，運営諮問会議での審議事項について，運営会議に報告するものとする。
(事務)

第8条 会議の事務は，総務課において行う。
(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか，会議に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附 則

1 この規程は，平成 17 年 2 月 8 日から施行する。

2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成 13 年 8 月 29 日規程第 8 号）は，廃止する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

資料 11-2-①-2

第2回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

指 摘 事 項 等	対 応 状 況
1. 入試志願者の確保方策について	
○継続的PR活動と保護者等PR対象の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生用広報誌「はばたけ未来へ」(23,000部発行)の内容の大幅な見直し ・中学2年生へのPRを開始 ・カレンダー付募集ポスター(1,000部発行)の配布 ・中学校訪問：訪問地域の拡大と複数回訪問の実施
○メディア等を活用したPR（情報発信の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ・TV、新聞等のメディアの活用はできていない。 ・メールマガジンの配信を開始(H18.4)毎月1回発行。 ・新居浜高専のポスターの作成・配布
○理系離れ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・従来からの実施：中学生対象の夏季体験学習、小・中学校理科教員対象のサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)、ものづくりフェスタ in 松山(2年目)、中学ロボコンへの参加(2年目)、出前講座等 ・新規に実施：科学フェスティバル(大洲)へ参加、愛媛大学理学部「親子フェスタ」へテーマ参加、四電フェスタへ参加等
○中学校主催の進路説明会への積極的参加等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問時に参加したい旨を依頼(H17年度111校→H18年度163校) ・中学校長理事校への挨拶(本校校長) ・地区別説明会の拡大(県内5地区及び県外3カ所) ・学校見学会(9月と学園祭時の2回実施)
○女子学生の確保(設備の充実、女性教員の増員、進路先の開拓等)	<ul style="list-style-type: none"> ・女子寮等を含めて、設備については徐々に整備 ・女性教員も増員予定

<p>○その他（選抜方法の見直し）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦基準、推薦枠、面接方法の見直し ・入試会場の増設（推薦選抜：2会場、学力選抜：5会場） （※ 別紙参照）
<p>2. 地域との連携による教育活動の促進について</p> <p>○学生主体型、学生参加型の地域連携教育活動の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）地域活性化への貢献（地元型）」の採択テーマ「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」概要「ものづくり人材育成」および「まちづくり・地域の求心力向上」（ファイル資料7） ・市内小学校校区文化祭への学生作製作品の出展と学生による成果発表
<p>○公開講座の実施状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座、出前イベント、公開講座等 小中学校対象59講座、市民対象25講座を公開（案内） 出前講座6件、出前イベント6件 出前イベント（四電フェスタ、ものづくりフェスタ in 松山、愛媛大学理学部親子フェスタなど）への学生参加 新居浜市生涯学習センターと共催で新居浜高専市民講座を毎年8講座 新居浜高専単独主催の公開講座1講座
<p>○愛テクフォーラムと学生との関わり合いの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第41回新居浜高専工業技術懇談会・愛テクフォーラム企業技術交流会 学生、教員約200名が参加 ・市内小学校校区文化祭への学生作製作品の出展と学生による成果発表

（出典 第3回運営諮問会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者の意見を定期的に聴取するシステムが整備されている。また、この意見を学校運営に反映させる体制も整備され、反映されている。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点到に係る状況）

平成13年度以降、点検・評価運営委員会で総合的な自己点検・評価を計画し、点検専門部会が点検作業を担い、その結果を点検報告書にまとめて学科（科）に配付するとともに、ホームページで

公開している（資料 11-3-①-1）。

また、平成 15 年度に生物応用化学プログラム（生物応用化学学科，生物応用化学専攻）が日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け，平成 16 年 5 月に認定されている。生産工学プログラム（機械工学科，材料工学科，生産工学専攻）およびシステムデザイン工学プログラム（電気情報工学科，電子制御工学科，電子工学専攻）は平成 18 年に認定されている。認定結果についてはホームページで公開している（資料 11-3-①-2）。

資料 11-2-①-1

新居浜工業高等専門学校

NIJUHAMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

自己点検・評価報告

自己点検

- 平成15年度点検報告書
- 平成16年度学校運営目標の実施状況・教育改善推進計画の実施状況
- 平成17年度学校運営目標の実施状況・教育改善推進計画の実施状況

外部評価

- 第1回運営諮問会議報告書(平成16年度)
- 第2回運営諮問会議報告書(平成17年度)
- 第3回運営諮問会議報告書(平成18年度)

[<新居浜高专トップページ>](#)

管理：広報推進本部

(出典 本校ホームページ)

The screenshot shows the website for Niihama National College of Technology. At the top, there is a navigation bar with buttons for '学校案内', '学科・専攻科', 'シラバス', '学生生活', '教育研究施設', 'JABEE への取り組み', '事務', 'リンク集', and '学内限定情報'. The main heading is '新居浜工業高等専門学校' (Niihama National College of Technology) with the English name 'Niihama National College of Technology' below it. The page title is '◎JABEEへの取り組み'. The content lists three JABEE-accredited programs: 1. 生物応用化学プログラム (生物応用化学学科、生物応用化学専攻) - Accredited in May 2016. 2. 生産工学プログラム (機械工学科、環境材料工学科(材料工学科)、生産工学専攻) - Accredited in April 2018. 3. システムデザイン工学プログラム (電気情報工学科(電気工学科)、電子制御工学科、電子工学専攻) - Accredited in April 2018. A note states that these three programs are composed of the 4-year curriculum from the 1st year of the undergraduate program to the 2nd year of the graduate program. The JABEE (Japan Society for Quality Assurance) is described as a non-governmental organization established in November 2019, which reviews and accredits technical education programs in cooperation with the Association of Technical Education. Accreditation reviews began in 2019. The source is cited as the school's homepage.

(分析結果とその根拠理由)

点検評価運営委員会が総合的な自己点検・評価を実施しており、その結果を点検報告書にまとめて公開している。第三者評価として、外部有識者による運営諮問会議の設置や日本技術者教育認定機構の審査への取り組みをおこなっている。

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点到に係る状況)

評価結果は点検報告書として点検・評価運営委員会がとりまとめ、運営会議に報告された上、教職員にフィードバックされている(訪問調査資料 平成18年度新居浜工業高等専門学校点検報告書)。評価結果に基づいて、運営会議で管理運営に関する改善策が定められ、各学科(科)や各委員会などで改善活動をおこなっている。

例えば、学寮保護者連絡会において、保護者から防犯対策に関する要望があったのを受けて、各寮の玄関に防犯ビデオを設置した(資料11-3-②-1)。その他、ものづくり教育支援センターやインキュベーション・ラボラトリーの設置、教育アソシエイト制度の導入、リエゾンルームの整備が決められた(資料11-3-②-2, 資料11-3-②-3, 資料11-3-②-4, 資料1

1-3-②-5, 資料 1 1-3-②-6)。

資料 1 1-3-②-1

平成 18 年度 第 20 回 寮務委員会 議事録

日時 : 平成 19 年 3 月 1 日(木) 16:30~18:30

出席者 : 塚野(主事), 堤, 志賀(主事補), 笏田(寮監),
谷脇, 先山, 松友, 西谷, 井上, 小野(学生生活支援係長)

司会 : 塚野 記録 : 谷脇

(略)

センサーライト・防犯カメラ

センサーライトは設置完了し, 防犯カメラについては現在工事中である

防犯カメラは全棟に設置し, モニタは学生生活支援係と A 当直室に設置する

(略)

(出典 平成 18 年度第 20 回寮務委員会議事録)

～ ものづくり教育支援センター構想 ～

- 各学科の実験・実習、卒研など教育研究支援
- ロボコンなどものづくり課外活動の支援
- 地域連携による技術交流・支援

ものづくり教育支援センター

運営委員会委員
センター長
センター所員（若干名）
庶務課長
技術室長

実習工場 (M・Z)

- (課題)
- ・機能の統合化
 - ・機械の更新

アイデア通り工房 (機械実習工場工作演習室) (材料棟多目的室)

- (課題)
- ・利用システムの整備
 - ・指導体制の構築

技術室

- (課題)
- ・技術職員の
研修の充実

会 計 課

アイデア通り工場の整備について

1 目 的

学生、教員及び地域住民から地域環境の向上に役立つアイデアの発想を求め、その実現に向けた取り組みを本校を中心に広げていく中で、本校と地域の活性化を図るとともに様々なプロジェクトの推進を通して学生に問題設定とその解決能力を付与することを目的とした、新居浜・高専アイデア通り構想を学内全組織で進めているが、当該構想を円滑に推進し、その他に講義、ロボコン等の課外活動、体験学習等の各種イベントに多面的に共同利用する施設として、機械実習工場工作演習室及び材料工学科棟多目的室を一体化したアイデア通り工場を整備していく。

2 概 要

上記目的に沿って、注目度が高く地域社会に貢献できるアイデアを実現するキャンパスづくりが推進され、既に様々なアイデアが提案、実施されており、これらの成果を更に「観光」、「環境・防災」、「IT」等多岐に発展させていき、地域に役立つアイデア提案・ものづくりを通じた実践教育を進めていくこととしている

こうした構想のもとでのプロジェクトやロボコン等の課外活動、体験学習等多様なものづくり、各種イベントさらに講義にも対応した共同利用施設として、機械実習工場工作演習室及び材料工学科棟多目的室を改修し、ものづくり教育の環境整備を推進していく。

これらの改修後施設はアイデア通り工場として、ものづくり教育支援センターが管理運営していくこととしている。

3 改修内容

(1) 機械実習工場工作演習室

主として、機械部品の加工、大型部品の組立、素材置き場として利用。

- ・小部屋の撤去、床の平坦化、窓の改修、出入口扉の改修
- ・出入口カードキーの設置
- ・天井扇風機設置

(2) 材料工学科棟多目的室

主として、講義、小型部品、電気電子部品の組立に利用。その他各種機構部品のサンプル展示。

- ・多目的室内の仕切の撤去
- ・スクリーン設置
- ・出入口カードキーの設置
- ・天井扇風機設置

4 その他

管理・利用方法の詳細については別途検討していくこととしている。

(出典 平成 16 年度第 17 回運営会議資料)

高度技術教育研究センター別館改修事業
 インキュベーション・ラボの新設

新居浜高専

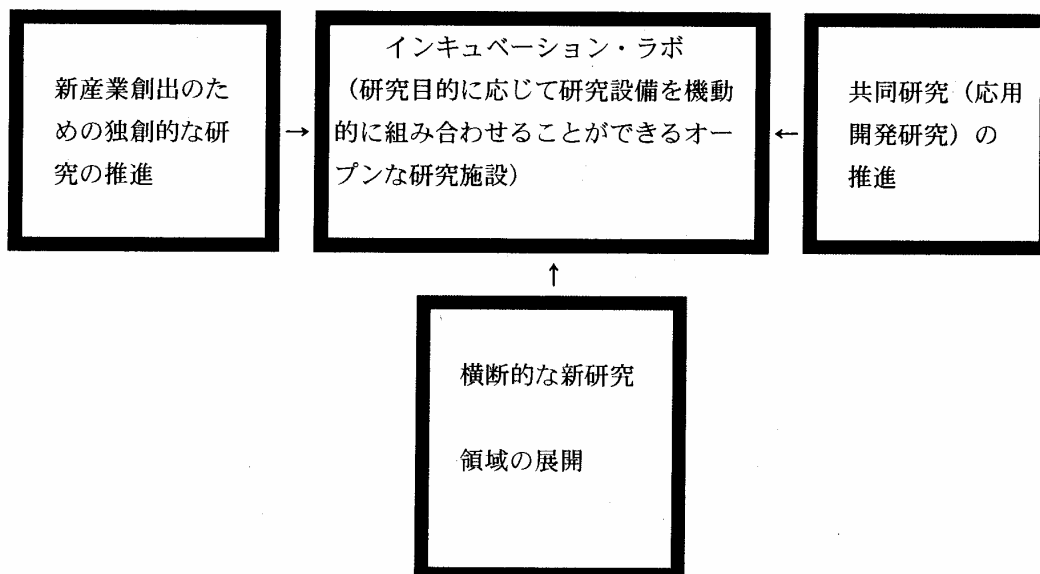
1 目的

変革の著しい時代のニーズに応じて、複合・横断的なプロジェクト研究の実施が喫緊の課題となっている。

そのため、当該研究に対応した研究設備機器を機動的に組み合わせていくことが必要となっており、個室化された研究施設をオープン化し、効率的な研究体制を整備していくこととする。

2 改修概要

- (1) 高度技術教育研究センター別館には、高度で独創的な研究に資する設備を配置しているが、ユニット毎に区切られた個別単位の実験室であるため、研究を分散して行わざるを得ず、時代のニーズに応じた複合・横断的な研究を実施するには効率的でなかった。
- (2) 大別した研究分野で当該施設をゾーニングした中で、各分野のプロジェクト研究の目的に応じ、機動的に研究設備を組み合わせし、改変可能なパーティションでその研究エリアを仕切るようにすることで、新たな研究領域に対応した実験研究の迅速な展開を図る。



(出典 平成 16 年度第 16 回運営会議資料)

資料 1 1 - 3 - ② - 4

H 1 7 . 3 . 2

地域連携推進員制度の導入について (案)

1. 趣旨

新居浜高専の様々な教育活動に対し、民間の発想からのアドバイスをもらうとともに、教育活動の実施にご協力願う。

2. 地域連携推進員の種類及び名称

地域連携推進員については、次の 2 種類とする。

- ①地域連携アドバイザー：本校の教育活動に関して、主として情報提供やコーディネーターなどの面で協力いただける者
- ②教育アソシエイト：本校の教育活動に関し、主として指導面で協力いただける者

3. 地域連携推進員の委嘱

- ・ 地域連携推進員については、様々な領域において地域で活躍し、高専教育に理解と熱意のある方に委嘱する。
- ・ 地域連携推進員の候補者については、高専教職員 OB、後援会、同窓会関係者に協力を求めるとともに、様々な機関・団体から推薦いただく。
- ・ 原則として無償としてお願いする。(実費は別途措置)
- ・ 委嘱に際して、地域連携推進員の種類に応じて委嘱状を交付する。委嘱期間は単年度ごととする。
- ・ 定期的に懇談会を開催するほか、随時活動を願う。

4. 対象となる活動例

- ・ 国領祭などの地域関連学校行事への協力
- ・ 部活動の技術指導
- ・ 環境美化活動への協力
- ・ 高専アイデア通りプロジェクトの支援
- ・ 各種コンテストの実施協力
- ・ 留学生地域交流及び学生の地域国際交流活動参加の促進
- ・ ボランティア活動の促進

(出典 平成 16 年度第 20 回運営会議資料)

資料 1 1 - 3 - ② - 5

新居浜工業高等専門学校新居浜工業高等専門学校地域連携推進員規程

平成 1 7 年 4 月 5 日規程第 7 号

(設置)

第 1 条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の様々な教育活動に対し、民間の立場からのアドバイスや教育活動の実施に協力をいただき、地域連携推進員（以下「推進員」という。）を置く。

(推進員)

第 2 条 推進員は、次に掲げるものとする。

- 一 地域連携アドバイザー
- 二 教育アソシエイト

(支援活動)

第 3 条 地域連携アドバイザーは、本校の教育活動についての情報提供やコーディネート面に関する協力支援を行うものとする。

2 教育アソシエイトは、本校の教育活動についての指導面に関する協力支援を行うものとする。

(推薦)

第 4 条 教職員は、次に掲げる者のうち、様々な領域において地域で活躍し、高専教育に理解と熱意のある者を、別紙推薦書により推進員候補者として、校長あて推薦するものとする。

- 一 高専教職員 O B
- 二 後援会及び同窓会関係者
- 三 本校の教育に関心のある団体又は機関等から推薦のあった者

(委嘱)

第 5 条 校長は、前条に基づき推薦のあった者及び特に適任者と認めた者に推進員を委嘱するものとする。

(報酬)

第 6 条 推進員の報酬は、原則として無償とする。

(任期)

第 7 条 推進員の任期は、1 年以内とし、再任することができる。

(その他)

第 8 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 1 7 年 4 月 5 日から施行する。

(出典 新居浜工業高等専門学校規則集)

リエゾンルームの整備

1. 趣 旨

外部の多様な人材との連携を図ることにより、地域連携活動を一層推進することとし、合併教室棟の技術室を外部人材との交流の拠点（リエゾンルーム）として整備する。

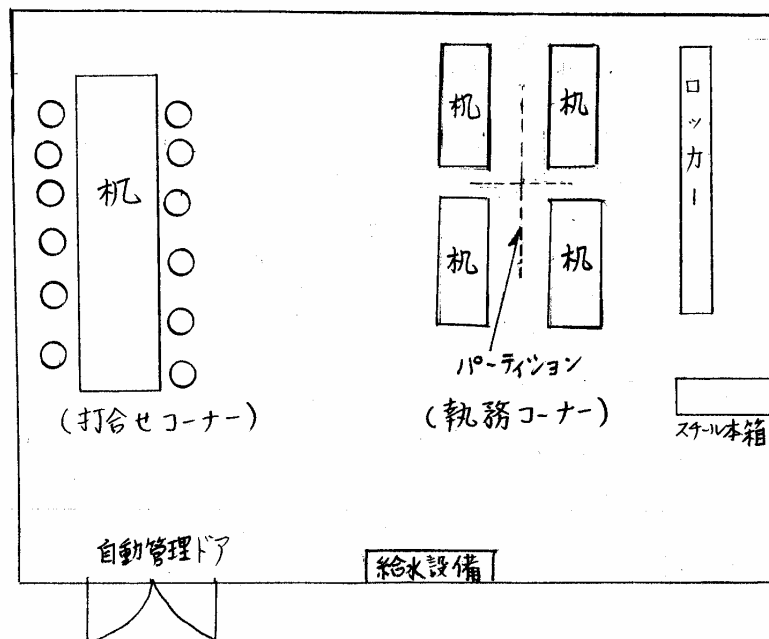
2. 利用内容

- ① 共同研究員、客員研究員、地域連携推進員等の活動場所用
- ② 共同研究、受託研究等に関する打合せ用
- ③ 愛テクフォーラム会員の打合せ用
- ④ 技術職員の打合せ用
- ⑤ その他地域連携に係る打合せ用

3. 利用の手続き等

- ① 利用の手続き等については、高度技術教育研究センターが別に定める。
- ② 外部から受け入れる共同研究員等には、所定の名札を着用願うこととする。

リエゾンルーム



(出典 平成 17 年度第 4 回運営会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営の改善を検討する組織として、点検評価運営委員会が設置され、そこから評価結果が教職員にフィードバックされるシステムが整備され、有効に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 11 の自己評価の概要

本校では、校長がリーダーシップを発揮して管理運営を行っており、それを補佐する三主事（教務主事、学生主事、寮務主事）および専攻科長、学科主任などの役割は明確に定められている。学校運営の重要事項は運営会議で審議され、最終的な決定を校長が行っている。学校の管理運営に関して諸規定が整備され、委員会および事務部はそれにしたがって適切に役割分担をして活動している。

外部有識者の意見を求めるために運営諮問会議を設置し、管理運営の改善に活かしている。

管理運営に関する自己点検は、点検・評価運営委員会の下で点検専門部会によって実施され、点検報告書を作成している。また、日本技術者教育認定機構（JABEE）による第三者評価については、生物応用化学プログラム、生産工学プログラムおよびシステムデザイン工学プログラムが認定を受けている。

管理運営に関する点検・評価の結果は運営会議を通じて、教職員にフィードバックされており、また、それに基づいて、運営会議で管理運営に関する改善策が定められ、各学科（科）や各部門で実施されている。